

ドイツ語 文法と会話

英語を知れば、ドイツ語は近い —— 大川隆法総裁の經典のたとえ 77 文で学ぶ

Deutsch – Grammatik und Konversation. Wer Englisch kann, dem ist Deutsch nah: 77 Gleichnisse aus den Schriften von
Meister Ryuho Okawa

独検 5 級・4 級・3 級対応 文法 30 回＋会話 30 回（通年）

例文の題材はすべて大川隆法総裁の經典より（出典明記）

幸福の科学国際本部 編

学習アプリのご案内

スマホで、いつでも。「まず学習」→4択・フラッシュカード・スペル・リスニング→「にがて」の克服。



<https://buppo-deutsch.pages.dev/>

① QRコードを読み取って開く

Safari/Chrome など、どのブラウザでも開けます。上の URL を直接入力しても同じです。

② 「ホーム画面に追加」する

iPhone：共有ボタン（□に↑）→「ホーム画面に追加」。Android：右上のメニュー（点3つ）→「ホーム画面に追加」または「アプリをインストール」。

③ 最初に1回、音声を鳴らす

はじめにどれか1つ「▶再生」を押してください（iPhoneの音声解錠）。以後はオフラインでも、一度聞いた音声がかかります。

学習記録はあなたの端末の中にだけ保存されます。機種変更のときは「設定→書き出す（バックアップ）」をお使いください。アプリの4択・リスニングに出る文は、本書の「真理の例文」「会話」と同じものです。

目次

Inhalt

文法編	6
序章 英語からドイツ語へ —— 「もう半分知っている」 ところから始める	6
コラム 英語ができると、ドイツ語は速い	9
第0章 ドイツ語のアルファベットと発音の基礎 【5級】	11
第1章 つづりと発音 【5級】	13
コラム 主も、いまなお学び続けておられる	15
第2章 動詞の現在人称変化と文の作り方 【5級】	16
コラム アニメのなかのドイツ語 —— あなたはもう、ドイツ語を聞いている	18
第3章 名詞の性と格変化（単数） 【5級】	24
対策学習編1 人称代名詞（1格・4格）と疑問詞 【5級】	29
第4章 複数形 【4級】	35
コラム ドイツの音楽家が語る菩薩界 —— 教え合う世界	40
第5章 冠詞類 【4級】	42
対策学習編2 不規則変化動詞・複合的な疑問詞 【4級】	50
第6章 前置詞 【4級】	56
第7章 人称代名詞・再帰代名詞 【4級】	62
コラム an sich・für sich・an und für sich —— 再帰代名詞が哲学の骨格になる	64
前期のまとめと試験 【第15回】	72
コラム 第二外国語は、第一外国語の深さを超えない	74
第8章 話法の助動詞・未来形 【4級】	75
コラム ベートーヴェンの『第九』は、星の天幕の上の「父」を歌っている	77
対策学習編3 分離動詞・命令形 【4級】	83
準備編 三基本形 【3級】	88
第9章 過去形 【3級】	94
第10章 現在完了形 【3級】	100
中間のまとめと小テスト 【第21回】	106
第11章 受動文 【3級】	109
第12章 接続詞と副文 【3級】	115
コラム ドイツ観念論はこうして始まった —— カントと預言者ダニエル	121
第13章 接続法（第1式・第2式） 【3級】	122
コラム ヘーゲルは智天使であった —— 太陽界に住む人びと	128
第14章 比較変化 【3級】	129
コラム nowadays の -s は、ドイツ語のなかで今も生きている	132
コラム スイスの聖者、カール・ヒルティ	136
第15章 関係文 【3級】	138
第16章 zu 不定詞句 【3級】	145

第 17 章 形容詞の変化 【3 級】	151
学年末のまとめと試験 【第 30 回】	158
コラム 内容を知っている本を、その言語で読む	160
会話編	162
はじめに —— この教科書で、あなたは何かができるようになるか	163
会話 第 1 回 はじめまして —— あいさつと自己紹介	165
会話 第 2 回 名前・出身・ことば	167
会話 第 3 回 「幸福の科学」を一言で伝える	169
会話 第 4 回 私はこう信じています	171
会話 第 5 回 神とは、どういう方か	173
会話 第 6 回 心・魂・愛を語る	175
会話 第 7 回 あなたに何を差し上げられるか	177
会話 第 8 回 相手のことを尋ねる	179
会話 第 9 回 仲間たちのことを話す	181
会話 第 10 回 この本、この教え	183
コラム 外国語を学ぶ意味 —— 人生を二度生きる	185
会話 第 11 回 私の使命、あなたの幸福	186
会話 第 12 回 相手の変化に寄り添う	189
会話 第 13 回 支部・精舎へお誘いする	191
会話 第 14 回 気持ちを言葉にする	193
会話 第 15 回 前期発表 —— 3 分間の伝道スピーチ	195
会話 第 16 回 「できます」「すべきです」を伝える	197
会話 第 17 回 「一緒にしましょう」と誘う	199
会話 第 18 回 経典の言葉を紹介する	201
会話 第 19 回 私の体験を語る（あの頃のこと）	204
会話 第 20 回 私の体験を語る（これまでのこと）	206
会話 第 21 回 中間発表 —— 信仰体験を語る	208
会話 第 22 回 「救われた」「導かれた」	210
会話 第 23 回 「なぜなら」と理由を説く	212
会話 第 24 回 相手の言葉を受けとめて伝える	215
会話 第 25 回 丁寧をお願いする／もし～なら	218
会話 第 26 回 「もっと大切なもの」を示す	220
会話 第 27 回 「～する人」を語る	222
会話 第 28 回 「～するために生きる」	224
会話 第 29 回 美しい心、正しい生き方	227
会話 第 30 回 学年末発表 —— 伝道者を育てる	229

巻末付録.....	232
付録 1～6 基礎資料集 —— 決まり文句・数字・動詞変化・用語集・文法用語・つまずき	233
付録 8 級別 文法項目一覧	238
付録 9 さらに深く —— 語順・分詞・心態詞	240
付録 10 伝道のための経典名句集（独・和・英）	244
付録 11 奏上文の組み立て方 —— Wie man ein Gebet aufbaut.....	248
付録 12 伝道のアドバイス —— Rat für die Missionsarbeit.....	252
付録 13 哲学の使命 —— なぜドイツ語で学ぶのか	255
付録 14 三次元を超える —— 奇跡の法則と、創造主への信仰、三帰の功德	259
付録 15 セミナー講師のために —— 開会のあいさつからクロージングまで	264
付録 16 心に刻むたとえ 一覧 —— Die Gleichnisse auf einen Blick	272
付録 17 心態詞 —— 会話の潤滑油 Modalpartikeln.....	277
付録 18 背景となる御法話 —— Love for the Future（未来への愛）ベルリン講演.....	282
付録 7 エル・カンターレ・ドイッチュ（El-Cantare-Deutsch）	286
索引 —— Register	294

第 I 部 文法編

Grammatik

ドイツ語のしくみを、英語からの乗り換えとして学ぶ。
全 30 回。各回の終わりに、その週の会話編が対応する。

序章 英語からドイツ語へ —— 「もう半分知っている」ところから始める

【第 1 回（前期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第 1 回「はじめまして —— あいさつと自己紹介」

〔独検 5 級への導入レベル〕

この章の到達目標

1. 英語とドイツ語が「兄弟語」であり、英語の知識がそのまま資産になることを理解する
2. 英語とドイツ語の音のズレ（子音対応）を知り、未知の単語を推測できるようになる
3. ドイツ語が英語と違う「5つの急所」を先に地図として頭に入れる

1. なぜ英語が得意な人はドイツ語が速いのか

英語をある程度学んできた人がドイツ語を始めるとき、いちばんもったいないのは、ドイツ語を「まったく新しい、ゼロから覚える言語」だと思い込んでしまうことです。

実際には、英語とドイツ語は**同じ祖先から分かれた兄弟語**（西ゲルマン語）です。語彙の骨格も、文の組み立ての発想も、かなりの部分が共通しています。英語を学んだ人は、ドイツ語の入り口にすでに立っているのです。

しかも、この二つの言語の関係には特徴があります。**英語は、長い歴史のなかで文法の仕組みを大幅に捨てて身軽になった「弟」であり、ドイツ語は、その仕組みをかなりの部分そのまま残している「兄」**なのです。

ですから、ドイツ語を学ぶことは、英語にとっては「失われた設計図を見る」ことでもあります。なぜ英語に *he / his / him* という 3 つの形があるのか。なぜ 3 人称単数のときだけ *-s* が付くのか。なぜ *If I were you* と、過去形なのに現在の仮定を表せるのか。——ドイツ語を学ぶと、これらの「英語の不思議」が一本の線でつながります。

本書は、その利点を最大限に使います。各章に「**英語と比べる**」というコーナーを設け、「ここは英語と同じ」「ここが英語と違う」をはっきり示していきます。

2. 英語とドイツ語は兄弟語 —— 語彙はこんなに似ている

まず、仏法真理を語るうえで欠かせない基本語を並べてみましょう。

日本語	ドイツ語	英語
神	Gott	God
心・精神	Geist	ghost（原義は「霊」）
心（ハート）	Herz	heart
魂	Seele	soul
光	Licht	light
言葉	Wort	word
世界	Welt	world

日本語	ドイツ語	英語
水	Wasser	water
本	Buch	book
父／母	Vater / Mutter	father / mother
良い	gut	good
愛する	lieben	love
生きる	leben	live
来る	kommen	come
与える	geben	give

ほとんど「見ればわかる」レベルです。英語の語彙力は、そのままドイツ語の語彙力になります。

●2-1. 音のズレには規則がある（未知の単語を推測する技術）

「似ているけれど少し違う」のは偶然ではありません。ドイツ語は歴史上、いくつかの子音を規則的に変化させました。この対応表を覚えると、初見の単語でも意味が推測できるようになります。

英語	→ ドイツ語	例
t	s / ss / z	water→ Wasser , eat→ essen , that→ das , to→ zu , ten→ zehn , heart→ Herz
p	f / ff / pf	help→ helfen , sleep→ schlafen , ship→ Schiff , apple→ Apfel , path→ Pfad
k	ch	make→ machen , book→ Buch , seek→ suchen , I→ ich
d	t	day→ Tag , deep→ tief , door→ Tür , do→ tun
th	d	thing→ Ding , three→ drei , thank→ danken , the→ der/die/das
v	b	give→ geben , live→ leben , love→ lieben , have→ haben

たとえば **Tiefe** という語を初めて見たとき、「d→t, p→fだから deep か。では *depth*=深さ」と推測できます。**Wahrheit**（真理）も、*wahr* が英語 *true* に対応するとまでは見えませんが、語尾の **-heit / -keit** が英語の **-ness / -ty** にあたる、と知っていれば「～さ、～性」だと分かります。

★語尾の対応も便利です

- ドイツ語 **-heit / -keit** = 英語 **-ness / -ty** 例: Wahrheit (truth)、Freiheit (freedom)、Ewigkeit (eternity)
- ドイツ語 **-ung** = 英語 **-tion / -ing** 例: Erleuchtung (enlightenment)、Hoffnung (hope)
- ドイツ語 **-lich** = 英語 **-ly / -al** 例: göttlich (divine)、täglich (daily)
- ドイツ語 **-er** = 英語 **-er** 例: Lehrer (teacher)、Meister (master)

3. 英語は「捨てた」、ドイツ語は「残した」

英語とドイツ語の文法の違いは、ほとんどが「英語が捨てたものを、ドイツ語は今も持っている」という一点に集約されます。英語が捨てたのは、主に次の4つです。

英語が捨てたもの	ドイツ語では	英語に残っている「化石」
① 名詞の格変化	der / des / dem / den と4つに変化	who / whose / whom, I / my / me, he / his / him
② 名詞の性	男性・女性・中性の3つ	he / she / it 、船を <i>she</i> と呼ぶ習慣
③ 動詞の人称語尾	ich lerne / du lernst / er lernt ...	3人称単数の -s (he learns)
④ 接続法（仮定・伝聞の専用形）	接続法第1式・第2式	If I were you, God bless you

ここが本書のいちばん大事な視点です。ドイツ語の文法は、英語話者にとって「知らない文法」ではなく、「英語が忘れてしまった文法」なのです。

たとえば英語で *whom* を使うとき、私たちは無意識に「目的語だから形を変える」ことをしています。ドイツ語はそれを、すべての名詞と冠詞について、常に行っているだけです。

- ★英語が見えてくる英語で *He gave me the book.* と言えるのに *He gave I the book.* と言えないのはなぜでしょうか。
me は「3格（～に）」の形だからです。英語はこの区別を代名詞にだけ残しました。
ドイツ語では *Er gab mir das Buch.* と、まったく同じ発想で **mir**（3格）を使います。
つまり英語話者は、すでに「格」を体で知っているのです。

4. ドイツ語の「5つの急所」——本書全体の地図

英語からドイツ語に移るとき、つまずくポイントはほぼ次の5つに絞られます。いま全部を理解する必要はありません。「これから何と戦うのか」を先に知っておくことが大事です。

●急所① 定動詞は「2番目」に置く

英語は「主語 → 動詞」の順番が絶対です。ドイツ語は違います。ドイツ語が守るのは主語の位置ではなく、**動詞が文の2番目の要素になる**というルールです。

	ドイツ語	英語
普通の文	Wir lernen heute die Wahrheit.	We learn the Truth today.
文頭を変えると	Heute lernen wir die Wahrheit.	Today we learn the Truth.

日本語はどちらも「今日、私たちは真理を学びます」。ドイツ語では文頭に *Heute* を置いた瞬間、**動詞と主語がひっくり返ります** (*lernen wir*)。英語では *Today we learn* と主語が先のままです。ここが最初の関門です。

→ 詳しくは第2章「定動詞第2位の原則」。

●急所② 動詞の仲間は二手に分かれ、文をはさむ（枠構造）

動詞の要素が2つ以上になると、ドイツ語は**片方を2番目、もう片方を文末**に置きます。文全体が動詞に挟まれるので、これを**枠構造 (Satzklammer)** といいます。

	ドイツ語	英語
助動詞	Wir wollen die Wahrheit lernen .	We want to learn the Truth.
現在完了	Ich habe die Wahrheit gelernt .	I have learned the Truth.

英語は *want to learn / have learned* と、動詞の仲間は隣り合います。ドイツ語は**離れて文を抱え込みます**。つまりドイツ語は、**文を最後まで聞かないと意味が確定しない言語**なのです。

→ 詳しくは第8章「枠構造」、第10章「現在完了形」。

●急所③ 副文では動詞が文末に飛ぶ

英語の従属節 (*that* 節など) は、語順が主節とほとんど同じです。ドイツ語では、**接続詞のあとは動詞が文の最後**にきます。

ドイツ語	英語
Ich glaube, dass Gott uns liebt .	I believe that God loves us.

英語の *that* は省略できますが、ドイツ語の **dass** は省略できません。そして動詞 *liebt* が最後に落ちます。日本語の「～ということを感じる」に近い感覚です。

→ 詳しくは第12章「接続詞と副文」。

●急所④ 格があるから、語順は自由になれる

「格変化は面倒だ」と思われがちですが、格は**自由をもたらず仕組み**でもあります。

ドイツ語	意味
Der Mensch sucht die Wahrheit.	人間は真理を求める。
Die Wahrheit sucht der Mensch.	(その真理を) 人間が求める。※意味は同じ

2番目の文は、*die Wahrheit* を文頭に出して強調していますが、**der** (1格) と **die** (4格) の形が主語と目的語を示しているので、意味は変わりません。英語で同じことをすると *The truth seeks the man*. (真理が人間を求める) と、意味が逆転してしまいます。

英語は格を捨てた代わりに、**語順に意味を担わせる**ことにしたのです。ドイツ語は格を残した代わりに、**語順を強調のために自由に使える**のです。

→ 詳しくは第3章「名詞の性と格変化」。

●急所⑤ 名詞には性がある

der Löffel (スプーン・男性)、*die Suppe* (スープ・女性)、*das Herz* (心・中性)。英語は *the* ひとつで済みますが、ドイツ語は名詞ごとに性が決まっています。

これは理屈で覚えるものではなく、**名詞は必ず冠詞とセットで覚える**しかありません。「Herz」ではなく「**das Herz**」と、いつも声に出してください。

→ 詳しくは第3章。

5. 英語ができる人のための学習 5 か条

1. 知らない単語は、まず英語で当ててみる。子音対応 (t→s、p→f、k→ch) を使えば半分は当たります。
2. 名詞は必ず「der / die / das」ごと覚える。ここを省くと、後の章すべてが崩れます。
3. 英語の *he / his / him, who / whose / whom* を思い出す。格は新しい概念ではありません。
4. 文を最後まで聞く／読む癖をつける。枠構造と副文のせいで、動詞は最後に来ます。
5. 英語に訳して満足しない。英語に「訳せてしまう」ところではなく、**訳せないところ**にドイツ語の個性があります。

6. 最初のドイツ語 ―一文だけ、覚えて帰ってください

公式のドイツ語版経典には、こんな一文があります。

Diese Welt ist für eure Seele wie eine Schule. JK18-13

この世は、あなたがたの魂にとって学校のようなものです。

〈英〉This world is like a school for your soul.

《『青銅の法』／ドイツ語版『仏法真理用語 700 選』所収》

この短い文のなかに、本書で学ぶことのほとんどが入っています。

- ・ **Diese Welt** (この世は) ... *Welt* は女性名詞、1 格
- ・ **ist** (〜である) 動詞は 2 番目
- ・ **für eure Seele** (あなたがたの魂にとって) 前置詞 *für* は 4 格を支配する
- ・ **wie eine Schule** (学校のように) ... *wie* を使った比喻。英語の *like* と同じ発想
そして英語と比べれば、語順もほぼそのままだと分かります。――ドイツ語は、決して遠い言語ではありません。

7. 法話メモ ―二つの言語という「二つの海」

言葉を学ぶことは、その言葉を話す人々の心に橋をかけることです。大川隆法総裁は、この世を「魂にとっての学校」とたとえられました。学校であるならば、そこで学ぶ教科の一つが、他の国の人と心を通わせる力であっても不思議はありません。

英語という一つの海を泳いできた人が、いまドイツ語というもう一つの海に漕ぎ出そうとしています。二つの海は、地下でつながっています。同じ祖先から分かれた兄弟語だからです。英語で身につけた泳ぎ方は、そのまま次の海でも通用します。

Diese Welt ist für eure Seele wie eine Schule.

この一文を胸に、次の章から一歩ずつ進んでいきましょう。

8. もう一つのたとえ ―言葉は、与えられた剣である

なぜ言葉を学ぶのか。『光ある時を生きよ』に、こう説かれている。

「あたかも『三種の神器』のなかの剣のように、言葉という名の武器をみなさんは与えられています」

《『光ある時を生きよ』第3章「人生に勝利する詩」講義」／9 言葉の力を生かせ》

剣は、持っているだけでは何の役にも立たない。抜いて、振るってはじめて意味を持つ。そして剣は、人を傷つけることも、人を守ることもできる。

言葉もまた同じである。あなたがこれから覚えるドイツ語の一語一語は、**与えられた剣**である。ふるわなければ錆びる。ふるい方を誤れば人を傷つける。正しくふるえば、闇のなかにいる人を救い出せる。

Das Wort ist wie ein Schwert.

言葉は剣のようなものです。

〈英〉The word is like a sword.

この一年、あなたはその剣を研ぐ。何のために研ぐのかを、忘れないでほしい。

★本書の背景にある御法話

大川隆法総裁は 2018 年 10 月 7 日、ベルリンで「Love for the Future (未来への愛)」を説かれた。

ドイツの未来を創るために、ドイツの人びとに向けて説かれた教えである。

本書でドイツ語を学ぶ目的は、最後にはこの御法話の論点をドイツ語で語れるようになることにある。

論点ごとの引用は付録 18 に、語るためのひな型は付録 15 にまとめた。

コラム 英語ができると、ドイツ語は速い

「英語で手いっぱいなのに、その上ドイツ語まで」――そう思っている人へ。その英語こそが、いちばんの近道である。

「低地ドイツ語が、ノルマン人の上陸を経て、今の英語になっていった」というのが定説ですから、英語で文章がつくれるなら、それをドイツ語に直すのは、それほど大変ではないわけです。

《『外国語学習限界突破法』／3 第二外国語を学ぶ心構え》

大川隆法総裁は、英文学者・渡部昇一氏の例を挙げておられる。渡部氏は大学時代、週一回しかドイツ語の授業を受けていなかった。それがドイツ留学の話が決まり、**半年で文法をやり直して、二年で博士論文を書き上げた**。そのやり方が、そのまま本書の使い方になる。

「そのとき、日本語で下書きをしなかった。英語で考えて、その英語をドイツ語に置き換えて書いていったので、博士論文を二年で書けた」

《『外国語学習限界突破法』／3 第二外国語を学ぶ心構え》

総裁はこう結んでおられる。

英語なら英語で、ものを考えられるようになっていけば、例えば、会話をするときに、英語で考えられる頭脳になっていけば、英語に似た言語を話したり、読んだり、書いたりするのは、おそらく早くなるでしょう。

《『外国語学習限界突破法』／3 第二外国語を学ぶ心構え》

★本書が各章に「英語と比べる」を置いているのは、このためである。

日本語から訳そうとすると遠い。英語から乗り換えると近い。

God loves you. → Gott liebt dich.

語順も、語の並びも、そのままである。

◆学びのことば

「コツコツと学び続けることで、いろんな話題について英語で話したり、聞いたり、読んだりできるようになるだろう」

《『黒帯英語への道⑦』まえがき》

第0章 ドイツ語のアルファベットと発音の基礎 【5級】

【第2回（前期）】

同じ週の次の時間の会話は 第2回「名前・出身・ことば」

【独検5級レベル】

この章の到達目標

1. ドイツ語のアルファベット 30 文字（26 字+Ä Ö Ü ß）を読める
2. 「ローマ字読みが基本」という大原則を知る
3. 最初の真理単語を声に出して読める

1. アルファベット（das Alphabet）

英語と同じ 26 文字に、ウムラウト付きの 3 文字（Ä ä / Ö ö / Ü ü）とエスツェット（ß）を加えた 30 文字を使います。

文字	読み	文字	読み	文字	読み
A a	アー	K k	カー	U u	ウー
B b	ベー	L l	エル	V v	ファオ
C c	ツェー	M m	エム	W w	ヴェー
D d	デー	N n	エン	X x	イクス
E e	エー	O o	オー	Y y	ユプスイロン
F f	エフ	P p	ペー	Z z	ツェット
G g	ゲー	Q q	クー	Ä ä	エー（アーウムラウト）
H h	ハー	R r	エル（のどの奥）	Ö ö	エー（オーウムラウト）
I i	イー	S s	エス	Ü ü	ユー（ウーウムラウト）
J j	ヨット	T t	テー	ß	エスツェット

ポイント:

- ・ J はヤ行（Ja ヤー=はい）、V は F の音（Vater ファーター）、W は英語の V の音（Wahrheit ヴァールハイト）。
- ・ ß は「ス」（濁らない s）。大文字は原則使わない。
- ・ 名詞はすべて大文字で書き始める（Liebe, Gott, Herz）。これはドイツ語の大切な規則。

2. 大原則 —— ほぼローマ字読み

ドイツ語は英語と違い、つづりと発音の対応がとても規則的です。迷ったらローマ字読み。細かい規則は第 1 章で学びます。

3. 英語と比べる —— 同じ文字なのに、読み方が違う

英語とドイツ語は同じラテン文字を使います。だからこそ、英語読みの癖がそのまま出てしまうのが最初の落とし穴です。ここだけは先に上書きしておきましょう。

●ここが同じ！

- ・ 基本の 26 文字は英語とまったく同じ。新しく覚える文字は ä, ö, ü, ß の 4 つだけです。
- ・ 語彙の骨格が共通なので、綴りを見れば意味が推測できる語が多くあります（Gott / God、Licht / light）。

●ここが違う！

- ・ ドイツ語は「綴りと音がほぼ 1 対 1」。英語のように、同じ -ough が through / though / tough で三通りにも読まれる、といった不規則はありません。規則を覚えれば初見の単語も読めます。
- ・ 名詞はすべて大文字で書き始めます。英語で大文字にするのは固有名詞ですが、ドイツ語では das Herz, die Liebe のように、普通名詞も必ず大文字です。
- ・ 同じ文字でも音が違います。ここが最重要です。

文字	ドイツ語の音	英語のつもりで読むと	例
w	ヴ [v]	ワ行と読んでしまう	Wahrheit（ヴァールハイト・真理）
v	フ [f]	ヴと読んでしまう	Vater（ファーター・父）
z	ツ [ts]	ズと読んでしまう	Zeit（ツァイト・時）
j	ヤ行 [j]	ジャ行と読んでしまう	Jesus（イエズス）
s + 母音	ズ [z]	スと読んでしまう	Seele（ゼーレ・魂）
ei	アイ	エイと読んでしまう	mein（マイン・私の）
ie	イー	アイと読んでしまう	Liebe（リーベ・愛）

文字	ドイツ語の音	英語のつもりで読むと	例
eu / äu	オイ	ユーと読んでしまう	Freude (フロイデ・喜び)
sp- / st-	シュプ／シュト	スプ／ストと読んでしまう	Stern (シュテルン・星)

・語末の **b, d, g** は濁りません（無声化）。Tag は「ターク」、Gott も語末は硬い音です。英語の dog が最後まで濁るのは違います。

●★英語からの乗り換え注意

Wasser を「ワッサー」と読んでしまう人が非常に多くいます。正しくは「**ヴァッサー**」。英語の w とドイツ語の w は別の音だと、最初にはっきり切り替えてください。

●英語が見えてくる！

英語の knight（騎士）の **k**、night（夜）の **gh** は、なぜ書くのに読まないのでしょうか。答えは「**昔は読んでいたから**」です。英語は音だけを変え、綴りは昔のまま残しました。

ドイツ語には、その「昔の音」が今も生きています。

- ・英 knight (k を読まない) ↔ 独 Knecht (クネヒト・従者。k もはっきり読む)
- ・英 night (gh を読まない) ↔ 独 Nacht (ナハト・夜。ch をはっきり読む)

つまりドイツ語の発音を学ぶことは、**英語の綴りがなぜあの形なのかを知る**ことでもあるのです。

4. 最初の真理単語で発音練習

ドイツ語	読み方の目安	意味
die Liebe	リーベ	愛
die Wahrheit	ヴァールハイト	真理
das Herz	ヘルツ	心
die Seele	ゼーレ	魂
der Gott	ゴット	神
der Buddha	ブッダ	仏
das Licht	リヒト	光
der Glaube	グラオベ	信仰
die Weisheit	ヴァイスハイト	智慧
der Mut	ムート	勇気
das Gebet	ゲベート	祈り
die Hoffnung	ホフヌング	希望
das Glück	グリュック	幸福
der Himmel	ヒンメル	天国・天
die Utopie	ウトピー	ユートピア

5. 最初のあいさつ＋真理の一言

- ・ Guten Morgen! グーテン モルゲン（おはようございます）
- ・ Guten Tag! グーテン ターク（こんにちは）
- ・ Danke schön! ダンケ シェーン（ありがとうございます）
- ・ Liebe und Licht! リーベ ウント リヒト（愛と光を！）

6. 法話メモ ―― 言葉は「言魂」

大川隆法総裁は、言葉には魂が宿り、人を生かしも殺しもする力がある（言魂）と繰り返し説かれています（『真説・八正道』『正語』ほか）。新しい言語の最初の一步も、Liebe（愛）、Wahrheit（真理）、Licht（光）といった、心を高める言葉から始めましょう。

Liebe und Licht!

◆ 学びのこぼれ

- 「努力を積み重ねなければ自然に覚えられはしない」
- 《『黒帯英語二段①』まえがき》

第1章 つづりと発音 【5級】

【第3回（前期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第3回「幸福の科学」を一言で伝える」

【独検5級レベル】

この章の到達目標

1. 母音の長短の規則を知り、正しく読み分けられる
2. 注意すべき子音・母音の組み合わせを読める
3. アクセントの原則（最初の音節）を知る

1. 文法解説

● 1-1. アクセントの大原則

ドイツ語本来の単語は、**最初の音節にアクセント**を置きます。

・ LIE-be（愛）、WAHR-heit（真理）、GLAU-be（信仰）

外来語は後ろにアクセントが来ることが多い: Uto-PIE（ユートピア）、Reli-gi-ON（宗教）、Stu-DENT（学生）

● 1-2. 母音の長短

規則	例
母音＋子音1つ → 長く	Le-ben（レーベン 人生）、Mut（ムート 勇気）
母音＋子音2つ以上 → 短く	Herz（ヘルツ 心）、Glück（グリュック 幸福）
h は前の母音を伸ばす（発音しない）	Wahrheit（ヴァールハイト）、Ohr（オーア 耳）
同じ母音を重ねる → 長く	Seele（ゼーレ 魂）、Meer（メーア 海）
ie → 長いイー	Liebe（リーベ）、Frieden（フリーデン 平和）

● 1-3. 注意すべき母音の組み合わせ

つづり	音	例
ei	アイ	Weisheit（ヴァイスハイト 智慧）、Ei（アイ 卵）
ie	イー	Liebe（リーベ 愛）
eu / äu	オイ	Freude（フロイデ 喜び）、Träume（トロイメ 夢・複数）
au	アオ	Glaube（グラオベ 信仰）

※ ei と ie の区別は独検頻出。「アイ（ei）は後ろの文字（i）を、イー（ie）は前の文字（i）を読む」と覚える。

● 1-4. 注意すべき子音

つづり	音	例
ch（a, o, u, au の後）	のどの奥のハ・ホ	Buch（ブーフ 本）、Nacht（ナハト 夜）
ch（それ以外の後）	ヒ	Licht（リヒト 光）、ich（イヒ 私）
sch	シュ	Schule（シューレ 学校）
sp- / st-（語頭）	シュプ／シュト	sprechen（シュプレヒェン 話す）、Stimme（シュティンメ 声）
s＋母音	ズ（濁る）	Seele（ゼーレ）、Sonne（ゾンネ 太陽）
ss / ß	ス（濁らない）	wissen（ヴィッセン 知る）、groß（グロース 大きい）
語末の -b / -d / -g	ブ／ト／ク	Tag（ターク 日）、Gold（ゴルト 金）
-ig（語末）	イヒ	ewig（エーヴィヒ 永遠の）
z / tz	ツ	Herz（ヘルツ）、jetzt（イエツト 今）
v	フ	Vater（ファーター 父）
w	ヴ	Welt（ヴェルト 世界）
j	ヤ行	ja（ヤー はい）、Japan（ヤーパン 日本）

● 1-5. ウムラウトの音

文字	音の目安	例
ä	エ	Kraft → Kräfte（クレフテカ・複数）
ö	「エ」の口の形で「オ」寄り	schön（シェーン 美しい）
ü	「イ」の口の形で「ウ」	Glück（グリュック 幸福）

2. 英語と比べる —— アクセントと母音の長さは「規則で決まる」

●ここが同じ！

- ・アクセントのある音節をはっきり強く読む「強勢アクセント」の言語である点は、英語と同じです。日本語のような高低アクセントではありません。
- ・ラテン語・ギリシャ語由来の外来語は、英語と同じく**後ろの音節**にアクセントが来ます。*Musik*（ムズィーク）、*Natur*（ナトゥーア）、*Student*（シュトゥデント）。英語の *music, nature, student* と語形が近いので、意味も推測できます。

●ここが違う！

- ・ドイツ語のアクセントは原則として**第1音節**です。迷ったら最初を強く読めば、たいてい当たります。英語は *récord*（名詞）／*recórd*（動詞）のように語ごとにばらばらで、一語ずつ覚えるしかありません。この点で、ドイツ語のほうがはるかに楽です。
- ・母音の長短が綴りで決まります。ドイツ語には次の見分け方があります。

綴りの形	長さ	例
母音+h	長い	<i>Wahrheit</i> （真理）、 <i>sehen</i> （見る）
同じ母音の重ね	長い	<i>Seele</i> （魂）、 <i>Leere</i> （空虚）
母音+子音1つ	長い	<i>Leben</i> （生命）、 <i>Weg</i> （道）、 <i>Tag</i> （日）
母音+子音2つ以上	短い	<i>Gott</i> （神）、 <i>Herz</i> （心）、 <i>Licht</i> （光）

英語では *have* と *cave*、*good* と *food* のように、**同じ綴りでも長さが違う**ことがあり、規則で決められません。ドイツ語は綴りを見れば長さが分かります。

●★英語からの乗り換え注意

英語の癖で、アクセントのない母音を「あいまい母音（ア）」に弱めてしまう人が多くいます。英語の *nation* の *-tion* が「ション」と弱まるように読んでしまうのです。

ドイツ語では、**アクセントのない母音もしっかり発音**します。*Wahrheit* は「ヴァールハイト」であって「ヴァールハイト（弱く）」ではありません。一音一音を粒立てて読む——これがドイツ語らしさの正体です。

●英語が見えてくる！

英語には「マジック e」という規則があります。*hop*（ホップ）に *e* を付けて *hope* にすると、母音が長くなって「ホウプ」になる、というものです。

ドイツ語の「母音+h」（*Sohn*=息子）は、これとまったく同じ発想です。**読まない文字を1つ足して、前の母音が長いことを示す**——英語もドイツ語も、同じ問題を似た方法で解決したわけです。

英語のマジック e を知っている人は、ドイツ語の「伸ばす h」をすんなり受け入れられます。

3. 発音練習 —— 真理の単語と短文

1. *die Liebe*（愛）— ie=長いイー
2. *die Weisheit*（智慧）— ei=アイ
3. *das Licht*（光）— ch=ヒ
4. *die Seele*（魂）— s+母音=ズ、ee=長いエー
5. *der Glaube*（信仰）— au=アオ
6. *die Freude*（喜び）— eu=オイ
7. *die Wahrheit*（真理）— ah=長いアー、w=ヴ
8. *das Glück*（幸福）— ü、子音2つで短く
9. *ewig*（永遠の）— 語末 -ig=イヒ
10. *die Schule der Seele*（魂の学校）— sch=シュ
11. *Licht und Liebe*（光と愛）
12. *Die Wahrheit ist ewig.*（真理は永遠である）— 最初の完全な真理の文！

4. 練習問題（独検5級形式・オリジナル）

●A. 下線部の発音が他と異なるものを1つ選びなさい。

(1) 下線 = ie / ei の音

1 *Liebe* 2 *Weisheit* 3 *Frieden* 4 *sieben*

(2) 下線 = ch の音

1 *Licht* 2 *ich* 3 *Buch* 4 *sprechen*

(3) 下線 = s の音 (濁るか濁らないか)

1 Seele 2 Sonne 3 wissen 4 sagen

(4) 下線 = 語末の g の音

1 Tag 2 ewig 3 Weg 4 Zug

● B. 第一音節にアクセントがないものを1つ選びなさい。

(1) 1 Liebe 2 Utopie 3 Wahrheit 4 Glaube (2) 1 Himmel 2 Hoffnung 3 Religion 4 Weisheit

● C. 色文字 (下線) の母音を長く発音するものを1つ選びなさい。

(1) 1 Herz 2 Seele 3 Glück 4 jetzt (2) 1 Mut 2 Sonne 3 Nacht 4 Welt

● D. 英語と比べる —— 英語読みを直しなさい

次はいずれも、英語のつもりで読んでしまった例です。正しい読みをカタカナで書きなさい。

(1) Wahrheit (真理) X ワールハイト → (2) Vater (父) X ヴェイター → (3) Zeit (時) X ジート → (4) Seele (魂) X シーリー → (5) Jesus (イエス) X ジーザス → (6) Liebe (愛) X ライブ →

● 解答

A: (1) 2 (ei = アイ、他は イー) (2) 3 (アの後の ch = ハ系、他は ヒ)

(3) 3 (ss = 濁らないス、他は ズ) (4) 2 (-ig = イヒ、他は ク) B: (1) 2 Utopie (2) 3 Religion (ともに外来語) C: (1) 2 (ee = 長)

(2) 1 (子音 1 つの前の u = 長) D: (1) ヴァールハイト (2) ファーター (3) ツァイト (4) ゼーレ (5) イエズス (6) リーベ

(W = ヴ、V = フ、Z = ツ、語頭の S + 母音 = ズ、J = ヤ行、ie = イー)

5. 法話メモ —— 声に出す言葉の力

『真説・八正道』の「正語」では、日々語る言葉を正すことが心の修行そのものであると説かれています。発音練習は単なる訓練ではなく、Liebe、Licht、Wahrheit と口にするたびに、その言葉の持つ光が心に響いてくる——そういう気持ちで、声に出してみましょう。

Die Wahrheit ist ewig. (真理は永遠である)

コラム 主も、いまなお学び続けておられる

発音の練習はつらい。だが、つらいのは今日のあなただけではない。

大川隆法総裁は、英語教材『黒帯英語』を全十四段・百四十五巻にわたって編み続けてこられた。その第十一段⑤のまえがきに、こう記されている。

本書と並行して、英語、独語、仏語、中国語、スペイン語の五カ国語のTV講座やラジオ講座をやり続けている。

《『黒帯英語十一段⑤』まえがき》

五カ国語の一つが、いま私たちが学んでいる独語である。そして同じまえがきに、次の一文がある。

生まれてよりこの方、六十三年以上勉強を続けて、まだ完成せず、未熟なるを知る。

《『黒帯英語十一段⑤』まえがき》

六十三年である。そのうえで「まだ完成せず」と書かれている。

さらに続けて、こう述べられている。

英語のレベルに達するのに最低、各十万時間はおかかると考えると、“生涯現役”をやり抜くしかない。

《『黒帯英語十一段⑤』まえがき》

★だから、今日 ich の ch が言えなくてもよいのである。

一年で終わる勉強ではない。一生続く勉強の、今日が一日目にすぎない。

覚えておきたいのは、その一生を、主ご自身が先に歩いておられるということである。

第2章 動詞の現在人称変化と文の作り方 【5級】

【第4回・第5回（前期）】 この章は2回に分けて学ぶ。
 同じ週の次の時間の**会話**は 第4回「私はこう信じています」／第5回「神とは、どういう方か」
 [独検5級レベル]

この章の到達目標

1. 動詞を主語に合わせて正しく変化させられる（規則変化・sein・haben）
2. 「定動詞は文の2番目」という語順の大原則で平叙文・疑問文を作る
3. 「太陽」「木」という"たとえ"を通して、「与える愛」「精進」「感謝」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 動詞は「不定詞」の形で辞書に載っている

ドイツ語の動詞は、辞書では **lernen**（学ぶ）、**geben**（与える）のように語尾が **-en** で終わる形（不定詞）で載っています。

不定詞 = 語幹 + **en** （lern + en）

実際の文の中では、この語幹に**主語**に応じた**語尾**を付けて使います。これを**人称変化（konjugieren）**といいます。

● 1-2. 現在人称変化（規則変化）

lernen（学ぶ）を例に：

人称	単数	複数
1人称	ich lerne	wir lernen
2人称（親称）	du lernst	ihr lernt
3人称	er/sie/es lernt	sie lernen
2人称（敬称）	Sie lernen	Sie lernen

覚え方：**e - st - t / en - t - en**。敬称の Sie は常に **-en**。

● 1-3. 変化のバリエーション

タイプ	例	du	er	理由
語幹が -t / -d で終わる	arbeiten（働く）	arbeit est	arbeit et	発音しやすくするため e を入れる
語幹が -s / -ß / -z で終わる	heißen（～という名前である）	hei ßt	hei ßt	s の重複を避け du は -t のみ

★ここまでが第4回。以下は同じ章の続きで、第5回に学ぶ。

● 1-4. 最重要動詞 sein と haben（不規則）

	sein（～である）	haben（持っている）
ich	bin	habe
du	bist	hast
er/sie/es	ist	hat
wir	sind	haben
ihr	seid	habt
sie/Sie	sind	haben

● 1-5. 文の作り方 ―― 定動詞第2位の原則

ドイツ語の平叙文では、**人称変化した動詞（定動詞）**は必ず文の**2番目**に置きます。1番目は主語でなくてもかまいません。その場合、主語は動詞の直後に来ます。

- ・ **Ich** lerne heute Deutsch.（私は今日ドイツ語を学びます）
- ・ **Heute** lerne ich Deutsch.（今日、私はドイツ語を学びます）← 動詞は2番目のまま！

● 1-6. 疑問文

決定疑問文（ja / nein で答える）：定動詞を**文頭**に置く。

- ・ **Lernst** du die Wahrheit? — **Ja**, ich lerne die Wahrheit.（君は真理を学んでいますか？ — はい、学んでいます）

疑問詞を使う疑問文は「対策学習編1」で扱います。

否定の疑問に答えるときの **doch**（独検4級で頻出）

否定の形で尋ねられたとき、「いいえ、そんなことはありません(=肯定)」と答えるには、**ja** ではなく **doch** を使います。

質問	答え	意味
Lernst du nicht ? (学ばないの?)	Doch , ich lerne.	いいえ、学びます
Lernst du nicht ?	Nein , ich lerne nicht.	はい、学びません
Hast du keine Zeit? (時間がないの?)	Doch , ich habe Zeit.	いいえ、あります

★ 英語には *doch* にあたる一語がない (Yes, I do. と言うしかない)。
日本語の「はい／いいえ」とも逆向きになるので、否定疑問には **doch** か **nein** と覚える。

● 1-7. 覚えておくと一緒に楽になる 2 つの言い方 —— **es gibt** と **man**

文を作ろうとして「主語が思いつかない」ことがある。ドイツ語には、そういうときのための便利な形が2つある。

① **es gibt** + 4 格 —— 「～がある」

ドイツ語	日本語	英語
Es gibt einen Weg.	道があります	There is a way.
Es gibt viele Menschen.	多くの人がいます	There are many people.
Es gibt keine Angst.	恐れはありません	There is no fear.

★ 英語の *there is / there are* にあたる。ただしドイツ語は**単数でも複数でも es gibt** のまま。
そして後ろは必ず 4 格である (einen Weg)。英語話者がいちばん落としやすい点。

② **man** —— 「人は、一般に」

ドイツ語	日本語	英語
Man lernt jeden Tag.	人は毎日学ぶものです	One learns every day.
Man sagt, das Herz ist ein Feld.	心は畑だと言われます	They say ...

★ *man* は 3 人称単数として扱う (*man lernt*)。
英語の *one* に近いが、英語の *one* が硬いのに対し、ドイツ語の *man* はごく日常的である。
「主語をぼかしたいとき」に使えるので、伝道の間でも重宝する。
なお *man* (人) と *Mann* (男性) は別語である。綴りに注意。

2. 英語と比べる —— 「動詞が 2 番目」という一本の芯

この章で学んだ 2 つ (人称変化と定動詞第 2 位) は、英語との差がもっとも大きく出るところです。逆に言えば、ここを乗り越えれば、ドイツ語の骨格の半分は手に入ります。

● ここが同じ！

- ・辞書に載っている形 (不定詞) がある点は同じです。英語 *to learn* = ドイツ語 **lernen**。
- ・「～である」の動詞がとびきり不規則なものと同じです。英語 *be* → *am / are / is*、ドイツ語 **sein** → **bin / bist / ist**。どちらの言語も、最重要語ほど形が乱れています。
- ・疑問文をつくるとき、**動詞を文頭に出す**発想は共通です。Is he a teacher? / Ist er Lehrer?

● ここが違う！

観点	ドイツ語	英語
人称語尾	6 種類 (-e / -st / -t / -en / -t / -en)	3 人称単数の -s だけ
語順の原則	定動詞が 2 番目	主語が動詞の前
疑問文・否定文	動詞をそのまま動かす	do / does を借りてくる
進行形	ない (現在形が兼ねる)	<i>be + -ing</i> がある
未来	現在形で言える	ふつう <i>will</i> が必要

① 語順 —— 守るのは「主語の位置」ではなく「動詞の位置」

英語は主語を動詞の前に固定します。ドイツ語が固定するのは動詞の位置です。

Wir lernen heute die Wahrheit. 私たちは今日、真理を学びます。

〈英〉We learn the Truth today.

Heute lernen wir die Wahrheit. 今日、私たちは真理を学びます。

〈英〉Today we learn the Truth.

文頭に *Heute* を置いた瞬間、ドイツ語では **lernen wir** と主語と動詞が入れ替わります。英語では *Today we learn* と、主語が先のまま動きません。——文頭に何かを置いたら、次は必ず動詞。これがドイツ語の呼吸です。

② do がない

英語は疑問文・否定文をつくる時、意味のない *do* を借りてきます。ドイツ語にはこの仕組みがありません。

日本語	ドイツ語	英語
あなたは真理を学びますか？	Lernst du die Wahrheit?	Do you learn the Truth?
彼は学びません。	Er lernt nicht.	He does not learn.

③ 進行形がない

Ich lerne. は、文脈しだい「私は学びます」とも「私は（今）学んでいます」とも訳せます。ドイツ語には英語の *I am learning* にあたる専用の形がありません。

●★英語からの乗り換え注意

英語の直訳から、次の3つの間違いが必ず出ます。最初に潰しておきましょう。

- × *Ich bin lernen.* (I am learning のつもり) → ○ **Ich lerne.**
- × *Tust du lernen?* (Do you learn? のつもり) → ○ **Lernst du?**
- × *Heute wir lernen ...* (Today we learn のつもり) → ○ **Heute lernen wir ...**

●英語が見えてくる！

英語で、なぜ3人称単数のときだけ *he learns* と *-s* が付くのでしょうか。「そういう規則だから」と暗記した人がほとんどだと思います。

答えは、**英語も昔はドイツ語と同じように6通りに変化していたから**です。シェイクスピアの英語には *thou learnest* (=du lernst)、*he learneth* (=er lernt) という形が残っています。英語はこの体系を捨てる途中で、**3人称単数の語尾だけ落とし忘れた**のです。

ドイツ語の人称変化表は、覚えるべき新しい重荷ではありません。**英語が置いてきた荷物を、もう一度見せてもらっている**だけなのです。

コラム アニメのなかのドイツ語 —— あなたはもう、ドイツ語を聞いている

「なぜドイツ語を選んだのですか」と四月に尋ねると、「アニメにドイツ語が出てきて、かっこいいと思ったから」という答えが毎年ある。それは正しい入口である。**日本のアニメは、驚くほどドイツ語を使っている。**

●1. 名前が、そのままドイツ語の単語

『葬送のフリーレン』の登場人物の名前は、ほとんどが**ふつうのドイツ語の単語**である。

名前	ドイツ語	意味	文法の見どころ
フリーレン	frieren	凍える (動詞)	-en で終わる 不定詞 (1-1)
ヒンメル	der Himmel	空・天	男性名詞
ハイター	heiter	晴れやかな・快活な	形容词
アイゼン	das Eisen	鉄	中性名詞
フェルン	fern	遠い	形容词 (英 <i>far</i>)
シュタルク	stark	強い	形容词 (英 <i>stark</i> は「荒涼とした」)
ゼーリエ	die Serie	連続・シリーズ	女性名詞
ラント	das Land	国・土地	中性名詞 (英 <i>land</i>)
デンケン	denken	考える	不定詞 (英 <i>think</i>)
ユーベル	übel	悪い・たちの悪い	形容词 (英 <i>evil</i> と同根)
ザイン	das Sein	存在	動詞 <i>sein</i> (1-4) を名詞にしたもの
リーニエ	die Linie	線	女性名詞 (英 <i>line</i>)
クラフト	die Kraft	力	本書の重要語 (第3章)
マハト	die Macht	力・権力	英 <i>might</i>
エーレ	die Ehre	名誉	女性名詞
リュグナー	der Lügner	嘘つき	<i>lügen</i> (嘘をつく) + -er (人)
ゲナウ	genau	正確に・そのとおり	会話で最頻出の相づち
アウラ	die Aura	オーラ	女性名詞

魔法使いの名前が *Sein* (存在)、戦士の名前が *Stark* (強い)、僧侶の名前が *Heiter* (晴れやか) —— **名前を読むだけで、その人が分かる**ようにできている。ドイツ語を知っている人だけが、この作品を**二重**に楽しめる。

●2. 歌詞が、ドイツ語の文になっている

『進撃の巨人』の主題歌「紅蓮の弓矢」は、ドイツ語の一文で始まる。

Sie sind das Essen und wir sind die Jäger!

やつらは食料で、我々は狩人だ！

この一文に、この章で学んだ **sein** の人称変化が2回出てくる。

語	形	説明
sie sind	3人称複数	彼ら（やつら）は～である
wir sind	1人称複数	我々は～である
das Essen	中性名詞	食べ物（動詞 <i>essen</i> 食べる の名詞化）
die Jäger	複数	狩人たち（単数 <i>der Jäger</i> 。主人公エレン・イェーガーの姓）

主人公の姓 **Jäger** は「狩人」。jagen（狩る）＋-er（～する人）である。ライナー・ブラウンの *braun* は「茶色」、巨人は *der Titan*、壁は *die Mauer*。

● 3. ほかに、こんなところに

作品	ドイツ語	意味・由来
『SPY×FAMILY』	Ostania / Westalis 、首都 Berlint	<i>Ost</i> （東）と <i>West</i> （西）に分かれた国、 <i>Berlin</i> を思わせる都
『ブルーロック』	ミヒヤエル・カIZER	der Kaiser = 皇帝。ドイツ代表の選手
『魔法少女まどか☆マギカ』	Walpurgisnacht （ワルブルギスの夜）	ゲーテ『ファウスト』に出てくる魔女の夜。魔女の名もドイツ語で書かれる
『鋼の錬金術師』	ヴァン・ホーエンハイム	実在の錬金術師パラケルススの本名 <i>von Hohenheim</i> から
『銀河英雄伝説』	ラインハルト、キルヒアイス、オーベルシュタイン	帝国側の人名・称号はドイツ語

● 4. そして、あなたはすでに百語のドイツ語を知っている

アニメの前に、日本語そのものがドイツ語をたくさん借りている。

日本語	ドイツ語	本来の意味
アルバイト	die Arbeit	仕事・労働（ドイツ語では本業も <i>Arbeit</i> ）
カルテ	die Karte	カード・地図
ゼミ	das Seminar	演習
テーマ	das Thema	主題
エネルギー	die Energie	エネルギー
メルヘン	das Märchen	おとぎ話
リュックサック	der Rucksack	背負い袋（ <i>Rücken</i> 背中＋ <i>Sack</i> 袋）
バウムクーヘン	der Baumkuchen	木（ <i>Baum</i> ）のケーキ（ <i>Kuchen</i> ）
ゲレンデ	das Gelände	地形・土地（ドイツ語にスキー場の意味はない）
ドッペルゲンガー	der Doppelgänger	二重に歩く者
ワクチン	die Vakzine	ワクチン
シュプレヒコール	der Sprechchor	声を合わせて叫ぶこと

★「カッコいい」と思えるのは、音の響きが分かるからである。

その響きは、本書の第0章・第1章でもう手に入れた。

あとは、その響きに意味がつながるだけ。

次にアニメを観るとき、ドイツ語が聞こえたら、一語でいいから書き留めておいてほしい。

それが、あなたの最初の単語帳になる。

★課題（任意）：好きな作品から、ドイツ語だと思ふ語を3つ探し、辞書で意味を調べて次回持ってくること。

名前でも、歌詞でも、技の名前でもよい。正しいドイツ語でなくても構わない——

「ドイツ語っぽく作った語」を見分けられるようになることも、立派な学習である。

3. 真理の例文（Sätze der Wahrheit）

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は特に、大川隆法総裁が説かれる教えの中でも「たとえ（比喻）」を中心に選びました。抽象的な教えほど、身近なものにたとえると心に残ります。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳（参考）、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Die Sonne scheint. 22-1

太陽が輝きます。

〈英〉The sun shines.

▷ scheinen は規則変化動詞。3人称単数 (die Sonne) は語尾 -t → scheint。

☆ この章のキーワード「与える愛」を象徴するのが太陽です。まず主役の太陽を登場させます。

2. Die Sonne gibt Licht. J2-2

太陽は光を与えます。

〈英〉The sun gives light.

▷ geben の3人称単数は幹母音 e→i で **gibt** (不規則。詳しくは対策学習編2)。

☆ das Licht (光) は中性名詞。「太陽=与える存在」というイメージをここで作っておくと、次の文の「神は太陽のように与える」が自然に理解できます。

《神は、燦々とふりそそぐ太陽の光のごとく、無所得のままに、無限の愛と慈悲を万物に与えている——『太陽の法』第3章「愛の大河」》

3. Gott gibt Liebe wie die Sonne. J2-3

神は太陽のように愛を与えます。

〈英〉God gives love like the sun.

▷ wie + 名詞句 = 「~のように」の比較。wie の後ろは名詞だけなので、定動詞の位置を気にする必要はありません (wie が節を導く場合は第12章で学習)。

☆ 英語の like と同じ感覚。「与える愛」という抽象的な教えが、「太陽のように」という具体的なイメージと結びつきます。

《ちょうど、太陽が輝いて光を与え続けているようなあり方——『はじめての信仰生活』第3章「太陽の法」入門》

4. Ich gebe Liebe. J2-4

私は愛を与えます。

〈英〉I give love.

▷ gebe = geben の ich 形 (語尾 -e)。

☆ 2~3の「太陽」のイメージを受けて、「では自分はどうか」と主語を ich に絞る文です。

《「まず与える愛から始めよ」——『幸福の原点』第1章「幸福の原点」》

5. Wir geben Liebe wie die Sonne. J2-5

私たちは太陽のように愛を与えます。

〈英〉We give love like the sun.

▷ wir の語尾は常に規則的な -en。

6. Der Baum wächst. J2-6

木が育ちます。

〈英〉The tree grows.

▷ wachsen の3人称単数は a→ä で **wächst** (不規則。対策学習編2で詳述。ここでは形だけ覚えれば十分です)。

☆ der Baum (木) は、根気強く努力する「精進」のたとえとして使います。

7. Wir wachsen wie ein Baum. J2-7

私たちは木のように育ちます。

〈英〉We grow like a tree.

▷ wir wachsen: wir の語尾は常に -en (wächst のような幹母音変化は ich/wir/wir/sie には起きません)。

☆ 「木のように育つ」= 大地にしっかり根を張り、じっくりと伸びていく精進のイメージ。

《しっかりと大地に根を張って、天に向かって、天を突くのごとく伸びてゆけ。それが正精進ではないか——『ユートピアの原理』第三部「反省の原理」真説・八正道／正精進》

8. Du lernst jeden Tag. J2-8

あなたは毎日学びます。

〈英〉You learn every day.

▷ jeden Tag (毎日)。lernst = lernen の du 形。

《日々の精進——『信仰と情熱』第4章「精進と感謝」》

9. Das Leben ist eine Schule. J2-9

人生は学校です。

〈英〉Life is a school.

▷ sein + 述語名詞 (1格)。eine Schule は不定冠詞の1格 (女性名詞)。

☆ 「人生=学校」というたとえ。学校=日々学び、成長する場所というイメージ。

《人生は魂を鍛える学校——『人生の王道を語る』》

10. Wir sind Kinder Gottes. J2-10

私たちは神の子です。

〈英〉We are children of God.

▷ sind = sein の wir 形。Gottes (神の) は2格で、今は決まり文句として覚えてよい。

《人間は仏の子——『太陽の法』》

11. Ich habe Mut wie ein Baum. J2-11

私は木のような勇気を持っています。

〈英〉I have courage like a tree.

▷ habe = haben の ich 形。

- ☆ 「木のような勇氣」＝風雨にも揺るがず、大地に根を張った強さのイメージ。抽象的な「勇氣」も、木というイメージを添えると印象に残ります。

12. Dankst du immer? — Ja, ich danke immer.

あなたはいつも感謝していますか？ — はい、いつも感謝しています。

〈英〉 Do you always give thanks? — Yes, I always give thanks.

- ▷ 決定疑問文は定動詞が文頭。dankst = danken の du 形。

《精進の心と同時に感謝の心を持つ——『信仰心からの革命』第2章》

◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— 心は畑である

「心は、たとえてみれば、畑のようなものだ」

——《御法話「無我なる愛」／心の深耕》

13. Das Herz ist wie ein Feld. p2-13

心は畑のようなものです。

〈英〉 The heart is like a field.

- ▷ ist は文の2番目。主語 Das Herz が1番目、そのあとすぐ動詞が来ます。

- ☆ 畑は、耕さなければ固くなり、種を蒔いても芽が出ません。心も同じです。

《心は、たとえてみれば、畑のようなものだ——御法話「無我なる愛」／心の深耕》

14. Wir pflegen das Feld jeden Tag. p2-14

私たちは毎日その畑を手入れします。

〈英〉 We tend the field every day.

- ▷ pflegen は規則変化。wir に対応する語尾は -en (不定詞と同じ形) です。

15. Jeden Tag pflegen wir das Feld. p2-15

毎日、私たちはその畑を手入れします。

〈英〉 Every day we tend the field.

- ▷ 文頭に Jeden Tag を置いたので、動詞 pflegen が2番目に来て、主語 wir は後ろへ回ります。英語なら Every day we tend と主語が先のままです。ここがドイツ語の呼吸です。

★公式ドイツ語版では『若き日のエル・カンターレ』のドイツ語版 (Twiceborn) には、

„Bestellen Sie das Feld Ihres eigenen Geistes.“ (自分自身の心の畑を耕しなさい)

という一文があります。bestellen は「(畑を) 耕す・作付けする」という意味の動詞です。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味
lernen	動	学ぶ
geben	動	与える
lieben	動	愛する
danken	動	感謝する
beten	動	祈る
arbeiten	動	働く
beginnen	動	始める
heißen	動	～という名前である
die Liebe	女	愛
die Wahrheit	女	真理
das Herz	中	心
die Seele	女	魂
der Gott	男	神
der Buddha	男	仏
das Leben	中	人生・生命
die Schule	女	学校
der Mut	男	勇氣
die Dankbarkeit	女	感謝
die Sonne	女	太陽
scheinen	動	輝く
das Licht	中	光
der Baum	男	木
wachsen	動	育つ (不規則: du/er で a→ä)
wie	前	～のように (比較)
heute	副	今日
immer	副	いつも
fleißig	副/形	勤勉に
zuerst	副	まず・最初に
jeden Tag	句	毎日
jeden Morgen	句	毎朝
das Feld, -er	中	畑、野原

ドイツ語	性	意味
pflegen	動	手入れする、世話をする

5. 練習問題（独検5級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を1つ選びなさい。

(1) Ich () die Wahrheit.

1 lernst 2 lerne 3 lernst 4 lernen

(2) Du () Liebe.

1 gibst * 2 gebe 3 gebt 4 geben

* ヒント: geben は du/er で幹母音が変わる不規則動詞（対策学習編2で学習）。ここでは形だけ選べばよい。

(3) Er () fleißig.

1 arbeitest 2 arbeite 3 arbeitet 4 arbeiten

(4) Wir () Kinder Gottes.

1 seid 2 bist 3 sind 4 ist

(5) () du Mut? — Ja, ich habe Mut.

1 Habt 2 Hast 3 Haben 4 Hat

(6) Der Baum ().

1 wächst * 2 wachse 3 wachst 4 wachsen

* ヒント: wachsen は du/er で幹母音が a→ä に変わる不規則動詞（対策学習編2で学習）。ここでは形だけ選べばよい。

● B. () の動詞を正しい形にして下線部に入れなさい。

(1) Ich _____ jeden Morgen. (beten) (2) Sie[彼女] _____ immer. (danken) (3) Heute _____ wir. (beginnen) (4) Das Leben _____ eine Schule. (sein) (5) Ihr _____ jeden Tag. (lernen) (6) Die Sonne _____ Licht. (geben)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

(1) ich / Liebe / gebe / zuerst → 「まず私は愛を与えます」 (2) die Wahrheit / du / lernst / ? → 「君は真理を学んでいますか」 (3) ist / Liebe / Gott → 「神は愛です」 (4) Gott / wie / gibt / die Sonne / Liebe → 「神は太陽のように愛を与えます」 ♪2-C1

● D. 英語と比べる —— 英語からの直訳を直しなさい

(1) X Ich bin lernen. (I am learning のつもり) → (2) X Tust du lernen? (Do you learn? のつもり) → (3) X Heute wir lernen die Wahrheit. (Today we learn ... のつもり) → (4) X Was tust du machen? (What do you do? のつもり) →

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

(1) Das Herz ist wie ein _____. (心は畑のようなものです) (2) Wir _____ das Feld jeden Tag. (私たちは毎日その畑を手入れします) (3) Jeden Tag _____ wir das Feld. (毎日、私たちはその畑を手入れします)

● 解答

A: (1) 2 (2) 1 (3) 3 (4) 3 (5) 2 (6) 1 B: (1) bete (2) dankt (3) beginnen (4) ist (5) lernt (6) gibt C: (1) Zuerst gebe ich Liebe. (Ich gebe zuerst Liebe. も可)

(2) Lernst du die Wahrheit?

(3) Gott ist Liebe.

(4) Gott gibt Liebe wie die Sonne. D: (1) Ich lerne. (2) Lernst du? (3) Heute lernen wir die Wahrheit. (4) Was machst du? E: (1) Feld (2) pflegen (3) pflegen (文頭に Jeden Tag が来たので動詞が2番目)

6. 法話メモ —— 太陽のように与える愛

『太陽の法』第3章「愛の大河」で、大川隆法総裁は神の愛のあり方をこう説かれています。「神は、燦々とふりそそぐ太陽の光のごとく、無所得のままに、無限の愛と慈悲を万物に与えているのではありませんか」。

太陽は、見返りを求めることなく、すべてのものに平等に光を注ぎます。これが「与える愛」の最もわかりやすい姿です。『はじめての信仰生活』でも同じ太陽のたとえを使って、「慈悲とは、『与え切り』の世界であり、ちょうど、太陽が輝いて光を与え続けているようなあり方です」と説かれています。

この章の例文は、*Die Sonne scheint.* (太陽が輝きます) から始まり、*Gott gibt Liebe wie die Sonne.* (神は太陽のように愛を与えます) へ、そして *Ich gebe Liebe.* (私は愛を与えます) へとつながっていきます。太陽→神→私、という広がりのなかで、動詞の変化を練習してみましょう。

Die Sonne gibt Licht. Gott gibt Liebe. Ich gebe Liebe wie die Sonne.

もう一つのたとえが「木」です。『ユートピアの原理』では、日々の精進について「しっかりと大地に根を張って、天に向かって、天を突くがごとく伸びてゆけ。それが正精進ではないか」と説かれています。水に漂うだけの浮き草ではなく、大地に根を張って着実に育つ木のように——それが、この章のもう一つのテーマです。

Der Baum wächst. Wir wachsen wie ein Baum.

◆ 学ぶことば

「もうネイティブだって発音できない単語や文章がいっぱい出てきているので、開き直って、コツコツと単打を積み重ねていくことだ」

《『黒帯英語二段②』まえがき》

第3章 名詞の性と格変化（単数） 【5級】

【第6回・第7回（前期）】 この章は2回に分けて学ぶ。
 同じ週の次の時間の**会話**は 第6回「心・魂・愛を語る」／第7回「あなたに何を差し上げられるか」
 [独検5級レベル]

この章の到達目標

1. ドイツ語の名詞には性別があることを理解し、定冠詞・不定冠詞を正しく使える
2. 名詞が文中で果たす役割（主語・目的語など）に応じて、格変化を正しく行える
3. 「スプーンとスープ」「太陽」という"たとえ"を通して、「仏の教え」「神の愛」「心の力」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. ドイツ語の名詞には「性」がある

ドイツ語の名詞はすべて、**男性 (maskulin)**、**女性 (feminin)**、**中性 (neutral)** のいずれかの性を持っています。性は辞書に載っており、単語と一緒に覚える必要があります。

- ・ 男性名詞: **der** Gott (神), **der** Wille (意志)
- ・ 女性名詞: **die** Liebe (愛), **die** Kraft (力)
- ・ 中性名詞: **das** Herz (心), **das** Licht (光)

● 1-2. 定冠詞と不定冠詞

英語の the / a(n) にあたる冠詞も、名詞の性や文中の役割（格）に合わせて形が変わります。

定冠詞 (bestimmter Artikel)

特定のものを指すときに使います。

性	1 格 (主格)	2 格 (属格)	3 格 (与格)	4 格 (対格)
男性	der	des	dem	den
女性	die	der	der	die
中性	das	des	dem	das

不定冠詞 (unbestimmter Artikel)

不特定のものを指すときに使います。

性	1 格 (主格)	2 格 (属格)	3 格 (与格)	4 格 (対格)
男性	ein	eines	einem	einen
女性	eine	einer	einer	eine
中性	ein	eines	einem	ein

★ここまでが第6回。以下は同じ章の続きで、第7回に学ぶ。

● 1-3. 名詞の「格」と役割

ドイツ語の名詞は、文中でどのような役割を果たすかによって、形（冠詞や形容詞、名詞自体）が変化します。これを**格変化 (Deklination)** といいます。この章では、単数形における1格、3格、4格を学びます（2格は「～の」という意味で使われますが、このレベルではまだ深く扱いません。2格と von の使い分けは付録9 §4）。

1 格 (主格: Nominativ)

- ・ **主語**になる名詞の格です。「～は」「～が」にあたります。
- ・ 例: **Der Meister** ist weise. (師は賢明です。)
- ・ 例: **Das Herz** hat Kraft. (心には力があります。)

3 格 (与格: Dativ)

- ・ **間接目的語**になる名詞の格です。「～に」にあたります。
 - ・ 特定の動詞（danken など）や前置詞（mit, von, zu など）の後にも使われます。
 - ・ 例: Ich danke **dem Meister**. (私は師に感謝します。) ← danken は3格支配動詞
- ※ 唯一の神を指す **Gott** は無冠詞で使う (Ich danke Gott.)。冠詞の練習には別の名詞を用いる。

4 格 (対格: Akkusativ)

- ・ **直接目的語**になる名詞の格です。「～を」にあたります。
- ・ 特定の動詞（lieben, haben, lernen など）や前置詞（für, durch, ohne など）の後にも使われます。

- ・例: Wir lieben **den** Meister. (私たちは師を愛しています。)
- ・例: Wir lernen **die** Lehre. (私たちは教を学びます。)

まとめ: 格変化のポイント

- ・男性名詞は、4格で定冠詞が **der** → **den**、不定冠詞が **ein** → **einen** に変化します。
- ・女性名詞と中性名詞は、1格と4格で冠詞の形が同じです。
- ・3格は男性・中性名詞で **dem** / **einem**、女性名詞で **der** / **einer** になります。

2. 英語と比べる —— 「格」は、あなたがすでに知っているもの

格変化はドイツ語最大の関門と言われます。しかし英語をやってきた人にとっては、**まったく新しい概念ではありません**。英語にも、形を変えて残っているからです。

●ここが同じ！

- ・冠詞という品詞があり、**特定 (the) と不特定 (a) を区別する発想**は同じです。
- ・文の基本の並びは「主語 → 動詞 → 目的語」で、英語と変わりません。
- ・3格 (～に) と4格 (～を) を並べる語順も、英語とそっくりです。 *He gives me the book.* / *Er gibt mir das Buch.* (3格 → 4格の順)

●ここが違う！

観点	ドイツ語	英語
名詞の性	男性・女性・中性の 3つ	なし (the ひとつ)
定冠詞の形	der / die / das / des / dem / den ...	the のみ
不定冠詞の形	ein / eine / einen / einem ...	a / an のみ
格の表示	冠詞の形で示す	語順で示す
名詞の書き方	必ず 大文字 始まり	固有名詞のみ大文字

●英語に残っている「格」の化石

英語も、名詞の格変化はほとんど捨てました。しかし**代名詞と疑問詞にだけ**、はっきり残っています。

格	ドイツ語	英語の化石
1格 (～は)	ich / er / wer	I / he / who
2格 (～の)	mein / sein / wessen	my / his / whose
3・4格 (～に／～を)	mir / mich / ihm / ihn / wem / wen	me / him / whom

He gave me the book. とは言えても *He gave I the book.* とは言えない——この感覚こそが「格」です。英語話者はすでに格を体で知っています。ドイツ語は、それを**代名詞だけでなく、すべての名詞について**行っているにすぎません。

●「英語は語順で、ドイツ語は形で」

格の有無は、語順の自由度に直結します。

ドイツ語	意味
Der Mensch sucht die Wahrheit.	人間は真理を求める。
Die Wahrheit sucht der Mensch.	真理を、人間は求める。(意味は同じ・真理を強調)

der (男性1格) と **die** (女性4格) という形が、どちらが主語でどちらが目的語かを教えてくれるので、順番を入れ替えても意味は壊れません。

英語で同じことをすると *The truth seeks the man.* (真理が人間を求める) となり、**意味が逆転**します。英語は格を捨てた代償として、**語順を自由に動かす権利**を手放したのです。

●★英語からの乗り換え注意

- ・× *Ich liebe den Gott.* → ○ *Ich liebe Gott.* 唯一神を指す *Gott* は、英語の *God* と同じく**冠詞を付けません** (固有名詞扱い)。
- ・× *die Liebe von Gott* を機械的に英語 *of* の代わりに使う → 「神の愛」は2格を使って **die Liebe Gottes** と言うのが基本です (詳しくは後の章)。
- ・名詞を覚えるときは、必ず **der / die / das** と覚えてください。「Herz」ではなく「**das** Herz」。ここを省くと、第5章以降がすべて崩れます。

●英語が見えてくる！

英語で *John's book* (ジョンの本) と言うときの 's は何でしょうか。アポストロフィがあるので「省略記号」に見えますが、実はこれ、**2格 (属格)** の語尾の生き残りです。

ドイツ語では *des Vaters*（父の）のように、男性・中性名詞の2格に *-s* が付きます。英語の *'s* は、まさにこれと同じものなのです。

つまり英語は、格変化を捨てるときに、「～の」を表す *-s* だけを、アポストロフィを付けて生き残らせたわけです。ドイツ語の2格を学ぶと、英語の *'s* が急に由緒あるものに見えてきます。

3. 真理の例文（Sätze der Wahrheit）

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「スプーンとスープ」「太陽」という"た"と"え"を中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳（参考）、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Gott ist Liebe. ♪2-C2

神は愛です。

〈英〉God is love.

▷ Gott は男性名詞だが、唯一神の意味では冠詞を付けずに使うのが普通（固有名詞扱い）。

《愛の教えの根本——『太陽の法』第3章》

2. Die Lehre hat einen Geschmack. ♪3-2

教えには味があります。

〈英〉The teaching has a taste.

▷ Lehre は女性名詞（1格）。Geschmack は男性名詞。haben の目的語なので4格：ein → **einen**。

☆「教え」という抽象的なものに、あえて「味」という五感の言葉を結びつけるのが、このたとえの面白さです。

《仏の教えは、噛めば噛むほどに味が出、聴けば聴くほどに味が出る——『仏陀再誕』第6章「転生輪廻とは何か」》

3. Der Löffel schöpft die Suppe. ♪3-3

スプーンはスープをすくいます。

〈英〉The spoon scoops the soup.

▷ Löffel は男性名詞（1格）。Suppe は女性名詞。schöpfen の目的語なので4格（女性は1格と同形）。

☆ スプーンはスープに触れていても、スープの味そのものにはなりません。「教えに触れるだけ」と「教えを深く味わう」の違いをたとえた一節です。

《ちょうど銀の匙がスープをすくっても、スープの味を知らないのと同じだ——『仏陀再誕』第6章「転生輪廻とは何か」》

4. Wir lernen die Lehre. ♪3-4

私たちは教えを学びます。

〈英〉We learn the teaching.

▷ Lehre は女性名詞。lernen の目的語なので4格。女性名詞は1格も4格も定冠詞はdie。

《仏の教えの学習——『仏陀再誕』第1章》

5. Die Lehre ist die Wahrheit. ♪3-5

その教えは真理です。

〈英〉The teaching is the truth.

▷ Lehre と Wahrheit はどちらも女性名詞。sein の後ろは1格。

《真実なる仏の教え——『仏陀再誕』第1章》

6. Die Sonne gibt der Welt die Liebe. ♪3-6

太陽は世界に愛を与えます。

〈英〉The sun gives love to the world.

▷ Welt は女性名詞。geben は「～に（3格）～を（4格）与える」動詞。der Welt は3格（女性の3格はder）。

☆ 第2章で学んだ「太陽のたとえ」がここでも生きています。太陽は世界のすべてに平等に光と愛を注ぐ存在です。

《与える愛——『幸福の原点』第1章》

7. Das Herz hat eine Kraft. ♪3-7

心には力があります。

〈英〉The heart has a power.

▷ Herz は中性名詞。Kraft は女性名詞。eine Kraft はhaben の目的語なので4格（女性は1格と同形）。

《心の力を使う——『創造的人間の秘密』第1章》

8. Der Wille ist stark wie ein Baum. ♪3-8

意志は木のように強いです。

〈英〉The will is strong like a tree.

▷ Wille は男性名詞（1格）。wie + 名詞句で「～のように」。

☆ 第2章の「木のたとえ」（精進）が、ここでは「意志の強さ」のたとえとして再登場します。

9. Ich habe einen Meister. ♪3-9

私には師がいます。

〈英〉I have a master.

▷ Meister は男性名詞。haben の目的語なので4格。不定冠詞はein → **einen**。

《人生の師を持つ》

10. Ich danke dem Meister. ♪3-10

私は師に感謝します。
 〈英〉 I thank the master.

- ▷ danken は3格支配動詞。男性名詞の3格は定冠詞 der → dem。
 《感謝の心——『信仰と情熱』第4章》

11. Ein Mensch hat einen Geist. ♪3-11

人間には霊が宿っています。
 〈英〉 A human being has a spirit.

- ▷ Mensch も Geist も男性名詞。einen Geist は haben の目的語なので4格。
 《霊的な存在としての人間——『太陽の法』》

12. Gott gibt dem Menschen die Liebe. ♪3-12

神は人間に愛を与えます。
 〈英〉 God gives love to human beings.

- ▷ Mensch は3格・4格で Menschen と語尾 -en が付く特殊な男性名詞（弱変化名詞）。今は決まり文句として覚えてよい。
 《神の愛と人間——『心の復興』第1章》

◆◆ 心に刻むたとえ（Gleichnis）——よく磨いた鏡

「正直でうそをつかずに生きている人は、ちょうど、よく磨いた鏡のようなものだ」
 ——《御法話「悪魔の嫌うこと」（2007年12月）》

13. Das Herz ist wie ein Spiegel. ♪3-13

心は鏡のようなものです。
 〈英〉 The heart is like a mirror.

- ▷ das Herz は中性名詞の1格。ein Spiegel は男性名詞の1格（sein の後ろなので1格）。
 ☆鏡は、それ自体には何の色もありません。だからこそ、目の前のものをありのままに映します。正直な人の心も同じです。

14. Der Mensch putzt den Spiegel. ♪3-14

人はその鏡を磨きます。
 〈英〉 The person polishes the mirror.

- ▷ der Mensch （男性1格）が主語、den Spiegel （男性4格）が目的語。男性名詞は4格で der → den と変わります。この章の最重要ポイントです。

15. Der Spiegel gibt dem Menschen die Wahrheit. ♪3-15

その鏡は人に真理を示します。
 〈英〉 The mirror gives the person the truth.

- ▷ dem Menschen （3格・～に）、die Wahrheit （4格・～を）。英語の gives the person the truth と語順も同じです。

★公式ドイツ語版では『地獄の法』のドイツ語版に、
 „Bitte bemühen Sie sich ..., Ihren Geist zu reinigen und ihn so klar wie einen Spiegel zu machen.“
 （心を清め、鏡のように澄んだものにするよう努めてください）という一節があります。
 wie einen Spiegel が4格になっているのは、ihn （それを）と同じ格に合わせているからです。
 「wie のあとの格は、比べる相手と同じ格にする」——この章の格変化が、そのまま効いています。

4. 真理語彙（Wortschatz）

ドイツ語	性	意味
der Gott	男	神
die Liebe	女	愛
das Herz	中	心
die Kraft	女	力
der Wille	男	意志
die Lehre	女	教義、教え
die Wahrheit	女	真理
der Geschmack	男	味
der Löffel	男	スプーン、匙
die Suppe	女	スープ
der Mensch	男	人間
der Geist	男	霊、精神
die Welt	女	世界
der Meister	男	師
stark	形	強い
lieben	動	愛する
danken	動	感謝する
geben	動	与える
haben	動	持っている
lernen	動	学ぶ
schöpfen	動	すくう
sein	動	～である

ドイツ語	性	意味
der Spiegel, -	男	鏡
putzen	動	磨く、拭く

5. 練習問題（独検5級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を1つ選びなさい。

- (1) Der Löffel schöpft () Suppe.
1 der 2 den 3 die 4 dem
(2) () Herz hat Kraft.
1 Der 2 Die 3 Das 4 Ein
(3) Wir lernen () Lehre.
1 der 2 den 3 die 4 ein
(4) Ich habe () Meister.
1 ein 2 eine 3 einen 4 der
(5) Gott gibt () Menschen die Liebe.
1 der 2 den 3 dem 4 des

● B. () 内の語を正しい格の形にして下線部に入れなさい。

- (1) Ich danke _____. (der Meister) (2) _____ ist stark wie ein Baum. (der Wille) (3) Die Lehre hat _____. (ein Geschmack) (4) _____ ist die Wahrheit. (die Lehre) (5) Die Sonne gibt _____ die Liebe. (die Welt)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) ist / Liebe / Gott → 「神は愛です」 (2) der Löffel / die Suppe / schöpft → 「スプーンはスープをすくいます」 (3) hat / das Herz / Kraft / eine → 「心には力があります」 ♪3-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X *Ich liebe den Gott.* （唯一神に冠詞を付けた）→ (2) X *Der Mensch putzt der Spiegel.* （4格にしていない）→ (3) X *Ich danke den Meister.* （danken は3格支配）→ (4) 英語の *the love of God* を機械的に *von* で訳すとどうなるか。2格を使った形を書きなさい。

● E. 心に刺むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) Das Herz ist wie ein _____. （心は鏡のようなものです） (2) Der Mensch putzt _____ Spiegel. （人はその鏡を磨きます） (3) Der Spiegel gibt _____ Menschen die Wahrheit. （その鏡は人に真理を示します）

● 解答

- A: (1) 3 (2) 3 (3) 3 (4) 3 (5) 3 B: (1) dem Meister (2) Der Wille (3) einen Geschmack (4) Die Lehre (5) der Welt C: (1) Gott ist Liebe. (2) Der Löffel schöpft die Suppe. (3) Das Herz hat eine Kraft. D: (1) Ich liebe Gott. (2) Der Mensch putzt den Spiegel. (3) Ich danke dem Meister. (4) die Liebe Gottes (2格. von Gott は文脈が限られる) E: (1) Spiegel (2) den (3) dem

6. 法話メモ —— スプーンと味わい

『仏陀再誕』第6章「転生輪廻とは何か」で、大川隆法総裁は仏の教えとの向き合い方を、こんなたとえで説かれています。「仏の教えは、囁めば囁むほどに味が出、聴けば聴くほどに味が出、実践すれば実践するほどに、その悟りの芳香が、あたり一面に漂うものとなる。（中略）ちょうど銀の匙がスープをすくっても、スープの味を知らないのと同じだ」。

スプーンはスープに毎日触れていても、スープの味そのものを知ることはありません。教えも同じで、ただ字面を読むだけでは「知っている」ことにはならず、自分の心で噛みしめ、実践して初めて、ほんとうの味わいが分かるのです。

Der Löffel schöpft die Suppe. Die Lehre hat einen Geschmack.

もう一つ、第2章に続いて「太陽」のたとえも登場します。太陽が世界のあらゆるものに平等に光を与えるように、神は人間に等しく愛を与えます。「神の愛」も「心の力」も、名詞の性と格変化を使って、こう表現できます。

Die Sonne gibt der Welt die Liebe. Das Herz hat eine Kraft.

（参考：「神の愛」は **die Liebe Gottes**、「心の力」は **die Kraft des Herzens** と2格を使って表現することもできます。2格の詳細な使い方は先の章で学びます。）

Gott ist Liebe. Das Herz hat eine Kraft.

◆ 学びのことば

「それを掘り起こすのは皆さん一人一人の日々の努力の継続である」
《『黒帯英語三段④』まえがき》

対策学習編 1 人称代名詞（1 格・4 格）と疑問詞 【5 級】

【第 8 回（前期）】

同じ週の次の時間の会話は 第 8 回「相手のことを尋ねる」

【独検 5 級レベル】

この章の到達目標

1. 人称代名詞の 1 格（主語）と 4 格（目的語）を正しく使える
2. 疑問詞（wer/was/wo/wann/wie/warum）を使った疑問文を作れる
3. 「アリ」「犬と鏡」という"たとえ"を通して、「自分とは何か」「人生の問い」をテーマにした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 人称代名詞（Personalpronomen）

人称代名詞は「私」「あなた」「彼」「彼女」「私たち」などの代名詞です。ドイツ語では、文の中での役割（格）によって形が変わります。ここでは、主語になる **1 格**と、動詞の目的語になる **4 格**を学びます。

1-1-1. 人称代名詞の 1 格（主格）

主語として使う形です。

人称	単数	複数
1 人称	ich (私)	wir (私たち)
2 人称（親称）	du (君)	ihr (君たち)
3 人称	er (彼)	sie (彼ら・彼女ら・それら)
	sie (彼女)	
	es (それ)	
2 人称（敬称）	Sie (あなた・あなた方)	Sie (あなた・あなた方)

ポイント:

- ・ **er, sie, es** は、それぞれ男性名詞、女性名詞、中性名詞の代わりにも使われます。
- ・ **Sie** (敬称) は常に大文字で書きます。

例:

- ・ **Ich** bin ein Mensch. (私は人間です。)
- ・ **Er** ist ein Lehrer. (彼は先生です。)
- ・ **Sie** (彼女) lernt Deutsch. (彼女はドイツ語を学びます。)
- ・ **Wir** sind glücklich. (私たちは幸福です。)

1-1-2. 人称代名詞の 4 格（対格）

動詞の目的語として使う形です。多くの場合、「～を」「～に」にあたります。4 格目的語をとる動詞（**fragen** 尋ねる, **sehen** 見る, **lieben** 愛する, **haben** 持っている など）とともに使われます。

人称	単数	複数
1 人称	mich (私を)	uns (私たちを)
2 人称（親称）	dich (君を)	euch (君たちを)
3 人称	ihn (彼を)	sie (彼らを・彼女らを・それらを)
	sie (彼女を)	
	es (それを)	
2 人称（敬称）	Sie (あなたを・あなた方を)	Sie (あなたを・あなた方を)

ポイント:

- ・ 3 人称単数男性の **er** が **ihn** に、それ以外は母音が変わらず語尾だけ変化します。
- ・ 3 人称単数女性性の **sie** と 3 人称複数、敬称の **Sie** は 1 格も 4 格も同じ形です。文脈で判断します。

例:

- ・ Ich frage **mich**. (私は自分自身に問いかけます。)
- ・ Du liebst **dich**. (あなたは自分自身を愛します。)
- ・ Wir sehen **ihn**. (私たちは彼を見ます。)
- ・ Er liebt **sie** (彼女を). (彼は彼女を愛します。)
- ・ Ich habe **es**. (私はそれを持っています。)

・ Sie (敬称) fragen **uns**. (あなたは私たちに尋ねます。)

● 1-2. 疑問詞 (W-Fragen)

「誰が」「何を」「どこで」「いつ」「どのように」「なぜ」といった情報を尋ねる疑問詞です。疑問詞は常に文頭に置き、定動詞は 2 番目に来るという原則は変わりません。

疑問詞	意味	用例
wer	誰が (1 格)	Wer bist du? (君は誰ですか?)
was	何が・何を (1 格・4 格)	Was ist das? (それは何ですか?) Was machst du? (君は何をしていますか?)
wo	どこで・どこに	Wo bist du? (君はどこにいますか?)
woher	どこから	Woher kommst du? (君はどこから来ましたか?)
wohin	どこへ	Wohin gehst du? (君はどこへ行きますか?)
wann	いつ	Wann beginnt das Leben? (人生はいつ始まりますか?)
wie	どのように・どんなふうに	Wie geht es dir? (お元気ですか?) ※決まり文句として暗記) Wie lebe ich? (私はどう生きるのか?)
warum	なぜ	Warum bist du hier? (なぜ君はここにいるのですか?)

ポイント:

- ・ **wer** は 1 格のみで、主語を尋ねます。4 格は **wen** (誰を) ですが、5 級ではまず **wer** を覚えましょう。
- ・ **was** は 1 格と 4 格で形が同じです。
例:
- ・ **Wer** bin ich? (私は誰ですか?)
- ・ **Was** ist das Leben? (人生とは何ですか?)
- ・ **Wo** ist die Wahrheit? (真理はどこにありますか?)
- ・ **Warum** frage ich mich? (なぜ私は自分に問いかけるのか?)

2. 英語と比べる —— W で始まる疑問詞は、英語の wh- と同じ一族

● ここが同じ！

- ・ 人称代名詞の体系そのもの（私・あなた・彼・彼女・それ・私たち……）は英語とまったく同じです。
- ・ 疑問詞が **w-** で始まるのも共通です。英語の **wh-** とドイツ語の **w-** は、同じ祖先から来ています。

意味	ドイツ語	英語
だれが	wer	who
何が／何を	was	what
どこで	wo	where
いつ	wann	when
なぜ	warum	why
どのように	wie	how

- ・ 疑問詞を文頭に置き、そのすぐ後ろに動詞を置く形も同じです。 *What do you seek?* / *Was suchst du?*

● ここが違う！

① 「あなた」が 2 種類ある

英語は誰に対しても **you** ひとつですが、ドイツ語は相手との距離で使い分けます。

- ・ **du** (親称) 家族・友人・子ども・信仰の仲間、そして神に祈るとき
- ・ **Sie** (敬称) 初対面の人、目上の人、公の場（必ず大文字で書く）

祈りの言葉で神に **du** を使うのは、英語の古い祈り *Thy will be done*（御心のままに）で *thou / thy* を使うのと同じ感覚です。もっとも近い相手にこそ **du** を使うのです。

② 「それ」は **es** とはかぎらない

英語では、人間以外はほぼすべて **it** です。ドイツ語では、名詞の文法上の性に従います。

ドイツ語	受ける代名詞	英語なら
der Löffel (スプーン・男性)	er	it
die Suppe (スープ・女性)	sie	it
das Herz (心・中性)	es	it

Der Löffel? *Er ist klein.* (スプーン? それは小さい。) ——ドイツ語では、スプーンを *er* (英語の *he* にあたる語) で受けま

★英語からの乗り換え注意

- ・ X モノをすべて **es** で受けてしまう。→ 名詞の性を思い出してください。
- ・ X *Wer* と *Wo* の取り違い。ドイツ語の **wer** は「だれ」(英 *who*)、**wo** は「どこ」(英 *where*) です。綴りが英語と逆にずれているので、最初は必ず混乱します。「**wer** は人、**wo** は場所」と声に出して覚えてください。

●英語が見えてくる!

英語の疑問詞は *who, what, where, when, why* と *wh-* で始まるのに、なぜ **how** だけ **h** で始まるのでしょうか。

古い英語では、これらはすべて **hw-** という綴りでした (*hwa, hwæt, hwær*)。つまり本来は「**h** の音が先」だったのです。

- ・ 大多数の語は、綴りが *hw-* → *wh-* とひっくり返りました(発音は **w** だけに)。
- ・ ところが **how** は、もともと **w** の音が消えていたため、**h** だけが残ったのです。

ドイツ語の **wer / was / wo / wann / warum / wie** は、この一族の兄弟です。**how** の仲間が **wie** だと知ると、英語の例外がきれいに片付きます。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「アリ」「犬と鏡」という"たとえ"を中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字=ドイツ語文、次の行=日本語訳、〈英〉=英語訳(参考)、▷=文法ポイント、☆=ニュアンス解説、《》=題材とした教えの出典。

1. Wer bin ich? JT1-1

私は誰ですか? (自分とは何か?)

〈英〉Who am I?

▷ *ich* は 1 格。

《「本当の自分とは何か」——『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション⑥』第 1 章》

2. Bin ich wie eine Ameise? JT1-2

私はアリのようなのだろうか?

〈英〉Am I like an ant?

▷ **wie**+名詞句の比較。*eine Ameise* (女性名詞、1 格)。

- ☆「自分とは何か」を知らずに生きることを、大川隆法総裁は「地面の上を試行錯誤しながら歩いているアリのような存在」とたとえられています。行き当たりばったりで、その場その場でしか判断できない生き方への警鐘です。

《ちょうど、地面の上を試行錯誤しながら歩いているアリのような存在にしかすぎない——『悟りの発見』第 3 章「悟りの発見」》

3. Was ist das Leben? JT1-3

人生とは何ですか?

〈英〉What is life?

▷ *das Leben* は中性名詞。

《「人生の問い」》

4. Ich frage mich. JT1-4

私は自分自身に問いかけます。

〈英〉I ask myself.

▷ *mich* は *ich* の 4 格。*fragen* は 4 格目的語をとる。

《「自分とは何か」を日々問い続けることの大切さ——『真説・八正道』第 1 章「反省とは何か」》

5. Du fragst dich. JT1-5

あなたは自分自身に問いかけます。

〈英〉You ask yourself.

▷ *dich* は *du* の 4 格。

《「自分の天命とは何か」を考え抜こう——『就活必勝法』第 1 部》

6. Der Hund sieht den Spiegel. JT1-6

犬は鏡を見ます。

〈英〉The dog looks at the mirror.

▷ *Spiegel* は男性名詞。*sehen* の目的語なので 4 格: *der* → *den*。

- ☆ 犬は鏡を見ても、そこに映るのが自分の姿だとは分かりません。「他人という鏡」を通して初めて自分を知る、という教えのたとえです。

《飼犬に初めて鏡を見せたとしても、彼らはそれが鏡に映った自分の姿であるということは、絶対に認識できない——『悟りの発見』第 3 章「悟りの発見」》

7. Er sieht ihn. JT1-7

彼は彼を見ます。

〈英〉He sees him.

- ▷ ihn は er の 4 格。sehen は 4 格目的語をとる。
《他の人の存在によって、自分とは何かということが初めてわかる——『悟りの発見』第 3 章》

8. Sie (彼女) liebt uns.

- 彼女は私たちを愛します。
〈英〉She loves us.
▷ uns は wir の 4 格。lieben は 4 格目的語をとる。
《愛の教え》

9. Woher komme ich? Wohin gehe ich? ♪T1-9

- 私はどこから来たのか？私はどこへ行くのか？
〈英〉Where do I come from? Where am I going?
▷ woher（どこから）、wohin（どこへ）。
《自分はどこから来てどこへ行くのか——『若き日のエル・カンターレ』第 5 章「存在と時間」》

10. Warum bin ich hier? ♪T1-10

- なぜ私はここにいますのか？
〈英〉Why am I here?
▷ warum（なぜ）。
《人生の問い》

11. Wann beginnt das wahre Leben? ♪T1-11

- 本当の人生はいつ始まるのか？
〈英〉When does true life begin?
▷ wann（いつ）。das wahre Leben（本当の人生）は決まり文句として覚える（形容詞の語尾は第 17 章で学習）。
《「人生の問い」》

12. Wie lebe ich richtig? ♪T1-12

- どうすれば私は正しく生きられるのか？
〈英〉How can I live rightly?
▷ wie（どのように）。richtig（正しく）。
《八正道》

◆ 心に刻むたとえ（Gleichnis）—— 心という畑を、だれが耕すのか

「心は、たとえてみれば、畑のようなものだ」
——《御法話「無我なる愛」／心の深耕》

13. Was ist das Herz? — Es ist wie ein Feld. ♪T1-13

- 心とは何でしょうか。——それは畑のようなものです。
〈英〉What is the heart? — It is like a field.
▷ 疑問詞 was（英語の what）。答えの es は das Herz が中性名詞だからです。

14. Wer pflegt das Feld? — Du pflegst es. ♪T1-14

- だれがその畑を手入れするのでしょうか。——あなたが手入れするのです。
〈英〉Who tends the field? — You tend it.
▷ 疑問詞 wer（英語の who）。wer は 1 格なので、そのまま主語になります。
▷ es は das Feld（中性）を受ける 4 格。1 格も 4 格も同じ es です。

15. Warum pflegst du es? — Weil ich die Wahrheit suche. ♪T1-15

- なぜあなたはそれを手入れするのですか。——真理を求めているからです。
〈英〉Why do you tend it? — Because I seek the Truth.
▷ warum（英語の why）。英語のように do を借りてこない点に注意してください。
★英語の wh- は、ドイツ語の w-
wer (who) / was (what) / wo (where) / wann (when) /
warum (why) / wie (how) ——すべて同じ一族の語です。
ただし wer は「だれ」、wo は「どこ」。英語の who / where とずれているので、ここだけは声に出して覚えてください。

4. 真理語彙（Wortschatz）

ドイツ語	性	意味
fragen	動	尋ねる・問いかける
sehen	動	見る
lieben	動	愛する
die Ameise	女	アリ
der Hund	男	犬
der Spiegel	男	鏡
kommen	動	来る
gehen	動	行く
beginnen	動	始める
leben	動	生きる

ドイツ語	性	意味
der Mensch	男	人間
die Frage	女	質問・問い
die Antwort	女	答え
die Wahrheit	女	真理
das Leben	中	人生・生命
das Ziel	中	目標
hier	副	ここに・ここで
richtig	副/形	正しく・正しい
wahr	形	本当の・真実の
das Feld, -er	中	畑、野原
pflegen	動	手入れする

5. 練習問題（独検 5 級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を 1 つ選びなさい。

- (1) () bin ich?
1 Was 2 Wo 3 Wer 4 Wie
- (2) Ich frage ().
1 ich 2 du 3 mich 4 dich
- (3) () ist das Leben?
1 Wer 2 Was 3 Wo 4 Warum
- (4) Wir lieben ().
1 ihr 2 euch 3 wir 4 uns
- (5) () kommst du? — Ich komme aus Japan.
1 Wo 2 Wohin 3 Woher 4 Wann
- (6) Der Hund sieht () Spiegel.
1 der 2 den 3 dem 4 des

● B. () の語を正しい形にして下線部に入れなさい。

- (1) () ist dein Ziel? (Was) (2) Ich sehe _____. (er) (3) _____ bist du hier? (Warum) (4) Wir fragen _____. (Sie [敬称]) (5) _____ lebe ich richtig? (Wie) (6) Bin ich wie _____? (eine Ameise)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) ich / frage / mich → 「私は自分自身に問いかけます」 (2) ist / das Leben / was / ? → 「人生とは何ですか」 (3) uns / liebt / sie [彼女] → 「彼女は私たちを愛します」 (4) der Hund / den Spiegel / sieht → 「犬は鏡を見ます」 JT1-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X Wo ist das? と尋ねて「だれですか」の意味にしようとした → (2) X Der Löffel? Es ist klein. （男性名詞をモノだから es で受けた）
→ (3) X Tust du die Wahrheit suchen? （Do you seek ...? のつもり） → (4) 英語の how にあたるドイツ語の疑問詞を書き、なぜ h でなく w で始まるのかを一言で説明しなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) _____ ist das Herz? — Es ist wie ein Feld. （心とは何でしょうか） (2) _____ pflegt das Feld? — Du pflegst es. （だれがその畑を手入れするのですか） (3) _____ pflegst du es? — Weil ich die Wahrheit suche. （なぜ手入れするのですか）

● 解答

- A: (1) 3 (2) 3 (3) 2 (4) 4 (5) 3 (6) 2 B: (1) Was (2) ihn (3) Warum (4) Sie (5) Wie (6) eine Ameise C: (1) Ich frage mich.
(2) Was ist das Leben?
(3) Sie liebt uns.
(4) Der Hund sieht den Spiegel. D: (1) Wer ist das? (2) Der Löffel? Er ist klein. (3) Suchst du die Wahrheit?
(4) wie. 英語の疑問詞はもともと hw- で、多くは wh- に綴りが入れ替わったが、
how だけは w の音が消えて h が残った。ドイツ語の w- はその一族である。 E: (1) Was (2) Wer (3) Warum

6. 法話メモ —— アリと、鏡を見る犬

『悟りの発見』第 3 章で、大川隆法総裁は「自分とは何か」を知らずに生きることを、こう戒められています。「地面の上を試行錯誤しながら歩いているアリのような存在にしかすぎない。石に当たっては曲がり、前に行ったり、後ろに行ったり、横に行ったり」。目先のことしか見えず、行き当たりばったりに生きる姿への警鐘です。

もう一つのたとえが「鏡を見る犬」です。「飼犬に初めて鏡を見せたとしても、彼らはそれが鏡に映った自分の姿であるということは、絶対に認識できないのです」《『悟りの発見』第 3 章「悟りの発見」／3 悟りへのステップ／②他からの学び》。「他人の存在は、みなさん自身を教えるためにある」と説かれるように、私たちも他者という鏡を通して初めて、自分とは何かを知ることができるのです。

Bin ich wie eine Ameise? Der Hund sieht den Spiegel.

この章で学んだ人称代名詞と疑問詞を使って、*Wer bin ich?*（私は誰か？） *Was ist das Leben?*（人生とは何か？）という根本的な問いをドイツ語で表現し、その答えを探求する姿勢を養いましょう。

Ich frage mich: Wer bin ich?

◆ 学びのことは

「国際社会で活躍しようとしている人なら、恐れずに挑戦していくとよい」
《『黒帯英語初段①』まえがき》

第4章 複数形 【4級】

【第9回（前期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第9回「仲間たちのことを話す」

【独検4級レベル】

この章の到達目標

1. 名詞の複数形を5つのパターンで正しく作れる
2. 複数の名詞を格変化させて文中で正しく使える
3. 「太陽」のたとえを通して、「人々の幸福」「天使たち」「多くの魂」をドイツ語で表現できる

1. 文法解説

●1-1. 名詞の複数形は5つのパターンに分けられる

ドイツ語の名詞の複数形は、英語のように単純に-sをつけるだけではありません。名詞の性や語尾によって様々な形があり、大きく5つのパターンに分けられます。辞書には通常、複数形が記載されています（例: Tag, -e）。

タイプ	変化の仕方	例（単数 → 複数）	特徴
1. -e 型	語尾に -e をつける。しばしばウムラウト（ä, ö, ü）を伴う。	der Tag → die Tage der Stuhl → die Stühle	男性名詞、中性名詞に多い。
2. -er 型	語尾に -er をつける。ウムラウトできる母音（a・o・u・au）は必ずウムラウトする。	das Kind → die Kinder das Buch → die Bücher	中性名詞に多い。
3. -n / -en 型	語尾に -n または -en をつける。ウムラウトは伴わない。	die Frau → die Frauen der Student → die Studenten	女性名詞のほとんどと、一部の男性名詞（弱変化名詞）に多い。
4. ウムラウト型	語尾変化なし。母音をウムラウトする。	der Vater → die Väter die Mutter → die Mütter	男性名詞、女性名詞に少数。
5. 無変化型	語尾変化もウムラウトもなし。	das Mädchen → die Mädchen der Lehrer → die Lehrer	-er, -el, -en で終わる男性・中性名詞に多い。
6. -s 型	語尾に -s をつける。	das Auto → die Autos das Hotel → die Hotels	外来語・略語。英語と同じ作り方なので覚えやすい。

ポイント:

- ・複数形は辞書で確認し、単語と一緒に覚えるのが最も確実です。
- ・女性名詞の大半は -n / -en 型。一部は -e 型でウムラウトを伴う（die Hand → die Hände, die Nacht → die Nächte）。

●1-2. 複数の名詞の格変化

複数の名詞は、性に関わらず同じ格変化をします。

1-2-1. 複数の定冠詞と不定冠詞

格	定冠詞	不定冠詞
1 格	die	(なし)
2 格	der	(なし)
3 格	den	(なし)
4 格	die	(なし)

ポイント:

- ・不定冠詞 **ein** は「一つの」という意味なので、複数形はありません。
- ・「～でない」という否定の不定冠詞 **kein** は複数形があり、定冠詞と同じように変化します。例: keine, keiner, keinen, keine
- ・所有冠詞（mein, dein など）も複数形があり、定冠詞と同じように変化します。例: meine, meiner, meinen, meine

1-2-2. 複数の名詞の語尾変化

複数の名詞は、3 格の時のみ、名詞の語尾に **-n** をつけます。ただし、もともと語尾が -n や -s で終わる名詞にはつけません。

格	例: die Tage (日)	例: die Frauen (女性)	例: die Kinder (子供)	例: die Engel (天使)
1 格	die Tage	die Frauen	die Kinder	die Engel
2 格	der Tage	der Frauen	der Kinder	der Engel
3 格	den Tagen	den Frauen	den Kindern	den Engeln
4 格	die Tage	die Frauen	die Kinder	die Engel

ポイント:

- ・女性名詞の複数形は、ほとんどが -n または -en で終わるため、3 格でも語尾に -n を追加する必要はありません。
- ・無変化型の名詞（例: der Lehrer → die Lehrer）も、3 格では -n をつけます（den Lehrern）。

● 1-3. 名詞の性を見分ける手がかり —— 語尾から推測する

「名詞の性は覚えるしかない」と言われる。しかし実は、**語尾を見れば 8 割方わかる**。これを知っているかどうかで、学習の負担がまったく変わる。

女性名詞になる語尾

語尾	例	意味
-ung	die Erleuchtung、die Hoffnung	悟り、希望
-heit	die Wahrheit、die Freiheit	真理、自由
-keit	die Ewigkeit、die Dankbarkeit	永遠、感謝
-schaft	die Freundschaft	友情
-ion	die Reflexion、die Mission	反省、使命
-e (多く)	die Liebe、die Seele、die Lehre	愛、魂、教え

★ -heit / -keit は英語の -ness / -ty、-ung は英語の -tion / -ing にあたる。

つまり英語で *truth, freedom, enlightenment* と抽象名詞になる語は、ドイツ語ではたいてい**女性名詞**である。

中性名詞になる語尾

語尾	例	意味
-chen / -lein (縮小)	das Mädchen、das Büchlein	少女、小冊子
-um	das Zentrum、das Studium	中心、学業
-ment	das Element	要素
動詞の名詞化	das Leben、das Beten	生命、祈ること

★ 動詞をそのまま大文字にすると中性名詞になる。これは非常に便利である。

beten (祈る) → **das Beten** (祈ること) / *lernen* → **das Lernen** (学ぶこと)

男性名詞になる語尾

語尾	例	意味
-er (人・道具)	der Lehrer、der Spiegel	教師、鏡
-ling	der Jüngling	若者
-ismus	der Buddhismus	仏教
曜日・月・季節・方角	der Montag、der Sommer、der Osten	月曜、夏、東

★ 性が分かれば複数形もかなり読める。

女性名詞の多くは -(e)n (*die Lehre* → *die Lehren*)、男性・中性の多くは -e か -er (*der Weg* → *die Wege* / *das Kind* → *die Kinder*)。

ただし例外は必ずあるので、辞書で確認する習慣は手放さないこと。

2. 英語と比べる —— 英語の man / men はドイツ語そのもの

「複数形が 5 種類もある」と聞くと、英語の -s をつけるだけの気楽さが恋しくなります。しかし実は、**英語にも同じ 5 種類が残っていました**。英語はそれを捨て、ドイツ語は残した——それだけの違いです。

● ここが同じ！

- ・単数と複数を区別するという考え方は同じです。
- ・語尾を足して複数を作る発想も同じです（英 -s / -en、独 -e / -er / -en / -n / -s）。

● ここが違う！

観点	ドイツ語	英語
複数形の作り方	5 パターン＋ウムラウト	ほぼ -s に統一
複数の定冠詞	性を問わず die	the
複数の 3 格	名詞に -n を足す	変化なし
-s 型の位置づけ	外来語中心の少数派 (Autos, Hotels)	標準

ドイツ語では、性がばらばらだった名詞も、**複数になると冠詞が die に統一**されます。男性・女性・中性という区別が、複数形では消えるのです。ここは覚えやすいところです。

●英語に残っている「ドイツ語式複数形」

英語の不規則複数形は、暗記事項ではなくドイツ語と同じ仕組みの生き残りです。

英語	ドイツ語	仕組み
man → men	Mann → Männer	母音が変わる（ウムラウト）
foot → feet	Fuß → Füße	母音が変わる（ウムラウト）
mouse → mice	Maus → Mäuse	母音が変わる（ウムラウト）
tooth → teeth	Zahn → Zähne	母音が変わる（ウムラウト）
ox → oxen	Ochse → Ochsen	-en を足す
child → children	Kind → Kinder	-er を足す

英語の *man / men* は、ドイツ語の *Mann / Männer* とまったく同じ現象です。つまり英語話者は、ウムラウトによる複数形をすでに知っているのです。ただし英語では十数語しか残らず、ドイツ語では今も現役だ、という違いだけです。

★ウムラウトとは後ろに *i* の音が来ると、前の母音がそれに引っ張られて明るく変わる——という現象です。

Mann の複数形は昔 *manni* のような形で、この *i* が前の *a* を *ä* に変えました。

英語の *man* → *men* も、まったく同じ道をたどっています。

●★英語からの乗り換え注意

- ・ X 何にでも **-s** を付ける。→ ドイツ語の **-s** 型は *das Auto* → *die Autos* のような外来語が中心です。
- ・ X 複数 3 格の **-n** を忘れる。ドイツ語の複数形は、3 格になるともう一段変化します。*die Kinder*（子どもたち）→ *mit den Kindern*（子どもたちと）英語には対応する現象がまったくないので、意識的に練習してください。
- ・ 複数形は単語ごとに辞書で確認する必要があります。名詞は「**das Kind, -er**」のように、性・複数形をセットで覚えるのが結局いちばんの近道です。

●英語が見えてくる！

英語はなぜ複数形を **-s** に統一できたのでしょうか。

中世に、フランス語やノルド語を話す人々と混じり合うなかで、**通じやすさを優先して、いちばん多数派だった **-s** に寄せていった**からだと言われます。言語も、多くの人が交わる場所では簡素化するのです。

ドイツ語はその圧力が弱かったため、古い 5 パターンをそのまま抱えています。だから面倒でもあり、だからこそ**英語の *men* や *feet* の由来が見える**のです。

3. 真理の例文（Sätze der Wahrheit）

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「太陽」のたとえ（第2章・第3章に続く）を、複数形の主語・目的語として再登場させます。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳（参考）、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Die Sonne gibt den Menschen Licht. J4-1

太陽は人々に光を与えます。

〈英〉The sun gives light to people.

▷ *die Menschen* = *der Mensch*（人）の複数形。3 格は *den Menschen*（-n 型なので語尾変化なし）。

☆ これまで「神は太陽のように」と歌ってきた愛を、今度は複数の「人々」に広げます。太陽は一人だけでなく、すべての人に等しく光を注ぎます。

《太陽は、善人の上にも悪人の上にも、恵みの光を放っています。（中略）すべての人々に降り注ぎ——『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション④』第4章「光ある時を生きよ」》

2. Die Menschen suchen Glück. J4-2

人々は幸福を探します。

〈英〉People seek happiness.

▷ *die Menschen* = 複数 1 格。Glück は中性名詞で無冠詞で使うことが多い。

《人々の幸福——『祈りと希望』第2章》

3. Wir wünschen den Menschen Glück. J4-3

私たちは人々に幸福を願います。

〈英〉We wish people happiness.

▷ *wünschen* は「～に（3 格）～を（4 格）願う」。den *Menschen* = 複数 3 格。

《人々の幸福——『主なる神に弓を引いた男たち』終章》

4. Gott liebt alle Menschen. J4-4

神はすべての人々を愛します。

〈英〉God loves all people.

▷ *alle* = 「すべての」という形容詞。*Menschen* は複数 4 格。

《普遍的な愛——『太陽の法』》

5. Die Engel sind Boten Gottes. 24-5

天使たちは神の使者です。

〈英〉 Angels are messengers of God.

- ▷ die Engel = der Engel (天使) の複数形 (無変化型)。die Boten = der Bote (使者) の複数形。
《天使——『大川隆法霊言全集』第29巻 第2章》

6. Es gibt viele Engel. 24-6

多くの天使がいます。

〈英〉 There are many angels.

- ▷ es gibt + 4格 = 「～がある/いる」 (決まり文句)。viele (多くの) は複数形の名詞と共に使う。
《天使——『霊的世界のほんとうの話。』Part2 Chapter4》

7. Die Seelen lernen die Wahrheit. 24-7

魂たちは真理を学びます。

〈英〉 Souls learn the truth.

- ▷ die Seelen = die Seele (魂) の複数形 (-n 型)。
《魂の学習——『太陽の法』》

8. Wir helfen den Seelen. 24-8

私たちは魂たちを助けます。

〈英〉 We help souls.

- ▷ helfen (助ける) は3格支配の動詞。den Seelen = 複数3格 (-n 型なので語尾変化なし)。
《魂の救済——『永遠の法』第1章》

9. Die Engel haben Flügel. 24-9

天使たちは翼を持っています。

〈英〉 Angels have wings.

- ▷ die Flügel = der Flügel (翼) の複数形 (無変化型)。
《天使のイメージ——『大川隆法霊言全集』第29巻 第2章》

10. Viele Seelen kommen auf die Erde. 24-10

多くの魂が地球に来ます。

〈英〉 Many souls come to the earth.

- ▷ auf die Erde (地上へ) は今は決まり文句として覚える (前置詞は第6章で学習)。
《転生——『山本七平の新・日本人論』第8章》

11. Die Menschen brauchen Liebe. 24-11

人々は愛を必要とします。

〈英〉 People need love.

- ▷ brauchen (必要とする) は4格支配の動詞。die Liebe = 愛。
《愛の重要性——『幸福の原点』第1章》

12. Die Engel helfen den Menschen. 24-12

天使たちは人々を助けます。

〈英〉 Angels help people.

- ▷ den Menschen = 複数3格 (-n 型なので語尾変化なし)。
《天使の助け——『永遠の法』第1章》

13. Die Engel sind Helfer Gottes. 24-13

天使たちは神の助け手です。

〈英〉 Angels are helpers of God.

- ▷ die Helfer = der Helfer (助け手) の複数形 (無変化型)。
《天使の役割——『大川隆法霊言全集』第29巻 第2章》

◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— アリのように、ときにライオンのように

「私は、大多数の人々には、アリやハチのように勤勉に生きていただきたいと思います。幸福の科学の仏法真理に触れて目覚めた人に対しては、ときにライオンのようになっていただきたいと思います。ということがあるのです」
—— 《『仕事と愛』第6章「休日の効果」/3ベストコンディションで仕事をする》

14. Die Menschen arbeiten wie Ameisen und Bienen. 24-14

人々はアリやハチのように働きます。

〈英〉 People work like ants and bees.

- ▷ die Ameise → die Ameisen、die Biene → die Bienen (-n 型の複数)。複数形では、性に関係なく定冠詞が **die** に統一されます。

15. Aber manchmal werden die Menschen wie Löwen. 24-15

しかし人々は、ときにライオンのようになります。

〈英〉 But sometimes people become like lions.

- ▷ der Löwe → die Löwen。並列接続詞 *aber* は語順に影響しません (英語の *but* と同じ)。

16. Gott gibt den Menschen Mut. 24-16

神は人々に勇気を与えます。

(英) God gives people courage.

▷ *den Menschen* は**複数3格**。複数3格では名詞にも **-n** が付きます。英語にはまったく対応する現象がないので、意識して練習してください。

★公式ドイツ語版では『秘密の法』のドイツ語版に „**Löwen stehen zum Beispiel für Mut.**“

(たとえばライオンは勇気を表します) という一文があります。

Löwen が複数形、*für Mut* は4格支配の前置詞句です。

◆心に刻むたとえ (Gleichnis) —— タマネギのような魂

「人間の魂の構造はタマネギ状になっており、そのタマネギ型の構造の中心部分には、大宇宙の仏へと通じていく部分があるのです」

——《『幸福への道標』第二部 第4章「スランプ克服法」／4 苦境からの脱出》

「私が見ると、ちょうどタマネギのように見えます。中心があって、そのまわりを何層にも巻いているわけです」

——《『真理の発見』3「心の構造と本体・分身理論」／1心の構造／心の奥は無限》

17. Die Seele hat viele Schichten wie eine Zwiebel. 14-17

魂は、タマネギのように多くの層を持っています。

(英) The soul has many layers like an onion.

▷ *die Schicht* → *die Schichten* (-en 型)、*die Zwiebel* → *die Zwiebeln* (-n 型)。*viele* (多くの) は、英語の *many* と同じく**複数形と組み合わせて**使います。

☆ 外側の皮をむいていくと、中心に近づきます。反省とは、この皮むきのようなものです。

18. Die Seele hat eine Mitte, und die Mitte ist Licht. 14-18

魂には中心があり、その中心は光です。

(英) The soul has a center, and the center is light.

▷ *eine Mitte* は女性名詞の4格(単数)。1文のなかに**単数**(*eine Mitte*)と**複数**(前の文の *viele Schichten*) が並ぶと、**-e**の有無が見分けやすくなります。

☆ 中心の部分は、大宇宙の仏へと通じています。だから、どんなに外側の層が曇っていても、奥には必ず光がある——これが、このたとえがいちばん言いたいことです。

★公式ドイツ語版では公式の用語集(『頻出度順ドイツ語 仏法真理用語 700選』)に、まさにこのたとえが載っています。

„**Die Seele ist vergleichbar mit einer Zwiebel – mit anderen Worten, sie hat eine vielschichtige Struktur und ist in ihrem Kern direkt mit dem kosmischen Gott verbunden.**“

(魂はタマネギにたとえられる——言い換えれば多層の構造を持ち、その核において大宇宙の神と直接つながっている)

vielschichtig (多層の) は *viel* + *Schicht* + *-ig*。この章の複数形 *Schichten* がそのまま形容詞になっています。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語 (単数形)	性	複数形	意味
die Seele	女	die Seelen	魂
die Schicht	女	die Schichten	層
die Zwiebel	女	die Zwiebeln	タマネギ
die Mitte	女	die Mitten	中心、真ん中
der Mensch	男	die Menschen	人間(複数で「人々」)
wünschen	動		願う
das Glück	中	(なし)	幸福
der Engel	男	die Engel	天使
der Bote	男	die Boten	使者
die Seele	女	die Seelen	魂
der Flügel	男	die Flügel	翼
der Helfer	男	die Helfer	助け手
die Erde	女	(なし)	地球
die Wahrheit	女	(なし)	真理
die Liebe	女	(なし)	愛
suchen	動		探す
geben	動		与える
helfen	動		助ける
lieben	動		愛する
kommen	動		来る
sehen	動		見る
brauchen	動		必要とする
viele	形		多くの
alle	形		すべての
wichtig	形		重要な
die Ameise, -n	女	アリ	
die Biene, -n	女	ミツバチ	
der Löwe, -n	男	ライオン	
manchmal	副	ときどき	

5. 練習問題（独検4級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を1つ選びなさい。

- (1) Die () suchen Glück.
1 Mensch 2 Mensche 3 Menschen 4 Menschem
- (2) Wir helfen () Seelen.
1 die 2 der 3 den 4 das
- (3) Es gibt viele ().
1 Engel 2 Engeln 3 Engels 4 Engele
- (4) Wir sehen die () nicht.
1 Engel 2 Engeln 3 Engels 4 Engele
- (5) Gott liebt () Menschen.
1 alle 2 aller 3 allem 4 allen

● B. () の語を正しい形にして下線部に入れなさい。

- (1) Die _____ lernen die Wahrheit. (Seele) (2) Wir wünschen den _____ Glück. (Mensch) (3) Die Engel helfen den _____. (Mensch) (4) Die Engel haben _____. (Flügel) (5) Viele _____ kommen auf die Erde. (Seele)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) suchen / Glück / die Menschen → 「人々は幸福を探します」 (2) die Engel / sind / Boten Gottes → 「天使たちは神の使者です」 (3) den Seelen / wir / helfen → 「私たちは魂たちを助けます」 J4-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X *die Mensch*s (英語の -s を付けた) → (2) X *Wir helfen den Kinder*. (複数3格の -n を落とした) → (3) X *die Bookes* (本の複数形) → (4) 英語の *man / men*、*foot / feet* に対応するドイツ語を書きなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) Die Menschen arbeiten wie _____ und _____. (アリやハチのように働きます) (2) Aber manchmal werden die Menschen wie _____. (ときにライオンようになります) (3) Gott gibt _____ Menschen Mut. (神は人々に勇気を与えます)

● 解答

- A: (1) 3 (2) 3 (3) 1 (4) 1 (5) 1 B: (1) Seelen (2) Menschen (3) Menschen (4) Flügel (5) Seelen C: (1) Die Menschen suchen Glück.
(2) Die Engel sind Boten Gottes.
(3) Wir helfen den Seelen. D: (1) die Menschen (2) Wir helfen den Kindern. (3) die Bücher
(4) Mann / Männer, Fuß / Füße (いずれもウムラウトによる複数形) E: (1) Ameisen / Bienen (2) Löwen (3) den

6. 法話メモ —— 太陽と、人々を救う「天使」の存在

大川隆法総裁の講演には、「太陽は、善人の上にも悪人の上にも、恵みの光を放っています。また……すべての人々に降り注ぎ」という一節があります。第2章・第3章で一人（神）から学んだ「太陽のたとえ」が、この章では複数形の主語・目的語（den Menschen＝人々に、alle Menschen＝すべての人々を）となって、より大きなスケールで広がります。

Die Sonne gibt den Menschen Licht. Gott liebt alle Menschen.

もう一つのテーマが「天使」です。『永遠の法』第1章や『霊的世界のほんとうの話。』Part2 Chapter4などで、大川隆法総裁は「天使」の存在について詳しく説かれています。現代の常識では信じられにくいかもしれませんが、天使は実際に存在し、地上を去ったばかりの人々を救ったり、人類の文明発展に貢献したりするなど、多岐にわたる活動をしています。

この章の例文では、そうした「太陽」「天使たち」「多くの魂」、そして「人々の幸福」というテーマを扱いました。目に見えない存在の働きに思いを馳せ、多くの人々が幸福になることを願う心は、私たち自身の魂を成長させることにもつながります。

Die Engel helfen den Menschen.

コラム ドイツの音楽家が語る菩薩界 —— 教え合う世界

この章で **die Engel**（天使たち）という複数形を学んだ。では、天使や菩薩は、あの世でどのように過ごしているのだろうか。

ボンに生まれ、ウィーンで活躍した作曲家ベートーベン（Ludwig van Beethoven, 1770–1827）は、霊言のなかで、自らの住む菩薩界の様子をこう語っている。

私たちは音楽について非常に造詣が深いわけです。ですから、菩薩界の他の方々も、たまに音楽を教わりに来るのです。
《『大川隆法霊言全集』第39巻／第1章 苦悩を乗り越えて生きる／9 菩薩界は互いに学び合う世界》

そのかわり、あとでは私たちが出かけていって、新しい宗教の先端的な教えを乞うたり、あるいは、科学者のグループのところへ行って、科学的なことを学んだりしています。

《『大川隆法霊言全集』第39巻／9 菩薩界は互いに学び合う世界》

自分が長じているところは先生となり、足らざるところは生徒となって、教え合い、お互いに交流しているのです。

《『大川隆法霊言全集』第39巻／9 菩薩界は互いに学び合う世界》

どんな世界なのかと問われて、ペーターベンはこう答えている。

村があるようなものだと思います。音楽村があり、芸術村があり、また、文学村があり、哲学村があり、政治村があり、科学村がある。

《『大川隆法霊言全集』第39巻／9 菩薩界は互いに学び合う世界》

ドイツ語で言えば、こうなる。

Im Bodhisattva-Reich lehren und lernen alle voneinander.

菩薩界では、みなが互いに教え、学び合っています。

Wo ich stark bin, bin ich Lehrer. Wo ich schwach bin, bin ich Schüler.

自分の強いところでは先生になり、弱いところでは生徒になります。

★これは、教室の話でもある。

発音が得意な人、格変化が得意な人、話すのが得意な人——同じ教室のなかで違う。

得意なところでは先生になり、苦手なところでは生徒になる。

菩薩界のやり方は、来週の授業から始められる。

第5章 冠詞類 【4級】

【第10回・第11回（前期）】 この章は2回に分けて学ぶ。
 同じ週の次の時間の**会話**は 第10回「この本、この教え」／第11回「私の使命、あなたの幸福」
 [独検4級レベル]

この章の到達目標

1. 指示冠詞 **dieser**、疑問冠詞 **welcher**、不定冠詞 **jeder** の格変化を理解し、正しく使える
2. 所有冠詞と否定冠詞 **kein** の格変化を理解し、正しく使える
3. 「木の根」のたとえを通して、「この世とあの世」「各人の使命」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. **dieser** 「この～」と **welcher** 「どの～」

dieser は「この～」、**welcher** は「どの～」という意味で、名詞の前に置いて使います。これらは**定冠詞**と同じ**語尾変化**をします。

例:

- ・ **dieser** Mann (この男)
- ・ **welche** Frau (どの女性)

格	男性 (der)	女性 (die)	中性 (das)	複数 (die)
1 格	dieser	diese	dieses	diese
2 格	dieses	dieser	dieses	dieser
3 格	diesem	dieser	diesem	diesen
4 格	diesen	diese	dieses	diese

● 1-2. **jeder** 「どの～も、あらゆる～」

jeder は「どの～も、あらゆる～」という意味で、名詞の前に置いて使います。これも**定冠詞**と同じ**語尾変化**をしますが、**複数形はありません**（「あらゆる～」は単数で表現するため）。

例:

- ・ **jeder** Mensch (あらゆる人間)
- ・ **jedes** Kind (あらゆる子供)

格	男性 (der)	女性 (die)	中性 (das)
1 格	jeder	jede	jedes
2 格	jedes	jeder	jedes
3 格	jedem	jeder	jedem
4 格	jeden	jede	jedes

★ここまでが**第10回**。以下は同じ章の続きで、第11回に学ぶ。

● 1-3. 所有冠詞 (**mein, dein, sein, ihr, unser, euer, ihr, Ihr**)

所有冠詞は「私の～」「君の～」のように、誰かの所有を表すときに名詞の前に置いて使います。これらは**不定冠詞**と同じ**語尾変化**をします。

例:

- ・ **mein** Buch (私の本)
- ・ **deine** Aufgabe (君の使命)

mein (私の) の格変化の例:

格	男性 (ein)	女性 (eine)	中性 (ein)	複数 (keine)
1 格	mein	meine	mein	meine
2 格	meines	meiner	meines	meiner
3 格	meinem	meiner	meinem	meinen
4 格	meinen	meine	mein	meine

他の所有冠詞も同様に変化します。

- ・ **dein** (君の)
- ・ **sein** (彼の／そのの)

- ・ **ihr** (彼女の／それらの)
 - ・ **unser** (私たちの)
 - ・ **euer** (君たちの)
 - ・ **ihr** (彼らの／彼女らの)
 - ・ **Ihr** (あなたの)
- ▷ **euer** は変化する際に語幹の e が落ちることがあります (例: euer → eure)。

● 1-4. 否定冠詞 **kein** 「～ない」

否定冠詞 **kein** は「～ない」という意味で、名詞を否定する際に名詞の前に置いて使います。これも**不定冠詞**と同じ語尾変化をします。

例:

- ・ **kein** Problem (問題ない)
- ・ **keine** Angst (恐れなし)

格	男性 (ein)	女性 (eine)	中性 (ein)	複数 (keine)
1 格	kein	keine	kein	keine
2 格	keines	keiner	keines	keiner
3 格	keinem	keiner	keinem	keinen
4 格	keinen	keine	kein	keine

● 1-5. **nicht** と **kein** —— 否定の作り分けと、**nicht** を置く位置

ドイツ語の否定には **nicht** と **kein** の2つがある。使い分けは単純である。

どちらを使うか

否定するもの	使う語	例
不定冠詞つきの名詞、または無冠詞の名詞	kein	Ich habe keine Zeit. (時間がない)
それ以外すべて (動詞・形容詞・副詞・定冠詞つきの名詞)	nicht	Ich lerne nicht . (学ばない)

- ・ X Ich habe **nicht** eine Zeit. → O Ich habe **keine** Zeit.
 - ・ O Ich lerne die Lehre **nicht**. (定冠詞つきなので **nicht**)
- ★ 英語の *not a book* が **kein** Buch、*I do not learn* が Ich lerne **nicht** にあたる。
英語では両方 *not* で済むので、ここは意識して切り替える。

nicht をどこに置くか —— これが本題

nicht の位置は、何を否定するかで決まる。

① 文全体を否定するとき ... **nicht** は「なるべく後ろ」

Ich lerne die Lehre heute **nicht**. 私は今日、その教を学びません。

ただし、文末に置かれる要素の直前で止まる。ドイツ語では文末が指定席の要素があるからだ。

文末の指定席にあるもの	例
粹構造の本動詞	Ich kann nicht kommen. (来られない)
過去分詞	Ich habe nicht gelernt. (学ばなかった)
分離動詞の前つづり	Ich stehe nicht auf. (起きない)
述語になる形容詞・名詞	Er ist nicht stark. (強くない)
方向を表す語句	Ich gehe nicht in den Tempel. (支部へ行かない)

- ★ つまり **nicht** は「文末の住人の、すぐ手前」に立つ。
「なるべく後ろ、ただし文末の指定席の前」——この一言で位置は決まる。

② 特定の語だけを否定するとき その語の直前

Nicht ich lerne die Lehre, sondern **er**.

その教を学ぶのは私ではなく、彼です。

Ich lerne nicht die Lehre, sondern die Sprache.

私が学ぶのは教ではなく、言語です。

- ★ このとき **sondern** (～ではなく.....だ) とセットで使うことが多い。
英語の *not A but B* にあたる。*aber* ではなく **sondern** である点に注意。

● 1-6. 定冠詞と不定冠詞 —— 付ける・付けてはいけない・付けなくてはならない

冠詞類の章の最後に、定冠詞 (der / die / das) と不定冠詞 (ein / eine) をいつ付け、いつ付けないかをまとめておく。英語の the / a と重なる部分は多いが、**ずれる場所が決まっている**。そこだけ覚えればよい。

定冠詞 der / die / das

場合	例	英語との違い
付ける：前に出た・特定のもの	<i>Ich habe einen Meister. Der Meister lehrt die Wahrheit.</i> (初出は ein、二度目は der)	英語と同じ
付ける：唯一のもの	<i>die Sonne, die Welt, die Erde</i>	英語と同じ (the sun)
付けなくてはならない：抽象名詞で「～というもの」を言う	<i>Die Liebe ist die stärkste Kraft. / Das Leben ist eine Schule.</i>	英語は 無冠詞 (Love is ... / Life is ...)。ここが最大のずれ。英語の頭で <i>Liebe ist ...</i> と言わないこと
付けなくてはならない：序数・最上級	<i>der erste Schritt, die höchste Wahrheit</i>	英語と同じ (the first)
付けなくてはならない：曜日・月・季節・方角 (前置詞と)	<i>am Sonntag, im Sommer, im Osten</i>	英語は <i>on Sunday, in summer</i> (無冠詞)。ドイツ語は融合形で定冠詞が入る
付ける：一部の国名	<i>die Schweiz, die Türkei, die USA</i>	英語も <i>the USA</i> 。ただし <i>Japan, Deutschland</i> は無冠詞
付けてはいけない：固有名・神名	<i>Gott ist Liebe. / Buddha erleuchtete ... / El Cantare</i>	英語と同じ。唯一神は 無冠詞 (<i>der Gott</i> と言うと「多くの神々の中の」その神になる)
付けてはいけない：職業・国籍・身分を述語にする	<i>Ich bin Lehrer. / Ich bin Japaner. / Ich bin Devotee.</i>	英語は <i>a teacher</i> 。ドイツ語は無冠詞。形容詞が付くときだけ <i>Ich bin ein guter Lehrer</i> 。
付けてはいけない：決まり文句	<i>zu Hause (家で), nach Hause (家へ), Glück haben, Angst haben, Deutsch lernen</i>	英語の <i>at home / go home</i> と同じ無冠詞
付けない：無冠詞の前置詞句・固定名称	<i>das Gesetz von Ursache und Wirkung (因果の理法)</i>	付録 9 §4。冠詞がないから <i>von</i>

不定冠詞 ein / eine

場合	例	英語との違い
付ける：初めて出す・不特定の一つ	<i>Ich habe einen Meister. / Es gibt einen Tempel in Berlin.</i>	英語と同じ (a)
付けなくてはならない：「～のような」の比喩	<i>Das Herz ist wie ein Magnet. / Das Leben ist eine Schule.</i>	英語と同じ (<i>like a magnet</i>)。本書の「たとえ」はほぼこの形
付けなくてはならない：形容詞を伴う述語	<i>Er ist ein guter Mensch.</i>	英語と同じ (<i>a good man</i>)
付けてはいけない：複数形	<i>Wir sind Kinder Gottes. (X eine Kinder)</i>	ein に複数はない。否定なら keine (<i>keine Kinder</i>)
付けてはいけない：数えられない名詞	<i>Gott gibt Liebe. / Wir brauchen Zeit. / Wir sehen Licht.</i>	英語と同じ (<i>love / time / light</i> に a は付かない)
付けてはいけない：職業・国籍・身分の述語	<i>Ich bin Lehrer.</i>	英語とのずれ (<i>I am a teacher</i>)。上の表と同じ規則
付けてはいけない：固有名	<i>Gott, Buddha, Japan</i>	英語と同じ

★覚え方

英語とずれるのは三つだけ。①抽象名詞は**定冠詞** (*die Liebe*)、②職業・国籍は**無冠詞** (*Ich bin Lehrer*)、③曜日・季節は**融合形** (*am Sonntag*)。

あとは英語の the / a の感覚でよい。唯一神は**無冠詞** (*Gott*) —— これは本書全体の約束である (第3章)。

2. 英語と比べる —— 意味は同じ、変わるの「形が動くかどうか」

この章に出てきた語は、**すべて英語に対応語があります**。意味の面で新しく覚えることはほとんどありません。違うのはただ一点、ドイツ語ではそれらが**格変化**することだけです。

● ここが同じ！

ドイツ語	英語	意味
dieser	this / that	この、その
welcher	which	どの
jeder	every / each	どの～も
mein / dein / sein / ihr	my / your / his / her	私の、君の、彼の、彼女の
kein	no (+名詞)	ひとつも～ない

・「否定は名詞側で行う」という発想も、実は英語と同じです。 *I have no time. / Ich habe keine Zeit.* 英語話者が *I don't have time* だけでなく *I have no time* とも言えるのは、ドイツ語の **kein** とまったく同じ感覚を持っているからです。

●ここが違う！

観点	ドイツ語	英語
所有を表す語	mein / meine / meinen / meinem ... と変化	my のまま不変
this の複数	dieser → diese (形が変わる)	this → these (別語になる)
変化の型	ein 型 と der 型 の2系統	なし

英語の *my* は、*my father, my mother, my books* のどこでも *my* のままです。ドイツ語では **mein Vater / meine Mutter / meine Bücher** と、後ろの名詞の性・数・格に合わせて形が変わります。

つまり**覚える意味は0個、覚える形は多い**——これがこの章の性格です。

●★英語からの乗り換え注意

- ・ *X mein Mutter* → **meine Mutter** (Mutter は女性名詞)
- ・ *X Ich habe mein Meister.* → **Ich habe meinen Meister.** (4格・男性は -en)
- ・ *X nicht ein Buch* → **kein Buch** 英語の *not a book* をそのまま訳したくなりますが、ドイツ語では **kein** を使うのが原則です。
- ・ **所有冠詞と定冠詞の使い分け**にも注意してください。ドイツ語では体の部分などに定冠詞を使うことがあります (*Ich wasche mir die Hände.*)、英語の *I wash my hands.* とずれます。

●英語が見えてくる！

英語の **no** (+名詞) と、ドイツ語の **kein** は、実は**同じ作り方**をした語です。

- ・ 英語 *none* = **ne** (〜でない) + **one** (ひとつ) → 縮まって *no*
- ・ ドイツ語 *kein* = **ne** (〜でない) + **ein** (ひとつ) → 縮まって *kein*

どちらも「**ひとつも〜ない**」を、否定語と「1」をくっつけて作ったのです。英語で *I have no idea.* と言えるあなたは、**Ich habe keine Ahnung.** の発想を、すでに完全に理解しています。

同じように、英語の *never* も **ne + ever** (かつて〜ない) です。否定語 *ne* を前にくっつけるこのやり方は、ゲルマン語に共通する古い癖なのです。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「木の根」のたとえ(第2章の「木」に続く)を中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字=ドイツ語文、次の行=日本語訳、〈英〉=英語訳(参考)、▷=文法ポイント、☆=ニュアンス解説、《》=題材とした教えの出典。

※ *in / aus / für / vor* などの前置詞は、この章では決まり文句として使います(詳しくは第6章)。

1. Jede Mission ist wie eine Wurzel. J5-1

あらゆる使命は根のようなものです。

〈英〉 Every mission is like a root.

▷ jede Mission は女性名詞 die Mission の1格。wie + 名詞句で比較。

☆ 使命とは、自分のためだけにあるものではありません。木の根と同じで、吸い上げた養分を自分にとどめず、木全体のために送り出すものです。

2. Die Wurzel gibt dem Baum Kraft. J5-2

根は木に力を与えます。

〈英〉 The root gives the tree strength.

▷ Wurzel は女性名詞(1格)。Baum は男性名詞。geben は「〜に(3格)〜を(4格)与える」。dem Baum は3格: der → dem。

☆ 第2章の「木」、第3章の「力」という、これまでのたとえがここでつながります。

《ちょうど、樹の根っこが水分・養分を吸い上げて、そして、押し上げていくように、一時期、私たちのなかにとどまっているようには見えないけれども……それは、より高次なもののために奉仕していくものなのだ——『人生の王道を語る』第5章「人間完成への道」》

3. Jeder Mensch hat eine Mission. JP-3

あらゆる人間は使命を持っています。

〈英〉 Every human being has a mission.

▷ jeder Mensch は男性名詞 der Mensch の1格。

《人生の使命——『エル・カンターレ人生の疑問・悩みに答える 人生をどう生きるか』1章》

4. Meine Mission ist sehr wichtig. J5-4

私の使命はとても重要です。

〈英〉 My mission is very important.

▷ meine Mission は女性名詞 die Mission の1格。

《われらが今生の使命——『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション③』2章》

5. Welche Mission hast du? ♪5-5

あなたはどのような使命を持っていますか？

〈英〉What mission do you have?

▷ welche Mission は女性名詞 die Mission の4格。

《人生の使命——『徳ある人への第一歩』2部》

6. Diese Welt und jene Welt sind verbunden. ♪5-6

この世とあの世は繋がっています。

〈英〉This world and that world are connected.

▷ jener (あの～) は dieser と同じ変化をする冠詞類。diese Welt = この世、jene Welt = あの世。

《この世とあの世は共存している——『信仰者のなぐさめ』4章》

7. Wir leben in dieser Welt. ♪5-7

私たちはこの世に生きています。

〈英〉We live in this world.

▷ in + 3格。dieser Welt は女性名詞 die Welt の3格。

《この世とあの世は共存している——『霊界散歩』2章》

8. Unsere Seele kommt aus jener Welt. ♪5-8

私たちの魂はあの世から来ます。

〈英〉Our soul comes from that world.

▷ aus + 3格。jener Welt は女性名詞 die Welt の3格。

《この世とあの世は共存している——『他力信仰について考える』7章》

9. Wir haben keine Angst vor dem Tod. ♪5-9

私たちは死を恐れませんが。

〈英〉We have no fear of death.

▷ keine Angst は女性名詞 die Angst の4格。vor dem Tod は「死の前に」で「死を恐れる」の意。

《死後の生活——『霊界散歩』2章》

10. Dieses Leben ist eine Schule für unsere Seele. ♪5-10

この人生は私たちの魂にとっての学校です。

〈英〉This life is a school for our soul.

▷ dieses Leben は中性名詞 das Leben の1格。für + 4格。

《人生は魂を鍛える学校——『人生の王道を語る』》

11. Dein Leben ist deine Mission. ♪5-11

あなたの人生はあなたの使命です。

〈英〉Your life is your mission.

▷ dein Leben は中性名詞 das Leben の1格。deine Mission は女性名詞 die Mission の1格。

《人生の使命——『徳ある人への第一歩』2部》

12. Jede Seele hat ihre Aufgabe. ♪5-12

あらゆる魂にはその課題があります。

〈英〉Every soul has its task.

▷ jede Seele は女性名詞 die Seele の1格。ihre Aufgabe は女性名詞 die Aufgabe の4格。

《神の使命の自己展開——『悟りの極致とは何か』1章》

◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— 反省は「添え木」である

「反省とは、木が曲がってゆかないようにするための添え木のようなものです」

——《『悟りの発見』第2章「八正道の再発見」／1反省とは何か／②調整の原理》

13. Die Selbstreflexion ist wie ein Stab für einen Baum. ♪5-13

反省は、木にとっての添え木のようなものです。

〈英〉Self-reflection is like a stake for a tree.

▷ für は4格支配なので einen Baum (男性4格)。

☆ 添え木は木を縛るためではなく、まっすぐ天に伸びるためにあります。反省も、自分を責めるためではなく、まっすぐ育つためのものです。

14. Kein Baum wächst gerade ohne Stab. ♪5-14

添え木なしにまっすぐ育つ木はありません。

〈英〉No tree grows straight without a stake.

▷ 否定冠詞 **kein**。英語の *no tree* とまったく同じ発想です。wachsen は a → ä 型なので、3人称単数は wächst。

15. Jeder Mensch braucht seine Selbstreflexion. ♪5-15

どの人にも自分の反省が必要です。

〈英〉Every person needs his own self-reflection.

▷ jeder (der型) と所有冠詞 seine (ein型) が1文に同居しています。die Selbstreflexion は女性名詞の4格なので seine。

◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— 手のひらと五本の指

「手のひらがあって指が五本ありますが、この『手』が自分自身だとして、手のひらの部分が本体だとしたら、親指、人差し指、中指、薬指、小指というように、少しだけ性質の違った魂のきょうだいがいて、こういうものが順番にこの世に生まれ変わってくるという感じでしょうか」

——《『悟りを開く』第2章「悟りを開く②」／1魂と転生輪廻の真実》

16. Die Seelengeschwister sind wie eine Hand: eine Handfläche und fünf Finger. 15-16

魂のきょうだいは、一つの手のようなものです。一つの手のひらと、五本の指。

(英) Soul siblings are like a hand: one palm and five fingers.

▷ die Seelengeschwister は複数形だけで使う語 (公式訳)。eine Hand は女性1格。der Finger は単数も複数も同じ形 (-型) のので、fünf Finger で複数です。

17. Jeder Finger ist anders und hat seine Aufgabe. 15-17

どの指も違っていて、それぞれの役目があります。

(英) Every finger is different and has its own task.

▷ jeder (der 型) は単数扱い。だから動詞は ist / hat。所有冠詞 seine は der Finger (男性) を受けて「その」。英語の its にあたります。

18. Die Handfläche ist die Hauptseele, und die fünf Finger sind die Teilseelen. 15-18

手のひらが本体で、五本の指が分身です。

(英) The palm is the main soul, and the five fingers are the branch souls.

▷ sein の前後はどちらも 1 格 (A ist B)。die Hauptseele (本体) ・ die Teilseelen (分身) は『黄金の法』公式ドイツ語版の語です。

☆ 指は別々に動きますが、一つの手です。魂のきょうだいも、地上では別の人生を生きながら、もともと一つなのです。どの指も、手の仕事のために要ります——だから「自分だけで独立している」とは思わないこと。

★公式ドイツ語版では『黄金の法』のドイツ語版に „Der spirituelle Körper besteht aus einer Hauptseele und 5 Teilseelen, welche untereinander als Geschwisterseelen bezeichnet werden.“

(霊体は一つの本体と五つの分身から成り、互いに魂のきょうだいと呼ばれる) とあります。

aus は 3 格支配 (第6章) なので einer Hauptseele. 5 Teilseelen は複数 3 格ですが、数詞のあとの -n 型複数はそのまま (Teilseelen) です。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味
die Seelengeschwister	複	魂のきょうだい (複数形のみ)
die Hauptseele	女	本体 (魂の)
die Teilseele	女	分身 (魂の)
die Hand	女	手
die Handfläche	女	手のひら
der Finger	男	指
die Aufgabe	女	役目、課題
anders	副	違って、別の
dieser	冠	この～
jener	冠	あの～
welcher	冠	どの～
jeder	冠	どの～も、あらゆる～
mein	冠	私の～
dein	冠	君の～
sein	冠	彼の～、その～
ihr	冠	彼女の～、彼らの～、それらの～
unser	冠	私たちの～
euer	冠	君たちの～
Ihr	冠	あなたの～
kein	冠	～ない
die Welt	女	世界、世
die Wurzel	女	根
die Kraft	女	力
die Seele	女	魂
die Mission	女	使命
die Aufgabe	女	課題、任務
die Angst	女	恐れ、不安
der Tod	男	死
die Lehre	女	教え、教義
die Zeit	女	時間
verbunden	形	結びついた、繋がった
wichtig	形	重要な
sehr	副	とても
für	前	～のために (4 格支配)

ドイツ語	性	意味
aus	前	～から（3格支配）
in	前	～の中に（3格/4格支配）
vor	前	～の前に（3格/4格支配）
der Stab, -e	男	棒、添え木
gerade	副	まっすぐに

5. 練習問題（独検4級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を1つ選びなさい。

- (1) () Mensch hat eine Mission.
1 Dieser 2 Jede 3 Jeder 4 Jedes
(2) Ich habe () Angst vor dem Tod.
1 kein 2 keine 3 keinem 4 keinen
(3) () Leben ist eine Schule.
1 Dieser 2 Diese 3 Dieses 4 Diesem
(4) () Mission ist wichtig.
1 Dein 2 Deine 3 Deinem 4 Deinen
(5) In () Welt leben wir.
1 dieser 2 diese 3 dieses 4 diesem
(6) () Mission ist wie eine Wurzel.
1 Jeder 2 Jede 3 Jedes 4 Jeden

● B. () 内の指示に従って下線部を正しい形にして入れなさい。

- (1) _____ Seele kommt aus jener Welt. (unser の1格) (2) Er hat _____ Aufgabe. (kein の4格) (3) _____ Lehre ist die Wahrheit. (dieser の1格) (4) Wir haben _____ Zeit. (kein の4格) (5) _____ Welt und jene Welt sind verbunden. (dieser の1格) (6) Die Wurzel gibt _____ Kraft. (der Baum の3格)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) du / welche / hast / Mission / ? → 「あなたはどのような使命を持っていますか」 (2) ist / meine / wichtig / Mission / sehr → 「私の使命はとても重要です」 (3) Leben / deine / ist / dein / Mission → 「あなたの人生はあなたの使命です」 (4) die Wurzel / Kraft / gibt / dem Baum → 「根は木に力を与えます」 ♪5-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X *mein Mutter* (英語の *my* のつもりで無変化にした) → (2) X *Ich habe mein Meister*. (4格にしていない) → (3) X *Ich habe nicht ein Buch*. (*not a book* の直訳) → (4) 英語の *no* (+名詞) とドイツ語の *kein* が同じ作り方であることを、語の成り立ちで説明しなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) Die Selbstreflexion ist wie ein _____ für einen Baum. (反省は木の添え木のようなもの) (2) _____ Baum wächst gerade ohne Stab. (添え木なしにまっすぐ育つ木はありません) (3) _____ Mensch braucht seine Selbstreflexion. (どの人にも自分の反省が必要です)

● 解答

A: (1) 3 (2) 2 (3) 3 (4) 2 (5) 1 (6) 2 B: (1) Unsere (2) keine (3) Diese (4) keine (5) Diese (6) dem Baum C: (1) Welche Mission hast du?

(2) Meine Mission ist sehr wichtig.

(3) Dein Leben ist deine Mission.

(4) Die Wurzel gibt dem Baum Kraft. D: (1) meine Mutter (2) Ich habe meinen Meister. (3) Ich habe kein Buch.

(4) 英 *none* = *ne* (～でない) + *one* (ひとつ)、独 *kein* = *ne* + *ein*。

どちらも「ひとつも～ない」を否定語と「1」から作っている。E: (1) Stab (2) Kein (3) Jeder

6. 法話メモ —— 木の根のような使命

『人生の王道を語る』第5章「人間完成への道」で、大川隆法総裁は「使命」のあり方を、木の根にたとえて説かれています。「真の使命において、みずからが益されることはない……それはちょうど、樹の根っこが、水分・養分を吸い上げ、そして幹へと押し上げていくように、一時期、自分のなかに留まっているように見えても、そのように見えるだけであって、それは、より高次なもののために奉仕していくものなのだ」。

木の根は、吸い上げた水や栄養を自分のためにため込みません。幹へ、枝へ、葉へと押し上げていきます。使命も同じで、自分一人の利益のためではなく、より大きな全体のために働くものなのです。

Jede Mission ist wie eine Wurzel. Die Wurzel gibt dem Baum Kraft.

もう一つのテーマが「この世とあの世」です。大川隆法総裁は、幸福の科学の基本的な考え方として「この世とあの世を貫く幸福」を非常に強く説かれています。この世での幸福だけでなく、あの世での幸福も視野に入れ、両方を貫く生き方を追求することの重要性を示しています。

この章で学んだ冠詞類を使って、「使命」や「この世とあの世」に関する真理をドイツ語で表現してみましょう。

Jeder Mensch hat eine Mission in dieser Welt und jener Welt.

◆ 学びのことは

「ここまでついて来た方はそうとうの根性の持ち主だ。努力賞である」

《『黒帯英語三段⑨』まえがき》

対策学習編 2 不規則変化動詞・複合的な疑問詞 【4 級】

【第 12 回（前期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第 12 回「相手の変化に寄り添う」

〔独検 4 級レベル〕

この章の到達目標

1. 動詞の母音変化（a→ä 型/e→i 型）を理解し、正しく変化させられる
2. 動詞 werden の人称変化と「～になる」という意味を理解する
3. wie viel と was für ein の使い方を理解し、疑問文を作る
4. 「学校」のたとえ（第 2 章に続く）を通して、「人生の目的」「何のために生きるか」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 不規則変化動詞（Starke Verben）の母音変化

ドイツ語の動詞には、規則変化する動詞の他に、**du** と **er/sie/es** の人称で語幹の母音が変わる「不規則変化動詞」があります。その多くは、三基本形（準備編）でも母音が変わる「強変化動詞」の仲間です。

(1) a → ä 型

語幹の **a** が **ä** に変わります。

fahren（乗って行く、運転する）を例に：

人称	単数	人称	複数
ich	fahre	wir	fahren
du	fährst	ihr	fahrt
er/sie/es	fährt	sie/Sie	fahren

※ 母音が変わるのは **du** と **er/sie/es** だけ。複数と ich は規則どおり。

主な **a → ä 型動詞**：

- ・ **fahren**（乗って行く、運転する）
- ・ **schlafen**（眠る）
- ・ **tragen**（運ぶ、身につける）
- ・ **waschen**（洗う）

(2) e → i 型

語幹の **e** が **i** に変わります。

sprechen（話す）を例に：

人称	単数	人称	複数
ich	spreche	wir	sprechen
du	sprichst	ihr	sprecht
er/sie/es	spricht	sie/Sie	sprechen

主な **e → i 型動詞**：

- ・ **essen**（食べる）→ du isst, er isst
 - ・ **geben**（与える）→ du gibst, er gibt
 - ・ **helfen**（助ける）→ du hilfst, er hilft
 - ・ **nehmen**（取る）→ du nimmst, er nimmt（特殊）
 - ・ **sprechen**（話す）→ du sprichst, er spricht
- ※ **lesen**（読む）と **sehen**（見る）は **e → ie** と長く変わる仲間：du liest / er liest、du siehst / er sieht。

● 1-2. 動詞 werden（～になる）

werden は「～になる」という意味の動詞で、不規則変化をします。未来形や受動態の助動詞としても使われますが、この章では「～になる」という意味で学びます。

人称	単数	人称	複数
ich	werde	wir	werden
du	wirst	ihr	werdet
er/sie/es	wird	sie/Sie	werden

werden は特殊な変化に注意: du は **wirst** (d が落ちる)、er/sie/es は **wird** (語尾 -t が付かない)。

● 1-3. 複合的な疑問詞

(1) wie viel (どれくらいの量・数)

wie viel は「どれくらいの量」や「どれくらいの数」を尋ねる疑問詞です。

- ・ **wie viel** は **不可算名詞** (数えられない名詞) と共に使い、形は変化しません。
- ・ **Wie viel** Liebe gibst du? (あなたはどれくらいの愛を与えますか?)
- ・ **wie viele** は **可算名詞** (数えられる名詞) の複数形と共に使い、「いくつの～」を尋ねます。
- ・ **Wie viele** Bücher hast du? (あなたは何冊の本を持っていますか?) 今回は **wie viel** を中心に学習します。

(2) was für ein (どのような種類の～)

was für ein は「どのような種類の～」と、種類や性質を尋ねる疑問詞です。**ein** の部分は、続く名詞の性・数・格に応じて変化します。

変化の仕方:

格	男性名詞	女性名詞	中性名詞	複数形
1 格	was für ein	was für eine	was für ein	was für
2 格	(学習範囲外)	(学習範囲外)	(学習範囲外)	(学習範囲外)
3 格	was für einem	was für einer	was für einem	was für
4 格	was für einen	was für eine	was für ein	was für

例文:

- ・ **Was für ein** Buch liest du? (あなたは**どのような種類の**本を読んでいますか?) (中性名詞 Buch の 4 格)
- ・ **Was für eine** Aufgabe hast du? (あなたは**どのような種類の**課題を持っていますか?) (女性名詞 Aufgabe の 4 格)
- ・ **Was für einen** Sinn hat das Leben? (人生は**どのような目的**を持っていますか?) (男性名詞 Sinn の 4 格)
- ・ **Was für** Menschen sind wir? (私たちは**どのような人間**ですか?) (複数形 Menschen)

2. 英語と比べる —— 英語の不規則動詞リストは、そのままドイツ語で使える

英語を学んだとき、sing – sang – sung のような不規則動詞を延々と暗記させられたはずです。実はあの表は、ドイツ語の強変化動詞の表とほとんど同じものです。苦労は無駄になっていません。

● ここが同じ！

- ・ 母音が変わることで語形を作る (母音交替＝アブラウト) という仕組みそのものが共通です。

英語	ドイツ語
sing – sang – sung	singen – sang – gesungen
drink – drank – drunk	trinken – trank – getrunken
give – gave – given	geben – gab – gegeben
speak – spoke – spoken	sprechen – sprach – gesprochen
come – came – come	kommen – kam – gekommen
see – saw – seen	sehen – sah – gesehen

一目瞭然です。英語で不規則な動詞は、ドイツ語でもたいてい不規則。逆に英語で規則的な動詞 (learn – learned) は、ドイツ語でも規則的 (lernen – lernte) です。「どの動詞が不規則か」を、あなたはすでに知っているのです。

- ・ 複合的な疑問詞の作り方も英語とそっくりです。was für ein = what kind of, wie viel = how much / how many.

● ここが違う！

ドイツ語は、現在形のなかでも母音が変わります。ここが英語との決定的な差です。

	ドイツ語	英語
私は話す	ich spreche	I speak
君は話す	du sprichst	you speak
彼は話す	er spricht	he speaks
私たちは話す	wir sprechen	we speak

英語は現在形では母音を変えません (speak のまま)。ドイツ語は **du** と **er/sie/es** のときだけ母音が変わります。

- ・ **a → ä 型**: fahren → du fährst, tragen → du trägst
- ・ **e → i 型**: sprechen → du sprichst, geben → du gibst, sehen → du siehst

「なぜ 2 人称と 3 人称だけ？」と思いますが、これも後ろに来ていた **i** の音が母音を引っ張った、第 4 章のウムラウトと同じ現象です。

● werden —— 英語の 3 語ぶんを 1 語でこなす

werden は英語に一对一の対応語がありません。文脈によって 3 つの顔を持ちます。

用法	ドイツ語	英語
～になる	Er wird Lehrer.	He becomes a teacher.
未来	Er wird kommen.	He will come.
受動	Er wird gerettet.	He is saved.

英語の *become* / *will* / *be* の 3 語を、ドイツ語は **werden** ひとつで担当します。「**変わっていく**」という一つのイメージでつかむと、3 つの用法がつながって見えてきます。

●★英語からの乗り換え注意

- ・ X *du sprichst* → ○ *du sprichst*. 英語の癖で、現在形の母音をそのままにしがちです。
- ・ X *Er wird ein Lehrer.* → ○ *Er wird Lehrer.* 職業・身分を言うとき、ドイツ語は**冠詞を付けません**。英語の *a teacher* とはここが違います。
- ・ X *Was für Buch ist das?* → ○ *Was für ein Buch ist das?* *für* は前置詞ですが、この熟語のなかでは**格を支配しません**。後ろの格は文全体の役割で決まります。

●英語が見えてくる！

英語の *sing* - *sang* - *sung* を、なぜ丸暗記させられたのでしょうか。先生は「不規則だから」と言ったはずですが。しかし本当は**不規則ではありません**。

これは **i-a-u** という、はっきりした規則にのっとった変化です。同じ型の動詞が、英語にもドイツ語にもずらりと並びます。

- ・ 英 *sing/sang/sung*、*ring/rang/rung*、*drink/drunk/drunk*、*begin/began/begun*
- ・ 独 *singen/sang/gesungen*、*ringen/rang/gerungen*、*trinken/trank/getrunken*、*beginnen/begann/begonnen*

英語ではこの仲間が数十語しか残らず「例外」に見えますが、ドイツ語では今も**堂々たる一大勢力**です。だからドイツ語では、これを「不規則動詞」ではなく「**強変化動詞** (*starke Verben*)」——**強い動詞**と呼ぶのです。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

この章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は第 2 章の「学校」のたとえを、**werden** (～になる) とともに発展させます。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字=ドイツ語文、次の行=日本語訳、〈英〉=英語訳 (参考)、▷=文法ポイント、☆=ニュアンス解説、《》=題材とした教えの出典。

1. Nach dieser Schule wird eine neue Schule. ♪T2-1

この学校の後には、新しい学校になります。

〈英〉 After this school, there becomes a new school.

▷ **wird** = **werden** の *er/sie/es* 形。nach (～の後に) は決まり文句として使う (前置詞は第 6 章)。

☆ 唯物論は「小学校を出れば教育は終わり」と考えますが、実際には中学・高校・大学と続きます。人生も同じで、この世を卒業しても、あの世でさらなる学びが続くのです。

《人生を学校教育にたとえた場合……唯物論の考え方は、小学校の六年生がすめば義務教育は終わったというような考え方でしょう。……しかし、小学校を出ても、中学校があり、高校があり、大学があり——『永遠の法』第 1 章「四次元の世界」》

2. Was ist der Sinn des Lebens? ♪T2-2

人生の目的は何ですか？

〈英〉 What is the meaning of life?

▷ **der Sinn des Lebens** = 人生の目的。

《人生の目的——『幸福の法』第 1 章》

3. Was für einen Sinn hat unser Leben? ♪T2-3

私たちの人生はどのような目的を持っていますか？

〈英〉 What kind of meaning does our life have?

▷ **was für einen Sinn** = どのような目的 (男性名詞 *Sinn* の 4 格)。

《人生の目的——『幸福の法』第 1 章》

4. Wir sprechen über den Lebenszweck. ♪T2-4

私たちは人生の目的について語ります。

〈英〉 We talk about the purpose of life.

▷ **sprechen** は *e-i* 型不規則変化動詞。über A (A について)。der **Lebenszweck** = 人生の目的。

《人生の目的と使命——『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション(5)』第 2 章》

5. Jeder Mensch wird glücklich. ♪T2-5

すべての人は幸福になります。

〈英〉 Every person becomes happy.

- ▷ wird = werden の er/sie/es 形。glücklich (幸福な)。
《人生の目的——『幸福の法』第 1 章》

6. Die Seele wird reif wie eine Frucht. J2-6

魂は果実のように熟していきます。

〈英〉The soul becomes ripe like a fruit.

- ▷ wird + 形容詞 (reif) で「～になる」。wie + 名詞句の比較。

☆ 魂は、この世とあの世を行き来しながら、経験を通して少しずつ熟していきます。果実が太陽と時間を受けて熟すように。
《魂は永遠に生きて、経験を通して成長する——『生命の法』第 4 章「魂の教育について」》

7. Wie viel Liebe gibst du? J2-7

あなたはどれくらいの愛を与えますか？

〈英〉How much love do you give?

- ▷ gibst = geben の du 形 (e→i 型)。

《与える愛——『幸福の原点』第 2 章》

8. Was für ein Ziel hat dein Leben? J2-8

あなたの人生はどのような目標を持っていますか？

〈英〉What kind of goal does your life have?

- ▷ das Ziel = 目標。dein Leben = あなたの人生。

《人生の目的——『人生の王道を語る』第 4 章》

9. Er liest jeden Tag das Buch der Wahrheit. J2-9

彼は毎日、真理の書を読みます。

〈英〉He reads the book of truth every day.

- ▷ liest = lesen の er 形 (e→ie 型)。das Buch der Wahrheit (真理の書) の「der Wahrheit」は 2 格の決まり文句。

《仏法真理の書を読む——『太陽の法』》

10. Warum leben wir? J2-10

私たちは何のために生きていますか？

〈英〉Why do we live?

- ▷ warum (なぜ)。

《何のために生きるか——『ユートピア創造論』第 1 章》

11. Wir werden Kinder Gottes. J2-11

私たちは神の子になります。

〈英〉We become children of God.

- ▷ Kinder Gottes = 神の子。

《人間は仏の子——『太陽の法』》

12. Was für einen Weg gehen wir? J2-12

私たちはどのような道を進みますか？

〈英〉What kind of path do we walk?

- ▷ der Weg = 道。gehen (行く)。

《人生の王道——『人生の王道を語る』》

◆心に刻むたとえ (Gleichnis) —— 人はライオンのようになる

「こうした人たちは、いったん火がつけば、燃え上がる草原の炎のようにもなり、また、ライオンのごとく猛り狂うことさえ可能だと思うのです」

——《『仕事と愛』第 6 章「休日の効果」／3 ペストコンディションで仕事をする》

13. Der Mensch wird stark wie ein Löwe. J2-13

人はライオンのように強くなります。

〈英〉A person becomes strong like a lion.

- ▷ werden (～になる)。英語の become にあたります。

☆ 生まれつき強い人がいるのではなく、強く「なる」のだ、というのがこのたとえの心です。

14. Du sprichst mit Mut. J2-14

あなたは勇気をもって話します。

〈英〉You speak with courage.

- ▷ sprechen は e→i 型。du のとき sprichst と母音が変わります。英語の you speak は母音が変わらないので、ここは意識が必要です。

15. Er sieht das Licht und gibt es weiter. J2-15

彼は光を見て、それを人に伝えます。

〈英〉He sees the light and passes it on.

- ▷ sehen → sieht, geben → gibt。どちらも e→i (ie) 型です。

16. Was für ein Mensch will er werden? J2-16

彼はどのような人間になりたいのでしょうか。

〈英〉What kind of person does he want to become?

- ▷ **was für ein** = 英語の *what kind of*。ほぼそのまま対応します。
 ▷ *will ... werden* は枠構造。文末の *werden* まで読んで、はじめて意味が確定します。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味
fahren	動	(乗って) 行く、運転する
schlafen	動	眠る
tragen	動	運ぶ、身につける
waschen	動	洗う
essen	動	食べる
geben	動	与える
helfen	動	助ける
lesen	動	読む
nehmen	動	取る
sehen	動	見る
sprechen	動	話す
werden	動	～になる
der Sinn	男	意味、目的
der Lebenszweck	男	人生の目的
das Ziel	中	目標
der Weg	男	道
die Frucht	女	果実
ewig	形	永遠の
reif	形	熟した
glücklich	形	幸福な
wie viel	疑	どれくらいの量・数
was für ein	疑	どのような種類の～
warum	疑	なぜ
über	前	～について (4 格支配)
der Löwe, -n	男	ライオン
weitergeben	動	次へ渡す、伝える (分離)

5. 練習問題 (独検 4 級形式・オリジナル)

● A. 正しい形を 1 つ選びなさい。

- (1) Ich () Deutsch.
 1 sprichst 2 spreche 3 spricht 4 sprechen
 (2) Du () glücklich.
 1 wirst 2 werde 3 wird 4 werden
 (3) Er () zur Schule.
 1 fährst 2 fährt 3 fahre 4 fahren
 (4) () viel Liebe gibst du?
 1 Was 2 Wie 3 Wo 4 Wann
 (5) Was für () Leben hast du?
 1 ein 2 einen 3 eine 4 einem
 (6) Die Seele () reif wie eine Frucht.
 1 wirst 2 wird 3 werden 4 werdet

● B. () の動詞を正しい形にして下線部に入れなさい。

- (1) Wir _____ über den Sinn des Lebens. (sprechen) (2) Die Seele _____ ewig. (werden) (3) Er _____ jeden Tag. (essen) (4) Du _____ die Wahrheit. (sehen) (5) Ich _____ zur Arbeit. (fahren)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい (文頭は大文字に)。

- (1) wir / leben / Warum / ? → 「なぜ私たちは生きていますか？」 (2) wird / glücklich / Mensch / Jeder → 「すべての人は幸福になります」 (3) für / einen / hat / Was / Sinn / das Leben / ? → 「人生はどのような目的を持っていますか？」 (4) wird / eine Frucht / reif / die Seele / wie → 「魂は果実のように熟していきます」 ♪T2-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X *du sprichst* (英語は現在形で母音が変わらない) → (2) X *Er wird ein Lehrer.* (*a teacher* の直訳) → (3) X *Was für Buch ist das?* → (4) 英語の *become / will / be* の 3 語を、ドイツ語では 1 語で担う。その動詞を書きなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) Der Mensch _____ stark wie ein Löwe. (人はライオンのように強くなります) (2) Du _____ mit Mut. (あなたは勇気をもって話します) (3) Er _____ das Licht und gibt es weiter. (彼は光を見て、それを伝えます)

● 解答

- A: (1) 2 (2) 1 (3) 2 (4) 2 (5) 1 (6) 2 B: (1) sprechen (2) wird (3) isst (4) siehst (5) fahre C: (1) Warum leben wir?
 (2) Jeder Mensch wird glücklich.
 (3) Was für einen Sinn hat das Leben?
 (4) Die Seele wird reif wie eine Frucht. D: (1) du sprichst (2) Er wird Lehrer. (職業・身分は無冠詞)
 (3) Was für ein Buch ist das? (4) werden E: (1) wird (2) sprichst (3) sieht

6. 法話メモ ——学校の続きと、熟す果実

『永遠の法』第1章で、大川隆法総裁は唯物論の人生観をこう批判されています。「人生を学校教育にたとえた場合……唯物論の考え方は、小学校の六年生がすめば義務教育は終わったというような考え方でしょう。それは、人生を小学校のなかに閉じ込めているのです。しかし……小学校を出ても、中学校があり、高校があり、大学があり、大学院があり」。

第2章で「人生は学校である」と学びましたが、この章ではその続きです。一つの学校を卒業しても、そこで終わりではありません。この世という学校を卒業しても、あの世でさらなる学びが続くのです。

Nach dieser Schule wird eine neue Schule.

もう一つのたとえが「熟す果実」です。魂は、この世とあの世を行き来しながら、太陽の光と長い時間を受けて熟していく果実のように、少しずつ成長していきます。

Die Seele wird reif wie eine Frucht.

大川隆法総裁は、私たちはこの地上に「人生の目的と使命」を設定して生まれてくると説かれています（『幸福の原点』第2章）。この目的を知り、それに向かって生きることが、幸福な人生を送る上で不可欠です。

『幸福の法』第1章では、人生には「幸福になること」と「魂を成長させること」という二つの目的があると説かれています。この章で学んだ疑問詞を使って、自分自身に問いかけてみましょう。

Was ist der Sinn deines Lebens? (あなたの人生の目的は何ですか?)

◆ 学びのこぼれ

「一つの英単語、一つの英語フレーズが一人の人を救うかもしれないと思えば、喜んで涙の谷を渡る勇気も出てくるだろう」
 《『黒帯英語三段⑩』あとがき》

第6章 前置詞 【4級】

【第13回（前期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第13回「支部・精舎へお誘いする」

【独検4級レベル】

この章の到達目標

1. 前置詞が後に続く名詞の格を支配することを理解する
2. 3格支配の前置詞と4格支配の前置詞を区別して使える
3. 「湖のような心」というたとえを通して、「心の中」や「世界への伝道」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 前置詞とは？

前置詞（Präposition）は、名詞や代名詞の前に置かれ、時間、場所、方向、手段、理由などを表す語です。ドイツ語の前置詞の最も重要な特徴は、**後に続く名詞の格（2格、3格、4格）を支配すること**です。

この章では、独検4級レベルで特に重要な**3格支配の前置詞**と**4格支配の前置詞**を学びます。

● 1-2. 3格支配の前置詞

常に後に続く名詞を**3格（Dativ）**にする前置詞です。主なものは以下の通りです。

前置詞	意味	例文
aus	～の中から、～出身	aus dem Haus (家の中から), aus Japan (日本出身)
bei	～のそばで、～のところで	bei mir (私のところで), bei der Arbeit (仕事で)
mit	～と一緒に、～で（手段）	mit dem Freund (友達と一緒に), mit dem Auto (車で)
nach	～の後で、～へ（方向）	nach dem Essen (食事の後で), nach Japan (日本へ)
seit	～以来	seit einem Jahr (1年前から)
von	～から（出発点）、～の（所有）	von dem Lehrer (先生から), von Gott (神から)
zu	～へ（方向、人・場所）	zum Arzt (医者のところへ), zu dir (君のところへ) ※「家へ」は nach Hause 、「家で」は zu Hause

ポイント:

- ・ **zu** と定冠詞が融合する形があります。
- ・ **zu + dem = zum** (例: zum Arzt)
- ・ **zu + der = zur** (例: zur Schule)

● 1-3. 4格支配の前置詞

常に後に続く名詞を**4格（Akkusativ）**にする前置詞です。主なものは以下の通りです。

前置詞	意味	例文
durch	～を通して、～によって	durch den Wald (森を通して), durch die Liebe (愛によって)
für	～のために、～にとって	für mich (私のために), für die Welt (世界のために)
gegen	～に対して、～に反対して	gegen den Feind (敵に対して), gegen das Böse (悪に対して)
ohne	～なしで	ohne Geld (お金なしで), ohne dich (君なしで)
um	～の周りに、～時に	um den Tisch (テーブルの周りに), um 8 Uhr (8時に)

● 1-4. 3・4格支配の前置詞（3級用含む） 【3級】

場所を表す一部の前置詞は、「どこに？（場所）=3格」「どこへ？（方向）=4格」と使い分けれます。代表: **in**（～の中）, **an**（～のきわ）, **auf**（～の上）, **über**（～の上方・～について）, **vor**（～の前）, **unter**（～の下）

- ・ Die Wahrheit ist **in** unserem Herzen. (真理は心の中にある→場所=3格)
- ・ Die Liebe kommt **in** unser Herz. (愛が心の中へ入って来る→方向=4格)

● 1-5. 前置詞と定冠詞の融合形 —— im, am, zum, vom

前置詞と定冠詞は、よく1語に融合する。会話では融合形のほうがふつうなので、形を知らないと言え取れない。

融合形	もとの形	例
im	in dem	im Herzen (心のなかに)
am	an dem	am Sonntag (日曜日に)
beim	bei dem	beim Beten (祈るときに)
vom	von dem	vom Meister (師から)
zum	zu dem	zum Tempel (支部へ)
zur	zu der	zur Kirche (教会へ)
ins	in das	ins Buddha-Land (仏国土へ)
ans	an das	ans Licht (光のもとへ)
aufs	auf das	aufs Herz (心の上に)

★ 3格の融合形は -m で終わり、4格の融合形は -s で終わる。

im (3格・どこで) / *ins* (4格・どこへ) —— この対比を覚えると迷わない。

Ich bin im Tempel. (支部にいる) / *Ich gehe ins Zentrum.* (センターへ行く)

★ ただし、その名詞を特に指し示すときは融合させない。

Ich gehe in das Haus, das dort steht. (あそこに建っている、その家に入る)

● 1-6. 前置詞つき目的語 —— 動詞とセットで覚える

英語に *wait for*、*think of* があるように、ドイツ語にも「この動詞にはこの前置詞」という決まった組み合わせがある。意味から推測できないので、動詞ごと覚えるしかない。

ドイツ語	日本語	英語
warten auf + 4 格	～を待つ	wait for
denken an + 4 格	～のことを思う	think of
glauben an + 4 格	～の存在を信じる	believe in
sich freuen über + 4 格	～を喜ぶ	be glad about
sich freuen auf + 4 格	～を楽しみに待つ	look forward to
sich interessieren für + 4 格	～に関心がある	be interested in
sich erinnern an + 4 格	～を思い出す	remember
danken für + 4 格	～に感謝する	thank for
bitten um + 4 格	～を願う	ask for
sprechen über + 4 格	～について話す	talk about

★ 英語と同じ前置詞になるとはかぎらない。

think of は *denken an*、*believe in* は *glauben an*。

英語の感覚で *denken von* としないこと。

★ 信仰を語るうえで最重要なのは *glauben an* + 4 格。

Ich glaube an Gott. (私は神を信じます)

glauben を単独で使うと「～だと思う」という弱い意味になってしまう。

an + 4 格を付けてはじめて「その存在を信じる」になる。

2. 英語と比べる —— 英語の前置詞にも「格」はあった

● ここが同じ！

- ・前置詞が名詞の前に置かれ、場所・時間・手段などを表す仕組みは英語と同じです。
- ・主要な前置詞は、形も意味もそのまま対応します。

ドイツ語	英語	意味
in	in	～のなかで
an	on / at	～に接して
auf	on	～の上に
unter	under	～の下に
über	over / about	～の上方に、～について
für	for	～のために
mit	with	～と一緒に
von	from / of	～から、～の
zu	to	～へ
ohne	without	～なしに
durch	through	～を通して

über ↔ over, unter ↔ under は、序章で学んだ子音対応 (b↔v, t↔d) そのままです。

●ここが違う！

ドイツ語の前置詞は、後ろの名詞の格を指定します（格支配）。これが最大の違いです。

支配する格	前置詞	覚え方
3 格支配	mit, von, zu, aus, bei, nach, seit	「どこに在るか」系
4 格支配	für, durch, ohne, gegen, um	「どこへ向かうか」系
3 格・4 格支配	in, an, auf, über, unter, vor, hinter, neben, zwischen	意味で決まる

英語には格がないので、with me, for me, to me とすべて me で済みます。ドイツ語では mit mir（3 格）、für mich（4 格）と形が変わります。

3 格・4 格支配の見分け方 —— 「どこで？」か「どこへ？」か

同じ前置詞でも、動きがあるかどうかで格が変わります。ここはドイツ語独自の面白さです。

ドイツ語	格	意味
Ich bin in der Kirche.	3 格	私は教会のなかにいる（どこで？）
Ich gehe in die Kirche.	4 格	私は教会のなかへ行く（どこへ？）

英語ではどちらも in the church / into the church と、前置詞を変えて区別します。ドイツ語は格を変えて区別するのです。同じことを、違う道具でやっているだけです。

●★英語からの乗り換え注意

- ・ X mit ich → ○ mit mir. 前置詞の後ろは、人称代名詞も必ず格変化します。
- ・ X 英語の of を機械的に von に置き換える。「神の愛」は die Liebe Gottes（2 格）が基本で、von は文脈が限られます。2 格と von の使い分け（冠詞があれば 2 格・なければ von. das Gesetz von Ursache und Wirkung など）は付録 9 §4。
- ・ 前置詞は動詞とセットで覚えるのが実戦的です。warten auf + 4 格（～を待つ）、denken an + 4 格（～のことを思う）のように、英語の wait for, think of と同じく、組み合わせが決まっています。ただし英語と同じ前置詞になるとはかぎりません。ここは丸ごと覚えるところです。

●英語が見えてくる！

英語で between you and I と言うと「誤り」とされ、between you and me が正しいとされます。なぜでしょうか。

答えは、前置詞の後ろは目的格（＝ドイツ語でいう 3 格・4 格）だからです。英語もかつては、前置詞のあとの名詞をきちんと格変化させていました。その名残が、代名詞にだけ me / him / us として残っているのです。

つまり between you and me が正しい理由は、ドイツ語で mit dir und mir と 3 格にする理由と、まったく同じです。

英語の「格」は死んでいません。前置詞の後ろで、今も静かに働いています。

3. 真理の例文（Sätze der Wahrheit）

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「湖のような心」というたとえを中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳（参考）、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Unser Herz ist ruhig wie ein See. ♪6-1

私たちの心は湖のように静かです。

〈英〉Our heart is calm like a lake.

▷ ruhig（静かな、穏やかな）は述語的用法なので語尾変化なし。wie＋名詞句で比較。

☆ 波立つ心は自我の表れ、静まった湖面はとらわれない心の象徴です。瞑想とは、波立つ湖面を鎮めて、もとの静かな水面に戻していく作業だといえます。

《穏やかな湖面のような心となって、瞑想の状態、限りなく無我の状態に入っていきます——『不滅の法』序章「心の中の宇宙」》

2. Die Wahrheit ist in unserem Herzen. ♪6-2

真理は私たちの心の中にあります。

〈英〉The truth is in our heart.

▷ in＋3 格（Dativ）。ここでは「～の中に」という場所を表すので 3 格。

《真理は心の内に——「正しき心の探究」の教え》

3. Wir finden die Liebe in unserem Herzen. ♪6-3

私たちは愛を私たちの心の中に見出します。

〈英〉We find love in our heart.

▷ in＋3 格（Dativ）。

《心の中の野獣を調教できることが、魂の真なる自由——『心の指針 Selection8 道を求めて生きる』2章》

4. Der Glaube wächst in deinem Herzen. ♪6-4

信仰はあなたの心の中で育ちます。

〈英〉Faith grows in your heart.

▷ in + 3 格 (Dativ)。

《心の中心に信仰心を立てよ——『眠れる人は正義を知らず』144》

5. Ich spreche mit Gott. ♪6-5

私は神と話します。

〈英〉I speak with God.

▷ mit + 3 格 (Dativ)。

《神との対話》

6. Wir leben für die Welt. ♪6-6

私たちは世界のために生きています。

〈英〉We live for the world.

▷ für + 4 格 (Akkusativ)。

《世界伝道の使命——『中東で何が起きているのか』第9章》

7. Diese Lehre ist für alle Menschen. ♪6-7

この教えはすべての人々のためのものです。

〈英〉This teaching is for all people.

▷ für + 4 格 (Akkusativ)。

《世界宗教へ向けての発信——『世界を創りかえる新しい学問の創造』第一部》

8. Wir gehen nach Japan. ♪6-8

私たちは日本へ行きます。

〈英〉We go to Japan.

▷ nach + 3 格 (Dativ)。国名・地名（冠詞なし）への方向を表す。

《世界伝道は日本から始まる》

9. Die Mission ist für die ganze Welt. ♪6-9

その使命は全世界のためのものです。

〈英〉The mission is for the whole world.

▷ für + 4 格 (Akkusativ)。

《全世界伝道の尊い使命——『エル・カンターレへの祈り』講義1章》

10. Durch die Liebe wächst die Seele. ♪6-10

愛によって魂は成長します。

〈英〉Through love, the soul grows.

▷ durch + 4 格 (Akkusativ)。前置詞句が文頭でも定動詞 wächst は2番目（wachsen はa→ä型）。

《愛による魂の成長》

11. Ohne die Wahrheit ist das Leben schwer. ♪6-11

真理なしでは、人生は困難です。

〈英〉Without the truth, life is difficult.

▷ ohne + 4 格 (Akkusativ)。

《真理なくして幸福なし》

12. Wir lernen Deutsch für die Weltmission. ♪6-12

私たちは世界伝道のためにドイツ語を学びます。

〈英〉We learn German for the world mission.

▷ für + 4 格 (Akkusativ)。die Weltmission = 世界伝道。

《世界伝道をするための英語の勉強法——『真理と勉強の関係』2章》

13. Die Botschaft kommt von Gott. ♪6-13

そのメッセージは神から来ます。

〈英〉The message comes from God.

▷ von + 3 格 (Dativ)。

《神からのメッセージ》

◆心に刻むたとえ（Gleichnis）——地下水のように湧き出るもの

「あなたがたが惜しみなく他の人びとを満そうとする時に、あなたがたが、他の人びとの心を潤そうとする時に、この地下水のごとく、仏の力が、愛が、勇気が、光が、湧き出してくるのだ」

——《『仏陀再誕』第2章「叡智の言葉」／愛の実践》

14. Die Kraft kommt aus dem Herzen wie Wasser aus der Erde. ♪6-14

力は、水が大地から湧くように、心から出てきます。

〈英〉Power comes out of the heart like water out of the earth.

▷ aus は3格支配。das Herz → dem Herzen、die Erde → der Erde。

- ☆ 地下水は、汲めば涸れるものではありません。汲むほどに湧いてきます。与える愛も同じで、出せば出すほど内から湧いてくるのだ、と説かれています。

15. Mit der Liebe hilft der Mensch dem Menschen. ♪6-15

愛によって、人は人を助けます。

〈英〉With love, a person helps another person.

- ▷ mit は3格支配 (der Liebe)。helfen も3格を取る動詞なので dem Menschen。英語の help someone (目的格) とずれるので注意してください。

16. In meinem Herzen ist ein See. ♪6-16

私の心のなかには湖があります。

〈英〉In my heart there is a lake.

- ▷ in は3・4格支配。ここは「どこに**在る**か」なので**3格** (in meinem Herzen)。もし「湖の**なかへ**入る」なら4格になります。

- ☆ 『漏尽通力』には「満々と水をたたえた湖のような心、あるいは、穏やかな春の海のような心を持ち続ける」ことの大切さが説かれています。

《『漏尽通力』第6章「心の平静と祈り」／2 平坦なる道》

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味
das Herz	中	心
der See	男	湖
ruhig	形	静かな、穏やかな
der Glaube	男	信仰
die Liebe	女	愛
die Wahrheit	女	真理
die Welt	女	世界
die Lehre	女	教え
die Mission	女	使命
die Botschaft	女	メッセージ
die Weltmission	女	世界伝道
alle Menschen	複	すべての人々
schwer	形	難しい、重い
leer	形	空虚な
finden	動	見つける
wachsen	動	育つ、成長する
sprechen	動	話す
kommen	動	来る
die Erde	女	大地、地球

5. 練習問題 (独検4級形式・オリジナル)

● A. () に入れるのに最も適切なものを1つ選びなさい。

- (1) Die Wahrheit ist () unserem Herzen.

1 für 2 in 3 mit 4 ohne

- (2) Wir arbeiten () die Welt.

1 aus 2 bei 3 für 4 von

- (3) Ich spreche () meinem Freund.

1 durch 2 gegen 3 mit 4 um

- (4) Diese Botschaft kommt () Gott.

1 nach 2 seit 3 zu 4 von

- (5) () die Liebe ist das Leben leer.

1 Ohne 2 Durch 3 Mit 4 Für

- (6) Unser Herz ist ruhig () ein See.

1 in 2 für 3 wie 4 durch

● B. () 内の指示に従って、下線部に適切な語句を入れなさい。

- (1) Die Lehre ist _____ Menschen. (für + alle Menschen) (2) Wir gehen _____ Japan. (nach + Japan) (3) Der Glaube wächst _____ Herzen. (in + dein Herz) (4) Ich lerne Deutsch _____ Weltmission. (für + die Weltmission) (5) Sie kommt _____ Haus. (aus + das Haus)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい (文頭は大文字に)。

- (1) die Wahrheit / ist / Herzen / unserem / in → 「真理は私たちの心の中にあります」 (2) die Welt / leben / wir / für → 「私たちは世界のために生きています」 (3) kommt / Gott / die Botschaft / von → 「そのメッセージは神から来ます」 (4) ist / wie / ruhig / unser Herz / ein See → 「私たちの心は湖のように静かです」 ♪6-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

(1) X mit ich (with me の直訳) → (2) X Ich helfe Sie. (help you の直訳。helfen は3格支配) → (3) 「私は教会のなかにいる」と「私は教会のなかへ行く」を、それぞれドイツ語で書きなさい。(4) 英語で *between you and I* が誤りとされる理由を、ドイツ語の格支配から説明しなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

(1) Die Kraft kommt _____ dem Herzen wie Wasser _____ der Erde. (力は、水が大地から湧くように心から出てくる) (2) _____ meinem Herzen ist ein See. (私の心のなかには湖があります) (3) Mit _____ Liebe hilft der Mensch _____ Menschen. (愛によって、人は人を助けます)

● 解答

A: (1) 2 (2) 3 (3) 3 (4) 4 (5) 1 (6) 3 B: (1) für alle Menschen (2) nach (3) in deinem (4) für die (5) aus dem C: (1) Die Wahrheit ist in unserem Herzen.

(2) Wir leben für die Welt.

(3) Die Botschaft kommt von Gott.

(4) Unser Herz ist ruhig wie ein See. D: (1) mit mir (2) Ich helfe Ihnen.

(3) Ich bin in der Kirche. (3格) / Ich gehe in die Kirche. (4格)

(4) 前置詞のあとは目的格(＝独語の3格・4格)になるから。独語の **mit dir und mir** と同じ理屈。E: (1) aus / aus (2) In (3) der / dem

6. 法話メモ —— 湖のような心と世界伝道

『不滅の法』序章「心の中の宇宙」で、大川隆法総裁は瞑想によって到達する心の状態を、こう説かれています。「穏やかな湖面のような心となって、瞑想の状態、限りなく無我の状態に入っていきます」。自我が強く出ている状態は、湖面に大きな波が立っている状態に似ており、無我の境地とは、その波が鎮まり、湖面そのものが澄みきった状態にたとえられます。

Unser Herz ist ruhig wie ein See.

大川隆法総裁は、心の中心に信仰心を立て、自らの心の内を探究することの大切さも説かれています(『眠れる人は正義を知らず』)。真理は遠くにあるのではなく、まず自分の心の中に、静かな湖のように見出すべきものです。

また、幸福の科学の使命の一つは「世界伝道」です。『エル・カンターレへの祈り』講義(第1章)では、全世界へ教えることが尊い使命として説かれています。私たちは、心の中の真理を悟り(in+3格)、それを世界へと広げていく(für die Welt)という二つの方向を生きています。

この章で学んだ前置詞を使って、心の中の真理を表現し、世界への伝道を心に誓いましょう。

Die Wahrheit ist in unserem Herzen. Wir leben für die Welt.

● もう一段深く —— 波一つ立たない湖面

この章の例文で「私の心のなかには湖があります」という文を作った。その湖が、どのような湖であるべきかを、『大悟の法』はこう説いている。

「澄んだ湖面のように、波一つ立たず、鏡のようになっている、そういう心に対して幸福を感じる」

《『大悟の法』第5章「常に仏陀と共に歩め」／4心の平和》

ここでは湖と鏡が重ねられていることに注目したい。波が立っていない湖面は、そのまま鏡になる。静かな心は、世界をゆがめずに映す心でもある。

In meinem Herzen ist ein See. Der See ist wie ein Spiegel.

私の心のなかには湖があります。その湖は鏡のようです。

(英) In my heart there is a lake. The lake is like a mirror.

前置詞の **in + 3格** (どこに在るか) は、まさに「そこに在り続ける」ことを表す形である。文法が、心のありようをそのまま写している。

◆ 学びのことば

「頑張れ! 頑張れ!!」

《『黒帯英語四段⑥』まえがき》

第7章 人称代名詞・再帰代名詞 【4級】

【第14回（前期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第14回「気持ちを言葉にする」

【独検4級レベル】

この章の到達目標

1. 3格・4格の人称代名詞を正しく使える
2. 再帰動詞の基本的な使い方を理解する
3. 「鏡」「ロウソクの光」というたとえを通して、「自分を見つめる」「八正道」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 人称代名詞の3格・4格

すでに1格の人称代名詞（ich, du, er, sie, es, wir, ihr, sie, Sie）は学習しました。動詞や前置詞によって目的語が3格または4格になる場合、人称代名詞もそれに合わせて形を変えます。

1格 (主格)	3格 (与格)	4格 (対格)	意味
ich	mir	mich	私（に／を）
du	dir	dich	君（に／を）
er	ihm	ihn	彼（に／を）
sie	ihr	sie	彼女（に／を）
es	ihm	es	それ（に／を）
wir	uns	uns	私たち（に／を）
ihr	euch	euch	君たち（に／を）
sie	ihnen	sie	彼ら／彼女ら／それら（に／を）
Sie	ihnen	Sie	あなた／あなた方（に／を）

ポイント:

- ・3格は「誰に?」「何に?」(Wem?)と問いかける対象を表します。動詞 **helfen** (助ける) や **geben** (与える) などが3格目的語をとります。
- ・4格は「誰を?」「何を?」(Wen? / Was?)と問いかける対象を表します。動詞 **sehen** (見る) や **lieben** (愛する) などが4格目的語をとります。
- ・**wir** と **ihr** の3格と4格は同じ形です。
- ・**sie** (彼ら) の3格は **ihnen** で、語尾に -n が付きます。敬称の **Sie** の3格は **Ihnen** で、大文字で書きます。

例:

- ・Ich helfe **dir**. (私は君を助けます。)▷ **helfen** は3格支配
- ・Ich liebe **dich**. (私は君を愛しています。)▷ **lieben** は4格支配
- ・Wir geben **ihm** ein Buch. (私たちは彼に一冊の本を与えます。)▷ **geben** は3格目的語と4格目的語をとる動詞。ihm が3格、ein Buch が4格。
- ・Sie sehen **uns**. (彼らは私たちを見ます。)

● 1-2. 再帰代名詞と再帰動詞

再帰代名詞とは、「自分自身に」行為が戻ることを示す代名詞です。「～自身を／～自身に」という意味を持ちます。

1格 (主格)	再帰代名詞 (3格)	再帰代名詞 (4格)
ich	mir	mich
du	dir	dich
er/sie/es	sich	sich
wir	uns	uns
ihr	euch	euch
sie/Sie	sich	sich

ポイント:

- ・3人称単数・複数の再帰代名詞は、3格・4格ともに **sich** です。
- ・1人称複数 **wir** と2人称複数 **ihr** の再帰代名詞は、3格・4格ともに人称代名詞の3格・4格と同じ形です。

再帰動詞とは、この再帰代名詞を目的語にとる動詞のことです。多くの場合、再帰代名詞は4格で使われますが、動詞が別の目的語（4格）をとる場合は、再帰代名詞が3格になります。独検4級レベルでは、まず4格再帰動詞をしっかりと覚えましょう。

例:

- ・ **über sich selbst reflektieren** (自分自身について反省する) [公式訳]
- ・ Ich reflektiere über **mich selbst**. (私は自分自身について反省します。)
- ・ Du reflektierst über **dich selbst**. (君は.....)
- ・ Er reflektiert über **sich selbst**. (彼は.....)
- ・ Wir reflektieren über **uns selbst**. (私たちは.....)
- ・ Ihr reflektiert über **euch selbst**. (君たちは.....)
- ・ Sie reflektieren über **sich selbst**. (彼ら／あなた方は.....)
- ▷ **über** は 4 格支配 (第6章)。だから再帰代名詞も 4 格である。名詞形は **die Selbstreflexion** (反省)。どちらも公式ドイツ語版で使われている形。
- ・ **sich freuen** (喜ぶ)
- ・ Ich freue **mich**. (私は喜びます。)
- ・ **sich konzentrieren** (集中する)
- ・ Wir konzentrieren **uns**. (私たちは集中します。)

● 1-3. なぜドイツ語は「自分に返る」を形に出すのか —— 魂と再帰

再帰代名詞は、日本人がいちばん飲み込みにくいところである。理由ははっきりしている。日本語は、行為が自分に返ることを形に出さないからだ。

「反省します」「喜びます」「準備します」——どれも行為の相手は自分自身なのに、日本語の形にはその「自分」が現れない。だから *mich* や *sich* が、余計なものに見えてしまう。

ドイツ語は逆である。行為がどこへ向かうかを、必ず形で示す。

ドイツ語	日本語	行為の向き先
Ich wasche das Kind .	私はその子を洗います	他者
Ich wasche mich .	私は(自分の)体を洗います	自分

動詞は同じ *waschen* である。変わったのは行き先だけ。その行き先を指し示す道しるべが、再帰代名詞なのである。

なぜ 3 人称だけ **sich** という専用の形があるのか

1 人称は話し手、2 人称は目の前の相手に限られる。取り違えようがない。ところが 3 人称で語られうる存在は無限にある。だから専用の形が要る。

Er sieht ihn. 彼は彼を(＝別の人を)見ます。**Er sieht sich.** 彼は自分自身を見ます。

一語で、見られている人が入れ替わる。*ihn* なら他人、*sich* なら本人。ドイツ語は、この区別を文法で決着させている。

魂の側から見ると

教えでは、人間には自分を外から見る働きがあると説かれている。

「いったん自分を離れて、はるかなる大空から自分自身を見つめるように、あるいは、第三者の目で自分自身を見つめるように、自分の過去・現在・未来を客観視することができれば、これができるようになってくるはずです」

《『成功の法』第8章「現代成功哲学」／4 経営者の必須条件》

ここには「自分」が二つある。見る自分と、見られる自分である。ドイツ語は、これを主語の席と目的語の席という二つの席で表す。

Ich reflektiere über mich selbst.

私は自分自身について反省します。

〈英〉I reflect on myself.

Ich (見る自分) と *mich* (見られる自分)。同じ一人の人間が、二つの席に座っている。再帰とは、魂が自分自身を見つめる形なのである。

だからこそ、反省を *sich* 抜きで言うことはできない。*sich* を落とせば、それは他人を見ている文になってしまう。

★ ここで述べたのは、文法の形が何を示しているかである。

sich という語そのものに教義的な意味があるわけではない。

ただ、行為が自分に返ることを毎回かならず形に出す言語で教えるとき、

反省を他人事として言うことはできない——それは確かである。

3 格と 4 格 —— ここで必ずつまずく

再帰代名詞には 4 格と 3 格がある。見分け方は一つだけである。

4 格の席が空いているか、埋まっているか。

	ドイツ語	日本語	4 格の席
4 格	Ich wasche mich .	私は体を洗います	自分が座っている
3 格	Ich wasche mir die Hände.	私は(自分の)手を洗います	die Hände が座っている

下の文では、洗われているのは「手」である。だから4格の席は *die Hände* が占める。自分は「その手の持ち主」として3格に回る。体の一部への行為 (*waschen* 洗う、*putzen* 磨く など) はいつもこの形になる。

Waschen Sie sich sorgfältig die Hände.

手を丁寧に洗ってください。

主語が複数なら「互いに」になる

再帰代名詞は、主語が複数のとき「お互いに～し合う」の意味になることがある。

Wir haben uns im Tempel kennengelernt.

私たちは支部で知り合いました。

ただし前置詞と一緒に使うときは *einander* (互いに) を用い、前置詞と1語に融合する。

Wir beten miteinander.

私たちは互いに (=共に) 祈ります。

語順 —— 再帰代名詞は前に出たがる

再帰代名詞は人称代名詞と同じ扱いで、動詞のすぐ近くに置かれる。文頭が時や場所で、主語が名詞のときは、再帰代名詞が主語より前に出るのがふつうである。

Heute hat sich eine alte Bekannte gemeldet.

今日、古い知り合いから連絡がありました。

主語 *eine alte Bekannte* のほうが新しい情報だからである (詳しくは巻末付録9)。

コラム an sich・für sich・an und für sich —— 再帰代名詞が哲学の骨格になる

いま学んだ *sich* は、日常のドイツ語だけの話ではない。ドイツ哲学の中心語は、この *sich* と、第6章で学んだ前置詞だけでできている。

「ヘーゲルは、『精神現象学』『論理学』『法哲学』『歴史哲学』『宗教哲学』など、さまざまな体系書を遺しております。しかし、その根本思想をつきつめてみると、「弁証法」という世界の運動法則、「絶対精神」という名の神の存在、国家への関心の三つに集約できると思うのです」

『『黄金の法』第2章「大地を駆ける」／7 ドイツ観念論哲学の登場』

公式ドイツ語版では、この三つがこう訳されている。

ドイツ語 (公式)	日本語	
die Hegelsche Dialektik, die das Gesetz der Weltveränderungen darstellt	「弁証法」という世界の運動法則	[公式訳]
Gott als dem absoluten Geist	「絶対精神」という名の神	[公式訳]
seine Gedanken über den Staat	国家への関心	[公式訳]

● 1. 三つの語は、前置詞 + 再帰代名詞でできている

ドイツ語	組み立て	日本語の術語
an sich	an (～において・3格) + sich	即自 (そくじ)
für sich	für (～にとって・4格) + sich	対自 (たいじ)
an und für sich	両方 + sich	即自かつ対自

★ *an* は3格支配、*für* は4格支配である。ふつうなら格が食い違うので一つにまとめられない。

それができるのは、再帰代名詞 *sich* が3格と4格で同じ形だからである (本章1-2)。

文法の偶然が、哲学の術語を一語に縮めたわけである。

● 2. 三つの段階を、幸福の科学の言葉で言い直す

術語のままでは頭に入らない。そこで、私たちがふだん学んでいる言葉に置き直す。この三語は、ものごとの段階であると同時に、それを見る側の段階でもある。見る側の段階として読むと、「ある」→「自分を見る」→「ありのままに見る」の三段になる。補助線に使うのは『沈黙の仏陀』第5章「識と般若」である。

① an sich (即自) —— そうであるが、まだ自分でそれを知らない

種は、すでに樹である。ただし種はそのことを知らない。可能性としてはそうなのに、自覚がない段階。これが *an sich* である。仏性も同じである。誰の心にもある。けれども、気づいていなければ、種のままである。

Der Same ist an sich schon der Baum.

種は、それ自体としてはすでに樹です。

② für sich (対自) —— 自分が自分の前に立つ

自分を**対象**として見た段階。反省はここから始まる。ただし、この段階では**見る自分と見られる自分が分かれている**。これは、本章で学んだ再帰そのものである。

Ich sehe mich.

私は自分を見ます。

Ich (見る自分) と *mich* (見られる自分)。**für sich** とは、この *mich* が立ち上がった段階である。『沈黙の仏陀』が「識」の立場と呼ぶ見方に近い。

「識の立場は、頭脳で判断しているという感じです。頭がものすごく働いていて、回転が速くて、ピピピッと分析している感じです」

《『沈黙の仏陀』第5章「智慧とは何か」／3識と般若／③如実知見》

自分を**分析**している。ここまで来なければ反省は始まらない。しかし、ここで止まると、見る自分が見られる自分を**裁**いているだけで、**見ている側の自分の偏り**は見えない。『沈黙の仏陀』は、その偏りを「先入観」「偏見」と呼ぶ。

③ an und für sich (即自かつ対自) —— 知ったうえで、そのものである

分かっていた二つが一つに帰る。「そうである」(*an sich*)と「そうだと知っている」(*für sich*)が重なった段階。*Ich* と *mich* が**同じ一人**だと分かった、というところである。この段階を言い当てている言葉が、**如実知見**である。

「如実知見とは『ありのままに見る』ということです。要するに『白紙の立場で見る』ということです」

《『沈黙の仏陀』第5章「智慧とは何か」／3識と般若／③如実知見》

「この般若の智慧によって世界や人を見る場合、どのように見えるかといえば、鏡に映すように見えてくるのです。

円い鏡のなかに、自分も映る、他人も映る、世界が映る、そのような見え方をするのです」

《『沈黙の仏陀』第5章「智慧とは何か」／3識と般若／③如実知見》

鏡のなかには、**見る自分も、見られる自分も、同じ一枚の鏡に映っている**。②の「分析する頭」を通ったうえで、もう分析していない。種が樹になったことを、樹自身が知っている——それが *an und für sich* である。

Im Spiegel sehe ich mich, die Menschen und die Welt.

鏡のなかに、私は自分も、人々も、世界も見ます。

▷ *im* = *in dem* (3格・第6章)。*mich / die Menschen / die Welt* は三つとも *sehen* の4格。

見る ich は一人、映る mich は世界と並んで一つの鏡のなか——文の形がそのまま③の姿である。

『沈黙の仏陀』は、この見方を「目で見える」から「毛穴で感じる」への移りとも言っている。

「魂全体で感じ取ろうとするような力になってくるのです」

《『沈黙の仏陀』第5章「智慧とは何か」／3識と般若／③如実知見》

ひとことではいえない——①ある、②自分を見る、③ありのままに見る。反省(②)を通して、鏡のように見る(③)。これがヘーゲルの三語を、私たちの言葉で読んだ姿である。

★注意

ヘーゲルが般若や如実知見を説いたわけではない。ここで借りたのは、

「見る側の在り方が変わる」という一点だけである。

an と *für* が一つの *sich* を共有する——その文法の姿が、「見る自分と見られる自分が一つの鏡に映る」という如実知見の姿に、たまたまよく似ている。

その似ている一点だけを、覚える手がかりにしたい。

● 3. 止揚 (*aufheben*) —— 一語に三つの意味

段階から段階へ進める動きを、日本語では**止揚**という。『黄金の法』にも「両者を**止揚する**形で」という言い方が出てくる。公式ドイツ語版は、これを *aufheben* と訳している。

「ついでは、両者を止揚する形で、哲学をその心として、現実社会のユートピア化を進めるため……」

《『黄金の法』第2章「大地を駆ける」／8 無神論への転落》

die zwei vorangegangenen Bewegungen ... aufzuheben [公式訳]

この *aufheben* という語が、そもそも面白い。日常のドイツ語で三つの意味を持つ。

日常の意味	例
持ち上げる	Ich hebe das Buch auf. (本を拾い上げる)
取っておく・保存する	Ich hebe den Brief auf. (手紙を取っておく)
やめさせる・廃止する	Man hat das Gesetz aufgehoben. (その法律は廃止された)

ヘーゲルは『論理学』で、この語が「**保存する**」と「**終わらせる**」という**二重の意味**を持つことにわざわざ注意をうながし、承知のうえでこの語を使っている。日本語の「止揚」も、「止める」と「揚げる」を重ねた訳語で、同じ二重性を写している。

前の段階は否定されるが、捨てられるのではなく、含まれたまま高みへ運ばれる。これが止揚である。

● 4. 誤解しやすいところ —— 二つだけ注意

①「正・反・合」と、この三語の関係

弁証法は、ふつう「正・反・合」で説明される。大川隆法総裁も、「『黄金の法』講義（二）」でこう説かれている。

「『弁証法』という世界の運動法則、すなわち、正なるものから反なるものが出、正反を通して、その両者を合一せんとする合が出てくる。

正・反・合という、この世界の運動形式を発見したということ」

《1989年9月17日「『黄金の法』講義（二）」》

公式ドイツ語版『黄金の法』も、西田幾多郎について述べる箇所では von der These über die Antithese zur Synthese（正から反を経て合へ）と書いている。

いっぽう、ヘーゲル自身がドイツ語で繰り返し用いた語が an sich / für sich / an und für sich である。同じ一つの運動を、片方は日本語の術語で、片方はヘーゲル自身の言葉で言っている。

運動の段階	日本語の術語	ヘーゲル自身のドイツ語
そうであるが、まだ知らない	正 (These)	an sich
自分が自分の前に立つ	反 (Antithese)	für sich
知ったうえで、そのものである	合 (Synthese)	an und für sich

ドイツ語で読むときは右の欄が出てくる。両方を結びつけて覚えておくとよい。

② カントの Ding an sich とは別のもの —— 二人を混ぜない

同じ an sich でも、カントの das Ding an sich（物自体）は「人間には認識できないもの」を指す。ヘーゲルの an sich は「まだ自覚されていない段階」であって、認識できないという意味ではない。同じ語で、指すものが違う。

カントが何を言いたかったのかは、霊言全集のカント霊の言葉がいちばん分かりやすい。

「あなたの見ている瓶と私が見ている瓶とは、同じものであって、同じではないはずです。

決して同じものは見えないのであります。そうではないですか。同じ瓶であって、同じ瓶ではない」

《『大川隆法霊言全集』第9巻第3章「霊的認識論」／1 認識の相対性》

「このように、同じものであるが、違ったふうに見えるというよりも、同じように見えることはないということでもある」

《『大川隆法霊言全集』第9巻第3章「霊的認識論」／1 認識の相対性》

「モグラにとっては、地中は暗くはない。モグラにとっては、地中は、よく見える住みよい世界である。

地上に出れば、これは灼熱の地獄である」

《『大川隆法霊言全集』第9巻第3章「霊的認識論」／1 認識の相対性》

同じ瓶を見ても、人は自分の見え方を通してしか見られない。これが認識の相対性であり、カントの「物自体」とは、見え方（現象）の向こうにある、そのもののことである。『沈黙の仏陀』が「先入観」「偏見」と呼んだものと、同じ場所を指している。だからこそ「白紙の立場」が要る——カントの認識論は、如実知見（§2の③）へ向かうときの「見る前の注意」として読める。

いっぽうヘーゲルは、この「認識できない」という壁を認めなかった。精神は段階を上がって、ついには自分自身を知る（an und für sich）と考えた。つまり、カント＝認識には限界がある（相対性）／ヘーゲル＝認識は段階を上がって完成に向かう（発展）。二人は同じ an sich という語を、反対の方向から使っている。

★混ぜないための三点

1. カントの an sich は「届かないもの」、ヘーゲルの an sich は「まだ目覚めていないもの」。

2. 霊言全集第9巻の「認識の相対性」はカントの話である。§2の②「見る自分の偏り」への注意として読む。

§2の③如実知見につなぐときは、ヘーゲルの三段ではなく『沈黙の仏陀』の「白紙の立場」につなぐこと。

3. 二人を一つの図に描かない。カントは「見る前の注意」、ヘーゲルは「見ていく階段」。

仏法真理の側から見れば、どちらも如実知見への道の一部だが、哲学としては別物である。

なお、カントが如来界の光の指導霊で前世が預言者ダニエルであることは、同じ第9巻の7に出ている（第2章コラム参照）。

● 5. 日常語としても生きている

この三語は、いまでも日常のドイツ語で使われている。

ドイツ語	日本語
Das ist an sich gut.	それはそれ自体としては良いことです
Das ist an und für sich richtig.	それは本来のところ、正しいです

哲学の術語が、そのまま「もともと」「本来は」という副詞になっている。ドイツ語を学ぶということは、この層まで含めて学ぶということである。

★この節について一言。

①～③を「仏の子であることに気づいてゆく道」に重ねて読むことはできる。

——そうである (an sich) / 自分を見つめる (für sich) / 知ったうえで生きる (an und für sich)。

ただしこれは読み手の側で重ねているたとえであって、ヘーゲルがそう述べたのではないし、教えがそう説いているのでもない。

『黄金の法』が述べているのは、弁証法が「世界の運動法則」であるということ、そしてヘーゲルの前世がプラトンであったということである。そこは分けて受け取ってほしい。

2. 英語と比べる —— myself は「強調」、sich は「文法」

●ここが同じ！

・人称代名詞に3格・4格の区別がある点は、英語もまったく同じです。

ドイツ語	英語
ich – mir – mich	I – me – me
er – ihm – ihn	he – him – him
wir – uns – uns	we – us – us

・3格+4格を並べる語順も同じです。 *He gives me the book.* / *Er gibt mir das Buch.*

・「～自身」を表す語がある点も共通です。英語 *myself/himself*、ドイツ語 *mich/sich*。

●ここが違う！

① 英語は3格と4格を同じ形にしてしまった

英語の *me* は、*He gives me a book* (3格) でも *He loves me* (4格) でも同じ形です。ドイツ語は *mir* (3格) と *mich* (4格) を区別し続けています。

	ドイツ語	英語
彼は私に与える	Er gibt mir ...	He gives me ...
彼は私を愛する	Er liebt mich .	He loves me .

② 再帰代名詞は「省略できない文法」

ここが英語話者のいちばんの盲点です。

英語の *myself* は、たいてい**強調やおまけ**です。 *I wash myself* と言わなくても *I wash* で通じますし、ふつうは *I wash my hands* と言います。

ところがドイツ語の再帰代名詞は、**動詞の一部**です。省くと文が成立しません。

ドイツ語	英語	意味
Ich freue mich .	I am glad .	私は喜ぶ
Ich erinnere mich an ihn.	I remember him.	私は彼を思い出す
Ich setze mich .	I sit down .	私は座る
Ich interessiere mich für die Wahrheit.	I am interested in the Truth.	私は真理に関心がある

英語では *glad, remember, sit down* と、**まったく別の語**で表すところを、ドイツ語は「**動詞+自分自身**」という形で表しているのです。 *Ich freue*. とは言えません。 *mich* がなければ意味をなさないので。

③ 3人称はすべて **sich**

英語は *himself/herself/itself/themselves* と使い分けますが、ドイツ語は3人称も敬称 *Sie* も、**すべて *sich*** ひとつで済みます。ここは英語より楽です。

●★英語からの乗り換え注意

・X *Ich freue*. → O *Ich freue mich*. (再帰代名詞は省略不可)

・X *Ich wasche meine Hände*. → ふつうは *Ich wasche mir die Hände*. ドイツ語では「**自分に対して** 手を洗う」と言い、所有は3格で表して名詞には定冠詞を使います。

・X 再帰動詞の格の取り違い。 *mich* (4格) か *mir* (3格) かは動詞ごとに決まっています。 *sich⁴ freuen* (喜ぶ) / *sich³ vorstellen* (想像する) のように、辞書の右肩の数字を必ず確認してください。

●英語が見えてくる！

英語で *He enjoyed himself at the party*. (彼はパーティーを楽しんだ) という言い方があります。「彼が彼自身を楽しんだ」——よく考えると奇妙な英語です。

これは英語に残った再帰動詞の化石です。かつて英語にも *sich freuen* のような「動詞＋自分自身」で気持ちを表す形が広くありました。今は *enjoy oneself*, *behave oneself*, *pride oneself on* など、わずかな熟語に残るだけです。

ドイツ語の再帰動詞を学ぶと、英語の *enjoy yourself!* が「楽しんで！」という命令形として自然に響く理由が分かります。「自分を楽しませなさい」ではなく、はじめから「楽しむ」という一語だったのです。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「鏡」と「ロウソクの光」というたえを中心を選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳（参考）、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Ich sehe mich im Spiegel. Ⅱ7-1

私は鏡の中の自分を見ます。

〈英〉 I see myself in the mirror.

▷ *sehen* (見る) は4格支配の動詞。mich はここでは4格の再帰代名詞（自分自身）。

☆ 対策学習編1で、「飼犬に初めて鏡を見せたとしても、彼らはそれが鏡に映った自分の姿であるということは、絶対に認識できないのです」という話に触れました。人間は鏡の中の自分を「自分自身」として認識し、見つめ直すことができる点で、動物とは違う存在です。《「正しく自分を見つめる」ということは、何にも増して大事です——『幸福の科学の十大原理（上巻）』第5章》

2. Ich reflektiere oft über mich selbst. Ⅱ7-2

私はしばしば自分自身について反省します。

〈英〉 I often reflect on myself.

▷ *über* は4格支配なので **mich**。selbst を添えると「ほかならぬ自分自身」と強まる。

《自分を見つめる時間を取る——『奇跡のメカニズム』》

3. Du reflektierst jeden Abend über dich selbst. Ⅱ7-3

あなたは毎晩、自分自身について反省します。

〈英〉 You reflect on yourself every evening.

▷ *jeden Abend* (毎晩) は時を表す4格。*über dich selbst* の *dich* も4格。

《夜の時間帯を取りなさい。自分を見つめる、自分のなかを見つめる——『大川隆法霊言全集』第37巻》

4. Wir reflektieren über uns selbst. Ⅱ7-4

私たちは自分自身について反省します。

〈英〉 We reflect on ourselves.

▷ 1人称・2人称の再帰代名詞は人称代名詞と同じ形。**uns** は3格・4格が同形。

《孤独な時間を取り、自分を見つめる——『不況に打ち克つ仕事法』第3章》

5. Der Meister gibt uns den Achtfachen Pfad. Ⅱ7-5

師は私たちに八正道を与えます。

〈英〉 The Master gives us the Eightfold Path.

▷ **uns** は3格人称代名詞。*der Achtfache Pfad* (八正道) は4格。

《釈迦の八正道の原型とは——『仏陀の証明』第1章》

6. Der Achtfache Pfad leuchtet wie eine Kerze. Ⅱ7-6

八正道は、ロウソクの炎のように輝きます。

〈英〉 The Eightfold Path shines like a candle.

▷ *leuchten* (光る、輝く) は自動詞。*wie*＋名詞句で比較を表す（前置詞ではなく接続詞的な用法）。

☆ 八正道を実践して神仏の光を得た人の心は、闇の中に灯る一本のロウソクの炎や、灯台の光のように、まわりを静かに照らす存在になるとされます。

《八正道によって……神仏の光を得ている人たちは、ちょうど"ロウソクの炎"のようにも、"灯台の光"のようにも見えます——『真説・八正道』第10章》

7. Gott hilft uns immer. Ⅱ7-7

神はいつも私たちを助けてくださいます。

〈英〉 God always helps us.

▷ *helfen* は3格支配の動詞。**uns** は3格人称代名詞。

《神仏はつねに人間を導いている》

8. Die Wahrheit zeigt uns den Weg. Ⅱ7-8

真理は私たちに道を示します。

〈英〉 The truth shows us the way.

▷ *zeigen* (示す) は3格と4格をとる動詞。**uns** は3格、*den Weg* (道) は4格。

《八正道は解脱に到るための方法論——『仏陀の証明』第4章》

9. Ich liebe dich. Ⅱ7-9

私はあなたを愛しています。

〈英〉 I love you.

▷ dich は du の4格人称代名詞。

- 10. Du gibst mir Kraft.** ㊦7-10
あなたは私に力を与えます。
(英) You give me strength.

▷ mir は ich の3格人称代名詞。die Kraft (力) は4格。
《『悟性』のパワー——『心に目覚める』》

- 11. Wir danken ihm für seine Lehre.** ㊦7-11
私たちは彼の教えに感謝します。
(英) We thank him for his teaching.

▷ danken は3格支配の動詞。ihm は er の3格人称代名詞。für (～のために) は4格支配の前置詞。
《三宝帰依体制の確立と八正道の実践——『仏陀の証明』第1章》

- 12. Wir konzentrieren uns auf die Wahrheit.** ㊦7-12
私たちは真理に集中します。
(英) We concentrate on the truth.

▷ sich konzentrieren auf A (Aに集中する) は再帰動詞。uns は4格再帰代名詞。auf は4格支配の前置詞。《魂の各領域を点検する——『感化力』第3章》

- 13. Er entwickelt sich durch die Lehre.** ㊦7-13
彼は教えによって成長します。
(英) He develops himself through the teaching.

▷ sich entwickeln (成長する) は再帰動詞。durch + 4格 (第6章)。
《八正道による魂の成長——『真説・八正道』》

◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— 水面に映る自分の姿

「あなたがたが、その目でもって見ている、この世の世界というものは、ちょうど、『池のなかを覗いて、その水面に、鏡のごとく映っているわが姿を見て、自分だと思っている』のと、同じなのである」
——《『伝道の法』あなたに贈る言葉①「真実の世界に目覚めよ」》

- 14. Der Mensch sieht sich im Wasser wie in einem Spiegel.** ㊦7-14
人は、水面に映る自分を、鏡を見るように見ます。
(英) A person sees himself in the water as in a mirror.

▷ sich は4格の再帰代名詞 (sehen の目的語)。im Wasser は in dem Wasser の縮約形です。

☆ 水に映った姿は、たしかに自分に似ています。しかしそれは自分そのものではありません。この世で見ているものも、同じように「映ったもの」なのだと説かれています。

- 15. Ich freue mich über die Wahrheit.** ㊦7-15
私は真理を喜びます。
(英) I am glad about the Truth.

▷ sich freuen は再帰動詞。mich を省略できません。英語では I am glad と形容詞で言うところを、ドイツ語は「動詞+自分自身」で表します。

- 16. Erinnerst du dich an ihn?** ㊦7-16
あなたは彼のことを覚えていますか。
(英) Do you remember him?

▷ sich erinnern an + 4格。dich (再帰・4格) と ihn (人称代名詞・4格) が1文に並びます。英語の remember him が1語で済むのと比べてみてください。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味
über sich* selbst reflektieren	動	自分自身について反省する [公式訳]
die Selbstreflexion	女	反省 [公式訳]
konzentrieren (sich)	動	(～に)集中する
entwickeln (sich)	動	(自分を)成長させる、発展する
helfen	動	助ける (3格支配)
zeigen	動	示す (3格と4格をとる)
der Pfad	男	道、小道
der Achtfache Pfad	男	八正道
die Lehre	女	教え、教義
die Kraft	女	力、エネルギー
der Spiegel	男	鏡
die Kerze	女	ろうソク
leuchten	動	光る、輝く
oft	副	しばしば
selbst	副	自分自身で、自ら
jeden Abend	句	毎晩
für	前	～のために、～にとって (4格支配)

ドイツ語	性	意味
auf	前	～の上に、～に (3・4 格支配)
das Wasser	中	水

5. 練習問題（独検 4 級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を 1 つ選びなさい。

- (1) Ich liebe () .
1 dir 2 dich 3 du 4 mir
- (2) Gott hilft () immer.
1 wir 2 uns 3 euch 4 unser
※「神は私たちを……」の意味になるように。
- (3) Du gibst () Kraft.
1 ich 2 mich 3 mir 4 mein
- (4) Wir reflektieren jeden Morgen über () selbst.
1 uns 2 wir 3 unser 4 euch
- (5) Er konzentriert () auf die Arbeit.
1 ihm 2 ihn 3 sich 4 er
- (6) Ich sehe () im Spiegel.
1 ich 2 mir 3 mich 4 mein

● B. () の語を正しい形にして下線部に入れなさい。

- (1) Die Wahrheit zeigt _____ den Weg. (wir) (2) Ich helfe _____ gern. (du) (3) Der Meister gibt _____ die Lehre. (sie[彼女]) (4) Sie[彼ら] reflektieren oft über _____ selbst. (sich) (5) Die Lehre hilft _____. (er)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) ich / dich / liebe →「私はあなたを愛しています」(2) uns / der Achtfache Pfad / hilft →「八正道は私たちを助けます」(3) über / uns / selbst / reflektieren / wir / oft →「私たちはしばしば自分自身について反省します」(4) wie / leuchtet / eine Kerze / der Achtfache Pfad →「八正道はロウソクの炎のように輝きます」 ♪7-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X Ich freue. (I am glad の直訳) → (2) X Ich wasche meine Hände. (I wash my hands の直訳) → (3) X Er gibt mich das Buch. (3 格と 4 格の取り違い) → (4) 英語の He enjoyed **himself**. が、なぜ「彼が彼自身を楽しんだ」と読めてしまうのか、再帰動詞の観点から説明しなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) Der Mensch sieht _____ im Wasser wie in einem Spiegel. (人は水面に映る自分を鏡のように見ます) (2) Ich freue _____ über die Wahrheit. (私は真理を喜びます) (3) Erinnerst du _____ an ihn? (あなたは彼のことを覚えていますか)

● 解答

- A: (1) 2 (2) 2 (3) 3 (4) 1 (5) 3 (6) 3 B: (1) uns (2) dir (3) ihr (4) sich (5) ihm C: (1) Ich liebe dich.
(2) Der Achtfache Pfad hilft uns.
(3) Wir reflektieren oft über uns selbst.
(4) Der Achtfache Pfad leuchtet wie eine Kerze. D: (1) Ich freue mich. (再帰代名詞は省略できない)
(2) Ich wasche mir die Hände. (所有は 3 格、名詞には定冠詞)
(3) Er gibt mir das Buch.
(4) enjoy oneself は英語に残った再帰動詞の化石で、本来は「楽しむ」という一語だから。E: (1) sich (2) mich (3) dich

6. 法話メモ —— 鏡を見つめる人、ロウソクのように輝く人

対策学習編 1 では、「飼犬に初めて鏡を見せたとしても、彼らはそれが鏡に映った自分の姿であるということは、絶対に認識できないのです」という『悟りの発見』第 3 章のエピソードを取り上げました。人間もまた、放っておけば、鏡に映る自分の外見しか見ていないことが多いものです。しかし『幸福の科学の十大原理（上巻）』第 5 章では、「この目をもっと違ったところにつけてみなければいけない……この『正しく自分を見つめる』ということは、何にも増して大事です」と説かれています。Ich sehe mich im Spiegel. という文は、単に鏡を見るという意味を超えて、「自分自身を正しく見つめる」という八正道の第一歩——正見——を象徴しています。

私たちは日々の生活の中で、様々な出来事や感情に流されがちです。しかし、幸福の科学の教えでは、定期的に「自分を見つめる」時間を持つことの重要性が説かれています。『奇跡のメカニズム』では、自分を見つめる時間を取って心の内を点検することが勧められ、『大川隆法霊言全集』第 37 巻でも、夜の静かな時間帯に自分のなかを見つめる時間を取るよう説かれています。この章で学んだ **über sich selbst reflektieren** (公式ドイツ語版でも用いられている形) は、この「自分を見つめる」という大切な実践を、そのままドイツ語で言い表す言葉です。

そして、正しく自分を見つめ、八正道を実践していく人の心は、**Der Achtfache Pfad leuchtet wie eine Kerze.**——『真説・八正道』第10章に説かれるとおり、一本のろうソクの炎、あるいは灯台の光のように、まわりを静かに照らす存在になっていきます。日々の反省や瞑想の時間に、ぜひこれらの言葉を心の中で唱えてみてください。

Ich sehe mich im Spiegel. Ich reflektiere jeden Tag über mich selbst.

◆ 学びのことは

「勉強はマラソンのように長く続けていくことが大切」

《『黒帯英語五段①』まえがき》

前期のまとめと試験 【第15回】

【第15回（前期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第15回「前期発表——3分間の伝道スピーチ」

〔独検5級・4級レベル〕

この回の到達目標

1. 序章から第7章までの文法を、体系として整理し直す
2. 独検5級・4級前半の水準の問題を、時間内に解ける
3. 学んだ範囲だけで、教えるを語る短い文をいくつも作れる

1. 前期で学んだこと——一枚の地図に戻す

前期の14回で、ドイツ語の骨格はひととおり手に入った。ばらばらに覚えたものを、ここで一本につなぎ直しておこう。

回	学んだこと	一言でいうと
1	英語とドイツ語の関係	ドイツ語は「英語が忘れた文法」を持っている
2・3	発音	綴りと音がほぼ1対1。名詞は大文字始まり
4・5	動詞の現在人称変化／定動詞第2位	動詞は文の2番目 。主語の位置は動かせる
6・7	名詞の性と格	冠詞の形が 、その名詞の文中の役割を示す
8	人称代名詞・疑問詞	英語の <i>wh-</i> = ドイツ語の <i>w-</i>
9	複数形	複数の定冠詞は性を問わず die 。3格では -n
10・11	冠詞類	意味は英語と同じ。違いは 格変化すること だけ
12	不規則変化動詞・werden	du と er のときだけ母音が変わる
13	前置詞	前置詞が 後ろの格を決める （格支配）
14	人称代名詞・再帰代名詞	再帰代名詞は 動詞の一部 。省略できない

● 1-1. 前期の三本柱

前期で本当に大事なものは、次の3つだけである。これが崩れていなければ後期は必ず伸びる。

① 動詞は2番目

文頭に何を置いても、そのすぐ次は動詞である。

- ・ **Wir lernen heute die Wahrheit.**
- ・ **Heute lernen wir** die Wahrheit. ← 主語が後ろへ回る
- ・ **Die Wahrheit lernen wir** heute. ← 目的語を前に出しても同じ

② 冠詞の形が役割を示す

	男性	女性	中性	複数
1格（～は）	der	die	das	die
3格（～に）	dem	der	dem	den + 名詞に -n
4格（～を）	den	die	das	die

男性名詞だけが4格で **der** → **den** と変わる。ここが全体の要である。

③ 前置詞は格を連れてくる

3格支配	mit, von, zu, aus, bei, nach, seit
4格支配	für, durch, ohne, gegen, um
3・4格支配	in, an, auf, über, unter, vor, hinter, neben, zwischen

3・4格支配は「どこで?（3格）／どこへ?（4格）」で決まる。

● 1-2. 英語話者がここまでで必ず直すべき5点

1. ✕ *Ich bin lernen.* → ○ **Ich lerne.**（進行形はない）
2. ✕ *Tust du lernen?* → ○ **Lernst du?**（do は使わない）
3. ✕ *Heute wir lernen ...* → ○ **Heute lernen wir ...**（定動詞第2位）
4. ✕ *Ich liebe den Gott.* → ○ **Ich liebe Gott.**（唯一神は無冠詞）

5. $\times$ Ich freue. $\rightarrow$ $\circ$ Ich freue mich. (再帰代名詞は省略不可)

2. 総合練習

● A. 次の文を、指示された語を文頭に置いて書き換えなさい。

(1) Wir lernen heute die Wahrheit. $\rightarrow$ Heute を文頭に (2) Der Mensch sucht die Wahrheit. $\rightarrow$ Die Wahrheit を文頭に (3) Ich danke dem Meister jeden Tag. $\rightarrow$ Jeden Tag を文頭に

● B. () に入る冠詞を書きなさい。

(1) Ich liebe () Wahrheit. (女性・4格) (2) Der Löffel schöpft () Suppe. (女性・4格) (3) Gott gibt () Menschen die Liebe. (複数・3格) (4) Ich habe () Meister. (男性・4格・不定冠詞) (5) () Herz ist wie ein Feld. (中性・1格)

● C. () に入る前置詞を、下から選びなさい。

mit / für / aus / in / ohne

(1) Die Kraft kommt () dem Herzen. (2) Wir arbeiten () die Wahrheit. (3) Ich gehe () die Kirche. (「教会のなかへ」)
(4) Ich bin () der Kirche. (「教会のなかに」) (5) Er folgt der Wahrheit () Angst.

● D. 動詞を正しい形にしない。

(1) Du (sprechen) mit Mut. (2) Er (sehen) das Licht. (3) Der Mensch (werden) stark wie ein Löwe. (4) Wir (sich freuen) über die Wahrheit. (5) Kein Baum (wachsen) gerade ohne Stab.

3. 前期試験 (独検 5 級・4 級形式 / 50 点)

● 第 1 問 発音 (各 2 点・計 10 点)

下線部の発音が他と異なるものを 1 つ選びなさい。

(1) 1 Wahrheit 2 Welt 3 Wasser 4 Vater (2) 1 Liebe 2 Liecht 3 ieder 4 tief (3) 1 Zeit 2 Herz 3 Seele 4 sitzen (4) 1 Stern 2 Spiegel 3 Stab 4 beste (5) 1 Tag 2 Weg 3 Berg 4 geben

● 第 2 問 動詞の変化 (各 2 点・計 10 点)

(1) Ich () die Wahrheit.

1 lerne 2 lernst 3 lernt 4 lernen (2) Du () mit Mut.

1 sprichst 2 sprichst 3 spricht 4 sprechen (3) Er () ein Kind Gottes.

1 bin 2 bist 3 ist 4 sind (4) Wir () Mut wie ein Baum.

1 habe 2 hast 3 hat 4 haben (5) Der Mensch () stark.

1 werde 2 wirst 3 wird 4 werden

● 第 3 問 冠詞と格 (各 2 点・計 10 点)

(1) Der Löffel schöpft () Suppe.

1 der 2 den 3 die 4 dem (2) Ich danke () Meister.

1 der 2 den 3 dem 4 des (3) Gott gibt () Menschen die Liebe.

1 der 2 den 3 dem 4 des (4) Das ist () Mutter.

1 mein 2 meine 3 meinen 4 meinem (5) Ich habe () Zeit.

1 nicht ein 2 kein 3 keine 4 keinen

● 第 4 問 前置詞 (各 2 点・計 10 点)

(1) Wir gehen () dem Meister.

1 mit 2 für 3 ohne 4 durch (2) Die Liebe ist () alle Menschen.

1 mit 2 für 3 aus 4 bei (3) Das Wasser kommt () der Erde.

1 in 2 auf 3 aus 4 zu (4) () meinem Herzen ist ein See.

1 In 2 Auf 3 An 4 Über (5) Er folgt der Wahrheit () Zögern.

1 mit 2 für 3 ohne 4 nach

● 第 5 問 作文 (各 2 点・計 10 点)

日本語に合うように、語を並べ替えて文を作りなさい (文頭は大文字に)。

(1) ist / Liebe / Gott $\rightarrow$ 「神は愛です」 (2) wie / das Herz / ein Feld / ist $\rightarrow$ 「心は畑のようなものです」 (3) die Wahrheit / heute / lernen / wir $\rightarrow$ 「今日、私たちは真理を学びます」 (4) mich / ich / freue / über die Wahrheit $\rightarrow$ 「私は真理を喜びます」 (5) den Spiegel / der Mensch / putzt $\rightarrow$ 「人はその鏡を磨きます」

4. 解答

総合練習 A: (1) Heute lernen wir die Wahrheit. (2) Die Wahrheit sucht der Mensch.

(3) Jeden Tag danke ich dem Meister. B: (1) die (2) die (3) den (4) einen (5) Das C: (1) aus (2) für (3) in (4) in (5) ohne D: (1) spricht (2) sieht (3) wird (4) freuen uns (5) wächst

前期試験第 1 問: (1) 4 (2) 3 (3) 3 (4) 4 (5) 4 第 2 問: (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 3 第 3 問: (1) 3 (2) 3 (3) 2 (4) 2 (5) 3 第 4 問: (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 1 (5) 3 第 5 問: (1) Gott ist Liebe.

(2) Das Herz ist wie ein Feld.

(3) Wir lernen heute die Wahrheit. (または Heute lernen wir die Wahrheit.)

(4) Ich freue mich über die Wahrheit.

(5) Der Mensch putzt den Spiegel.

5. 法話メモ —— 半分まで来た人へ

語学の学習には、必ず「まだ何も話せない」と感じる時期がある。単語は増え、規則も分かってきたのに、口から出てこない。前期の終わりは、ちょうどその頃にあたる。

大川隆法総裁は、若き日の歩みを振り返って、繰り返す「亀のごとく」と語られてきた。速さではなく、やめないことが道を分ける、というたとえである。ドイツ語版でも、この言葉はそのまま „Wie eine Schildkröte“ と訳されている。

前期の 14 回で、あなたはもう「動詞は 2 番目」を知っている。「男性名詞の 4 格は den」を知っている。「前置詞は格を連れてくる」を知っている。これは、半年前のあなたには一つもなかったものである。

Ich bin wie eine Schildkröte gegangen. Aber ich bin nie stehen geblieben. (私は亀のように歩んできた。しかし決して立ち止まらなかった。)

後期は、いよいよ過去を語り、理由を語り、「もし～なら」を語れるようになる。つまり、**自分の人生を人に語れるようになる**。伝道の言葉は、そこから始まる。

コラム 第二外国語は、第一外国語の深さを超えない

前期が終わった。ここでいちど、**なぜドイツ語なのか**を考えておきたい。

「第二外国語をどう勉強すればよいか」という問いに、大川隆法総裁はこう答えておられる。

一つの外国語を掘り下げて一定のレベルまで達した場合、第二外国語をマスターする時間は、かなり短縮されるはずです。

《『外国語学習限界突破法』／3 第二外国語を学ぶ心構え》

しかし、最初の第一外国語で一定のレベルまでいっていないと、第二外国語をやっても、おそらく中途半端なレベルで終わると思われます。

《『外国語学習限界突破法』／3 第二外国語を学ぶ心構え》

とにかく、第一外国語でいっていないレベルには、第二外国語でもいかない可能性が高いのです。

《『外国語学習限界突破法』／3 第二外国語を学ぶ心構え》

厳しい言葉に聞こえるかもしれない。しかし、裏を返せばこうである。**英語を深く掘るほど、ドイツ語は速くなる**。どちらかを選ぶ話ではなく、**英語を捨てないままドイツ語をやるのが正しい**。

総裁は、到達の目安についても具体的に語っておられる。

第一外国語が、ある程度までいっていれば、例えば、英語なら英検一級のレベルぐらいまで到達していれば、第二外国語で、英検で言うところの準一級か二級のレベルぐらいまで到達することは、それほど難しくはないでしょう。

《『外国語学習限界突破法』／3 第二外国語を学ぶ心構え》

★本書の目標も、そこに置いてある。

一年で独検 5 級・4 級、そして 3 級の入口まで。

これは「英検準一級か二級のレベルぐらい」に当たる。

無理な目標ではない。ただし、英語の手を抜けば届かない。

後期からは、英語の勉強も一緒に続けていこう。

第8章 話法の助動詞・未来形 【4級】

【第16回（後期）】

同じ週の次の時間の会話は 第16回「「できます」「すべきです」を伝える」

【独検4級レベル】

この章の到達目標

1. 話法の助動詞（können, müssen, wollen など）を正しく活用し、文を作れる
2. 未来形（werden + 不定詞）を使って、未来の出来事を表現できる
3. 定動詞と不定詞が文の「枠」を作る「枠構造」を理解できる
4. 「蓮の華」というたとえを通して、「志と意志」「ユートピア建設」「未来社会」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 話法の助動詞（Modalverben）

話法の助動詞は、動詞の意味に「～できる」「～しなければならない」「～したい」といった話し手の意志や可能性などを加える動詞です。ドイツ語には6つの主要な話法の助動詞があります。

特徴:

- ・ **定動詞第2位**: 人称変化した話法の助動詞が文の2番目に置かれます。
- ・ **不定詞は文末**: 意味の中心となる動詞は不定詞の形で文末に置かれます。
- ・ **不規則活用**: 1人称単数と3人称単数が同じ形（語尾なし）になり、sollen を除いて単数では幹母音も変化します。

助動詞	意味	ich	du	er/sie/es	wir	ihr	sie/Sie
können	～できる	kann	kannst	kann	können	könnt	können
müssen	～しなければならない	muss	musst	muss	müssen	müsst	müssen
wollen JK16-9	～したい	will	willst	will	wollen	wollt	wollen
dürfen JK16-10	～してもよい	darf	darfst	darf	dürfen	dürft	dürfen
sollen	～すべきである	soll	sollst	soll	sollen	sollt	sollen
mögen	～を好む	mag	magst	mag	mögen	mögt	mögen

※ 「～したいのですが」という丁寧な願望には、mögen から派生した **möchte** を使うのが普通: ich möchte, du möchtest, er möchte, wir möchten, ihr möchtet, sie/Sie möchten。独検では möchte が頻出（例: Ich **möchte** Deutsch **lernen**。私はドイツ語を学びたいのですが）。

例文:

- ・ Ich **kann** Deutsch **sprechen**.（私はドイツ語を話すことができます。）
- ・ Wir **müssen** die Wahrheit **lernen**.（私たちは真理を学ばなければなりません。）
- ・ Er **will** die Utopie **bauen**.（彼はユートピアを建設したいと思っています。）

● 1-2. 未来形（Futur I）

未来形は、werden の人称変化形と動詞の不定詞を組み合わせて作ります。

werden の活用（「～になる」の werden とは意味が異なります）:

人称	単数	人称	複数
ich	werde	wir	werden
du	wirst	ihr	werdet
er/sie/es	wird	sie/Sie	werden

未来形の作り方:

- ・ **定動詞第2位**: 人称変化した werden が文の2番目に置かれます。
- ・ **不定詞は文末**: 意味の中心となる動詞は不定詞の形で文末に置かれます。

例文:

- ・ Ich **werde** die Wahrheit **lehren**.（私は真理を教えるでしょう。）
- ・ Wir **werden** eine glückliche Zukunftsgesellschaft **schaffen**.（私たちは幸福な未来社会を創造するでしょう。）

● 1-3. 枠構造 (Satzklammer)

話法の助動詞や未来形を使う文では、**人称変化した動詞（定動詞）**が文の2番目に、**不定詞**が文の最後に置かれ、文全体を「枠」のように挟み込みます。これを**枠構造**と呼びます。

[主語/その他の要素] + [定動詞] + [その他の要素] + [不定詞]

- ・ **Ich kann heute Deutsch lernen.** (私は今日ドイツ語を学ぶことができます。)
- ・ **Wir werden bald die Utopie bauen.** (私たちはまもなくユートピアを建設するでしょう。)

● 1-4. 文と文をつなぐ und・aber・oder・denn (独検4級)

この章までで、主文を二つ並べて言いたくなる場面が増える。**und** (そして)・**aber** (しかし)・**oder** (または)・**denn** (というのも) は、**語順を変えない接続詞**である。接続詞のあとも、ふつうどおり**定動詞は2番目**。

ドイツ語	日本語
Ich will lernen, und ich kann lernen.	私は学びたいし、学ぶことができます
Ich muss arbeiten, aber ich will beten.	私は働かねばなりません、祈りたいのです
Willst du lesen oder schlafen?	読むの、それとも寝るの?
Wir müssen geben, denn Liebe ist geben.	私たちは与えねばなりません。というのも、愛とは与えることだからです

★ 接続詞そのものは「1番目」に数えない。**denn**のあとも *Liebe ist geben* と動詞は2番目。
動詞が文末へ飛ぶ **weil** (～なので) とは別物で、それは第12章で学ぶ。

2. 英語と比べる —— 助動詞は「よく似た兄弟」、語順だけが別の道を行った

● ここが同じ！

話法の助動詞は、英語との対応がきわめてはっきりしています。形も意味もほぼ兄弟です。

ドイツ語	英語	意味
können	can	～できる
müssen	must	～しなければならない
sollen	shall / should	～すべきだ
wollen JK16-9	will (意志)	～するつもりだ
dürfen JK16-10	may (許可)	～してもよい
mögen / möchte	may / would like	～かもしれない／～したい

können と *can*、*müssen* と *must*、*wollen* と *will* —— 綴りを見ただけで対応が分かります。**意味を覚え直す必要はほとんどありません。**

もう一つ、重要な共通点があります。**助動詞のあとの動詞は、原形（不定詞）のまま**という点です。*I can go.* / *Ich kann gehen.* 英語で *I can to go* と言わないのと同じく、ドイツ語でも *zu* を付けません。

● ここが違う！

① 位置 —— 英語は隣り合い、ドイツ語は文を挟む（枠構造）

これが最大の違いです。

ドイツ語	英語
Wir wollen die Wahrheit lernen .	We want to learn the Truth.
Wir können heute die Lehre verstehen .	We can understand the teaching today.

英語は *want to learn*, *can understand* と、**助動詞と本動詞がくっつきます**。ドイツ語は助動詞を2番目に置き、**本動詞を文末に飛ばして**、その間の全部を抱え込みます。この構造を**枠構造 (Satzklammer)**といいます。

つまりドイツ語は、最後まで聞かないと「何をするのか」が分からない言語です。「私たちは望む……真理を……学ぶことを」という順番なのです。

② 助動詞なのに、きちんと人称変化する

英語の助動詞は変化しません。*I can / he can*、*I must / he must* です。(*he cans* とは言いません。)

ドイツ語の助動詞は**人称変化する**。*ich kann / du kannst / er kann / wir können* —— ただし、1人称単数と3人称単数が同じ形 (どちらも *kann*) という特徴があります。

③ 未来形は、あまり使わない

ドイツ語は **werden + 不定詞**で未来を作れますが、日常では**現在形で未来を表す**のがふつうです。

- ・ **Morgen lerne ich die Wahrheit.** (明日、私は真理を学びます) ← 現在形のまま

- ・英語では *Tomorrow I will learn ...* と *will* が要ります。
ドイツ語の *werden* + 不定詞は、未来というより「きっと〜だろう」という推量の色を帯びます。

★英語からの乗り換え注意

- ・× *Ich kann zu gehen.* → ○ *Ich kann gehen.* (*zu* は不要)
- ・× *Wir wollen lernen die Wahrheit.* → ○ *Wir wollen die Wahrheit lernen.* (本動詞は文末)
- ・× *müssen* の否定に注意。ここは英語と意味がずれる要注意ポイントです。

ドイツ語	意味	英語
Du musst nicht gehen.	行く必要はない	You don't have to go.
Du darfst nicht gehen.	行っちゃいけない	You must not go.

英語の *must not* (禁止) を *müssen ... nicht* と訳すと、「～しなくてよい」というまったく逆の意味になってしまいます。禁止は必ず *dürfen ... nicht* です。

●英語が見えてくる！

英語で *I can, he can* とは言えるのに、*he cans* と言えないのはなぜでしょうか。また *I must to go* と言えないのはなぜでしょうか。

英語の助動詞は、文法的に「不完全な動詞」と呼ばれます。3単現の *-s* が付かず、不定詞 *to* も取らず、過去形の形も歪んでいます (*can* → *could*)。

その理由は、これらの語がもともと「過去現在動詞」という特殊な一群だったからです。かつて過去形だったものが現在の意味で使われるようになり、その結果、**現在形なのに過去形の変化パターンを持つ**という、ねじれた姿になったのです。

ドイツ語の話法の助動詞が、***ich kann / er kann*** と「1人称単数と3人称単数が同じ」という奇妙な形をしているのも、まったく同じ理由です。過去形はもともと、この2つが同形だったからです。

英語の *can / must / may* の変わり者ぶりは、ドイツ語を見れば納得がいきます。二つの言語が、同じ古傷を抱えているのです。

コラム ベートーヴェンの『第九』は、星の天幕の上の「父」を歌っている

この章で *müssen* を学んだ。「～しなければならない」だけではない。ドイツ語の *müssen* には、「～に違いない」という確信を表す用法がある。その最も有名な一文が、ベートーヴェン (1770–1827) の交響曲第九番の終楽章にある。

**Brüder, überm Sternenzelt
muss ein lieber Vater wohnen.**

兄弟たちよ、星の天幕の上には愛する父が住んでいるに違いない。

(シラー「歓喜に寄す」／ベートーヴェン『第九』第4楽章)

語	説明
Brüder	<i>der Bruder</i> (兄弟) の複数。ウムラウト型 (第4章)
überm	<i>über dem</i> の融合形 (第6章)。「～の上方に」= 3格 (場所)
das Sternenzelt	<i>Stern</i> (星) + <i>Zelt</i> (テント・天幕) = 星の天幕 、夜空。古い詩語
muss ... wohnen	<i>müssen</i> の確信用法 。「住んでいるに違いない」。梓構造 (1-3)
ein lieber Vater	<i>lieb</i> (愛する) が男性1格・混合変化で <i>-er</i> (第17章で学ぶ)

この詩はさらに続く。

**Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such ihn überm Sternenzelt!
Über Sternen muss er wohnen.**

ひれ伏すか、幾百万の人々よ。

世界よ、おまえは創造主を感じるか。

星の天幕の上にその方を求めよ。

星々の上に、その方は住んでいるに違いない。

語	説明
stürzt nieder	<i>niederstürzen</i> (ひれ伏す)。分離動詞 (対策学習編3)
ahnest	<i>ahnen</i> (予感する・感じ取る) の <i>du</i> 形
der Schöpfer	創造主 。本書の最重要語のひとつ (付録7)
Such ihn!	<i>suchen</i> の <i>du</i> に対する命令形 (対策学習編3)。 <i>ihn</i> = 創造主を
muss er wohnen	ふたたび <i>müssen</i> の確信 。文頭が <i>Über Sternen</i> なので定動詞が2番目、主語が後ろへ

● 耳が聞こえないなかで、なぜ「歓喜」を歌えたのか

ベートーヴェンは27歳ごろから聴力を失いはじめ、47歳でほぼ完全に聾となった。『第九』はその後、53歳で完成した作品である。総裁は、この生涯についてこう述べておられる。

「苦悩という言葉で思い浮かぶのは、あのベートーヴェンです。耳が聞こえなくなっていくなかで音楽をつくりつづけるという苦悩を考えると、ベートーヴェンのような人生を自分も送りたいとは、誰も思わないでしょうが、そこには、ひたむきに生きた人間の姿があり、魂が光っていると言えます」

《『不動心』第3章「苦悩との対決」／1 苦悩の諸相》

そしてベートーヴェン自身は、霊言のなかで、その人生をこう振り返っている。

「私の人生もそうでありましょう。『耳が聞こえずとも、やはり、壮大な、神の音楽の世界を、この世に伝えねばならない』ということであったと思います」

《『大川隆法霊言全集』第39巻／第1章 苦悩を乗り越えて生きる／5 運命の力を撥ね除けて》

「悲しみが深ければ深いほど、喜びもまた高いのです。地獄の奈落を経験するからこそ、天国への飛翔が、素晴らしいものとなってゆくのです。その落差こそが、音楽のスケールの大きさとなってゆくのです」

《『大川隆法霊言全集』第39巻／第1章 苦悩を乗り越えて生きる／5 運命の力を撥ね除けて》

ここで、歌詞に戻ってほしい。『第九』の「歓喜」は、この世の楽しみではない。星の天幕の向こうに創造主＝父がおられると確信し、そこに向かって「求めよ」と呼びかける歌である。ドイツ語の *muss* は、ここでは命令ではなく確信——耳を失った作曲家が、聞こえない音楽のなかで、聞こえているものを歌ったのである。

★『永遠の法』には、こうある。

「結局、いろいろな試練を与えられる人は、それだけ光に近いところにいるのです。喜びのなかにいれば天国は近いけれども、悲しみの底にも天国は近づいている。そして、その悲しみの底を打ち抜いて光を手にしたとき、そこに天国が現れる——。世の人々は、このことを知らねばなりません」

《『永遠の法』第2章「五次元の世界」／8 光ある者よ》

悲しみの底を打ち抜いた先の光——それが『第九』の *Freude* である。

★なお、この「父」をわれわれがどう受け取るかは、第4章のコラム（ベートーヴェンが語る菩薩界）と、巻末付録7（創造主を表すドイツ語）を合わせて読んでほしい。

創造主・造物主とは、本書が一貫して *der Schöpfer* と呼んできた方である。

Über Sternen muss er wohnen. —— ドイツ語圏の人びとは、この一文を子どものころから歌って育つ。

伝道の場で、この一文から話を始められる人は強い。

★文法のまとめ：*müssen* の二つの顔

| 用法 | 例 | 意味 |

| :---|:---|:---|

| 義務 | *Ich muss lernen.* | 学ばなければならない |

| 確信 | *Er muss zu Hause sein.* | 家にいるに違いない |

英語の *must* にもまったく同じ二つの顔がある (*You must go.* / *He must be at home.*)。

ここは英語がそのまま使える。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

この章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「蓮の華のたとえ」を中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳（参考）、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Der Lotus will blühen. ㊦8-1

蓮は花を咲かせたいと思っています。

〈英〉The lotus wants to bloom.

▷ *wollen* (～したい) の *er* 形。

☆ 釈尊は「蓮の華のたとえ」を説かれました。すでに水面で見事に咲いている蓮、泥の中に埋もれてなかなか出てこない蓮、もう少しで水面に顔を出しそうな蓮——人にはそれぞれ悟りへの段階があり、伝道はその段階に応じて行うべきだという教えです。

《伝道の基本として、釈尊は二千五百年前に「蓮の華のたとえ」というものを説きました——『人生の羅針盤』No.80》

2. Der Lotus muss noch wachsen. ㊦8-2

蓮はまだ成長しなければなりません。

〈英〉The lotus still must grow.

▷ *müssen* (～しなければならない) の *er/sie/es* 形。noch (まだ) は副詞。

《泥のなかに埋まり、なかなか水面に出てこない蓮——『人生の羅針盤』No.80》

3. Wir können dem Lotus helfen. ㊦8-3

私たちはその蓮を助けることができます。

〈英〉We can help the lotus.

▷ können + helfen (3格支配)。dem Lotus は3格。

☆ 「もう少しで水面に出そうな蓮を少し努力して助けてあげれば、見事に華を開かせる」——これが最も伝道が必要な人へのたとえです。

《この蓮を少し努力して助けてあげれば、その蓮は見事に首を出し、華を開かせるであろう——『人生の羅針盤』No.80》

4. Der Lotus wird bald blühen. J8-4

その蓮はまもなく花を咲かせるでしょう。

〈英〉The lotus will bloom soon.

▷ werden + blühen (未来形)。bald (まもなく)。

5. Wir können die Wahrheit lernen. J8-5

私たちは真理を学ぶことができます。

〈英〉We can learn the truth.

▷ können (～できる) の wir 形。

6. Jeder Mensch muss ein hohes Ziel haben. J8-6

すべての人は高い志を持たなければなりません。

〈英〉Every person must have a high goal.

▷ müssen (～しなければならない) の er/sie/es 形。ein hohes Ziel (高い志・目標) は決まり文句として覚える。

《高き志を持つ》

7. Wir wollen die Utopie bauen. J8-7

私たちはユートピアを建設したいです。

〈英〉We want to build a utopia.

▷ wollen (～したい) の wir 形。

《愛と悟りとユートピア建設に集約される——「幸福の法」講義1第1章》

8. Du sollst die Liebe geben. J8-8

あなたは愛を与えるべきです。

〈英〉You should give love.

▷ sollen (～すべきである) の du 形。

《「まず与える愛から始めよ」——『幸福の原点』第1章》

9. Ich darf die Lehre verbreiten. J8-9

私は教えを広めてもよいです。

〈英〉I may spread the teaching.

▷ dürfen (～してもよい) の ich 形。die Lehre (教え) は4格。

10. Er möchte die Zukunftsgesellschaft sehen. J8-10

彼は未来社会を見たいと思っています。

〈英〉He would like to see the future society.

▷ möchte (～したい)。mögen から派生した丁寧な願望の形(解説1-1参照)。

11. Wir werden eine glückliche Zukunftsgesellschaft schaffen. J8-11

私たちは幸福な未来社会を創造するでしょう。

〈英〉We will create a happy future society.

▷ werden + schaffen (創造する)。

《未来社会における望ましい「人間と社会のあり方」とは——『「人間学概論」講義』第5章》

12. Die Utopie wird durch unsere Anstrengung entstehen. J8-12

ユートピアは私たちの努力によって生じるでしょう。

〈英〉Utopia will arise through our effort.

▷ werden + entstehen (生じる)。durch + 4格 (～によって)。Anstrengung (努力)。

《神仏の心に適った仕事の実現によって、ユートピア建設が進む——『不況に打ち克つ仕事法』第3章》

13. Die Zukunftsgesellschaft wird auf den Worten des Herrn basieren. J8-13

未来社会は主の言葉に基づくだろう。

〈英〉The future society will be based on the Lord's words.

▷ werden + basieren (基づく)。auf + 3格 (～の上に)。des Herrn (主の) は2格。

《未来社会は、私の言葉の上に築かれる——『救世の法』第6章》

14. Jeder Mensch kann zum Utopiebau beitragen. J8-14

すべての人はユートピア建設に貢献できます。

〈英〉Every person can contribute to building utopia.

▷ können + beitragen (貢献する)。zum = zu dem (～へ)。

《目標とすべきユートピア達成度、すなわち、ユートピア建設のための仕事量——「ユートピア価値革命」第3章》

15. Wir müssen den Willen Gottes erfüllen. J8-15

私たちは神の意志を成就しなければなりません。

〈英〉We must fulfill God's will.

▷ müssen + erfüllen (成就する)。den Willen (意志) は4格。Gottes (神の) は2格。

◆ ◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— ときにライオンのように

「こうした人たちは、いったん火がつけば、燃え上がる草原の炎のようにもなり、また、ライオンのごとく猛り狂うことさえ可能だと思うのです」

——《『仕事と愛』第6章「休日の効果」／3 ベストコンディションで仕事をする》

16. Wir können wie ein Löwe mutig sein. Ⅱ8-16

私たちはライオンのように勇敢であることができます。

〈英〉 We can be brave like a lion.

- ▷ 枠構造。können (2 番目) ... sein (文末) で文を挟みます。英語の *can be brave* は助動詞と動詞が隣り合いますが、ドイツ語は離れます。

17. Der Mensch muss das Feuer im Herzen bewahren. Ⅱ8-17

人は心のなかの火を保たなければなりません。

〈英〉 A person must keep the fire in the heart.

- ▷ muss (2 番目) ... bewahren (文末)。ここでも枠構造です。

☆ 「いったん火がつけば」——教えに触れて灯った火を、絶やさぬことが大切だ、というたとえです。

18. Du darfst nicht müde werden. Ⅱ8-18

あなたは疲れ果ててしまてはいけません。

〈英〉 You must not grow weary.

- ▷ 禁止は dürfen ... nicht です。ここを *musst nicht* にすると「疲れる必要はない」という、まったく違う意味になってしまいます。

19. Wir werden die Wahrheit verbreiten. Ⅱ8-19

私たちは真理を広めていくでしょう。

〈英〉 We will spread the Truth.

- ▷ werden + 不定詞の未来形。ドイツ語では、単に未来のことを言うだけなら現在形 (*Wir verbreiten die Wahrheit.*) で十分です。
werden を使うと「きっとそうなる」という意志と確信の色が加わります。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味
können	助動	～できる
müssen	助動	～しなければならない
wollen	助動	～したい
dürfen	助動	～してもよい
sollen	助動	～すべきである
mögen	助動	～を好む / ～したい
werden	助動	(未来形を作る)
bauen	動	建てる、建設する
schaffen	動	創造する
lehren	動	教える
verbreiten	動	広める
sehen	動	見る
entstehen	動	生じる、発生する
basieren	動	基づく
beitragen	動	貢献する
erfüllen	動	成就する、満たす
das Ziel	中	目標 (ein hohes Ziel = 高い志)
möchte	助動	～したい (丁寧な願望)
der Wille	男	意志
die Utopie	女	ユートピア
der Bau	男	建設
die Zukunftsgesellschaft	女	未来社会
die Anstrengung	女	努力
das Wort	中	言葉
die Lehre	女	教義、教え
der Lotus	男	蓮 (はず)
blühen	動	花を咲かせる
glücklich	形	幸福な
hoch	形	高い
bald	副	まもなく
noch	副	まだ
immer	副	いつも
durch	前置詞	～によって (4 格支配)
zu	前置詞	～へ、～のために (3 格支配)
der Löwe, -n	男	ライオン
das Feuer, -	中	火
bewahren	動	守り保つ

ドイツ語	性	意味
müde	形	疲れた

5. 練習問題（独検4級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を1つ選びなさい。

- (1) Wir () die Utopie bauen.
1 will 2 wollen 3 wollt 4 wirst
- (2) Du () ein hohes Ziel haben.
1 musst 2 muss 3 müsst 4 müssen
- (3) Ich () die Wahrheit lehren.
1 werde 2 wirst 3 wird 4 werden
- (4) Jeder Mensch () zum Utopiebau beitragen.
1 kann 2 kannst 3 könnt 4 können
- (5) Die Zukunftsgesellschaft () glücklich sein.
1 werde 2 wirst 3 wird 4 werden
- (6) Wir () dem Lotus helfen.
1 kann 2 kannst 3 können 4 könnt

● B. () の動詞を正しい形にして下線部に入れなさい。

- (1) Wir _____ die Liebe geben. (sollen) (2) Er _____ die Lehre verbreiten. (dürfen) (3) Ich _____ die Wahrheit immer lernen. (wollen)
- (4) Ihr _____ eine glückliche Gesellschaft schaffen. (werden) (5) Du _____ die Zukunft sehen. (können) (6) Der Lotus _____ noch wachsen. (müssen)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) die Utopie / wir / bauen / müssen → 「私たちはユートピアを建設しなければならない」 (2) wird / entstehen / durch unsere Anstrengung / die Utopie → 「ユートピアは私たちの努力によって生じるだろう」 (3) ein hohes Ziel / haben / jeder Mensch / soll → 「すべての人は高い志を持つべきである」 (4) wird / bald / blühen / der Lotus → 「その蓮はまもなく花を咲かせるでしょう」 ♪8-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X Ich kann zu gehen. (I can to go の直訳) → (2) X Wir wollen lernen die Wahrheit. (英語の語順のまま) → (3) X Du musst nicht gehen. 「行ってはいけない」の意味で使った → (4) 英語の助動詞が he cans とならない理由を、ドイツ語の ich kann / er kann と結びつけて説明しなさい。

● E. 心に刺むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) Wir _____ wie ein Löwe mutig _____. (ライオンのように勇敢であることができます) (2) Der Mensch _____ das Feuer im Herzen _____. (人は心のなかの火を保たねばなりません) (3) Du _____ nicht müde werden. (疲れ果ててしまてはいけません)

● 解答

A: (1) 2 (2) 1 (3) 1 (4) 1 (5) 3 (6) 3 B: (1) sollen (2) darf (3) will (4) werdet (5) kannst (6) muss C: (1) Wir müssen die Utopie bauen.

(2) Die Utopie wird durch unsere Anstrengung entstehen.

(3) Jeder Mensch soll ein hohes Ziel haben.

(4) Der Lotus wird bald blühen. D: (1) Ich kann gehen. (2) Wir wollen die Wahrheit lernen. (本動詞は文末)

(3) Du darfst nicht gehen. (禁止は dürfen ... nicht)

(4) どちらも「過去現在動詞」に由来し、現在形なのに過去形の変化を引き継いでいるから。

そのため独語では1人称単数と3人称単数が同形になる。E: (1) können / sein (2) muss / bewahren (3) darfst

6. 法話メモ —— 蓮の華のたとえと、未来を創造する意志

『人生の羅針盤』No.80で、大川隆法総裁は「蓮の華のたとえ」を説かれています。ある蓮はすでに水面で見事に大輪の花を咲かせている。ある蓮は泥のなかに埋まり、なかなか水面に出てこない。そして、ある蓮は、もう少しで水面に顔を出しそうなところにある——。伝道において最も大切にすべきは、この三番目の蓮、すなわち「もう少しで悟りに届きそうな人」に手を差し伸べることだと説かれています。**Wir können dem Lotus helfen.** という文は、まさにこの「もう少しで水面に出そうな蓮を少し努力して助けてあげれば、見事に華を開かせる」という教えを表しています。

大川隆法総裁は、未来社会の建設についても繰り返し説かれています。『救世の法』第6章では、「未来社会は、私の言葉の上に築かれなければならない」と述べられ、その実現には私たちの強い意志と志が不可欠であることを示唆されています。

この章で学んだ話法の助動詞は、まさにその「意志」や「志」を表現するのに役立ちます。「～したい(wollen)」 「～すべきである(sollen)」 「～しなければならない(müssen)」といった言葉は、未来を創造する私たちの決意を表します。そして未来形は、蓮がやがて花を咲かせるように、その決意が現実となる未来を描き出す力となります。

Der Lotus wird bald blühen. Wir werden die Utopie schaffen!

◆ 学びのことは

「もうひと粘り、もうひと頑張り、苦しみつつ前進していこう」

《『黒帯英語五段⑨』まえがき》

対策学習編 3 分離動詞・命令形 【4 級】

【第 17 回（後期）】

同じ週の次の時間の会話は 第 17 回「「一緒にしましょう」と誘う」

〔独検 4 級レベル〕

この章の到達目標

1. 分離動詞の仕組みを理解し、正しく活用できる
2. du/ihr/Sie の命令形を使い分け、指示や呼びかけができる
3. 「電磁石」というたとえを通して、「立ち上がれ」「目覚めよ」「勇気を持って」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 分離動詞 (trennbare Verben)

ドイツ語には、動詞の前に付く**前つづり (Vorsilbe)**が、文中で動詞本体から離れて文末に移動する動詞があります。これを**分離動詞**と呼びます。

分離前つづりは、動詞の意味を具体化したり、新しい意味を与えたりします。例: **stehen** (立つ) → **aufstehen** (立ち上がる)

1-1-1. 分離動詞の活用

定動詞が文の 2 番目に置かれるとき、分離前つづりは**文末**に移動します。これは、以前学習した「枠構造」の一部と考えることができます。

例: **aufstehen** (立ち上がる)

人称	単数	人称	複数
ich	stehe ... auf	wir	stehen ... auf
du	stehst ... auf	ihr	steht ... auf
er/sie/es	steht ... auf	sie/Sie	stehen ... auf

よく使われる分離前つづり: an-, auf-, aus-, ein-, mit-, vor-, zu-, zurück-, ab-, her-, hin-, weg-, nach-, fest-, los- など

例:

- ・ Ich stehe früh auf. (私は早く起きます。)
- ・ Wir kommen mit. (私たちは一緒に行きます。)
- ・ Er ruft seine Freunde an. (彼は友達に電話をかけます。)

● 1-2. 命令形 (Imperativ)

命令形は、相手に何かをするように指示したり、呼びかけたりするときに使います。相手が誰かによって、**du** (親しい相手一人)、**ihr** (親しい相手複数)、**Sie** (丁寧な相手一人・複数) の 3 つの形があります。

人称	作り方	例: stehen (立つ)	例: aufstehen (立ち上がる)
du	動詞の語幹のみ (-e は付けてもよいが、ふつうは付けない)	Steh!	Steh auf!
ihr	定動詞の ihr 形と同じ	Steht!	Steht auf!
Sie	不定詞 + Sie	Stehen Sie!	Stehen Sie auf!

1-2-1. du 形の注意点

1. 語幹が -t, -d などで終わる場合: 発音のしやすさから必ず **-e** が付きます。例: arbeiten → Arbeite! (働け!)
2. a → ä 型の動詞: 命令形ではウムラウトしません。例: fahren → Fahr! (行け!); schlafen → Schlaf! (眠れ!)
3. e → i / ie 型の動詞: 命令形でも母音変化を残します (-e は付けない)。例: sprechen → Sprich! (話せ!); lesen → Lies! (読め!); geben → Gib! (与えよ!)
4. 不規則動詞の命令形:
 - ・ sein (～である): Sei! (du), Seid! (ihr), Seien Sie! (Sie)
 - ・ haben (持っている): Hab! (du), Habt! (ihr), Haben Sie! (Sie)
 - ・ werden (～になる): Werde! (du), Werdet! (ihr), Werden Sie! (Sie)

1-2-2. 分離動詞の命令形

分離前つづりは、命令形でも**文末**に置かれます。

例:

- ・ Steh auf! (立ち上がれ!)
- ・ Wach auf! (目覚めよ!)

- ・ **Kommen Sie mit!** (ご一緒にお越しください!)

2. 英語と比べる —— 分離動詞の正体は「英語の句動詞」

● 分離動詞 —— stand up の up が、後ろに飛んでいくだけ

「動詞が2つに割れて、前つづりが文末に飛ぶ」と聞くと、いかにも奇怪に思えます。しかし英語話者にとって、これは完全に既知の現象です。

英語には *pick up* / *turn on* / *give up* のような句動詞があり、目的語が代名詞のときは、副詞が後ろに回ります。

- ・ *Please pick up the book.* → *Please pick it up.* (up が後ろに飛ぶ)
- ・ *Turn on the light.* → *Turn it on.*

ドイツ語の分離動詞は、これを常にやっているだけです。

ドイツ語	英語
Ich stehe früh auf .	I get up early.
Ich wache auf .	I wake up .
Er hört mir zu .	He listens to me.
Wir fangen heute an .	We begin today.

aufstehen = *auf* (up) + *stehen* (stand) = **stand up**。語の部品まで英語と同じです。ドイツ語はその *auf* を、文末に置くというルールにただけなのです。

★ここでも「枠構造」

Ich *stehe* ... *auf*. と、動詞の本体が2番目、前つづりが文末。

第8章で学んだ枠構造と、まったく同じ形です。ドイツ語の一貫した癖だと分かります。

● 命令形 —— ここは英語のほうが単純

● ここが同じ!

- ・ 命令文では主語を言わないのが基本です。Come! / Komm!
- ・ 動詞を文頭に置く点も同じです。

● ここが違う!

英語の命令形は、相手が誰でも原形ひとつです。ドイツ語は、相手によって3つあります。

相手	ドイツ語	英語
du (親しい1人)	Lerne die Wahrheit!	Learn the Truth!
ihr (親しい複数)	Lernt die Wahrheit!	Learn the Truth!
Sie (敬称)	Lernen Sie die Wahrheit!	Learn the Truth!

- ・ **du** に対する命令だけ、語尾が消えます (*du lernst* → **Lern(e)!**)。
- ・ **Sie** に対する命令だけ、主語 **Sie** を言います (*Lernen Sie!*)。これは英語にない習慣です。
- ・ 母音が **e** → **i** に変わる動詞は、命令形でも変わります。 *sprechen* → **Sprich!**、*geben* → **Gib!**、*sehen* → **Sieh!** (ただし **a** → **ä** 型は変わりません。 *fahren* → **Fahr!**)

● ★英語からの乗り換え注意

- ・ X *Auf stehe!* / *Stehe auf früh!* → O **Steh früh auf!** (前つづりは必ず文末)
- ・ X *Sprech!* → O **Sprich!** (e → i 型は命令形でも母音が変わる)
- ・ X *Lernen!* を du への命令として使う → O **Lern(e)!**
- ・ 分離動詞は、辞書ではくつついた形 (**aufstehen**) で載っています。アクセントが前つづりにあるもの (**aufstehen**) が分離動詞、後ろにあるもの (**verstehen**) は非分離です。発音を覚えれば見分けられます。

● 英語が見えてくる!

英語の *understand* を、なぜ *under* + *stand* と分けて言わないのでしょうか。 *I stand it under.* とは絶対に言いません。

一方 *stand up* は *stand it up* と分けられます。同じ *stand*なのに、なぜ違うのでしょうか。

ドイツ語には、この答えがはっきりした形で残っています。

- ・ 分離動詞 (アクセントが前つづり) ... **aufstehen** → Ich *stehe auf*. (分かれる)
- ・ 非分離動詞 (アクセントが動詞側) ... *verstehen* → Ich *verstehe*. (分けない)

英語の *understand* は、ドイツ語でいう非分離動詞の仲間です。前つづりが動詞と固く結びつき、もはや切り離せない一語になっているのです。(ドイツ語の対応語 *verstehen* も、まったく同じく分離しません。)

アクセントの位置が、語のくつつき方を決める——これは英語にもドイツ語にも共通する、深いところの法則なのです。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「電磁石」というたとえを中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字=ドイツ語文、次の行=日本語訳、〈英〉=英語訳(参考)、▷=文法ポイント、☆=ニュアンス解説、《》=題材とした教えの出典。

1. Wach auf! ♪T3-1

目覚めよ！

〈英〉Wake up!

▷ aufwachen (目覚める) の du 命令形。wachen は規則動詞なので語幹そのまま。

《真実の世界に目覚めよ——『目覚めたる者となるためには』》

2. Werde wie ein Magnet! ♪T3-2

磁石のようになれ！

〈英〉Become like a magnet!

▷ werden (～になる) の du 命令形(不規則)。wie+名詞句で比較。

☆『未来の法』序章では、使命に目覚めることを電磁石にたとえています。電流が流れると鉄が磁力を帯びるように、使命に目覚めた人は、まわりの人々をも同じように変えていく力を持つのです。

《使命に目覚めたとき……それは一種の電磁石のようなものでありましょうか。電流によって、鉄を引きつける磁力が出てくるものにも似ている……この電磁石は、また、他のものたちをも同じような磁石に変えていきます——『未来の法』序章》

3. Steh auf! ♪T3-3

立ち上がれ！

〈英〉Stand up!

▷ aufstehen (立ち上がる) の du 命令形。分離前つづり auf は文末へ。

《勇気を持って——『勇気の法』第 1 章》

4. Hab Mut! ♪T3-4

勇気を持て！

〈英〉Have courage!

▷ haben (持つ) の du 命令形。der Mut (勇気)。

《勇気を持って——『大川隆法霊言全集』第 25 巻 第 3 章》

5. Sei mutig! ♪T3-5

勇気ある者であれ！

〈英〉Be courageous!

▷ sein (～である) の du 命令形。mutig (勇気のある)。

6. Stehen Sie auf und kämpfen Sie! ♪T3-6

立ち上がって戦いなさい！

〈英〉Stand up and fight!

▷ aufstehen と kämpfen (戦う) の Sie 命令形。

7. Wacht auf, ihr Kinder Gottes! ♪T3-7

目覚めよ、神の子らよ！

〈英〉Wake up, children of God!

▷ aufwachen の ihr 命令形。Kinder Gottes (神の子ら)。

《縁生の弟子たちよ、目覚めよ——『目覚めたる者となるためには』》

8. Haben Sie bitte Mut! ♪T3-8

どうか勇気を持ってください！

〈英〉Please have courage!

▷ haben の Sie 命令形。bitte (どうか) は命令文でよく使われる。

9. Wir müssen aufstehen und kämpfen. ♪T3-9

私たちは立ち上がって戦わなければなりません。

〈英〉We must stand up and fight.

▷ müssen (～しなければならない) と分離動詞 aufstehen の平叙文。aufstehen は不定詞なので分離しない。

10. Er wacht jeden Morgen auf. ♪T3-10

彼は毎朝目覚めます。

〈英〉He wakes up every morning.

▷ aufwachen の er 形。jeden Morgen (毎朝)。

11. Gib niemals auf! ♪T3-11

決して諦めるな！

〈英〉Never give up!

▷ aufgeben (諦める) の du 命令形。geben は c→i 型なので Gib。niemals (決して～ない)。

《問題から逃げずに闘う勇気を持って——『Think Big!』第 2 章》

12. Werden Sie ein Licht für die Welt! ♪T3-12

世界の光になりなさい！

〈英〉Become a light for the world!

▷ werden (～になる) の Sie 命令形。das Licht (光)。

☆ 電磁石が磁力でまわりの鉄を磁石に変えていくように、一人が光となれば、その光は世界へと広がっていきます。
《愛は、ちょうど、あの太陽の光のようなものです——『限りなく優しくあれ』第 6 章》

13. Seien Sie stark und glauben Sie an die Wahrheit! ♪T3-13

強くあり、真理を信じなさい！

〈英〉Be strong and believe in the truth!

▷ sein と glauben (信じる) の Sie 命令形。an + 4 格 (～を信じる)。

◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— 勤勉なアリ、勇敢なライオン

「私は、大多数の人々には、アリやハチのように勤勉に生きていたいただきたいと思いますが、幸福の科学の仏法真理に触れて目覚めた人に対しては、ときにライオンのようになっていただきたいと思うことがあるのです」
——《『仕事と愛』第 6 章「休日の効果」／3 ベストコンディションで仕事をする》

14. Arbeite fleißig wie eine Ameise! ♪T3-14

アリのよう勤勉に働きなさい。

〈英〉Work diligently like an ant!

▷ du に対する命令形。du arbeitest から語尾を落として **Arbeite!** (語幹が -t で終わるので、口調上の e を残します。)

15. Kämpfe mutig wie ein Löwe! ♪T3-15

ライオンのように勇敢に戦いなさい。

〈英〉Fight bravely like a lion!

▷ 主語 du は言いません。ここは英語の命令文と同じです。

16. Steh jeden Morgen früh auf! ♪T3-16

毎朝、早く起きなさい。

〈英〉Get up early every morning!

▷ 分離動詞 aufstehen の命令形。前つづり **auf** は文末へ。英語の *Get up* で *up* が後ろに来るのと同じ発想です。

17. Wachen Sie auf und sehen Sie das Licht! ♪T3-17

目を覚まし、光をご覧ください。

〈英〉Wake up and see the light!

▷ Sie に対する命令では、主語 **Sie** を必ず言います (英語にはない習慣)。aufwachen も分離動詞なので、auf は後ろに置かれます。

★覚えておきたい対応

aufstehen = auf (up) + stehen (stand) = 英語の **stand up**。

aufwachen = 英語の **wake up**。

分離動詞は、英語の句動詞 (get up, wake up, give up) と同じ部品でできています。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味
aufstehen	分離動	立ち上がる、起きる
aufwachen	分離動	目覚める
haben	不規則動	持つ
sein	不規則動	～である
werden	不規則動	～になる
kämpfen	規則動	戦う
aufgeben	分離動	諦める
glauben	規則動	信じる
der Mut	男	勇気
das Licht	中	光
die Welt	女	世界
der Magnet	男	磁石
mutig	形	勇気のある
stark	形	強い
niemals	副	決して～ない
bitte	副	どうか、どうぞ
früh	副/形	早く、早い
die Ameise, -n	女	アリ
der Löwe, -n	男	ライオン
fleißig	形	勤勉な

5. 練習問題（独検 4 級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を 1 つ選びなさい。

- (1) () auf! Du musst jetzt handeln.
1 Stehen 2 Stehst 3 Steh 4 Steht
- (2) () Mut! Das ist wichtig.
1 Haben 2 Habt 3 Hab 4 Hast
- (3) () Sie niemals auf!
1 Gibst 2 Geben 3 Gebt 4 Gib
- (4) Ihr () jeden Morgen auf.
1 wacht 2 wachen 3 wachst 4 wache
- (5) () Sie ein Licht für andere!
1 Werde 2 Werden 3 Werdet 4 Wird
- (6) () wie ein Magnet!
1 Werde 2 Werden 3 Werdet 4 Wirst

● B. () の動詞を正しい形にして下線部に入れなさい。

- (1) _____ auf, ihr Freunde! (aufstehen) (2) _____ stark! (sein) (3) Ich _____ meine Freunde an. (anrufen) (4) _____ Sie bitte an die Wahrheit! (glauben) (5) Er _____ nicht auf. (aufgeben)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) auf / wach / ! → 「目覚めよ！」 (du に対して) (2) Mut / habt / ! → 「勇気を持て！」 (ihr に対して) (3) die Welt / für / ein Licht / Sie / werden / ! → 「世界の光になりなさい！」 (4) wie / werde / ein Magnet / ! → 「磁石のようになれ！」 (du に対して) ♪T3-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X Aufstehe früh! → (2) X Sprech! (e → i 型の命令形) → (3) X Kommen mit! (Sie に対する命令) → (4) 英語の stand up は stand it up と分けられるのに、understand は分けられない。

この違いをドイツ語の分離動詞・非分離動詞から説明しなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) _____ fleißig wie eine Ameise! (アリのように勤勉に働きなさい) (2) _____ mutig wie ein Löwe! (ライオンのように勇敢に戦いなさい) (3) Steh jeden Morgen früh _____! (毎朝早く起きなさい)

● 解答

- A: (1) 3 (2) 3 (3) 2 (4) 1 (5) 2 (6) 1 B: (1) Steht (2) Sei (3) rufe (4) Glauben (5) gibt C: (1) Wach auf! (2) Habt Mut! (3) Werden Sie ein Licht für die Welt! (4) Werde wie ein Magnet! D: (1) Steh früh auf! (前つづりは文末) (2) Sprich! (3) Kommen Sie mit! (主語 Sie を言う) (4) アクセントが前つづりにあれば分離 (aufstehen)、動詞側にあれば非分離 (verstehen)。
英語の understand は非分離動詞の仲間で、独語の verstehen も同じく分離しない。 E: (1) Arbeite (2) Kämpfe (3) auf

6. 法話メモ —— 目覚めは電磁石のように広がる

『未来の法』序章「勝利への道」で、大川隆法総裁は、自らの使命に目覚めた経験を「電磁石」にたとえて説かれています。電流が流れることで鉄が磁力を帯びるように、使命に目覚めた人は、それ自体が強くなるだけでなく、まわりの人々や環境をも同じような「磁石」に変えていく力を持つということです。Werde wie ein Magnet! という命令文は、この「目覚めよ、そして人々を動かす力を帯びよ」という教えを表しています。

大川隆法総裁は、『勇気の法』第 1 章などで「勇気を持て」とも繰り返し説かれています。勇気とは、単なる無謀さではなく、善悪を峻別し、真理のために立ち上がり、困難に立ち向かう精神的な力です。勇気を持つことによって人は行動できる、と教えられています。また、『目覚めたる者となるためには』では、真実の世界に目覚め、使命を自覚することの重要性が説かれています。

この章で学んだ命令形を使って、自分自身や周りの人々を鼓舞し、電磁石のように真理の光を広げていく勇気を育んでいきましょう。

Wach auf! Werde wie ein Magnet, und hab Mut!

◆ 学ぶことば

「とにかく、世界の中心にいたければ、英語学習を続けるしか方法はないのだ」
《『黒帯英語六段⑥』まえがき》

準備編 三基本形 【3 級】

【第 18 回（後期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第 18 回「経典の言葉を紹介する」

【独検 3 級レベル】

この章の到達目標

1. 動詞の「不定詞・過去基本形・過去分詞」の三基本形を理解する
2. 規則変化動詞、強変化動詞、混合変化動詞の三基本形を識別し、主要な動詞を覚える
3. 「同じ動詞が三つの姿をとる」というたとえを通して、仏法真理の教えを題材に、様々な動詞の形に慣れる

1. 文法解説

● 1-1. 動詞の三基本形とは

ドイツ語の動詞には、**不定詞 (Infinitiv)**、**過去基本形 (Präteritum)**、**過去分詞 (Partizip II)** という 3 つの基本的な形があります。これらを「三基本形」と呼びます。

これらの形は、過去の出来事を表す「過去形 (Präteritum)」、過去から現在に続く状態や完了した行為を表す「現在完了形 (Perfekt)」、そして「受動態 (Passiv)」を作る上で不可欠です。

例:

- ・ **lernen** (不定詞: 学ぶ)
- ・ **lernte** (過去基本形: 学んだ)
- ・ **gelernt** (過去分詞: 完了形・受動態を作る形)

● 1-2. 規則変化動詞 (schwache Verben) の三基本形

規則変化動詞は、語幹が変化せず、語尾が規則的に変化します。

不定詞 (Infinitiv)	過去基本形 (Präteritum)	過去分詞 (Partizip II)	意味
lernen	lernte	gelernt	学ぶ
machen	machte	gemacht	する
sagen	sagte	gesagt	言う
fragen	fragte	gefragt	尋ねる

ポイント:

- ・ 過去基本形は不定詞の語幹に **-te** を付けます。
- ・ 過去分詞は **ge-** を語頭に付け、語幹に **-t** を付けます。
- ・ 語幹が **-t, -d** で終わる動詞は、発音の便宜上、過去基本形と過去分詞の間に **-e-** が入ります (例: arbeiten → arbeitete → gearbeitet)。

● 1-3. 強変化動詞 (starke Verben) の三基本形

強変化動詞は、過去基本形や過去分詞を作る際に、**語幹の母音**が**変化する**のが特徴です。語尾も規則変化動詞とは異なります。

主要な強変化動詞のパターンを覚えましょう。

不定詞	過去基本形	過去分詞	意味	母音のパターン
essen	aß	gegessen	食べる	e-a-e
geben	gab	gegeben	与える	e-a-e
lesen	las	gelesen	読む	e-a-e
sehen	sah	gesehen	見る	e-a-e
helfen	half	geholfen	助ける	e-a-o
nehmen	nahm	genommen	取る	e-a-o
sprechen	sprach	gesprachen	話す	e-a-o
finden	fand	gefunden	見つける	i-a-u
singen	sang	gesungen	歌う	i-a-u
trinken	trank	getrunken	飲む	i-a-u
kommen	kam	gekommen	来る	o-a-o
stehen	stand	gestanden	立つ	(特殊)
ziehen	zog	gezogen	引く	ie-o-o
werden	wurde	geworden	～になる	(特殊)

ポイント:

- ・ 過去基本形は語幹母音が変化し、ich と er/sie/es では語尾がありません。

- ・過去分詞は **ge-** を語頭に付け、語尾に **-en** を付けます。
- ・「e-a-o」「i-a-u」などの母音パターンでグループごと覚えると効率的です。

不分離動詞と過去分詞

- ・不分離前つづり (be-, emp-, ent-, er-, ge-, ver-, zer-, miss-) を持つ動詞の過去分詞には **ge-** が付きません。例: verstehen (理解する) → verstanden
- ・**-ieren** で終わる動詞の過去分詞にも **ge-** が付きません。例: studieren (勉強する) → studierte → studiert

● 1-4. 混合変化動詞 (gemischte Verben) の三基本形

混合変化動詞は、規則変化と強変化の特徴を併せ持ちます。語幹の母音が変化する（強変化的）一方で、過去基本形では **-te**、過去分詞では **-t** の語尾を取ります（規則変化的）。

不定詞 (Infinitiv)	過去基本形 (Präteritum)	過去分詞 (Partizip II)	意味
bringen	brachte	gebracht	持ってくる
denken	dachte	gedacht	考える
wenden	wandte	gewandt	向ける
wissen	wusste	gewusst	知っている

ポイント:

- ・語幹母音の変化（強変化的）と、語尾 **-te** / **-t**（規則変化的）が共存します。

● 1-5. 助動詞の三基本形

助動詞 (haben, sein, werden, 6つの話法の助動詞) も三基本形を持ちます。

不定詞 (Infinitiv)	過去基本形 (Präteritum)	過去分詞 (Partizip II)	意味
haben	hatte	gehabt	持つ
sein	war	gewesen	～である
werden	wurde	geworden	～になる
können	konnte	gekonnt	～できる
müssen	musste	gemusst	～しなければならない
sollen	sollte	gesollt	～すべきである
wollen	wollte	gewollt	～したい
dürfen	durfte	gedurft	～してもよい
mögen	mochte	gemocht	～が好きである

2. 英語と比べる —— bring-brought は bringen-brachte だった

● ここが同じ！

英語でも、動詞は「**原形**－**過去形**－**過去分詞**」の3つをセットで覚えめました。ドイツ語の**三基本形**は、まさにそれと同じものです。新しい概念ではありません。

	ドイツ語	英語
規則変化	lernen – lernte – gelernt	learn – learned – learned
強変化	singen – sang – gesungen	sing – sang – sung
混合変化	bringen – brachte – gebracht	bring – brought – brought

とりわけ**混合変化**は驚くほど対応します。

ドイツ語	英語
bringen – brachte – gebracht	bring – brought – brought
denken – dachte – gedacht	think – thought – thought
kennen – kannte – gekannt	ken (know) – kennend
wissen – wusste – gewusst	wit – wist (古語)

denken – dachte と think – thought は、**同じ語の兄弟**です。母音も変わり (e→a/i→ou)、しかも歯の音 (t/d) も足されている——「規則変化と不規則変化の混ざったもの」という混合変化の性格まで、英語とそっくりです。

● ここが違う！

① 過去分詞に **ge-** が付く

これは英語にない習慣です。**ge-** + **語幹** + **-t** / **-en** が基本形です。

- ・lernen → gelernt (規則)

- ・ singen → **gesungen** (強変化)

ただし、**過去分詞の -en** のほうは、英語にもはっきり残っています。

ドイツ語	英語
gegeben	given
genommen	taken
gebrochen	broken
geschrieben	written

つまり英語は「**ge-**を捨てて、**-en** だけ残した」のです。

② ge- が付かない 2 つのグループ

- ・ **非分離動詞** (前つづりにアクセントがない) ... verstehen → **verstanden** (ge- なし)
- ・ **-ieren で終わる動詞** (外来語系) ... studieren → **studiert** (ge- なし)

英語の *understand – understood* にも、当然 *ge-* は付きません。「前つづりが付いている語には *ge-* を重ねない」——理屈は英語と同じです。

③ 分離動詞は ge- が「間」に入る

ここはドイツ語独特です。

- ・ **aufstehen** → **auf-ge-standen**

前つづりと本体の間に *ge* が挟まります。英語には対応する現象がありません。

● ★英語からの乗り換え注意

- ・ X *gestehen auf / geaufstanden* → ○ **aufgestanden**
- ・ X *gestudiert* → ○ **studiert** (-ieren 動詞に *ge-* は付けない)
- ・ X *geverstanden* → ○ **verstanden**

- ・ 三基本形は、**英語の不規則動詞表を横に置いて覚えるのがいちばん速い方法**です。英語で不規則なら、ドイツ語でもたいてい強変化。この見当がつくだけで負担は半減します。

● 英語が見えてくる！

英語の *-ed* とドイツ語の *-te*。なぜ両方とも「歯で作る音 (t/d)」なのでしょう。

これは偶然ではなく、**ゲルマン語だけが持つ大発明**です。ラテン語やギリシャ語は、過去形を母音の変化だけで作っていました。ところがゲルマン語は、「**動詞のうしろに do (する) という語をくっつけて過去を表す**」という新しい方法を考え出したのです (諸説のうち有力な説明です)。

learn + did → *learned* *lernen + tat* → *lernte*

つまり英語の *-ed* とドイツ語の *-te* は、**同じ発明の、二つの子孫**なのです。だからこそ、両言語とも「規則動詞＝歯音を足す／不規則動詞＝母音を変える」という、まったく同じ二本立ての構造を持っているのです。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

この章は三基本形を覚える準備の章です。例文は現在形中心ですが、動詞の三基本形を意識して学習しましょう。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳 (参考)、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教への出典。

1. Wir finden die Wahrheit. JP-1

私たちは真理を見つけます。

〈英〉We find the truth.

▷ finden - fand - gefunden (強変化動詞)

《真理の探究——『太陽の法』》

2. Gott gibt uns Liebe. JP-2

神は私たちに愛を与えます。

〈英〉God gives us love.

▷ geben - gab - gegeben (強変化動詞)

《神の愛——『幸福の科学の根本教義』》

3. Jeder Mensch hat eine Mission. JP-3

すべての人間には使命があります。

〈英〉Every human being has a mission.

▷ haben - hatte - gehabt (助動詞)

《人生の使命——『人生の王道を語る』》

4. Die Seele bleibt ewig. JP-4

魂は永遠に存在します。

〈英〉The soul remains eternal.

▷ bleiben - blieb - geblieben (強変化動詞)

☆ この動詞が不定詞・過去基本形・過去分詞という三つの異なる姿をとりながら、同じ一つの動詞であり続けるように、私たちの魂もまた、過去世・現世・来世という異なる「衣」をまといながら、同一の存在として輪廻転生を続けていきます。

《魂の不滅と輪廻転生——『太陽の法』第2章》

5. Wir müssen die Welt ändern. ♪P-5

私たちは世界を変えなければなりません。

〈英〉We must change the world.

▷ müssen - musste - gemusst (助動詞)

《世界を変える力——『未来の法』》

6. Man kann die Lehre verstehen. ♪P-6

人は教えを理解することができます。

〈英〉One can understand the teaching.

▷ können - konnte - gekonnt (助動詞), verstehen - verstand - verstanden (強変化動詞, 不分離動詞)

《智慧による理解——『智慧の法』》

7. Er spricht über die Liebe. ♪P-7

彼は愛について話します。

〈英〉He talks about love.

▷ sprechen - sprach - gesprochen (強変化動詞)

《愛の教え——『太陽の法』第3章》

8. Wir sehen das Licht. ♪P-8

私たちは光を見ます。

〈英〉We see the light.

▷ sehen - sah - gesehen (強変化動詞)

《希望の光——『幸福の原点』》

9. Die Wahrheit hilft uns. ♪P-9

真理は私たちを助けます。

〈英〉The truth helps us.

▷ helfen - half - geholfen (強変化動詞)

《真理の力——『幸福の科学の根本教義』》

10. Wir denken an die Zukunft. ♪P-10

私たちは未来について考えます。

〈英〉We think about the future.

▷ denken - dachte - gedacht (混合変化動詞)

《未来への展望——『未来の法』》

11. Die Liebe bringt Glück. ♪P-11

愛は幸福をもたらします。

〈英〉Love brings happiness.

▷ bringen - brachte - gebracht (混合変化動詞)

《愛と幸福——『幸福の原点』》

12. Wir wissen es: Gott existiert. ♪P-12

私たちは知っています——神は存在する、と。

〈英〉We know it: God exists.

▷ wissen - wusste - gewusst (混合変化動詞)。「～ということを知っている」という dass の文は第12章で学びます。

《神の存在——『幸福の科学の根本教義』》

◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— 亀のごとく

大川隆法総裁は、若き日の歩みを振り返って、繰り返し「亀のごとく」と語られてきました。

「亀のごとくのろろとスタートしながら、やってるうちに、だんだんだんだんよくなっていく」——

早さではなく、やめないことが道を分ける、というたとえです。

——《『若き日のエル・カンターレ』(旧題『平凡からの出発』)》

13. gehen – ging – gegangen : Ich ging wie eine Schildkröte.

私は亀のように歩きました。

〈英〉I walked like a turtle.

▷ 強変化動詞。母音が e → i → a と変わります。英語の go – went – gone も、同じく激しく不規則です。

14. wachsen – wuchs – gewachsen : Der Baum ist langsam gewachsen.

その木はゆっくりと育ちました。

〈英〉The tree has grown slowly.

▷ wachsen (成長する) は sein 支配。「状態の変化」だからです。英語 grow – grew – grown と母音の変わり方まで似ています。

15. bringen – brachte – gebracht : Die Zeit hat die Frucht gebracht.

時が実をもたらしました。

〈英〉Time brought the fruit.

▷ 混合変化。母音も変わり (i → a)、歯音 **-te / -t** も付きます。英語の *bring – brought – brought* と、まったく同じ性格の動詞です。

★公式ドイツ語版では『若き日のエル・カンターレ』のドイツ語版 (*Twiceborn*) には

„Wie eine Schildkröte“ (亀のごとく) という章が置かれ、

„... dass ich mich wie eine Schildkröte durch mein Leben bewegte.“

(私は亀のように人生を歩んできた) と述べられています。

「亀のごとく」という日本語のたとえば、ドイツ語でもそのまま **wie eine Schildkröte** と訳されているのです。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味	三基本形
finden	動	見つける	fand, gefunden
geben	動	与える	gab, gegeben
haben	動	持つ	hatte, gehabt
sein	動	～である	war, gewesen
werden	動	～になる	wurde, geworden
bleiben	動	留まる、～のままでいる	blieb, geblieben
müssen	動	～しなければならない	musste, gemusst
können	動	～できる	konnte, gekonnt
verstehen	動	理解する	verstand, verstanden
sprechen	動	話す	sprach, gesprochen
sehen	動	見る	sah, gesehen
helfen	動	助ける	half, geholfen
denken	動	考える	dachte, gedacht
bringen	動	持ってくる、もたらす	brachte, gebracht
wissen	動	知っている	wusste, gewusst
die Wahrheit	女	真理	
die Liebe	女	愛	
die Mission	女	使命	
die Seele	女	魂	
das Licht	中	光	
das Glück	中	幸福	
die Zukunft	女	未来	
die Lehre	女	教義、教え	
ewig	形/副	永遠に	
über (+4 格)	前	～について	
an (+4 格)	前	～について (考える)	
ändern	動	変える	änderte, geändert
existieren	動	存在する	existierte, existiert
die Schildkröte, -n	女	亀	
die Frucht, -e	女	実、果実	
langsam	形	ゆっくりした	

5. 練習問題 (独検 3 級形式・オリジナル)

● A. 正しい形を 1 つ選びなさい。

- (1) Ich () die Wahrheit.
1 finde 2 fand 3 gefunden 4 finden
- (2) Gott () uns Liebe.
1 gab 2 gibt 3 gegeben 4 geben
- (3) Wir () die Welt ändern.
1 mussten 2 müssen 3 gemusst 4 muss
- (4) Man () die Lehre verstehen.
1 kann 2 konnte 3 gekonnt 4 können
- (5) Die Liebe () Glück.
1 bringt 2 brachte 3 gebracht 4 bringen

● B. () の動詞を正しい現在人称変化形にして下線部に入れなさい。

- (1) Die Seele _____ ewig. (bleiben) (2) Er _____ über die Liebe. (sprechen) (3) Wir _____ das Licht. (sehen) (4) Die Wahrheit _____ uns. (helfen) (5) Wir _____ an die Zukunft. (denken)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

(1) die Wahrheit / wir / finden → 「私たちは真理を見つけます」 (2) Gott / uns / gibt / Liebe → 「神は私たちに愛を与えます」 (3) die Welt / müssen / wir / ändern → 「私たちは世界を変えなければなりません」 JP-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

(1) X *gestudiert* (-ieren 動詞の過去分詞) → (2) X *geverstanden* (非分離動詞の過去分詞) → (3) X *geaufstanden* (分離動詞の過去分詞) → (4) 英語の *bring – brought*、*think – thought* に対応するドイツ語の三基本形を書きなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

(1) Ich _____ wie eine Schildkröte. (私は亀のように歩きました／過去形) (2) Der Baum _____ langsam _____. (その木はゆっくりと育ちました／現在完了) (3) Die Zeit _____ die Frucht _____. (時が実をもたらしました／現在完了)

● 解答

A: (1) 1 (2) 2 (3) 2 (4) 1 (5) 1 B: (1) bleibt (2) spricht (3) sehen (4) hilft (5) denken C: (1) Wir finden die Wahrheit.

(2) Gott gibt uns Liebe.

(3) Wir müssen die Welt ändern. D: (1) studiert (2) verstanden (3) aufgestanden

(4) bringen – brachte – gebracht / denken – dachte – gedacht (いずれも混合変化) E: (1) ging (2) ist / gewachsen (成長は sein 支配)

(3) hat / gebracht

6. 法話メモ —— 同じ動詞が三つの姿をとるように

動詞の三基本形（不定詞・過去基本形・過去分詞）は、一つの動詞が場面に応じて三つの異なる姿をとったものです。

finden は現在では *finden* ですが、過去には *fand*、完了の姿としては *gefunden* となる——しかし、どの姿であっても、それは同じ一つの動詞です。

『太陽の法』第2章では、魂が過去世・現世・来世という異なる肉体という「衣」をまといながら、同一の存在として輪廻転生を続けていくことが説かれています。**Die Seele bleibt ewig.** という文が示すように、姿やあり方は変わっても、本質は変わらない——これは、三基本形が教えてくれる文法の姿と、どこか似ています。

この章で覚えた動詞の三基本形は、この先の過去形・現在完了形・受動態の学習で必ず役立ちます。*Die drei Grundformen sind der Weg zum Glück.* (三基本形は幸福への道です。)

◆ 学びのことば

「本シリーズを読み重ね、使い続けることこそ、上段者への道だと思う」

《『黒帯英語六段⑨』まえがき》

第9章 過去形 【3級】

【第19回（後期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第19回「私の体験を語る（あの頃のこと）」

【独検3級レベル】

この章の到達目標

1. 動詞の過去形（Präteritum）を正しく人称変化させられる
2. 物語や歴史を語る際に過去形を使える
3. 「川の流れ」というたとえを通して、仏陀の生涯や諸行無常、歴史を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 過去形（Präteritum）とは

ドイツ語には過去を表す形がいくつかありますが、**Präteritum（過去形）**は主に**書き言葉や物語、歴史を語る際に**用いられます。口語では完了形（Perfekt）がよく使われますが、Präteritumも重要な時制です。

動詞の過去形は、不定詞、過去基本形、過去分詞の3つの基本形のうち、**過去基本形**を元に作られます。

● 1-2. 規則変化動詞（schwache Verben）の過去形

規則変化動詞の過去形は、**語幹に -te- を挟み、現在人称変化と同じ語尾を付けます**。ただし、**ich と er/sie/es は語尾が同じ -e になります**。

lernen（学ぶ）を例に：

人称	単数	複数
ich	lernte	wir lernten
du	lernstest	ihr lerntet
er/sie/es	lernte	sie lernten
Sie	lernten	Sie lernten

語幹が -t, -d, -ffn, -chn, -gn などで終わる動詞は、発音しやすくするために **-te-** の前に **-e-** が入ります。例: arbeiten（働く）→ ich arbeitete

● 1-3. 強変化動詞（starke Verben）の過去形

強変化動詞の過去形は、**語幹の母音**が変化します。そして、**ich と er/sie/es は語尾がつきません**。

sprechen（話す）を例に：

人称	単数	複数
ich	sprach	wir sprachen
du	sprachst	ihr sprachet
er/sie/es	sprach	sie sprachen
Sie	sprachen	Sie sprachen

強変化動詞の過去基本形は、動詞ごとに覚える必要があります。例: gehen → ging, sehen → sah, kommen → kam, schreiben → schrieb

● 1-4. 混合変化動詞（gemischte Verben）の過去形

混合変化動詞は、**語幹の母音**が変化し、かつ規則変化のように **-te-** を挟みます。

bringen（持ってくる）を例に：

人称	単数	複数
ich	brachte	wir brachten
du	brachtest	ihr brachtet
er/sie/es	brachte	sie brachten
Sie	brachten	Sie brachten

例: denken → dachte, wissen → wusste

● 1-5. 不規則動詞 sein, haben, werden の過去形

これらの重要な動詞は不規則に変化します。

	sein（～である）	haben（持っている）	werden（～になる）
ich	war	hatte	wurde
du	warst	hattest	wurdest

	sein (～である)	haben (持っている)	werden (～になる)
er/sie/es	war	hatte	wurde
wir	waren	hatten	wurden
ihr	wart	hattet	wurdet
sie/Sie	waren	hatten	wurden

● 1-6. 助動詞の過去形

助動詞もよく過去形で使われます。これらは混合変化動詞に似た形をとります。

	können (～できる)	müssen (～ねばならない)	wollen (～したい)	dürfen (～してもよい)	sollen (～すべきだ)	mögen (～が好きだ)
ich	konnte	musste	wollte	durfte	sollte	mochte
du	konntest	musstest	wolltest	durftest	solltest	mochtest
er/sie/es	konnte	musste	wollte	durfte	sollte	mochte
wir	konnten	mussten	wollten	durften	sollten	mochten
ihr	konntet	musstet	wolltet	durftet	solltet	mochtet
sie/Sie	konnten	mussten	wollten	durften	sollten	mochten

2. 英語と比べる ― 形は似ている。違うのは「いつ使うか」

● ここが同じ！

・規則動詞は、**語幹に歯の音を足す**という同じ作り方です。

ドイツ語	英語
lernen → lernte	learn → learned
lieben → liebte	love → loved

序章で学んだ子音対応 (英 d ↔ 独 t) が、ここでもそのまま働いています。

- ・強変化動詞が**母音を変えて**過去形を作る点も同じです。singen → **sang** / sing → **sang**。まったく同じ形です。
- ・sein / haben が飛び抜けて不規則なものも共通です。**war** (was / were)、**hatte** (had)。war と was は、実は同じ語です (ドイツ語の r と英語の s は、古い時代の音の揺れの結果です)。

● ここが違う！ ― ここが最重要

ドイツ語の過去形は、日常会話ではあまり使いません。

	ドイツ語	英語
会話で「～した」	現在完了形 (Ich habe gelernt.)	過去形 (I learned.)
物語・報告・書き言葉	過去形 (Ich lernte.)	過去形

英語では *I learned it yesterday.* と、過去形が主役です。ドイツ語では、話し言葉で「昨日それを学んだ」と言うとき、**Ich habe es gestern gelernt.** (現在完了形) と言うのがふつうです。

過去形 *Ich lernte es gestern.* は、**小説や新聞、報告書のような書き言葉の響き**になります。南ドイツやオーストリアでは、話し言葉での過去形はさらに使われません。

★例外 ― この4つは会話でも過去形

sein (war) / haben (hatte) / werden (wurde) / 話法の助動詞 (konnte, musste ...)

これらは会話でも過去形をふつうに使います。まずこの4種類だけ確実にしてください。

もう一つの違い：**進行形がない**。英語の *I was learning* (～していた) にあたる専用の形は、ドイツ語にありません。*Ich lernte.* が「学んだ」も「学んでいた」も兼ねます。

● ★英語からの乗り換え注意

- ・X 会話で何でも過去形にする。→ 話すときは**現在完了形**を主に使ってください。ただし war / hatte / konnte などは過去形のままで自然です。
- ・X *Ich war lernen.* (I was learning のつもり) → ○ **Ich lernte.**
- ・過去形でも**人称変化は必要**です。ただし、**1人称単数と3人称単数が同じ形** (ich lernte / er lernte) という特徴があります。英語の *I learned / he learned* と同じで、ここは楽なところです。

● 英語が見えてくる！

英語の be 動詞は、なぜ am / is / are / was / were と、**まるで別々の語のよう**にばらばらなのでしょう。

答えは「**本当に別々の語だったから**」です。英語の be 動詞は、もともと3つの違う動詞が合体してできています。

- ・be, been ... 「なる・生じる」系の語 (ドイツ語の **bin, bist** と同じ一族)

- ・ *am, is, are ...* 「ある」系の語（ドイツ語の **ist, sind** と同じ一族）
 - ・ *was, were ...* 「留まる」系の語（ドイツ語の **war, waren** と同じ一族）
- ドイツ語の *sein* も、まったく同じ3つの語の寄せ集めです。

英語	ドイツ語	由来
I am / he is	ich bin / er ist	「ある」系
be, been	bin, bist	「なる」系
was, were	war, waren	「留まる」系

二つの言語が、同じ3つの動詞を、同じように混ぜて一つの *be* 動詞を作った——これほど「兄弟語」であることを示す証拠もありません。

英語の *be* 動詞の不規則さに悩まれた経験は、ドイツ語の *sein* を理解するための、そのまま予習になっていたのです。

3. 真理の例文（Sätze der Wahrheit）

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「川の流れ」という、諸行無常を表すたとえを中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳（参考）、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Der Fluss floss. ♪9-1

川は流れました。

〈英〉The river flowed.

▷ *floss* = *fließen*（流れる）の過去形（強変化動詞）。

☆ 大川隆法総裁は、諸行無常の教えを「川の流れ」にたとえて説かれています。過去形は、まさにこの「流れ去っていったもの」を語るための時制です。

《すべては、ゆく川の流れにも似て、ひとときも同じところに住することはありません——『幸福の革命』第4章》

2. Das Wasser war nie gleich. ♪9-2

その水は決して同じではありませんでした。

〈英〉The water was never the same.

▷ *war* = *sein* の過去形。 *nie*（決して～ない）。 *gleich*（同じ）は述語的用法。

☆ 「○○川」と呼んでも、流れている水は一瞬たりとも同じではありません。過去形で語られる歴史や出来事も、二度と同じ形では戻ってこないのです。

《流れている水は決して同じではありません。常に動いているため、同じ川であることは二度とないのです——『ザ・ヒーリングパワー』第1章》

3. Niemand konnte den Fluss aufhalten. ♪9-3

だれもその川を押しとどめることはできませんでした。

〈英〉No one could stop the river.

▷ *konnte* = *können* の過去形。 *aufhalten*（押しとどめる）は分離動詞（不定詞のため分離しない）。

《川の水の流れを誰も押しとどめることができないように——『大川隆法 東京ドーム講演集』第10章》

4. Buddha lebte vor langer Zeit in Indien. ♪9-4

仏陀は遠い昔、インドに生きていました。

〈英〉Buddha lived in India long ago.

▷ *lebte* = *leben*（生きる）の過去形。

《仏陀の生涯》

5. Er erwachte zur Erleuchtung. ♪9-5

彼は悟りを開きました。

〈英〉He awoke to enlightenment.

▷ *erwachte* = *erwachen*（目覚める、悟る）の過去形。 *zur Erleuchtung* = 悟りへ。

《悟りを求める——『釈迦の真心』講義2章》

6. Buddha lehrte viele Menschen die Wahrheit. ♪9-6

仏陀は多くの人々に真理を説きました。

〈英〉Buddha taught the truth to many people.

▷ *lehrte* = *lehren*（教える、説く）の過去形。 *die Wahrheit* = 真理。

《仏陀の教え——『悟りを開く』第1章》

7. Seine Jünger hörten seine Worte. ♪9-7

彼の弟子たちは彼の言葉を聞きました。

〈英〉His disciples heard his words.

▷ *hörten* = *hören*（聞く）の過去形。 *die Jünger* = 弟子たち。 *die Worte* = 言葉。

《仏陀の生涯》

8. Das Leben Buddhas war ein großes Vorbild für uns. J9-8

仏陀の生涯は私たちにとって偉大な模範でした。

〈英〉Buddha's life was a great example for us.

▷ war = sein の過去形。das Vorbild = 模範。

《仏陀の生涯——『「人間学概論」講義』2章》

9. Wir lernten aus der Geschichte. J9-9

私たちは歴史から学びました。

〈英〉We learned from history.

▷ lernten = lernen の過去形。aus der Geschichte = 歴史から。

《賢者は歴史に学ぶ——『竹村健一・逆転の成功術』1章》

10. Manche Menschen wollten die Geschichte vergessen. J9-10

一部の人々は歴史を忘れたがっていました。

〈英〉Some people wanted to forget history.

▷ wollten = wollen の過去形。manche = 一部の。

《歴史を忘れてはならない》

11. Aber wir durften die Geschichte nicht vergessen. J9-11

しかし、私たちは歴史を忘れてはなりませんでした。

〈英〉But we were not allowed to forget history.

▷ durften = dürfen の過去形。nicht vergessen = 忘れない。

《賢者は歴史に学ぶ》

12. Wir mussten die Wahrheit in der Geschichte finden. J9-12

私たちは歴史の中に真理を見つけなければなりませんでした。

〈英〉We had to find the truth in history.

▷ mussten = müssen の過去形。finden = 見つける。

◆◆ 心に刻むたとえ（Gleichnis）—— 流れてゆく川のように

「人生を川の流れにたとえるのは、仏教の教えの常だ」

——《『生誕日の夢』（心の指針 第十九集）226「流れてゆく川のように」》

13. Das Leben floss wie ein Fluss. J9-13

人生は川のように流れました。

〈英〉Life flowed like a river.

▷ fließen – floss – geflossen（強変化）。過去形は書き言葉・物語の形です。

☆ 川は、同じ場所に留まりません。しかし一瞬たりとも「川でなくなる」ことはありません。

14. Der Fluss war klein. Dann wurde er groß. J9-14

その川は小さかった。やがて大きくなった。

〈英〉The river was small. Then it became big.

▷ war（sein の過去）、wurde（werden の過去）。この2つは会話でも過去形をそのまま使う、数少ない動詞です。

▷ er が川を受けているのは、der Fluss が男性名詞だからです（英語なら it）。

15. Wir konnten damals nichts sehen. J9-15

私たちはそのとき、何も見えませんでした。

〈英〉We could not see anything then.

▷ 話法の助動詞の過去形（können → konnte）。これも会話でよく使われます。

★公式ドイツ語版では『若き日のエル・カンターレ』のドイツ語版（Twiceborn）に、

„Er beginnt als kleiner Bergbach, doch er wird in seinem Verlauf zu einem breiten,

stattlichen Fluss.“（それは小さな山の溪流として始まるが、流れゆくうちに幅広く堂々たる川になる）

という一節があります。人生を川にたとえる語り口が、ドイツ語でも生きています。

4. 真理語彙（Wortschatz）

ドイツ語	性	意味
fließen	動	流れる
aufhalten	分離動	押しとどめる
leben	動	生きる
erwachen	動	目覚める、悟る
lehren	動	教える、説く
hören	動	聞く
lernen	動	学ぶ
zeigen	動	示す
vergessen	動	忘れる
beeinflussen	動	影響を与える
finden	動	見つける
der Fluss	男	川

ドイツ語	性	意味
das Wasser	中	水
die Erleuchtung	女	悟り
der Jünger	男	弟子
das Wort	中	言葉
das Vorbild	中	模範
die Geschichte	女	歴史
das Ereignis	中	出来事
die Vergangenheit	女	過去
die Zukunft	女	未来
gleich	形	同じ
nie	副	決して～ない
niemand	不定代名詞	だれも～ない
vor langer Zeit	句	遠い昔に
manche	不定代名詞	一部の、いくつかの
damals	副	当時、そのとき

5. 練習問題（独検3級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を1つ選びなさい。

- (1) Buddha () in Indien.
1 lebte 2 lebten 3 lebtet 4 lebstest
- (2) Er () zur Erleuchtung.
1 erwachte 2 erwachten 3 erwachtest 4 erwartetet
- (3) Wir () aus der Geschichte.
1 lerntest 2 lernte 3 lernten 4 lemtet
- (4) Das Leben Buddhas () ein großes Vorbild.
1 warst 2 waren 3 wart 4 war
- (5) Die Menschen () seine Worte.
1 hörte 2 hörten 3 hörtet 4 hörtest
- (6) Der Fluss ().
1 fließt 2 floss 3 fließen 4 geflossen

● B. () の動詞を正しい過去形にして下線部に入れなさい。

- (1) Buddha _____ viele Menschen die Wahrheit. (lehren) (2) Die Geschichte _____ uns vergangene Ereignisse. (zeigen) (3) Manche Menschen _____ die Geschichte vergessen. (wollen) (4) Wir _____ die Wahrheit in der Geschichte finden. (müssen) (5) Die Vergangenheit _____ die Zukunft. (beeinflussen) (6) Niemand _____ den Fluss aufhalten. (können)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) in / Buddha / lebte / Indien / langer / vor / Zeit / . → 「仏陀は遠い昔、インドに生きていました」 (2) ein / Buddhas / war / Leben / Vorbild / großes / . → 「仏陀の生涯は偉大な模範でした」 (3) die / durften / nicht / wir / vergessen / Geschichte / . → 「私たちは歴史を忘れてはなりませんでした」 (4) nie / das Wasser / gleich / war / . → 「その水は決して同じではありませんでした」 ♪9-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X Ich war lernen. (I was learning の直訳) → (2) 会話で「昨日それを学んだ」と言うとき、ドイツ語では過去形と現在完了形のどちらを使うか。 (3) 会話でも過去形をそのまま使う動詞を、4種類挙げなさい。 (4) 英語の be 動詞が am / is / are / was / were とばらばらな理由を説明しなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) Das Leben _____ wie ein Fluss. (人生は川のように流れました) (2) Der Fluss _____ klein. Dann _____ er groß. (川は小さかった。やがて大きくなった) (3) Wir _____ damals nichts sehen. (私たちはそのとき何も見えませんでした)

● 解答

A: (1) 1 (2) 1 (3) 3 (4) 4 (5) 2 (6) 2 B: (1) lehrte (2) zeigte (3) wollten (4) mussten (5) beeinflusste (6) konnte C: (1) Buddha lebte vor langer Zeit in Indien.

(2) Buddhas Leben war ein großes Vorbild.

(3) Wir durften die Geschichte nicht vergessen.

(4) Das Wasser war nie gleich. D: (1) Ich lernte. (進行形はない)

(2) 現在完了形 (Ich habe es gestern gelernt.)。過去形は書き言葉の響きになる。

(3) sein / haben / werden / 話法の助動詞

(4) もともと「ある」「なる」「留まる」という3つの別の動詞が合体したから。

独語の sein (bin / ist / war) もまったく同じ3つの寄せ集めである。E: (1) floss (2) war / wurde (3) konnten

6. 法話メモ ——川の流れと、仏陀の生涯

『幸福の革命』第4章で、大川隆法総裁は仏教の根本教義の一つ「諸行無常」を、こう説かれています。「すべては、ゆく川の流れにも似て、ひとときも同じところに住することはありません」。また『ザ・ヒーリングパワー』第1章では、「○○川」と呼んでも、流れている水は決して同じではないと説かれています。**Der Fluss floss. Das Wasser war nie gleich.** という二つの過去形の文は、まさにこの「移ろいゆくもの」を語るための時制です。

大川隆法総裁は、仏陀の生涯についても深く探求され、『釈迦の本心』講義や『悟りを開く』などで、その偉大な悟りの真実を説かれています。仏陀の生涯は、移ろいゆく歴史のなかにあって、私たちに真理を求め、実践することの重要性を示す、まさに「偉大な模範」です。

また、総裁は「賢者は歴史に学ぶ」ことの大切さを繰り返し説かれ、過去の出来事から教訓を引き出し、未来に活かすよう教えられています。川の流れそのものは押しとどめられなくとも、そこから何を学ぶかは、私たち自身の意志にかかっているのです。

この章で学んだ過去形を使って、仏陀の生涯や歴史の出来事をドイツ語で語り、そこから得られる真理を深く心に刻みましょう。

Der Fluss floss, aber wir lernten aus der Geschichte und aus dem Leben Buddhas.

◆ 学びのことは

「精進を続けたいと思う人が次々と出現しますことを」
《『黒帯英語七段⑤』まえがき》

第 10 章 現在完了形 【3 級】

【第 20 回（後期）】

同じ週の次の時間の会話は 第 20 回「私の体験を語る（これまでのこと）」

〔独検 3 級レベル〕

この章の到達目標

1. 現在完了形の作り方と使い方を理解する
2. haben と sein の使い分けを習得する
3. 口語での過去表現として現在完了形を使えるようになる
4. 「水車」というたとえを通して、「転生輪廻」や「魂の経験」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 現在完了形とは？

ドイツ語の現在完了形 (Perfekt) は、過去の出来事を表す表現です。英語の現在完了形と似ていますが、ドイツ語では**日常会話（口語）において、過去の出来事を述べる際によく使われるのが特徴**です。物語や書き言葉では過去形 (Präteritum) が使われることが多いですが、口語では現在完了形が主流です。

● 1-2. 現在完了形の作り方: 助動詞 haben/sein + 過去分詞

現在完了形は、**助動詞 (haben または sein) の現在人称変化形**と **動詞の過去分詞** で作られます。過去分詞は文末に置かれる「**枠構造**」を取ります。

[主語] + [haben/sein の現在人称変化形] + [目的語など] + [過去分詞]

例: Ich **habe** die Wahrheit **gelernt**. (私は真理を学びました。)

● 1-3. 過去分詞の作り方

過去分詞には、規則変化動詞、強変化動詞、混合変化動詞の 3 種類があります。これらは既に学習済みですが、現在完了形での使い方を再確認しましょう。

a) 規則変化動詞 (schwache Verben)

- ・ **ge-** + **語幹** + **-(e)t** の形を取ります。
- ・ 例: lernen (学ぶ) → **gelernt**
- ・ 例: arbeiten (働く) → **gearbeitet** (語幹が -t で終わるため -et)

b) 強変化動詞 (starke Verben)

- ・ **ge-** + **語幹の母音変化** + **-en** の形を取ります。多くは不規則なので、個別に覚える必要があります。
- ・ 例: sprechen (話す) → **gesprochen**
- ・ 例: schreiben (書く) → **geschrieben**

c) 混合変化動詞 (Mischverben)

- ・ **ge-** + **語幹の母音変化** + **-(e)t** の形を取ります。
- ・ 例: bringen (持ってくる) → **gebracht**
- ・ 例: denken (考える) → **gedacht**

d) その他の過去分詞の形

タイプ	作り方	例
分離動詞	分離前つづりと語幹の間に -ge- が入る。	anrufen (電話する) → angerufen
非分離動詞	-ge- が付かない。	besuchen (訪れる) → besucht
-ieren で終わる動詞	-ge- が付かない。	studieren (勉強する) → studiert

● 1-4. 助動詞 haben と sein の使い分け

現在完了形を作る際に、助動詞として **haben** を使うか **sein** を使うかは、動詞の種類によって決まります。これは現在完了形の最も重要なポイントの一つです。

a) haben を使う動詞 (ほとんどの動詞)

- ・ **他動詞**: 目的語（4 格）を取る動詞はすべて **haben** を使います。
- ・ 例: Ich **habe** die Wahrheit **gelernt**. (私は真理を学びました。)
- ・ **自動詞**: 状態を表す動詞や、移動・状態変化を表さない自動詞は **haben** を使います。
- ・ 例: Sie **hat** gut **geschlafen**. (彼女はよく眠りました。)

- ・例: Wir **haben** viel **gearbeitet**. (私たちはよく働きました。)
- ・再帰動詞:
- ・例: Er **hat** sich **gewaschen**. (彼は体を洗いました。)
- ・助動詞: 助動詞そのものを現在完了形にする場合。
- ・例: Ich **habe** das tun **können**. (私はそれができました。)

b) sein を使う動詞 (移動・状態変化を表す動詞)

- ・場所移動を表す自動詞: どこかへ「行く」「来る」「飛ぶ」など、場所の移動を表す自動詞は **sein** を使います。
- ・例: Ich **bin** nach Deutschland **gefliegen**. (私はドイツへ飛行機で行きました。)
- ・例: Wir **sind** nach Hause **gegangen**. (私たちは家へ行きました。)
- ・状態変化を表す自動詞: 何かが「変わる」「なる」「成長する」など、状態の変化を表す自動詞は **sein** を使います。
- ・例: Er **ist** eingeschlafen. (彼は眠ってしまいました。)
- ・例: Sie **ist** groß **geworden**. (彼女は大きくなりました。)
- ・sein, bleiben, werden: これらの動詞自体が現在完了形になるときは **sein** を使います。
- ・例: Ich **bin** in Japan **gewesen**. (私は日本にいました。)
- ・例: Er **ist** zu Hause **geblieben**. (彼は家に留まりました。)
- ・例: Es **ist** kalt **geworden**. (寒くなりました。)

まとめ表:

助動詞	使い方	例
haben ♪K20-17	・他動詞 (4格目的語を取る) ・状態を表す自動詞 ・再帰動詞 ・助動詞	Ich habe die Wahrheit gelernt . Sie hat gut geschlafen . Er hat sich gewaschen . Ich habe das tun können .
sein	・場所移動を表す自動詞 ・状態変化を表す自動詞 ・sein, bleiben, werden	Ich bin nach Deutschland gefliegen . Er ist eingeschlafen. Ich bin in Japan gewesen .

●1-5. 過去完了形 —— 「そのときより、さらに前」

過去のある時点から見て、さらに前に終わっていたことを表すのが過去完了形である。英語の *had* + 過去分詞にあたる。

作り方 —— 現在完了の助動詞を過去形にするだけ

	現在完了	過去完了
haben 支配	ich habe gelernt	ich hatte gelernt
sein 支配	ich bin gegangen	ich war gegangen

Ich hatte die Wahrheit schon gelernt, als ich in den Tempel kam.

私が支部に来たとき、私はすでに真理を学んでいました。

(英) I **had** already learned the Truth when I came to the temple.

Er war schon gegangen, als wir ankamen.

私たちが着いたとき、彼はすでに行ってしまっていました。

★ 時の関係は3つの層になる。

過去完了 (さらに前) → 過去 / 現在完了 (そのとき) → 現在 (いま)

Ich **hatte** nichts **gewusst**. Dann **kam** ein Buch. Jetzt **weiß** ich es.

(何も知りませんでした。それから一冊の本が来ました。いま私は知っています。)

★ 過去完了は **als** (～したとき) や **nachdem** (～したあとで) と一緒によく使う。

Nachdem ich das Buch **gelesen hatte**, **ging** ich in den Tempel.

その本を読んだあと、私は支部へ行きました。

※ **nachdem** は副文を作るので、動詞 (**hatte**) は文末に来る。

2. 英語と比べる —— 「形は同じ、意味が違う」 もっとも危険な章

現在完了形は、英語とドイツ語で形がそっくりなのに、使い方がずれているという、英語学習者にとって最大の落とし穴です。ここは特に注意して読んでください。

●ここが同じ！

- ・助動詞 + 過去分詞という組み立ては同じです。 *I have learned* / *Ich habe gelernt*.
- ・過去分詞の作り方も対応しています (*given* ↔ *gegeben*, *taken* ↔ *genommen*)。

●ここが違う！ ① —— 意味の範囲がまったく違う

英語の現在完了には、「今とのつながり」が必須です。だから *I have seen him yesterday*. は誤りで、*I saw him yesterday*. としなければなりません。

ドイツ語には、この制限がありません。

ドイツ語	英語
Ich habe ihn gestern gesehen. ○	I have seen him yesterday. X
	I saw him yesterday. ○

ドイツ語の現在完了形は、英語の「単純過去」に相当する、日常の語り口です。「完了」という名前に引きずられて、英語の have + p.p. の感覚で使うと、必ず間違えます。

ドイツ語の現在完了 = 英語の過去形と、いったん割り切ってください。

●ここが違う！②——助動詞が 2 種類ある

英語は何でも have です。ドイツ語は haben と sein を使い分けます。

使う助動詞	対象	例
haben JK20-17	ほとんどの動詞（目的語を取る動詞など）	Ich habe die Wahrheit gelernt .
sein	場所の移動・状態の変化・sein / bleiben	Ich bin nach Deutschland gefahren .

移動と変化は sein——これが原則です。gehen（行く）、kommen（来る）、fahren（乗り物で行く）、werden（～になる）、sterben（死ぬ）、aufstehen（起きる）などが sein を取ります。

●英語にも残っている「sein 完了」の化石

英語も、かつては同じ使い分けをしていました。今も、いくつかの表現に残っています。

- ・ He is gone. (彼は行ってしまった) ... He has gone ではなく is
- ・ Spring is come. (春が来た) 古い言い方
- ・ The sun is risen. (日は昇った) 聖書の英語
- ・ Joy to the world, the Lord is come! (クリスマス・キャロル)

これらはすべて、ドイツ語の Er ist gegangen. / Der Frühling ist gekommen. と同じ形です。英語は「移動・変化は be」という規則を捨て、have に一本化しました。ドイツ語は残しました。それだけの違いです。

●★英語からの乗り換え注意

- ・ X Ich habe gegangen. → ○ Ich bin gegangen. (移動は sein)
- ・ X Ich habe gewesen. → ○ Ich bin gewesen. (sein 自身も sein を取る)
- ・ X Ich habe gelernt die Wahrheit. → ○ Ich habe die Wahrheit gelernt. 過去分詞は文末です（枠構造）。英語のように助動詞のすぐ後ろには置きません。
- ・ 動詞を覚えるときは、haben か sein かもセットで覚えてください。辞書には (s) / (h) と表示されています。

●英語が見えてくる！

英語で I have finished my work. と言うとき、この have は「持っている」でしょうか。「仕事を持っている」わけではないのに、なぜ have を使うのでしょうか。

もとをたどると、これは本当に「持っている」でした。

I have my work finished. (私は、仕事を、終えられた状態で持っている) ——目的語 my work のあとに、その状態を説明する finished が置かれていたのです。つまり finished は、はじめは目的語を修飾する形容詞でした。

ドイツ語では、この古い構造がそのまま語順に残っています。

Ich habe die Arbeit beendet.

(私は — 持っている — その仕事を — 終えられた状態で)

ドイツ語の語順のほうが、英語の現在完了の「もとの姿」を保存しているのです。英語は have と過去分詞をくっつけてしまいましたが、ドイツ語は今も、間に目的語を挟んだままにしています。

英語の現在完了がなぜ have で作られるのか——その答えは、ドイツ語の語順のなかにあります。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「水車」というたとえを中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳（参考）、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Das Wasserrad hat sich gedreht. JK10-1

水車は回ってきました。

〈英〉 The waterwheel has turned.

▷ sich drehen（回る）は再帰動詞。再帰動詞の現在完了形は haben を使う（1-4 節参照）。

- ☆ 大川隆法総裁は、転生輪廻を「水車の羽根」にたとえて説かれています。水車には一枚一枚の羽根がありますが、その羽根がぐるぐると回っていくように、人は、天上界と地上界とを何度も往復しながら転生を重ねていくのです。
《それ（転生輪廻）を、あえてたとえるならば、水車のたとえのようなものでしょうか。水車の羽根の一枚一枚がぐるぐると回り……人は、その羽根がぐるぐると回るように転生輪廻しています——『公開霊言 内村鑑三に現代の非戦論を問う』》

2. Die Seele hat viele Leben auf der Erde gelebt. 10-2

魂は地上で多くの人生を経験してきました。

〈英〉The soul has lived many lives on earth.

- ▷ leben (生きる) の過去分詞は gelebt. haben を使う。

《転生輪廻——『釈迦の真心』第4章「空」の思想》

3. Sie hat viele Wiedergeburt erlebt. 10-3

それ（魂）は多くの転生を経験してきました。

〈英〉It (the soul) has experienced many rebirths.

- ▷ erleben (経験する) は非分離動詞なので過去分詞に ge- が付かない (erlebt). haben を使う。

《転生輪廻の思想——「釈尊からのメッセージ」7「空」》

4. Jede Seele hat eine lange Reise gemacht. 10-4

それぞれの魂は長い旅をしてきました。

〈英〉Each soul has made a long journey.

- ▷ machen (する、作る) の過去分詞は gemacht. haben を使う。

《魂の経験——『太陽の法』第2章「魂の進化」》

5. Der Mensch ist durch viele Epochen gegangen. 10-5

人間は多くの時代を経験してきました。

〈英〉Humankind has gone through many epochs.

- ▷ gehen (行く) の過去分詞は gegangen. sein を使う。

《転生輪廻——『悟りに到る道』第2章「三界」と転生輪廻》

6. Wir haben viele Erfahrungen gesammelt. 10-6

私たちは多くの経験を積んできました。

〈英〉We have gathered many experiences.

- ▷ sammeln (集める、積む) の過去分詞は gesammelt. haben を使う。

《魂の修行——『大川隆法霊言全集』第2巻「高次元の精神世界」》

7. Die Seele ist durch die Schule des Lebens gegangen. 10-7

魂は人生という学校を通り抜けてきました。

〈英〉The soul has gone through the school of life.

- ▷ gehen の過去分詞 gegangen + durch + 4 格（～を通して）。sein を使う。

《魂の修行——アユハ 2013 年 12 月号「魂の仕組みと潜在意識（前編）」》

8. Manche Seelen haben die Wahrheit schon erkannt. 10-8

いくつかの魂はすでに真理を悟ってきました。

〈英〉Some souls have already realized the truth.

- ▷ erkennen (認識する、悟る) の過去分詞は erkannt. haben を使う。

《悟り——『太陽の法』第2章「魂の進化」》

9. Die Menschheit hat die Lehre der Reinkarnation akzeptiert. 10-9

人類は転生輪廻の教えを受け入れました。

〈英〉Humanity has accepted the teaching of reincarnation.

- ▷ akzeptieren (受け入れる) は -ieren 動詞なので ge- が付かない。haben を使う。

《転生輪廻——『信仰から愛へ』4「宗教の意味」》

10. Jesus hat die Reinkarnation nicht klar gelehrt. 10-10

イエスは転生輪廻を明確には説きませんでした。

〈英〉Jesus did not clearly teach reincarnation.

- ▷ lehren (教える) の過去分詞は gelehrt. haben を使う。

《イエスは転生輪廻を明確には説いていない——『大川隆法霊言全集』第31巻「転生輪廻の仕組み」》

11. Die Seele ist immer wieder auf die Erde gekommen. 10-11

魂は繰り返し地上にやってきました。

〈英〉The soul has come to earth again and again.

- ▷ kommen (来る) の過去分詞は gekommen. sein を使う。

☆ ちょうど水車の羽根が何度も同じところを回るように、魂も天上界と地上界の間を何度も往復してきました。

《転生輪廻——『「悟りの挑戦（上巻）」講義』5「無我とは何か」》

◆ 心に刻むたとえ（Gleichnis）—— 亀のように歩いてきた

「亀のごとくのろろとスタートしながら、やってくるうちに、だんだんだんだんよくなっていく」

——《『若き日のエル・カンターレ』（旧題『平凡からの出発』）ほか》

12. Ich bin wie eine Schildkröte gegangen. ♪10-12

私は亀のように歩んできました。

(英) I have walked like a turtle.

▷ **gehen** は**移動**を表すので、助動詞は **sein**。Ich habe gegangen は誤りです。英語にも *He is gone.* という古い言い方が残っています。

▷ 過去分詞 **gegangen** は**文末** (枠構造)。

13. Aber ich bin nie stehen geblieben. ♪10-13

しかし私は決して立ち止まりませんでした。

(英) But I never stopped.

▷ **bleiben** も **sein** 支配です (状態を表す動詞)。

14. Die Zeit hat alles verändert. ♪10-14

時がすべてを変えました。

(英) Time has changed everything.

▷ こちらは目的語を取る動詞なので **haben** 支配。verändern は非分離動詞なので、過去分詞に **ge-** が付きません (verändert)。英語の *understand - understood* に **ge-** が付かないのと同じ理屈です。

★ここが英語と決定的に違う

Ich bin gestern wie eine Schildkröte gegangen. (昨日、私は亀のように歩いた) ——

ドイツ語ではこれが正しく、自然な話し言葉です。

英語で *I have walked yesterday.* と言えないこととは、まったく事情が違います。

ドイツ語の**現在完了** = 英語の**過去形**、と割り切ってください。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味	過去分詞	助動詞
drehen (sich)	動	回る	gedreht	haben
leben	動	生きる	gelebt	haben
erleben	動	経験する	erlebt	haben
machen	動	する、作る	gemacht	haben
gehen	動	行く	gegangen	sein
sammeln	動	集める、積む	gesammelt	haben
erkennen	動	認識する、悟る	erkannt	haben
akzeptieren	動	受け入れる	akzeptiert	haben
lehren	動	教える	gelehrt	haben
kommen	動	来る	gekommen	sein
die Seele	女	魂		
das Leben	中	人生、生命		
die Erde	女	地球、地上		
die Reise	女	旅		
die Erfahrung	女	経験		
die Schule	女	学校		
die Wahrheit	女	真理		
die Menschheit	女	人類		
die Lehre	女	教え		
die Reinkarnation	女	転生輪廻		
die Wiedergeburt	女	転生、生まれ変わり		
die Epoche	女	時代、紀元		
das Wasserrad	中	水車		
oft	副	しばしば		
immer wieder	句	繰り返し		
schon	副	すでに		
klar	形/副	明確な/に		
lang	形	長い		
die Schildkröte, -n	女	亀		
verändern	動	変える (非分離)		
nie	副	決して～ない		

5. 練習問題 (独検 3 級形式・オリジナル)**● A. 正しい形を 1 つ選びなさい。**

(1) Die Seele () viele Leben auf der Erde gelebt.

1 ist 2 hat 3 sind 4 haben

(2) Wir () viele Erfahrungen gesammelt.

1 sind 2 habt 3 haben 4 ist

(3) Du () schon die Wahrheit erkannt.

1 bist 2 hast 3 hat 4 haben

(4) Meine Seele () durch die Schule des Lebens gegangen.

1 ist 2 hat 3 sind 4 haben

(5) Ich () oft auf die Erde gekommen.

1 habe 2 bist 3 bin 4 hat

(6) Das Wasserrad () sich gedreht.

1 ist 2 hat 3 sind 4 haben

● B. () の動詞を現在完了形にして下線部に入れなさい。

(1) Die Seele _____ eine lange Reise _____. (machen) (2) Der Mensch _____ durch viele Epochen _____. (gehen) (3) Wir _____ viele Erfahrungen _____. (sammeln) (4) Jesus _____ die Reinkarnation nicht klar _____. (lehren) (5) Sie[彼女] _____ immer wieder auf die Erde _____. (kommen) (6) Das Wasserrad _____ sich _____. (drehen)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい(文頭は大文字に)。

(1) Seele / hat / die / viele / gelebt / Leben / auf der Erde →「魂は地上で多くの人生を経験してきました」(2) ist / durch / gegangen / der Mensch / viele Epochen →「人間は多くの時代を経験してきました」(3) die Wahrheit / schon / erkannt / habt / ihr / ? →「君たちはすでに真理を悟りましたか」(4) hat / das Wasserrad / gedreht / sich →「水車は回ってきました」 ♪10-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

(1) X Ich habe gegangen. → (2) X Ich habe gewesen. → (3) X Ich habe gelernt die Wahrheit. (英語の語順のまま) → (4) 英語では I have seen him yesterday. が誤りなのに、

ドイツ語では Ich habe ihn gestern gesehen. が正しい。その理由を説明しなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

(1) Ich _____ wie eine Schildkröte _____. (私は亀のように歩んできました) (2) Aber ich _____ nie stehen _____. (しかし決して立ち止まりませんでした) (3) Die Zeit _____ alles _____. (時がすべてを変えました)

● 解答

A: (1) 2 (2) 3 (3) 2 (4) 1 (5) 3 (6) 2 B: (1) hat ... gemacht (2) ist ... gegangen (3) haben ... gesammelt (4) hat ... gelehrt (5) ist ... gekommen (6) hat ... gedreht C: (1) Die Seele hat viele Leben auf der Erde gelebt.

(2) Der Mensch ist durch viele Epochen gegangen.

(3) Habt ihr schon die Wahrheit erkannt?

(4) Das Wasserrad hat sich gedreht. D: (1) Ich bin gegangen. (移動は sein) (2) Ich bin gewesen.

(3) Ich habe die Wahrheit gelernt. (過去分詞は文末)

(4) 英語の現在完了は「今のつながり」を要求するが、独語の現在完了にはその制限がなく、

英語の単純過去にあたる日常の語り口だから。E: (1) bin / gegangen (2) bin / geblieben (3) hat / verändert

6. 法話メモ —— 水車のように回る、魂の旅

『公開霊言 内村鑑三に現代の非戦論を問う』で、大川隆法総裁は「転生輪廻」を「水車の羽根」にたとえて説かれています。水車は一枚の羽根だけでできているのではなく、その羽根の一枚一枚がぐるぐると回り、水をすくい上げては、また川へと戻していきます。『大川隆法霊言全集』第44巻でも、「ちょうど、水車がぐるぐると回っているように、人間は、生まれ変わり、生まれ変わり、天国と地上界とを転生している」と説かれています。**Das Wasserrad hat sich gedreht.** という現在完了形の文は、まさに、天上界と地上界を何度も往復してきた魂の姿を表しています。

幸福の科学の教えでは、「転生輪廻」は仏教の中核的な理論であり、疑いようのない事実として説かれています。『釈迦の本心』や『悟りに到る道』では、この「転生輪廻」の思想が仏教の大きな特徴の一つであると強調されています。人間は今世だけの存在ではなく、水車の羽根のように、何度も生まれ変わり、さまざまな人生経験を通して魂を成長させていくのです。

この「魂の修行」は、地上での学びや経験を通じて行われます。『太陽の法』では、魂の進化のために熱心に修行を積むことの重要性が説かれています。私たちは、過去世からの経験を活かし、今世でさらに魂を磨き、悟りへと向かう旅を続けているのです。

この章で学んだ現在完了形を使って、あなたの魂がこれまで歩んできた道のりをドイツ語で表現してみましょう。

Das Wasserrad hat sich gedreht, und die Seele hat viele Erfahrungen gesammelt.

◆ 学びのことば

「総じて亀の如く学び続けることで、読者に新しい判断感覚が身につくことをこころがけた」

《『黒帯英語八段⑤』まえがき》

中間のまとめと小テスト 【第 21 回】

【第 21 回（後期）】

同じ週の次の時間の会話は 第 21 回「中間発表 —— 信仰体験を語る」

【独検 3 級レベル】

この回の到達目標

1. 「過去を語る」ための 3 つの形（過去形・現在完了形・三基本形）を整理する
2. 枠構造という、ドイツ語のいちばんの個性を確実にする
3. 自分の体験を、過去の形でドイツ語で語れる

1. 後期前半で学んだこと —— 「時間」を手に入れた

後期の 5 回（第 16～20 回）で学んだのは、要するに「時間を語る力」である。前期までは「いま」しか言えなかった。いま、あなたは「あのとき」を語れる。

回	学んだこと	一言でいうと
16	話法の助動詞・未来形・枠構造	動詞が二手に分かれ、文をはさむ
17	分離動詞・命令形	英語の句動詞（stand up）と同じ部品
18	三基本形	英語の不規則動詞表が、そのまま使える
19	過去形	書き言葉・物語の形
20	現在完了形	話し言葉の「～した」

● 1-1. 枠構造 —— ドイツ語のいちばんの個性

動詞の要素が 2 つになると、片方が 2 番目、もう片方が文末に行く。その間の全部を、動詞が抱え込む。これが枠構造である。

種類	例	枠
話法の助動詞	Wir wollen die Wahrheit lernen .	wollen ... lernen
未来形	Wir werden die Wahrheit verbreiten .	werden ... verbreiten
現在完了	Ich habe die Wahrheit gelernt .	habe ... gelernt
分離動詞	Ich stehe früh auf .	stehe ... auf

英語は want to learn、have learned、get up と、部品が隣り合う。ドイツ語は離れる。だから——

ドイツ語は、文を最後まで聞かないと意味が確定しない。

これは弱点ではなく、性格である。伝道の間でも同じことが言える。相手の話は、最後まで聴かなければ本当のところは分からない。

● 1-2. 「～した」の言い分け

形	使う場面	例
現在完了形	会話での「～した」	Ich habe die Wahrheit gelernt .
過去形	物語・報告・書き言葉	Ich lernte die Wahrheit.
過去形（例外）	sein / haben / werden / 話法の助動詞は会話でも過去形	Ich war ... / Ich hatte ... / Ich konnte ...

ここが英語と決定的に違う。英語では I have learned it yesterday. と言えないが、ドイツ語では Ich habe es gestern gelernt. が正しく、しかも自然である。

ドイツ語の現在完了 = 英語の過去形、といったん割り切ってよい。

● 1-3. haben か sein か

助動詞	対象	例
haben JK20-17	ほとんどの動詞	Ich habe die Wahrheit gelernt .
sein	移動・状態の変化、sein / bleiben	Ich bin nach Deutschland gefahren .

英語にも化石が残っている。He is gone. The Lord is come. —— 「移動・変化は be」という、かつての英語の規則である。

● 1-4. 三基本形は、英語の不規則動詞表と重なる

ドイツ語	英語
singen – sang – gesungen	sing – sang – sung
trinken – trank – getrunken	drink – drank – drunk
bringen – brachte – gebracht	bring – brought – brought
denken – dachte – gedacht	think – thought – thought

英語で不規則な動詞は、ドイツ語でもたいがい強変化。「どれが不規則か」を、あなたはもう知っている。

2. 総合練習

● A. 現在完了形にしないで。

(1) Ich lerne die Wahrheit. (2) Er geht in den Tempel. (3) Wir stehen früh auf. (4) Sie versteht die Lehre. (5) Der Baum wächst langsam.

● B. 三基本形を書きなさい。

(1) gehen (2) fließen (3) bringen (4) sprechen (5) werden

● C. 枠構造に注意して、語を並べ替えなさい。

(1) lernen / wir / die Wahrheit / wollen → 「私たちは真理を学びたい」 (2) habe / gelernt / ich / die Lehre / gestern → 「昨日、私は教えを学びました」 (3) auf / jeden Morgen / stehe / früh / ich → 「毎朝、私は早く起きます」 (4) mutig / können / wie ein Löwe / wir / sein → 「私たちはライオンのように勇敢であります」

● D. 誤りを直しなさい。

(1) Ich habe nach Deutschland gefahren. (2) Ich kann zu gehen. (3) Du musst nicht gehen. (「行っはいけない」という意味にしたい) (4) Ich habe gelernt die Wahrheit. (5) Steh auf früh!

3. 小テスト (独検 3 級形式 / 30 点)

● 第 1 問 三基本形 (各 2 点・計 10 点)

(1) gehen – () – gegangen

1 ging 2 gehte 3 gang 4 gegeht (2) bringen – () – gebracht

1 bringte 2 brachte 3 brang 4 bringt (3) fließen – floss – ()

1 gefließt 2 geflosst 3 geflossen 4 gefließen (4) verstehen – verstand – ()

1 geverstanden 2 verstanden 3 verstehtet 4 gestanden (5) aufstehen – stand auf – ()

1 aufgestanden 2 geaufstanden 3 aufstanden 4 gestanden auf

● 第 2 問 完了の助動詞 (各 2 点・計 10 点)

(1) Ich () wie eine Schildkröte gegangen.

1 habe 2 bin 3 hat 4 ist (2) Die Zeit () alles verändert.

1 hat 2 ist 3 habe 4 bin (3) Wir () in den Tempel gekommen.

1 haben 2 sind 3 hat 4 ist (4) Er () die Wahrheit verstanden.

1 hat 2 ist 3 habe 4 bin (5) Der Baum () langsam gewachsen.

1 hat 2 ist 3 habt 4 seid

● 第 3 問 語順 (各 2 点・計 10 点)

(1) Wir wollen () .

1 lernen die Wahrheit 2 die Wahrheit lernen 3 die lernen Wahrheit 4 lernen Wahrheit die (2) Gestern () ich die Lehre gelernt.

1 habe 2 hat 3 bin 4 ist (3) Ich stehe jeden Morgen früh () .

1 auf 2 aufstehen 3 aufgestanden 4 zu auf (4) Du () nicht gehen. (禁止)

1 musst 2 darfst 3 kannst 4 willst (5) Wir werden die Wahrheit () .

1 verbreiten 2 verbreitet 3 verbreiteten 4 zu verbreiten

4. 解答

総合練習 A: (1) Ich habe die Wahrheit gelernt. (2) Er ist in den Tempel gegangen.

(3) Wir sind früh aufgestanden. (4) Sie hat die Lehre verstanden.

(5) Der Baum ist langsam gewachsen. B: (1) gehen – ging – gegangen (2) fließen – floss – geflossen

(3) bringen – brachte – gebracht (4) sprechen – sprach – gesprochen

(5) werden – wurde – geworden C: (1) Wir wollen die Wahrheit lernen. (2) Gestern habe ich die Lehre gelernt.

- (3) Jeden Morgen stehe ich früh auf. (4) Wir können mutig wie ein Löwe sein. D: (1) Ich **bin** nach Deutschland gefahren. (移動は sein)
(2) Ich kann gehen. (助動詞に zu は付けない)
(3) Du **darfst** nicht gehen. (禁止は dürfen ... nicht)
(4) Ich habe die Wahrheit gelernt. (過去分詞は文末)
(5) Steh früh auf! (前つづりは文末)

小テスト第1問: (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 2 (5) 1 第2問: (1) 2 (2) 1 (3) 2 (4) 1 (5) 2 第3問: (1) 2 (2) 1 (3) 1 (4) 2 (5) 1

5. 法話メモ —— 過去を語れる人になる

伝道において、いちばん強い言葉は理屈ではない。「**私は、こうでした。そして、こう変わりました**」という一人称の証しである。

そのためには、過去を語る言葉が要る。あなたは今回、それを手に入れた。

Ich war einsam. Aber ich habe die Wahrheit gefunden. (私は孤独でした。しかし私は真理を見いだししました。)

Damals konnte ich nichts sehen. Jetzt sehe ich das Licht. (あのとき、私には何も見えませんでした。いま、私は光を見えています。)

『若き日のエル・カンターレ』のドイツ語版には、川のたとえがこう記されている。

„Er beginnt als kleiner Bergbach, doch er wird in seinem Verlauf zu einem breiten, stattlichen Fluss.“

(それは小さな山の溪流として始まるが、流れゆくうちに、幅広く堂々たる川になる)

どんな大河にも、細い源流の時代がある。あなたが語る「あの頃」は、聴く人にとって、いま自分が立っている場所の風景である。だからこそ、過去を語れる人は、人を導ける。

◆ 学びのことば

「まあ、信じてついてきなさい」

《『黒帯英語八段⑤』まえがき》

第 11 章 受動文 【3 級】

【第 22 回（後期）】

同じ週の次の時間の会話は 第 22 回「「救われた」「導かれた」」

【独検 3 級レベル】

この章の到達目標

1. 「～される」という受動文を正しく作れる（werden 受動）
2. 動作主を von や durch を使って表現できる
3. 動作の結果としての状態を表す受動文を作れる（状態受動）
4. 「雲と雨」というたとえを通して、「生かされている」「仏の慈悲に包まれている」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 受動文とは

ドイツ語の受動文（Passiv）は、「～される」「～されている」のように、主語が動作を受けることを表す文です。能動文（Aktiv）の目的語が受動文の主語になります。

例：

- ・能動文: **Gott erschafft diese Welt.** (神がこの世界を創造する。)
- ・受動文: **Diese Welt wird von Gott erschaffen.** (この世界は神によって創造される。)

● 1-2. werden 受動（動作受動）の作り方

受動文は、**werden** 動詞と**過去分詞**を組み合わせで作ります。**werden** が人称変化し、**過去分詞**は文末に置かれます（枠構造）。

werden + 過去分詞

人称	形	人称	形
ich	werde ... 過去分詞	wir	werden ... 過去分詞
du	wirst ... 過去分詞	ihr	werdet ... 過去分詞
er/sie/es	wird ... 過去分詞	sie/Sie	werden ... 過去分詞

例:

- ・能動文: **Man gibt uns die Wahrheit.** (人は私たちに真理を与える。)
- ・受動文: **Uns wird die Wahrheit gegeben.** (私たちに真理が与えられる。)
 ▷ 能動文の 4 格 **die Wahrheit** が主語（1 格）になり、3 格目的語 (**uns**) は受動文でも 3 格のまま残ります。
 ※ 3 格目的語しかない動詞 (**helfen** など) の受動文は主語なしになる: **Man hilft uns.** → **Uns wird geholfen.** (私たちは助けられる。)
- ・能動文: **Gott schützt uns.** (神は私たちを守る。)
- ・受動文: **Wir werden von Gott geschützt.** (私たちは神によって守られる。)

● 1-3. werden 受動の時制

werden 受動の時制は、**werden** 動詞の時制変化によって表されます。

1-3-1. 現在受動

werden (現在形) + 過去分詞

- ・ **Wir werden von Gott am Leben erhalten.** (私たちは神によって生かされています。)

1-3-2. 過去受動

werden (過去形: wurde) + 過去分詞

人称	形	人称	形
ich	wurde ... 過去分詞	wir	wurden ... 過去分詞
du	wurdest ... 過去分詞	ihr	wurdet ... 過去分詞
er/sie/es	wurde ... 過去分詞	sie/Sie	wurden ... 過去分詞

- ・ **Diese Welt wurde von Gott erschaffen.** (この世界は神によって創造されました。)

1-3-3. 現在完了受動

sein (現在形) + 過去分詞 + worden

現在完了受動では、**werden** の過去分詞が **worden** となり、**sein** 動詞と組み合わせで作ります。

- ・ Die Wahrheit ist uns gegeben worden. (真理は私たちに与えられました。)

● 1-4. 動作主の表現 (von / durch)

受動文で「誰によって」「何によって」動作が行われたかを示す場合は、**von** または **durch** を使います。

- ・ **von + 3 格**: 動作主 (人、動物、自然現象など、意思を持つものや原因)
Wir werden **von Gott** am Leben erhalten. (私たちは**神によって**生かされている。)
- ・ Das Kind wurde **vom Hund** gebissen. (その子供は**犬に**噛まれた。)
- ・ **durch + 4 格**: 手段、媒介 (物、抽象的な力など)
Wir werden **durch die Liebe Gottes** geschützt. (私たちは**神の愛によって**守られている。)
- ・ Der Brief wurde **durch einen Boten** geschickt. (その手紙は**使者によって**送られた。)

● 1-5. 状態受動 (sein 受動) の作り方

sein + 過去分詞

状態受動は、**sein** 動詞と**過去分詞**を組み合わせて作ります。これは、**動作の結果として生じた状態**を表します。werden 受動が「～される」という動作自体に焦点を当ててるのに対し、状態受動は「～されている」という結果の状態に焦点を当てます。

- ・ Gottes Liebe ist in der ganzen Welt verbreitet. (神の愛は全世界に広まっています。)
▷ 「広まる」という動作の結果、「広まっている状態」を表す。

● 1-6. werden 受動と状態受動の使い分け

タイプ	構成	意味	焦点	例
werden 受動	werden + 過去分詞	～される (動作)	動作	Die Tür wird geöffnet . (ドアが開けられる。)
状態受動	sein + 過去分詞	～されている (状態)	結果の状態	Die Tür ist geöffnet . (ドアは開いている。)

2. 英語と比べる —— 英語の "is closed" が抱える曖昧さを、ドイツ語は解決している

● ここが同じ！

- ・ 「～される」を表すために、**助動詞+過去分詞**を使う点は同じです。
- ・ 動作をした人を、前置詞で後から示す点も同じです (英 by / 独 von)。
- ・ 受動文の作り方 (能動文の 4 格目的語を主語に立てる) も共通です。

ドイツ語	英語
Die Menschen werden von Gott geliebt .	People are loved by God.

● ここが違う！ —— 助動詞が be ではなく werden

英語は **be** を使いますが、ドイツ語は **werden** (～になる) を使います。

これは単なる語の違いではなく、**発想の違い**です。英語の **be** は「～である」という**状態**の語。ドイツ語の **werden** は「～になる」という**変化**の語です。

つまりドイツ語の受動文は、はじめから「～される (という状態に変わっていく)」という動きを含んでいるのです。

● この違いが効いてくる場面 —— 英語の曖昧さが消える

英語の *The door is closed.* には、実は **2 つの意味**があります。

1. ドアが (今まさに) **閉められる** 動作
2. ドアが**閉まっている** 状態

英語ではどちらも同じ形になり、文脈で判断するしかありません。ドイツ語は、この 2 つを形で区別します。

ドイツ語	意味	英語
Die Tür wird geschlossen .	ドアが 閉められる (動作)	The door is being closed .
Die Tür ist geschlossen .	ドアが 閉まっている (状態)	The door is closed .

前者を **werden 受動 (動作受動)**、後者を **sein 受動 (状態受動)** といいます。

英語はこの区別のために、わざわざ *is being closed* という**進行形と受動態を組み合わせた重い形**を作らなければなりません。ドイツ語は助動詞を替えるだけです。ここはドイツ語のほうが明快です。

• von と durch —— 英語の by は 2 つに分かれる

英語の *by* は、人にも手段にも使えます。ドイツ語は使い分けます。

ドイツ語	用法	例
von +3 格	人・意志のあるもの（行為者）	Die Welt wird von Gott geschaffen.
durch +4 格	手段・媒介（もの・経路）	Das Herz wird durch die Lehre gereinigt.

「神によって創られる」は **von**、「教えによって清められる」は **durch** です。英語では両方 *by* なので、意識して切り替える必要があります。

●★英語からの乗り換え注意

- × *Die Wahrheit ist gelehrt.* を「真理が教えられる」のつもりで使う → ○ **Die Wahrheit wird gelehrt.**（動作なら *werden*）
- × *Die Menschen werden geliebt bei Gott.* → ○ **von Gott**
- × 過去分詞を助動詞のすぐ後ろに置く → 過去分詞は文末です（枠構造）。
- 完了形の受動では、過去分詞 **werden** が **worden** になります。 *Die Welt ist von Gott geschaffen worden.*（*geworden* ではありません）英語には対応する現象がないので、丸ごと覚えてください。

●英語が見えてくる！

英語で *The book is written.* と言われたとき、「今まさに書かれているところ」なのか「すでに書き上がっている」のか、はっきりしないと感じたことはないでしょうか。

英語は 16 世紀以降、この曖昧さを解消するために *is being written* という形をわざわざ発明しました。当時は「不自然でどこちない」と批判された、比較的新しい言い方です。

つまり英語は、ドイツ語が助動詞ひとつで区別していたものを、後から進行形を借りてきて区別し直したわけです。

ドイツ語の *werden* 受動/*sein* 受動を学ぶと、英語の *is being done* という奇妙に長い形が、なぜ必要になったのかが見えてきます。

3. 真理の例文（Sätze der Wahrheit）

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「雲と雨」という、仏の慈悲を表すたとえを中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳（参考）、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Der Regen wird von den Wolken gegeben. ♪11-1

雨は雲によって与えられます。

〈英〉Rain is given by the clouds.

▷ *geben* の受動文（*werden* 受動）。*von* + 3 格（*die Wolken* の 3 格 *den Wolken*）。

☆『仏陀の証明』第 5 章では、「仏の慈悲」はよく雲と雨にたとえられると説かれています。雲が集まり、雨となって降り注ぐように、仏の慈悲もまた、すべての生きとし生けるものの上に、分け隔てなく降り注ぎます。

《この「仏の慈悲」というのは、よく雲と雨にたとえられます……仏の慈悲の法雲が、法雨となりて降り注ぐ——『仏陀の証明』第 5 章「無限の言葉『仏説・伝道経』」》

2. Die Erde wird vom Regen benetzt. ♪11-2

大地は雨によって潤されます。

〈英〉The earth is moistened by the rain.

▷ *benetzen*（潤す）の受動文。*vom* = *von* + *dem*. *werden* 受動。

3. Die Welt ist von Buddhas Gnade erfüllt. ♪11-3

世界は仏の恩寵に満たされています。

〈英〉The world is filled with Buddha's grace.

▷ *erfüllen*（満たす）。状態受動（*sein* + 過去分詞）。「満たされた結果の状態」を表す。

4. Wir werden von Gott am Leben erhalten. ♪11-4

私たちは神によって生かされています。

〈英〉We are kept alive by God.

▷ *am Leben erhalten*: 生かす。

《教え——「生かされている」『仏陀は奇跡をどう考えるか』4 章》

5. Der Mensch wird von vielen Kräften am Leben erhalten. ♪11-5

人間は多くの力によって生かされています。

〈英〉Human beings are kept alive by many forces.

▷ *viele Kräfte*: 多くの力。

《教え——「生かされている」『青銅の法』5 章》

6. Diese Welt wurde von Gott erschaffen. ♪11-6

この世界は神によって創造されました。

〈英〉This world was created by God.

▷ erschaffen: 創造する。過去受動。

《教え——「生かされている」『仏陀は奇跡をどう考えるか』4 章》

7. Wir werden von Buddhas Barmherzigkeit umhüllt. ♪11-7

私たちは仏の慈悲に包まれています。

〈英〉We are enveloped by Buddha's mercy.

▷ umhüllen: 包む。die Barmherzigkeit: 慈悲。

☆ 雲が雨を通して大地を潤すように、仏の慈悲もまた、私たちを分け隔てなく包み込んでいます。

《教え——「仏の慈悲」『仏陀の証明』5 章》

8. Die Wahrheit wird uns gegeben. ♪11-8

真理は私たちに与えられます。

〈英〉The truth is given to us.

▷ geben: 与える。3 格目的語 (uns) は受動文でも残る。

《教え——仏法真理の学習》

9. Ein Herz der Dankbarkeit soll gepflegt werden. ♪11-9

感謝の心は育まれるべきです。

〈英〉A heart of gratitude should be cultivated.

▷ pflegen: 育む、手入れする。soll (～すべき・第 8 章) + 受動の不定詞 gepflegt werden。

《教え——「感謝の心」『青銅の法』5 章》

10. Wir werden durch die Liebe Gottes geschützt. ♪11-10

私たちは神の愛によって守られています。

〈英〉We are protected by the love of God.

▷ beschützen: 守る。durch + 4 格。

《教え——「仏の慈悲」『永遠の法』5 章》

11. Gottes Liebe ist in der ganzen Welt verbreitet. ♪11-11

神の愛は全世界に広まっています。

〈英〉God's love has spread throughout the world.

▷ verbreiten: 広める。状態受動。

《教え——「仏の慈悲」『信仰論』5 章》

12. Die Lehre wurde vom Meister gelehrt. ♪11-12

その教えは師によって説かれました。

〈英〉The teaching was taught by the Master.

▷ lehren: 教える、説く。vom = von + dem. 過去受動。

《教え——『仏説・正心法語』》

13. Wir sind von der göttlichen Gnade getragen. ♪11-13

私たちは神聖な恩寵によって支えられています。

〈英〉We are carried by divine grace.

▷ tragen: 支える、運ぶ。状態受動。die Gnade: 恩寵。

《教え——「仏の慈悲」『永遠の法』5 章》

◆ ◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— 磨かれるダイヤモンド

「美しいダイヤモンドの輝きにも似た、宝石のような心を、仏からいただいているにもかかわらず、二十年、三十年、四十年、五十年、六十年……と生きていくあいだに、それをまるで石炭か何かのようにしてしまったのは、いったいだれでしょう」——《『幸福への方法』第 2 章「素直な心を大切に」／2 心のなかのダイヤモンド》

14. Das Herz wird wie ein Diamant poliert. ♪11-14

心はダイヤモンドのように磨かれます。

〈英〉The heart is polished like a diamond.

▷ werden 受動 (動作受動)。「磨かれていく」という動きを表します。

☆ ダイヤモンドは、原石のままでは輝きません。磨かれてはじめて光を返します。

15. Das Herz ist schon poliert. ♪11-15

心はすでに磨かれています。

〈英〉The heart is (already) polished.

▷ sein 受動 (状態受動)。こちらは「磨き上がっている状態」を表します。英語ではどちらも is polished となり、区別できません。ドイツ語は助動詞で区別します。

16. Der Diamant wird von Gott gegeben. ♪11-16

そのダイヤモンドは神から与えられます。

〈英〉The diamond is given by God.

▷ 行為者が人・意志あるものなので von + 3 格。

17. Das Herz wird durch die Selbstreflexion gereinigt. 111-17

心は反省によって清められます。

〈英〉The heart is purified through self-reflection.

▷ 手段・媒介なので durch +4 格。英語ではどちらも by ですが、ドイツ語は使い分けます。

★公式ドイツ語版では『反省の手引き』のドイツ語版に、次の 2 文があります。

„Vergessen Sie nie, tief in Ihrem Herzen wohnt eine Buddha-Natur, strahlend wie ein Diamant.“

(決して忘れないでください。あなたの心の奥深くには、ダイヤモンドのように輝く仏性が宿っています)

„Ihr Diamant wird strahlen, wenn Sie ihn in Ihrer Selbstreflexion gereinigt und poliert haben.“

(反省によって清め、磨いたとき、あなたのダイヤモンドは輝くでしょう)

——まさにこの章の文法(受動・反省・ダイヤモンド)が、そのまま使われています。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味
werden	動	～になる、～される(受動の助動詞)
sein	動	～である(状態受動の助動詞)
benetzen	動	潤す
erfüllen	動	満たす
am Leben erhalten	句	生かす
erschaffen	動	創造する
umhüllen	動	包む
geben	動	与える
pflegen	動	育む、手入れする
beschützen	動	守る
verbreiten	動	広める
lehren	動	教える、説く
tragen	動	支える、運ぶ
der Regen	男	雨
die Wolke	女	雲
die Erde	女	大地、地球
die Kraft	女	力
die Welt	女	世界
die Barmherzigkeit	女	慈悲
die Dankbarkeit	女	感謝
die Liebe	女	愛
die Lehre	女	教え
die Gnade	女	恩寵
der Meister	男	師
von	前	～によって(3 格支配)
durch	前	～によって(4 格支配)
göttlich	形	神聖な、神の
ganz	形	全体の、全ての
der Diamant, -en	男	ダイヤモンド
polieren	動	磨く
reinigen	動	清める

5. 練習問題 (独検 3 級形式・オリジナル)

● A. 正しい形を 1 つ選びなさい。

(1) Diese Welt () von Gott erschaffen. → 「この世界は神によって創造されました」

1 wird 2 wurde 3 ist 4 hat

(2) Wir werden () Buddhas Barmherzigkeit umhüllt.

1 von 2 durch 3 an 4 mit

(3) Gottes Liebe () in der ganzen Welt verbreitet.

1 wird 2 ist 3 hat 4 wurde

(4) Die Wahrheit () uns gegeben.

1 wird 2 werden 3 wirst 4 werdet

(5) Ein Herz der Dankbarkeit soll () werden.

1 pflegen 2 gepflegt 3 pflegte 4 pflegt

(6) Der Regen wird () den Wolken gegeben.

1 von 2 durch 3 mit 4 für

● B. () の動詞を正しい形にして下線部に入れなさい。

(1) Der Mensch _____ von vielen Kräften am Leben erhalten. (werden) (2) Die Lehre _____ vom Meister gelehrt. (werden, 過去形) (3) Wir _____ durch die Liebe Gottes geschützt. (werden) (4) Die Erde _____ vom Regen _____. (benetzen) (5) Wir sind von der göttlichen Gnade _____. (tragen)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい (文頭は大文字に)。

(1) von Gott / wir / erhalten / am Leben / werden → 「私たちは神によって生かされています」 (2) wurde / diese Welt / erschaffen / von Gott → 「この世界は神によって創造されました」 (3) ist / verbreitet / Gottes Liebe / in der ganzen Welt → 「神の愛は全世界に広がっています」 (4) von / wird / den Wolken / der Regen / gegeben → 「雨は雲によって与えられます」 ♪11-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

(1) X Die Wahrheit ist gelehrt. を「真理が教えられる」(動作)の意味で使った → (2) X Die Menschen werden geliebt bei Gott. → (3) X Die Welt ist von Gott geschaffen geworden. → (4) 英語の The door is closed. が持つ2つの意味を、ドイツ語で書き分けなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

(1) Das Herz _____ wie ein Diamant _____. (心はダイヤモンドのように磨かれます) (2) Der Diamant wird _____ Gott gegeben. (そのダイヤモンドは神から与えられます) (3) Das Herz wird _____ die Selbstreflexion gereinigt. (心は反省によって清められます)

● 解答

A: (1) 2 (過去受動なので wurde) (2) 1 (動作主なので von) (3) 2 (状態受動なので ist) (4) 1 (主語が die Wahrheit なので3人称単数 wird) (5) 2 (受動文では過去分詞) (6) 1 (自然現象による動作主なので von) B: (1) wird (2) wurde (3) werden (4) wird ... benetzt (5) getragen C: (1) Wir werden von Gott am Leben erhalten.
(2) Diese Welt wurde von Gott erschaffen.
(3) Gottes Liebe ist in der ganzen Welt verbreitet.
(4) Der Regen wird von den Wolken gegeben. D: (1) Die Wahrheit wird gelehrt. (動作受動は werden)
(2) ... von Gott geliebt. (行為者は von +3格)
(3) ... von Gott geschaffen worden. (完了形の受動では geworden → worden)
(4) Die Tür wird geschlossen. (閉められる) / Die Tür ist geschlossen. (閉まっている) E: (1) wird / poliert (2) von (3) durch

6. 法話メモ —— 雲と雨のたとえ、そして「生かされている」ことへの感謝

『仏陀の証明』第5章「無限の言葉『仏説・伝道経』」で、大川隆法総裁は、「仏の慈悲」を「雲と雨」にたとえて説かれています。パーッと雲が集まり、密雲となり、そしてザーッと雨が降ってくる。その雨によって、動植物も人間もみな喜び、清涼感を得ます。「仏の慈悲の法雲が、法雨となりて降り注ぐ」というのです。**Der Regen wird von den Wolken gegeben.** という受動文は、まさにこの、雨のように分け隔てなく降り注ぐ仏の慈悲の姿を表しています。

大川隆法総裁は、『青銅の法』や『仏陀は奇跡をどう考えるか』の中でも、私たちは「生かされている」存在であるという真理を説かれています。自分一人の力で生きているのではなく、雲から降る雨のように、神仏や大自然、そして多くの人々の支えによって生かされていることに気づくことが、感謝の心や報恩の心を生み出す出発点となります。

受動文は、動作を受ける側、すなわち「与えられる側」「支えられる側」に視点を置く文です。この章で学んだ受動文は、この「生かされている」という教えをドイツ語で表現するのに最適です。私たちは、雨のような仏の慈悲に包まれ、多くの力によって支えられていることを、ドイツ語で表現できるようになりましょう。

Der Regen wird von den Wolken gegeben, und wir werden von Buddhas Barmherzigkeit umhüllt.

◆ 学びのことば

「私の志を継いでくれる方が後に続くことを願っている」
《『黒帯英語十段②』まえがき》

第 12 章 接続詞と副文 【3 級】

【第 23 回（後期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第 23 回「「なぜなら」と理由を説く」

【独検 3 級レベル】

この章の到達目標

1. 並列接続詞を使って文と文をつなげられる
2. 従属接続詞と定動詞後置のルールを理解し、副文を作れる
3. 間接疑問文を正しく使える
4. 「種をまく」というたとえを通して、「因果の理法」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 文と文をつなぐ接続詞

ドイツ語には、文と文、あるいは語と語、句と句をつなぐ「接続詞」があります。接続詞には、文の語順に影響を与えない**並列接続詞**と、文の語順を変化させる**従属接続詞**の 2 種類があります。

● 1-2. 並列接続詞（定動詞第 2 位）

並列接続詞は、主文と主文をつなぎ、**それぞれの文の語順（定動詞第 2 位）に影響を与えません**。接続詞自体は文の 1 番目とは数えません。

主な並列接続詞:

接続詞	意味
und	～と、そして
aber	しかし
oder	～か、あるいは
denn	なぜなら（理由）
sondern	（～ではなく）むしろ

例:

- ・ Wir lernen die Wahrheit, **und** wir verstehen die Welt. (私たちは真理を学び、そして世界を理解します。)
- ・ Er arbeitet fleißig, **aber** er ist nicht müde. (彼は勤勉に働きますが、疲れていません。)
- ・ Ist das ein guter Grund **oder** ein schlechter Grund? (それは良い原因ですか、それとも悪い原因ですか?)
- ・ Wir glauben an die Ursache, **denn** sie ist wichtig. (私たちは原因を信じます、なぜならそれは重要だからです。)
- ・ Das ist nicht die Wirkung, **sondern** die Ursache. (それは結果ではなく、むしろ原因です。)

● 1-3. 従属接続詞と定動詞後置（副文）

従属接続詞は、主文に従属する**副文**を導きます。副文では、**定動詞が文の最後に置かれます**。

主文, 従属接続詞 + 主語 + ... + 定動詞.

主な従属接続詞:

接続詞	意味
dass	～ということ
weil	～なので、なぜなら（理由）
ob	～かどうか
wenn	もし～ならば、～するとき
als	～したとき（過去の 1 回限りの出来事）
obwohl	～にもかかわらず
damit	～するために

例:

- ・ Ich weiß, **dass** die Ursache wichtig ist. (私は、原因が重要であることを知っています。)
- ・ Wir lernen, **weil** wir die Wahrheit verstehen **wollen**. (私たちは学びます、なぜなら真理を理解したいからです。)
- ・ Er fragt, **ob** die Wirkung gut ist. (彼は、結果が良いかどうかを尋ねます。)
- ・ **Wenn** du eine gute Ursache **gibst**, bekommst du ein gutes Ergebnis. (もしあなたが良い原因を与えれば、良い結果を得ます。)
- ・ 副文が文頭に来る場合、主文は定動詞から始まります（定動詞第 2 位の原則）。

● 1-4. 間接疑問文

疑問詞 (wer, was, wo, wann, wie, warum など) を使った疑問文が、主文の一部として組み込まれると**間接疑問文**になります。間接疑問文も副文の一種なので、**定動詞は文の最後に置かれます**。

主文, 疑問詞 + 主語 + ... + 定動詞.

例:

- ・ Ich weiß nicht, **was** die Ursache **ist**. (私は、原因が何であるか知りません。)
- ・ Er fragt, **warum** die Wirkung so **ist**. (彼は、なぜ結果がそのようなものであるかを尋ねます。)
- ・ Wir verstehen, **wie** das Gesetz **funktioniert**. (私たちは、その法則がどのように機能するかを理解します。)

● 1-5. 相関接続詞 —— 2 語で 1 組になる接続詞

2 つの語が組になって働く接続詞がある。**論理をはっきり示せる**ので、教えを説明するとき力を発揮する。

ドイツ語	日本語	英語
nicht nur ... sondern auch	～だけでなく.....もまた	not only ... but also
entweder ... oder	～か、それとも.....	either ... or
weder ... noch	～でもなく.....でもない	neither ... nor
sowohl ... als auch	～も.....も両方	both ... and
zwar ... aber	たしかに～だが.....	it is true ... but
je ..., desto ...	～すればするほど.....	the ... the ...

Wir lernen nicht nur die Lehre, sondern auch die Sprache.

私たちは教えだけでなく、言語も学びます。

Weder Geld noch Macht gibt uns Frieden.

お金も権力も、私たちに平安を与えません。

Zwar ist der Weg lang, aber wir gehen weiter.

たしかに道は長い。しかし私たちは歩み続けます。

★ **sondern** と **aber** の違いに注意。

sondern は「A ではなく B だ」と訂正するとき (前に否定がある)。

aber は「A だ。しかし B だ」と対比するとき。

X *Nicht die Lehre, aber die Sprache.* → O *Nicht die Lehre, sondern die Sprache.*

★ **je ... desto ...** は語順が特殊である。

je のあとは副文 (動詞は文末)、*desto* のあとは動詞が 2 番目。

Je mehr wir geben, desto mehr bekommen wir.

与えれば与えるほど、私たちは多くを受け取ります。

2. 英語と比べる —— 実は英語も「動詞を後ろへ動かす」ことがある

● ここが同じ！

- ・ もっとも基本的な接続詞は、形も働きもそのまま対応します。

ドイツ語	英語
und	and
aber	but
oder	or
denn	for (～というのは)
dass	that
weil	because
wenn	if / when
obwohl	although

- ・ **und / aber / oder / denn** は、英語の *and / but / or* と同じく、後ろの文の語順に影響しません。ただ 2 つの文を並べるだけです。

● ここが違う！ —— 従属接続詞のあとは、動詞が文末へ

dass, weil, wenn, obwohl などの従属接続詞が来ると、その節の動詞は文の最後に飛びます。英語にはない現象です。

ドイツ語	英語
Ich glaube, dass Gott uns liebt .	I believe that God loves us.
Ich lerne, weil ich die Wahrheit suche .	I learn because I seek the Truth.

英語では *that God loves us* と、主節と同じ語順のままです。ドイツ語では *dass Gott uns **liebt*** と、動詞 *liebt* が最後に落ちます。さらに 2 つ、英語との細かい違いがあります。

- ・ **コンマが必須**です。ドイツ語では副文の前に必ずコンマを打ちます。英語の *I believe that...* にコンマは要りません。
- ・ **dass は省略できません**。英語の *I believe (that) he is right.* のように *that* を落とすことはできますが、ドイツ語の *dass* は必ず書きます。

●副文が先に来ると、主節の動詞が前に出る

副文を文頭に置くと、**副文全体が「1番目の要素」**になります。すると定動詞第2位の原則により、主節の動詞がすぐ後ろに来ます。

Weil ich die Wahrheit suche, lerne ich Deutsch.

(真理を求めるので、私はドイツ語を学びます)

lerne ich と、主語と動詞がひっくり返る点に注意してください。英語では *Because I seek the Truth, I learn German.* と、主語が先のみです。

●実は英語も、間接疑問では「動詞を戻す」

ここは英語話者にとって、いちばん腑に落ちるところです。

英語で「彼はどこにいますか」は *Where is he?* ですが、「私は彼がどこにいるか知っています」は *I know where he is.* となり、**動詞が主語の後ろに戻ります**。 *I know where is he.* とは言いません。

ドイツ語もまったく同じことをします。しかも、もう一歩進んで**動詞を文末まで動か**します。

	ドイツ語	英語
直接疑問	Wo ist er?	Where is he?
間接疑問	Ich weiß, wo er ist.	I know where he is.

英語が「1つ戻す」ところを、ドイツ語は「最後まで送る」——**方向は同じ**なのです。「疑問文を文のなかに埋め込むと語順が落ち着く」という感覚を、あなたはすでに持っています。

●★英語からの乗り換え注意

- ・ X *Ich glaube, dass Gott liebt uns.* → ○ **... dass Gott uns liebt.** (動詞は文末)
- ・ X *Ich glaube Gott uns liebt.* → ○ **dass** を必ず入れる
- ・ X コンマの打ち忘れ。ドイツ語では副文の前後に必ずコンマを打ちます。
- ・ X **weil** と **denn** の混同。意味はどちらも「～だから」ですが、語順が正反対です。
- ・ *Ich lerne, weil ich die Wahrheit suche.* (動詞は文末)
- ・ *Ich lerne, denn ich suche die Wahrheit.* (動詞は2番目のまま)

●英語が見えてくる！

英語で *I know where he is.* が正しく、*I know where is he.* が誤りなのは、なぜでしょうか。学校では「間接疑問文は平叙文の語順」と習ったはずですが、その理由は説明されなかったはずです。

理由は、**疑問文の語順(動詞を前に出す形)は「主文だけの特権」**だからです。文のなかに埋め込まれた節は、もはや疑問を発していません。だから、疑問文の印である「動詞の前置」を返上するのです。

ドイツ語は、この原則をもっと徹底しています。埋め込まれた節では、動詞は前に出ないどころか、**いちばん後ろまで下がる**のです。

- ・ 主文 動詞は **2番目** (特権的な位置)
- ・ 副文 動詞は **文末** (特権を返上した位置)

「**動詞の位置が、その文の身分を示す**」——ドイツ語はこの原則を、英語よりもはるかに正直に守っている言語なのです。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「種をまく」という、因果の理法を表すたとえを中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字=ドイツ語文、次の行=日本語訳、〈英〉=英語訳(参考)、▷=文法ポイント、☆=ニュアンス解説、《》=題材とした教えの出典。

1. Wenn wir eine gute Saat säen, ernten wir eine gute Frucht. 12-1

私たちが良い種をまけば、私たちは良い実りを刈り取ります。

〈英〉 If we sow a good seed, we reap a good fruit.

- ▷ wenn (もし～ならば) が導く副文では、定動詞 *säen* が文末に。副文が文頭に来ているので、主文 *ernten wir...* は定動詞から始まる(定動詞第2位の原則)。

- ☆『復活の法』入門第3章では、因果の理法を「種をまく」ことにたとえて説かれています。赤いチューリップの球根を植えれば赤いチューリップの花が咲き、桜の木を植えれば桜の花が咲くように、良いことをすれば良い結果が現れ、毒麦の種をまけば毒麦が生えてくるように、悪いことをすれば悪い結果が現れます。

《たとえば、赤いチューリップの球根を植えれば赤いチューリップの花が咲き.....よいことをすれば、よい結果が現れてきます.....毒麦の種をまけば毒麦が生えてくるように、悪いことをすれば、悪い結果が現れてきます——『復活の法』入門第3章》

2. Die Ursache ist wichtig, und die Wirkung ist auch wichtig. 12-2

原因は重要であり、結果もまた重要です。

〈英〉The cause is important, and the effect is also important.

▷ Ursache (女) = 原因, Wirkung (女) = 結果。

《原因と結果の法則——『鋼鉄の法』第2章》

3. Wir glauben an das Gesetz von Ursache und Wirkung, aber viele Menschen verstehen es nicht. 12-3

私たちは因果の法則を信じますが、多くの人々はそれを理解していません。

〈英〉We believe in the law of cause and effect, but many people do not understand it.

▷ das Gesetz von Ursache und Wirkung = 因果の法則。

《因果の理法に対する誤解を正す》

4. Man muss eine gute Ursache geben, denn dann kommt eine gute Wirkung. 12-4

人は良い原因を与えなければなりません、なぜならそうすれば良い結果が来るからです。

〈英〉One must give a good cause, for then a good effect will come.

▷ man = 人は（不特定の人々）。dann = その後、そうすれば。

《善因善果、悪因悪果——『仏陀の証明』第3章》

5. Wir wissen, dass das Gesetz von Ursache und Wirkung perfekt funktioniert. 12-5

私たちは、因果の法則が完璧に働くことを知っています。

〈英〉We know that the law of cause and effect works perfectly.

▷ perfekt = 完璧に。funktionieren = 機能する。

《因果の理法は完璧に働いている——『復活の法』入門 第3章》

6. Der Buddha lehrt, dass die Ursache und die Wirkung in drei Zeiten existieren. 12-6

仏陀は、原因と結果が三世にわたって存在することを教えます。

〈英〉The Buddha teaches that cause and effect exist across three ages.

▷ lehren = 教える。existieren = 存在する。drei Zeiten = 三世（過去・現在・未来）。

《三世の因果——『復活の法』入門 第3章》

7. Ich frage mich, ob ich die Ursache richtig verstehe. 12-7

私は、自分が原因を正しく理解しているかどうかを自問します。

〈英〉I ask myself whether I correctly understand the cause.

▷ sich fragen = 自問する。richtig = 正しく。

《因果の理法を信ずること——『仏陀の証明』第3章》

8. Wenn wir gute Taten tun, bekommen wir gute Ergebnisse. 12-8

もし私たちが良い行いをすれば、良い結果を得ます。

〈英〉If we do good deeds, we get good results.

▷ die Tat (女) = 行い。bekommen = 得る、受け取る。

《善因善果——『仏陀の証明』第3章》

9. Wir wissen, warum die Ursache so wichtig ist. 12-9

私たちは、なぜ原因がそれほど重要であるかを知っています。

〈英〉We know why the cause is so important.

▷ so = そのように、それほど。

《因果の理法は仏教における成功哲学——『釈迦の真心』第5章》

10. Er versteht nicht, wie das Gesetz von Ursache und Wirkung funktioniert. 12-10

彼は、因果の法則がどのように機能するかを理解していません。

〈英〉He does not understand how the law of cause and effect works.

▷ wie = どのように。

《原因と結果の法則——『鋼鉄の法』第2章》

11. Wir glauben, dass man die Ursache nicht verbergen kann. 12-11

私たちは、人は原因を隠すことができないと信じています。

〈英〉We believe that one cannot hide the cause.

▷ verbergen = 隠す。

《因果の理法をくらすことはできない——『大川隆法霊言全集』第18巻 第4章》

12. Obwohl er viel arbeitet, sieht er die Wirkung nicht sofort. 12-12

彼はたくさん働いているにもかかわらず、すぐに結果を見ません。

〈英〉Although he works a lot, he does not see the effect immediately.

▷ obwohl = 〜にもかかわらず。sofort = すぐに。

《何事も一足飛びにはいかない——『鋼鉄の法』第2章》

13. Ich weiß, dass das Gesetz von Ursache und Wirkung auch für die Magie gilt. 12-13

私は、因果の法則が魔法にも当てはまることを知っています。

〈英〉I know that the law of cause and effect also applies to magic.

▷ die Magie (女) = 魔法。gelten für A = A に当てはまる。

《魔法や魔術にも関係がある「原因と結果の法則」——『鋼鉄の法』第 2 章》

◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— 一つひとつの思いは種である

「心は、たとえてみれば、畑のようなものだ」
——《御法話「無我なる愛」／心の深耕》

14. Ich weiß, dass jeder Gedanke wie ein Samen ist. 12-14

私は、一つひとつの思いが種のようなのだと知っています。

〈英〉I know that every thought is like a seed.

▷ dass 以下は副文。動詞 **ist** が文末に来ます。英語の *that every thought is like a seed* とは、動詞の位置が違います。

▷ dass は省略できません (英語の *that* は省略できます)。

15. Weil das Herz ein Feld ist, müssen wir es pflegen. 12-15

心は畑なのだから、私たちはそれを手入れしなければなりません。

〈英〉Because the heart is a field, we must tend it.

▷ weil 節が文頭にあるので、その全体が 1 番目の要素。そのため主節は **müssen wir** と、動詞と主語がひっくり返ります。

16. Der Samen wächst, denn das Feld ist gut. 12-16

種は育ちます。畑が良いからです。

〈英〉The seed grows, for the field is good.

▷ denn は並列接続詞なので、後ろの語順は変わりません (*das Feld ist gut*)。同じ「～だから」でも、*weil* なら ... *weil das Feld gut ist* (動詞は文末) です。

17. Ich weiß nicht, was ich gesät habe. 12-17

私は、自分が何を蒔いたのか分かりません。

〈英〉I do not know what I have sown.

▷ 間接疑問。英語も *what I have sown* と語順が平叙文に戻ります。ドイツ語はさらに一歩進めて、動詞を文末まで送ります。

★公式ドイツ語版では『若き日のエル・カンターレ』のドイツ語版 (*Twiceborn*) に

„Pflanzen Sie die Samen in Ihren eigenen Geist.“ (自分自身の心に種を蒔きなさい)

という一文があります。in Ihren ... Geist が 4 格なのは、「心のなかへ」という

移動の方向を表しているからです (第 6 章の 3・4 格支配)。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味
die Saat	女	種、種まき
säen	動	(種を)まく
ernten	動	刈り取る、収穫する
die Frucht	女	実り、果実
die Ursache	女	原因
die Wirkung	女	結果
das Gesetz	中	法則
die Tat	女	行い、行為
das Ergebnis	中	結果 (Wirkung と同義だが、より具体的な成果を指す)
die Magie	女	魔法
die Wahrheit	女	真理
der Buddha	男	仏陀
wichtig	形	重要な
perfekt	形	完璧な
richtig	形	正しい
gut	形	良い
schlecht	形	悪い
viel	副	たくさん
sofort	副	すぐに
so	副	そのように、それほど
und	接	～と、そして
aber	接	しかし
oder	接	～か、あるいは
denn	接	なぜなら
sondern	接	(～ではなく)むしろ
dass	接	～ということ
weil	接	～なので
ob	接	～かどうか
wenn	接	もし～ならば、～するとき
obwohl	接	～にもかかわらず
lehren	動	教える
funktionieren	動	機能する
existieren	動	存在する

ドイツ語	性	意味
verbergen	動	隠す
gelten	動	当てはまる、有効である
bekommen	動	得る、受け取る
sich fragen	再帰動	自問する
der Samen, -	男	種

5. 練習問題（独検 3 級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を 1 つ選びなさい。

- (1) Ich weiß, () die Ursache wichtig ist.
1 denn 2 aber 3 dass 4 wenn
- (2) Wir lernen, () wir die Wahrheit verstehen wollen.
1 und 2 weil 3 ob 4 sondern
- (3) Er fragt, () die Wirkung gut ist.
1 dass 2 denn 3 ob 4 und
- (4) () du eine gute Ursache gibst, bekommst du ein gutes Ergebnis.
1 Dass 2 Obwohl 3 Wenn 4 Aber
- (5) Ich weiß nicht, () das Gesetz funktioniert.
1 dass 2 wie 3 und 4 denn
- (6) () wir eine gute Saat säen, ernten wir eine gute Frucht.
1 Dass 2 Ob 3 Wenn 4 Und

● B. () の動詞を正しい形にして下線部に入れなさい。

- (1) Wir wissen, dass das Gesetz von Ursache und Wirkung perfekt _____. (funktionieren) (2) Der Buddha lehrt, dass die Ursache und die Wirkung in drei Zeiten _____. (existieren) (3) Ich frage mich, ob ich die Ursache richtig _____. (verstehen) (4) Wir glauben, dass man die Ursache nicht _____ kann. (verbergen) (5) Obwohl er viel _____, sieht er die Wirkung nicht sofort. (arbeiten) (6) Wenn wir eine gute Saat _____, ernten wir eine gute Frucht. (säen)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) wichtig / die Ursache / ist / und / die Wirkung / ist / auch / wichtig / . ♪12-C1
→「原因は重要であり、結果もまた重要です」(2) wir / lernen / die Wahrheit / , / weil / verstehen / wir / wollen / .
→「私たちは真理を学びます、なぜなら真理を理解したいからです」(3) die Ursache / ist / ich / nicht / weiß / , / was / .
→「私は、原因が何であるか知りません」(4) wir / säen / eine gute Saat / wenn / , / ernten / eine gute Frucht / wir
→「私たちが良い種をまけば、私たちは良い実りを刈り取ります」

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X Ich glaube, dass Gott liebt uns. → (2) X Ich glaube Gott uns liebt. （英語のように that を省いた）→ (3) X Ich lerne, weil ich suche die Wahrheit. → (4) 英語で I know where **he is**. が正しく I know where is he. が誤りである理由を、
「動詞の位置がその文の身分を示す」という観点から説明しなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) Ich weiß, dass jeder Gedanke wie ein Samen _____. （一つひとつの思いは種のようなもの）(2) Weil das Herz ein Feld _____, müssen wir es pflegen. （心は畑なのだから手入れが要る）(3) Der Samen wächst, denn das Feld _____ gut. （畑が良いから種は育つ）

● 解答

- A: (1) 3 (2) 2 (3) 3 (4) 3 (5) 2 (6) 3 B: (1) funktioniert (2) existieren (3) verstehe (4) verbergen (5) arbeitet (6) säen C: (1) Die Ursache ist wichtig, und die Wirkung ist auch wichtig.
(2) Wir lernen, weil wir die Wahrheit verstehen wollen.
(3) Ich weiß nicht, was die Ursache ist.
(4) Wenn wir eine gute Saat säen, ernten wir eine gute Frucht. D: (1) ... dass Gott uns liebt. （副文は動詞が文末）
(2) dass を必ず入れる（独語では省略できない）
(3) ... weil ich die Wahrheit suche.
(4) 疑問文の語順（動詞の前置）は主文だけの特権であり、
埋め込まれた節はそれを返上するから。独語ではさらに文末まで下がる。 E: (1) ist (2) ist (3) ist

6. 法話メモ —— 種をまくように、因果の理法は完璧に働いている

『復活の法』入門 第 3 章「過去・現在・未来を貫く『三世の因果』」で、大川隆法総裁は、「因果の理法」を「種をまく」ことにたとえて、こう説かれています。「赤いチューリップの球根を植えれば赤いチューリップの花が咲き、白いチューリップの球根を植えれば白いチューリップの花が咲くように、あるいは、桜の木を植えれば桜の花が咲くように、よいことをすれば、よい結果が現れてきます」。反対に、毒麦の種をまけば毒麦が生えてくるように、悪いことをすれば悪い結果が現れてくるのです。Wenn wir eine gute Saat säen, ernten wir eine gute Frucht. という文は、まさにこの教えを表しています。

『大川隆法霊言全集』第 21 巻でも、「まかぬ種は生えぬ。みずからまいた種は刈り取らねばならぬ」という古くからのたとえを引きながら、この因果の理法は、如来や菩薩であってもくまますことができないと説かれています。そして、「因果の理法は完璧に働いている」——この世だけで見れば因果の理法が完結しないように見えることもありますが、過去・現在・未来の三世にわたる時間の流れの中で見れば、因果の理法は百パーセント、完璧に働いており、誰一人としてそこから逃れることはできない、と教えられています。

この章で学んだ接続詞や副文の知識を使って、この深遠な法則をドイツ語で表現してみましょう。

Wenn wir eine gute Saat säen, wissen wir, dass das Gesetz von Ursache und Wirkung perfekt funktioniert.

コラム ドイツ観念論はこうして始まった —— カントと預言者ダニエル

なぜ、近代の哲学はドイツで花開いたのか。『黄金の法』第 2 章に、その経緯が説かれている。

そこで、八次元如来界では、十三世紀に地上に出て、中世を代表するキリスト教の大思想家となったトマス・アキナス（一二二五年——一二七四年）を中心に、会議が開かれました。

《『黄金の法』第 2 章「大地を駆ける」／7 ドイツ観念論哲学の登場》

アキナスは天才的な体系家ですが、彼の発案で、近代ドイツを中心に、理性と知性の哲学を構築し、学問的に真理を発表し、後代の世界各地の学者に研究させることによって、哲学的神法の流布を構想しました。

《『黄金の法』第 2 章「大地を駆ける」／7 ドイツ観念論哲学の登場》

その会議の結果、最初に地上へ送られたのが、イマニエル・カントである。

アキナスを中心とした会議の結果、最初に送り込んだ光の大指導霊が、イマニエル・カント（一二七四年——一八〇四年）です。

カントの前世は、旧約聖書中、『ダニエル書』にある預言者ダニエルという、紀元前六世紀の人でした。

《『黄金の法』第 2 章「大地を駆ける」／7 ドイツ観念論哲学の登場》

しかも、『道徳の形而上学』を世に問うただけでなく、『永久平和に寄せて』の論文のなかで、将来の「国際連合」の構想を打ち出しているのです。

時代を百年以上も先取りしているのは、さすがかつての預言者です。

《『黄金の法』第 2 章「大地を駆ける」／7 ドイツ観念論哲学の登場》

・公式ドイツ語版ではこう書かれている

ドイツ語	日本語	
ein großer Führungsgeist des Lichts	光の大指導霊	[公式訳]
In einer früheren Inkarnation war dieser im 6. Jahrhundert v. Chr. der Prophet Daniel gewesen.	カントの前世は、旧約聖書中、『ダニエル書』にある預言者ダニエルという、紀元前六世紀の人でした	[公式訳]
Kant ist ein Geistwesen aus der Dimension der Tathagata.	カントは如来界の人でした	[公式訳]
aus der Dimension der Bodhisattva	菩薩界から	[公式訳]
auf die Erde gesandt	地上に送り込みました	[公式訳]

カントに続いて送られたのが、フィヒテとシュリングである。

さて、カントは如来界の人でしたが、ドイツ観念論派の流れとして、さらに菩薩界から

フィヒテ（一七六二年——一八一四年）、シュリング（一七七五年——一八五四年）を地上に送り込みました。

《『黄金の法』第 2 章「大地を駆ける」／7 ドイツ観念論哲学の登場》

フィヒテの『ドイツ国民に告ぐ』は、ドイツ語では *Reden an die deutsche Nation*。an + 4 格（第 6 章）である。ナポレオンに敗れて虚脱していたドイツ国民に向けた、連続講演の題名であった。

・そして、観念論と仏教はつながっている

このカントに始まる観念論哲学は、その本質において、仏教思想と相通じるものがあります。そして、観念論哲学の研究者たちの多くは、かつて、インド、チベット、中国などで仏典の研究をしていた学僧たちなのです。

しかし、本人たちは、そのことに気がつかずに研究に励んでいるようです。

《『黄金の法』第 2 章「大地を駆ける」／7 ドイツ観念論哲学の登場》

★ドイツ語で仏法真理を学んでいるあなたは、けっして風変わりなことをしていない。

ドイツ観念論そのものが、仏典を読んでいた人びとの再来によって書かれたのである。

ドイツ語と仏法真理は、初めから同じ流れのなかにある。

第13章 接続法（第1式・第2式） 【3級】

【第24回・第25回（後期）】 この章は2回に分けて学ぶ。
 同じ週の次の時間の**会話**は 第24回「相手の言葉を受けとめて伝える」／第25回「丁寧をお願いする／もし～なら」
 [独検3級レベル]

この章の到達目標

1. 接続法第1式を使って間接話法を表現できる
2. 接続法第2式を使って非現実的な仮定や願望を表現できる
3. 接続法第2式を使って外交的な丁寧表現ができる
4. 「金色の仏像」というたとえを通して、「祈りの言葉」や「聖なる願い」を題材にした文をドイツ語で言える

1. 文法解説

ドイツ語の動詞には、直説法（Indikativ）の他に**接続法（Konjunktiv）**という形があります。接続法は、主に**間接話法**（他人の発言を伝える）、**非現実的な仮定や願望**、**外交的な丁寧表現**に使われます。

● 1-1. 接続法第1式（Konjunktiv I）

接続法第1式は、主に**間接話法**で使われます。動詞の**不定詞の語幹**に特定の語尾を付けます。

1-1-1. 規則変化動詞の接続法第1式

sagen（言う）を例に：

人称	接続法第1式	（直説法現在）
ich	sage	sage（同形）
du	sagest	sagst
er/sie/es	sage	sagt
wir	sagen	sagen（同形）
ihr	saget	sagt
sie/Sie	sagen	sagen（同形）

ポイント：

- ・語尾は **-e, -est, -e, -en, -et, -en** です。
- ・er/sie/es の形（sage）は直説法（sagt）と違うので、接続法だとはっきり分かります。
- ・ich, wir, sie/Sie の形は直説法現在形と同じになります。この場合、**接続法第2式で代用する**のが一般的です（後述）。
- ・du, ihr の形も直説法現在形と異なるため使えますが、口語ではあまり使いません。

1-1-2. 不規則動詞 sein と haben の接続法第1式

	sein（～である）	haben（持っている）
ich	sei	habe
du	seiest	habest
er/sie/es	sei	habe
wir	seien	haben
ihr	seiet	habet
sie/Sie	seien	haben

ポイント：

- ・sein の活用は完全に不規則なので、しっかり覚えましょう。
 - ・haben は規則変化動詞と同じ語尾を取ります。
- ★ここまでが第24回。以下は同じ章の続きで、第25回に学ぶ。

● 1-2. 接続法第2式（Konjunktiv II）

接続法第2式は、主に**非現実的な仮定、願望、そして外交的な丁寧表現**に使われます。また、接続法第1式が直説法現在形と同じ形になる場合の**代用**としても使われます。

1-2-1. 接続法第2式の作り方

接続法第2式は、基本的に**直説法過去基本形（Präteritum）**から作られます。

1. **規則変化動詞**：würde + 不定詞 の形を使います。規則動詞の接続法第2式は直説法過去（lernte）と同じ形になって区別がつかないため、würde で代用するのです。この形は規則動詞だけでなく多くの不規則動詞でも使われます。例：Ich würde lernen.（私は学ぶだろうに／学びたいのですが）

2. 不規則変化動詞：

- ・直説法過去基本形にウムラウトを付け、語尾に **-e** を付けます。

- ・ウムラウトが付かない場合は、そのまま語尾に -e を付けます。
- ・ただし、多くの場合、**würde** + **不定詞** の形が使われます。以下の動詞は接続法第 2 式を直接使用することが多いです。

können（～できる）

- ・直説法過去基本形: konnte
- ・接続法第 2 式: **könnte** (o → ö)

müssen（～しなければならない）

- ・直説法過去基本形: musste
- ・接続法第 2 式: **müsste** (u → ü)

wollen（～したい）

- ・直説法過去基本形: wollte
- ・接続法第 2 式: **wollte** (ウムラウトなし)

gehen（行く）

- ・直説法過去基本形: ging
- ・接続法第 2 式: **ginge** (ウムラウトなし)

1-2-2. 最重要動詞 sein, haben, werden の接続法第 2 式

これらは非常によく使われるため、形を覚えましょう。

	sein（～である）	haben（持っている）	werden（～になる）
ich	wäre	hätte	würde
du	wärest	hättest	würdest
er/sie/es	wäre	hätte	würde
wir	wären	hätten	würden
ihr	wäret	hättet	würdet
sie/Sie	wären	hätten	würden

ポイント:

- ・sein の **wäre**、haben の **hätte**、werden の **würde** は特に重要です。
- ・würde は、**würde** + **不定詞** の形で接続法第 2 式を構成する助動詞としても使われます。

● 1-3. 間接話法（Indirekte Rede）【3 級】

他人の発言や考えを伝えるときに使います。

- ・**主文が現在形の場合**: 接続法第 1 式を使います。例: Er sagt: "Ich bete jeden Morgen." → Er sagt, dass er jeden Morgen **bete**.（彼は「毎朝祈る」と言っている。→ 彼は毎朝祈ると言っている。）
- ・**接続法第 1 式が直説法現在形と同じ形になる場合（特に wir, sie/Sie）**: 接続法第 2 式で代用します。例: Sie sagen: "Wir lernen die Wahrheit." → Sie sagen, dass sie die Wahrheit **lernten** (または **lernen würden**).（彼らは「私たちは真理を学ぶ」と言っている。→ 彼らは真理を学ぶと言っている。）
▷ この場合、接続法第 1 式の **lernen** は直説法と同じなので、接続法第 2 式の **lernten** や **lernen würden** を使って間接話法であることを明確にします。

● 1-4. 非現実話法・願望・仮定（Irreale Rede, Wunsch, Hypothese）【3 級】

「もし～だったら、……だろうに」という、現実とは異なる状況を仮定したり、願望を述べたりするときに使います。接続法第 2 式を使います。

- ・**仮定**: Wenn-文（もし～ならば）と主文で構成されます。例: **Wenn** ich Zeit **hätte**, **würde** ich ein Buch lesen.（もし時間があつたら、本を読むだろうに。）
▷ 実際には時間がない、という非現実的な仮定。
- ・**願望**: 例: Ich **hätte** gern mehr Mut.（私にはもっと勇気があったらいいのに。）

● 1-5. 外交的丁寧表現（Höfliche Bitte）

依頼や提案をより丁寧にするために、接続法第 2 式を使います。特に助動詞の接続法第 2 式がよく使われます。

- ・**können** → **könnte** 例: **Könnten** Sie mir bitte helfen?（手伝っていただけませんか？）
- ・**wollen** → **wollte** 例: Ich **wollte** Sie etwas fragen.（少しお伺いしたいのですが。）
- ・**mögen** → **möchte** (mögen の接続法第 2 式は **möchte** で、直説法現在形として使われることも多い) 例: Ich **möchte** gern beten.（私は祈りたいのですが。）

2. 英語と比べる —— 「If I were you」の were が、そのまま生きている言語

接続法は、独検 3 級の山場です。しかし英語話者にとっては、**すでに知っているものに正式な名前が付いただけ**、という側面があります。

● 英語に残っている接続法の化石

次の英語を、不思議に思ったことはないでしょうか。

- ・ *If I were you ...* (もし私があなただったら) なぜ *was* ではなく *were* ?
- ・ *God bless you.* (神の祝福がありますように) なぜ *blesses* ではない ?
- ・ *Long live the King!* (国王万歳) なぜ *lives* ではない ?
- ・ *I suggest that he go at once.* (すぐ行くよう提案する) なぜ *goes* ではない ?

これらはすべて、**英語に残った接続法**です。英語はこの体系をほとんど捨てましたが、決まり文句のなかに化石として残しました。

ドイツ語では、これが**今も生きた文法**として働いています。

英語の化石	ドイツ語では
If I were you	Wenn ich du wäre ... (接続法第2式)
God bless you	Gott segne dich. (接続法第1式)
Long live the King	Es lebe der König! (接続法第1式)
I suggest that he go	Ich schlage vor, dass er gehe . (接続法第1式)

英語の "**were**" = ドイツ語の第2式、英語の "**bless / live / go**" = ドイツ語の第1式。この対応を頭に入れるだけで、接続法の全体像がつかめます。

● ここが違う！—— 間接話法で時制の一致がいらない

英語では、間接話法にすると**時制を一つ下げる**必要があります(時制の一致)。

*He said, "I **am** happy."* → *He said that he **was** happy.*

ドイツ語には、この作業がありません。代わりに**接続法第1式**を使います。

Er sagte, er sei glücklich.

(彼は、自分は幸せだと言った)

ist を *sei* に変えるだけで、「これは彼の発言の引用であって、私が事実だと保証しているわけではない」ということが示せるのです。時制はいじりません。

これはドイツ語の大きな利点です。「誰の言葉か」と「いつのことか」を、別々の道具で表せるからです。英語は時制でそれを兼ねてしまったため、しばしば曖昧になります。

ドイツの新聞記事が接続法第1式だらけなのは、このためです。「取材相手はこう言っている(が、真偽は保証しない)」と、文法だけで表明できるのです。

● 丁寧表現—— これは英語とまったく同じ発想

ドイツ語	英語
Können Sie mir helfen? (できますか)	Can you help me?
Könnten Sie mir helfen? (できますでしょうか)	Could you help me?
Ich hätte gern ... (～をいただきたいのですが)	I would like ...

英語の *Could you ...?* が *Can you ...?* より丁寧なのはなぜでしょうか。形は過去形なのに、意味は現在のことです。

答えは「距離」です。過去形は、時間的に「今ここ」から離れた形です。その「離れている」という感覚を、**現実からの距離＝控えめさ・遠慮**に転用したのです。

ドイツ語の接続法第2式も、まったく同じ理屈で作られています。だから**過去形をもとにして作る**のです。

- ・ 現実から遠い → **非現実** (もし～だったら)
- ・ 相手から遠い → **丁寧** (～していただけますか)

● ★英語からの乗り換え注意

- ・ X *Wenn ich Zeit habe, würde ich kommen.* → ○ *Wenn ich Zeit **hätte**, würde ich kommen.* 非現実の仮定では、**wenn** 節も**接続法第2式**にします。英語で *If I had time, I would come.* と *had* にするのと同じです。
- ・ X 英語の癖で時制を下げる。→ 間接話法では**時制を動かさず、接続法にする**だけです。
- ・ **第1式と第2式が同じ形になったら、第2式に逃げる**のがドイツ語の実際のルールです。たとえば *sie haben* の第1式 *sie haben* は直説法と区別がつかないので、第2式 *sie hätten* を使います。英語話者には奇妙に映りますが、「**区別がつく形を選ぶ**」という実用本位の規則です。

● 英語が見えてくる！

If I was you という英語話者は、実際にはたくさんいます。文法書は *were* が正しいとしますが、話し言葉では *was* も広く使われます。

これは、英語の接続法がまさに消えつつある現場です。かつては *If I were / if he were / if we were* と体系的に使い分けていたものが、今や *I were* という一箇所の決まり文句にまで縮んだのです。

ドイツ語を学ぶと、この *were* が孤立した例外ではなく、かつて英語が持っていた広大な体系の、最後の生き残りだと分かります。

If I were you —— この一句を大事にしてください。これはあなたの英語のなかに残った、ドイツ語への窓なのです。

3. 真理の例文（Sätze der Wahrheit）

その章までの文法と今回の項目だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「金色の仏像」というたとえを中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳（参考）、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Wenn wir tief meditierten, würden wir ein goldenes Buddha-Bild sehen. 13-1

もし私たちが深く瞑想すれば、金色の仏像を見るだろうに。

〈英〉 If we meditated deeply, we would see a golden Buddha image.

- ▷ meditierten の接続法第2式（過去基本形 *meditierte* に -e、ウムラウトなし）。werden の接続法第2式 *würden* + 不定詞 *sehen*。非現実的な仮定。

☆ 大川隆法総裁は、満月瞑想において自己の内を深く観ていくと、そこに肉体ではない自己像、ちょうど金色の仏像のような、光を発する存在を見ると説かれています。まだ多くの人にとって「もし～すれば、～だろうに」という非現実の仮定にとどまっていますが、精進によって現実のものとなっていく境地です。

《自らを振り返り、自己の内を観ていったとき……そこに私は一つの自己像を見ます。その私は肉体を持っている私ではありません。それは、ちょうど金色の仏像のごとく見える——『幸福の科学の十大原理（下巻）』第4章「反省の原理」》

2. Der Meister sagt, dass wir jeden Morgen beten sollen. 13-2

マスターは、私たちが毎朝祈るべきだと言っています。

〈英〉 The Master says that we should pray every morning.

- ▷ sollen の接続法第1式は *sollen*。直説法と同じ形なので、ここでは直説法と同じ形を使っている。
《日々の祈り——『大川隆法霊言全集』第23巻第3章》

3. Er sagte, er sei dankbar für alles. 13-3

彼は、すべてに感謝していると言いました。

〈英〉 He said that he was grateful for everything.

- ▷ sein の接続法第1式 *sei*。
《精進の心と同時に感謝の心を持つ——『信仰心からの革命』第2章》

4. Die Menschen wünschen, dass die Welt friedlicher wäre. 13-4

人々は、世界がもっと平和であればと願っています。

〈英〉 People wish that the world were more peaceful.

- ▷ sein の接続法第2式 *wäre*。非現実的な願望。
《救世主の願い——『鋼鉄の法』第5章》

5. Wenn wir mehr Liebe hätten, würden wir einander besser verstehen. 13-5

もし私たちがもっと愛を持っていたら、互いをよりよく理解するだろうに。

〈英〉 If we had more love, we would understand each other better.

- ▷ haben の接続法第2式 *hätten*、werden の接続法第2式 *würden*。非現実的な仮定。
《愛の教えの根本——『太陽の法』第3章》

6. Ich wünschte, ich könnte den Menschen Hoffnung geben. 13-6

人々に希望を与えられたらいいのに、と願っています。

〈英〉 I wish I could give people hope.

- ▷ Ich wünschte, ...（～だったらいいのに）は願望の決まり文句。können の接続法第2式 *könnte*。
《小さな願い——『青春詩集 愛のあとさき』第二部》

7. Könnten Sie mir bitte die Worte der Wahrheit erklären? 13-7

真理の言葉を説明していただけませんか？

〈英〉 Could you please explain the words of truth to me?

- ▷ können の接続法第2式 *könnten*。外交的丁寧表現。
《仏法真理の学習——『太陽の法』》

8. Der Meister lehrt, dass wir ein heiliges Gebet sprechen sollen. 13-8

マスターは、私たちが聖なる祈りの言葉を唱えるべきだと教えています。

〈英〉 The Master teaches that we should speak a holy prayer.

- ▷ lehren（教える）の接続法第1式 *lehre* は直説法と同じ形なので、ここでは直説法と同じ形を使っている。
《祈りの言葉——『愛、無限』第3章》

9. Wenn du Mut hättest, würdest du diese Herausforderung annehmen. 13-9

もし君に勇気があるなら、この挑戦を受け入れるだろうに。

〈英〉 If you had courage, you would accept this challenge.

▷ haben の接続法第2式 hättest、werden の接続法第2式 würdest。非現実的な仮定。

《私はできる！——『I Can 私はできる!』Chapter 3》

10. Ich möchte gern ein Buch über die Liebe lesen. ♪13-10

私は愛についての本を読みたいのですが。

〈英〉I would like to read a book about love.

▷ mögen の接続法第2式 möchte。丁寧な願望。

11. Die Seele sagte, sie wolle wieder auf die Erde kommen. ♪13-11

魂は、再び地上に來たいと言いました。

〈英〉The soul said that it wanted to come to earth again.

▷ wolle = wollen の接続法第1式（3人称単数）。er/sie が主語のときは直説法（will）と形が異なるので、第1式がそのまま使える。

《きみは、お母さんをお願いして生まれてきた——『じじよろんのたいせつさ』》

12. Man sagt, dass das Gebet eine große Kraft habe. ♪13-12

祈りには大きな力があると言われています。

〈英〉It is said that prayer has great power.

▷ haben の接続法第1式 habe。間接話法。

《祈りと愛の生活——『限りなく優しくあれ』第5章》

13. Wenn wir die Wahrheit kennen würden, wäre unser Leben leichter. ♪13-13

もし私たちが真理を知っていたら、私たちの人生はもっと楽になるだろうに。

〈英〉If we knew the truth, our life would be easier.

▷ kennen の接続法第2式 kennen würden（würde + 不定詞）、sein の接続法第2式 wäre。非現実的な仮定。

◆ 心に刻むたとえ（Gleichnis）——もし心が鏡であったなら

「正直でうそをつかずに生きている人は、ちょうど、よく磨いた鏡のようなものだ」

——《御法話「悪魔の嫌うこと」（2007年12月）》

14. Wenn mein Herz wie ein Spiegel wäre, könnte ich die Wahrheit klar sehen. ♪13-14

もし私の心が鏡のようであったなら、私は真理をはっきりと見ることができそうです。

〈英〉If my heart were like a mirror, I could see the Truth clearly.

▷ 接続法第2式による非現実的な仮定。wäre（sein）と könnte（können）。英語の *If I were ... I could ...* と、形も発想もまったく同じです。

▷ wenn 節も第2式にすることに注意（Wenn mein Herz ist は誤り）。

15. Wäre ich ehrlicher, so würde ich mehr sehen. ♪13-15

もっと正直であったなら、もっと多くが見えるでしょうに。

〈英〉Were I more honest, I would see more.

▷ wenn を省いて 動詞を文頭に置く形。英語の *Were I ...* とそっくりです。

16. Er sagte, sein Herz sei wie ein Spiegel. ♪13-16

彼は、自分の心は鏡のようだと言いました。

〈英〉He said (that) his heart was like a mirror.

▷ 接続法第1式による間接話法。ist を sei にするだけで、「これは彼の言葉であって、私が事実だと保証しているのではない」ことを示せます。英語のような時制の一致は不要です（sagte が過去でも sei のまま）。

17. Könnten Sie mir bitte helfen? ♪13-17

私を助けていただけますでしょうか。

〈英〉Could you please help me?

▷ 第2式による丁寧表現。英語の *Could you ...?* が *Can you ...?* より丁寧なのと同じ、「過去形＝距離＝控えめさ」という発想です。

☆ 神への祈りでは *du* を使いますが、人に対しては *Sie* を使い、さらに接続法第2式で敬意を表します。言葉づかいそのものが、心のあり方を映します。

4. 真理語彙（Wortschatz）

ドイツ語	性	意味
meditieren	動	瞑想する
das Bild	中	像、絵
golden	形	金色の
tief	形/副	深い、深く
beten	動	祈る
sagen	動	言う
wünschen	動	願う
verstehen	動	理解する
geben	動	与える
erklären	動	説明する
lehren	動	教える

ドイツ語	性	意味
annehmen	動	受け入れる
lesen	動	読む
kennen	動	知っている
die Kraft	女	力
die Hoffnung	女	希望
die Herausforderung	女	挑戦
das Gebet	中	祈り
die Worte	複	言葉（単数形 das Wort）
der Meister	男	マスター、師
die Seele	女	魂
die Erde	女	地上、地球
friedlich	形	平和な
heilig	形	聖なる
einander	副	互いに
wieder	副	再び
klar	形	はっきりした、澄んだ
ehrlich	形	正直な

5. 練習問題（独検 3 級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を 1 つ選びなさい。

- (1) Der Meister sagt, dass wir die Liebe ().
1 geben 2 gebe 3 gäben 4 geben würden
- (2) Wenn ich mehr Zeit (), () ich mehr beten.
1 hätte / würde 2 habe / werde 3 hätte / werde 4 habe / würde
- (3) Ich () gern ein Gespräch mit Ihnen führen.
1 wollte 2 will 3 wolle 4 würde
- (4) Sie sagte, sie () die Wahrheit lernen.
1 würde 2 lernt 3 lernen 4 lernten
- (5) () Sie mir bitte helfen?
1 Könnten 2 Können 3 Könntet 4 Könntest
- (6) Wenn wir tief meditierten, () wir ein goldenes Buddha-Bild sehen.
1 werden 2 würden 3 würdet 4 sind

● B. () の動詞を正しい接続法第 1 式または第 2 式の形にして下線部に入れなさい。

- (1) Er sagt, dass er glücklich _____. (sein) (2) Wenn ich ein Kind Gottes _____, _____ ich immer Liebe geben. (sein / werden) (3) Die Menschen wünschten, dass die Welt _____ (friedlich sein). (4) Ich _____ gern ein heiliges Gebet sprechen. (mögen) (5) Man sagt, dass die Seele _____ (unsterblich sein). (6) Wenn wir tief _____, würden wir ein goldenes Buddha-Bild sehen. (meditieren)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) beten / wir / sollen / der Meister / sagt / dass / jeden Morgen / . ♪13-C1
→「マスターは、私たちが毎朝祈るべきだと言っています」 (2) die Welt / wäre / wenn / friedlicher / wir / Liebe / hätten / mehr / .
→「もし私たちがもっと愛を持っていたら、世界はもっと平和だろうに」 (3) Sie / mir / die Wahrheit / erklären / könnten / bitte / ?
→「真理を説明していただけませんか？」 (4) wir / meditierten / tief / wenn / , / würden / wir / sehen / ein goldenes Buddha-Bild
→「もし私たちが深く瞑想すれば、金色の仏像を見るだろうに」

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X Wenn ich Zeit habe, würde ich kommen. (wenn 節を直説法にした) → (2) X Er sagte, er war glücklich. (英語式に時制を下げた)
→ (3) Können Sie mir helfen? をより丁寧にしなさい。 (4) 英語の Could you ...? が Can you ...? より丁寧なのはなぜか。
ドイツ語の接続法第 2 式と共通する理屈で説明しなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) Wenn mein Herz wie ein Spiegel _____, _____ ich die Wahrheit klar sehen.
(もし心が鏡のようであったなら、真理をはっきり見ることができでしょう) (2) Er sagte, sein Herz _____ wie ein Spiegel.
(彼は、自分の心は鏡のようだと言いました) (3) _____ Sie mir bitte helfen? (助けていただけますでしょうか)

● 解答

- A: (1) 4（主語が wir のとき geben の接続法第 1 式は直説法と同じ形になるため、間接話法であることを明確にする würde + 不定詞「geben würden」で代用する）
(2) 1 (3) 1
(4) 1（sich 彼女が主語の間接話法。würde + 不定詞で「学ぶつもりだ」と伝える）
(5) 1 (6) 2 B: (1) sei (sein の接続法第 1 式)
(2) wäre / würde (sein の接続法第 2 式 / werden の接続法第 2 式)

- (3) friedlich wäre (sein の接続法第2式)
(4) möchte (mögen の接続法第2式)
(5) unsterblich sei (sein の接続法第1式)
(6) meditierten (meditieren の接続法第2式) C: (1) Der Meister sagt, dass wir jeden Morgen beten sollen.
(2) Wenn wir mehr Liebe hätten, wäre die Welt friedlicher.
(3) Könnten Sie mir bitte die Wahrheit erklären?
(4) Wenn wir tief meditierten, würden wir ein goldenes Buddha-Bild sehen. D: (1) Wenn ich Zeit hätte, würde ich kommen.
(2) Er sagte, er sei glücklich. (時制は動かさず接続法第1式にする)
(3) Könnten Sie mir helfen?
(4) 過去形は時間的に「今ここ」から離れた形であり、その距離を
「現実からの距離＝控えめさ」に転用しているから。だから第2式も過去形から作る。E: (1) wäre / könnte (2) sei (3) Könnten

6. 法話メモ ——金色の仏像と、「聖なる願い」

『幸福の科学の十大原理（下巻）』第4章「反省の原理」で、大川隆法総裁は、満月瞑想において自己の内を深く観ていったときの体験を、こう語られています。「自らを振り返り、自己の内を観ていったとき、心の奥に沈潜していったとき、そこに私は一つの自己像を見ます。その私は肉体を持っている私ではありません。それは、ちょうど金色の仏像のごとく見える」。Wenn wir tief meditierten, würden wir ein goldenes Buddha-Bild sehen. という接続法第2式の文は、まだ多くの人にとって現実には至っていない、この深い反省と瞑想の境地への「非現実的な仮定」を表しています。しかし、精進を重ねること

で、それはやがて現実のものとなっていくのです。
大川隆法総裁は、『I Can 私はできる!』で、創造的人間となるためには「聖なる願い」から始めることが重要であると説かれています。また、『愛から祈りへ』や『限りなく優しくあれ』では、日々の「祈りの言葉」が人生を豊かにすると説かれています。

接続法は、まさにこのような「願い」や「祈り」の心、そして「もし〜であったら」という理想の境地をドイツ語で表現するのに役立ちます。「もし〜だったらいいのに」という願望や、「〜していただけますか」という丁寧な依頼は、接続法第2式で表現されます。また、マスターの教えを「〜と言っている」と伝える間接話法は、接続法第1式が基本です。

この章で学んだ接続法を使い、あなたの「聖なる願い」や「祈りの言葉」をドイツ語で表現してみましょう。
Wenn wir tief meditierten, würden wir ein goldenes Buddha-Bild sehen. Mögen Ihre Gebete erhört werden!

コラム ヘーゲルは智天使であった —— 太陽界に住む人びと

第7章のコラムで、ヘーゲルの an sich・für sich・an und für sich を学んだ。そのヘーゲルが何者であったかは、『黄金の法』に説かれている。

このヘーゲルこそ、かつて、ギリシャ哲学の屋台骨となったプラトンその人の再来でありました。ヘーゲルは、「知性」ということでは、人類を代表するひとりです。
キリスト教系では、智天使と呼ばれている天使のひとりで、八次元如来界の最上界、狭義の「太陽界」の住人です。
《『黄金の法』第2章「大地を駆ける」／7 ドイツ観念論哲学の登場》
同じあたりに、ソクラテスやカントもおります。彼らを取りまとめて指導しているのは、九次元世界のゴータマ・ブッダ釈尊と、いまひとりとはゼウスです。
《『黄金の法』第2章「大地を駆ける」／7 ドイツ観念論哲学の登場》

● 公式ドイツ語版ではこう書かれている

ドイツ語	日本語	
war er eine Reinkarnation von Platon	プラトンその人の再来でありました	[公式訳]
gehört zu den christlichen Engeln der Intelligenz (Cherubim)	キリスト教系では、智天使と呼ばれている天使のひとりで	[公式訳]
Er lebt in den höchsten Regionen der achten Dimension, dem „Bereich der Sonne“ im engeren Sinn	八次元如来界の最上界、狭義の「太陽界」の住人です	[公式訳]
Sie alle werden von Gautama Siddharta (Buddha Shakyamuni) und Zeus geleitet.	彼らを取りまとめて指導しているのは、九次元世界のゴータマ・ブッダ釈尊と、いまひとりとはゼウスです	[公式訳]

最後の一文は、まさにこの章で学んだ受動文（第11章）である。werden ... geleitet —— 「導かれている」。導いている側ではなく、導かれている側から書かれているところに注意したい。

★ 哲学の名前は、天上界の名簿でもある。
ソクラテス、プラトン（＝ヘーゲル）、カント——
ドイツ語の教科書に出てくる名前が、そのまま太陽界の住人の名前である。
あなたがドイツ語で読もうとしているものは、その人たちが書いたものなのである。

第 14 章 比較変化 【3 級】

【第 26 回（後期）】

同じ週の次の時間の会話は 第 26 回「もっと大切なもの」を示す

〔独検 3 級レベル〕

この章の到達目標

1. 形容詞・副詞の比較級・最上級を正しく作れる
2. 比較級・最上級を使った文を理解し、表現できる
3. 同等比較の表現を使いこなせる
4. 「泥沼に咲く蓮の花」というたとえを通して、「より高き悟り」「最高の幸福」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 比較級（Komparativ）

形容詞や副詞は、語尾に **-er** をつけることで比較級になります。「～よりも...」という比較の対象を示すには、**als** を使います。

形: 形容詞/副詞の語幹 + **-er** 比較の表現: ... 形容詞/副詞の比較級 **als** ～

原級	比較級	意味	例文
schnell	schneller	より速い	Er läuft schneller als ich. (彼は私よりも速く走る。)
schön	schöner	より美しい	Diese Blume ist schöner als jene. (この花はあの花よりも美しい。)
neu	neuer	より新しい	Das ist ein neuerer Computer. (それはより新しいコンピューターです。)

注意点:

1. 母音変化（ウムラウト）: 語幹の母音 **a, o, u** は、比較級でウムラウトすることが多いです。

原級	比較級	意味
alt (古い)	älter	より古い
jung (若い)	jünger	より若い
kurz (短い)	kürzer	より短い
groß (大きい)	größer	より大きい
lang (長い)	länger	より長い
warm (暖かい)	wärmer	より暖かい

2. 不規則変化: いくつかの形容詞・副詞は不規則に変化します。

原級	比較級	意味
gut (良い)	besser	より良い
viel (多くの)	mehr	より多くの
gern (喜んで)	lieber	より喜んで
hoch (高い)	höher	より高い
nah (近い)	näher	より近い

3. 形容詞の格変化: 比較級の形容詞が名詞を修飾する場合、通常の形容詞の格変化（定冠詞類の後、不定冠詞類の後、冠詞なし）の規則に従って語尾が変化します。

・例: ein **höherer** Berg (より高い山), die **bessere** Lösung (より良い解決策)

● 1-2. 最上級（Superlativ）

最上級には、副詞的用法と形容詞的用法の 2 種類があります。

1. 副詞的用法（am + 最上級）動詞や他の形容詞・副詞を修飾し、「最も～に」という意味を表します。形: **am** + 形容詞/副詞の語幹 + **-sten**

原級	最上級（副詞的）	意味	例文
schnell	am schnell sten	最も速く	Er läuft am schnellsten . (彼は最も速く走る。)

原級	最上級（副詞的）	意味	例文
schön	am schön sten	最も美しく	Sie singt am schön sten . (彼女は最も美しく歌う。)

注意点:

1. 語幹が **-d, -t, -s, -ß, -sch, -z** で終わる場合: 語幹と **-sten** の間に **-e-** が入ります。

原級	最上級（副詞的）	意味
leicht (簡単な)	am leicht esten	最も簡単に
kurz (短い)	am kürz esten	最も短く
heiß (暑い)	am heiß esten	最も暑く

※ 例外: groß は am größ**ten** (**-e-** が入らない)。

2. 母音変化（ウムラウト）: 比較級と同様に、語幹の母音 **a, o, u** はウムラウトすることが多いです。

原級	最上級（副詞的）	意味
alt	am ältest en	最も古く
groß	am größ ten	最も大きく

3. 不規則変化:

原級	最上級（副詞的）	意味
gut	am best en	最も良く
viel	am meist en	最も多く
gern	am lieb sten	最も喜んで
hoch	am höch sten	最も高く
nah	am näch sten	最も近く

2. 形容詞の用法（定冠詞 + 最上級） 名詞を修飾し、「最も～な名詞」という意味を表します。形: 定冠詞 **der/die/das** + 形容詞の語幹 + **-ste(n)** + 格変化語尾

原級	最上級（形容詞的）	意味	例文
schnell	der schnell ste Läufer	最も速い走者	Er ist der schnell ste Läufer. (彼は最も速い走者だ。)
schön	die schön ste Blume	最も美しい花	Das ist die schön ste Blume. (それは最も美しい花だ。)

注意点:

1. 語幹が **-d, -t, -s, -ß, -sch, -z** で終わる場合: 語幹と **-ste** の間に **-e-** が入ります。

・例: das leicht**este** Problem (最も簡単な問題)

2. 母音変化（ウムラウト）: 副詞的用法と同様に、ウムラウトします。

・例: der ältest**e** Baum (最も古い木)

3. 不規則変化:

・例: der best**e** Freund (最高の友人), die meist**en** Menschen (ほとんどの人々)

● 1-3. 同等比較（Gleichheitsvergleich）

「～と同じくらい...」という同等比較は **so ... wie ...** を使います。「～ほど...ではない」という否定の同等比較は **nicht so ... wie ...** を使います。

形: **so** + 形容詞/副詞 + **wie** + ～ 否定: **nicht so** + 形容詞/副詞 + **wie** + ～

例文	意味
Er ist so groß wie ich.	彼は私と同じくらい背が高い。
Sie lernt so fleißig wie ihr Bruder.	彼女は兄と同じくらい勤勉に学ぶ。
Das ist nicht so einfach wie du denkst.	それは君が思うほど簡単ではない。

2. 英語と比べる — good-better-best は gut-besser-best

●ここが同じ！

比較変化は、英語ともっともよく似ている文法項目です。ほとんど覚え直しがありません。

・比較級は **-er**、最上級は **-st / -est**。英語とまったく同じ語尾です。

ドイツ語	英語
klein – kleiner – kleinst-	small – smaller – smallest
stark – stärker – stärkst-	strong – stronger – strongest

・不規則な比較変化まで対応します。ここは見事です。

ドイツ語	英語
gut – besser – best-	good – better – best
viel – mehr – meist-	much/many – more – most
groß – größer – größt-	great – greater – greatest
hoch – höher – höchst-	high – higher – highest

★ 最上級に付けた - (ハイフン) は、これが語幹であって、単独の語ではないという印である。

実際に使うときは **am größten** (述語) か **der größte** (付加語) のように語尾が付く (③参照)。

gut / besser / best- と **good / better / best** — ほぼ同じ語です。「なぜ good の比較級が better なのか」という英語の不規則は、ドイツ語でもまったく同じ不規則として現れます。二つの言語が同じ癖を受け継いだのです。

・比較の相手を示す語も対応します。als = than, so ... wie = as ... as。

ドイツ語	英語
Er ist stärker als ich.	He is stronger than I.
Er ist so stark wie ich.	He is as strong as I.

●ここが違う！

① 長い語でも more を使わない

英語では、音節の多い語には *more / most* を使います (*more beautiful, most interesting*)。ドイツ語には、この区別がありません。どんなに長い語でも **-er / -st** を付けます。

ドイツ語	英語
interessanter	more interesting
wunderbarer	more wonderful

英語の「短い語は -er、長い語は more」という悩ましい線引きが、ドイツ語には存在しません。ここはドイツ語のほうが単純です。

② ウムラウトする語がある

1 音節の語の多くは、比較級・最上級で母音がウムラウトします。

- ・alt – älter – ältest- (古い)、stark – stärker – stärkst- (強い)
- ・groß – größer – größt- (大きい)、jung – jünger – jüngst- (若い)

英語の *old – elder* (年長の) に、この痕跡が残っています。older と elder が両方あるのは、ウムラウトした形が生き残ったからです。

③ 述語で使う最上級は「am ...sten」

英語は *He is the strongest.* と定冠詞を使いますが、ドイツ語では **am stärksten** という決まった形を使います。

Er ist **am stärksten**. (彼がいちばん強い)

これは英語に対応する形がないので、そのまま覚えてください。

●★英語からの乗り換え注意

- ・X *mehr interessant* → ○ **interessanter** (ドイツ語で *mehr* は比較級を作りません)
- ・X *Er ist stärker wie ich.* → ○ **als ich** 比較 (～より) は **als**、同等 (～と同じ) は **wie** です。ドイツ語圏の話言葉では *wie* を混用する人もいますが、試験では必ず区別してください。
- ・X 形容詞に語尾を付け忘れる。限定用法では比較級にも語尾が付きます。der **stärkere** Wille (より強い意志) ← *stärker* + 語尾 *-e*

●英語が見えてくる！

good – better – best は、なぜ *gooder – goodest* ではないのでしょうか。

答えは、この3つがもともと別々の語だったからです。比較級・最上級だけ、まったく違う語根 (bet-) から借りてきているのです。言語学では、これを**補充法** (欠けたところを別の語で補うやり方) といいます。

同じことは、いくつかの言語で起きています。

- ・英 good – better – best / 独 gut – besser – best-
- ・英 bad – worse – worst / 独 schlecht – schlechter (こちらは規則化)
- ・ラテン語 bonus – melior – optimus (英語の *ameliorate*, *optimal* の語源)

もっとも日常的な語ほど、形が乱れている——これは言語に共通する法則です。使用頻度が高い語は、まとめて規則化される波にのまれず、古い形のまま生き延びるのです。

good / better / best を暗記した苦労は、ドイツ語の gut / besser / best- で、そのまま報われます。

コラム nowadays の -s は、ドイツ語のなかで今も生きている

英語の *nowadays* (今日では)。now + a + day に、なぜ -s が付くのか——英文科の学生だった渡部昇一氏が、恩師に問われて答えられず、二年がかりで答えを見つけた話を、大川隆法総裁が紹介しておられる。

「ところで、nowadays の -s は、複数形の -s ではありません。-s には副詞をつくる機能があり、名詞に -s を付けることによって、副詞化されるのです。それが、近代英文法の歴史のなかで出てきます。」

《『教育の法』第4章「教育の理想について」／4 人気のある教師になる方法／プラスアルファの努力が自信を生む》

「つまり、この -s は、nowaday という名詞を副詞に変え、『今日では』『現代では』ということ言うためのものであるわけです。」

《『教育の法』第4章「教育の理想について」／4 人気のある教師になる方法／プラスアルファの努力が自信を生む》

そして総裁は、こう付け加えておられる。

「現代のイギリス人やアメリカ人に訊いても、説明できる人はまずいないでしょう。みな、『そうになっている』としか言わないはずですよ。」

《『教育の法』第4章「教育の理想について」／4 人気のある教師になる方法／プラスアルファの努力が自信を生む》

ドイツ語を学んでいるあなたは、この -s をすでに知っている。

● 1. ドイツ語では、この -s が現役である

この章で学んだ最上級から作る副詞を思い出してほしい。

ドイツ語	意味	成り立ち
meistens	たいてい	meist (最も多く) + -s
wenigstens	少なくとも	wenigst + -s
höchstens	せいぜい	höchst + -s
mindestens	少なくとも	mindest + -s

最上級の語幹に -s を付けると副詞になる。**名詞からも同じである。**

ドイツ語	意味	もとの名詞
morgens	朝に	der Morgen
abends	晩に	der Abend
nachts	夜に	die Nacht
sonntags	日曜日に (毎週)	der Sonntag
anfangs	初めは	der Anfang
rechts / links	右に / 左に	recht / link
unterwegs	途中で	der Weg
übrigens	ところで	übrig

nowadays の -s と、nachts の -s は、同じ -s である。英語では *nowadays*, *always*, *besides*, *towards*, *sometimes*, *once* (=one-s)、*twice* (=two-s) のように、いくつかの語に化石として残っているだけだが、ドイツ語では、いまでも新しい副詞を作れる、生きた仕組みなのである。

● 2. 歴史的には「属格 (2 格)」の転用である

この -s は、もともと名詞の**属格 (2 格)**の語尾 -s であった。「～の」という属格を、「～のときに」「～のやり方で」という意味で副詞的に使ううちに、語尾だけが**副詞をつくる印**として独り立ちした。

その証拠が *nachts* である。*die Nacht* は**女性名詞**で、本来の 2 格は *der Nacht* ——s は付かないはずである。ところが副詞は *nachts*。-s がもはや 2 格の語尾ではなく、「**副詞をつくる -s**」になったからこそ、性に関係なく付くのである。

総裁が「-s には副詞をつくる機能があり」と述べておられるのは、まさにこのことである。

● 3. ドイツ語からの借用ではなく、兄弟の共通財産

では、英語の *-s* はドイツ語の名残なのだろうか。正確には、どちらかがどちらかから借りたのではない。英語とドイツ語が同じ祖先（ゲルマン語）から共に受け継いだ仕組みである。

序章で学んだとおり、英語は歴史のなかで文法の仕組みを多く捨てた。この「副詞をつくる *-s*」もその一つで、英語では数語に残るだけになった。ドイツ語は、それをそのまま持ち続けている。だから、ドイツ語を学ぶと *nowadays* の *-s* が見える。——英語の「不思議」が、ドイツ語のなかでは「当たり前」として生きている。

★ なお *nowadays* の *a* は、冠詞の *a* ではなく、古い前置詞 *on* の弱まった形である（*asleep* 「眠って」、*aboard* 「船上に」の *a-* と同じ）。

つまり *now-a-days* = 「今・日々に（おいて）」。

ドイツ語で言えば、まさに *heutzutage*（今日では）——*heut*（今日）+ *zu*（～に）+ *Tage*（日）。

同じ発想で、同じ部品から、同じ語が作られている。

★ ここに、総裁の言葉を重ねて読んでほしい。

「現代のイギリス人やアメリカ人に訊いても、説明できる人はまずいない」——

その問いに、ドイツ語を学んだ日本人が答えられる。

第二外国語は、第一外国語を深くする。本書が英語との比較にこだわる理由は、ここにある。

3. 真理の例文（Sätze der Wahrheit）

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「泥沼に咲く蓮の花」というたとえを中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳（参考）、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Die höchste Glückseligkeit blüht wie eine Lotusblume aus dem Schlamm. 14-1

最高の至福は、泥沼から蓮の花が咲くように開花します。

〈英〉 The highest bliss blooms like a lotus flower out of the mud.

▷ *höchste*: *hoch* の最上級（形容詞の用法）が女性名詞 *Glückseligkeit* を修飾し、1 格で *-e*。 *wie* + 名詞句で比較。 *aus* + 3 格（～の中から）。

☆ 苦しみの多い泥沼のような環境からこそ、美しい蓮の花が咲きます。最高の幸福もまた、苦しみを避けることによってではなく、苦しみの中でよりよく生きることによって得られるのです。

《苦しみの世界の中で、よりよく生きることによって、最高の幸福が得られるのだ……ちょうど、蓮の花が汚い汚い泥沼から咲いてくるように、泥沼のような苦しみの中からでも、すばらしい人生を咲かせることができる——『「サクセス No. 1」の精神』第 1 章》

2. Wir streben nach einer höheren Erkenntnis. 14-2

私たちはより高き悟りを追求します。

〈英〉 We strive for a higher realization.

▷ *höheren*: *hoch*（高い）の比較級 *höher* が女性名詞 *Erkenntnis*（悟り）を修飾し、*nach* の 3 格支配で *-en*。

《より高きもののために——『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション(2)』第 2 章》

3. Der Weg zur Wahrheit ist oft schwieriger als erwartet. 14-3

真理への道は、しばしば予想よりも困難です。

〈英〉 The path to truth is often more difficult than expected.

▷ *schwieriger*: *schwierig*（困難な）の比較級。 *als erwartet*: 予想されたよりも。

《日々の精進——『信仰と情熱』第 4 章「精進と感謝」》

4. Die wahre Glückseligkeit ist höher als weltlicher Erfolg. 14-4

真の幸福は、世俗的な成功よりも高次元です。

〈英〉 True bliss is higher than worldly success.

▷ *höher*: *hoch* の比較級。 *als*: ～よりも。 *Glückseligkeit*: 至福、幸福。

《悟りという名の最高の幸福——『不滅の法』序章》

5. Die höchste Glückseligkeit finden wir in der Wahrheit. 14-5

最高の幸福を、私たちは真理の中に見出します。

〈英〉 We find the highest bliss in the truth.

▷ *höchste*: *hoch* の最上級。 *die höchste Glückseligkeit* は *finden* の 4 格目的語が文頭に出た形（定動詞 *finden* は 2 番目のまま）。

《悟りという名の最高の幸福——『不滅の法』序章》

6. Das größte Glück ist, die Wahrheit zu kennen und danach zu leben. 14-6

最大の幸福は、真理を知り、それに基づいて生きることです。

〈英〉 The greatest happiness is to know the truth and to live by it.

▷ *größte*: *groß* の最上級。「～すること」を表す *zu* 不定詞句は第 16 章で詳しく学ぶ（ここでは先取り）。

《人生最高の幸福とは、真理を知り、真理に生きること——『幸福の科学大学創立者の精神を学ぶ 2（概論）』》

7. Wir wollen die bestmögliche Zukunft für alle Menschen schaffen. 14-7

私たちはすべての人々にとって最高の未来を創造したいと願っています。

〈英〉 We want to create the best possible future for all people.

- ▷ bestmögliche: bestmöglich (最善の) が女性名詞 Zukunft (未来) を修飾し、4格で-e。
《理想高きものために》

8. Ein höheres Bewusstsein führt zu einem tieferen Verständnis des Lebens. ♪14-8

より高次元の意識は、人生へのより深い理解へと導きます。

〈英〉A higher consciousness leads to a deeper understanding of life.

- ▷ höheres: hoch の比較級 höher が中性名詞 Bewusstsein (意識) を修飾し、1格で-es。tieferen: tief (深い) の比較級 tiefer が中性名詞 Verständnis (理解) を修飾し、zu の3格支配で-en。
《より高きものために——『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション(2)』第2章》

9. Die Liebe Gottes ist die größte Kraft im Universum. ♪14-9

神の愛は、宇宙で最も偉大な力です。

〈英〉God's love is the greatest power in the universe.

- ▷ größte: groß の最上級 größt が女性名詞 Kraft (力) を修飾し、1格で-e。
《愛の教えの根本——『太陽の法』第3章》

10. Die höchste Weisheit erreichen wir nicht so leicht. ♪14-10

最高の智慧には、それほど簡単には到達できません。

〈英〉We cannot reach the highest wisdom so easily.

- ▷ höchste: hoch の最上級。4格目的語が文頭に出た形(定動詞は2番目)。nicht so leicht: それほど簡単には～ない。
《悟りの境地——『不滅の法』序章》

11. Die Erkenntnis der Wahrheit ist das höchste Glück. ♪14-11

真理の悟りこそが最高の幸福です。

〈英〉The realization of truth is the highest happiness.

- ▷ höchste: hoch の最上級 höchst が中性名詞 Glück を修飾し、1格で-e。
《悟りという名の最高の幸福——『不滅の法』序章》

12. Wir sollten immer nach einem besseren Selbst streben. ♪14-12

私たちは常に、より良い自己を目指して努力すべきです。

〈英〉We should always strive for a better self.

- ▷ besseren: gut の比較級 besser が中性名詞 Selbst (自己) を修飾し、nach の3格支配で-en。
《自己成長の教え——『幸福の原点』第1章》

13. Der Glaube ist wichtiger als materieller Reichtum. ♪14-13

信仰は物質的な富よりも重要です。

〈英〉Faith is more important than material wealth.

- ▷ wichtiger: wichtig (重要な) の比較級。als: ～よりも。
《信仰の力——『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション(4)』第5章》

◆◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— 北極星と灯台

「北極星のように、人間から見るとはるか遠く、手の届かないところにある『仏神の心』を基準として生きることによって、人びとの心が一つに定まります」

——《『繁栄の法』第3章「繁栄のための考え方」／1人間には「信仰の本能」がある》

「単に自分の周りにいる人だけを照らすのではなく、時代を超え、地域を超えて、灯台の光のごとく光りつづける愛、そういう愛が『存在の愛』です」

——《『幸福の科学とは何か』第4章「与える愛」／3愛に段階あり》

14. Der Polarstern steht am höchsten. ♪14-14

北極星がいちばん高いところにあります。

〈英〉The Pole Star stands highest.

- ▷ 述語で使う最上級は am ...sten. hoch は最上級で höchst (ウムラウトと ch の変化)。英語の high – higher – highest と対応します。

15. Kein Stern bewegt sich weniger als der Polarstern. ♪14-15

北極星ほど動かない星はありません。

〈英〉No star moves less than the Pole Star.

- ▷ 比較は als (英語の than)。wenig – weniger – wenigst。
☆ 北極星が動かないからこそ、旅人は自分の位置を知ることができます。基準が動かないことに意味があるのです。

16. Diese Liebe leuchtet länger als ein Feuer. ♪14-16

この愛は、火よりも長く光り続けます。

〈英〉This love shines longer than a fire.

- ▷ lang – länger – längst (ウムラウトする1音節語)。

17. Sie leuchtet so weit wie das Licht eines Leuchtturms. ♪14-17

それは灯台の光と同じくらい遠くまで届きます。

〈英〉It shines as far as the light of a lighthouse.

- ▷ 同等比較は so ... wie (英語の as ... as)。

▷ *eines Leuchtturms* は 2 格 (〜) の。英語の *of a lighthouse* にあたります。

★英語とそのまま同じ

gut – besser – best- / *good – better – best*

viel – mehr – meist- / *much – more – most*

この 2 組は、英語の不規則比較変化がそのまま使えます。覚え直す必要はありません。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味
blühen	動	花を咲かせる
die Lotusblume	女	蓮の花
der Schlamm	男	泥、泥沼
die Erkenntnis	女	悟り、認識
die Glückseligkeit	女	至福、最高の幸福
das Glück	中	幸福、幸運
die Wahrheit	女	真理
die Weisheit	女	知恵
das Bewusstsein	中	意識
das Verständnis	中	理解
die Kraft	女	力
der Glaube	男	信仰
der Reichtum	男	富
der Erfolg	男	成功
die Zukunft	女	未来
das Universum	中	宇宙
streben nach	動	〜を追求する、目指す
finden	動	見つける
schaffen	動	創造する
führen zu	動	〜へと導く
erreichen	動	達成する、到達する
kennen	動	知っている
leben	動	生きる
wichtig	形	重要な
schwierig	形	困難な
leicht	形	簡単な
tief	形	深い
weltlich	形	世俗的な
materiell	形	物質的な
erwartet	形	予想された
immer	副	いつも、常に
oft	副	しばしば
danach	副	その後、それに基づいて
bestmöglich	形	最善の、最高の
der Polarstern	男	北極星
der Leuchtturm, "e	男	灯台
leuchten	動	光る、輝く
weit	形	遠い、広い
der Regen	男	雨
hell	形	明るい・光り輝く

5. 練習問題 (独検 3 級形式・オリジナル)

● A. () に入れるのに最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- (1) Die Liebe ist () als Hass.
1 gut 2 besser 3 am besten 4 beste
- (2) Er ist () Schüler in unserer Klasse.
1 fleißiger 2 fleißigsten 3 der fleißigste 4 am fleißigsten
- (3) Die Wahrheit ist () ein Berg.
1 so hoch wie 2 höher als 3 am höchsten 4 so hoch als
- (4) Wir suchen nach dem () Weg zum Glück.
1 beste 2 besser 3 besten 4 am besten
- (5) Sie spricht Deutsch () als ich.
1 gut 2 besser 3 am besten 4 beste
- (6) Die () Glückseligkeit blüht wie eine Lotusblume aus dem Schlamm.
1 hoch 2 höher 3 höchste 4 am höchsten

● B. () 内の語を適切な形に直し、下線部に入れなさい。

- (1) Die Sonne ist _____ als der Mond. (groß) (2) Das ist der _____ Moment meines Lebens. (schön) (3) Er arbeitet _____ von allen. (fleißig) (4) Ich möchte eine _____ Welt schaffen. (gut) (5) Die Erkenntnis der Wahrheit ist _____ als weltlicher Erfolg. (wichtig)

● C. 語を並べて正しい文を作りなさい (文頭は大文字に)。

- (1) die Wahrheit / ist / das höchste Glück / . / Die Erkenntnis der (2) als / ist / wichtiger / Glaube / materieller Reichtum / . / Der (3) nach / streben / einer höheren Erkenntnis / Wir / . (4) blüht / eine Lotusblume / wie / aus dem Schlamm / . / Die höchste Glückseligkeit

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X mehr interessant (more interesting の直訳) → (2) X Er ist stärker wie ich. → (3) X Er ist der stärkste. 「彼がいちばん強い」(述語)として使った → (4) 英語の good – better – best が不規則である理由を、ドイツ語の gut – besser – best とあわせて説明しなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) Der Polarstern steht _____. (北極星がいちばん高いところにあります) (2) Diese Liebe leuchtet _____ als ein Feuer. (この愛は火よりも長く光り続けます) (3) Sie leuchtet _____ weit _____ das Licht eines Leuchtturms. (灯台の光と同じくらい遠くまで届きます)

● 解答

A: (1) 2 (2) 3 (3) 1 (4) 3 (5) 2 (6) 3 B: (1) größer (2) schönste (3) am fleißigsten (4) bessere (5) wichtiger C: (1) Die Erkenntnis der Wahrheit ist das höchste Glück.

(2) Der Glaube ist wichtiger als materieller Reichtum.

(3) Wir streben nach einer höheren Erkenntnis.

(4) Die höchste Glückseligkeit blüht wie eine Lotusblume aus dem Schlamm. D: (1) interessanter (独語は語の長さに関係なく -er)

(2) ... stärker als ich. (比較は als, 同等は wie)

(3) Er ist am stärksten. (述語の最上級は am ...sten)

(4) 比較級・最上級だけ別の語根から借りている(補完法)。

もっとも日常的な語ほど古い形のまま生き延びるため、両言語に同じ不規則が残った。E: (1) am höchsten (2) länger (3) so / wie

6. 法話メモ —— 泥沼に咲く蓮の花と「最高の幸福」

『「サクセス No. 1」の精神』第1章で、大川隆法総裁は、「最高の幸福」についてこう説かれています。「苦しみの世界の中で、よりよく生きることによって、最高の幸福が得られるのだ……ちょうど、蓮の花が汚い汚い泥沼から咲いてくるように、泥沼のような苦しみの中からでも、すばらしい人生を咲かせることができる」。**Die höchste Glückseligkeit blüht wie eine Lotusblume aus dem Schlamm.** という最上級の文は、まさにこの教えを表しています。きれいな池からではなく、汚い泥沼からこそ、蓮の花は生まれるのです。

大川隆法総裁は、私たち人間が目指すべき目標として「より高き悟り」と「最高の幸福」も説かれています。『大川隆法初期重要講演集 ベストセレクション(2)』第2章では、より価値あるもの、より高きもの、より理想高きものために生きるよう勧められています。また、『不滅の法』序章では「悟りという名の最高の幸福」が説かれ、真理を知り、真理に生きることが人生最高の幸福であると示されています。

この章で学んだ比較変化の表現を使って、これらの教えをドイツ語で表現できるようになりましょう。苦しみの泥沼の中にあっても、私たちは常に、より高きものを目指し、最高の幸福を追求する存在です。

Die höchste Glückseligkeit blüht wie eine Lotusblume aus dem Schlamm, und wir streben nach einer höheren Erkenntnis.

● もう一段深く —— 雨あがりの一筋の道

比較級と最上級は、ものごとに順序をつける文法である。では、人生でもっとも光って見えるのは、どのような道か。

「努力即幸福、幸福即努力という信条を持って生きた人の人生は、雨あがりの一筋の道のように光って見える」

《『原説・『愛の発展段階説』—若き日の愛の哲学—』第2章「愛と人生」／最高の人生》

雨あがりの道が光るのは、**雨が降ったから**である。濡れていない道は光らない。苦しみを通った人生だけが、あの光り方をする。

Der Weg nach dem Regen leuchtet am hellsten.

雨あがりの道が、いちばん明るく光ります。

〈英〉The road after the rain shines brightest.

最上級 **am hellsten** が、ここではほんとうの意味を持つ。いちばん明るいのは、いちばん楽だった道ではない。

コラム スイスの聖者、カール・ヒルティ

ドイツ語を話す国は、ドイツだけではない。スイスとオーストリアもドイツ語圏である(第1章)。

そのスイスに、カール・ヒルティ(Carl Hilty, 1833–1909)という人がいた。法学者であり、『幸福論』『眠られぬ夜のために』の著者である。大川隆法総裁は、この人を招霊されるにあたり、こう呼びかけておられる。

スイスの聖者、カール・ヒルティよ。

『幸福論』の著者である、カール・ヒルティよ。

《『ヒルティの語る幸福論』／1 『幸福論』の著者ヒルティに訊く》

必ずや幸福の科学指導霊団のなかにいらっしゃることだろうと推測いたしております。

《『ヒルティの語る幸福論』／1 『幸福論』の著者ヒルティに訊く》

総裁はまた、こう述べておられる。

私は、高校時代に、ヒルティの『眠られぬ夜のために』の第一部と第二部を二冊とも読んだことがあります。

《『ヒルティの語る幸福論』／1 『幸福論』の著者ヒルティに訊く》

ヒルティの『幸福論』の原題は **Glück** —— この章で学ぶ **glücklich** (幸福な) の名詞形である。『眠られぬ夜のために』は **Für schlaflose Nächte**。Nächte は *die Nacht* の複数形で、**ウムラウトが起きる型** (第 4 章) である。

★ スイスは、四つの公用語を持つ国である。

ドイツ語・フランス語・イタリア語・ロマンシュ語。

一つの国のなかで、人は当たり前のように言語を越えて暮らしている。

—— **言語の壁は、越えられないものではない。**

そのスイスから、幸福について書いた人が出たことは、偶然ではないのかもしれない。

第 15 章 関係文 【3 級】

【第 27 回（後期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第 27 回「「～する人」を語る」

【独検 3 級レベル】

この章の到達目標

1. 関係代名詞 **der** 型を使って、先行詞を詳しく説明する文を作れる
2. 関係代名詞 **was** や **wer** を使って、先行詞を含んだ関係文を作れる
3. 「智慧という歯車」というたとえを通して、「智慧ある者」や「悟りを求める人」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 関係文とは

関係文 (Relativsatz) は、先行詞 (名詞や代名詞) を詳しく説明する文です。先行詞の直後にコンマで区切られて置かれ、文末に定動詞が来る従属文の一種です。

例: Der Mensch, **der die Wahrheit sucht**, ist weise. (真理を求める人は智慧ある者です。) → **der die Wahrheit sucht** が先行詞 Der Mensch を説明しています。

● 1-2. 関係代名詞 **der** 型

関係代名詞は、先行詞の性・数と、関係文の中での格によって形が変わります。関係代名詞は関係文の文頭に置かれます。

	男性	女性	中性	複数
1 格	der	die	das	die
2 格	dessen	deren	dessen	deren
3 格	dem	der	dem	denen
4 格	den	die	das	die

- ・先行詞の性・数で関係代名詞の形 (der, die, das, dessen など) が決まります。
 - ・関係文の中での役割で関係代名詞の格 (1 格主語、4 格目的語など) が決まります。
- 例:
- ・Der Mensch, **der** die Wahrheit sucht, ist weise. (der: 先行詞 Mensch(男性・単数)に合わせ形は der。関係文中で主語なので 1 格。)
 - ・Die Weisheit, **die** wir brauchen, ist wichtig. (die: 先行詞 Weisheit(女性・単数)に合わせ形は die。関係文中で brauchen の 4 格目的語なので 4 格。)
 - ・Das Buch, **aus dem** ich lerne, ist heilig. (dem: 先行詞 Buch(中性・単数)に合わせ形は das。関係文中で aus の 3 格支配なので 3 格。)
 - ・Die Menschen, **denen** ich helfe, sind dankbar. (denen: 先行詞 Menschen(複数)に合わせ形は die。関係文中で helfen の 3 格目的語なので 3 格。)

● 1-3. 関係代名詞 **was** と **wer**

1-3-1. **was**

関係代名詞 **was** は、以下の場合に用いられます。

1. 先行詞が**不定代名詞** (alles, etwas, nichts, vieles, wenig) の場合。例: Alles, **was** er sagt, ist wahr. (彼が言うことすべてが真実です。)
2. 先行詞が**最上級**の形容詞を伴う中性名詞の場合 (das Schönste, das Beste)。例: Das ist das Beste, **was** ich je gehört habe. (それは私が今まで聞いた中で最高のものです。)
3. 先行詞が**文全体**の場合。例: Er lernt jeden Tag, **was** sehr wichtig ist. (彼は毎日学びます、それはとても大切なことです。)

1-3-2. **wer**

関係代名詞 **wer** は、先行詞が特定されていない人、つまり「～する人は誰でも」という意味で用いられます。**wer** 自体が先行詞の役割も果たします。

例:

- ・**Wer** die Wahrheit sucht, findet sie. (真理を求める人は誰でも、それを見つけます。)(Wer: 関係文中で主語なので 1 格。)
- ・**Wen** Gott liebt, den erzieht er. (神が愛する人は誰でも、彼を教育します。)(Wen: 関係文中で lieben の 4 格目的語なので 4 格。主文では den が受けます。)
- ・**Wem** die Liebe fehlt, dem fehlt alles. (愛が欠けている人は誰でも、すべてが欠けています。)(Wem: 関係文中で fehlen の 3 格目的語なので 3 格。主文では dem が受けます。)

● 1-4. 関係副詞 **wo** —— 場所と時を受ける

関係代名詞のほかに、場所や時を受ける関係副詞がある。

ドイツ語	日本語
der Ort, wo wir beten	私たちが祈る場所
der Tag, wo ich die Wahrheit fand	私が真理を見いだした日
das Land, woher ich komme	私が来た国
der Tempel, wohin wir gehen	私たちが行く支部

場所を表す先行詞のときは、「前置詞＋関係代名詞」を **wo** で置き換えられる。

- ・ der Ort, **in dem** wir beten = der Ort, **wo** wir beten
 - ★ 地名・国名が先行詞のときは、必ず **wo** を使う。
 - **Deutschland, wo ich lebe** ~~X Deutschland, in dem ich lebe~~

● 1-5. **wo(r)**＋前置詞 —— 物を受けるとき

物を受ける関係代名詞に前置詞が付くときは、**wo(r)**＋前置詞にまとめる。

ドイツ語	日本語
das Buch, worüber wir sprechen	私たちが話している本
die Lehre, woran ich glaube	私が信じている教え
das Ziel, wofür wir leben	私たちが生きる目的

- ★ 前置詞が母音で始まるときは **wor-** (woran, worüber)、子音で始まるときは **wo-** (wofür, womit)。
- 発音しやすくするために **r** を挟むだけである。
- ★ 人を受けるときは、この形にしない。前置詞＋関係代名詞のままにする。
- **der Mensch, an den ich denke** (私が思っている人)
- ~~X der Mensch, woran ich denke~~

2. 英語と比べる —— **whom** が消えた英語、**den** が生きているドイツ語

● ここが同じ！

- ・ 名詞のうしろに文をつなげて説明する、という仕組みそのものは同じです。
- ・ 関係代名詞が「前の名詞を受ける」働きも同じです。

ドイツ語	英語
der Mensch, der die Wahrheit sucht	the person who seeks the Truth
die Lehre, die wir lernen	the teaching which/that we learn

- ・ **wer** (～する人は) / **was** (～すること) の使い方も、英語の **whoever / what** に対応します。

● ここが違う！

観点	ドイツ語	英語
コンマ	必ず打つ	制限用法では打たない
動詞の位置	文末	変わらない
省略	できない	目的格はよく省略する
形が示すもの	性・数・格	人か物か (who / which)

① 省略できない

英語では、目的格の関係代名詞をふつう省略します。

The teaching (that) we learn ... that を落としても自然です。

ドイツ語では、絶対に省略できません。

die Lehre, die wir lernen ← *die* は必須です。

② 動詞は文末へ

関係文は副文の一種なので、第 12 章と同じく動詞が文末に行きます。

der Mensch, der die Wahrheit sucht (真理を求める人)

英語の *the person who seeks the Truth* とは、動詞の位置が違います。

③ 形の決め方 —— 「性と数は外から、格は中から」

ここがドイツ語の関係代名詞の核心です。

Der Mensch, den ich sehe, ist mein Meister. (私が見ているその人は、私の師です)

- ・ **den** の性 (男性) ・ 数 (単数) は、先行詞 *der Mensch* からもらいます。
- ・ **den** の格 (4格) は、関係文のなかでの役割 (*sehen* の目的語) で決まります。

英語には格の変化がほとんどないので、この二段構えを意識する必要がありません。ドイツ語では、**毎回この2つを別々に考える**必要があります。

★覚え方

「性と数は、外 (先行詞) を見る。格は、中 (関係文) を見る。」

このひと言を唱えながら解くと、選択問題の正答率が一気に上がります。

● 英語にも、この二段構えはあった

英語の *who / whose / whom* を思い出してください。

- ・ *the man who came* (主語 → *who*)
- ・ *the man whose book I read* (所有 → *whose*)
- ・ *the man whom I saw* (目的語 → *whom*)

関係文のなかでの役割によって形を変えている——これはドイツ語とまったく同じ発想です。英語話者は、*who / whom* の使い分けという形で、すでにこの二段構えを経験しています。

ただし現代英語では *whom* は急速に使われなくなり、*who* や *that* で代用されるようになりました。その結果、英語では「格を考える」習慣が失われつつあります。ドイツ語では、この判断が**毎回必要**なのです。

● ★英語からの乗り換え注意

- ・ X *die Lehre, wir lernen* → ○ **die Lehre, die wir lernen** (省略不可)
- ・ X *der Mensch, der sucht die Wahrheit* → ○ ... **der die Wahrheit sucht** (動詞は文末)
- ・ X コンマを打たない。ドイツ語では**制限用法でも必ずコンマ**を打ちます。英語の「制限用法はコンマなし・非制限用法はコンマあり」という規則は、ドイツ語にはありません。
- ・ X 先行詞の格をそのまま関係代名詞に持ち込む。 *Ich danke dem Menschen, der mir hilft.* 先行詞は3格 (*dem Menschen*) ですが、関係代名詞は関係文のなかで主語なので **der** (1格) です。

● 英語が見えてくる！

英語で *the book which I read* と *the book, which I read* は、意味が違います。コンマひとつで、「(数ある本のうち) 私が読んだその本」か、「その本を、ちなみに私は読んだのだが」かが変わります。

英語はコンマに、この**重い意味の差**を背負わせました。だから英語の作文では、関係詞の前のコンマに神経を使います。

ドイツ語はコンマを**すべての副文に機械的に打つ**と決めたので、コンマに意味を持たせることができません。代わりに、語順や副詞 (*übrigens* = ちなみに、など) で区別します。

同じ道具でも、言語によって別の仕事をさせている——ドイツ語のコンマ規則を学ぶと、英語のコンマが担っている繊細な役割が、逆によく見えてきます。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「智慧という歯車」というたとえを中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳 (参考)、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Die Weisheit ist wie ein Zahnrad, das die Kraft lenkt. 15-1

智慧は、力を方向づける歯車のようなものです。

〈英〉 Wisdom is like a gear that directs the force.

▷ *das*: 先行詞 *das Zahnrad* (中・単) に合わせて *das*。関係文中で *lenken* の主語なので1格。

☆ 大川隆法総裁は、情熱と智慧の関係を「歯車」にたとえて説かれています。情熱だけでは力の方向は定まりませんが、そこに智慧が加わったとき、ちょうど数多くの歯車がいろいろな方向に力を展開していくように、その情熱は各方面に良い影響を与える力となるのです。

《智慧は智慧で、また大きな仕事をしていきます。それは、ちょうどあの大きな歯車を回すときの仕掛けにも似ている……これに智慧が加わったとき、ちょうどあの数多くの歯車がいろいろな方向に力を展開していくように、各方面にいろいろな影響を与えることができる——『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション(2)』第2章》

2. Ein weiser Mensch ist jemand, der die Zeit meistert. 15-2

智慧ある者とは、時間を掌握する人です。

〈英〉 A wise person is someone who masters time.

▷ *der*: *jemand* (男・単) の1格主語。

《智慧ある者——『智慧の経営』第7章》

3. Die Weisheit, die wir suchen, kommt von Gott. 15-3

私たちが求める智慧は、神から来ます。

〈英〉The wisdom we seek comes from God.

▷ die: die Weisheit(女・単)の 4 格目的語。

《深い智慧はどうしたら得られるか——『智慧の経営』第 7 章》

4. Der Mensch, der nach der Wahrheit strebt, ist ein Sucher der Erleuchtung. 15-4

真理を求める人は、悟りを求める者です。

〈英〉The person who strives for truth is a seeker of enlightenment.

▷ der: der Mensch(男・単)の 1 格主語。streben nach + 3 格「～を求める」。

《悟りを求める心——『漏尽通力』第 1 章》

5. Die Seele, die die Erleuchtung finden will, muss fleißig lernen. 15-5

悟りを見つけたいと願う魂は、勤勉に学ばなければなりません。

〈英〉The soul that wants to find enlightenment must study diligently.

▷ die: die Seele(女・単)の 1 格主語。

《悟り即救済——『宗教選択の時代』第 7 章》

6. Alles, was der Meister lehrt, ist die höchste Wahrheit. 15-6

師が教えることすべてが、最高の真理です。

〈英〉Everything the Master teaches is the highest truth.

▷ was: alles の関係代名詞。lehren の 4 格目的語。

《仏法真理の学習——『太陽の法』》

7. Wer die Erleuchtung sucht, findet den Weg zum Glück. 15-7

悟りを求める人は誰でも、幸福への道を見つけます。

〈英〉Whoever seeks enlightenment finds the way to happiness.

▷ Wer: 1 格主語。

《悟りを求める心——『漏尽通力』第 1 章》

8. Ein weiser Mensch, dessen Herz rein ist, kann die Zukunft sehen. 15-8

心が清らかな智慧ある者は、未来を見ることができます。

〈英〉A wise person whose heart is pure can see the future.

▷ dessen: der weise Mensch(男・単)の 2 格所有。

《智慧ある者——『智慧の経営』第 7 章》

9. Die Menschen, denen die Liebe fehlt, können die wahre Weisheit nicht verstehen. 15-9

愛が欠けている人々は、真の智慧を理解することができません。

〈英〉People who lack love cannot understand true wisdom.

▷ denen: die Menschen(複)の 3 格目的語。

《愛の教えの根本——『太陽の法』第 3 章》

10. Das ist das Wichtigste, was wir in diesem Leben lernen können. 15-10

これが、私たちがこの人生で学ぶことができる最も大切なことです。

〈英〉This is the most important thing we can learn in this life.

▷ was: das Wichtigste の関係代名詞。

《人生は魂を鍛える学校——『人生の王道を語る』》

11. Wer die Wahrheit kennt, der ist wirklich frei. 15-11

真理を知る人は誰でも、本当に自由です。

〈英〉Whoever knows the truth is truly free.

▷ Wer: 1 格主語。主文の der が受ける。

《真理の探究——『太陽の法』》

12. Jeder soll ein weiser Mensch sein, der die Zeit gut nutzt. 15-12

誰もが、時間を有効に使う智慧ある者であるべきです。

〈英〉Everyone should be a wise person who uses time well.

▷ der: ein weiser Mensch(男・単)の 1 格主語。

《智慧ある者——『智慧の経営』第 7 章》

13. Der Glaube, der uns zur Erleuchtung führt, ist sehr stark. 15-13

私たちが悟りへと導く信仰は、とても強いです。

〈英〉The faith that leads us to enlightenment is very strong.

▷ der: der Glaube(男・単)の 1 格主語。

《信仰と情熱——『信仰と情熱』》

◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis) —— 地面を歩く蟻

「そういうことを知らないということは、ちょうど地面の上を試行錯誤しながら歩いている蟻のような存在にしか過ぎないということです」

——《『悟りの発見』第 3 章「悟りの発見」／3 悟りへのステップ／②他からの学び》

14. Der Mensch, der nur an sich denkt, ist wie eine Ameise, die auf dem Boden läuft. 15-14

自分のことしか考えない人は、地面の上を歩いている蟻のようなものです。

〈英〉A person who thinks only of himself is like an ant that runs on the ground.

- ▷ 関係代名詞が2つ。**der**（先行詞 *der Mensch* が男性単数／関係文で主語なので1格）、**die**（先行詞 *eine Ameise* が女性単数／関係文で主語なので1格）。
- ▷ 動詞 *denkt* と *läuft* は、それぞれの関係文の**文末**にあります。
- ☆ 蟻には蟻の懸命さがあります。ただ、地面しか見えていないだけです。

15. Der Meister, den ich suche, kennt den Weg. ♪15-15

私が探している師は、その道を知っています。

〈英〉The master (whom) I seek knows the way.

- ▷ **den** は男性単数の**4格**（*suchen* の目的語だから）。先行詞 *der Meister* は主節では1格ですが、関係代名詞の格は**関係文のなか**で決まります。
- ▷ 英語では（*whom*）を省略できますが、**ドイツ語では省略できません**。

16. Wer die Wahrheit sucht, findet sie. ♪15-16

真理を求める者は、それを見いだします。

〈英〉Whoever seeks the Truth finds it.

- ▷ 先行詞を含む関係代名詞 **wer**（英語の *whoever*）。*sucht* は副文なので文末、*findet* は主節の動詞として2番目の位置に来ています。

★覚え方をもう一度

「性と数は、外（先行詞）を見る。格は、中（関係文）を見る。」

英語の *who / whose / whom* の使い分けと、同じ二段構えです。

◆心に刻むたとえ（Gleichnis）——心は磁石である

「心は、はっきり言えば、電磁石のようなものです。みなさんは、その心から出ている波長、調べによって、霊界のいろいろなものと交流し、互いに影響を与え合っています」

——《『神秘の法』第2章「憑依の原理」／3 憑依は「縁」があると起きる》

「人間の心は、ちょうど磁石のように、自分の“磁力”によって“砂鉄”を引き寄せます。……

私は、『この法則には、まったく例外がない』と気づくに至りました。……

人々の幸福を願う心を持っている人のところに幸福が集まる」

——《『発展思考』第4章「幸福を呼ぶ心」／1心の法則》

17. Das Herz ist wie ein Magnet: Es zieht an, was ihm ähnlich ist. ♪15-17

心は磁石のようなものです。自分に似たものを引き寄せます。

〈英〉The heart is like a magnet: it attracts what is similar to it.

- ▷ 先行詞のない関係代名詞 **was**（＝英語の *what*）。関係文のなかで *ähnlich* は**3格**と結びつくので *ihm*（＝*dem Herzen*）。*anziehen* は分離動詞（対策学習編3）で、主節では *zieht ... an* と梓になります。

☆ 磁石は選びません。善いものにも悪いものにも、**同じ法則**で働きます。だからこそ、心の波長を整えることが要ります。

18. Das ist das Gesetz der gleichen Wellenlänge, das in dieser Welt und in der anderen Welt gilt. ♪15-18

それが、この世にもあの世にも通じる「波長同通の法則」です。

〈英〉That is the law of the same wavelength, which holds in this world and in the other world.

- ▷ 関係代名詞 **das**（先行詞 *das Gesetz* が中性単数／関係文で主語なので1格）。*gilt* は文末。*das Gesetz der gleichen Wellenlänge*（波長同通の法則）は公式ドイツ語版の語です。

19. Wer das Glück der Menschen wünscht, zieht das Glück an. ♪15-19

人々の幸福を願う人は、幸福を引き寄せます。

〈英〉Whoever wishes for people's happiness attracts happiness.

- ▷ **wer**（先行詞を含む関係代名詞）。主節の *zieht ... an* が2番目と文末に分かれる梓構造。

☆ これは対策学習編3の「電磁石」、第17章の「磁石のような信仰」へとつながる、本書を貫く糸です。

★公式ドイツ語版では『地獄の法』のドイツ語版に „... dann werden die Geistwesen durch das Gesetz derselben Wellenlänge zu der Person hingezogen wie zu einem Magneten.“

（そのとき霊たちは、波長同通の法則によって、磁石に引き寄せられるようにその人へ吸い寄せられる）とあります。

derselben は *dieselbe*（同じ）の女性2格。*gleich* と *derselbe* のどちらも「同じ」ですが、公式版はこの法則名に両方の形を使っています（『真のエクソシスト』『秘密の法』は *der gleichen Wellenlänge*）。

4. 真理語彙（Wortschatz）

ドイツ語	性	意味
der Magnet	男	磁石
anziehen	動	引き寄せる（分離動詞 <i>an-ziehen</i> ）
ähnlich	形	似ている（3格と）
die Wellenlänge	女	波長
das Gesetz der gleichen Wellenlänge	中	波長同通の法則（公式訳）
gelten	動	通用する、効力がある
das Zahnrad	中	歯車
die Kraft	女	力

ドイツ語	性	意味
lenken	動	方向づける、操縦する
der Mensch	男	人間、人
die Weisheit	女	智慧、賢明さ
die Erleuchtung	女	悟り
die Wahrheit	女	真理
die Seele	女	魂
die Zeit	女	時間
der Weg	男	道
der Glaube	男	信仰
der Meister	男	師
jemand	代	(～する) 人、誰か
das Glück	中	幸福
weise	形	智慧ある、賢い
rein	形	清らかな、純粋な
stark	形	強い
frei	形	自由な
suchen	動	探す、求める
finden	動	見つける
lehren	動	教える
meistern	動	習得する、克服する
streben nach + 3 格	動	～を求める、～を目指す
nutzen	動	利用する、役立てる
führen zu + 3 格	動	～へ導く
verstehen	動	理解する
kennen	動	知っている
fehlen	動	欠けている
wirklich	副	本当に
immer	副	いつも
gut	副	よく、うまく
die Ameise, -n	女	アリ
der Boden, -	男	地面、土
laufen	動	走る、歩く (a→äü 型)

5. 練習問題（独検 3 級形式・オリジナル）

● A. () に入れるのに最も適切な関係代名詞を 1 つ選びなさい。

- (1) Der Mensch, () die Wahrheit sucht, ist weise.
1 die 2 der 3 das 4 dessen
- (2) Die Erleuchtung, () wir anstreben, ist das Ziel unseres Lebens.
1 der 2 die 3 das 4 denen
- (3) Das ist alles, () der Meister uns lehrt.
1 der 2 die 3 das 4 was
- (4) () die Liebe fehlt, dem fehlt alles.
1 Wer 2 Wen 3 Wem 4 Was
- (5) Die Seele, () Herz rein ist, kann die göttliche Liebe empfangen.
1 deren 2 dessen 3 dem 4 die
- (6) Die Weisheit ist wie ein Zahnrad, () die Kraft lenkt.
1 der 2 die 3 das 4 dessen

● B. () の語を適切な形の関係代名詞にして下線部に入れなさい。

- (1) Die Weisheit, _____ wir brauchen, kommt von Gott. (die) (2) Der Mensch, _____ nach der Erleuchtung strebt, ist ein Sucher. (der) (3) Das ist das Beste, _____ ich je gehört habe. (was) (4) Die Menschen, _____ ich helfe, sind dankbar. (die) (5) _____ die Wahrheit kennt, der ist frei. (wer) (6) Die Weisheit ist wie ein Zahnrad, _____ die Kraft lenkt. (das)

● C. 語を並べて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) ist / jemand / die Zeit / meistert / Ein weiser Mensch / der / , / . ♪15-C1
→「智慧ある者とは、時間を掌握する人です」(2) wir / die / suchen / von Gott / kommt / Weisheit / Die / , / .
→「私たちが求める智慧は神から来ます」(3) alles / der Meister / lehrt / , / ist / Wahrheit / was / die höchste / .
→「主が教えることすべてが最高の真理です」(4) ist / ein Zahnrad / die Weisheit / , / wie / das / die Kraft / lenkt
→「智慧は、力を方向づける歯車のようなものです」

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

(1) X *die Lehre, wir lernen* (英語のように関係代名詞を省いた) → (2) X *der Mensch, der sucht die Wahrheit* → (3) X *Ich danke dem Menschen, dem mir hilft.* (先行詞の格を持ち込んだ) → (4) 英語では制限用法にコンマを打たないが、ドイツ語ではどうか。一言で答えなさい。

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

(1) *Der Mensch, _____ nur an sich denkt, ist wie eine Ameise, _____ auf dem Boden läuft.*
(自分のことしか考えない人は、地面を歩く蟻のようなものです) (2) *Der Meister, _____ ich suche, kennt den Weg.* (私が探している師は、その道を知っています) (3) _____ *die Wahrheit sucht, findet sie.* (真理を求める者は、それを見いだします)

● 解答

A: (1) 2 (2) 2 (3) 4 (4) 3 (5) 1 (6) 3 B: (1) die (2) der (3) was (4) denen (5) Wer (6) das C: (1) Ein weiser Mensch ist jemand, der die Zeit meistert.

(2) Die Weisheit, die wir suchen, kommt von Gott.

(3) Alles, was der Meister lehrt, ist die höchste Wahrheit.

(4) Die Weisheit ist wie ein Zahnrad, das die Kraft lenkt. D: (1) die Lehre, die wir lernen (省略できない)

(2) ... der die Wahrheit sucht (動詞は文末)

(3) ... dem Menschen, der mir hilft. (関係文のなかで主語なので 1 格)

(4) 制限用法でも必ずコンマを打つ。E: (1) der / die (2) den (3) Wer

6. 法話メモ —— 智慧という歯車と、「悟りを求める人」

『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション(2)』第 2 章で、大川隆法総裁は、情熱と智慧の関係を「歯車」にたとえて説かれています。情熱は地上における偉大なエネルギーですが、それだけでは方向性が定まりません。しかし、そこに智慧が加わったとき、ちょうど数多くの歯車がいろいろな方向に力を展開していくように、情熱は各方面に良い影響を与える力となるのです。**Die Weisheit ist wie ein Zahnrad, das die Kraft lenkt.** という文は、まさにこの教えを表しています。

大川隆法総裁は、「智慧ある者」の姿について、時間を掌握し、それを自らの栄養とすることを説かれています（『智慧の経営』第 7 章）。また、「限りなく智慧ある者となれ」と、智慧を深めることの重要性を強調されています（「ユートピア価値革命」第 5 章）。

さらに、「悟りを求める心」は、人間が人間であることの条件であり、菩提心の根本であると説かれています（『漏尽通力』第 1 章、『新・心の探究』第 3 章）。悟りを求めることによって得られる力、法力、神秘の存在も示されています。

関係文を学ぶことで、私たちは「智慧ある者」や「悟りを求める人」がどのような存在であるかを、より詳しく、豊かにドイツ語で表現できるようになります。歯車のように情熱に方向を与える智慧を身につけ、真理を求める私たちの姿を、ドイツ語で語ってみましょう。

Die Weisheit ist wie ein Zahnrad, das die Kraft lenkt. Wer die Wahrheit sucht, findet sie.

◆ 学びのことば

「生まれてよりこの方、六十三年以上勉強を続けて、まだ完成せず、未熟なるを知る」

《『黒帯英語十一段⑤』まえがき》

第 16 章 zu 不定詞句 【3 級】

【第 28 回（後期）】

同じ週の次の時間の会話は 第 28 回「「～するために生きる」」

【独検 3 級レベル】

この章の到達目標

1. zu 不定詞句の 3 つの用法（名詞的用法、目的、状況）を理解できる
2. 「心の医者」というたとえを通して、教義テーマ「生きる目的」や「幸福になるために」を題材にした文を zu 不定詞句を使って表現できる
3. 独検 3 級レベルの zu 不定詞句を含む文を正確に読解できる

1. 文法解説

● 1-1. zu 不定詞句の基本

ドイツ語では、不定詞（動詞の原形）に **zu** を付けて、**zu 不定詞句**を作ることができます。これは、日本語の「～すること」「～するために」といった意味を表し、文の後半に置かれ、しばしばコンマで区切られます。

基本形: `zu + 動詞の不定詞`

分離動詞の場合: 分離前つづりと語幹の間に **zu** を入れます。例: anrufen (電話する) → anzurufen

● 1-2. 名詞的用法（～すること）

zu 不定詞句は、文中で主語、目的語、補語のように名詞的な役割を果たします。特に、**Es ist** 形容詞, **zu 不定詞句** の形でよく使われます。

役割	例文	意味
主語	Die Wahrheit zu lernen , ist wichtig.	真理を学ぶことは重要です。
目的語	Wir versuchen, glücklich zu werden .	私たちは幸福になろうと試みます。
補語	Sein Ziel ist, die Welt zu verändern .	彼の目標は、世界を変えることです。
Es ist 形容詞	Es ist wichtig, die Wahrheit zu lernen .	真理を学ぶことは重要です。

● 1-3. 目的を表す um...zu（～するために）

um...zu は「～するために」という目的を表します。**um** は文頭に置かれることも、不定詞句の直前に置かれることもあります。

例文	意味
Wir leben, um unsere Seele zu entwickeln .	私たちは、魂を成長させるために生きています。
Um glücklich zu werden , müssen wir vergeben.	幸福になるために、私たちは許さなければなりません。

● 1-4. 状況を表す ohne...zu（～することなく）

ohne...zu は「～することなく」「～せずに」という状況や状態を表します。

例文	意味
Man kann nicht glücklich werden, ohne zu vergeben .	許すことなしに、人は幸福になることはできません。
Er arbeitet fleißig, ohne zu klagen .	彼は文句を言うことなく、勤勉に働きます。

● 1-5. 形式主語の es —— 「～することは.....だ」

zu 不定詞句を主語にしたいとき、ドイツ語は**まず es**を立てて、**中身を後ろに回す**。英語の *It is important to ...* とまったく同じ発想である。

ドイツ語	日本語	英語
Es ist wichtig, das Herz zu polieren.	心を磨くことは大切です	It is important to polish the heart.
Es ist nicht leicht, allein zu suchen.	一人で探すのは簡単ではありません	It is not easy to search alone.
Es ist Zeit, zu beginnen.	始める時です	It is time to begin.

★ この **es** は「それ」という意味を持たない。**位置を埋めるためだけの主語**である。

ドイツ語は「定動詞第 2 位」を守らねばならないので、1 番目に何かを置く必要がある。そこに **es** を置いているのだ。

★ 文頭が別の語で埋まると、es は消える。

Wichtig ist, das Herz zu polieren. (大切なのは、心を磨くことです)

ここでは Wichtig が 1 番目を占めているので、es は要らない。

英語の It が絶対に消えないのとは違う。

● 1-6. sein + zu 不定詞 —— 「～されうる」「～されねばならない」

sein + zu 不定詞で、受け身の可能・義務を表せる。短く言えるので便利である。

ドイツ語	日本語	言い換え
Die Wahrheit ist zu finden .	真理は見いだされうる	kann gefunden werden
Das Herz ist zu polieren .	心は磨かれねばならない	muss poliert werden

★ 可能か義務かは文脈で決まる。迷うときは können / müssen を使った受動文で言えばよい。

● 1-7. haben + zu 不定詞 —— 「～しなければならぬ」

ドイツ語	日本語	英語
Wir haben viel zu lernen .	私たちに学ぶべきことが多くある	We have much to learn .
Ich habe heute zu arbeiten .	私は今日働かねばならない	I have to work today.

★ 英語の have to とそっくりだが、ドイツ語は zu 不定詞が文末に来る。

X Wir haben zu lernen viel. → O Wir haben viel zu lernen.

2. 英語と比べる —— to は前に、zu は後ろに

● ここが同じ！

- ・ zu = to。語の対応も、働きもほぼ同じです。
- ・ 3 つの主な用法も、英語とそのまま対応します。

用法	ドイツ語	英語
～すること (名詞的)	die Wahrheit zu lernen	to learn the Truth
～するために (目的)	um die Wahrheit zu lernen	in order to learn the Truth
～することなしに	ohne zu zögern	without hesitating

- ・ 「仮の主語 es」を立てる構文も同じです。Es ist wichtig, die Wahrheit zu lernen. / It is important **to learn** the Truth. 英語の it ... to 構文を知っていれば、そのまま使えます。

● ここが違う！ —— 語順がひっくり返る

英語は to を動詞の前に置き、そのあとに目的語を続けます。ドイツ語は、目的語などを先に全部並べてから、最後に zu + 動詞を置きます。

ドイツ語	英語
die Wahrheit zu lernen	to learn the Truth
jeden Tag die Lehre zu üben	to practice the teaching every day

英語は「to → 動詞 → 目的語」、ドイツ語は「目的語 → zu → 動詞」。まるごと逆順になります。ここが最大のつまずきです。

これは偶然ではなく、ドイツ語全体の癖です。梓構造でも、副文でも、関係文でも、動詞は最後に来る——zu 不定詞句も同じ仲間なのです。

● 分離動詞では、zu が「間」に入る

ドイツ語独自の現象です。

- ・ aufstehen (起きる) → aufzustehen
- ・ anfangen (始める) → anzufangen

zu aufstehen でも aufstehen zu でもなく、auf-zu-stehen と挟まります。第 10 章で学んだ過去分詞の auf-ge-standen と、まったく同じ入り方です。「前つづりと本体の間が、部品の定位置」と覚えてください。

● ★英語からの乗り換え注意

- ・ X zu lernen die Wahrheit → O **die Wahrheit zu lernen**
- ・ X um zu lernen die Wahrheit → O **um die Wahrheit zu lernen**
- ・ X zu aufstehen → O **aufzustehen**

- ・X 話法の助動詞に **zu** を付けてしまう。Ich kann **zu** gehen. は誤りで、○ Ich kann **gehen**. です。英語で *I can to go* と言わないのと同じですが、*want to go / try to go* が英語で *to* を取るため、混乱しやすいところです。ドイツ語では **können / müssen / wollen / sollen / dürfen / mögen** のあとに **zu** は付きません。
- ・**zu** 不定詞句の前には**コンマ**を打つのが基本です (*um ... zu, ohne ... zu* では必須)。

●英語が見えてくる！

英語の *to* は、なぜ *to go* (動詞の前) にも *to Tokyo* (名詞の前) にも使われるのでしょうか。まったく違う働きに見えます。答えは、**もともと一つの語だったから**です。*to* は「**～へ向かって**」を表す前置詞でした。*I have work to do.* (私にはするべき仕事がある) という英語には、今もその感覚がはっきり残っています。「**するほうへ向かう仕事**」なのです。ドイツ語の **zu** も、まったく同じです。

- ・**zu der Kirche** (教会へ) 前置詞
- ・**die Wahrheit zu lernen** (真理を学ぶこと) ... **zu** 不定詞

そして、英語の *going to do* (～するつもりだ) という未来表現が、なぜ「行く」という語でできているのかも、ここから分かります。「**～へ向かっている**」＝「**これからそうする**」という発想は、前置詞 *to* の本来の意味そのもののなのです。

to と **zu** は、どちらも「**方向**」を表す語です。不定詞の *to* に「向かう」感覚を取り戻すと、ドイツ語の **zu** 不定詞も自然に身につきます。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「心の医者」というたとえを中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字＝ドイツ語文、次の行＝日本語訳、〈英〉＝英語訳(参考)、▷＝文法ポイント、☆＝ニュアンス解説、《》＝題材とした教えの出典。

1. Unsere Aufgabe ist, ein Arzt des Herzens zu werden. 16-1

私たちの使命は、心の医者になることです。

〈英〉 Our task is to become a doctor of the heart.

▷ **zu** 不定詞句が補語 (Aufgabe＝使命) になっている。werden の後の Arzt は1格の補語。

☆『信仰と愛』第3章で、大川隆法総裁は、あちこちに病人がいるのに医者が一人しかいなければ悲しいことだ、と説かれ、真理を伝える「幸福の生産者」を、人の心を癒す「心の医者」にたとえられています。世界には数十億の人々がいるからこそ、多くの「心の医者」が必要なのです。

《幸福の生産者とは心の医者でもあります。こうした心の医者を数多く創らねばならないのです——『信仰と愛』第3章「無限の愛をすべての人へ」》

2. Es ist wichtig, die Wahrheit zu lernen. 16-2

真理を学ぶことは重要です。

〈英〉 It is important to learn the truth.

▷ *Es ist* 形容詞, **zu** 不定詞句の形。

《仏法真理の学習——『太陽の法』》

3. Wir leben, um unsere Seele zu entwickeln. 16-3

私たちは、魂を成長させるために生きています。

〈英〉 We live in order to develop our soul.

▷ *um...zu* で目的を表す。entwickeln (発展させる、成長させる)。

《生きる目的——『ザ・ポゼッション』第2章》

4. Man kann nicht glücklich werden, ohne zu vergeben. 16-4

許すことなしに、人は幸福になることはできません。

〈英〉 One cannot become happy without forgiving.

▷ *ohne...zu* で「～することなく」。vergeben (許す)。

《「許す」ことは幸福になるための条件——『ストロング・マインド』第3章》

5. Das Ziel unseres Lebens ist, Liebe zu geben. 16-5

私たちの人生の目的は、愛を与えることです。

〈英〉 The purpose of our life is to give love.

▷ **zu** 不定詞句が補語になっている。

《「与える愛」から始めよ——『幸福の原点』第1章》

6. Wir streben danach, ein glückliches Leben zu führen. 16-6

私たちは幸福な人生を送ることを目指しています。

〈英〉 We strive to lead a happy life.

▷ *streben nach D* (Dを目指す)。führen (導く、送る)。

《幸福になるための二つの考え方——『理想国家日本の条件』第4章》

7. Um wahres Glück zu finden, müssen wir dienen. 16-7

真の幸福を見つけるために、私たちは奉仕しなければなりません。

〈英〉 In order to find true happiness, we must serve.

- ▷ um...zu が文頭に来ている。dienen（奉仕する）。
《人生を繁栄させる「奉仕の精神」——『繁栄の法』第 3 章》

8. Es ist unmöglich, andere unglücklich zu machen, ohne selbst unglücklich zu werden. ♪16-8

他者を不幸にすることは、自分自身が不幸になることなしには不可能です。
〈英〉It is impossible to make others unhappy without becoming unhappy oneself.

- ▷ machen（～にする）。selbst（自分自身）。
《自分が幸福になるためには、他の人が不幸にならないといけないという考えは間違い——『繁栄の法』第 3 章》

9. Die Menschen studieren, um zu verstehen, wie man glücklich wird. ♪16-9

人々は、どうすれば幸福になれるかを理解するために学びます。
〈英〉People study in order to understand how one becomes happy.

- ▷ um...zu の中に間接疑問文 wie man glücklich wird が含まれている。
《人間が幸福になるために積み重ねられてきた「学問」——『幸福学概論』》

10. Wir sollen lernen, zu verzeihen. ♪16-10

私たちは許すことを学ぶべきです。
〈英〉We should learn to forgive.

- ▷ lernen の目的語として zu 不定詞句が使われている。verzeihen（許す）。
《「許す」ことは幸福になるための条件——『アユハ 2009 年 09 月号』》

11. Ohne die Wahrheit zu kennen, kann man den Sinn des Lebens nicht verstehen. ♪16-11

真理を知ることなしに、人は人生の意味を理解できません。
〈英〉Without knowing the truth, one cannot understand the meaning of life.

- ▷ kennen（知っている）。der Sinn（意味）。
《「正しき心の探究」と仏法真理——『幸福の法』第 4 章》

12. Der Mensch hat die Aufgabe, seine Seele zu läutern. ♪16-12

人間は、その魂を浄化する使命を持っています。
〈英〉Human beings have the task of purifying their soul.

- ▷ die Aufgabe（使命）。läutern（浄化する）。

◆ 心に刻むたとえ（Gleichnis）——鏡を磨くために生きる

「そういうときには、まずは自分の心を鏡のように変えていく努力をしてみてください」
——《『地獄の法』第 3 章「呪いと憑依」／4 地獄行きから脱するために何をすればいいのか》

13. Es ist wichtig, das Herz wie einen Spiegel zu putzen. ♪16-13

心を鏡のように磨くことが大切です。
〈英〉It is important to polish the heart like a mirror.

- ▷ 仮の主語 es を立てる構文。英語の It is important to ... と同じ発想です。
▷ ただし語順は逆。英語は to polish the heart、ドイツ語は das Herz zu putzen。
▷ wie einen Spiegel が 4 格なのは、比べる相手 das Herz が 4 格だからです。

14. Wir leben, um das Herz zu polieren. ♪16-14

私たちは、心を磨くために生きています。
〈英〉We live in order to polish the heart.

- ▷ um ... zu（～するために）。英語の in order to にあたります。
☆「何のために生きるのか」——この問いへの一つの答えが、この短い文に収まっています。

15. Ohne zu zögern, folgt er der Wahrheit. ♪16-15

ためらうことなく、彼は真理に従います。
〈英〉Without hesitating, he follows the Truth.

- ▷ ohne ... zu（～することなしに）。英語では without hesitating と -ing 形を使うので、ここは形がずれます。
▷ folgen は 3 格支配なので der Wahrheit。

16. Es ist nicht leicht, jeden Morgen früh aufzustehen. ♪16-16

毎朝早く起きることは、簡単ではありません。
〈英〉It is not easy to get up early every morning.

- ▷ 分離動詞では zu が前つづりと本体の間に入ります（auf-zu- stehen）。過去分詞 auf-ge-standen と同じ入り方です。

4. 真理語彙（Wortschatz）

ドイツ語	性	意味
der Arzt	男	医者
das Herz	中	心
entwickeln	動	発展させる、成長させる
vergeben	動	許す
verzeihen	動	許す
dienen	動	奉仕する
streben nach D	動	D を目指す

ドイツ語	性	意味
führen	動	導く、送る（人生を送る）
verstehen	動	理解する
kennen	動	知っている
läutern	動	浄化する
glücklich	形	幸福な
unglücklich	形	不幸な
wichtig	形	重要な
unmöglich	形	不可能な
wahr	形	真の、本当の
die Seele	女	魂
das Ziel	中	目標、目的
das Glück	中	幸福
der Sinn	男	意味
die Aufgabe	女	任務、使命
die Wahrheit	女	真理
selbst	副	自分自身
zögern	動	ためらう
polieren	動	磨く

5. 練習問題（独検 3 級形式・オリジナル）

● A. 正しい形を 1 つ選びなさい。

- (1) Es ist wichtig, die Wahrheit ().
1 lernen 2 zu lernen 3 gelernt 4 lernt
- (2) Wir leben, um unsere Seele ().
1 entwickeln 2 zu entwickeln 3 entwickelt 4 entwickelnd
- (3) Man kann nicht glücklich werden, () zu vergeben.
1 um 2 statt 3 ohne 4 mit
- (4) () wahres Glück zu finden, müssen wir dienen.
1 Ohne 2 Um 3 Statt 4 Mit
- (5) Der Mensch hat die Aufgabe, seine Seele ().
1 läutern 2 zu läutern 3 geläutert 4 läuternd
- (6) Unsere Aufgabe ist, ein Arzt des Herzens ().
1 werden 2 zu werden 3 geworden 4 werdend

● B. () の動詞を正しい形にして下線部に入れなさい。

- (1) Ich versuche, jeden Tag _____. (lernen) (2) Es ist gut, anderen _____. (helfen) (3) Wir arbeiten, um die Welt _____. (verändern)
(4) Er spricht Deutsch, ohne viel _____. (nachdenken) (5) Die Menschen haben die Möglichkeit, ihre Zukunft _____. (gestalten) (6)
Unsere Aufgabe ist, ein Arzt des Herzens _____. (werden)

● C. 語を並べ替えて正しい文を作りなさい（文頭は大文字に）。

- (1) ist / wichtig / die Wahrheit / zu lernen / Es / . ♪16-C1
→「真理を学ぶことは重要です」(2) um / leben / wir / unsere Seele / zu entwickeln / , / .
→「私たちは、魂を成長させるために生きています」(3) ohne / nicht / glücklich / zu vergeben / kann / man / werden / .
→「許すことなしに、人は幸福になることはできません」(4) ist / ein Arzt des Herzens / unsere Aufgabe / , / zu werden
→「私たちの使命は、心の医者になることです」

● D. 英語と比べる —— 誤りを直しなさい

- (1) X zu lernen die Wahrheit (to learn the Truth の語順のまま) → (2) X um zu polieren das Herz → (3) X zu aufstehen → (4) X Ich kann zu gehen. (want to go につられた) →

● E. 心に刻むたとえ —— 空欄を埋めなさい

- (1) Es ist wichtig, das Herz wie einen Spiegel _____. (心を鏡のように磨くことが大切です) (2) Wir leben, _____ das Herz _____ polieren. (私たちは心を磨くために生きています) (3) Es ist nicht leicht, jeden Morgen früh _____. (毎朝早く起きることは簡単ではありません)

● 解答

- A: (1) 2 (2) 2 (3) 3 (4) 2 (5) 2 (6) 2 B: (1) zu lernen (2) zu helfen (3) zu verändern (4) nachzudenken (5) zu gestalten (6) zu werden C: (1) Es ist wichtig, die Wahrheit zu lernen.
(2) Wir leben, um unsere Seele zu entwickeln.
(3) Man kann nicht glücklich werden, ohne zu vergeben.
(4) Unsere Aufgabe ist, ein Arzt des Herzens zu werden. D: (1) die Wahrheit zu lernen (目的語 → zu → 動詞)
(2) um das Herz zu polieren
(3) aufzustehen (分離動詞は zu が間に入る)

(4) Ich kann gehen. (話法の助動詞に zu は付けない) E: (1) zu putzen (2) um / zu (3) aufzustehen

6. 法話メモ —— 「心の医者」と「生きる目的」

『信仰と愛』第 3 章「無限の愛をすべての人へ」で、大川隆法総裁は、あちこちに病人がいるのに医者一人しかいなければ、その医者は悲しいだろう、と語られています。世界には数十億の人がいるからこそ、真理という薬を届ける「心の医者」、すなわち「幸福の生産者」が数多く必要なのです。 **Unsere Aufgabe ist, ein Arzt des Herzens zu werden.** という文は、まさにこの教えを表しています。

大川隆法総裁は、私たちの「生きる目的」について、魂を成長させ、霊的真理を学び、愛と智慧を深めることであると説かれています。そして、「幸福になるため」には、他者を許し、奉仕の精神を持ち、真理を実践することが不可欠であると教えています。心の医者になるということも、この「生きる目的」の一つの姿です。

この章で学んだ zu 不定詞句は、「～すること」や「～するために」といった、目的や行動の核心を表現するのに非常に役立ちます。人生の目的を明確にし、心の医者として幸福への道を歩むために、これらの表現を積極的に使ってみましょう。

Unsere Aufgabe ist, ein Arzt des Herzens zu werden. Wir leben, um glücklich zu werden.

◆ 学びのことは

「コツコツと勉強し続けることが、まだ見ぬ外国の人たちに少しでも役立てれば、とてもうれしい」
《『黒帯英語十一段⑤』まえがき》

第 17 章 形容詞の変化 【3 級】

【第 29 回（後期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第 29 回「美しい心、正しい生き方」

〔独検 3 級レベル〕

この章の到達目標

1. 形容詞が名詞を修飾する際の語尾変化（強変化・弱変化・混合変化）を理解し、正しく使える
2. 形容詞が名詞として使われる（名詞的用法）際の語尾変化を理解し、正しく使える
3. 「磁石のような信仰」というたとえを通して、「美しい心」や「強い信仰」を題材にした真理の文をドイツ語で言える

1. 文法解説

● 1-1. 形容詞の限定用法と叙述用法

形容詞には、名詞を修飾する**限定用法**と、動詞の補語になる**叙述用法**があります。

- ・ **限定用法**: 名詞の前に置かれ、その名詞の性・数・格に合わせて語尾が変化します。
- ・ ein **schönes** Herz (美しい心)
- ・ **叙述用法**: 動詞の後に置かれ、語尾は変化しません。
- ・ Das Herz ist **schön**. (その心は美しい)

この章では、語尾が変化する**限定用法**と、そこから派生する**名詞的用法**を学びます。

● 1-2. 形容詞の語尾変化の原則

限定用法の形容詞の語尾は、**冠詞の種類**（定冠詞類、不定冠詞類、冠詞なし）によって、それぞれ**弱変化**、**混合変化**、**強変化**の 3 種類に分かれます。

変化の語尾は、名詞の性（男性・女性・中性）、数（単数・複数）、格（1～4 格）によって決まります。

● 1-3. 強変化（Starke Deklination）

冠詞類（定冠詞、不定冠詞、所有冠詞、否定冠詞など）が**ない**場合に適用されます。形容詞が定冠詞の語尾を「肩代わり」するイメージです。

	男性	女性	中性	複数
1 格	-er	-e	-es	-e
2 格	-en	-er	-en	-er
3 格	-em	-er	-em	-en
4 格	-en	-e	-es	-e

例:

- ・ **Schöner** Glaube ist eine Kraft. (美しい信仰は力です。)
- ・ Wir brauchen **starke** Herzen. (私たちは強い心が必要です。)

● 1-4. 弱変化（Schwache Deklination）

定冠詞（der, die, das, die）や、dieser（この）、jeder（あらゆる）、welcher（どの）などの**定冠詞類**が形容詞の前に来る場合に適用されます。定冠詞類がすでに名詞の性・数・格を示しているので、形容詞の語尾は弱くなります。

	男性	女性	中性	複数
1 格	-e	-e	-e	-en
2 格	-en	-en	-en	-en
3 格	-en	-en	-en	-en
4 格	-en	-e	-e	-en

例:

- ・ **Der schöne** Glaube führt uns. (その美しい信仰は私たちを導きます。)
- ・ **Die starken** Herzen sind wichtig. (その強い心は重要です。)

● 1-5. 混合変化 (Gemischte Deklination)

不定冠詞 (ein, eine, ein) や、所有冠詞 (mein, dein など)、否定冠詞 kein (～ない) が形容詞の前に来る場合に適用されます。これらの冠詞類は 1 格男性・中性で語尾がないため、形容詞がその部分を補うように強変化の語尾を取り、それ以外は弱変化の語尾を取ります。

	男性	女性	中性	複数
1 格	-er	-e	-es	-en
2 格	-en	-en	-en	-en
3 格	-en	-en	-en	-en
4 格	-en	-e	-es	-en

例:

- ・ **Ein schöner** Glaube gibt uns Hoffnung. (一つの美しい信仰が私たちに希望を与えます。)
- ・ **Mein starkes** Herz ist voller Liebe. (私の強い心は愛に満ちています。)
- ・ **Keine schöne** Seele verliert ihre Reinheit. (美しい魂は純粋さを失いません。)

● 1-6. 名詞的用法 (Nominalisierung von Adjektiven)

形容詞が名詞として使われる場合、**大文字で始まり、限定用法の形容詞と同じ語尾変化**をします。名詞の性・数・格は、文脈や意味によって判断します。

- ・ **Der Gläubige** muss stark sein. (信仰者は強くあるべきです。)
 - ▷ 男性単数 1 格、弱変化の語尾 -e。
- ・ **Das Schöne** im Leben ist die Wahrheit. (人生における美しいものは真理です。)
 - ▷ 中性単数 1 格。定冠詞 das のあとなので弱変化の語尾 -e。
- ・ Wir helfen **den Kranken**. (私たちは病気の人々を助けます。)
 - ▷ 複数 3 格、弱変化の語尾 -en。

2. 英語と比べる —— 「格の情報は、一度だけ示せばよい」

形容詞の語尾変化は、独検 3 級の最難関とされます。しかし、**背後にある考え方は一つ**だけです。それをつかめば、表を丸暗記する必要はありません。

● ここが同じ！

- ・ 叙述用法 (～は……だ) では、語尾が付きません。ここは英語とまったく同じです。

ドイツ語	英語
Der Weg ist lang .	The way is long .
Das Herz ist rein .	The heart is pure .

- ・ 形容詞を名詞の前に置いて修飾する、という語順も同じです (ein **guter** Mensch / a **good** person)。

● ここが違う！ —— 限定用法では語尾が付く

名詞の前に置くとき、ドイツ語では**必ず語尾が付き**ます。英語では何も付きません。

ドイツ語	英語
der gute Mensch	the good person
ein guter Mensch	a good person
guter Mensch (冠詞なし)	good person

同じ gut が、gute / guter / guten / gutem と姿を変えます。

● 3 つの変化を貫く、たった一つの原則

強変化・弱変化・混合変化と 3 つの表が出てきますが、根っこにあるのは**次の一文**だけです。

その名詞の「性・数・格」を、冠詞が示しているか？

示しているなら → 形容詞は手を抜く (弱変化: -e か -en だけ)

示していないなら → 形容詞が代わりに示す (強変化: 定冠詞に似た語尾)

つまりドイツ語は、「**格の情報は、名詞句のなかで一度だけ示せばよい**」と考えているのです。冠詞が仕事をしているなら形容詞は休み、冠詞がいない (または情報不足の) ときは形容詞が働く。役割分担なのです。

例	冠詞は格を示しているか	形容詞は
der gute Mensch	○ <i>der</i> が男性 1 格を明示	手を抜く (弱変化 -e)
ein guter Mensch	△ <i>ein</i> は男性 1 格か中性 1 格か不明	補う (-er)
— guter Mensch	× 冠詞がない	全部担う (強変化 -er)

混合変化とは、この「*ein* は情報が足りない」場面で、形容詞が不足分だけを補う変化のことです。3つ目の新しい規則ではありません。

● 形容詞の名詞化 —— 英語の "the poor" と同じ

ドイツ語では、形容詞をそのまま名詞として使えます。

- ・ *der Gute* (善き人)、*das Gute* (善なるもの)、*die Armen* (貧しい人々)

これは英語にもあります。the poor (貧しい人々)、the rich (富める人々)、the good, the bad and the ugly。

ただし英語では、この用法は**限られた語にしか使えません**。ドイツ語では、**どの形容詞でも自由に名詞化**できます。しかも大文字で書き始めます。「～な人」「～なもの」と言いたいとき、ドイツ語はいちいち *person* や *thing* を足す必要がありません。

● ★英語からの乗り換え注意

- ・ *X ein gut Mensch* → *o ein guter Mensch* (限定用法では必ず語尾が要る)
- ・ *X der guter Mensch* → *o der gute Mensch* (*der* が働いているので形容詞は -e)
- ・ *X* 名詞化した形容詞を小文字で書く → *das Gute, die Armen* と大文字にします。
- ・ 複数形と、男性・中性の3格・4格などは、**ほとんどが -en** です。「迷ったら -en」は、実戦ではかなり有効な最後の手段です。

● 英語が見えてくる！

英語の形容詞は、本当に一度も変化しなかったのでしょうか。

そんなことはありません。中世の英語には、**ドイツ語と同じ語尾変化がありました**。チョーサーの『カンタベリー物語』には *the yonge sonne* (若い太陽) という表現が出てきます。定冠詞 *the* のあとで、*yong* に -e が付いている——これはまさに、ドイツ語の *der junge* ... (弱変化) と同じ形です。

英語はその後、語尾の -e をすべて発音しなくなり、やがて書かなくなりました。その結果、形容詞は完全に無変化になったのです。

ドイツ語の形容詞変化表は、**英語が 600 年前に手放したものの姿**です。面倒に見えるかもしれませんが、これを学ぶことは、英語という言葉がどこから来たのかを知ることでもあります。

3. 真理の例文 (Sätze der Wahrheit)

その章までの文法だけで作った、教えを題材とするオリジナル例文です。今回は「磁石のような信仰」というたとえを中心に選びました。末尾の《》は題材とした教えの出典。太字=ドイツ語文、次の行=日本語訳、〈英〉=英語訳(参考)、▷=文法ポイント、☆=ニュアンス解説、《》=題材とした教えの出典。

1. Ein starker Glaube ist wie ein Magnet. 17-1

強い信仰は、磁石のようなものです。

〈英〉A strong faith is like a magnet.

- ▷ *ein starker Glaube*: 混合変化、男性 1 格 (*ein* は男性 1 格で語尾がないため、形容詞 *stark* が強変化の語尾 -er を補う)。wie + 名詞句で比較。

- ☆ 対策学習編 3 で「Werde wie ein Magnet!」(磁石のようになれ)という命令文を学びました。ここでは、その磁石のような力の源が「強い信仰」そのものであることを学びます。強い信仰心を持つと、それ自体が一つの磁石となって、まわりの人々を変えていく力を持ちます。

《強い信仰心を持つと、それ自体が一つの磁石となって、周りの人を変えていくのです——『選ばれし人となるためには』第 6 章》

2. Ein schönes Herz ist sehr wichtig. 17-2

美しい心はとても大切です。

〈英〉A beautiful heart is very important.

- ▷ *ein schönes Herz*: 混合変化、中性 1 格。
《美しい心情の尊さ——『大川隆法霊言全集』第 13 巻 第 3 章》

3. Der Mensch mit einem schönen Herzen lebt glücklich. 17-3

美しい心を持った人は幸福に生きます。

〈英〉A person with a beautiful heart lives happily.

- ▷ *einem schönen Herzen*: 混合変化、中性 3 格。
《美しい心で“店じまい”する方法——『あなたは死んだらどうなるか?』第 5 章》

4. Wir brauchen starke Gläubige. 17-4

私たちは強い信仰者を必要とします。

〈英〉We need strong believers.

- ▷ *starke Gläubige*: 強変化、複数 4 格。*Gläubige* は名詞的用法。
《信仰心は実践によって身につく——『伝道 Q&A』第 2 章》

5. Der starke Glaube schützt uns vor dem Bösen. ♪17-5

その強い信仰は私たちを悪から守ります。

〈英〉The strong faith protects us from evil.

- ▷ der starke Glaube: 弱変化、男性 1 格。dem Bösen: 名詞的用法、中性 3 格。

《信仰心は魔から自分を護る砦——『愛、自信、そして勇気』第 5 章》

6. Jeder wahre Gläubige hat ein reines Herz. ♪17-6

すべての真の信仰者は純粋な心を持っています。

〈英〉Every true believer has a pure heart.

- ▷ jeder wahre Gläubige: 弱変化、男性 1 格。ein reines Herz: 混合変化、中性 4 格。

《純粋で美しい心の持ち方——『大川隆法霊言全集』第 13 巻 第 3 章》

7. Mit tiefem Glauben können wir viele Schwierigkeiten überwinden. ♪17-7

深い信仰をもって、私たちは多くの困難を乗り越えることができます。

〈英〉With deep faith, we can overcome many difficulties.

- ▷ tiefem Glauben: 強変化、男性 3 格。

《信仰心の発達段階に応じて、あの世から指導がある。——『信仰のすすめ』第 3 章》

8. Menschen mit einem schönen Herzen sind die wahren Schönen. ♪17-8

美しい心を持つ人こそ、真に美しい人です。

〈英〉People with a beautiful heart are the truly beautiful ones.

- ▷ die Schönen: 形容詞 schön の名詞的用法、複数 1 格、弱変化。

《美しい心を持つ人こそ、ほんとうの美人——『大川隆法霊言全集』第 50 巻 第 5 章》

9. Ein stärkerer Glaube ist für unsere Entwicklung notwendig. ♪17-9

より強い信仰が私たちの発展にとって必要です。

〈英〉A stronger faith is necessary for our development.

- ▷ stärkerer Glaube: 混合変化、男性 1 格（比較級）。

《信仰心には無限に近い階段がある。——『信仰のすすめ』第 3 章》

10. Der stärkste Glaube überwindet alle Zweifel. ♪17-10

最も強い信仰はすべての疑いを克服します。

〈英〉The strongest faith overcomes all doubt.

- ▷ stärkste Glaube: 弱変化、男性 1 格（最上級）。

《揺るがぬ信仰心——「伝道 Q&A」第 2 章》

11. Wir sehen das Gute in jedem Menschen. ♪17-11

私たちはすべての人の中に良いものを見ます。

〈英〉We see the good in every person.

- ▷ das Gute: 名詞的用法、中性 4 格、弱変化。

《よき心情の世界——『大川隆法霊言全集』第 13 巻 第 3 章》

◆ 心に刻むたとえ（Gleichnis）—— 清らかな心は、輝くダイヤモンド

「美しいダイヤモンドの輝きにも似た、宝石のような心を、仏からいただいている」

——《『幸福への方法』第 2 章「素直な心を大切に」／2 心のなかのダイヤモンド》

12. Ein reines Herz ist wie ein heller Diamant. ♪17-12

清らかな心は、輝くダイヤモンドのようです。

〈英〉A pure heart is like a bright diamond.

- ▷ 混合変化。ein は中性 1 格か男性 1 格かを示せないのので、形容詞が補います。中性 1 格 → reines、男性 1 格 → heller。

☆ 同じ ein でも、後ろの形容詞の語尾が違うことに注目してください。形容詞が、冠詞の足りない情報を肩代わりしているのです。

13. Das reine Herz kennt keine Angst. ♪17-13

清らかな心は恐れを知りません。

〈英〉The pure heart knows no fear.

- ▷ 弱変化。das がすでに「中性 1 格」を示しているので、形容詞は -e で手を抜きます。12 番の ein reines Herz と比べてみてください。冠詞が働けば、形容詞は休むのです。

14. Reines Wasser spiegelt den Himmel. ♪17-14

清らかな水は空を映します。

〈英〉Pure water reflects the sky.

- ▷ 強変化。冠詞がないので、形容詞が全部の情報を担います（中性 1 格 → -es）。定冠詞 das に似た語尾が付く、と覚えてください。

15. Der Ehrliche sieht die Wahrheit. ♪17-15

正直な人は真理を見ます。

〈英〉The honest person sees the truth.

- ▷ 形容詞の名詞化。ehrlich（正直な）→ der Ehrliche（正直な人）。大文字で書き始めます。英語の the poor, the rich と同じ発想ですが、ドイツ語ではどの形容詞でも自由に名詞化できます。

★公式ドイツ語版では『反省の手引き』のドイツ語版に

„... eine Buddha-Natur, strahlend wie ein Diamant.“ (ダイヤモンドのように輝く仏性)

という表現があります。ここでの *strahlend* (輝いている) は**現在分詞**で、名詞の後ろに置かれているため語尾が付いていません。

名詞の**前**に置けば *ein strahlender Diamant* と語尾が必要になります。

4. 真理語彙 (Wortschatz)

ドイツ語	性	意味
der Magnet	男	磁石
schön	形	美しい
stark	形	強い
wichtig	形	重要な
rein	形	純粋な
tief	形	深い
wahr	形	真の、本当の
gut	形	良い
böse	形	悪い
gläubig	形	信仰深い
notwendig	形	必要な
das Herz	中	心
der Glaube	男	信仰
die Kraft	女	力
der Mensch	男	人間
die Hoffnung	女	希望
die Schwierigkeit	女	困難
der Zweifel	男	疑い
die Entwicklung	女	発展
die Reinheit	女	純粋さ
leben	動	生きる
brauchen	動	必要とする
schützen	動	守る
führen	動	導く
geben	動	与える
überwinden	動	克服する、乗り越える
sehen	動	見る
sehr	副	とても
glücklich	副/形	幸福に、幸福な
voller	前	～に満ちた
hell	形	明るい、輝く
die Angst, ~e	女	不安、恐れ
spiegeln	動	映す
leuchten	動	光る・輝く

5. 練習問題 (独検 3 級形式・オリジナル)

● A. () に入る正しい形を 1 つ選びなさい。

- (1) Ein () Herz ist eine Quelle der Liebe.
1 schönes 2 schöner 3 schöne 4 schönen
- (2) Der () Glaube gibt uns Mut.
1 starkes 2 starke 3 starken 4 starker
- (3) Wir müssen () Gläubigen helfen.
1 die starken 2 den starken 3 der starken 4 des starken
- (4) Das () im Leben ist die Wahrheit.
1 Schönes 2 Schöne 3 Schönen 4 Schöner
- (5) Mit einem () Herzen können wir die Welt verändern.
1 reinem 2 reinen 3 reiner 4 reines
- (6) Ein () Glaube ist wie ein Magnet.
1 starke 2 starkes 3 starker 4 starken

● B. () の形容詞を正しい形にして下線部に入れなさい。

- (1) Ein _____ Glaube ist eine große Kraft. (stark)
- (2) Die _____ Seele strahlt Licht aus. (schön)
- (3) Wir brauchen _____ Menschen mit _____ Herzen. (gut / rein)
- (4) Der _____ wird immer geschützt. (gläubig を名詞的用法で)
- (5) Er hat ein _____ Herz und _____ Gedanken. (rein / gut)
- (6) Ein _____ Glaube ist wie ein Magnet. (stark)

● C. 語を並べて正しい文を作らない (文頭は大文字に)。

(1) ist / sehr / ein / wichtig / schönes / Herz → 「美しい心はとても大切です」 (2) uns / der / Glaube / starke / führt / zum Licht → 「その強い信仰は私たちを光へ導きます」 (3) das / im Leben / ist / Schöne / die Wahrheit → 「人生における美しいものは真理です」 (4) ist / ein Magnet / ein starker Glaube / wie → 「強い信仰は、磁石のようなものです」 ♪17-C1

● D. 英語と比べる —— 誤りを直さない

(1) X ein gut Mensch (英語のように語尾を付けなかった) → (2) X der guter Mensch → (3) X der ehrliche を「正直な人」の意味で書いた (名詞化の表記) → (4) 英語の形容詞がまったく変化しないのはなぜか。中世英語の *the yonge sonne* を手がかりに答えなさい。

● E. 心に刺むたとえ —— 空欄を埋めなさい

(1) Ein _____ Herz ist wie ein _____ Diamant. (清らかな心は、輝くダイヤモンドのようです) (2) Das _____ Herz kennt keine Angst. (清らかな心は恐れを知りません) (3) _____ Wasser spiegelt den Himmel. (清らかな水は空を映します)

● 解答

A: (1) 1 (Ein schönes Herz: 混合変化、中性 1 格)

(2) 2 (Der starke Glaube: 弱変化、男性 1 格)

(3) 2 (den starken Gläubigen: 名詞的用法、複数 3 格、弱変化)

(4) 2 (Das Schöne: 名詞的用法、中性 1 格、強変化)

(5) 2 (mit einem reinen Herzen: 混合変化、中性 3 格。Herz は 3 格で Herzen となる特殊な中性名詞)

(6) 3 (Ein starker Glaube: 混合変化、男性 1 格) B: (1) starker (Ein starker Glaube: 混合変化、男性 1 格)

(2) schöne (Die schöne Seele: 弱変化、女性 1 格)

(3) gute / reinen (gute Menschen: 強変化、複数 4 格 / reinen Herzen: 強変化、複数 3 格)

(4) Gläubige (Der Gläubige: 名詞的用法、男性 1 格、弱変化)

(5) reines / gute (ein reines Herz: 混合変化、中性 4 格 / gute Gedanken: 強変化、複数 4 格)

(6) starker (Ein starker Glaube: 混合変化、男性 1 格) C: (1) Ein schönes Herz ist sehr wichtig.

(2) Der starke Glaube führt uns zum Licht.

(3) Das Schöne im Leben ist die Wahrheit.

(4) Ein starker Glaube ist wie ein Magnet. D: (1) ein guter Mensch (2) der gute Mensch (der が格を示すので形容詞は -e)

(3) der Ehrliche (名詞化した形容詞は大文字で書く)

(4) 中世英語には独語と同じ語尾変化があったが、語尾の -e を発音しなくなり、

やがて書かなくなったため、形容詞が完全に無変化になった。E: (1) reines / heller (2) reine (3) Reines

6. 法話メモ —— 磁石のような信仰、そして「美しい心」

対策学習編 3 で、私たちは **Werde wie ein Magnet!** (磁石のようになれ) という命令文を学びました。使命に目覚めた人は、電磁石のようにまわりの人々を変えていく力を持つ、という教えでした。この最後の章では、その力の源が「強い信仰」そのものであることを学びます。『選ばれし人となるためには』第 6 章で、大川隆法総裁は、こう説かれています。「強い信仰心を持つと、それ自体が一つの磁石となって、周りの人を変えていくのです」。**Ein starker Glaube ist wie ein Magnet.** という文は、まさにこの教えを表しています。

大川隆法総裁は、私たちに「美しい心」を持つことの重要性も繰り返し説かれています。それは、何ものにも代えがたい尊いものであり、人生を幸福に生きるための基盤となります。また、「強い信仰」は、人生の困難を乗り越え、私たちを真理の道へと導く力となります。信仰心は、教えを実践していく中で培われ、無限に近い発展段階を持つものです。

この章で学んだ形容詞の変化を使って、「美しい心」や、磁石のように周りを変えていく「強い信仰」を、ドイツ語で表現できるようになりましょう。

Ein schönes Herz und ein starker Glaube, der wie ein Magnet wirkt, sind der Weg zum Glück.

● もう一段深く —— 心は磁石であり、鏡である

形容詞は、心のありようを描く言葉である。その心とはどういうものかを、二つのたとえが教えてくれる。

ひとつは、磁石。

「人間の心は、ちょうど磁石のように、自分の“磁力”によって“砂鉄”を引き寄せるのです」

《『発展思考』第 4 章「幸福を呼ぶ心」／1 心の法則》

磁石は、何を引き寄せるかを自分では選べない。ただ、自分がどういう磁石であるかによって、寄ってくるものが決まる。清らかな心には清らかなものが、濁った心には濁ったものが集まる。

Das Herz ist wie ein Magnet.

心は磁石のようなものです。

(英) The heart is like a magnet.

もうひとつは、鏡。ただし、こちらは主の側から見た鏡である。

「神の御心はいつも一枚の美しい鏡のように人の心の中で光り輝いているのだから」

《『原説・『愛の発展段階説』—若き日の愛の哲学—』第 2 章「愛と人生」／心は鏡》

鏡は、あなたの心のなかにある。外から探しに行くものではない。形容詞の語尾変化を学び終えたいま、この一文をドイツ語で書いてみてほしい。

Ein schöner Spiegel leuchtet in jedem Herzen.

美しい鏡が、どの心のなかでも光っています。

〈英〉A beautiful mirror shines in every heart.

ein schöner Spiegel（混合変化・男性 1 格）、*in jedem Herzen*（3 格）。この一年で学んだものが、すべてこの一文に入っている。

◆ 学びのことは

「英語のレベルに達するのに最低、各十万時間はかかると考えると、“生涯現役”をやり抜くしかない」

《『黒帯英語十一段⑤』まえがき》

学年末のまとめと試験 【第 30 回】

【第 30 回（後期）】

同じ週の次の時間の**会話**は 第 30 回「学年末発表 —— 伝道者を育てる」

【独検 3 級レベル】

この回の到達目標

1. 一年で学んだ文法を、「伝道のための道具」として一枚に整理する
2. 独検 3 級の水準の問題を、時間内に解ける
3. 学んだすべてを使って、教えるを語る文章をドイツ語で書ける

1. 一年で手に入れたもの

あなたはこの一年で、ドイツ語の文法をひとつおりに手に入れた。しかしそれは、資格のための知識ではない。**人に教えるための道具**である。最後に、その道具を「何ができるようになったか」で並べ直してみよう。

できるようになったこと	使う文法	回
神と教えるについて、いま言い切る	現在人称変化・定動詞第 2 位	4・5
「誰が」「誰に」「何を」を正確に言う	名詞の性と格	6・7
相手に問いかける	疑問詞・人称代名詞	8
仲間や人々のことを語る	複数形	9
「この教え」「私の使命」と指し示す	冠詞類	10・11
場所・方向・手段を言う	前置詞	13
自分の心の動きを語る	再帰動詞	14
「できます」「すべきです」と勧める	話法の助動詞・枠構造	16
「ご一緒にしましょう」と誘う	命令形・分離動詞	17
自分の過去を語る	三基本形・過去形・現在完了	18~20
「救われた」「導かれた」と証しする	受動文	22
理由を説明する	接続詞・副文	23
人の言葉を、責任をもって伝える	接続法第 1 式・間接話法	24
丁寧に願う／「もし～なら」と説く	接続法第 2 式	25
価値の大小を示す	比較変化	26
「～する人」を語る	関係文	27
「何のために生きるか」を語る	zu 不定詞・um ... zu	28
心のありようを描く	形容詞の変化	29

● 1-1. 一年を貫く一本の芯 —— 動詞はどこに立つか

ドイツ語の文法は、突きつめれば「**動詞をどこに置くか**」の話に尽きる。

文の種類	動詞の位置	例
平叙文（主文）	2 番目	Wir lernen heute die Wahrheit.
疑問文（決定疑問）	文頭	Lernst du die Wahrheit?
命令文	文頭	Lerne die Wahrheit!
枠構造	2 番目と文末に分かれる	Wir wollen die Wahrheit lernen .
副文	文末	..., dass wir die Wahrheit lernen .
関係文	文末	der Mensch, der die Wahrheit sucht
zu 不定詞句	文末（zu + 動詞）	..., die Wahrheit zu lernen

動詞の位置が、その文の身分を示す。

主文では特権的な 2 番目に立ち、埋め込まれた節では最後尾に下がる。

● 1-2. 英語からの乗り換えで直すべき 10 点（最終確認）

#	誤り	正しい形
1	Ich bin lernen.	Ich lerne .
2	Tust du lernen?	Lernst du?
3	Heute wir lernen ...	Heute lernen wir ...
4	Ich liebe den Gott.	Ich liebe Gott .
5	mein Mutter	meine Mutter
6	Ich kann zu gehen.	Ich kann gehen .
7	Du musst nicht gehen.（禁止のつもり）	Du darfst nicht gehen .
8	Ich habe gegangen.	Ich bin gegangen .
9	... dass Gott liebt uns.	... dass Gott uns liebt .
10	zu lernen die Wahrheit	die Wahrheit zu lernen

2. 総合練習

● A. 副文に書き換えなさい (dass を使って)。

(1) Gott liebt uns. → Ich glaube, () . (2) Das Gesetz von Ursache und Wirkung funktioniert perfekt. → Wir wissen, () . (3) Jeder Gedanke ist wie ein Samen. → Ich weiß, () .

● B. 関係文にしなさい。

(1) Der Mensch sucht die Wahrheit. Er findet sie. → Der Mensch, () , findet sie. (2) Die Lehre ist wichtig. Wir lernen sie. → Die Lehre, () , ist wichtig.

● C. 接続法第 2 式にしなさい。

(1) Wenn mein Herz wie ein Spiegel (sein) , (können) ich die Wahrheit klar sehen. (2) (Können) Sie mir bitte helfen? (3) Wenn ich mehr Zeit (haben) , (werden) ich mehr lernen.

● D. 受動文にしなさい。

(1) Gott gibt den Diamanten. → Der Diamant () . (2) Die Selbstreflexion reinigt das Herz. → Das Herz () .

● E. zu 不定詞句を使って書きなさい。

(1) 「心を磨くことは大切です」 Es ist wichtig, () . (2) 「私たちは心を磨くために生きています」 Wir leben, () .

● F. 形容詞に語尾を付けなさい。

(1) ein (rein) Herz (2) das (rein) Herz (3) (rein) Wasser (4) ein (hell) Diamant (5) der (ehrlich) Mensch

3. 学年末試験 (独検 3 級形式 / 60 点)

● 第 1 問 動詞の形 (各 2 点・計 10 点)

(1) Ich weiß, dass Gott uns () .
1 liebt 2 lieben 3 liebe 4 zu lieben (2) Wenn ich Zeit () , würde ich kommen.
1 habe 2 hätte 3 hatte 4 haben (3) Er sagte, sein Herz () wie ein Spiegel.
1 ist 2 war 3 sei 4 wäre (4) Das Herz () durch die Selbstreflexion gereinigt.
1 ist 2 wird 3 hat 4 sind (5) Die Welt ist von Gott geschaffen () .
1 geworden 2 worden 3 werden 4 wurde

● 第 2 問 語順 (各 2 点・計 10 点)

(1) Ich lerne Deutsch, weil ich die Wahrheit () .
1 suche 2 sucht 3 suchen 4 zu suchen (2) Weil ich die Wahrheit suche, () ich Deutsch.
1 lerne 2 lernst 3 lernt 4 lernen (3) Es ist wichtig, das Herz () .
1 zu putzen 2 putzen zu 3 zu putzen es 4 putzen (4) Wir leben, () das Herz zu polieren.
1 für 2 um 3 ohne 4 zu (5) Es ist nicht leicht, früh () .
1 aufzustehen 2 zu aufstehen 3 aufstehen zu 4 aufgestanden

● 第 3 問 関係代名詞 (各 2 点・計 10 点)

(1) Der Mensch, () die Wahrheit sucht, findet sie.
1 der 2 den 3 dem 4 das (2) Der Meister, () ich suche, kennt den Weg.
1 der 2 den 3 dem 4 des (3) Die Lehre, () wir lernen, ist die Wahrheit.
1 der 2 den 3 die 4 das (4) Das Herz, () rein ist, kennt keine Angst.
1 der 2 die 3 das 4 dem (5) () die Wahrheit sucht, findet sie.
1 Wer 2 Wen 3 Wem 4 Was

● 第 4 問 比較・形容詞 (各 2 点・計 10 点)

(1) Diese Liebe leuchtet () als ein Feuer.
1 lang 2 länger 3 am längsten 4 mehr lang (2) Der Polarstern steht () .
1 hoch 2 höher 3 am höchsten 4 der höchste (3) Er ist so stark () ein Löwe.
1 als 2 wie 3 denn 4 dass (4) Ein () Herz ist wie ein heller Diamant.
1 rein 2 reine 3 reines 4 reinen (5) () Wasser spiegelt den Himmel.
1 Rein 2 Reine 3 Reines 4 Reinen

● 第 5 問 和文独訳 (各 4 点・計 20 点)

次の日本語をドイツ語にしなさい。

(1) 心は畑のようなものです。(2) 私は亀のように歩んできました。(3) 私は、一つひとつの思いが種のようなものだと知っています。(4) 私たちは、心を磨くために生きています。(5) もし私の心が鏡のようであったなら、私は真理をはっきりと見ることができるでしょう。

4. 解答

総合練習 A: (1) dass Gott uns liebt (2) dass das Gesetz von Ursache und Wirkung perfekt funktioniert

(3) dass jeder Gedanke wie ein Samen ist B: (1) der die Wahrheit sucht (2) die wir lernen C: (1) wäre / könnte (2) Könnten (3) hätte / würde D: (1) Der Diamant wird von Gott gegeben.

(2) Das Herz wird durch die Selbstreflexion gereinigt. E: (1) das Herz zu putzen (または zu polieren) (2) um das Herz zu polieren F: (1) reines (2) reine (3) Reines (4) heller (5) ehrliche

学年末試験第 1 問: (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 2 (5) 2 第 2 問: (1) 1 (2) 1 (3) 1 (4) 2 (5) 1 第 3 問: (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 3 (5) 1 第 4 問: (1) 2 (2) 3 (3) 2 (4) 3 (5) 3 第 5 問 (解答例):

- (1) Das Herz ist wie ein Feld.
- (2) Ich bin wie eine Schildkröte gegangen.
- (3) Ich weiß, dass jeder Gedanke wie ein Samen ist.
- (4) Wir leben, um das Herz zu polieren.
- (5) Wenn mein Herz wie ein Spiegel wäre, könnte ich die Wahrheit klar sehen.

5. 法話メモ —— この教科書を閉じたあとに

一年をかけて、あなたはドイツ語の文法をひととおり歩き終えた。しかし本当の学びは、この教科書を閉じたところから始まる。

ドイツ語版の経典には、こう記されている。

„Diese Welt ist für eure Seele wie eine Schule.“

この世は魂にとっての学校である。

——《『真実への目覚め』第 2 章「常勝思考の力」／3 常勝思考の本質とは》

学校である以上、卒業がある。そして卒業とは、**教わる側から、伝える側に回ること**である。

あなたがこの一年で身につけたのは、「動詞は 2 番目」でも「男性 4 格は den」でもない。ドイツ語で、人に教えを伝えられる——その一点である。

『反省の手引き』のドイツ語版には、次の言葉がある。

„Vergessen Sie nie, tief in Ihrem Herzen wohnt eine Buddha-Natur, strahlend wie ein Diamant.“

(決して忘れないでください。あなたの心の奥深くには、ダイヤモンドのように輝く仏性が宿っています)

この言葉を、あなたはもう、辞書なしで人に伝えられる。そして次は、**それを聞いた人が、また誰かに伝えられるように育てる番**である。

Wir leben, um das Herz zu polieren. Und wir lernen Deutsch, um die Wahrheit weiterzugeben. (私たちは心を磨くために生きています。そして真理を伝えるために、ドイツ語を学ぶ。)

コラム 内容を知っている本を、その言語で読む

一年が終わる。ここから先、**独りで**どう続けるかを書いておきたい。

大川隆法総裁は、渡部昇一氏がドイツ語を学んだときの工夫を紹介しておられる。渡部氏は、サミュエル・スマイルズの『自助論』を日本語でも英語でも読み込んでいた。そこで、**ドイツ語版の『自助論』**を読んだのである。

「内容はほとんど覚えているから、そのほうが読むのは早いはずだ」と考えたようです。

《『外国語学習限界突破法』／3 第二外国語を学ぶ心構え》

そして総裁は、私たちにに向けて、こう続けておられる。

みなさんも同じ手を使えます。今、国際本部のほうで私の本をいろいろな言語に訳してくれているので、第二外国語の勉強として、私の本からどれかを選ぶのであれば、日本語でも英語訳でも読み込んでいるものがよいでしょう。

《『外国語学習限界突破法』／3 第二外国語を学ぶ心構え》

ドイツ語訳でも、中国語訳でも、ポルトガル語訳でもよいのですが、内容が十分に頭のなかに入っているものを読めば、マスターするのが早くなる可能性が高くなるのです。

《『外国語学習限界突破法』／3 第二外国語を学ぶ心構え》

● だから、次に読む一冊はこれである

ドイツ語版の書名	日本語
Das Goldene Gesetz	『黄金の法』
Die Essenz des Buddha	『釈迦の本心』
Der Aufstieg durch die Dimensionen	『永遠の法』
Die unerschütterliche Gesinnung	『不動心』

どれも、あなたが日本語ですでに読んだ本である。内容を知っているから、辞書を引く回数が減る。減った分だけ、先へ進める。

★一年やってきたあなたは、もう「読める」側にいる。
全部は分からなくてよい。分かるところだけで読み進めればよい。
分からない語に赤線を引き、翌日もう一度その頁を開く。
それを一年続けたとき、あなたは日本語で読んだあの本を、
ドイツ語でも読んだ人になっている。

第Ⅱ部

会話編

Konversation —— 伝道のために

同じ週の文法だけで話す。全 30 回。

伝道の四段階（出会う・伝える・導く・育てる）で進む。

はじめに ―― この教科書で、あなたは何かができるようになるか

この本は、ドイツ語会話の教科書である。しかし、旅行会話の本ではない。

目的はひとつしかない。

ドイツ語圏の人に仏法真理を伝え、信仰に導き、その人を育て、
その人がまた次の人に伝えられるようにする。

――そこまでを担える人になること。それがこの一年の到達点である。

1. 文法の授業とセットで使う

この本は、同じ週の前の時間に学んだ文法だけを使って組み立ててある。

	第1限	第2限
内容	文法（第Ⅰ部 文法編）	会話（第Ⅱ部 会話編）
やること	規則を理解する	その規則で、人に伝える

だから、この本には「まだ習っていない文法」は出てこない。知らない形が出てきたら、それはあなたが前の時間を聞き逃したということである。

逆に言えば、習ったその日のうちに、口に出して人に伝えるところまで運ぶ。これがこの授業の設計である。文法は、使われて初めて力になる。

2. 一年で歩く四つの段階

段階	できるようになること	回
I 出会う	ドイツ語で自己紹介し、幸福の科学を一言で説明できる	第1～5回
II 伝える	教えの中心（神・心・愛・あの世）を自分の言葉で語れる	第6～15回
III 導く	相手の悩みを聴き、支部・精舎・祈りに導ける	第16～25回
IV 育てる	信仰を持った人を励まし、伝道者として送り出せる	第26～30回

最後の第30回で、あなたはこの場面を演じる。

あなたはドイツで伝道をしている。半年前にあなたが伝道した人が、「自分も誰かに伝えたいが、どう話せばいいかわからない」と相談してきた。

あなたはその人に、何を伝え、どう送り出すか。

教わる側から、伝える側へ。そこまで行って、この教科書は役目を終える。

3. 各回の構成

節	内容
1 今日の会話	伝道の場面のやりとり。まず声に出して読む
2 使えるフレーズ	その場面で必ず要る言い方。暗唱する
3 言い換え練習	自分の言葉・自分の体験に置き換える
4 ロールプレイ	2人1組。伝道役と相手役を必ず交代する
5 伝道メモ	この場面で大切な心。経典の言葉とともに

4. 表記について

- ・ドイツ語文は太字。次の行が日本語訳。
- ・〈英〉は英語訳（参考）。英語が得意な人は、英語との違いを手がかりにしてほしい。
- ・《》は、題材とした教えの出典。
- ・用語のドイツ語訳は、幸福の科学国際本部の公式ドイツ語用語集および公式ドイツ語版経典の本文と照合したものを採用している。

5. 最後に、ひとつだけ

語学が上手でなければ伝道できない、ということはない。ただたどしいドイツ語で語られた真実の言葉が、流暢な空虚さに勝つことは、いくらでもある。

しかし、言葉が届く範囲が、その人が救える範囲でもある。だから私たちは学ぶ。上手になるためではなく、届く範囲を広げるために。

Wir lernen Deutsch, um die Wahrheit weiterzugeben. JK0-1

私たちは、真理を伝えるためにドイツ語を学びます。

〈英〉 We learn German in order to pass on the Truth.

会話 第1回 はじめまして ― あいさつと自己紹介

【第1回（前期）】

直前の時間の文法は 序章「英語からドイツ語へ」

この回のねらい

1. ドイツ語のあいさつを、時間帯によって使い分けられる
2. 自分の名前を名乗り、相手の名前を尋ねられる
3. 「伝道は、あいさつから始まる」ことを体で知る

1. 今日の会話（Dialog）

場面：ドイツの街角。教会の前で、あなたは一人の女性に声をかける。

Sie: Guten Tag! JK1-1

（あなた）こんにちは。

〈英〉Hello! / Good day!

Frau: Guten Tag. JK1-2

（女性）こんにちは。

Sie: Ich heie Yuki. Und Sie? JK1-3

（あなた）私はユキといいます。あなたは？

〈英〉My name is Yuki. And you?

Frau: Ich heie Anna Weber. Freut mich. JK1-4

（女性）アンナ・ヴェーバーです。はじめまして。

〈英〉My name is Anna Weber. Pleased to meet you.

Sie: Freut mich auch. Wie geht es Ihnen? JK1-5

（あなた）こちらこそ。お元気ですか。

〈英〉Pleased to meet you too. How are you?

Frau: Danke, gut. Und Ihnen? JK1-6

（女性）ありがとう、元気です。あなたは？

Sie: Auch gut, danke. JK1-7

（あなた）私も元気です、ありがとうございます。

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 時間帯であいさつを使い分ける

ドイツ語	時間帯	日本語	英語
Guten Morgen! JK1-8	朝	おはようございます	Good morning!
Guten Tag! JK1-1	昼	こんにちは	Good day!
Guten Abend! JK1-9	夕方以降	こんばんは	Good evening!
Hallo! JK1-10	いつでも（親しい相手）	やあ	Hi!
Auf Wiedersehen! JK1-11	別れ	さようなら	Goodbye!
Tschss! JK1-12	別れ（親しい相手）	じゃあね	Bye!

英語の *good* とドイツ語の *gut* が同じ語であることに注目してほしい。 *Guten Morgen* は、そのまま *Good morning* である。あなたはもう半分知っている。

● 2-2. 名乗る・尋ねる

ドイツ語	日本語
Ich heie ...	私は.....といいます
Ich bin ...	私は.....です
Wie heien Sie? JK1-13	お名前は何とおっしゃいますか
Freut mich. JK1-14	はじめまして（お会いできてうれしいです）
Wie geht es Ihnen? JK1-15	お元気ですか
Danke, gut. JK1-16	ありがとう、元気です

★ Sie は「あなた」の敬称形。必ず大文字で書く。

初対面の人には必ず Sie を使う。親しい相手や、神に祈るときは du を使う。

英語の古い祈り *Thy will be done*（御心のままに）で *thou* を使うのと同じ感覚である。

3. 言い換え練習 (Variationen)

次の下線部を、自分の情報に置き換えて言ってみなさい。

(1) Ich heiße _____. (2) Guten _____.! (いまが朝なら Morgen、昼なら Tag、夕方なら Abend) (3) Wie geht es Ihnen? — Danke, _____. (gut/sehr gut/nicht so gut)

クラス全員と、一人ずつ握手をしながら次の3文を交わすこと。

Guten Tag! Ich heiße Freut mich.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 街角で初めて会う。あいさつ→名乗る→相手の名を尋ねる→別れる。

場面 B 朝の駅で会う。Guten Morgen から始めて、同じ流れをやる。

場面 C 相手が急いでいる。あいさつと名乗りだけで、Auf Wiedersehen! と気持ちよく別れる。

★ 場面 C が、実はいちばん大事である。

伝道は「今日、全部を伝えること」ではない。

次に会ったときに、また話せる関係を残すことである。

5. 伝道メモ ―― すべては「こんにちは」から始まる

伝道というと、教義を説明することだと思われがちである。しかし実際には、人が心を開くかどうかは、最初の数秒で決まってしまう。

あいさつは、相手に向かって「私はあなたに敵意を持っていません」と告げる合図であり、「あなたはここに存在していてよい」と認める行為でもある。それは、教えの中身を語る前に、すでに教えを行なっていることに等しい。

大川隆法総裁は、この世を「魂にとっての学校」とたとえられた。ドイツ語版の経典には、こう記されている。

„Diese Welt ist für eure Seele wie eine Schule.“

この世は魂にとっての学校である。

《『真実への目覚め』第2章「常勝思考の力」／3 常勝思考の本質とは》

学校で最初に習うのは、あいさつである。魂の学校でも、おそらく同じなのだろう。

今日はまだ、教えを何ひとつ語らなくてよい。明るく「Guten Tag!」と言えること。それが第一回の到達点である。

会話 第2回 名前・出身・ことば

【第2回（前期）】

直前の時間の文法は 第0章「アルファベットと発音の基礎」

この回のねらい

1. 自分の名前をドイツ語式に綴って伝えられる
2. 出身地・話す言葉を言い、相手にも尋ねられる
3. ドイツ語の発音で、日本人がいちばん誤解されやすい点を直す

1. 今日の会話（Dialog）

場面：前回会ったアンナさんと、もう一度話す。名前を綴って伝える場面。

Anna: Wie heißen Sie noch einmal? JK2-1

もう一度、お名前を教えてくださいませんか。

〈英〉What is your name again?

Sie: Ich heiße Yuki Sato. JK2-2

佐藤ユキです。

Anna: Wie schreibt man das? JK2-3

どう綴るのですか。

〈英〉How do you write that?

Sie: S – A – T – O. Sato. JK2-4

エス、アー、テー、オー。サトウです。

Anna: Woher kommen Sie? JK2-5

どちらのご出身ですか。

〈英〉Where do you come from?

Sie: Ich komme aus Japan. Und Sie? JK2-6

日本から来ました。あなたは？

Anna: Ich komme aus Deutschland, aus München. JK2-7

私はドイツの、ミュンヘンの出身です。

Sie: Ich lerne Deutsch. Sprechen Sie Englisch? JK2-8

私はドイツ語を学んでいます。英語は話されますか。

Anna: Ja, ein bisschen. JK2-9

ええ、少しだけ。

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

ドイツ語	日本語
Wie schreibt man das? JK2-3	どう綴りますか
Woher kommen Sie? JK2-5	どちらのご出身ですか
Ich komme aus Japan. JK2-10	私は日本から来ました
Ich wohne in Tokio. JK2-11	私は東京に住んでいます
Ich lerne Deutsch. JK2-12	私はドイツ語を学んでいます
Sprechen Sie Englisch? JK2-13	英語を話されますか
Ja, ein bisschen. JK2-9	ええ、少しだけ
Langsam, bitte. JK2-14	ゆっくりお願いします
Noch einmal, bitte. JK2-15	もう一度お願いします

★ **Langsam, bitte.** と **Noch einmal, bitte.** は、この一年でいちばん使う二文かもしれない。

聞き取れないことは恥ではない。聞き取れないまま分かったふりをすることが、伝道では致命的になる。

● 2-1. 名前を綴るためのアルファベット

文字	読み	文字	読み	文字	読み
A	アー	J	ヨット	S	エス
B	ベー	K	カー	T	テー
C	ツェー	L	エル	U	ウー
D	デー	M	エム	V	ファオ
E	エー	N	エヌ	W	ヴェー
F	エフ	O	オー	X	イクス
G	ゲー	P	ペー	Y	ユブスィロン
H	ハー	Q	クー	Z	ツェット

文字	読み	文字	読み	文字	読み
I	イー	R	エア	B	エスツェット

★Jは「ヨット」、Vは「ファオ」、Wは「ヴェー」、Zは「ツェット」。
英語読みで綴ると、名前がまったく違うものとして伝わってしまう。

3. 言い換え練習 (Variationen)

- (1) 自分の姓名を、ドイツ語のアルファベットで一字ずつ声に出して綴りなさい。(2) Ich komme aus _____. (日本の出身地を入れる)
(3) Ich wohne in _____.

● 3-1. 発音の落とし穴 —— ここだけは直す

次の語を、英語読みしないように声に出しなさい。伝道でよく使う語ばかりである。

綴り	正しい読み	英語読みしてしまうと	意味
Wahrheit JK2-16	ヴァールハイト	ワールハイト X	真理
Vater JK2-17	ファーター	ヴェイター X	父
Seele JK2-18	ゼーレ	シーリー X	魂
Liebe JK2-19	リーベ	ライブ X	愛
Zeit	ツァイト	ジート X	時
Jesus JK2-20	イエズス	ジーザス X	イエス

★Wはヴ、Vはフ、Zはツ、Jはヤ行、語頭のS+母音はズ。
この5つを直すだけで、あなたのドイツ語は一気に「通じる」ようになる。

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面A 名前を尋ね合い、綴りを一字ずつ伝え合う。相手はそれを紙に書き取る。

書き取った名前が合っていれば成功。

場面B 出身地を尋ね合う。相手の答えが聞き取れなかったら、

必ず **Noch einmal, bitte.** と言って聞き直す。

場面C 相手が早口である。**Langsam, bitte.** を使って、会話を成立させる。

5. 伝道メモ —— 名前を正しく呼ぶということ

人にとって、自分の名前は、この世でいちばん多く聞いてきた音である。その名前を正しく呼ばれたとき、人は「この人は自分を見ている」と感じる。

だから伝道においては、相手の名前を一度で覚え、正しく発音することが、どんな上手な説明よりも先に効く。逆に、名前を間違え続けたまま教義を語っても、相手の心には届かない。「この人は、私ではなく、私を通して何かを見ている」と伝わってしまうからである。

同時に、自分の名前を正しく伝えることも大切である。あなたの名前は、これから相手にとって「仏法真理を教えてくれた人の名前」になるかもしれない。

言葉は、音である。音は、心を運ぶ。第0章で学んだ「綴りと音がほぼ1対1」というドイツ語の性質は、裏を返せば、正しく綴れば必ず正しく届くということでもある。

Ich heiße Ich komme aus Japan. Ich lerne Deutsch.

この三文を、よどみなく言えるようにして帰ること。

会話 第3回 「幸福の科学」を一言で伝える

【第3回（前期）】

直前の時間の文法は 第1章「つづりと発音（アクセント・母音の長短）」

この回のねらい

1. 「幸福の科学とは何か」を、ドイツ語一文で答えられる
2. 相手に「もっと聞きたい」と思わせる短い答え方を身につける
3. 仏法真理の基本語を、正しいアクセントで発音できる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、あなたの持っている経典に気づいて尋ねる。

Anna: Was ist das? JK3-1

それは何ですか。

〈英〉What is that?

Sie: Das ist ein Buch von Happy Science. JK3-2

これは幸福の科学の本です。

〈英〉This is a book from Happy Science.

Anna: Happy Science? Was ist das? JK3-3

幸福の科学？ それは何ですか。

Sie: Happy Science ist eine Religion aus Japan. JK3-4

幸福の科学は、日本から生まれた宗教です。

〈英〉Happy Science is a religion from Japan.

Anna: Interessant. Und was lehrt Happy Science? JK3-5

面白いですね。それで、何を教えているのですか。

Sie: Liebe, Weisheit, Selbstreflexion und Fortschritt. JK3-6

愛・知・反省・発展です。

〈英〉Love, wisdom, self-reflection, and progress.

《四正道——公式ドイツ語訳》

Anna: Das klingt gut. JK3-7

いい響きですね。

Sie: Ja. Möchten Sie mehr wissen? JK3-8

ええ。もっとお知りになりたいですか。

〈英〉Yes. Would you like to know more?

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 一言で答える

ドイツ語	日本語
Happy Science ist eine Religion aus Japan. JK3-4	幸福の科学は日本から生まれた宗教です
Der Gründer heißt Ryuho Okawa. JK3-9	創始者は大川隆法といひます
Wir glauben an Gott El Cantare. JK3-10	私たちは主エル・カンターレを信仰しています
Wir lernen die Wahrheit Buddhas. JK3-11	私たちは仏法真理を学んでいます
Möchten Sie mehr wissen? JK3-12	もっとお知りになりたいひですか

★組織名 Happy Science は、ドイツ語でも英語のまま用いる。

訳して *Glückliche Wissenschaft* などとしてはならない。公式の表記に従うこと。

● 2-2. 四正道——覚えるべき最初の四語

Liebe, Weisheit, Selbstreflexion und Fortschritt. JK3-6

ドイツ語	読み	日本語
die Liebe JK3-13	リーベ	愛
die Weisheit JK3-14	ヴァイスハイト	知（智慧）
die Selbstreflexion JK3-15	ゼルブストレフレクツィオーン	反省
der Fortschritt JK3-16	フォルトシュリット	発展

★「知」は Wissen (知識) ではなく Weisheit (智慧) である。
これは公式ドイツ語訳であり、公式ドイツ語版経典の本文でも一貫して使われている。
知識を集めるのではなく、**智慧に至ることが四正道の「知」**だからである。

● 2-3. アクセントを確認する

第1章で学んだとおり、ドイツ語のアクセントは原則として**第1音節**である。

- ・ Wahrheit (ヴァールハイト) Weisheit (ヴァイスハイト) Liebe (リーベ)
- ・ Fortschritt (フォルトシュリット) Glaube (グラオベ・信仰)
ただし外来語は後ろに来る。ここは英語と同じである。
- ・ Religion (レリギオーン) Reflexion (レフレクツィオーン) Meditation (メディタツィオーン)

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) Das ist ein Buch von _____. (2) Happy Science ist eine Religion aus _____. (3) Wir lernen _____. (die Wahrheit/die Liebe/die Weisheit)

● 3-1. 30秒で答える練習

次の問いに、**ドイツ語で3文以内**で答えなさい。時間は30秒。

「Was ist Happy Science?»

解答例: Happy Science ist eine Religion aus Japan. Der Gründer heißt Ryuho Okawa. Wir lernen Liebe, Weisheit, Selbstreflexion und Fortschritt.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が „Was ist das?“ と本を指す。あなたは3文で答え、
最後に „Möchten Sie mehr wissen?“ と尋ねる。

場面 B 相手が „Ich habe keine Zeit.“ (時間ありません) と言う。
あなたは笑顔で „Kein Problem. Auf Wiedersehen!“ と気持ちよく引く。

場面 C 相手が „Das klingt interessant.“ (面白そうですね) と言う。
あなたは四正道の四語を挙げて説明する。

★ **場面 B** を必ず練習すること。
断られたときに、笑顔で引ける人だけが、次にまた会える。
引き際の美しさは、伝道の技術のうちでもっとも高度なものである。

5. 伝道メモ —— 一言で言えるということ

「幸福の科学とは何ですか」と聞かれて、5分間話してしまう人がある。熱心さゆえだが、たいていの場合、相手は途中で聞くのをやめている。

人が新しいものを受け取れる量は、思っているよりずっと小さい。だから伝道の第一歩は、**多くを語るのではなく、少なく語って、続きを聞きたくさせること**である。

大川隆法総裁は、教えの深さを「味」にたとえられた。

「仏の教えは、噛めば噛むほどに味が出、聴けば聴くほどに味が出、実践すれば実践するほどに、その悟りの芳香が、あたり一面に漂うものとなる」
《『仏陀再誕』第6章「転生輪廻とは何か」》

味は、口に入れてはじめて分かる。最初にすべきことは、味の説明ではなく、**一口だけ差し出すこと**である。

Liebe, Weisheit, Selbstreflexion und Fortschritt. JK3-6

この四語を、正しいアクセントで、迷いなく言えるようにして帰ること。これがあなたの「最初の一口」になる。

◆ 学びのことば

「また、私の本の英訳本なども併用して勉強すれば国際伝道士としても十分通用するだろう」
《『黒帯英語への道⑩』まえがき》

会話 第4回 私はこう信じています

【第4回（前期）】

直前の時間の文法は 第2章①「動詞の現在人称変化（規則変化）」

この回のねらい

1. 規則変化動詞を使って、自分の信仰と実践を語る
2. 主語に応じて動詞の語尾を正しく変えられる
3. 「私は」で語ることの力を知る

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、あなた自身のことを尋ねてくる。

Anna: Warum lernen Sie Deutsch? JK4-1

なぜドイツ語を学んでいるのですか。

〈英〉Why are you learning German?

Sie: Ich lerne Deutsch für die Wahrheit. JK4-2

私は真理のためにドイツ語を学んでいます。

〈英〉I am learning German for the Truth.

Anna: Für die Wahrheit? JK4-3

真理のために？

Sie: Ja. Ich glaube an Gott. Ich lerne die Lehre jeden Tag. JK4-4

はい。私は神を信じています。私は毎日、教えを学んでいます。

〈英〉Yes. I believe in God. I study the teaching every day.

Anna: Jeden Tag? Das ist viel. JK4-5

毎日ですか。それは大変ですね。

Sie: Wir lernen zusammen. Wir beten zusammen. JK4-6

私たちは一緒に学びます。一緒に祈ります。

〈英〉We study together. We pray together.

Anna: Und was suchen Sie? JK4-7

それで、あなたは何を求めているのですか。

Sie: Ich suche die Wahrheit. Und ich danke jeden Tag. JK4-8

私は真理を求めています。そして毎日、感謝しています。

〈英〉I seek the Truth. And I give thanks every day.

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 「私は～します」で信仰を語る

ドイツ語	日本語
Ich glaube an Gott. JK4-9	私は神を信じています
Ich lerne die Lehre. JK4-10	私は教えを学んでいます
Ich suche die Wahrheit. JK4-11	私は真理を求めています
Ich bete jeden Tag. JK4-12	私は毎日祈ります
Ich danke jeden Tag. JK4-13	私は毎日感謝しています
Ich liebe die Menschen. JK4-14	私は人々を愛しています

● 2-2. 語尾を変えるだけで、主語が変わる

主語	語尾	lernen（学ぶ）	beten（祈る）
ich	-e	lerne	bete
du	-st	lernst	betest
er / sie / es	-t	lernt	betet
wir	-en	lernen	beten
ihr	-t	lernt	betet
Sie / sie（複）	-en	lernen	beten

★ beten のように語幹が -t で終わる動詞は、du・er・ihr で発音しやすいように e をはさむ（betest, betet）。

★英語との違いを思い出すこと。

英語は *I am learning* (進行形) と言うが、ドイツ語に進行形はない。

Ich lerne. が「学びます」も「学んでいます」も兼ねる。

× *Ich bin lernen.* は存在しない形である。

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) Ich lerne _____. (Deutsch/die Lehre/die Wahrheit) (2) Wir _____ zusammen. (lernen/beten/arbeiten) (3) Er _____ jeden Tag. (lernt/betet/dankt)

● 3-1. 主語を変えて言う

次の文を、() の主語に変えて言いなさい。

(1) Ich lerne die Lehre. → (du) → (er) → (wir) (2) Ich bete jeden Tag. → (du) → (sie=彼女) → (wir) (3) Ich danke Gott. → (du) → (er) → (wir)

● 3-2. 自分のことを 4 文で

次の型を使って、自分自身のことを 4 文で言いなさい。

Ich heiße _____. Ich komme aus _____. Ich lerne _____. Ich glaube an _____.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が „Warum lernen Sie Deutsch?“ と尋ねる。

あなたは *Ich lerne ...* で始まる文で答える。

場面 B 相手が „Was machen Sie jeden Tag?“ (毎日何をしていますか) と尋ねる。

Ich bete. Ich lerne. Ich danke. と 3 文で答える。

場面 C 相手が „Glauben Sie an Gott?“ と尋ねる。

Ja, ich glaube an Gott. と、はっきり答える。

★ 場面 C で、小さな声にならないこと。

信仰を問われて口ごもる人からは、誰も教えを受け取ろうとしない。

上手でなくてよい。はっきり言い切ることが、この回の課題である。

5. 伝道メモ —— 「私は」で語る

伝道でもっとも強い言葉は、教義の説明ではない。「私は、こう信じています」という一人称の言葉である。

教義は、正しくても、聞く人にとってはまだ他人事である。しかし「私は毎日祈っています」と言われれば、それは目の前の人の事実であり、反論のしようがない。人の心を動かすのは、正しさではなく、**本当らしさ**である。

だからこの回で学んだ動詞の語尾変化は、単なる文法事項ではない。**ich** の語尾 **-e** は、あなたが自分の信仰を主語に立てるための形である。

Ich glaube an Gott. Ich lerne die Lehre. Ich bete jeden Tag. Ich danke jeden Tag.

この四文が、あなたの伝道の土台になる。今日、これを暗唱できるようにして帰ること。

そして忘れないでほしい。**wir** の語尾 **-en** は、「私たち」で語るための形である。信仰は一人で持つものだが、一人で保つものではない。

Wir lernen zusammen. Wir beten zusammen. JK4-6

会話 第5回 神とは、どういう方か

【第5回（前期）】

直前の時間の文法は 第2章②「sein・haben と定動詞第2位・疑問文」

この回のねらい

1. sein・haben を使って、神と教えについて言い切れる
2. 疑問文を作って、相手の考えを引き出せる
3. 「定動詞第2位」を、話しながら守れる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、あなたの信じる神について尋ねる。

Anna: Sind Sie Christin? JK5-1

あなたはキリスト教徒ですか。

〈英〉Are you a Christian?

Sie: Nein. Aber ich glaube an Gott. JK5-2

いいえ。でも私は神を信じています。

Anna: Wer ist Ihr Gott? JK5-3

あなたの神とは、どなたですか。

〈英〉Who is your God?

Sie: Gott ist Liebe. Gott ist Licht. JK5-4

神は愛です。神は光です。

〈英〉God is love. God is light.

《神は太陽のごとく、光に満ち満ちており、地上のわれわれに光を与えてくださっている
——『太陽の法』第5章「黄金の時代」》

Anna: Gott ist Liebe ... Das sagen wir auch.

神は愛……。それは私たちも言います。

Sie: Ja. Gott gibt Liebe wie die Sonne. JK5-5

ええ。神は太陽のように愛を与えます。

〈英〉Yes. God gives love like the sun.

Anna: Wie die Sonne? JK5-6

太陽のように？

Sie: Die Sonne scheint für alle. Sie fragt nicht. JK5-7

太陽はすべての人を照らします。太陽は問いません。

〈英〉The sun shines for everyone. It does not ask.

Anna: Das ist ein schöner Gedanke. JK5-8

それは美しい考えですね。

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. sein で言い切る

ドイツ語	日本語
Gott ist Liebe. J2-C2	神は愛です
Gott ist Licht. JK5-10	神は光です
Wir sind Kinder Gottes. J2-10	私たちは神の子です
Das Leben ist eine Schule. J2-9	人生は学校です
Die Lehre ist die Wahrheit. J3-5	その教えは真理です

★ Kinder Gottes（神の子）は公式ドイツ語版経典で用いられている表現である。

● 2-2. sein と haben

主語	sein（～である）	haben（持っている）
ich	bin	habe
du	bist	hast
er / sie / es	ist	hat
wir	sind	haben
ihr	seid	habt
Sie / sie（複）	sind	haben

英語の *be* → *am / are / is* も、ドイツ語の *sein* → *bin / bist / ist* も、どちらも極端に不規則である。最重要語ほど形が乱れるのは、両言語に共通する性質である。

● 2-3. 尋ねる

ドイツ語	日本語
Sind Sie Christin? JK5-1	(女性に) キリスト教徒ですか
Glauben Sie an Gott? JK5-14	神を信じておられますか
Was ist für Sie wichtig? JK5-15	あなたにとって大切なものは何ですか
Haben Sie Zeit? JK5-16	お時間はありますか

★ 決定疑問文は、動詞を文頭に出すだけ。英語のように *do* を借りてこない。

○ **Glauben Sie an Gott?** × *Tun Sie an Gott glauben?*

3. 言い換え練習 (Variationen)

● 3-1. 定動詞第2位を守る

次の文を、() の語を文頭に置いて言い直しなさい。動詞が2番目に来ることに注意。

(1) Gott gibt Liebe wie die Sonne. → (Wie die Sonne) (2) Wir lernen die Lehre jeden Tag. → (Jeden Tag) (3) Ich bete am Morgen. → (Am Morgen)

解答: (1) **Wie die Sonne gibt Gott Liebe.** (2) **Jeden Tag lernen wir die Lehre.** (3) **Am Morgen bete ich.**

★ 文頭に何かを置いたら、次は必ず動詞。英語は *Every day we learn* と主語が先だが、ドイツ語は *Jeden Tag lernen wir* と主語と動詞がひっくり返る。

● 3-2. 「神とは何か」を3文で

次の型で、自分の言葉として言ってみなさい。

Gott ist ____. **Gott gibt ____.** **Wir sind ____.**

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面A 相手が „**Wer ist Ihr Gott?**“ と尋ねる。あなたは *Gott ist ...* で3文答える。

場面B 相手が „**Ich glaube nicht an Gott.**“ (私は神を信じません) と言う。

あなたは否定せず、„**Das verstehe ich. Aber ich glaube.**“ と受けとめてから、

太陽のたとえを1文だけ添える。

場面C あなたから „**Glauben Sie an Gott?**“ と尋ね、相手の答えを最後まで聴く。

★ 場面Bが今日の山である。

信じない人を論破することは、伝道ではない。

受けとめてから、自分の側の一文を置く。それだけでよい。

5. 伝道メモ —— 太陽は、問わない

『太陽の法』第5章には、神の愛のあり方が、太陽のたとえで説かれている。

「神は太陽のごとく、光に満ち満ちており、地上のわれわれに光を与えてくださっている」

《『太陽の法』第5章「黄金の時代」》

太陽は、照らす相手を選ばない。信じている人にも、信じていない人にも、まったく同じ光を注いでいる。見返りを求めることもない。

伝道においても、これがそのまま原則になる。相手が信じるかどうかで、こちらの態度が変わってはならない。断られたから冷たくする、というのであれば、それは愛ではなく取引である。

Die Sonne scheint für alle. Sie fragt nicht. JK5-7

太陽はすべての人を照らす。太陽は問わない。

この二文を、今日の暗唱課題とする。そして、あなた自身がそのように人に接することを、今日の実践課題とする。

会話 第6回 心・魂・愛を語る

【第6回（前期）】

直前の時間の文法は 第3章①「名詞の性・定冠詞・不定冠詞」

この回のねらい

1. 教えの中心語を、性（der / die / das）とともに正しく使える
2. 「心とは何か」を、たとえを使って語れる
3. 定冠詞と不定冠詞を、意味の違いで使い分けられる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが「心」という言葉に反応する。

Anna: Sie sagen oft „das Herz“. Was meinen Sie damit? JK6-1

あなたはよく「心」と言いますね。どういう意味ですか。

〈英〉 You often say "the heart." What do you mean by that?

Sie: Das Herz ist wie ein Feld. JK2-13

心は畑のようなものです。

〈英〉 The heart is like a field.

《心は、たとえてみれば、畑のようなものだ —— 御法話「無我なる愛」／心の深耕》

Anna: Wie ein Feld? JK6-3

畑のように？

Sie: Ja. Ein Feld hat gute Erde. Aber ein Feld braucht Arbeit. JK6-4

はい。畑には良い土があります。しかし畑には手入れが必要です。

Anna: Und die Seele? JK6-5

では、魂は？

Sie: Die Seele ist ewig. Der Körper ist nicht ewig. JK6-6

魂は永遠です。肉体は永遠ではありません。

〈英〉 The soul is eternal. The body is not eternal.

Anna: Das ist ein großer Gedanke. JK6-7

それは大きな考えですね。

Sie: Und die Liebe ist die Kraft. Die Liebe gibt. JK6-8

そして愛は力です。愛は与えるものです。

〈英〉 And love is the power. Love gives.

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 教えの中心語 —— 性とともに覚える

ドイツ語	性	日本語
das Herz JK6-9	中	心
der Geist JK6-10	男	心・精神
die Seele JK6-11	女	魂
die Liebe JK3-13	女	愛
die Wahrheit JK6-13	女	真理
das Licht JK6-14	中	光
die Kraft JK6-15	女	力
die Lehre JK6-16	女	教え
der Glaube JK6-17	男	信仰
das Feld JK6-18	中	畑

★ 名詞は必ず der / die / das ごと覚えること。

「Herz」ではなく「das Herz」、「Seele」ではなく「die Seele」。

ここを省くと、第7回以降の格変化がすべて崩れる。

● 2-2. 定冠詞と不定冠詞の使い分け

ドイツ語	意味
Das ist ein Buch. JK6-19	これは（ある1冊の）本です —— 初めて出す
Das Buch ist gut. JK6-20	その本は良いです —— すでに話に出ている
Die Liebe ist die Kraft. JK6-21	愛というものは力である —— 概念そのもの

英語の *a / the* と、まったく同じ発想である。違うのは、ドイツ語では**性と格によって形が変わる**という点だけである。

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) ____ Herz ist wie ein Feld. (das) (2) ____ Seele ist ewig. (Die) (3) ____ Liebe ist ____ Kraft. (Die / die) (4) Das ist ____ Buch von Happy Science. (ein)

● 3-1. たとえを自分の言葉で

「心は～のようなものです」を、自分のたとえで言ってみなさい。

Das Herz ist wie _____.

例：ein Spiegel (鏡) / ein See (湖) / ein Feld (畑) / ein Garten (庭)

● 3-2. 性を当てる

次の語の性を言いなさい。

Wahrheit / Licht / Glaube / Seele / Herz / Kraft / Geist / Lehre

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が „Was ist das Herz?“ と尋ねる。

あなたは畑のたとえで、3文答える。

場面 B 相手が „Was passiert nach dem Tod?“ (死後はどうなるのですか) と尋ねる。

あなたは „Die Seele ist ewig.“ と答える。それ以上は、まだ言わなくてよい。

場面 C 相手が „Was ist Liebe für Sie?“ (あなたにとって愛とは) と尋ねる。

„Die Liebe gibt.“ と答え、身近な例を1つ、日本語で補足してよい。

5. 伝道メモ —— 心という畑を耕す

大川隆法総裁は、心を「畑」にたとえられた。

「心は、たとえてみれば、畑のようなものだ」

《御法話「無我なる愛」／心の深耕》

このたとえの要は、**畑は放っておけば荒れる**という一点にある。土が悪いのではない。手入れをしないから荒れるのである。

公式ドイツ語版經典にも、同じ趣旨の一文がある。

„Bestellen Sie das Feld Ihres eigenen Geistes.“

みずからの心の畑に種をまけ。みずからの心の畑を耕せ

《独文＝『若き日のエル・カンターレ』ドイツ語版／和文＝『若き日のエル・カンターレ』第4章「未知なる仏神」／5 霊界と相通する》

bestellen は「(畑を) 耕す、作付けする」という動詞である。心は、耕される対象なのだ。

伝道においても、相手の心はすでに畑である。あなたがすることは、種を無理に押し込むのではなく、**土を少し柔らかくすること**である。柔らかくなった土には、いずれ誰かが蒔いた種が芽を出す。それがあなたの蒔いた種でなくてもよい——そう思えるようになったとき、伝道は自由になる。

Das Herz ist wie ein Feld. Ein Feld braucht Arbeit. JK15-8

◆ 学びのこぼれ

「本シリーズ以外でも目的を絞り込んだ参考テキストを用意しているので、毎日コツコツと努力することを望みたい」

《『黒帯英語初段⑩』まえがき》

会話 第7回 あなたに何を差し上げられるか

【第7回（前期）】

直前の時間の文法は 第3章②「1格・3格・4格」

この回のねらい

1. 「誰に」「何を」を格で正確に言い分けられる
2. geben・danken を使って、与える愛を語れる
3. 伝道の本質が「奪う」ではなく「与える」であることを言葉で確かめる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、宗教への警戒心を口にする。

Anna: Religionen brauchen immer Geld. JK7-1

宗教はいつもお金を必要としますね。

〈英〉Religions always need money.

Sie: Ich verstehe. Aber wir geben. JK7-2

分かります。しかし私たちは与えるのです。

〈英〉I understand. But we give.

Anna: Was geben Sie? JK7-3

何を与えるのですか。

Sie: Wir geben den Menschen die Wahrheit. JK7-4

私たちは人々に真理を与えます。

〈英〉We give people the Truth.

Anna: Und was bekommen Sie? JK7-5

それであなたは何を受け取るのですか。

Sie: Ich bekomme nichts. Ich danke Gott. Das ist genug. JK7-6

私は何も受け取りません。私は神に感謝します。それで十分です。

〈英〉I receive nothing. I thank God. That is enough.

Anna: Warum machen Sie das? JK7-7

なぜそんなことをするのですか。

Sie: Die Sonne gibt der Welt das Licht. Sie nimmt nichts. JK7-8

太陽は世界に光を与えます。太陽は何も奪いません。

〈英〉The sun gives the world light. It takes nothing.

《与える愛——『幸福の原点』第1章》

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 「誰に」「何を」

geben は「～に（3格）～を（4格）与える」動詞である。英語の give と同じ語順になる。

ドイツ語	日本語	英語
Wir geben den Menschen die Wahrheit. JK7-4	私たちは人々に真理を与えます	We give people the Truth.
Gott gibt dem Menschen die Liebe. JK7-12	神は人に愛を与えます	God gives the person love.
Die Sonne gibt der Welt das Licht. JK7-10	太陽は世界に光を与えます	The sun gives the world light.

● 2-2. 3 格を取る動詞

ドイツ語	日本語
Ich danke Ihnen. JK7-11	あなたに感謝します
Ich danke Gott. JK7-12	神に感謝します
Ich helfe Ihnen. JK7-13	あなたを助けます
Ich folge der Wahrheit. JK7-14	私は真理に従います

★ helfen（助ける）と folgen（従う）は3格を取る。

英語の help you, follow the truth は目的格（＝4格に当たる）なので、ここがずれる。

× Ich helfe Sie. ○ Ich helfe Ihnen.

● 2-3. 格変化の要点をもう一度

	男性	女性	中性
1 格 (～は)	der	die	das
3 格 (～に)	dem	der	dem
4 格 (～を)	den	die	das

変わるのは男性名詞だけと覚えると楽になる (der → den)。女性・中性は 1 格と 4 格が同じ形である。

● 2-4. 与える愛と奪う愛 —— 公式訳

日本語	ドイツ語 (公式)
与える愛	gebende Liebe
奪う愛	nehmende Liebe

3. 言い換え練習 (Variationen)

● 3-1. 格を選ぶ

(1) Ich danke ____ Meister. (dem) (2) Gott gibt ____ Welt ____ Liebe. (der / die) (3) Wir lernen ____ Lehre. (die) (4) Ich habe ____ Glauben. (den) (5) ____ Herz hat ____ Kraft. (Das / die)

● 3-2. 「私はあなたに～を差し上げられます」

次の型で、自分の言葉として言いなさい。

Ich gebe Ihnen _____.

例：die Wahrheit (真理) / ein Buch (本) / meine Zeit (私の時間) / meinen Glauben (私の信仰)

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が „Religionen brauchen immer Geld.“ と警戒を示す。

あなたは否定せず „Ich verstehe. Aber wir geben.“ から始めて答える。

場面 B 相手が „Was bekommen Sie?“ と尋ねる。

„Ich bekomme nichts. Ich danke Gott.“ と答える。

場面 C 相手に „Ich helfe Ihnen.“ と申し出て、実際に何かを手伝う設定で会話する。

★ 場面 A で、むきになって反論しないこと。

警戒は、相手が真剣に考えている証拠である。

「分かります」と受けとめられる人だけが、次の一文を届けられる。

5. 伝道メモ —— 与える者は、減らない

大川隆法総裁は、与える愛について、地下水のたとえを説かれた。

「あなたがたが惜しみなく他の人びとを満たそうとする時に、あなたがたが、他の人びとの心を潤そうとする時に、この地下水のごとく、仏の力が、愛が、勇気が、光が、湧き出してくるのだ」

《『仏陀再誕』第 2 章「釈智の言葉」／愛の実践》

地下水は、汲めば涸れるものではない。汲むほどに湧いてくる。与える愛も同じで、出せば出すほど内から湧いてくる、と説かれている。

この回で学んだ 3 格 (～に) は、「誰に」を明示する格である。愛は、宙に向かって放つものではなく、必ず具体的な誰かに向かうものだ。文法がそのまま、伝道の姿勢を教えてくれている。

Wir geben den Menschen die Wahrheit. Wir nehmen nichts.

この二文を暗唱し、今週、誰か一人に実際に何かを与えてみる。それが今日の実践課題である。

会話 第8回 相手のことを尋ねる

【第8回（前期）】

直前の時間の文法は 対策学習編1「人称代名詞（1格・4格）と疑問詞」

この回のねらい

1. 疑問詞を使い分けて、相手のことを深く尋ねられる
2. 人称代名詞で、話をなめらかにつなげられる
3. 「語る伝道」から「聴く伝道」へ切り替える

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんの話を、あなたが聴く側にまわる。

Sie: Wie geht es Ihnen heute? JK8-1

今日はお元気ですか。

〈英〉How are you today?

Anna: Nicht so gut. JK8-2

あまり良くありません。

Sie: Warum? Was ist los? JK8-3

どうしてですか。何かありましたか。

〈英〉Why? What is the matter?

Anna: Meine Mutter ist krank. JK8-4

母が病気なのです。

Sie: Das tut mir leid. Wo ist sie jetzt? JK8-5

それはお気の毒に。お母様は今どちらに。

〈英〉I am sorry. Where is she now?

Anna: Sie ist im Krankenhaus. JK8-6

病院にいます。

Sie: Wie lange schon? JK8-7

どれくらいになりますか。

Anna: Seit einem Monat. JK8-8

ひと月です。

Sie: Ich verstehe. Ich bete für sie. JK8-9

そうですか。お母様のために祈ります。

〈英〉I understand. I will pray for her.

Anna: Danke. Das ist sehr freundlich. JK8-10

ありがとう。ご親切に。

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 疑問詞 —— 英語の wh- と同じ一族

ドイツ語	英語	日本語
wer	who	だれが
was	what	何が・何を
wo	where	どこで
wann	when	いつ
warum	why	なぜ
wie	how	どのように
wie lange	how long	どれくらいの間

★ wer は「だれ」、wo は「どこ」。英語の who / where とずれているので必ず声に出して覚えること。

● 2-2. 相手を気づかう言い方

ドイツ語	日本語
Was ist los? JK8-11	どうしましたか
Das tut mir leid. JK8-12	それはお気の毒に
Ich verstehe. JK8-13	よく分かります
Ich bete für Sie. JK8-14	あなたのために祈ります
Ich denke an Sie. JK8-15	あなたのことを思っています

★ „Ich bete für Sie.“ は、伝道においてもっとも強い一文かもしれない。
教義を語らずして、信仰の中身がまるごと伝わるからである。

● 2-3. 人称代名詞（1 格・4 格）

	1 格（～は）	4 格（～を）
私	ich	mich
君	du	dich
彼	er	ihn
彼女	sie	sie
それ	es	es
私たち	wir	uns
あなた（敬称）	Sie	Sie

英語の I / me、he / him、we / us と、完全に同じ発想である。

3. 言い換え練習（Variationen）

● 3-1. 疑問詞を選ぶ

(1) ____ heißen Sie?（お名前は）(2) ____ kommen Sie?（ご出身は）※前置詞とセットで Woher (3) ____ ist Ihre Mutter?（どこに）(4) ____ geht es Ihnen?（ご機嫌は）(5) ____ lernen Sie Deutsch?（なぜ）

● 3-2. 「5 つの W」で相手を知る

隣の人に、次の 5 つを順に尋ねなさい。相手の答えを必ずメモすること。

Wie heißen Sie? / Woher kommen Sie? / Was machen Sie? / Wann haben Sie Zeit? / Warum sind Sie hier?

4. ロールプレイ（Rollenspiel）

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が „Nicht so gut.“ と答える。

あなたは Was ist los? / Warum? / Wie lange schon? を使って、

3 つ以上質問してから、最後に „Ich bete für Sie.“ と言う。

場面 B 相手の家族について尋ねる。Wer / Wo / Wie を使う。

場面 C あなたは一度も自分の話をしてはいけない。相手に 5 分間、質問だけをし続ける。

★ 場面 C が今日の中心課題である。

5 分間、自分のことを一切語らずに、相手を知ろうとし続けられるか。

これができる人が、伝道で最後に信頼される。

5. 伝道メモ —— 語る前に、聴く

伝道がうまくいかないとき、たいていの原因は「話しすぎ」である。教えを知っているほど、伝えたいことが多くなり、相手の話す隙がなくなる。

しかし人は、自分の話を聴いてもらった相手の話しか、本当には聴かない。順番が逆になっているのだ。

大川隆法総裁は、自分のことしか考えない人のありようを、蟻のたとえで説かれた。

「そういうことを知らないということは、ちょうど地面の上を試行錯誤しながら

歩いている蟻のような存在にしか過ぎないということです」

《『悟りの発見』第 3 章「悟りの発見」／3 悟りへのステップ》

蟻は懸命に歩いている。ただ、地面しか見えていない。自分の言いたいことだけを見ている伝道者も、同じ姿になりうる。

今日学んだ疑問詞は、顔を上げて相手を見るための道具である。wer, was, wo, wann, warum, wie —— この 6 語を、教義の言葉より先に、口に馴染ませてほしい。

Was ist los? — Das tut mir leid. — Ich bete für Sie.

この三文だけで、救われる人がいる。

会話 第9回 仲間たちのことを話す

【第9回（前期）】

直前の時間の文法は 第4章「複数形」

この回のねらい

1. 複数形を使って、仲間・人々・本のことを語れる
2. 「一人ではない」ことを伝えて、相手の警戒を解く
3. 複数3格の-nを落とさずに言える

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、あなたの仲間について尋ねる。

Anna: Sind Sie allein hier? JK9-1

ここにはお一人でいらっしゃるのですか。

〈英〉Are you alone here?

Sie: Nein. Wir sind Freunde. Wir sind viele. JK9-2

いいえ。私たちは仲間です。たくさんいます。

〈英〉No. We are friends. We are many.

Anna: Wie viele? JK9-3

どれくらいですか。

Sie: In Deutschland sind wir nicht viele. Aber in Japan sind wir Millionen. JK9-4

ドイツでは多くありません。しかし日本では何百万人もいます。

Anna: Und was machen die Menschen bei Happy Science? JK9-5

幸福の科学の人たちは、何をしていますのですか。

Sie: Wir lesen die Bücher. Wir lernen die Lehren. Wir beten zusammen. JK9-6

私たちは本を読みます。教えを学びます。一緒に祈ります。

〈英〉We read the books. We learn the teachings. We pray together.

Anna: Kennen Sie die Menschen hier? JK9-7

この人たちを知っているのですか。

Sie: Ja. Wir helfen den Menschen. Wir geben den Menschen die Wahrheit. JK9-8

はい。私たちは人々を助けます。人々に真理を与えます。

〈英〉Yes. We help people. We give people the Truth.

Anna: Sie arbeiten wie Ameisen. JK9-9

まるでアリのように働くのですね。

Sie: Ja. Aber manchmal werden wir wie Löwen. JK9-10

はい。しかし、ときにはライオンのようになります。

〈英〉Yes. But sometimes we become like lions.

《アリやハチのように勤勉に生きていただきたい……ときにライオンのようになっていただきたい
——『仕事と愛』第6章》

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 仲間について語る

ドイツ語	日本語
Wir sind Freunde. JK9-11	私たちは仲間です
Wir sind viele. JK9-12	私たちはたくさんいます
Wir lesen die Bücher. JK9-13	私たちは本を読みます
Wir lernen die Lehren. JK9-14	私たちは教えを学びます
Wir helfen den Menschen. JK9-15	私たちは人々を助けます
Wir beten zusammen. JK9-16	私たちは一緒に祈ります

● 2-2. 伝道でよく使う複数形

単数	複数	日本語
der Mensch	die Menschen	人／人々
das Buch	die Bücher	本
die Lehre	die Lehren	教え
der Freund	die Freunde	友・仲間

単数	複数	日本語
das Kind	die Kinder	子ども
die Ameise	die Ameisen	アリ
der Löwe	die Löwen	ライオン
der Tempel	die Tempel	支部

★ 複数の定冠詞は、性を問わず **die**。ここは覚えることが減る、ありがたい規則である。

● 2-3. 複数 3 格の -n を忘れない

ドイツ語	日本語
Wir helfen den Menschen .	私たちは人々を助けます
Wir geben den Kindern die Liebe.	私たちは子どもたちに愛を与えます

★ 複数 3 格では、名詞の側にも -n が付く。
die Kinder → *den Kindern* 英語にはまったく対応する現象がない。
 ここは意識して練習しないと、必ず落ちる。

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) Wir lesen ____ Bücher. (die) (2) Wir helfen ____ Menschen. (den) (3) Gott gibt ____ Kindern die Liebe. (den) (4) ____ Lehren sind die Wahrheit. (Die)

● 3-1. 「私たち」で語る

次の型で、自分の所属する場のことを 3 文で言いなさい。

Wir sind _____. Wir _____ zusammen. Wir helfen _____.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が „Sind Sie allein?“ と尋ねる。

あなたは „Nein. Wir sind viele.“ から始めて、仲間のことを 3 文語る。

場面 B 相手が „Was machen Sie zusammen?“ と尋ねる。

Wir lesen ... / Wir lernen ... / Wir beten ... と 3 つ挙げる。

場面 C 相手が „Ich habe keine Freunde.“ (友達がいません) と言う。

あなたは „Sie sind nicht allein.“ (あなたは一人ではありません) と答える。

★ 場面 C のために、この回はある。
 孤独な人に届く最初の言葉は、教義ではなく「あなたは一人ではない」である。

5. 伝道メモ —— アリのように、ときにライオンのように

『仕事と愛』第 6 章で、大川隆法総裁はこう説かれている。

「私は、大多数の人々には、アリやハチのように勤勉に生きていただきたいと思います。幸福の科学の仏法真理に触れて目覚めた人に対しては、ときにライオンのようになっていただきたいと思います」

《『仕事と愛』第 6 章「休日の効果」》

この二つは矛盾しない。日々の努力はアリのように地道に、しかし真理を語るべきときには、ライオンのように堂々と。
 公式ドイツ語版の『秘密の法』にも、こうある。

„Löwen stehen zum Beispiel für Mut.“
 たとえばライオンは、勇気を表します。

複数形は、「私」から「私たち」へ視野を広げる形である。伝道は個人技のようでいて、実は集団の営みである。一人が語り、一人が祈り、一人が支える——その総和として、人は救われていく。

Wir sind viele. Wir arbeiten wie Ameisen. Aber manchmal werden wir wie Löwen.

会話 第10回 この本、この教え

【第10回（前期）】

直前の時間の文法は 第5章①「dieser・welcher・jeder」

この回のねらい

1. dieser を使って、目の前のものを指し示せる
2. welcher で選択肢を示し、相手に選ばせられる
3. jeder で「どの人にも」という普遍性を語れる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：あなたは経典を数冊持っている。アンナさんに見せる。

Sie: Dieses Buch ist für Anfänger. JK10-1

この本は、初めての方のためのものです。

〈英〉 This book is for beginners.

Anna: Und dieses Buch? JK10-2

では、こちらの本は？

Sie: Dieses Buch ist tiefer. Es heißt „Das Gesetz der Sonne“. JK10-3

こちらはもっと深い本です。『太陽の法』といいます。

Anna: Welches Buch empfehlen Sie? JK10-4

どちらの本をお勧めしますか。

〈英〉 Which book do you recommend?

Sie: Dieses hier. Es ist kurz und klar. JK10-5

こちらです。短くて分かりやすいです。

Anna: Für wen ist diese Lehre? JK10-6

この教えは、どういう人のためのものですか。

Sie: Diese Lehre ist für jeden Menschen. Jedes Herz ist ein Feld. JK10-7

この教えは、どの人のためのものです。どの心も畑なのです。

〈英〉 This teaching is for every person. Every heart is a field.

Anna: Auch ich? JK10-8

私もですか。

Sie: Ja. Jeder Mensch ist ein Kind Gottes. JK10-9

はい。どの人も神の子です。

〈英〉 Yes. Every person is a child of God.

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 指し示す・選ばせる・普遍化する

ドイツ語	日本語	英語
dieser / diese / dieses JK10-10	この	this
welcher / welche / welches JK10-11	どの	which
jeder / jede / jedes JK10-12	どの～も	every / each

ドイツ語	日本語
Dieses Buch ist für Anfänger. JK10-1	この本は初心者向けです
Welches Buch empfehlen Sie? JK10-4	どの本をお勧めですか
Jeder Mensch ist ein Kind Gottes. JK10-13	どの人も神の子です
Jedes Herz ist ein Feld. JK10-14	どの心も畑です

★意味は英語とまったく同じ。違うのは格変化することだけである。

語尾は定冠詞（der / die / das）とほぼ同じ形になる。

● 2-2. 経典のドイツ語書名（一部）

日本語	ドイツ語（公式）
『太陽の法』	Das Gesetz der Sonne
『黄金の法』	Das Goldene Gesetz
『青銅の法』	Das Gesetz der Bronze

日本語	ドイツ語（公式）
『鋼鉄の法』	Das Gesetz des Stahls
『正義の法』	Das Gesetz der Gerechtigkeit
『信仰の法』	Das Gesetz des Glaubens
『希望の法』	Das Gesetz der Hoffnung
『成功の法』	Das Gesetz des Erfolgs
『秘密の法』	Das Gesetz des Geheimnisses
『地獄の法』	Das Gesetz der Hölle
『メシアの法』	Das Gesetz Des Messias
『永遠の法』	Der Aufstieg durch die Dimensionen
『幸福の法』	Die Happiness-Prinzipien
『釈迦の法』	Die Essenz des Buddha
『不動心』	Die unerschütterliche Gesinnung
『常勝思考』	Der unbesiegbare Gedanke
『新復活』	Die neue Auferstehung
『瞑想の極意』	Das Wunder der Meditation
『反省の手引き』	Anleitung zur Selbstreflexion

★書名の「～の」は2格（属格）で受ける。

der Sonne（女性2格）／des Stahls（男性2格）／des Glaubens（男性2格）。

『メシアの法』だけは Des が大文字（Das Gesetz Des Messias）。この書名だけの約束。

なお、書名ではない一般の言い方——「因果の理法」——は

das Gesetz von Ursache und Wirkung と von で受ける。混ぜないこと。

書名は自分で訳さず、必ず公式版の現物で確かめる（巻末付録7 §5-1 に一覧）。

公式ドイツ語版の das Gesetz von Ursache und Wirkung（因果の理法）と同じ形である。

von は3格支配なので、名詞に応じて書き分ける。

・抽象名詞・物質名詞... 冠詞なし（von Gerechtigkeit, von Stahl）

・冠詞が要る名詞... von der ... / vom ...（von der Sonne, vom Messias）

★書名を自分で訳してはならない。

「～の法」の形をとらない書名もある。

『永遠の法』は Der Aufstieg durch die Dimensionen（次元を貫く上昇）、

『幸福の法』は Die Happiness-Prinzipien、

『黄金の法』は Das Goldene Gesetz（The Golden Laws＝形容詞の形）である。

迷ったら必ず、公式ドイツ語版の現物で確認すること。

※ なお、現在流通している独語版の表紙は2格（Das Gesetz der Sonne 等）で刷られている。

本書は上記の方針に統一しているが、実物を手に取るときは表紙の表記が異なることに留意すること。

3. 言い換え練習（Variationen）

(1) ____ Buch ist gut. (Dieses) (2) ____ Lehre ist wichtig. (Diese) (3) ____ Mensch sucht die Wahrheit. (Jeder) (4) ____ Buch empfehlen Sie? (Welches)

● 3-1. 3冊を勧め分ける

3冊の本を想定し、それぞれ1文で説明しなさい。

Dieses Buch ist ____. Dieses Buch ist ____. Und dieses Buch ist ____.

例：für Anfänger（初心者向け）／kurz（短い）／tief（深い）／sehr wichtig（とても大切）

4. ロールプレイ（Rollenspiel）

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 机に3冊置き、相手に „Welches Buch empfehlen Sie?“ と尋ねさせる。

あなたは相手の様子を見て1冊を選び、理由を1文添える。

場面 B 相手が „Diese Lehre ist nicht für mich.“（この教えは私向きではない）と言う。

あなたは „Jeder Mensch ist ein Kind Gottes.“ と答える。

場面 C 相手に本を1冊差し上げる。„Dieses Buch ist für Sie.“ と言って渡す。

5. 伝道メモ —— 「どの人も」と言えるか

jeder（どの人も）という語は、短いが重い。これを本気で言えるかどうかで、伝道の質が変わる。

人は無意識のうちに、伝える相手を選んでいる。話が通じそうな人、教養のありそうな人、感じの良い人。しかし教えは、そういう選別の上に成り立ってはいない。

„Jeder Mensch ist ein Kind Gottes.“

どの人も、神の子です。

公式ドイツ語版經典でも、**Kinder Gottes**（神の子）という表現が繰り返し用いられている。神の側から見れば、選別はない。太陽が照らす相手を選ばないのと同じである。

そしてもう一つ。„Jedes Herz ist ein Feld.“ “どの心も畑である以上、荒れて見える心も、耕せば実る畑なのだ。いま話が通じないことと、その人の畑が痩せていることとは、まったく別のことである。

この回で学んだ *jeder* を、単なる文法事項で終わらせないでほしい。「どの人も」と、心から言えるようになること。それが今日の本当の課題である。

コラム 外国語を学ぶ意味——人生を二度生きる

ドイツ語で經典の言葉を紹介できるようになってきた。ここで、**なぜ言語を学ぶのか**という、いちばん大きな話をしておきたい。

「母国語以外の言語を知っている」ということには、人生を二度生きるような意味があります。

《『青春の原点』第1章「ヤング・ブッダを目指して」／3 外国語を学ぶ意味》

「もう一つの言語に通じる」ということは、「その言語を使ってきた人たちの人生観や文化を学ぶ」ということなので、転生輪廻をしなくとも、生きながらにして、もう一つ別の人生についての研究ができることになります。

《『青春の原点』第1章「ヤング・ブッダを目指して」／3 外国語を学ぶ意味》

そして、そこで得られるものは「単語の数」ではない。

そのようにして得られる認識力、異質な目というものが、また、役に立ちます。

《『青春の原点』第1章「ヤング・ブッダを目指して」／3 外国語を学ぶ意味》

母国語だけで考えているときには、「これは当然の常識であり、こうでなければいけない」と思うことでも、異質な言語を学び、ほかのことをいろいろと勉強してから見てみると、少し違った感じに見えてくることがあります。

《『青春の原点』第1章「ヤング・ブッダを目指して」／3 外国語を学ぶ意味》

総裁は、その効用をこうまとめておられる。

しかし、努力して外国語をマスターすると、人生の密度が濃くなってきます。また、自分自身を知ることができますし、「他人を知り、社会を知る」という意味で、よい経験になることがあります。

《『青春の原点』第1章「ヤング・ブッダを目指して」／3 外国語を学ぶ意味》

★伝道は、「教える」ことではなく「相手の側に立つ」ことである。

ドイツ語を学ぶとは、ドイツ語で生きてきた人の見え方を、自分のなかに一つ増やすこと。

相手の言葉で語れる人だけが、相手の心の中まで届けられる。

あなたが *Guten Tag!* と言えるようになった日、

あなたの人生はすでに二度目に入っている。

会話 第11回 私の使命、あなたの幸福

【第11回（前期）】

直前の時間の文法は 第5章②「所有冠詞・否定冠詞 kein」

この回のねらい

1. 所有冠詞を使って、「私の」「あなたの」を語れる
2. kein を使って、やわらかく否定できる
3. 「使命」という言葉を、自分の言葉として口にできる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、あなたの動機をもう一步深く尋ねる。

Anna: Warum machen Sie das? Ist das Ihre Arbeit? JK11-1

なぜそんなことを？ それがお仕事なのですか。

〈英〉Why do you do this? Is this your job?

Sie: Nein, das ist keine Arbeit. Das ist meine Mission. JK11-2

いいえ、これは仕事ではありません。私の使命です。

〈英〉No, this is not a job. This is my mission.

Anna: Ihre Mission? JK11-3

あなたの使命？

Sie: Ja. Jeder Mensch hat seine Mission. JK11-4

はい。どの人にも、その人の使命があります。

〈英〉Yes. Every person has his mission.

Anna: Ich habe keine Mission. Ich habe nur meine Arbeit. JK11-5

私に使命なんてありません。あるのは仕事だけです。

Sie: Ihre Arbeit ist auch Ihre Mission. Sie helfen den Menschen. JK11-6

あなたのお仕事も、あなたの使命です。人々を助けておられるのですから。

〈英〉Your work is also your mission. You help people.

Anna: Das ist neu für mich. JK11-7

それは、私には新しい考えです。

〈英〉That is new to me.

Sie: Ihr Glück ist auch mein Glück. JK11-8

あなたの幸福は、私の幸福でもあります。

〈英〉Your happiness is also my happiness.

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 所有冠詞

ドイツ語	日本語
mein	私の
dein	君の
sein	彼の
ihr	彼女の・彼らの
unser JK11-9	私たちの
Ihr	あなたの（敬称・大文字）

ドイツ語	日本語
Das ist meine Mission. JK11-10	それが私の使命です
Jeder Mensch hat seine Mission. JK11-11	どの人にも使命があります
Ihr Glück ist auch mein Glück. JK11-8	あなたの幸福は私の幸福でもあります
Unser Glaube gibt uns Kraft. JK11-12	私たちの信仰が力を与えてくれます

★ 英語の my は形が変わらないが、ドイツ語の mein は変わる。

mein Vater / meine Mutter / mein Kind / meine Freunde

後ろの名詞の性・数・格に合わせること。

● 2-2. kein でやわらかく否定する

ドイツ語	日本語
Das ist keine Arbeit. JK11-13	これは仕事ではありません
Ich habe keine Zeit. JK11-14	時間がありません
Das ist kein Problem. JK11-15	問題ありません
Ich habe keine Angst. JK11-16	私は恐れていません

★ 英語の *no* (+名詞) とまったく同じ作り方である。

英 *none* = **ne** (～でない) + **one** (ひとつ)

独 *kein* = **ne** (～でない) + **ein** (ひとつ)

I have no time. と言える人は、*Ich habe keine Zeit.* の発想をすでに知っている。

● 2-3. 使命をめぐる語 (公式訳)

日本語	ドイツ語 (公式)
使命	die Mission
伝道	die Missionsarbeit
伝道者	der Missionar
信仰	der Glaube
徳	die Tugend

3. 言い換え練習 (Variationen)

- (1) Das ist ____ Mission. (meine) (2) ____ Vater ist streng. (Mein) (3) ____ Mutter ist freundlich. (Meine) (4) Ich habe ____ Zeit. (keine)
 (5) Das ist ____ Problem. (kein)

● 3-1. 「私の使命」を 3 文で

Meine Mission ist _____. Ich _____ jeden Tag. Ihr Glück ist auch mein Glück.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が „Ist das Ihre Arbeit?“ と尋ねる。

„Nein, das ist keine Arbeit. Das ist meine Mission.“ と答え、理由を 1 文添える。

場面 B 相手が „Ich habe keine Zeit.“ と断る。

あなたは „Kein Problem.“ と受け、 „Wann haben Sie Zeit?“ と次につなぐ。

場面 C 相手が „Ich habe keine Mission.“ と言う。

あなたは相手の仕事や役割を尋ねてから、

„Das ist auch Ihre Mission.“ と伝える。

★ 場面 B の „Kein Problem.“ を身につけること。

断りを「拒絶」と受け取らず「今日は都合が悪いだけ」と受け取れる人が、次に会える。

5. 伝道メモ —— 使命は、与えられている

「使命」という言葉を、多くの人は特別なものだと思っている。だから „Ich habe keine Mission.“ (私に使命などない) という答えが返ってくる。

しかし教では、使命は選ばれた人だけのものではない。どの人も、この世に生まれてきた以上、果たすべき何かを持って来ている、と説かれている。

この回で学んだ **jeder + 所有冠詞** の組み合わせは、それを言うための形である。

„Jeder Mensch hat seine Mission.“

どの人にも、その人の使命がある。

伝道の間では、相手の使命を **こちらが決めない** ことが大切である。「あなたの使命はこれだ」と言うのではなく、「あなたがいまなさっていることは、すでに使命ではありませんか」と問い返す。

そして最後に、この一文を置く。

„Ihr Glück ist auch mein Glück.“

あなたの幸福は、私の幸福でもあります。

これは社交辞令ではない。自利利他 —— 公式ドイツ語訳では „Gutes für dich selbst bringt Gutes für die anderen.“ —— という教えそのものである。

◆ 学ぶことば

「釈尊が現実の説法で使っていたとされる聖句を英文で読むのは、国際伝道師を目指す者にとってはたまらない喜びだろう」
《『黒帯英語四段②』まえがき》

会話 第 12 回 相手の変化に寄り添う

【第 12 回（前期）】

直前の時間の文法は 対策学習編 2「不規則変化動詞・werden」

この回のねらい

1. werden を使って「～になる」という変化を語れる
2. sprechen・sehen・geben など不規則動詞を、du・er で正しく言える
3. 人は変われる、という希望を言葉で示せる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、自分は変われなと感じている。

Anna: Ich bin nicht stark. Ich werde nie stark. JK12-1

私は強くありません。強くなんてなれません。

〈英〉I am not strong. I will never become strong.

Sie: Sie sind schon stark. Sie sprechen mit mir. JK12-2

あなたはもう強いです。私と話しておられるのですから。

Anna: Das ist nichts. JK12-3

そんなの、何でもありません。

Sie: Doch. Der Mensch wird stark wie ein Löwe. JK12-4

いいえ。人はライオンのように強くなるのです。

〈英〉Yes. A person becomes strong like a lion.

《ときにライオンのようになっていたきたい——『仕事と愛』第 6 章》

Anna: Wie wird man stark? JK12-5

どうしたら強くなれるのですか。

Sie: Man sieht das Licht. Man gibt es weiter. JK12-6

光を見えるのです。そしてそれを人に伝えるのです。

〈英〉One sees the light. One passes it on.

Anna: Und dann? JK12-7

それから？

Sie: Dann wird das Herz stark. Langsam. Wie ein Baum. JK12-8

そうすれば心は強くなります。ゆっくりと。木のように。

〈英〉Then the heart becomes strong. Slowly. Like a tree.

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. werden —— 英語の 3 語ぶんを 1 語で

用法	ドイツ語	英語
～になる	Er wird stark.	He becomes strong.
未来	Er wird kommen.	He will come.
受動	Er wird gerettet.	He is saved.

主語	werden
ich	werde
du	wirst
er / sie / es	wird
wir / Sie	werden

ドイツ語	日本語
Der Mensch wird stark. JK12-9	人は強くなります
Sie werden glücklich. JK12-10	あなたは幸福になります
Das Herz wird rein. JK12-11	心は清らかになります
Wir werden Missionare. JK12-12	私たちは伝道者になります

★ 職業・身分を言うとき、ドイツ語は冠詞を付けない。

○ Er wird Lehrer. × Er wird ein Lehrer. 英語の a teacher とはここが違う。

● 2-2. 不規則変化動詞 —— du と er だけ母音が変わる

不定詞	du	er / sie / es	日本語
sprechen	sprichst	spricht	話す
geben	gibst	gibt	与える
sehen	siehst	sieht	見る
helfen	hilfst	hilft	助ける
lesen	liest	liest	読む
fahren	fährst	fährt	(乗り物で) 行く
tragen	trägst	trägt	運ぶ・担う

★ 英語は現在形で母音が変わらない (you speak / he speaks)。
ドイツ語は **du** と **er** のときだけ変わる。ここは意識しないと必ず落ちる。

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) Du ____ mit Mut. (sprichst) (2) Er ____ das Licht. (sieht) (3) Sie ____ den Menschen. (hilft) (4) Der Mensch ____ stark. (wird) (5) Wir ____ Missionare. (werden)

● 3-1. 「あなたは～になれます」

相手を励ます文を、3つ作りなさい。

Sie werden ____.

例: stark (強く) / glücklich (幸福に) / frei (自由に) / ruhig (穏やかに)

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が „Ich werde nie stark.“ と言う。

あなたは否定せず、„Sie sind schon stark.“ から始めて励ます。

場面 B 相手が „Wie wird man glücklich?“ と尋ねる。

Man sieht ... / Man gibt ... / Man betet ... と、動詞で答える。

場面 C 相手の「変わったところ」を一つ見つけて、

„Sie werden ____.“ と言葉にして伝える。

★ 場面 C を軽く見ないこと。

人は、自分の変化に自分では気づけない。

変化を見つけて言葉にしてあげることが、それ自体が大きな贈り物である。

5. 伝道メモ —— 人は「なる」ものである

werden という動詞は、ドイツ語のなかでもとりわけ希望に満ちた語である。「～である (sein)」が固定した状態を表すのに対し、**werden** は変化を表す。

教えの根本には、「人は変わる」という確信がある。いまの姿がその人の全部ではない。魂は修行の途上にあり、必ず伸びていく。

大川隆法総裁は、若き日の歩みを「**亀のごとく**」と表現された。ドイツ語版でも „Wie eine Schildkröte“ とそのまま訳されている。速さではなく、やめないこと。変化は、遅くとも確実に起きる。

„Der Mensch wird stark wie ein Löwe.“

人は、ライオンのように強くなる。

注意してほしいのは、„Der Mensch ist stark“ (人は強い) ではないことである。ist ではなく **wird**。強いのではなく、**強く**なる。

伝道において、目の前の人が弱く見えたとしても、それは現在の姿にすぎない。あなたが見るべきは、その人がこれから何になるかである。

Sie sind schon stark. Und Sie werden stark wie ein Löwe.

会話 第13回 支部・精舎へお誘いする

【第13回（前期）】

直前の時間の文法は 第6章「前置詞（3格支配・4格支配・3・4格支配）」

この回のねらい

1. 前置詞を使って、場所と方向を正確に言える
2. 相手を支部・精舎に具体的に誘える
3. 「どこで」と「どこへ」を、格で言い分けられる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：あなたはアンナさんを、支部の集まりに誘う。

Sie: Am Sonntag gehen wir in den Tempel. Kommen Sie mit? JK13-1

日曜日に支部へ行きます。ご一緒しませんか。

〈英〉 On Sunday we go to the temple. Will you come along?

Anna: In den Tempel? Wo ist der Tempel? JK13-2

支部へ？ 支部はどこにあるのですか。

Sie: Er ist in der Stadt, neben dem Bahnhof. JK13-3

街のなか、駅の隣にあります。

〈英〉 It is in the city, next to the station.

Anna: Und was machen Sie dort? JK13-4

そこで何をなさるのですか。

Sie: Wir beten. Wir lernen aus den Büchern. Wir sprechen mit den Freunden. JK13-5

祈ります。本から学びます。仲間と話します。

〈英〉 We pray. We learn from the books. We talk with friends.

Anna: Ist das nur für Mitglieder? JK13-6

会員だけのものですか。

Sie: Nein. Der Tempel ist für alle Menschen. JK13-7

いいえ。支部はすべての人のためにあります。

〈英〉 No. The temple is for all people.

Anna: Vielleicht komme ich mit. JK13-8

もしかしたら、ご一緒するかもしれません。

Sie: Das freut mich. Wir warten auf Sie. JK13-9

うれしいです。お待ちしております。

〈英〉 That makes me glad. We are waiting for you.

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 誘う

ドイツ語	日本語
Kommen Sie mit? JK13-10	ご一緒しませんか
Wir gehen in den Tempel. JK13-11	私たちは支部へ行きます
Der Tempel ist für alle Menschen. JK13-12	支部はすべての人のためにあります
Wir warten auf Sie. JK13-13	お待ちしております
Das freut mich. JK13-14	うれしいです

● 2-2. 施設の名前（公式訳）

日本語	ドイツ語（公式）
支部	der Tempel
精舎	das Shoja
総本山	der Haupttempel
拠点	der Stützpunkt für die Missionsarbeit
祈願	das Kigan

★「支部」を *Zweig*（枝）などと直訳してはならない。公式訳は **der Tempel** である。

● 2-3. 「どこで」と「どこへ」

同じ前置詞でも、**動きがあるかどうか**で格が変わる。

ドイツ語	格	日本語
Ich bin im Tempel. (in dem)	3 格	私は支部に います
Ich gehe in den Tempel.	4 格	私は支部へ 行きます

英語は *in the temple / into the temple* と前置詞を変えて区別する。ドイツ語は**格を変えて**区別する。同じことを、違う道具でやっているだけである。

● 2-4. 格支配のまとめ

支配	前置詞
3 格	mit, von, zu, aus, bei, nach, seit
4 格	für, durch, ohne, gegen, um
3・4 格	in, an, auf, über, unter, vor, hinter, neben, zwischen

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) Wir gehen ____ Tempel. (in den) (2) Wir sind ____ Tempel. (im) (3) Der Tempel ist ____ Bahnhof. (neben dem) (4) Wir lernen ____ Büchern. (aus den) (5) Wir sprechen ____ Freunden. (mit den)

● 3-1. 場所を説明する

自分の支部・精舎の場所を、3文で説明しなさい。

Der Tempel ist in _____. Er ist neben _____. Wir gehen am _____ dorthin.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手を支部に誘う。日時・場所・そこで何をするかを、それぞれ1文で伝える。

場面 B 相手が „Wo ist der Tempel?“ と尋ねる。

in / neben / bei を使って道順を説明する。

場面 C 相手が „Ist das nur für Mitglieder?“ と警戒する。

„Der Tempel ist für alle Menschen.“ と答え、

„Kein Problem, wenn Sie nur einmal kommen.“ (一度だけでも構いません) と添える。

★誘うときは、必ず日時と場所を具体的に言うこと。

「いつか来てください」では、人は永遠に来ない。

„Am Sonntag um zehn Uhr.“ ——具体的であることが、親切である。

5. 伝道メモ —— 湖のような心で待つ

人を誘うとき、こちらの熱心さが強すぎると、相手は身を引く。逆に、こちらが静かであれば、相手は自分の速さで近づいてくる。

大川隆法総裁は、心の平静について、湖と海のたとえを説かれた。

「内なる自分のなかに、満々と水をたたえた湖のような心、あるいは、穏やかな春の海のような心を持ち続ける」

《『漏尽通力』第6章「心の平静と祈り」／2 平坦なる道》

湖は、こちらから走り寄ってはこない。ただ、そこに在る。そして、渴いた人が自分の足で来たとき、静かに水を与える。この回で学んだ**3 格(どこで・在る)**と**4 格(どこへ・向かう)**の区別は、そのまま伝道の呼吸に重なる。**自分は3 格で在り、相手が4 格で来られるようにする。**

In meinem Herzen ist ein See. Der Tempel ist für alle Menschen. Wir warten auf Sie.

会話 第 14 回 気持ちを言葉にする

【第 14 回（前期）】

直前の時間の文法は 第 7 章「人称代名詞・再帰代名詞」

この回のねらい

1. 再帰動詞を使って、自分の感情を正確に語れる
2. 相手の気持ちを言葉にして返せる
3. 「鏡」のたとえを通して、自分を見つめる姿勢を学ぶ

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、初めて自分の内面を話しはじめる。

Anna: Ich fühle mich oft allein. JK14-1

私はよく、孤独を感じます。

〈英〉I often feel alone.

Sie: Das verstehe ich. Ich fühle mich auch manchmal allein. JK14-2

分かります。私も時々、孤独を感じます。

Anna: Wirklich? Sie wirken so ruhig. JK14-3

本当ですか。あなたはとても穏やかに見えます。

Sie: Ich freue mich jetzt. Aber früher nicht. JK14-4

いまは喜びのなかにいます。でも以前は違いました。

〈英〉I am glad now. But not before.

Anna: Was ist anders? JK14-5

何が違うのですか。

〈英〉What is different?

Sie: Ich interessiere mich für die Wahrheit. Und ich erinnere mich jeden Tag an Gott. JK14-6

私は真理に関心を持つようになりました。そして毎日、神を思い出しています。

〈英〉I am interested in the Truth. And I remember God every day.

Anna: Wie machen Sie das? JK14-7

どうやって？

Sie: Ich setze mich. Ich schließe die Augen. Ich sehe mich selbst. JK14-8

座ります。目を閉じます。自分自身を見つめます。

〈英〉I sit down. I close my eyes. I see myself.

Sie: Der Mensch sieht sich im Wasser wie in einem Spiegel. J7-14

人は、水面に映る自分を、鏡を見るように見るのです。

《池のなかを覗いて、その水面に、鏡のごとく映っているわが姿を見て、自分だと思っている

——『伝道の法』あなたに贈る言葉①》

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 気持ちを語る再帰動詞

ドイツ語	日本語	英語
Ich freue mich. JK14-10	私は喜んでいます	I am glad.
Ich fühle mich allein. JK14-11	私は孤独を感じます	I feel alone.
Ich interessiere mich für ...	私は.....に関心があります	I am interested in ...
Ich erinnere mich an ...	私は.....を思い出します	I remember ...
Ich setze mich. JK14-12	私は座ります	I sit down.
Ich freue mich auf Sie. JK14-13	お会いするのを楽しみにしています	I look forward to seeing you.

★ 再帰代名詞は省略できない。

× Ich freue. は文として成立しない。mich がなければ意味をなさない。

英語では glad（形容詞）、remember（動詞）と、まったく別の語で表すところを、ドイツ語は「動詞＋自分自身」という形で表す。

● 2-2. 相手の気持ちを受けとめる

ドイツ語	日本語
Das verstehe ich. JK14-14	分かります
Das tut mir leid. JK8-12	それはお気の毒に

ドイツ語	日本語
Ich fühle mit Ihnen. JK14-16	お気持ちを察します
Sie sind nicht allein. JK14-17	あなたは一人ではありません
Ich denke an Sie. JK8-15	あなたのことを思っています

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) Ich freue ____ über die Wahrheit. (mich) (2) Ich interessiere ____ für die Lehre. (mich) (3) Er erinnert ____ an Gott. (sich) (4) Wir freuen ____ auf den Sonntag. (uns) (5) Setzen Sie ____, bitte. (sich)

● 3-1. 「私はこう感じています」

いまの自分の気持ちを、3文で言いなさい。

Ich fühle mich ____. Ich freue mich über ____. Ich interessiere mich für ____.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が „Ich fühle mich oft allein.“ と打ち明ける。

あなたは „Das verstehe ich.“ と受け、自分の過去の孤独を1文語る。

場面 B 相手が „Was ist anders?“ と尋ねる。

あなたは再帰動詞を3つ使って答える。

場面 C 相手の気持ちを言葉にして返す練習。

相手が話し終わったら、„Sie fühlen sich ____, nicht wahr?“ (～と感じておられるのですね) と確認する。

★ 場面 C は、伝道の中核技術である。

人は、自分の気持ちを他人の口から正確に言い当てられたとき、初めて「この人は分かってくれる」と感じる。教義は、その後でよい。

5. 伝道メモ —— 水面に映る自分を見る

『伝道の法』には、この世の見え方について、次のたとえが説かれている。

「あなたがたが、その目でもって見ている、この世の世界というものは、ちょうど、『池のなかを覗いて、その水面に、鏡のごとく映っているわが姿を見て、自分だと思っている』のと、同じなのである」

《『伝道の法』あなたに贈る言葉①「真実の世界に目覚めよ」》

水面に映った姿は、たしかに自分に似ている。しかし、それは自分そのものではない。

この回で学んだ再帰動詞は、まさに「自分に向かう動詞」である。 *sich sehen* (自分を見る)、*sich erinnern* (自分に思い出させる)、*sich freuen* (自分を喜ばせる)。

伝道者は、人に向かう前に、まず自分に向かわなければならない。自分の心が濁っていれば、映る像も濁る。

公式ドイツ語版の『地獄の法』には、こうある。

„Bitte bemühen Sie sich ..., Ihren Geist zu reinigen und ihn so klar wie einen Spiegel zu machen.“
心を清め、鏡のように澄んだものにするよう努めてください。

この一文にも *sich bemühen* (努める) という再帰動詞が使われている。努力もまた、自分自身へ向かう営みなのである。

Ich sehe mich selbst. Dann sehe ich Sie.

(まず自分自身を見る。そうして初めて、あなたが見える。)

会話 第15回 前期発表 ― 3分間の伝道スピーチ

【第15回（前期）】

直前の時間の文法は 前期のまとめと試験

この回のねらい

1. 前期14回で学んだ表現だけで、3分間話し続けられる
2. 自分の言葉で、信仰と幸福の科学を人に伝えられる
3. 人前で、はっきりと信仰を語る度胸をつける

1. 課題

一人3分間。ドイツ語のみで、次の内容を話す。

順	内容	使う表現
①	あいさつ・自己紹介	Guten Tag! Ich heie ...
②	出身・学んでいること	Ich komme aus ... / Ich lerne ...
③	幸福の科学とは何か	Happy Science ist ...
④	四正道	Liebe, Weisheit, Selbstreflexion und Fortschritt
⑤	神とは	Gott ist ...
⑥	心とは（たとえを使う）	Das Herz ist wie ...
⑦	自分の実践	Ich bete ... / Ich lerne ... / Ich danke ...
⑧	使命	Das ist meine Mission.
⑨	誘い	Kommen Sie mit? / Wir warten auf Sie.
⑩	締め	Ihr Glck ist auch mein Glck.

2. 模範例（Muster）

次は一つの例である。そのまま暗記するのではなく、自分の言葉に置き換えること。

Guten Tag! Ich heie Yuki Sato. Ich komme aus Japan. Ich lerne Deutsch. JK15-1

こんにちは。佐藤ユキと申します。日本から来ました。ドイツ語を学んでいます。

Ich lerne Deutsch fr die Wahrheit. JK4-2

私は真理のためにドイツ語を学んでいます。

Ich bin Mitglied von Happy Science. Happy Science ist eine Religion aus Japan. JK15-3

私は幸福の科学の会員です。幸福の科学は日本から生まれた宗教です。

Der Grnder heit Ryuho Okawa. Wir glauben an Gott El Cantare. JK15-4

創始者は大川隆法といいます。私たちは主エル・カンターレを信仰しています。

Wir lernen vier Dinge: Liebe, Weisheit, Selbstreflexion und Fortschritt. JK15-5

私たちは四つのことを学びます。愛・知・反省・発展です。

Gott ist Liebe. Gott ist Licht. Gott gibt Liebe wie die Sonne. JK15-6

神は愛です。神は光です。神は太陽のように愛を与えます。

Die Sonne scheint fr alle. Sie fragt nicht. JK5-7

太陽はすべての人を照らします。太陽は問いません。

Das Herz ist wie ein Feld. Ein Feld braucht Arbeit. JK15-8

心は畑のようなものです。畑には手入れが必要です。

Ich bete jeden Tag. Ich lerne die Lehre. Ich danke Gott. JK15-9

私は毎日祈ります。教えを学びます。神に感謝します。

Das ist keine Arbeit. Das ist meine Mission. JK15-10

これは仕事ではありません。私の使命です。

Jeder Mensch ist ein Kind Gottes. Jedes Herz ist ein Feld. JK15-11

どの人も神の子です。どの心も畑です。

Am Sonntag gehen wir in den Tempel. Kommen Sie mit? Wir warten auf Sie. JK15-12

日曜日に支部へ行きます。一緒にしませんか。お待ちしています。

Ihr Glck ist auch mein Glck. Vielen Dank! JK15-13

あなたの幸福は、私の幸福でもあります。ありがとうございました。

3. 準備の手順

1. 日本語で書かない。最初からドイツ語で、短い文を並べる。
2. 一文を短くする。主語＋動詞＋目的語。それ以上は望まない。
3. たとえを必ず一つ入れる。抽象論だけの話は、誰の心にも残らない。
4. 声に出して10回読む。目で覚えた文は、人前では出てこない。
5. 原稿を見ないで話す。つかえてもよい。顔を上げていることのほうが大事である。

4. 評価の観点

観点	配点	見るところ
内容	30%	上の①～⑩が入っているか
正確さ	20%	定動詞第2位・格・動詞の語尾
発音	20%	W・V・Z・J・Sの5点が直っているか
態度	20%	顔を上げているか。声が届いているか
たとえ	10%	自分の言葉でたとえを語れているか

★「正確さ」より「態度」の配点と同じであることに注意してほしい。

完璧なドイツ語をうつつむいて話す人より、つたないドイツ語で相手の目を見て話す人のほうが、伝道では強い。

5. 伝道メモ ― 前期を終えるあなたへ

半年前、あなたはドイツ語で「こんにちは」も言えなかった。いま、あなたは3分間、信仰について語れる。

これは小さなことではない。あなたが救える人の範囲が、半年で3分ぶん広がったということである。

大川隆法総裁は、若き日の歩みを「亀のごとく」と語られた。ドイツ語版の『若き日のエル・カンターレ』でも、その章はこう題されている。

„Wie eine Schildkröte“

亀は速くない。しかし、止まらない。

後期になれば、あなたは過去を語れるようになる。理由を語れるようになる。「もし～なら」と仮定を語れるようになる。つまり――自分の人生を、人に語れるようになる。

伝道の言葉は、そこから本当に始まる。

Ich bin wie eine Schildkröte. Aber ich gehe jeden Tag.

(私は亀のようです。しかし、毎日歩いています。)

会話 第16回 「できます」「すべきです」を伝える

【第16回（後期）】

直前の時間の文法は 第8章「話法の助動詞・未来形・枠構造」

この回のねらい

1. 話法の助動詞を使って、可能性と勧めを伝えられる
2. 枠構造を守って、長い文を最後まで組み立てられる
3. 「～しなければならない」と「～してはいけない」を取り違えない

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが「自分にできるだろうか」と迷っている。

Anna: Ich möchte kommen. Aber ich kann nicht gut Deutsch beten. JK16-1

行きたいのですが、ドイツ語でうまく祈れません。

〈英〉 I would like to come. But I cannot pray well in German.

Sie: Sie müssen nicht perfekt beten. Sie können einfach da sein. JK16-2

完璧に祈る必要はありません。ただそこにいらっしゃればいいのです。

〈英〉 You do not have to pray perfectly. You can simply be there.

Anna: Darf ich wirklich kommen? JK16-3

本当に行ってもいいのですか。

〈英〉 May I really come?

Sie: Natürlich dürfen Sie kommen. Jeder darf kommen. JK16-4

もちろんです。どなたでもいらっしゃれます。

Anna: Und soll ich etwas mitbringen? JK16-5

何か持って行くべきでしょうか。

Sie: Nein. Sie sollen nur Ihr Herz mitbringen. JK16-6

いいえ。心だけをお持ちください。

〈英〉 No. You should bring only your heart.

Anna: Das kann ich. JK16-7

それならできます。

Sie: Wir können wie ein Löwe mutig sein. Aber zuerst müssen wir kommen. JK16-8

私たちはライオンのように勇敢になれます。でもまず、来ることからです。

〈英〉 We can be brave like a lion. But first we must come.

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 話法の助動詞 —— 英語とほぼ兄弟

ドイツ語	英語	日本語
können	can	～できる
müssen	must	～しなければならない
sollen	should	～すべきだ
wollen JK16-9	will（意志）	～するつもりだ
dürfen JK16-10	may（許可）	～してもよい
möchte	would like	～したい

ドイツ語	日本語
Sie können einfach da sein. JK16-11	ただそこにいらっしゃればいいのです
Sie müssen nicht perfekt sein. JK16-12	完璧である必要はありません
Jeder darf kommen. JK16-13	どなたでも来られます
Sie sollen nur Ihr Herz mitbringen. JK16-14	心だけをお持ちください
Ich möchte Ihnen helfen. JK16-15	あなたのお力になりたいのです

● 2-2. 枠構造 —— 動詞が文をはさむ

ドイツ語	英語
Wir wollen die Wahrheit lernen.	We want to learn the Truth.
Sie können wie ein Löwe mutig sein.	You can be brave like a lion.

英語は *want to learn* と隣り合うが、ドイツ語は 2 番目と文末に分かれる。つまり最後まで聞かないと、何をするのか分からない。

★ 助動詞のあとに *zu* は付けない。

○ *Ich kann gehen.* × *Ich kann zu gehen.* 英語の *I can to go* と同じく誤りである。

● 2-3. ここだけは取り違えない

ドイツ語	日本語	英語
Sie müssen nicht kommen. JK16-16	来る必要はありません	You don't have to come.
Sie dürfen nicht kommen. JK16-17	来てはいけません	You must not come.

★ 英語の *must not* (禁止) を *müssen ... nicht* と訳すと、

まったく逆の意味になってしまう。禁止は必ず *dürfen ... nicht* である。

伝道場でこれを間違えると、招いているつもりで拒絶することになる。

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) Sie ____ einfach da sein. (können) (2) Sie ____ nicht perfekt sein. (müssen) (3) Jeder ____ kommen. (darf) (4) Ich ____ Ihnen helfen. (möchte) (5) Wir ____ die Wahrheit lernen. (wollen)

● 3-1. 相手の「できない」を「できる」に変える

相手の不安に、„**Sie müssen nicht Sie können**“ の型で答えなさい。

- ・「ドイツ語が下手です」→ **Sie müssen nicht perfekt sprechen. Sie können einfach zuhören.**
- ・「時間がありません」→ **Sie müssen nicht lange bleiben. Sie können nur eine Stunde kommen.**
- ・「お金がありません」→ **Sie müssen nichts geben. Sie können einfach beten.**

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が「自分には無理だ」と 3 つ理由を挙げる。

あなたはそのつど „**Sie müssen nicht Sie können**“ で返す。

場面 B 相手が „**Darf ich wirklich kommen?**“ と遠慮する。

„**Natürlich dürfen Sie. Jeder darf kommen.**“ と迎える。

場面 C **müssen nicht** と **dürfen nicht** を意図的に取り違えて言い、

相手に間違いを指摘してもらう。

5. 伝道メモ —— 「～しなくてよい」から始める

伝道でつまづく人の多くは、相手にやるべきことを増やしてしまう。本を読むべきだ、支部に来るべきだ、祈るべきだ——善意なのだが、聞く側の負担はどんどん重くなる。

この回で学んだ „**Sie müssen nicht ...**“ (～しなくてよい) は、その逆をいく言葉である。荷物を下ろしてあげる言葉なのだ。

- ・完璧に祈らなくてよい。
- ・全部を信じなくてよい。
- ・何も持ってこなくてよい。

そして、下ろしたぶんだけ、人は歩けるようになる。

そのうえで、„**Sie können ...**“ (～できます) と、可能性だけを示す。命令ではなく、扉が開いていることを伝えるだけである。

『仕事と愛』第 6 章には、こう説かれている。

「幸福の科学の仏法真理に触れて目覚めた人に対しては、ときにライオンのようにになっていただきたいと思うことがあるのです」

《『仕事と愛』第 6 章》

ライオンのような勇氣は、いきなりは出ない。„**Sie müssen nicht perfekt sein.**“ ——そう言われて肩の力が抜けた人が、やがて自分から立ち上がる。順番を間違えてはいけない。

Sie müssen nicht perfekt sein. Sie können einfach kommen.

会話 第 17 回 「一緒にしましょう」と誘う

【第 17 回（後期）】

直前の時間の文法は 対策学習編 3「分離動詞・命令形」

この回のねらい

1. 命令形を使って、押しつけずに人を誘える
2. 分離動詞を、前つづりを落とさずに言える
3. 「命令形」が実は「招きの形」であることを知る

1. 今日の会話（Dialog）

場面：日曜日の朝。あなたはアンナさんを支部へ迎えに行く。

Sie: Guten Morgen! Kommen Sie mit! JK17-1

おはようございます。一緒にしましょう。

〈英〉 Good morning! Come along!

Anna: Guten Morgen. Ich bin noch nicht bereit. JK17-2

おはようございます。まだ準備ができていません。

Sie: Kein Problem. Nehmen Sie sich Zeit. JK17-3

大丈夫です。ごゆっくりどうぞ。

〈英〉 No problem. Take your time.

Anna: Was soll ich anziehen? JK17-4

何を着ればいいでしょうか。

Sie: Ziehen Sie an, was Sie mögen. Bringen Sie nur Ihr Herz mit. JK17-5

好きなものをお召しください。心だけをお持ちください。

Anna: Gut. Und was machen wir dort? JK17-6

分かりました。そこでは何をするのですか。

Sie: Hören Sie zu. Beten Sie mit. Und danach sprechen wir. JK17-7

聴いてください。一緒に祈ってください。そのあとで話しましょう。

〈英〉 Listen. Pray with us. And afterwards we will talk.

Anna: Das klingt einfach. JK17-8

簡単そうですね。

Sie: Ja. Fangen wir an! JK17-9

ええ。さあ、始めましょう。

〈英〉 Yes. Let us begin!

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 伝道でよく使う分離動詞

ドイツ語	英語	日本語
mit-kommen	come along	一緒に来る
mit-bringen	bring along	持ってくる
mit-beten	pray along	一緒に祈る
zu-hören	listen to	（人の話を）聴く
auf-stehen	stand up / get up	起きる
auf-wachen	wake up	目を覚ます
an-fangen	begin	始める

★ 分離動詞は、英語の句動詞と同じ部品でできている。

aufstehen = auf (up) + stehen (stand) = stand up。

ドイツ語はその auf を、文末に置くというルールにただけである。

● 2-2. 命令形 —— 相手によって 3 つ

相手	形	例
du （親しい 1 人）	語尾を落とす	Komm mit!
ihr （親しい複数）	-t	Kommt mit!
Sie （敬称）	動詞 + Sie	Kommen Sie mit!

- ★ Sie に対する命令では、主語 Sie を必ず言う。英語にはない習慣である。
- **Kommen Sie mit!** X *Kommen mit!*
- ★ e → i 型は命令形でも母音が変わる。
- sprechen → **Sprich!** / geben → **Gib!** / sehen → **Sieh!**
(a → ä 型は変わらない。fahren → **Fahr!**)

● 2-3. 押しつけない誘い方

ドイツ語	日本語
Kommen Sie mit! JK17-10	一緒にしましょう
Nehmen Sie sich Zeit. JK17-11	ごゆっくりどうぞ
Hören Sie einfach zu. JK17-12	ただ聴いていてください
Bringen Sie nur Ihr Herz mit. JK17-13	心だけをお持ちください
Fangen wir an! JK17-14	さあ、始めましょう

- ★ **Fangen wir an!** のように **wir** を使うと、「私たちで一緒に」という誘いになる。
- 英語の *Let us ...* にあたる。命令ではなく**招き**になるので、伝道では非常に使いやすい。

3. 言い換え練習 (Variationen)

次の動詞を、Sie に対する命令形にしない。

- (1) mitkommen (2) zuhören (3) mitbeten (4) aufstehen (5) anfangen

解答：(1) Kommen Sie mit! (2) Hören Sie zu! (3) Beten Sie mit!

- (4) Stehen Sie auf! (5) Fangen Sie an!

● 3-1. 「～しましょう」に変える

- (1) Wir beten. → **Beten wir!** (2) Wir gehen in den Tempel. → **Gehen wir in den Tempel!** (3) Wir fangen an. → **Fangen wir an!**

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手を支部へ誘う。命令形を 3 つ以上使うが、すべて「招き」の調子で言う。

場面 B 相手が **Ich bin noch nicht bereit.** とためらう。

Kein Problem. Nehmen Sie sich Zeit. と受けて、急がせない。

場面 C 相手が **Was soll ich machen?** と尋ねる。

Hören Sie einfach zu. と、いちばん軽い課題だけを示す。

- ★ 命令形を、強い調子で言わないこと。

同じ **Kommen Sie mit!** でも、声の調子ひとつで「来なさい」にも「一緒にしましょう」にも聞こえる。

文法は形を教えるが、心は声に出る。

5. 伝道メモ —— 命令形は、招きの形である

文法用語では「命令形」というが、伝道場で使う命令形は、命令ではない。扉を開けて、手を差し出す形である。

『仕事と愛』第 6 章には、アリとライオンのたとえが説かれている。

「大多数の人々には、アリやハチのように勤勉に生きていきたいと思いますが、.....ときにライオンのようになっていた
だきたいと思うことがあるのです」

《『仕事と愛』第 6 章「休日の効果」》

注目したいのは、総裁が「～せよ」ではなく「～していただきたい」と語られている点である。命令の形をとりながら、実際には願いののだ。

ドイツ語でも同じことができる。

Arbeite fleißig wie eine Ameise! Kämpfe mutig wie ein Löwe! JK17-15

アリのように勤勉に動きなさい。ライオンのように勇敢に戦いなさい。

この二文は命令形である。しかし、突き放す言葉ではない。「あなたにはそれができる」と信じている者だけが言える言葉である。

そして、いちばん美しい招きの形はこれである。

Fangen wir an! JK17-14

さあ、一緒に始めましょう。

「あなたが始めなさい」ではなく「私たちで始めましょう」。伝道は、相手を押し出すことではなく、隣に並んで一歩を踏み出すことである。

会話 第 18 回 経典の言葉を紹介する

【第 18 回（後期）】

直前の時間の文法は 準備編「三基本形」

この回のねらい

1. 公式ドイツ語版経典の一節を、正しく引用できる
2. 三基本形を使って、経典の文を読み解ける
3. 「自分の言葉」と「経典の言葉」を区別して伝えられる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんに、経典の一節を紹介する。

Anna: Können Sie mir etwas aus dem Buch zeigen? JK18-1

その本から、何か見せていただけますか。

〈英〉Can you show me something from the book?

Sie: Gern. Hier steht ein Satz. Er ist sehr wichtig für mich. JK18-2

喜んで。ここに一文があります。私にはとても大切な一文です。

Sie: Vergessen Sie nie, tief in Ihrem Herzen wohnt eine Buddha-Natur, strahlend wie ein Diamant. JK18-3

決して忘れないでください。あなたの心の奥深くには、ダイヤモンドのように輝く仏性が宿っています。

〈英〉Never forget: deep in your heart dwells a Buddha nature, shining like a diamond.

《『反省の手引き』ドイツ語版——Anleitung zur Selbstreflexion》

Anna: Ein Diamant ... in mir?

ダイヤモンドが.....私のなかに？

Sie: Ja. In jedem Menschen. JK18-4

はい。どの人のなかにも。

Anna: Aber ich sehe ihn nicht. JK18-5

でも、私には見えません。

Sie: Ein Diamant kommt aus der Erde. Zuerst ist er nicht schön. JK18-6

ダイヤモンドは大地から出てきます。最初は美しくありません。

〈英〉A diamond comes out of the earth. At first it is not beautiful.

Sie: Aber der Mensch poliert ihn. Dann strahlt er. JK18-7

しかし人がそれを磨きます。すると輝くのです。

〈英〉But a person polishes it. Then it shines.

Anna: Und wie poliert man das Herz? JK18-8

では、心はどうやって磨くのですか。

Sie: Durch Selbstreflexion. Das lernen wir jeden Tag. JK18-9

反省によってです。私たちは毎日それを学んでいます。

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 経典を引用する

ドイツ語	日本語
Hier steht ein Satz. JK18-10	ここに一文があります
Im Buch steht: ...	本にはこうあります
Das ist ein Satz aus Das Gesetz der Sonne. JK18-11	これは『太陽の法』の一文です
Dieser Satz ist wichtig für mich. JK18-12	この一文は私にとって大切です
Ryūho Okawa schreibt: ...	大川隆法はこう書いています

★ 引用と自分の意見を、必ず分けること。

「本にはこうあります」と前置きしてから引用し、そのあとで「私はこう受け取っています」と続ける。ここを混ぜると、伝道は信用を失う。

● 2-2. 覚えておきたい公式ドイツ語版の一節

Diese Welt ist für eure Seele wie eine Schule. JK18-13

この世は魂にとっての学校である。

《『真実への目覚め』第2章「常勝思考の力」／3 常勝思考の本質とは》

Vergessen Sie nie, tief in Ihrem Herzen wohnt eine Buddha-Natur, strahlend wie ein Diamant.

JK18-3

決して忘れないでください。心の奥深くには、ダイヤモンドのように輝く仏性が宿っています。

《『反省の手引き』》

Bestellen Sie das Feld Ihres eigenen Geistes.

JK18-14

自分自身の心の畑を耕しなさい。

《『若き日のエル・カンターレ』》

Pflanzen Sie die Samen in Ihren eigenen Geist.

JK18-15

自分自身の心に種を蒔きなさい。

《『若き日のエル・カンターレ』》

★この4文は、すべて **Sie** に対する命令形（第17回）である。

経典の言葉は、しばしば「～しなさい」という招きの形をとる。

●2-3. 三基本形 —— 経典を読むための道具

不定詞	過去形	過去分詞	日本語
gehen	ging	gegangen	行く
kommen	kam	gekommen	来る
geben	gab	gegeben	与える
sprechen	sprach	gesprochen	話す
schreiben	schrieb	geschrieben	書く
finden	fand	gefunden	見いだす
bringen	brachte	gebracht	もたらす
denken	dachte	gedacht	考える

★英語の *bring – brought = bringen – brachte*、

think – thought = denken – dachte。

英語の不規則動詞表は、そのままドイツ語で使える。

3. 言い換え練習 (Variationen)

●3-1. 三基本形を言う

(1) gehen (2) kommen (3) geben (4) sprechen (5) bringen

●3-2. 経典の一節を紹介する型

Im Buch ____ steht: ____. Dieser Satz ist wichtig für mich.

※「なぜなら～だから」は第23回で学ぶ。いまは日本語で補ってよい。

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面A 相手に、上の4つの一節から1つを選んで紹介する。

書名を必ず添え、そのあと自分の受け取り方を1文加える。

場面B 相手が **Aber ich sehe ihn nicht.** と言う。

あなたはダイヤモンドの原石のたとえで答える。

場面C 相手が **Wer ist der Autor?** (著者は誰ですか) と尋ねる。

Ryuhō Okawa. Er ist der Gründer von Happy Science. と答える。

★書名は必ず公式のドイツ語題を使うこと。

「～の法」がすべて *Das Gesetz ...* になるとはかぎらない。

たとえば『永遠の法』は *Der Aufstieg durch die Dimensionen* である。

5. 伝道メモ —— 心のなかのダイヤモンド

『幸福への方法』第2章には、次のように説かれている。

「美しいダイヤモンドの輝きにも似た、宝石のような心を、仏からいただいているにもかかわらず、二十年、三十年、四十年、五十年、六十年……と生きていくあいだに、それをまるで石炭か何かのようにしてしまったのは、いったいだれでしょう」

《『幸福への方法』第2章「素直な心を大切に」／2心のなかのダイヤモンド》

公式ドイツ語版の『反省の手引き』にも、対になる一文がある。

Ihr Diamant wird strahlen, wenn Sie ihn in Ihrer Selbstreflexion gereinigt und poliert haben.

反省によって清め、磨いたとき、あなたのダイヤモンドは輝くでしょう。

このたとえの要点は、ダイヤモンドは「与える」ものではなく「すでに在る」ものだという点にある。

伝道は、相手に何かを与える仕事だと思われがちである。しかし本当は違う。**相手のなかにすでにあるものを、思い出させる仕事**なのだ。

だからこそ、上から教える必要はない。「あなたのなかに、ダイヤモンドがあります」——そう伝えるだけでよい。

In jedem Menschen ist ein Diamant. Wir müssen ihn nur polieren.

◆ 学びのことは

「宗教的、あるいはミスティカル（神秘的）な英語の用例に慣れて、国際伝道師を目指すには、本書などで、まず感覚をつかんでおいて、次に英訳の原本に挑戦するとよいだろう」

《『黒帯英語五段⑤』まえがき》

会話 第19回 私の体験を語る（あの頃のこと）

【第19回（後期）】

直前の時間の文法は 第9章「過去形」

この回のねらい

1. war・hatte・konnteを使って、過去の自分を語れる
2. 「あの頃」と「いま」を対比して、変化を示せる
3. 一人称の証しが、いちばん強い伝道であることを知る

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、あなたの過去を尋ねる。

Anna: Waren Sie immer so ruhig? JK19-1

あなたは昔から、そんなに穏やかだったのですか。

〈英〉Were you always so calm?

Sie: Nein. Früher war ich sehr unruhig. JK19-2

いいえ。以前の私は、とても落ち着きがありませんでした。

〈英〉No. Before, I was very restless.

Anna: Wirklich? JK19-3

本当ですか。

Sie: Ja. Ich hatte keine Ruhe. Ich hatte viel Angst. JK19-4

ええ。心の平安がありませんでした。不安ばかりでした。

〈英〉Yes. I had no peace. I had much fear.

Anna: Wovor hatten Sie Angst? JK19-5

何が怖かったのですか。

Sie: Vor der Zukunft. Vor dem Tod. Ich konnte nichts sehen. JK19-6

将来が。死が。私には何も見えませんでした。

〈英〉Of the future. Of death. I could see nothing.

Anna: Und dann? JK12-7

それから？

Sie: Dann kam ein Buch. Ich las es. Und ich fand einen Weg. JK19-8

それから一冊の本が来ました。私はそれを読みました。そして道を見つけました。

〈英〉Then a book came. I read it. And I found a way.

Anna: Und ein Buch war genug? JK19-9

一冊の本で十分だったのですか。

〈英〉And one book was enough?

Sie: Nicht das Buch. Die Wahrheit im Buch. JK19-10

本ではありません。本のなかの真理です。

〈英〉Not the book. The Truth in the book.

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 会話でもそのまま使える過去形

ドイツ語では、日常会話の「～した」はふつう現在完了形（第20回）を使う。しかし次の動詞だけは、**会話でも過去形を**使う。まずこれを固めること。

不定詞	過去形（ich / er）	日本語
sein	war	～だった
haben JK20-17	hatte	持っていた
werden	wurde	～になった
können	konnte	～できた
müssen	musste	～せねばならなかった
wollen JK16-9	wollte	～したかった

★ war と英語の was は、実は同じ語である。

ドイツ語の r と英語の s は、古い時代の音の揺れの結果にすぎない。

● 2-2. 「あの頃」を語る

ドイツ語	日本語
Früher war ich ...	以前の私は.....でした
Damals hatte ich ...	当時、私は.....を持っていました
Ich hatte keine Ruhe. JK19-11	私には平安がありませんでした
Ich hatte viel Angst. JK19-12	私は不安でいっぱいでした
Ich konnte nichts sehen. JK19-13	私には何も見えませんでした
Ich war allein. JK19-14	私は孤独でした

● 2-3. 「いま」と対比する

ドイツ語	日本語
Früher war ich ..., aber jetzt bin ich ...	以前は.....でしたが、いまは.....です
Damals konnte ich nichts sehen. Jetzt sehe ich das Licht. JK19-15	あの頃は何も見えませんでした。いま私は光を見えています

★この「対比」が、証しの骨格である。
「以前はこうだった／いまはこうである」——
この二文だけで、聞く人はあなたの人生の変化を受け取ることができる。

3. 言い換え練習（Variationen）

(1) Früher ____ ich unruhig. (war) (2) Ich ____ keine Ruhe. (hatte) (3) Ich ____ nichts sehen. (konnte) (4) Dann ____ ich Mitglied. (wurde)
(5) Ich ____ die Wahrheit finden. (wollte)

● 3-1. 自分の「あの頃」を 3 文で

Früher war ich ____, Ich hatte ____. Ich konnte ____.

● 3-2. 「いま」を足して 6 文にする

Früher war ich ____, Ich hatte ____. Ich konnte ____. Jetzt bin ich ____. Ich habe ____. Ich kann ____.

4. ロールプレイ（Rollenspiel）

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が **Waren Sie immer so ruhig?** と尋ねる。

あなたは **Nein. Früher war ich ...** から始めて、3 文で答える。

場面 B 相手が **Wovor hatten Sie Angst?** と尋ねる。

Vor der Zukunft. / Vor dem Tod. / Vor den Menschen. などで答える。

場面 C 「以前／いま」の対比を 6 文で語る。原稿を見ないこと。

★場面 C を、この回を中心に据える。
誰にでも「あの頃」がある。それを語れることが、伝道者の資格である。

5. 伝道メモ —— 川は、細い源流から始まる

伝道でもっとも強い言葉は、教義の説明ではない。「私は、こうでした。そして、こう変わりました」という一人称の証しである。

教義は正しくても、聞く人にとってはまだ他人事である。しかし「以前の私は不安でいっぱいでした」と言われれば、それは目の前の人の事実であり、反論のしようがない。人の心を動かすのは、正しさではなく、本当らしさである。

『心の指針』には、こう記されている。

「人生を川の流れてたとえるのは、仏教の教えの常だ」
《『生誕日の夢』（心の指針 第十九集）226「流れてゆく川のように」》

公式ドイツ語版の『若き日のエル・カンターレ』にも、対応する一節がある。

Er beginnt als kleiner Bergbach, doch er wird in seinem Verlauf zu einem breiten, stattlichen Fluss.

それは小さな山の溪流として始まるが、流れゆくうちに、幅広く堂々たる川になる。

どんな大河にも、細い源流の時代がある。そしてあなたが語る「あの頃」は、いま聴いている人が立っている、まさにその場所の風景である。

だから、自分の弱かった時代を恥じなくてよい。それこそが、あなたが誰かに手を伸ばせる唯一の場所なのだから。

Früher war ich allein. Jetzt bin ich nicht allein.

会話 第20回 私の体験を語る（これまでのこと）

【第20回（後期）】

直前の時間の文法は 第10章「現在完了形」

この回のねらい

1. 現在完了形を使って、会話で自然に「～しました」と言える
2. haben 支配と sein 支配を取り違えない
3. これまでの歩みを、相手に届く長さで語れる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：支部からの帰り道。アンナさんとあなたが歩きながら話す。

Anna: Wie lange sind Sie schon bei Happy Science? ♪K20-1

幸福の科学には、どれくらいいらっしゃるのですか。

〈英〉How long have you been with Happy Science?

Sie: Ich bin seit zehn Jahren dabei. ♪K20-2

十年になります。

Anna: Zehn Jahre! Was haben Sie in zehn Jahren gelernt? ♪K20-3

十年！ この十年で何を学ばれたのですか。

〈英〉Ten years! What have you learned in ten years?

Sie: Ich habe die Wahrheit gelernt. Aber langsam. ♪K20-4

真理を学びました。でも、ゆっくりとです。

Sie: Ich bin wie eine Schildkröte gegangen. ♪10-12

私は亀のように歩んできました。

〈英〉I have walked like a turtle.

《亀のごとくのろのろとスタートしながら、やってるうちに、だんだんよくなっていく
——『若き日のエル・カンターレ』》

Anna: Wie eine Schildkröte? ♪K20-6

亀のように？

Sie: Ja. Aber ich bin nie stehen geblieben. ♪K20-7

はい。でも、決して立ち止まりませんでした。

〈英〉Yes. But I have never stopped.

Anna: Und was hat sich verändert? ♪K20-8

それで、何が変わりましたか。

Sie: Ich habe keine Angst mehr. Und ich bin nicht mehr allein. ♪K20-9

もう恐れがありません。そして、もう孤独ではありません。

〈英〉I have no more fear. And I am no longer alone.

Anna: Das möchte ich auch. ♪K20-10

私もそうなりたいです。

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 現在完了形 —— 会話の「～しました」

ドイツ語	日本語
Ich habe die Wahrheit gelernt. ♪K20-11	私は真理を学びました
Ich habe das Buch gelesen. ♪K20-12	私はその本を読みました
Ich habe viel gefunden. ♪K20-13	私は多くを見いだしました
Ich bin in den Tempel gegangen. ♪K20-14	私は支部へ行きました
Ich bin Mitglied geworden. ♪K20-15	私は会員になりました
Ich bin nie stehen geblieben. ♪K20-16	私は決して立ち止まりませんでした

● 2-2. haben か sein か

助動詞	対象	例
haben ♪K20-17	ほとんどの動詞	Ich habe gelernt / gelesen / gefunden.
sein	移動・状態の変化、sein / bleiben	Ich bin gegangen / gekommen / geworden / geblieben.

★ 移動と変化は **sein**。これが原則である。
 ✕ *Ich habe gegangen.* ○ **Ich bin gegangen.**
 英語にも化石が残っている。 *He is gone.* *The Lord is come.*

● 2-3. 英語との決定的な違い

ドイツ語	英語
Ich habe ihn gestern gesehen . ○	<i>I have seen him yesterday.</i> ✕
	<i>I saw him yesterday.</i> ○

★ 英語の現在完了には「今とのつながり」が必須だが、ドイツ語にはその制限がない。
 ドイツ語の現在完了 = 英語の過去形、といったん割り切ってよい。
 会話で「昨日～した」と言うときは、迷わず現在完了形を使うこと。

● 2-4. 語順に注意

ドイツ語	日本語
Ich habe die Wahrheit gelernt .	私は真理を学びました

★ 過去分詞は文末（枠構造）。
 ✕ *Ich habe gelernt die Wahrheit.* は英語の語順であって、ドイツ語ではない。

3. 言い換え練習（Variationen）

● 3-1. haben か sein か

(1) Ich ____ die Lehre gelernt. (habe) (2) Ich ____ in den Tempel gegangen. (bin) (3) Ich ____ Mitglied geworden. (bin) (4) Ich ____ das Buch gelesen. (habe) (5) Ich ____ ruhig geblieben. (bin)

● 3-2. これまでを 4 文で

Ich bin seit ____ Jahren dabei. Ich habe ____ gelernt. Ich bin ____ gegangen. Ich habe keine Angst mehr.

4. ロールプレイ（Rollenspiel）

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が **Wie lange sind Sie schon dabei?** と尋ねる。
 あなたは年数と、学んだことを 3 文で答える。

場面 B 相手が **Was hat sich verändert?** と尋ねる。
Ich habe ... / Ich bin ... を混ぜて、3 文で答える。

場面 C 第 19 回の「あの頃」と、今回の「これまで」をつなげて、
 8 文の証しを作る。過去形と現在完了形を混ぜてよい。

★ 場面 C が、次回（第 21 回）の中間発表の下書きになる。
 今日のうちに、8 文をノートに書き出しておくこと。

5. 伝道メモ —— 亀のごとく歩いてきた

『若き日のエル・カンターレ』（旧題『平凡からの出発』）で、大川隆法総裁はご自身の歩みを繰り返し「亀のごとく」と語られている。

公式ドイツ語版（*Twiceborn*）では、その章がそのままこう題されている。

Wie eine Schildkröte
... dass ich mich wie eine Schildkröte durch mein Leben bewegte.
 私は亀のように人生を歩んできた。

日本語のたとえが、ドイツ語でもそのまま **wie eine Schildkröte** と生きている。

このたとえの要点は、**遅さを肯定している**ことにある。速く進むことなく、止まらないことが道を分ける。

伝道においても同じである。一年で百人を導く人が偉いのではない。十年、誰かのそばに居続けられる人が、最後に一人の魂を救う。

そしてあなたが現在完了形で語る「これまで」は、相手にとっては「これから」の地図になる。

Ich bin wie eine Schildkröte gegangen. Aber ich bin nie stehen geblieben. JK21-9

この二文を、今日の暗唱課題とする。

会話 第21回 中間発表 ― 信仰体験を語る

【第21回（後期）】

直前の時間の文法は 中間のまとめと小テスト

この回のねらい

1. 過去形と現在完了形を使って、自分の信仰体験を語る
2. 「あの頃→転機→いま」の三段で構成できる
3. 人前で、自分の弱かった時代を語る勇気を持つ

1. 課題

一人4分間。ドイツ語のみで、自分の信仰体験を語る。

構成は次の三段とする。

段	内容	使う時制
① あの頃	教えに出会う前の自分。悩み・不安・孤独	過去形（war, hatte, konnte）
② 転機	何がきっかけだったか。本・人・出来事	過去形／現在完了形
③ いま	何が変わったか。いま何をしているか	現在完了形・現在形

2. 模範例（Muster）

① あの頃

Früher war ich sehr unruhig. Ich hatte keine Ruhe im Herzen. JK21-1

以前の私は、とても落ち着きがありませんでした。心に平安がありませんでした。

Ich hatte Angst vor der Zukunft. Ich konnte nichts sehen. JK21-2

将来が不安でした。何も見えませんでした。

Ich war allein. Ich hatte viele Freunde, aber ich war allein. JK21-3

私は孤独でした。友人は多くいましたが、孤独でした。

② 転機

Dann kam ein Buch. Meine Mutter gab es mir. JK21-4

あるとき、一冊の本が来ました。母がくれたのです。

Ich las das Buch in einer Nacht. Und ich fand einen Weg. JK21-5

私はその本を一晩で読みました。そして道を見つけました。

Im Buch stand: „Diese Welt ist für eure Seele wie eine Schule.“ JK21-6

本にはこうありました。「この世は魂にとっての学校である」。

Da habe ich verstanden: Ich bin nicht allein. Ich bin ein Kind Gottes. JK21-7

そのとき私は理解しました。私は一人ではない。私は神の子なのだと。

③ いま

Ich bin seit zehn Jahren dabei. Ich habe viel gelernt. JK21-8

あれから十年になります。多くを学びました。

Ich bin wie eine Schildkröte gegangen. Aber ich bin nie stehen geblieben. JK21-9

私は亀のように歩んできました。でも、決して立ち止まりませんでした。

Jetzt bete ich jeden Tag. Jetzt danke ich jeden Tag. JK21-10

いまは毎日祈ります。毎日感謝します。

Ich habe keine Angst mehr. Und ich bin nicht mehr allein. JK20-9

もう恐れはありません。そして、もう孤独ではありません。

Das ist meine Geschichte. Vielen Dank. JK21-12

これが私の物語です。ありがとうございました。

3. 準備の手順

1. まず日本語で三段を箇条書きにする。各段3～4項目まで。
2. 一文を短くする。長い文を作ろうとした瞬間、話せなくなる。
3. 経典の一節を必ず一つ入れる。書名を添えること。
4. たとえを必ず一つ入れる。亀・畑・鏡・ダイヤモンド・川など。
5. 「弱かった自分」を削らない。ここを飾ると、話全体が嘘になる。

4. 評価の観点

観点	配点	見るところ
構成	25%	①②③の三段になっているか
時制	25%	過去形と現在完了形を正しく使えているか
引用	15%	経典の一節と書名が入っているか
たとえ	15%	自分の言葉でたとえを語れているか
態度	20%	顔を上げ、相手に語りかけているか

★「弱かった自分」を語れたかどうかを、教師は必ず見る。
立派な話をしようとして①を薄くした発表は、点が伸びない。

5. 伝道メモ ―― 弱さは、資格である

信仰体験を語るとき、多くの人が「①あの頃」を短く切り上げようとする。恥ずかしいからである。あるいは、立派な信者として見られたいからである。

しかし、聴いている人が耳を澄ませるのは、まさにその①なのだ。なぜなら、**その人はいま、①のなかにいる**からである。

あなたの「いま」は、相手にとってまだ遠い。しかしあなたの「あの頃」は、相手にとって**今日の**ことである。そこにしか、橋はかからない。

大川隆法総裁は、若き日を「亀のごとく」と語られた。最初から偉大だった人の話ではなく、**遅く、鈍く、しかし止まらなかつた**という話を、繰り返し語ってこられた。それは聴く者への配慮であり、慈悲である。

だから、あなたも飾らなくてよい。

Früher war ich allein. Ich hatte viel Angst.

Dann kam ein Buch. Und ich fand einen Weg.

Jetzt bin ich nicht mehr allein.

この三文が言えれば、あなたはもう伝道者である。

会話 第 22 回 「救われた」「導かれた」

【第 22 回（後期）】

直前の時間の文法は 第 11 章「受動文」

この回のねらい

1. werden 受動を使って、「～された」と語れる
2. von（人）と durch（手段）を使い分けられる
3. 「生かされている」という受け身の視点を言葉にできる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが「私は救われるでしょうか」と問う。

Anna: Kann ich gerettet werden? ♪K22-1

私も救われることができますでしょうか。

〈英〉Can I be saved?

Sie: Sie werden schon geliebt. Von Gott. ♪K22-2

あなたはすでに愛されています。神に。

〈英〉You are already loved. By God.

Anna: Aber ich habe nichts getan. ♪K22-3

でも、私は何もしていません。

Sie: Die Sonne fragt nicht. Alle Menschen werden von der Sonne beschienen. ♪K22-4

太陽は問いません。すべての人が太陽に照らされているのです。

〈英〉The sun does not ask. All people are shone upon by the sun.

Anna: Und was muss ich tun? ♪K22-5

私は何をすればいいのですか。

Sie: Das Herz wird durch Selbstreflexion gereinigt. Das ist alles. ♪K22-6

心は反省によって清められます。それだけです。

〈英〉The heart is purified through self-reflection. That is all.

Anna: Nur das? ♪K22-7

それだけですか。

Sie: Ja. Der Diamant ist schon da. Er wird nur poliert. ♪K22-8

はい。ダイヤモンドはすでにそこにあります。ただ磨かれるだけです。

〈英〉Yes. The diamond is already there. It is only polished.

Anna: Ich fühle mich getragen. ♪K22-9

支えられている気がします。

〈英〉I feel carried.

Sie: Ja. Wir werden alle getragen. ♪K22-10

ええ。私たちはみな、生かされているのです。

〈英〉Yes. We are all carried.

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. werden 受動 —— 「～される」

ドイツ語	日本語
Sie werden von Gott geliebt. ♪K22-11	あなたは神に愛されています
Wir werden gerettet. ♪K22-12	私たちは救われます
Wir werden geführt. ♪K22-13	私たちは導かれています
Wir werden getragen. ♪K22-14	私たちは生かされています
Das Herz wird gereinigt. ♪K22-15	心は清められます
Der Diamant wird poliert. ♪K22-16	ダイヤモンドは磨かれます

★ ドイツ語の受動は be ではなく werden（～になる）で作る。

「～される（という状態に変わっていく）」という動きが、はじめから含まれている。

● 2-2. von と durch —— 英語の by は 2 つに分かれる

ドイツ語	用法	例
von + 3 格	人・意志あるもの	Die Welt wird von Gott geschaffen.
durch + 4 格	手段・媒介	Das Herz wird durch die Lehre gereinigt.

英語ではどちらも *by* だが、ドイツ語は使い分ける。「神によって」は *von*、「教えによって」は *durch* である。

● 2-3. werden 受動と sein 受動

ドイツ語	意味	英語
Das Herz wird gereinigt. JK22-15	心が清められる (動作)	The heart is being purified.
Das Herz ist gereinigt. JK22-17	心が清まっている (状態)	The heart is purified.

★ 英語の *The door is closed.* は「閉められる」とも「閉まっている」とも取れる。
ドイツ語は助動詞を替えるだけで、この曖昧さを解消する。

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) Sie ____ von Gott geliebt. (werden) (2) Das Herz ____ durch Selbstreflexion gereinigt. (wird) (3) Wir ____ alle getragen. (werden) (4) Die Welt wird ____ Gott geschaffen. (von) (5) Das Herz wird ____ die Lehre gereinigt. (durch)

● 3-1. 「私は～されてきた」

自分について、受動文を 3 つ作りなさい。

Ich werde von ____ geliebt. Ich werde durch ____ geführt. Ich werde getragen.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が *Kann ich gerettet werden?* と問う。

あなたは *Sie werden schon geliebt.* から始めて答える。

場面 B 相手が *Ich habe nichts getan.* (何もしていない) と言う。

太陽のたとえで、条件のない愛を示す。

場面 C 相手が *Was muss ich tun?* と尋ねる。

Das Herz wird durch Selbstreflexion gereinigt. と、一つだけ示す。

★ 場面 C で、たくさんの課題を出さないこと。
救いの入り口は、いつも一つでよい。

5. 伝道メモ —— 生かされている、という視点

受動態は、文法の項目である前に、ひとつの世界観である。

「私が生きている」と考えるとき、人は自分を主語に置いている。「私は生かされている」と考えるとき、主語は自分ではなくなる。

この転換が起きたとき、人ははじめて感謝を知る。自力で立っていると思っている間は、誰にも感謝できないからである。

『幸福への方法』第 2 章には、こう説かれている。

「美しいダイヤモンドの輝きにも似た、宝石のような心を、仏からいただいている」

《『幸福への方法』第 2 章「心のなかのダイヤモンド」》

「いただいている」——ここも受け身である。仏性は自分で作ったものではなく、与えられているものなのだ。
公式ドイツ語版の『反省の手引き』にも、対応する一節がある。

Ihr Diamant wird strahlen, wenn Sie ihn in Ihrer Selbstreflexion gereinigt und poliert haben.

反省によって清め、磨いたとき、あなたのダイヤモンドは輝くでしょう。

伝道の場で、相手が「自分には何も無い」と言ったとき、あなたが返すべき言葉は「頑張りなさい」ではない。

Sie werden schon geliebt. Der Diamant ist schon da.

(あなたはすでに愛されています。ダイヤモンドはすでにそこにあります。)

会話 第23回 「なぜなら」と理由を説く

【第23回（後期）】

直前の時間の文法は 第12章「接続詞と副文」

この回のねらい

1. weil・dass を使って、理由と内容を説明できる
2. 副文で動詞を文末に置ける
3. 「なぜ信じるのか」に、論理立てて答えられる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、いちばん核心の問いを投げる。

Anna: Warum glauben Sie an Gott? ♪K23-1

なぜ神を信じるのですか。

〈英〉Why do you believe in God?

Sie: Weil ich das Licht gesehen habe. ♪K23-2

私が光を見たからです。

〈英〉Because I have seen the light.

Anna: Aber ich sehe kein Licht. ♪K23-3

でも、私には光が見えません。

Sie: Ich glaube, dass jeder Mensch das Licht sehen kann. ♪K23-4

私は、どの人も光を見ることができると信じています。

〈英〉I believe that every person can see the light.

Anna: Warum leiden dann so viele Menschen? ♪K23-5

では、なぜこれほど多くの人が苦しむのですか。

Sie: Das ist eine große Frage. Ich weiß, dass es schwer ist. ♪K23-6

それは大きな問いです。難しいことだと分かっています。

Sie: Aber ich weiß auch, dass das Gesetz von Ursache und Wirkung perfekt funktioniert. ♪K23-7

しかし同時に、因果の理法が完璧に働いていることも知っています。

〈英〉But I also know that the law of cause and effect works perfectly.

Anna: Was bedeutet das? ♪K23-8

それはどういう意味ですか。

Sie: Weil das Herz ein Feld ist, wächst dort, was wir säen. ♪K23-9

心は畑ですから、そこには私たちが蒔いたものが育つのです。

〈英〉Because the heart is a field, what we sow grows there.

Anna: Das muss ich noch verstehen. ♪K23-10

それは、まだ理解しなければなりません。

Sie: Ja. Ich verstehe es auch noch nicht ganz. ♪K23-11

ええ。私もまだ完全には分かっています。

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 理由を言う —— weil と denn

ドイツ語	語順	日本語
Ich glaube, weil ich das Licht gesehen habe .	動詞は文末	光を見たから信じます
Ich glaube, denn ich habe das Licht gesehen.	動詞は2番目のまま	光を見たから信じます

★ 意味は同じだが、語順が正反対である。

weil は副文（動詞は文末）／denn は並列（語順そのまま）。

● 2-2. 内容を言う —— dass

ドイツ語	日本語
Ich glaube, dass Gott uns liebt . ♪K23-12	神が私たちを愛していると信じます
Ich weiß, dass es schwer ist . ♪K23-13	難しいことだと分かっています
Ich hoffe, dass Sie kommen . ♪K23-14	あなたが来てくださることを願っています

★ 英語の *that* は省略できるが、ドイツ語の *dass* は省略できない。
そして **コンマ** が必須である。

● 2-3. 副文が先に来ると

Weil das Herz ein Feld ist, wächst dort, was wir säen. JK23-9

副文全体が「1 番目の要素」になるので、主節は**動詞から始まる** (*wächst dort*)。英語では *Because the heart is a field, it grows ...* と主語が先のままである。

● 2-4. 伝道でよく使う接続詞

ドイツ語	英語	日本語	語順
weil	because	～だから	副文
dass	that	～ということ	副文
wenn	if / when	もし～なら	副文
obwohl	although	～にもかかわらず	副文
denn	for	～というのは	並列
aber	but	しかし	並列
und	and	そして	並列

3. 言い換え練習 (Variationen)

● 3-1. **weil** で答える

次の問いに **Weil ...** で答えなさい (動詞は文末)。

(1) Warum lernen Sie Deutsch? (2) Warum gehen Sie in den Tempel? (3) Warum beten Sie jeden Tag?

解答例: (1) **Weil ich die Wahrheit weitergeben will.** (2) **Weil ich dort Frieden finde.** (3) **Weil ich Gott danken möchte.**

● 3-2. **dass** でつなぐ

(1) Gott liebt uns. → Ich glaube, _____. (2) Jeder Mensch hat eine Mission. → Ich weiß, _____. (3) Sie kommen am Sonntag. → Ich hoffe, _____.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が **Warum glauben Sie an Gott?** と尋ねる。

あなたは **Weil ...** で始まる文で答え、そのあと 1 文足す。

場面 B 相手が **Warum leiden so viele Menschen?** (なぜ多くの人が苦しむのか) と問う。

答えを急がないこと。まず **Das ist eine große Frage.** と受けとめ、

Ich weiß, dass es schwer ist. と正直に言うってから、因果の理法を 1 文で示す。

場面 C 相手の問いに、あなたが答えられない。

Das weiß ich nicht. Aber ich frage meinen Lehrer.

(分かりません。でも先生に聞いてみます) と正直に答える。

★ **場面 C** を必ず練習すること。

分からないことを分かったふりで答えた瞬間、伝道は宣伝に変わる。

「分からない」と言える人が、最後まで信用される。

5. 伝道メモ —— 種を蒔くように

第 12 回の文法で学んだとおり、副文では動詞が文末に来る。つまり**最後まで聞かなければ、意味が確定しない**。

これは、伝道における「理由の説明」にもそのまま当てはまる。人が納得するのは、こちらが最後まで言い切ったときではない。**相手が自分のなかで最後まで考え終えたとき**である。

だから、答えを与えずぎてはいけない。

大川隆法総裁は、因果の理法を「種を蒔くこと」にたとえて説かれた。

「赤いチューリップの球根を植えれば赤いチューリップの花が咲き.....

よいことをすれば、よい結果が現れてきます」

《『復活の法』入門 第 3 章》

公式ドイツ語版の『若き日のエル・カンターレ』にも、対応する一節がある。

Pflanzen Sie die Samen in Ihren eigenen Geist.

自分自身の心に種を蒔きなさい。

種を蒔いた者は、その日のうちに花を見ようとはしない。土のなかで何が起きているかも見えない。それでも蒔く。

あなたが今日 **weil** を使って語った一文も、種である。芽が出るのは、あなたが立ち去ったあとかもしれない。それでよいのである。

Weil das Herz ein Feld ist, wächst dort, was wir säen. JK23-9

会話 第 24 回 相手の言葉を受けとめて伝える

【第 24 回（後期）】

直前の時間の文法は 第 13 章①「接続法第 1 式・間接話法」

この回のねらい

1. 接続法第 1 式で、人の言葉を「その人の言葉として」伝えられる
2. 自分の意見と、人から聞いた話を、文法で区別できる
3. 伝道における「正確に伝える」責任を知る

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、友人に幸福の科学のことを話したという。

Anna: Ich habe mit meiner Freundin gesprochen. JK24-1

友人と話しました。

Sie: Und was hat sie gesagt? JK24-2

それで、彼女は何とっていましたか。

〈英〉 And what did she say?

Anna: Sie sagt, das sei eine Sekte. JK24-3

彼女は、それはカルトだと言っています。

〈英〉 She says that it is a cult.

Sie: Ich verstehe. Viele Menschen denken so. JK24-4

分かります。多くの人がそう考えます。

Anna: Sie sagt auch, Religionen wollten nur Geld. JK24-5

宗教はお金が目当てだ、とも言っています。

Sie: Das höre ich oft. Und was denken Sie selbst? JK24-6

よく聞く話です。それで、あなたご自身はどうお考えですか。

〈英〉 I hear that often. And what do you yourself think?

Anna: Ich weiß es nicht. Ich sehe nur, dass Sie ruhig sind. JK24-7

分かりません。ただ、あなたが穏やかだということは見えます。

Sie: Danke. Ryuho Okawa schreibt, der Mensch sei ein Kind Gottes. JK24-8

ありがとうございます。大川隆法は、人は神の子である、と書いています。

〈英〉 Thank you. Ryuho Okawa writes that man is a child of God.

Sie: Das ist seine Lehre. Ob Sie es glauben, entscheiden Sie selbst. JK24-9

それが彼の教えです。信じるかどうかは、あなたご自身がお決めになることです。

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 接続法第 1 式 —— 「その人はこう言っている」

直説法	接続法第 1 式
er ist	er sei
er hat	er habe
er kann	er könne
er geht	er gehe
sie wollen	sie wollten （第 2 式で代用）

ドイツ語	日本語
Sie sagt, das sei eine Sekte. JK24-3	彼女は、それはカルトだと言っています
Er sagt, er habe keine Zeit. JK24-10	彼は、時間が無いと言っています
Ryuho Okawa schreibt, der Mensch sei ein Kind Gottes. JK24-11	大川隆法は、人は神の子だと書いています

★ 接続法第 1 式を使うと、「これは私の主張ではなく、その人の発言だ」と示せる。

ドイツの新聞記事が接続法だらけなのは、このためである。

● 2-2. 英語との決定的な違い —— 時制の一致がいらない

ドイツ語	英語
Er sagte , er sei glücklich.	He said that he was happy.

英語は主節が過去なら従属節も過去にする（時制の一致）。ドイツ語は時制を動かさず、接続法にするだけである。「誰の言葉か」と「いつのことか」を、別々の道具で表せるのがドイツ語の強みである。

● 2-3. 第 1 式が直説法と同じ形になったら

sie haben の第 1 式は *sie haben* で、直説法と区別がつかない。そういうときは第 2 式 (*hätten / wollten* など) で代用する。「区別がつく形を選ぶ」という実用本位の規則である。

● 2-4. 受けとめてから返す型

ドイツ語	日本語
Ich verstehe. JK8-13	分かります
Viele Menschen denken so. JK24-13	多くの人がそう考えます
Das höre ich oft. JK24-14	よく聞く話です
Und was denken Sie selbst? JK24-15	あなたご自身はどうお考えですか
Das entscheiden Sie selbst. JK24-16	それはあなたがお決めになることです

3. 言い換え練習 (Variationen)

● 3-1. 間接話法にする

(1) Er sagt: „Ich bin müde.“ → Er sagt, _____. (2) Sie sagt: „Ich habe keine Zeit.“ → Sie sagt, _____. (3) Er sagt: „Das Herz ist ein Feld.“ → Er sagt, _____.

解答：(1) er sei müde (2) sie habe keine Zeit (3) das Herz sei ein Feld

● 3-2. 経典の内容を伝える

Ryūho Okawa schreibt, _____.

例：der Mensch sei ein Kind Gottes / diese Welt sei wie eine Schule / jedes Herz sei ein Feld

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2 人 1 組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が *Sie sagt, das sei eine Sekte.* と、第三者の批判を伝える。

あなたは **反論せず**、*Ich verstehe. Viele Menschen denken so.* と受け、

最後に *Und was denken Sie selbst?* と本人の考えを聞く。

場面 B あなたが経典の内容を、接続法第 1 式で 3 文伝える。

「私はこう思う」と「本にはこう書いてある」を、必ず言い分けること。

場面 C 相手が「あなたの意見なのか、教団の教えなのか」と尋ねる。

Das ist seine Lehre. Ich glaube es. と、両方を分けて答える。

★ 場面 A で反論しないこと。

第三者の批判に反論しても、そこにいない相手には届かない。

目の前の人に「あなたはどう思うか」と返すほうが、はるかに実りがある。

5. 伝道メモ —— 人の言葉を、その人の言葉のまま運ぶ

接続法第 1 式は、「これは私の言葉ではない」と文法で示すための形である。一見すると細かい規則だが、伝道においては倫理そのものである。

伝道の場合は、人の言葉を運ぶ機会が必ずある。経典の言葉、講師の言葉、先輩信者の言葉、そして相手の友人の言葉。

そのとき、自分の解釈を混ぜてしまわないこと。「総裁先生はこうおっしゃっている」と言いながら、実は自分の意見を語っている——これは、伝道においてもっとも避けねばならない過ちである。

だからこそ、この文法が要る。

Ryūho Okawa schreibt, der Mensch sei ein Kind Gottes.

大川隆法は、人は神の子である、と書いています。

Ich glaube das auch.

私もそう信じています。

二文に分ける。引用と、自分の信仰を、混ぜない。

そしてもう一つ。相手の言葉も、同じ丁寧さで受け取ること。相手が「カルトだと聞いた」と言ったとき、それは相手の攻撃ではなく、相手が正直に情報を差し出してくれたということである。

Das höre ich oft. Und was denken Sie selbst? JK24-6

この二文が言えれば、対立は対話に変わる。

◆ 学びのことは

「これが英語としてかみ砕いて話すことができたなら、国際伝道師としては、プロ性が高いといえよう」
《『黒帯英語六段⑤』まえがき》

会話 第25回 丁寧をお願いする／もし～なら

【第25回（後期）】

直前の時間の文法は 第13章②「接続法第2式・非現実・丁寧表現」

この回のねらい

1. 接続法第2式で、丁寧に依頼できる
2. 「もし～なら」で、相手に想像してもらえる
3. 押しつけずに一步を促す言葉を持つ

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんに、三婦誓願（正式な入会）について話す。

Sie: Könnten Sie mir bitte fünf Minuten geben? JK25-1

五分だけ、お時間をいただけますでしょうか。

〈英〉 Could you please give me five minutes?

Anna: Natürlich. JK25-2

もちろんです。

Sie: Wenn Sie Mitglied wären, hätten Sie viele Freunde. JK25-3

もしあなたが会員であれば、たくさんの仲間ができるでしょう。

〈英〉 If you were a member, you would have many friends.

Anna: Ich weiß nicht. Ich bin nicht bereit. JK25-4

分かりません。まだ心の準備ができていません。

Sie: Das ist in Ordnung. Ich würde nie drängen. JK25-5

それで結構です。私は決して急かしません。

〈英〉 That is all right. I would never push.

Anna: Wenn ich mehr Zeit hätte, würde ich mehr lesen. JK25-6

もっと時間があれば、もっと読むのですが。

Sie: Wenn Ihr Herz wie ein Spiegel wäre, könnten Sie die Wahrheit klar sehen. JK25-7

もしあなたの心が鏡のようであれば、真理をはっきりと見ることができるでしょう。

〈英〉 If your heart were like a mirror, you could see the Truth clearly.

Anna: Wie wird das Herz wie ein Spiegel? JK25-8

どうしたら心は鏡のようになるのですか。

Sie: Durch Selbstreflexion. Dürfte ich Ihnen ein Buch schenken? JK25-9

反省によってです。一冊、本を差し上げててもよろしいでしょうか。

〈英〉 Through self-reflection. Might I give you a book?

Anna: Ja. Das wäre schön. JK25-10

ええ。それはうれしいです。

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 丁寧に頼む —— 英語の Could you ...? と同じ発想

ふつう	丁寧（接続法第2式）	日本語
Können Sie ...?	Könnten Sie ...?	～していただけますか
Dürfen ich ...?	Dürfte ich ...?	～してもよろしいでしょうか
Haben Sie ...?	Hätten Sie ...?	～をお持ちでしょうか
Ich will ...	Ich möchte ...	～したいのですが
Das ist schön.	Das wäre schön.	それはうれしいです

★ 英語の Could you ...? が Can you ...? より丁寧なのはなぜか。

形は過去形なのに、意味は現在のことである。

答えは「距離」。過去形は時間的に「今ここ」から離れた形であり、その「離れている」感覚を、現実からの距離＝控えめさに転用したのである。

ドイツ語の接続法第2式も、まったく同じ理屈で過去形から作る。

● 2-2. 「もし～なら」 —— 非現実の仮定

ドイツ語	日本語
Wenn Sie Mitglied wären, hätten Sie viele Freunde. JK25-3	もし会員であれば、多くの仲間ができるでしょう
Wenn ich mehr Zeit hätte, würde ich mehr lesen. JK25-6	もっと時間があれば、もっと読むのですが

ドイツ語	日本語
Wenn Ihr Herz wie ein Spiegel wäre, könnten Sie die Wahrheit sehen. JK25-11	心が鏡のようであれば、真理を見ることができるでしょう

★ wenn 節も接続法第2式にすること。
 X Wenn ich Zeit habe, würde ich kommen.
 ○ Wenn ich Zeit hätte, würde ich kommen.
 英語で If I had time, I would come. とするのと同じである。

● 2-3. 押しつけない言い方

ドイツ語	日本語
Ich würde nie drängen. JK25-12	決して急かしません
Das ist in Ordnung. JK25-13	それで結構です
Sie haben Zeit. JK25-14	焦らなくて大丈夫です
Wenn Sie möchten, ...	もしよろしければ
Dürfte ich Ihnen ein Buch schenken? JK25-15	一冊差し上げてもよろしいでしょうか

3. 言い換え練習 (Variationen)

● 3-1. 丁寧にする

(1) Können Sie mir helfen? → ____ (2) Darf ich fragen? → ____ (3) Haben Sie Zeit? → ____

解答：(1) Könnten Sie mir helfen? (2) Dürfte ich fragen? (3) Hätten Sie Zeit?

● 3-2. 「もし～なら」を作る

(1) (時間がある／もっと学ぶ) Wenn ich Zeit ____, ____, ich mehr lernen. (2) (会員である／仲間がいる) Wenn Sie Mitglied ____, ____, Sie Freunde. (3) (心が鏡である／真理が見える) Wenn das Herz wie ein Spiegel ____, ____, man die Wahrheit sehen.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手に時間を頂く。Könnten Sie ...? で始め、
断られたら Das ist in Ordnung. と気持ちよく引く。

場面 B 相手に、会員になった場合の姿を Wenn Sie ... wären, ... で描いてみせる。
押しつけないこと。一つだけ描いて、あとは黙る。

場面 C 相手に本を贈る。Dürfte ich Ihnen ein Buch schenken? と尋ねてから渡す。

★ 場面 B で、二つ以上のことを言わないこと。
 「もし～なら」を並べ立てると、勧誘になる。
 一つだけ描いて黙る。あとは相手の想像に委ねる。

5. 伝道メモ —— 距離を置くという敬意

接続法第2式は、距離の文法である。現実から一步離れ、相手から一步離れる。その距離が、丁寧さと敬意になる。

伝道において、いちばん失われやすいのが、この距離である。熱心であればあるほど、相手との距離を詰めたくなる。しかし詰められた側は、押されていると感じる。

「決して急かしません」——Ich würde nie drängen. この一文を、心から言えるかどうか。それが伝道者の成熟度を測る物差しである。

御法話「悪魔の嫌うこと」には、こう説かれている。

「正直でうそをつかずに生きている人は、ちょうど、よく磨いた鏡のようなものだ」
 《御法話「悪魔の嫌うこと」(2007年12月)》

鏡は、こちらから何かを押しつけない。ただ、映すだけである。そして映された人は、自分で自分を見て、自分で決める。接続法第2式は、まさに「鏡の文法」である。断定せず、可能性だけを差し出し、判断は相手に返す。

Wenn Ihr Herz wie ein Spiegel wäre, könnten Sie die Wahrheit klar sehen. JK25-7

——そう言ったあとは、黙って待つ。それが、この回で学ぶ最後の技術である。

会話 第26回 「もっと大切なもの」を示す

【第26回（後期）】

直前の時間の文法は 第14章「比較変化」

この回のねらい

1. 比較級・最上級を使って、価値の順序を示せる
2. so ... wie で、同等のものを並べられる
3. 相手を否定せずに、より大切なものへ導ける

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、仕事と信仰のどちらを取るべきかで悩んでいる。

Anna: Meine Arbeit ist wichtig. Aber ich habe keine Zeit für den Tempel. JK26-1

仕事は大切です。でも支部に行く時間がありません。

Sie: Ihre Arbeit ist wirklich wichtig. Das verstehe ich. JK26-2

お仕事は本当に大切です。よく分かります。

Anna: Aber Sie denken, der Glaube ist wichtiger. JK26-3

でもあなたは、信仰のほうが大切だと考えているのでしょうか。

〈英〉 But you think that faith is more important.

Sie: Ich denke, der Glaube macht die Arbeit besser. JK26-4

私は、信仰が仕事をより良くすると考えています。

〈英〉 I think that faith makes the work better.

Anna: Wie meinen Sie das? JK26-5

どういう意味ですか。

Sie: Der Polarstern steht am höchsten. Er bewegt sich nie. JK26-6

北極星はいちばん高いところにあります。決して動きません。

〈英〉 The Pole Star stands highest. It never moves.

Sie: Darum finden die Menschen ihren Weg. JK26-7

だから人々は自分の道を見つげられるのです。

《北極星のように、人間から見るとはるか遠く、手の届かないところにある「仏神の心」を基準として生きることによって、人びとの心が一つに定まります

——『繁栄の法』第3章》

Anna: Der Glaube ist also wie ein Stern? JK26-8

では信仰は、星のようなものですか。

Sie: Ja. Und diese Liebe leuchtet länger als ein Feuer. JK26-9

はい。そしてこの愛は、火よりも長く光り続けます。

〈英〉 Yes. And this love shines longer than a fire.

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 比較級・最上級 —— 英語とそのまま同じ

ドイツ語	英語
gut – besser – best-	good – better – best
viel – mehr – meist-	much – more – most
groß – größer – größt-	great – greater – greatest
hoch – höher – höchst-	high – higher – highest
lang – länger – längst	long – longer – longest

★ 英語の不規則比較変化が、そのまま使える。覚え直す必要はない。

● 2-2. 比較する

ドイツ語	日本語
Der Glaube ist wichtiger als das Geld. JK26-10	信仰はお金より大切です
Diese Liebe leuchtet länger als ein Feuer. JK26-11	この愛は火より長く光ります
Der Polarstern steht am höchsten. JK26-12	北極星がいちばん高いところにあります
Das Herz ist so wichtig wie der Körper. JK26-13	心は体と同じくらい大切です

- ★ 比較は als (英語の than)、同等は so ... wie (英語の as ... as)。
 ✕ wichtiger wie das Geld ○ wichtiger als das Geld
 ★ ドイツ語では、長い語でも more を使わない。
 ○ interessanter ✕ mehr interessant
 英語の「短い語は -er、長い語は more」という線引きが、ドイツ語にはない。

● 2-3. 否定せずに導く型

ドイツ語	日本語
Das ist wirklich wichtig. JK26-14	それは本当に大切です
Das verstehe ich. JK14-14	よく分かります
Und es gibt etwas, das noch tiefer geht. JK26-16	そして、もっと深いところにあるものがあります
Der Glaube macht die Arbeit besser. JK26-17	信仰は仕事をより良くします

- ★ 「A より B が大切」と言わないこと。
 「A も大切です。そして B は A をより良くします」と言う。
 相手の価値を否定した瞬間、その人は聞くのをやめる。

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) Der Glaube ist ____ als das Geld. (wichtiger) (2) Diese Liebe leuchtet ____ als ein Feuer. (länger) (3) Der Polarstern steht _____. (am höchsten) (4) Das Herz ist ____ wichtig ____ der Körper. (so / wie) (5) Der Glaube macht die Arbeit _____. (besser)

● 3-1. 「A も大切、そして B は A をより良くする」

次の型で3つ作りなさい。

____ ist wirklich wichtig. Und der Glaube macht ____ besser.

例：die Arbeit (仕事) / die Familie (家族) / die Gesundheit (健康)

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が Meine Arbeit ist wichtiger als alles. (仕事は何より大切だ) と言う。

あなたは否定せず、Das verstehe ich. から始めて、

Der Glaube macht die Arbeit besser. と返す。

場面 B 北極星のたとえで、変わらない基準の意味を説明する。

場面 C 相手の大切にしているものを一つ聞き出し、

それを so ... wie で信仰と並べてみせる。

- ★ 場面 A が今日の核心である。
 比較級は、相手を否定するための道具ではない。
 相手が大切にしているものを、より輝かせるための道具である。

5. 伝道メモ —— 動かない星があるということ

『繁栄の法』第3章には、次のように説かれている。

「北極星のように、人間から見るとはるか遠く、手の届かないところにある『仏神の心』を基準として生きることによって、人びとの心が一つに定まります」

《『繁栄の法』第3章「繁栄のための考え方」／1人間には「信仰の本能」がある》

北極星がありがたいのは、明るいからではない。動かないからである。動かない一点があるからこそ、船乗りは自分がどこにいるかを知ることができる。

信仰も同じである。信仰が仕事や家族に取って代わるのではない。信仰という動かない一点があるから、仕事も家族も、正しい位置に置けるのである。

だから伝道場で、相手に何かを捨てさせる必要はない。むしろ逆で、相手が大切にしているものを、もっと大切にできるようになる——そう伝えるのが正しい。

もう一つ、灯台のたとえも覚えておきたい。

「単に自分の周りにいる人だけを照らすのではなく、時代を超え、地域を超えて、灯台の光のごとく光りつづける愛、そういう愛が『存在の愛』です」

《『幸福の科学とは何か』第4章「与える愛」／3愛に段階あり》

Der Polarstern steht am höchsten. Er bewegt sich nie. JK26-6

Diese Liebe leuchtet länger als ein Feuer. JK14-16

会話 第27回 「～する人」を語る

【第27回（後期）】

直前の時間の文法は 第15章「関係文」

この回のねらい

1. 関係代名詞を使って、人物や物を具体的に描ける
2. 「真理を求める人」という言い方で、相手を位置づけられる
3. 抽象論を、具体的な人の姿に変えて伝えられる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、支部で会った人たちのことを話す。

Anna: Im Tempel habe ich einen Mann getroffen, der sehr ruhig war. JK27-1

支部で、とても穏やかな男性に会いました。

〈英〉 At the temple I met a man who was very calm.

Sie: Das ist Herr Müller. Er ist ein Mensch, der jeden Tag betet. JK27-2

ミュラーさんですね。毎日祈っている人です。

〈英〉 That is Mr. Müller. He is a person who prays every day.

Anna: Er hat mir ein Buch gegeben, das ich noch nicht gelesen habe. JK27-3

まだ読んでいない本をくださいました。

Sie: Das Buch, das er Ihnen gegeben hat, ist sein Lieblingsbuch. JK27-4

彼があなたに渡した本は、彼のいちばん好きな本です。

Anna: Warum gibt er es weg? JK27-5

なぜ手放すのですか。

Sie: Wer die Wahrheit findet, will sie weitergeben. JK27-6

真理を見いだした人は、それを人に伝えたいのです。

〈英〉 Whoever finds the Truth wants to pass it on.

Anna: Und ich? Ich bin ein Mensch, der nichts weiß. JK27-7

私は？ 私は何も知らない人間です。

Sie: Nein. Sie sind ein Mensch, der fragt. Das ist der Anfang. JK27-8

いいえ。あなたは問う人です。それが始まりなのです。

〈英〉 No. You are a person who asks. That is the beginning.

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 関係代名詞

	男性	女性	中性	複数
1 格	der	die	das	die
3 格	dem	der	dem	denen
4 格	den	die	das	die

ドイツ語	日本語
der Mensch, der die Wahrheit sucht JK27-9	真理を求める人
der Mensch, den ich suche JK27-10	私が探している人
das Buch, das ich lese JK27-11	私が読んでいる本
die Menschen, die hier beten JK27-12	ここで祈っている人々

★覚え方：性と数は、外（先行詞）を見る。格は、中（関係文）を見る。

英語の who / whose / whom の使い分けと同じ二段構えである。

● 2-2. ドイツ語ならではの3点

1. コンマが必須。制限用法でも必ず打つ。
2. 動詞は文末。der Mensch, der die Wahrheit sucht
3. 省略できない。英語は the book (that) I read と落とせるが、ドイツ語は不可。

● 2-3. wer —— 「～する人は」

ドイツ語	日本語	英語
Wer die Wahrheit sucht, findet sie. ♪15-16	真理を求める者は、それを見いだす	Whoever seeks the Truth finds it.
Wer gibt, bekommt. ♪K27-14	与える者は、受け取る	Whoever gives, receives.

★ wer で始まる文は、格言のような響きを持つ。伝道場で強く効く。

● 2-4. 人を「位置づける」言い方

ドイツ語	日本語
Sie sind ein Mensch, der fragt. ♪K27-15	あなたは問う人です
Sie sind ein Mensch, der sucht. ♪K27-16	あなたは求める人です
Sie sind ein Mensch, der helfen will. ♪K27-17	あなたは人を助けたい人です

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) der Mensch, ____ die Wahrheit sucht (der) (2) der Meister, ____ ich suche (den) (3) das Buch, ____ ich lese (das) (4) die Menschen, ____ hier beten (die) (5) ____ die Wahrheit sucht, findet sie. (Wer)

● 3-1. 相手を関係文で描く

隣の人を、関係文を使って3通りに描きなさい。

Sie sind ein Mensch, der ____.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 支部で会った人を、関係文を使って3人紹介する。

Er ist ein Mensch, der ... の型を使う。

場面 B 相手が **Ich bin ein Mensch, der nichts weiß.** (何も知らない人間だ) と卑下する。

あなたは **Sie sind ein Mensch, der fragt.** と言い直してあげる。

場面 C **Wer ..., ...** の形で、格言のような文を3つ作って言う。

★ 場面 B が今日の中心である。

人は、自分をどう名づけるかで生き方が決まる。

「何も知らない人」を「問う人」と言い直してあげるとは、その人の自己像を書き換える手助けである。

5. 伝道メモ —— 蟻ではなく、問う人として

『悟りの発見』第3章には、次のたとえが説かれている。

「そういうことを知らないということは、ちょうど地面の上を試行錯誤しながら歩いている蟻のような存在にしか過ぎないということです」

《『悟りの発見』第3章「悟りの発見」／3 悟りへのステップ》

Der Mensch, der nur an sich denkt, ist wie eine Ameise, die auf dem Boden läuft. ♪15-14

自分のことしか考えない人は、地面の上を歩いている蟻のようなものである。

蟻は懸命に歩いている。ただ、地面しか見えていない。そして蟻を蟻でなくするのは、顔を上げて問うことである。

この回で学んだ関係文は、人に名前をつける文法である。「あの人」ではなく「毎日祈っている人」。「私」ではなく「真理を求める人」。

伝道場で、相手が自分を低く名づけたとき、あなたは関係文を使って、その名前を書き換えることができる。

Sie sind ein Mensch, der fragt. Das ist der Anfang.

あなたは問う人です。それが始まりなのです。

そして最後に、この一文を胸に置いておきたい。

Wer die Wahrheit sucht, findet sie. ♪15-16

真理を求める者は、それを見いだす。

会話 第28回 「～するために生きる」

【第28回（後期）】

直前の時間の文法は 第16章「zu不定詞句」

この回のねらい

1. um ... zuを使って、生きる目的を語れる
2. 「～することは大切です」という一般論を作れる
3. 相手に「あなたは何のために生きるか」を問える

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが、人生の目的について問う。

Anna: Warum leben wir? ♪T2-10

私たちは何のために生きているのでしょうか。

〈英〉Why do we live?

Sie: Wir leben, um das Herz zu polieren. ♪16-14

私たちは、心を磨くために生きています。

〈英〉We live in order to polish the heart.

Anna: Nur dafür? ♪K28-3

それだけのために？

Sie: Es ist wichtig, das Herz wie einen Spiegel zu putzen. ♪16-13

心を鏡のように磨くことが大切なのです。

〈英〉It is important to polish the heart like a mirror.

Anna: Und dann? ♪K12-7

それから？

Sie: Und dann leben wir, um die Wahrheit weiterzugeben. ♪K28-6

そして私たちは、真理を伝えるために生きるのです。

〈英〉And then we live in order to pass on the Truth.

Anna: Das ist Ihre Antwort. Und meine? ♪K28-7

それはあなたの答えですね。では私の答えは？

Sie: Das entscheiden Sie. Aber es ist nicht leicht, allein zu suchen. ♪K28-8

それはあなたがお決めになることです。でも、一人で探すのは簡単ではありません。

〈英〉That you decide. But it is not easy to search alone.

Anna: Ohne zu suchen, findet man nichts. ♪K28-9

探さなければ、何も見つかりませんね。

〈英〉Without searching, one finds nothing.

Sie: Genau. Fangen wir an! ♪K28-10

そのとおりです。さあ、始めましょう。

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. zu 不定詞句の3つの用法

用法	ドイツ語	英語
～すること	das Herz zu polieren	to polish the heart
～するために	um das Herz zu polieren	in order to polish the heart
～することなしに	ohne zu suchen	without searching

ドイツ語	日本語
Wir leben, um das Herz zu polieren. ♪16-14	私たちは心を磨くために生きています
Wir lernen Deutsch, um die Wahrheit weiterzugeben. ♪K0-1	真理を伝えるためにドイツ語を学びます
Es ist wichtig, jeden Tag zu beten. ♪K28-12	毎日祈ることが大切です
Es ist nicht leicht, allein zu suchen. ♪K28-13	一人で探すのは簡単ではありません
Ohne zu suchen, findet man nichts. ♪K28-9	探さなければ、何も見つかりません

● 2-2. 英語との違い —— 語順が逆になる

ドイツ語	英語
die Wahrheit zu lernen	to learn the Truth

ドイツ語	英語
um das Herz zu polieren	in order to polish the heart

英語は「to → 動詞 → 目的語」、ドイツ語は「目的語 → zu → 動詞」。まるごと逆順になる。ここが最大のつまずきである。

● 2-3. 分離動詞では zu が「間」に入る

不定詞	zu 不定詞
aufstehen	auf-zu-stehen
anfangen	an-zu-fangen
weitergeben	weiter-zu-geben

★ 過去分詞の auf-ge-standen と、まったく同じ入り方である。

前つづりと本体の間が、部品の定位置と覚えること。

★ 話法の助動詞に zu は付けない。

○ Ich kann gehen. X Ich kann zu gehen.

英語で want to go と言うので、つい付けたくなるが誤りである。

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) Wir leben, ____ das Herz ____ polieren. (um / zu) (2) Es ist wichtig, jeden Tag ____ beten. (zu) (3) Es ist nicht leicht, früh _____. (aufzustehen) (4) ____ suchen, findet man nichts. (Ohne / zu) (5) Wir lernen Deutsch, um die Wahrheit _____. (weiterzugeben)

● 3-1. 「私は～するために生きています」

自分の言葉で3つ作りなさい。

Ich lebe, um ____ zu ____.

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が Warum leben wir? と問う。

あなたは Wir leben, um ... zu ... で2文答える。

場面 B 相手が Und meine Antwort? (私の答えは?) と返す。

答えを与えないこと。Das entscheiden Sie. と返し、

Aber es ist nicht leicht, allein zu suchen. と手を差し出す。

場面 C 互いに Warum lernen Sie Deutsch? と尋ね合い、

um ... zu ... の形で答える。

★ 場面 B で、相手の人生の目的を決めてあげないこと。

目的は、与えられるものではなく、見いだされるものである。

伝道者にできるのは、一人で探さなくてよいと伝えることだけである。

5. 伝道メモ —— 何のために、ドイツ語を学ぶのか

英語の to は、もともと「～へ向かって」という前置詞であった。I have work to do. (すべき仕事がある) という言い方に、その感覚が残っている。

ドイツ語の zu も同じである。zu der Kirche (教会へ) も、die Wahrheit zu lernen (真理を学ぶこと) も、根は一つの「方向」である。

つまり um ... zu ... は、人生の向きを語る文法なのだ。

この一年、あなたはドイツ語を学んできた。文法を覚え、発音を直し、たとえを暗唱してきた。しかしそれは、何のためだったか。

試験のためではない。資格のためでもない。

Wir lernen Deutsch, um die Wahrheit weiterzugeben. JK0-1

私たちは、真理を伝えるためにドイツ語を学ぶ。

公式ドイツ語版の経典には、この世をこう表現した一節がある。

Diese Welt ist für eure Seele wie eine Schule.

この世は魂にとっての学校である。

《『真実への目覚め』第2章「常勝思考の力」／3 常勝思考の本質とは》

学校には、卒業がある。そして卒業とは、教わる側から、伝える側に回ることである。

次の第29回で心のありようを学び、第30回であなたは、「伝道者を育てる」という最後の課題に向かう。

Wir leben, um das Herz zu polieren. Und wir lernen, um weiterzugeben.

会話 第29回 美しい心、正しい生き方

【第29回（後期）】

直前の時間の文法は 第17章「形容詞の変化」

この回のねらい

1. 形容詞に正しい語尾を付けて、心のありようを描ける
2. 形容詞の名詞化で「～な人」を簡潔に言える
3. 抽象的な徳を、具体的な言葉にして伝えられる

1. 今日の会話（Dialog）

場面：アンナさんが「よい人になりたい」と言う。

Anna: Ich möchte ein guter Mensch sein. Aber was ist ein guter Mensch? JK29-1

よい人間になりたいのです。でも、よい人間とは何でしょうか。

〈英〉I would like to be a good person. But what is a good person?

Sie: Ein reines Herz ist wie ein heller Diamant. JK17-12

清らかな心は、輝くダイヤモンドのようです。

〈英〉A pure heart is like a bright diamond.

Anna: Und wie wird das Herz rein? JK29-3

どうすれば心は清らかになるのですか。

Sie: Der Ehrliche sieht die Wahrheit. Das ist der erste Schritt. JK29-4

正直な人は真理を見ます。それが第一歩です。

〈英〉The honest person sees the truth. That is the first step.

Anna: Nur ehrlich sein? JK29-5

正直であるだけで？

Sie: Ja. Reines Wasser spiegelt den Himmel. Schmutziges Wasser nicht. JK29-6

はい。清らかな水は空を映します。濁った水は映しません。

〈英〉Pure water reflects the sky. Dirty water does not.

Anna: Das ist ein schönes Bild. JK29-7

美しいとえですね。

Sie: Das reine Herz kennt keine Angst. Das ist das Ziel. JK29-8

清らかな心は恐れを知りません。それが目指すところです。

〈英〉The pure heart knows no fear. That is the goal.

Anna: Ich möchte ein solches Herz haben. JK29-9

私も、そのような心を持ちたいです。

2. 使えるフレーズ（Redemittel）

● 2-1. 心を描く形容詞

ドイツ語	日本語	ドイツ語	日本語
rein	清らかな	hell	明るい・輝く
ehrlich JK29-10	正直な	ruhig	穏やかな
stark JK29-11	強い	mutig	勇敢な
freundlich JK29-12	親切的な	dankbar	感謝している
frei	自由な	wahr	真実の

● 2-2. 語尾の付け方 ―― 原則はただ一つ

その名詞の性・数・格を、冠詞が示しているか？

示しているなら → 形容詞は手を抜く（弱変化：-e か -en）

示していないなら → 形容詞が代わりに示す（強変化）

例	冠詞は格を示すか	形容詞
das reine Herz JK29-13	○ <i>das</i> が中性 1 格を明示	手を抜く（-e）
ein reines Herz JK29-14	△ <i>ein</i> は男性か中性か不明	補う（-es）
reines Wasser JK29-15	× 冠詞がない	全部担う（-es）

「格の情報は、名詞句のなかで一度だけ示せばよい」——これがドイツ語の考え方である。3つの変化表を丸暗記する必要はない。役割分担として理解すること。

● 2-3. 形容詞の名詞化 —— 「～な人」

ドイツ語	日本語	英語
der Ehrliche ♪K29-16	正直な人	the honest person
die Armen ♪K29-17	貧しい人々	the poor
das Gute ♪K29-18	善なるもの	the good

★ 英語では *the poor, the rich* など限られた語にしか使えないが、ドイツ語はどの形容詞でも名詞化できる。しかも大文字で書き始める。「～な人」と言いたいとき、いちいち *Mensch* を足さなくてよい。

● 2-4. 述語のときは語尾なし

ドイツ語	日本語
Das Herz ist rein. ♪K29-19	心は清らかです
Der Mensch ist ehrlich. ♪K29-20	その人は正直です

ここは英語とまったく同じである。語尾が要るのは、名詞の前に置くときだけ。

3. 言い換え練習 (Variationen)

(1) ein ____ Herz (reines) (2) das ____ Herz (reine) (3) ____ Wasser (Reines) (4) ein ____ Diamant (heller) (5) der ____ Mensch (ehrliche)

● 3-1. 「～な心」を5つ

ein ____ Herz の形で、5つ作りなさい。

例：reines (清らかな) / starkes (強い) / ruhiges (穏やかな) / dankbares (感謝している) / freies (自由な)

4. ロールプレイ (Rollenspiel)

2人1組。必ず役を交代すること。

場面 A 相手が **Was ist ein guter Mensch?** と問う。

形容詞を3つ以上使って、具体的に答える。

場面 B 相手が **Ich bin kein guter Mensch.** (私はよい人間ではない) と言う。

あなたは **Sie sind ein Mensch, der fragt.** (第27回) と受け、

Das reine Herz kennt keine Angst. と続ける。

場面 C 相手のよいところを、形容詞を使って3つ言葉にして伝える。

★ 場面 C を、必ず本気でやること。

人のよいところを言葉にするのは、練習しないとできない。

そしてこれは、伝道でもっとも人を動かす技術である。

5. 伝道メモ —— 磨かれた鏡のように

御法話「悪魔の嫌うこと」には、こう説かれている。

「正直でうそをつかずに生きている人は、ちょうど、よく磨いた鏡のようなものだ」

《御法話「悪魔の嫌うこと」(2007年12月)》

鏡は、それ自体には何の色もない。だからこそ、目の前のものをありのままに映す。正直な人の心も同じである。

公式ドイツ語版の『地獄の法』にも、対応する言葉がある。

Bitte bemühen Sie sich ..., Ihren Geist zu reinigen und ihn so klar wie einen Spiegel zu machen.

心を清め、鏡のように澄んだものにしよう努めてください。

この回で学んだ形容詞の変化は、面倒に見える。しかしその背後にある考え方は、実はとても簡素である。

必要な情報は、一度だけ示せばよい。

冠詞が仕事をしているなら、形容詞は休む。冠詞がないなら、形容詞が引き受ける。役割分担である。

伝道もまた、同じではないだろうか。誰かがすでに語っているなら、自分は黙っていてよい。誰も語らないなら、自分が引き受ける。

そして、いちばん大切なこと。美しい心は、語るものではなく、映るものである。

Ein reines Herz ist wie ein heller Diamant. ♪17-12

Reines Wasser spiegelt den Himmel. ♪17-14

会話 第30回 学年末発表 —— 伝道者を育てる

【第30回（後期）】

直前の時間の文法は 学年末のまとめと試験

この回のねらい

1. 一年で学んだすべてを使って、人を励まし、送り出せる
2. 「教わる側」から「伝える側」へ立場を移す
3. 自分が育てた人が、また次の人に伝えられるようにする

1. 学年末課題

2人1組。次の場面を、ドイツ語のみで演じる。時間は6分。

あなたはドイツで伝道をしている。

半年前にあなたが伝道した人（アンナさん）が、こう相談してきた。

「自分も誰かに伝えたい。でも、どう話せばいいかわからない」

あなたは、その人に何を伝え、どう送り出すか。

2. 模範例（Muster）

Anna: Ich möchte auch von der Wahrheit sprechen. Aber ich kann es nicht. JK30-1

私も真理について話したいのです。でも、できません。

Sie: Warum denken Sie, dass Sie es nicht können? JK30-2

なぜ、できないと思われるのですか。

Anna: Ich weiß zu wenig. Ich bin kein guter Mensch. JK30-3

知っていることが少なすぎます。よい人間でもありません。

Sie: Sie müssen nicht perfekt sein. Ich war auch nicht perfekt. JK30-4

完璧である必要はありません。私も完璧ではありませんでした。

Sie: Früher war ich allein. Ich hatte viel Angst. Ich konnte nichts sehen. JK30-5

以前の私は孤独でした。不安ばかりでした。何も見えませんでした。

Sie: Aber jemand hat mit mir gesprochen. Und ich bin nicht mehr allein. JK30-6

でも、誰かが私に話しかけてくれました。そして私は、もう孤独ではありません。

Anna: Was soll ich sagen? JK30-7

何を言えばいいのでしょうか。

Sie: Sagen Sie, was Sie selbst erlebt haben. Das ist genug. JK30-8

ご自身が体験されたことを言ってください。それで十分です。

〈英〉 Say what you yourself have experienced. That is enough.

Anna: Und wenn sie nicht zuhören? JK30-9

もし聞いてもらえなかったら？

Sie: Die Sonne scheint für alle. Sie fragt nicht. JK5-7

太陽はすべての人を照らします。太陽は問いません。

Sie: Wenn jemand nicht zuhört, ist das in Ordnung. Sie haben ein Feld bestellt. JK30-11

誰かが聞かなくても、それでいいのです。あなたは畑を耕したのでから。

Anna: Ein Feld? JK30-12

畑ですか。

Sie: Ja. Jedes Herz ist ein Feld. Wir säen. Gott lässt wachsen. JK30-13

はい。どの心も畑です。私たちは種を蒔きます。育てるのは神です。

〈英〉 Yes. Every heart is a field. We sow. God makes it grow.

Anna: Ich habe Angst, dass ich Fehler mache. JK30-14

間違えるのが怖いのです。

Sie: Ich mache jeden Tag Fehler. Aber ich bin nie stehen geblieben. JK30-15

私は毎日間違えています。でも、決して立ち止まりませんでした。

Sie: Ich bin wie eine Schildkröte gegangen. Sie können das auch. JK30-16

私は亀のように歩んできました。あなたにもできます。

Anna: Und wenn ich es nicht schaffe? JK30-17

もしできなかったら？

Sie: Dann komme ich zu Ihnen. Sie sind nicht allein. JK30-18

そのときは私が行きます。あなたは一人ではありません。

Sie: Vergessen Sie nie: tief in Ihrem Herzen wohnt eine Buddha-Natur, strahlend wie ein Diamant. JK30-19

決して忘れないでください。あなたの心の奥深くには、

ダイヤモンドのように輝く仏性が宿っています。

《『反省の手引き』ドイツ語版》

Anna: Danke. Ich versuche es. JK30-20

ありがとう。やってみます。

Sie: Fangen wir an! JK17-14

さあ、始めましょう。

3. 必ず入れるべき要素

#	要素	使う文法
1	相手の不安を受けとめる	Ich verstehe. / Das ist in Ordnung.
2	「完璧でなくてよい」と荷を下ろす	Sie müssen nicht ...
3	自分の過去を語る	過去形 (war / hatte / konnte)
4	自分の変化を語る	現在完了形 (habe ... / bin ...)
5	たとえを1つ使う	畑・亀・鏡・ダイヤモンド・太陽
6	経典の一節を引く (書名つき)	引用
7	「もし〜なら」で想像させる	接続法第2式
8	相手を関係文で名づける	Sie sind ein Mensch, der ...
9	目的を示す	um ... zu ...
10	最後に一緒に始める	Fangen wir an!

4. 評価の観点

観点	配点	見るところ
要素	30%	上の10要素がいくつ入っているか
文法	20%	一年で学んだ形が正しく使えているか
対話	20%	相手の言葉を受けてから話しているか
心	20%	押しつけていないか。送り出せているか
たとえ・引用	10%	自分の言葉で語れているか

★「対話」の配点に注意すること。

一方的に上手なドイツ語を話しても点は伸びない。

相手が言ったことを受けてから、自分の言葉を置く——これができているかを見る。

5. 伝道メモ ―― 種を蒔く者と、育てる者

一年が終わる。

最初の授業で、あなたは „Guten Tag!“ としか言えなかった。いまあなたは、迷っている人の話を聴き、自分の過去を語り、経典を引き、たとえを使って励まし、そして送り出すことができる。

これは、資格試験の合格よりもはるかに重い到達点である。

最後に、二つのことを申し添えたい。

一つめ。あなたは、結果を負わなくてよい。

大川隆法総裁は、心を畑にたとえられた。

「心は、たとえてみれば、畑のようなものだ」

《御法話「無我なる愛」／心の深耕》

公式ドイツ語版にも、対応する言葉がある。

Pflanzen Sie die Samen in Ihren eigenen Geist.

Bestellen Sie das Feld Ihres eigenen Geistes.

みずからの心の畑に種をまけ。みずからの心の畑を耕せ

《独文＝『若き日のエル・カンターレ』ドイツ語版／和文＝『若き日のエル・カンターレ』第4章「未知なる仏神」／5 霊界と相通する》

種を蒔くのは人であるが、育てるのは人ではない。あなたが伝えた人が信仰を持つかどうかは、あなたの手のなかにはない。あなたの仕事は、耕して、蒔くところまでである。

Wir säen. Gott lässt wachsen.

二つめ。あなたが育てた人が、次の人を育てる。

伝道の本当の完成は、あなたが百人に伝えることではない。あなたが伝えた一人が、また誰かに伝えられるようになることである。

そのとき、あなたの言葉は、あなたの口を離れて歩き始める。ドイツ語という船に乗って、あなたの知らない街の、あなたの知らない人のもとへ届く。

この教科書が目指してきたのは、そこである。

一年の最後に、この一文を。

Diese Welt ist für eure Seele wie eine Schule.

この世は魂にとっての学校である。

《『真実への目覚め』第2章「常勝思考の力」／3 常勝思考の本質とは》

学校には、卒業がある。そして卒業とは、教わる側から、伝える側に回ることである。

あなたは今日、卒業する。

Wir lernen Deutsch, um die Wahrheit weiterzugeben. ♪K0-1

Fangen wir an! ♪K17-14

第Ⅲ部

巻末付録

Anhang

語彙集・級別文法一覧・経典名句集・奏上文・伝道のアドバイス・
哲学の使命、そして「エル・カンターレ・ドイッチュ」。

付録 1～6 基礎資料集 —— 決まり文句・数字・動詞変化・用語集・文法用語・つまずき

付録 1 真理の決まり文句（あいさつ・実践のこぼ）

ドイツ語	意味
Guten Morgen!	おはようございます
Guten Tag!	こんにちは
Guten Abend!	こんばんは
Danke schön! / Vielen Dank!	ありがとうございます
Bitte schön!	どういたしまして／どうぞ
Wie geht es Ihnen? — Danke, gut.	お元気ですか? — はい、元気で
Liebe und Licht!	愛と光を!
Ich danke für alles.	すべてに感謝します
Zuerst geben wir Liebe.	まず、与える愛から始めます
Ich reflektiere jeden Abend über mich selbst.	私は毎晩、自分自身について反省します
Wer die Wahrheit sucht, findet sie.	真理を求める者は、それを見出す
Hab Mut!	勇気を持て!
Gib niemals auf!	決して諦めるな!
Möge die Welt glücklich werden!	世界が幸福になりますように

付録 2 数字と時刻

● 基数

0-9	10-19	20-90 (10 の位)
0 null	10 zehn	20 zwanzig
1 eins	11 elf	30 dreißig
2 zwei	12 zwölf	40 vierzig
3 drei	13 dreizehn	50 fünfzig
4 vier	14 vierzehn	60 sechzig
5 fünf	15 fünfzehn	70 siebzig
6 sechs	16 sechzehn	80 achtzig
7 sieben	17 siebzehn	90 neunzig
8 acht	18 achtzehn	100 (ein)hundert
9 neun	19 neunzehn	1000 (ein)tausend

- ・ 21 以上は「1 の位 + und + 10 の位」: 21 = **einundzwanzig**、45 = **fünfundvierzig**
- ・ 独検頻出: 16 **sechzehn** (s の後の chs ではない)、17 **siebzehn** (en が落ちる)、30 **dreißig**

● 時刻

公式 (24 時間制)	口語 (12 時間制)
Es ist 8.00 Uhr. — acht Uhr	acht (Uhr)
8.15 — acht Uhr fünfzehn	Viertel nach acht (8 時 15 分)
8.30 — acht Uhr dreißig	halb neun (※「9 時へ向かう半分」= 8 時半!)
8.45 — acht Uhr fünfundvierzig	Viertel vor neun (9 時 15 分前)
8.05 — acht Uhr fünf	fünf nach acht
7.55 — sieben Uhr fünfundfünfzig	fünf vor acht

- ・ Wie spät ist es? / Wie viel Uhr ist es? (いま何時ですか)
- ・ Um wie viel Uhr beginnt das Seminar? — **Um zehn Uhr**. (何時に始まりますか——10 時に)

● 曜日・月・季節 (すべて男性名詞)

曜日		月		季節	
月曜	der Montag	1 月	der Januar	春	der Frühling
火曜	der Dienstag	2 月	der Februar	夏	der Sommer
水曜	der Mittwoch	3 月	der März	秋	der Herbst
木曜	der Donnerstag	4 月	der April	冬	der Winter
金曜	der Freitag	5 月	der Mai		
土曜	der Samstag	6 月	der Juni		
日曜	der Sonntag	7 月	der Juli		
		8 月	der August		
		9 月	der September		
		10 月	der Oktober		
		11 月	der November		
		12 月	der Dezember		

- ・「～曜日に」「～月に」「～季節に」は **am Montag** (*an dem*) / **im Mai**・**im Sommer** (*in dem*)。
- ・「毎週月曜に」は **montags** (-s で副詞になる。第 14 章のコラム参照)。
- ・曜日・月・季節は**すべて男性名詞**。まとめて覚えると性に迷わない。

● 序数 (～番目の)

数	序数	数	序数
1	der erste	7	der siebte
2	der zweite	8	der achte
3	der dritte	10	der zehnte
4	der vierte	20	der zwanzigste
5	der fünfte	21	der einundzwanzigste
6	der sechste	100	der hundertste

- ・1～19 は -t, 20 以上は -st を付ける。例外は erste・dritte・siebte・achte。
- ・日付は序数で言う: **der 1. Mai** (読み: der erste Mai) / **am 3. Oktober** (am dritten Oktober)。
- ・序数は形容詞なので、第 17 章の語尾変化をする。

付録 3 注意すべき動詞変化一覧表 (本書に登場した主要動詞)

不定詞	意味	現在(du / er)	過去基本形	過去分詞(完了の助動詞)
sein	～である	bist / ist	war	gewesen (sein)
haben	持つ	hast / hat	hatte	gehabt (haben)
werden	～になる	wirst / wird	wurde	geworden (sein)
geben	与える	gibst / gibt	gab	gegeben (haben)
helfen	助ける	hilfst / hilft	half	geholfen (haben)
sprechen	話す	sprichst / spricht	sprach	gesprochen (haben)
sehen	見る	siehst / sieht	sah	gesehen (haben)
lesen	読む	liest / liest	las	gelesen (haben)
nehmen	取る	nimmst / nimmt	nahm	genommen (haben)
essen	食べる	isst / isst	aß	gegessen (haben)
fahren	(乗り物で) 行く	fährst / fährt	fuhr	gefahren (sein)
schlafen	眠る	schläfst / schläft	schief	geschlafen (haben)
gehen	行く	gehst / geht	ging	gegangen (sein)
kommen	来る	kommst / kommt	kam	gekommen (sein)
stehen	立つ	stehst / steht	stand	gestanden (haben)
finden	見つける	findest / findet	fand	gefunden (haben)
bleiben	とどまる	bleibst / bleibt	blieb	geblieben (sein)
wachsen	成長する	wächst / wächst	wuchs	gewachsen (sein)
denken	考える	denkst / denkt	dachte	gedacht (haben)
bringen	もたらす	bringst / bringt	brachte	gebracht (haben)
wissen	知っている	weißt / weiß	wusste	gewusst (haben)
können	～できる	kannst / kann	konnte	gekonnt (haben)
müssen	～ねばならない	musst / muss	musste	gemusst (haben)
wollen	～したい	willst / will	wollte	gewollt (haben)
sollen	～すべきだ	sollst / soll	sollte	gesollt (haben)
dürfen	～してよい	darfst / darf	durfte	gedurft (haben)
mögen	～を好む	magst / mag	mochte	gemocht (haben)

付録 4 独和 真理用語集 (Wörterbuch der Wahrheit)

〔公式訳〕の印が付いた語は、幸福の科学国際本部の公式ドイツ語用語集 (Glossary EN-DE) および公式ドイツ語版經典の本文で実際に使われている訳語です。ドイツ語で教えを語るときは、この訳語を優先して使ってください。(印のない語は、本書で学習用に用いた一般語です。)

● 4-1. 根本の教え

ドイツ語	性	日本語	
die Wahrheit	女	真理	〔公式訳〕
die Wahrheit Buddhas	女	仏法真理	
die Wahrheit erforschen	一	真理を探究する	〔公式訳〕
El Cantare	一	エル・カンターレ	〔公式訳〕
der Glaube an den Gott El Cantare	男	エル・カンターレ信仰	〔公式訳〕
Happy Science	一	幸福の科学 (組織名は英語のまま)	〔公式訳〕
die Erleuchtung	女	悟り	〔公式訳〕
der Weltlehrer	男	世界教師	〔公式訳〕
die Lehre	女	教え・教義	
das Dharma-Rad	中	法輪	〔公式訳〕

● 4-2. 四正道と八正道

ドイツ語	性	日本語	
Liebe, Weisheit, Selbstreflexion und Fortschritt	—	愛・知・反省・発展（四正道）	[公式訳]
der Vierfache Pfad	男	四正道	[公式訳]
die Liebe	女	愛	[公式訳]
die Weisheit	女	知・智慧	[公式訳]
die Selbstreflexion	女	反省	[公式訳]
der Fortschritt	男	発展・進歩	[公式訳]
der Achtfache Pfad	男	八正道	
die Erforschung des rechten Geistes	女	正しき心の探究	[公式訳]
Rechtes Sehen	中	正見	[公式訳]
Rechtes Denken	中	正思	[公式訳]
Rechte Rede	女	正語	[公式訳]
Rechtes Tun	中	正業	[公式訳]
Rechtes Leben	中	正命	[公式訳]
Rechte Anstrengung	女	正精進	[公式訳]
Rechte Meditation	女	正定	[公式訳]
Rechter Wille	男	正念	[公式訳]

★注意

四正道の「知」は、Wissen（知識）ではなく Weisheit（智慧）が公式訳です。

また「正しき心の探究」は Erkundung ではなく Erforschung です。

どちらも意味は近いのですが、公式ドイツ語版経典で実際に使われているのは後者です。

● 4-3. 愛の教え

ドイツ語	性	日本語	
gebende Liebe	女	与える愛	[公式訳]
nehmende Liebe	女	奪う愛	[公式訳]
vergebende Liebe	女	許す愛	[公式訳]
inspirierende Liebe	女	生かす愛	[公式訳]
elementare Liebe	女	愛の原点・根源的な愛	[公式訳]
instinktive Liebe	女	本能的な愛	[公式訳]
personifizierte Liebe	女	存在の愛（愛そのものとなった人格）	[公式訳]
die Entwicklungsstufen der Liebe	複	愛の発展段階説	[公式訳]
die Barmherzigkeit	女	慈悲	[公式訳]
Gutes für dich selbst bringt Gutes für die anderen	—	自利利他	[公式訳]

● 4-4. 心と魂

ドイツ語	性	日本語	
der Geist	男	心・精神	[公式訳]
das Herz	中	心（ハート）	
die Seele	女	魂	
die Buddha-Natur	女	仏性	[公式訳]
die göttliche Natur	女	神性	[公式訳]
das Kind Gottes / die Kinder Gottes	中/複	神の子	[公式訳]
das Kind Buddhas / die Kinder Buddhas	中/複	仏の子	[公式訳]
das wahre Selbst	中	本当の自分・真我	[公式訳]
die Hauptseele	女	本体（意識）	[公式訳]
die Teilseele	女	分身	[公式訳]
die Seelengeschwister	複	魂のきょうだい	[公式訳]
der unerschütterliche Geist	男	不動心	[公式訳]
das unbesiegbare Denken	中	常勝思考	[公式訳]
die drei Grundübel	複	三毒	[公式訳]
Habgier, Wut, Verblendung	—	貪・瞋・痴	[公式訳]
die irdischen Leidenschaften	複	煩悩	[公式訳]

● 4-5. あの世と転生

ドイツ語	性	日本語	
die andere Welt	女	あの世	[公式訳]
die Welt nach dem Tod	女	死後の世界	[公式訳]
die spirituelle Welt	女	霊界	[公式訳]
das Jenseits	中	あの世（一般語としても可）	[公式訳]
diese Welt	女	この世	[公式訳]
der Himmel	男	天国	[公式訳]
die Reinkarnation	女	転生輪廻	[公式訳]
dieses Leben / das nächste Leben	中	今世／来世	[公式訳]

ドイツ語	性	日本語	
eine frühere Inkarnation	女	過去世	[公式訳]
das Schutzwesen	中	守護霊	[公式訳]
das Führungswesen	中	指導霊	[公式訳]
das Seelentraining	中	魂修行	[公式訳]
das Gesetz von Ursache und Wirkung	中	因果の理法	[公式訳]
die Vergänglichkeit aller weltlichen Dinge	女	諸行無常	[公式訳]
die Selbstlosigkeit aller Geschöpfe	女	諸法無我	[公式訳]
die perfekte Stille im Nirwana	女	涅槃寂靜	[公式訳]

★注意

「因果の理法」は **das Gesetz von Ursache und Wirkung** です（2 格の *der* ではありません）。
公式ドイツ語版經典に 27 回登場するのに対し、*der* を用いた形は 1 件も見あたりません。

● 4-6. 信仰生活と伝道

ドイツ語	性	日本語	
der Glaube	男	信仰	[公式訳]
das Gebet	中	祈り	[公式訳]
das Kigan	中	祈願	[公式訳]
die Meditation	女	瞑想	[公式訳]
die Missionsarbeit	女	伝道	[公式訳]
der Missionar	男	伝道者	[公式訳]
der Stützpunkt für die Missionsarbeit	男	拠点	[公式訳]
der Tempel	男	支部	[公式訳]
das Shoja	中	精舎	[公式訳]
der Haupttempel	男	総本山	[公式訳]
die Glückspflanzung	女	植福	[公式訳]
die Spende	女	お布施・献金	[公式訳]
Utopia / die Utopie	— / 女	ユートピア	[公式訳]
Liebe, Erleuchtung und die Erschaffung des Utopia	—	愛・悟り・ユートピア建設	[公式訳]
die Suche nach persönlicher Perfektion und die Suche nach der Rettung der Massen	—	上求菩提・下化衆生	[公式訳]
der Dharma-Vortrag	男	法話	
die Tugend	女	徳	[公式訳]
die Dankbarkeit	女	感謝	
der Mut	男	勇気	
das Licht	中	光	
ein hohes Ziel	中	高い志	

付録 5 英独 文法用語対照表

英語の授業で覚えた文法用語と、ドイツ語文法の用語を対応させておきます。辞書や参考書を引くときに役立ちます。

日本語	ドイツ語	英語
名詞	das Substantiv / das Nomen	noun
動詞	das Verb	verb
形容詞	das Adjektiv	adjective
副詞	das Adverb	adverb
冠詞	der Artikel	article
前置詞	die Präposition	preposition
接続詞	die Konjunktion	conjunction
代名詞	das Pronomen	pronoun
主語	das Subjekt	subject
目的語	das Objekt	object
1 格（主格）	der Nominativ	nominative（英: subject case）
2 格（属格）	der Genitiv	genitive（英: possessive, 's）
3 格（与格）	der Dativ	dative（英: indirect object）
4 格（対格）	der Akkusativ	accusative（英: direct object）
単数／複数	Singular / Plural	singular / plural
男性／女性／中性	Maskulinum / Femininum / Neutrum	masculine / feminine / neuter
不定詞	der Infinitiv	infinitive
過去分詞	das Partizip II	past participle
現在分詞	das Partizip I	present participle
規則変化動詞	schwache Verben（弱変化動詞）	regular verbs
不規則変化動詞	starke Verben（強変化動詞）	irregular verbs
分離動詞	trennbare Verben	separable verbs（英の句動詞に相当）
話法の助動詞	die Modalverben	modal verbs
過去形	das Präteritum	simple past
現在完了形	das Perfekt	present perfect
過去完了形	das Plusquamperfekt	past perfect
未来形	das Futur I	future

日本語	ドイツ語	英語
受動態	das Passiv	passive voice
直説法	der Indikativ	indicative
接続法第 1 式	der Konjunktiv I	(英: 仮定法現在の一部)
接続法第 2 式	der Konjunktiv II	subjunctive (If I were ...)
命令形	der Imperativ	imperative
主文	der Hauptsatz	main clause
副文	der Nebensatz	subordinate clause
関係文	der Relativsatz	relative clause
比較級／最上級	der Komparativ / der Superlativ	comparative / superlative
枠構造	die Satzklammer	(英語に対応語なし)
ウムラウト	der Umlaut	umlaut (英: man/men の母音変化)

★ドイツ語の呼び名に注目

英語で「不規則動詞 (irregular)」と呼ぶものを、ドイツ語では **starke Verben (強変化動詞)**、「規則動詞 (regular)」を **schwache Verben (弱変化動詞)** と呼びます。

「不規則＝でたらめ」ではなく「自分の力で母音を変えられる強い動詞」という見方です。

名前が変わるだけで、覚える気持ちも変わってきます。

付録 6 英語ができる人がつまずく 10 のポイント (総まとめ)

本書の「英語と比べる」で扱った要注意点を、試験直前の確認用にまとめました。

#	やりがちな誤り	正しい形	参照
1	Ich bin lernen. (I am learning)	Ich lerne. (進行形はない)	第 2 章
2	Tust du lernen? (Do you ...?)	Lernst du? (do は使わない)	第 2 章
3	Heute wir lernen ... (Today we ...)	Heute lernen wir ... (定動詞第 2 位)	第 2 章・序章
4	Ich liebe den Gott.	Ich liebe Gott. (唯一神は無冠詞)	第 3 章
5	mein Mutter	meine Mutter (冠詞類も格変化)	第 5 章
6	Ich kann zu gehen. (can to go)	Ich kann gehen. (助動詞に zu は不要)	第 8 章・第 16 章
7	Du musst nicht gehen. を「行つてはいけない」の意で	Du darfst nicht gehen. (禁止は dürfen ... nicht)	第 8 章
8	Ich habe gegangen.	Ich bin gegangen. (移動・変化は sein)	第 10 章
9	... dass Gott liebt uns.	... dass Gott uns liebt. (副文は動詞文末)	第 12 章
10	zu lernen die Wahrheit	die Wahrheit zu lernen (zu は後ろ)	第 16 章

そして、すべてに通じるただ一つの助言。

ドイツ語は、文を最後まで聞かないと意味が確定しない言語です。

枠構造でも、副文でも、zu 不定詞句でも、いちばん大事な動詞は最後にやって来ます。

英語のように「先頭から順に意味が確定していく」つもりで読むと、必ず迷子になります。

最後まで待つ——これが、ドイツ語を読む姿勢であり、そしておそらく、人の話を聴くときの姿勢でもあります。

付録 8 級別 文法項目一覧

独検（ドイツ語技能検定試験）の級ごとに、本書のどこを学べばよいかをまとめた索引である。「まず 5 級だけ受けたい」「3 級の範囲を総ざらいしたい」というときに使ってほしい。

※ 級の配当は本書の配当である。検定の出題範囲は改定されることがあるので、受験の際は必ず公式の出題範囲を確認すること。

1. 独検 5 級レベル

目安：ドイツ語の文字が読め、基本的な挨拶と自己紹介ができる。現在形の簡単な文が作れる。

授業回	章	文法項目
1	序章	英語とドイツ語の関係・子音対応・5 つの急所
2	第 0 章	アルファベット／ä ö ü ß／名詞は大文字始まり
3	第 1 章	つづりと発音／アクセント／母音の長短
4	第 2 章①	動詞の現在人称変化（規則変化）
5	第 2 章②	sein・haben／ 定動詞第 2 位 ／疑問文／ja・nein・ doch ／es gibt・man
6	第 3 章①	名詞の性／定冠詞・不定冠詞
7	第 3 章②	1 格・3 格・4 格
8	対策学習編 1	人称代名詞（1 格・4 格）／疑問詞
—	付録 2	数字・時刻・曜日・月・季節・序数

5 級の山 …… **定動詞第 2 位**（第 2 章②）と**男性名詞の 4 格** der → den（第 3 章②）。この 2 つが崩れていなければ、5 級は必ず通る。

2. 独検 4 級レベル

目安：日常的な話題について、簡単なやりとりができる。過去のことも一応言える。

授業回	章	文法項目
9	第 4 章	複数形（5 パターン＋ウムラウト）／複数 3 格の -n
10	第 5 章①	dieser・welcher・jeder
11	第 5 章②	所有冠詞／否定冠詞 kein
12	対策学習編 2	不規則変化動詞（a→ä/e→i）／werden／複合疑問詞
13	第 6 章	前置詞（3 格支配・4 格支配）
14	第 7 章	人称代名詞（3 格・4 格）／再帰代名詞・再帰動詞
16	第 8 章	話法の助動詞／未来形／ 梓構造 ／並列接続詞 und・aber・oder・denn
17	対策学習編 3	分離動詞／命令形

4 級の山 …… **梓構造**（第 8 章）と**前置詞の格支配**（第 6 章）。「動詞の仲間は 2 番目と文末に分かれる」という感覚が入るかどうかで決まる。

3. 独検 3 級レベル

目安：まとまった内容の文章が読め、自分の考えを述べられる。過去・仮定・受け身を使い分けられる。

授業回	章	文法項目
13	第 6 章 1-4	前置詞の 3・4 格支配 （どこで／どこへ）
18	準備編	三基本形（規則・強変化・混合変化）
19	第 9 章	過去形
20	第 10 章	現在完了形／haben・sein の使い分け
22	第 11 章	受動文（werden 受動・状態受動）／von と durch
23	第 12 章	接続詞と副文（定動詞後置）／間接疑問文
24	第 13 章①	接続法第 1 式／間接話法
25	第 13 章②	接続法第 2 式／非現実話法／外交的丁寧表現
26	第 14 章	比較変化（比較級・最上級・同等比較）
27	第 15 章	関係文（関係代名詞 der 型・was・wer）
28	第 16 章	zu 不定詞句（名詞的用法・um...zu・ohne...zu）
29	第 17 章	形容詞の変化（強・弱・混合）／名詞化

3 級の山 …… **副文で動詞が文末に行くこと**（第 12 章）と、そこから派生する**関係文**（第 15 章）・**zu 不定詞句**（第 16 章）。この 3 つは「動詞が最後に来る」という一つの原理の 3 つの顔である。そして最難関が**形容詞の変化**（第 17 章）と**接続法**（第 13 章）。

4. 級をまたぐ項目

次の項目は、初級で顔を出し、上の級で本格的に扱う。本書では**同じ項目を 2 回に分けて**学ぶようにしてある。

項目	初出	本格的に扱う
格（1・4 格→3 格→2 格）	第 3 章【5 級】	第 3 章②【5 級】→第 17 章【3 級】で 2 格

項目	初出	本格的に扱う
前置詞（3格・4格支配→3・4格支配）	第6章 1-2/1-3【4級】	第6章 1-4【3級】
過去のこと（現在完了→過去形）	第10章【3級】	第9章【3級】
接続詞（並列→従属）	第12章 1-2【3級】	第12章 1-3【3級】

5. 級別・仕上げの手順

●5級を受ける人

1. 第0章・第1章の発音を、声に出して一通り。
2. 第2章の人称変化表を暗唱できるまで。
3. 第3章の**定冠詞・不定冠詞の格変化表**を書けるまで。
4. **まとめ1（第15回）の前期試験**を時間を計って解く。

●4級を受ける人

1. 5級の範囲を上のとおり固める。
2. 第4章の複数形は、**名詞を「das Kind, -er」の形でセット暗記**する。
3. 第8章の梓構造を、口に出して作れるまで。
4. **まとめ1の前期試験**+各章の練習問題 A～C。

●3級を受ける人

1. 準備編の**三基本形**を、英語の不規則動詞表と並べて覚える。
2. 第12章の副文を固めてから、第15章・第16章へ進む。
3. 第17章の形容詞変化は、**表を暗記せず「冠詞が格を示しているか」で考える**。
4. **まとめ2（第21回）の小テスト**と**まとめ3（第30回）の学年末試験**を時間を計って解く。

6. 級のためだけに学ぶのではない

検定の級は、学習の進み具合を測る便利な物差しである。しかし物差しは目的ではない。

本書の目的は、**ドイツ語圏の人に仏法真理を伝え、信仰に導き、その人を育て、その人がまた次の人に伝えられるようにすること**である。

5級の範囲だけでも、あなたはこう言える。

Gott ist Liebe. Das Herz ist wie ein Feld. Ich glaube an Gott.

4級まで来れば、人を誘える。

Kommen Sie mit! Sie müssen nicht perfekt sein.

3級まで来れば、自分の人生を語り、相手を送り出せる。

Früher war ich allein. Aber ich bin nie stehen geblieben.

Wir lernen Deutsch, um die Wahrheit weiterzugeben. ♪KO-1

級は通過点である。**級の先にある人**を、いつも見ていてほしい。

付録9 さらに深く ―― 語順・分詞・心態詞

本編は独検5級～3級の範囲で組んである。本付録は、そこに収まりきらないが、実際にドイツ語で話し、書くために要る3つの事項をまとめた。

いずれも「知らなくても試験には通るが、知らないとドイツ語らしくならない」ものである。

1. 語順 ―― 文の真ん中はどう並ぶか

第2章で「動詞は2番目」、第8章で「枠構造」を学んだ。では、2番目の動詞と文末のあいだ（この部分を中詞という）は、どう並ぶのか。

● 1-1. 中詞の基本の並び

主語 → 3格 → 時 → 理由 → 様態 → 場所 → 4格 → 文末（動詞の相棒）

このうち、時・理由・様態・場所の四つは、ドイツ語教育でテカモロ（TeKaMoLo）と呼ばれている。四つの語のあたまを取ったものである。

	ドイツ語	何を表すか	問い
Te	Temporal	時	wann? いつ
Ka	Kausal	原因・理由・目的	warum? なぜ
Mo	Modal	方法・様態	wie? どのように
Lo	Lokal	場所・方向	wo? / wohin? どこ

和語で覚えるなら「て・り・よ・ば」（時・理由・様態・場所）。英語の *place* → *time* (*I go to the temple on Sunday.*) とは逆になる。

Die erwartete Post kam gestern wegen des Streiks in der Branche sehr verspätet bei mir an.

待ち受けていた郵便物は、昨日、業界のストライキのためにひどく遅れて私の手元に届きました。

(gestern 時／wegen des Streiks 理由／sehr verspätet 様態／bei mir 場所)

Ich bete heute wegen meiner Sorgen still im Tempel.

私は今日、悩みのゆえに、静かに支部で祈ります。

(英) Today I pray quietly in the temple because of my worries.

★テカモロは「規則」ではなく「傾向」である。ここを取り違えないこと。

① 四つが全部そろって並ぶことは、実際にはほとんどない。

上の郵便物の文は、四種類を見せるために作られた説明用の文である。

② 順番を決める力は、テカモロより情報の重みのほうが強い。

いちばん伝えたい要素ほど、後ろに回る。

Ich habe in der Boutique diese Jacke gekauft. (ふつうの語順)

Ich habe diese Jacke in der Boutique gekauft. (店のほうを強調)

どちらも正しい。後者はテカモロの順に反しているが、誤りではない。

③ 同じ種類が並ぶときは、大きい枠組みから小さい枠組みへ。

Ich arbeite heute bis acht. (今日 → 8時まで)

④ テカモロが当てはまるのは、あってもなくてもよい要素（添加語）である。

動詞が必ず要求する要素（補完語）は、テカモロとは関係なく文末の枠に入る。

Ich wohne in Regensburg. の in Regensburg は動詞 wohnen が要求する要素で、外すと文が成り立たない (Ich wohne. とは言えない)。これは添加語ではない。

いっぽう Ich bete im Tempel. の im Tempel は外しても文になる (Ich bete.)。

こちらは添加語なので、テカモロの対象である。

つまりテカモロは、特に強調したいものが無いときの既定の並びである。迷ったらこの順に置けばまず自然になる。そのうえで、強調したい要素があれば後ろへ回す——この二段構えで考えるとよい。

Ich gehe am Sonntag in den Tempel.

私は日曜日に支部へ行きます。

(英) I go to the temple on Sunday.

ドイツ語は 時 (am Sonntag) → 場所 (in den Tempel)。英語は 場所 → 時。ここは必ず引かかるので、意識して逆にすること。

Ich habe ihm gestern wegen der Arbeit ruhig im Tempel die Wahrheit gesagt.

私は昨日、仕事のことで、支部で静かに、彼に真理を語りました。

(彼に → 昨日 → 仕事のことで → 静かに → 支部で → 真理を)

● 1-2. 代名詞は前に出る

代名詞は、名詞より前に置く。そして代名詞どうしなら 4格 → 3格 の順になる。

ドイツ語	日本語
Ich gebe dem Meister das Buch.	私は師にその本を渡します (名詞→名詞は3格→4格)
Ich gebe ihm das Buch.	私は彼にその本を渡します (代名詞が先)
Ich gebe es dem Meister.	私はそれを師に渡します (代名詞が先)
Ich gebe es ihm.	私はそれを彼に渡します (4格→3格)

★ 代名詞どうしするときだけ4格が先になる。ここだけ順序が逆転する。
英語も *I give it to him* と、代名詞が前に出る点は同じである。

● 1-3. 文頭に置けるのは「1つ」だけ

定動詞第2位の「1番目」に置けるのは、**成分ひとつ**である。副文まると、前置詞句まるとで「1つ」と数える。

- ・ *Heute lernen wir die Wahrheit.* (1語で1つ)
- ・ *Am Sonntag im Tempel beten wir.* ... X 2つ置いている
- ・ *Weil ich die Wahrheit suche, lerne ich Deutsch.* (副文まるとで1つ)

★ 何を1番目に置くかで、文の重心が変わる。

ドイツ語は「古い情報を前に、新しい情報を後ろに」置く。

だから相手がすでに知っていることを文頭に出し、いちばん伝えたいことを後ろに回す。

——大事なことは、最後に言う。これはドイツ語全体を貫く性格である。

2. 分詞 ― 現在分詞と過去分詞を形容詞として使う

● 2-1. 二つの分詞

分詞	作り方	意味	例
現在分詞	不定詞 + d	～している(能動・進行)	<i>leuchtend</i> (輝いている)
過去分詞	ge- -t / -en	～された(受動・完了)	<i>poliert</i> (磨かれた)

★ 現在分詞の作り方は英語より簡単である。不定詞に **d** を足すだけ。
lieben → *liebend* (愛している) / *strahlen* → *strahlend* (輝いている)

● 2-2. 名詞の前に置くときは、形容詞として語尾が付く

ドイツ語	日本語
ein strahlender Diamant	輝いているダイヤモンド
das polierte Herz	磨かれた心
die suchenden Menschen	求めている人々
das gegebene Licht	与えられた光

公式ドイツ語版『反省の手引き』には、次の一節がある。

... **eine Buddha-Natur, strahlend wie ein Diamant.**

ダイヤモンドのように輝く仏性

★ ここでは *strahlend* が名詞の後ろにあるので、語尾が付いていない。

名詞の前に置けば *ein strahlender Diamant* と語尾が要る(第17章の規則どおり)。

● 2-3. 冠飾句 ― ドイツ語らしい長い修飾

分詞は、修飾語を引き連れて名詞の前に立つことができる。これを**冠飾句**という。英語では関係詞で後ろから説明するところを、ドイツ語は**前から**まとめてしまう。

ドイツ語	日本語	英語
der durch Selbstreflexion polierte Diamant	反省によって磨かれたダイヤモンド	the diamond polished through self-reflection
die jeden Tag betenden Menschen	毎日祈っている人々	the people who pray every day

★ 読むときのコツは、**冠詞**を見たら、次の名詞まで一気に飛ばすこと。

der ... Diamant と、まず骨格をつかんでから、あいだを埋める。

新聞や經典の翻訳文では頻出するので、読解では避けて通れない。

3. 心態詞 ― ドイツ語の「気持ちの粒」

★ 心態詞は、付録17「心態詞 ― 会話の潤滑油」で一語ずつ詳しく扱う。ここではいちばん効く2語だけを先に示す。

ドイツ語には、訳しにくい**が**、**抜くと冷たく響く**小さな語がある。これを**心態詞**という。日本語の「ね」「よ」「まあ」「ちょっと」に近い。

心態詞	はたらき	例
doch	相手の否定をやわらかく覆す/励ます	Kommen Sie doch mit! (まあ、一緒にしませんか)
mal	「ちょっと」と軽くする	Hören Sie mal zu. (ちょっと聴いてみてください)
ja	「ご存じのとおり」と共感を作る	Das ist ja wichtig. (それは、もちろん大切ですよ)
denn	疑問文をやわらげる	Was ist denn los? (いったいどうしたのですか)
wohl	「たぶん」と断定を避ける	Er ist wohl müde. (彼は疲れているのでしょう)
eben / halt	「そういうものだ」と受け入れる	Das ist eben so. (まあ、そういうものです)

● 3-1. 伝道で効く2語 ― doch と mal

Kommen Sie mit! → ご一緒にしましょう。(やや強い) **Kommen Sie doch mal mit!** → まあ、一度ご一緒にしてみませんか。(ぐつとやわらかい)

Hören Sie zu. → 聞いてください。(指示に聞こえる) **Hören Sie mal zu.** → ちょっと聴いてみてください。(誘いになる)

★ 心態詞は、内容を変えずに、距離だけを変える。

第25回で学んだ接続法第2式 (*Könnten Sie ...?*) と同じ役割を、たった1語で果たす。

押しつけずに誘う ― 伝道においてこれ以上に実用的な文法事項はない。

★ 心態詞は中詞のなか(動詞の後ろ、目的語の前あたり)に置く。

文頭にも文末にも置かない。 **Kommen Sie doch mal mit!**

4. 「～の」 ― 2格で言うか、von で言うか

日本語の「～の」にあたる言い方が、ドイツ語には二つある。2格 (*das Gesetz der Sonne*) と、前置詞 **von** + 3格 (*das Gesetz von Ursache und Wirkung*) である。どちらでもよい場合と、片方しか使えない場合がある。見分けの基準は、ほぼ次の一つに尽きる。

★ 名詞に冠詞(や冠詞類・形容詞)が付いていれば2格で言える。付いていなければ **von**。

2格は「語尾」で示す格なので、語尾を付ける場所(冠詞・形容詞)がない名詞には使えない。

英語の *of* と *'s* の関係に似ているが、同じではない。英語は「人なら *'s*、物なら *of*」で分ける。ドイツ語は「書き言葉は2格、話し言葉は **von**」「冠詞があれば2格、なければ **von**」で分ける。

● 4-1. 2格しか使えない(または2格が自然な)場合

場合	例	日本語	注
書名・定まった名称・格調ある言い方	Das Gesetz der Sonne / die Wahrheit Buddhas / Kinder Gottes	『太陽の法』 / 仏法真理 / 神の子	すべて公式訳。 von にすると日常語に下がる
固有名に -s を付ける	Buddhas Licht / Die Erklärung El Cantares / Gottes Liebe	仏の光 / エル・カンターレ宣言 / 神の愛	人名・神名は冠詞なしでも -s で2格が作れる(公式訳に実例)
「誰の」を区別したいとき	die Liebe Gottes (神の愛=神が与える愛) / die Liebe zu Gott (神への愛)		von だと「神の愛」が両義になる。「～への」は zu / an (<i>der Glaube an El Cantare</i>)
冠詞・形容詞のついた名詞の後ろ(書き言葉)	die Gesetze dieser Welt / der Wille des Meisters / die Mitte der Seele	この世の法則 / 師の意志 / 魂の中心	教材・説法・書き物では2格が標準

● 4-2. von しか使えない場合

場合	例	日本語	注
冠詞のない名詞(語尾を付ける場所がない)	das Gesetz von Ursache und Wirkung	因果の理法	公式訳はこの形だけ (<i>Gesetz der Ursache und Wirkung</i> は公式版に0件)。英語 <i>the law of cause and effect</i> と同じ発想
人称代名詞	ein Freund von mir / viele von ihnen / jeder von uns	私の友人(の一人) / 彼らの多く / 私たちの誰もが	代名詞に2格はほぼ使わない
作者・出どころ(「～による」)	ein Buch von Meister Ryuho Okawa	大川隆法総裁の本	「誰が書いたか」は von 。(<i>Meister Okawas Buch</i> も可だが、口語では von)
数量・部分	zwei von drei / einer von uns	三つのうち二つ / 私たちの一人	「～のうちの」は von
話し言葉全般	der Vater von meinem Freund	私の友だちのお父さん	話すときは2格が von に置き換わる(次項)

● 4-3. 両方使える場合

2格(書き言葉)	von(話し言葉)	日本語
der Vater meines Freundes	der Vater von meinem Freund	私の友人の父
die Straßen Berlins	die Straßen von Berlin	ベルリンの通り
die Lehre El Cantares	die Lehre von El Cantare	エル・カンターレの教え(公式版は両方の形を使う: <i>Seelengeschwister El Cantares</i> / <i>Kernbewusstsein von El Cantare</i>)
die Hälfte der Zeit	die Hälfte von der Zeit	時間の半分

▷ 両方使えるときは、本書のような教材・説法・書き物では2格、会話では **von** と決めておけば迷わない。

▷ 2格の形: 男性・中性は冠詞 **des** + 名詞に **-(e)s** (*des Meisters*)、女性・複数冠詞 **der** (*der Sonne* / *der Menschen*)。固有名は **-s** (*Buddhas* / *El Cantares*)。

● 4-4. 一つの型でまとめると

冠詞あり → 2格 (*das Gesetz der Sonne*)

冠詞なし・代名詞・作者・数量 → **von** (*das Gesetz von Ursache und Wirkung* / *ein Freund von mir*)

「～への」 → **zu** / **an** (*die Liebe zu Gott* / *der Glaube an El Cantare*)

書き言葉は2格、話し言葉は **von**

5. この付録の使い方

ここに挙げた4つは、独検の級では次のように位置づけられる。

項目	級の目安	いつ学ぶとよいか
中詞の語順	3級以上	第8章（梓構造）を終えたあと
分詞・冠飾句	3級以上	第17章（形容詞の変化）を終えたあと
心態詞	級の範囲外	会話編を始めたらずぐ。早いほどよい
2格と von の使い分け	3級	第6章（前置詞）で von を学んだあと。書名・公式訳を読むときに

とくに心態詞は、試験には出ないが、人と話すときにいちばん効く。文法の正しさが人を動かすのではない。距離の取り方が人を動かすのである。

Kommen Sie doch mal mit!

付録 10 伝道のための經典名句集（独・和・英）

伝道の間では、長い説明よりも、一文の言葉が人を動かすことがある。本付録は、大川隆法総裁の經典から、それ一文で立つ教えを場面別に集めたものである。

伝道の現場で実際に使える言葉を、十のテーマにわたって選んだ。日本語はすべて原典に当たって確認してある。

表示の約束

〔公式訳〕……公式ドイツ語版・英語版に**実在する**表現（出典を明記）

〔本書訳〕……本書が独訳・英訳したもの。本書で学んだ文法の範囲内で作ってある

独訳の用語は、幸福の科学国際本部の公式ドイツ語用語集および公式ドイツ語版經典の本文と照合してある。

1. 出会いの一言

「この世は学校である」

《『無限の愛とは何か（改版）』第3章「許す愛」／5 墮落という名の罪》

「この世には『魂の学校』としての意味があるのです」

《『未来の法』第2章「心が折れてたまるか」／3 試練が心を強くする》

Diese Welt ist für eure Seele wie eine Schule. 〔公式訳〕

〔英〕This world is like a school for your soul.

★ この独文は**公式ドイツ語版に実在する**表現である（『真実への目覚め』ドイツ語版より）。

★ 『ドイツ語 仏法真理用語 700 選』に採録）。

上に挙げた日本語は、同じ教えを説かれた**日本語原典の該当箇所**であり、独文の逐語訳ではない。引用するときは、**独文と日本語原典を分けて示すこと**。

「心は、たとえてみれば、畑のようなものだ」

《御法話「無我なる愛」／心の深耕》

Das Herz ist wie ein Feld. 〔本書訳〕

〔英〕The heart is like a field.

2. 神について問われたとき

「一人ひとりの心は、仏の光の供給によって、根源なるものと、つながっているのだ」

《『ダイナマイト思考』最終章「希望の革命」／2 正しい宗教による批判の必要性》

Jedes Herz ist durch das Licht Buddhas mit dem Ursprung verbunden. 〔本書訳〕

〔英〕Every heart is connected with the Origin through the light of Buddha.

「仏法真理とは、仏の心、神の心を説いたものであり、人類に共通する普遍的なルールです」

《『勇気の法』第3章「ハングリー精神を失うな」／5》

Die Wahrheit Buddhas lehrt den Geist Buddhas.

Sie ist ein Gesetz für alle Menschen. 〔本書訳〕

〔英〕Buddha's Truth teaches the mind of Buddha. It is a law for all people.

「神は太陽のごとく、光に満ち満ちており、地上のわれわれに光を与えてくださっている」

《『太陽の法』第5章「黄金の時代」／6 ラ・ムーの時代》

Gott gibt Licht wie die Sonne. 〔本書訳〕

〔英〕God gives light like the sun.

3. 信仰について語るとき

「愛の光が見えたならば、そこが、あなたの信仰の出発点です」

《『限りなく優しくあれ』第1章「限りなく優しくあれ」／2 信仰の出発点》

Wenn Sie das Licht der Liebe sehen, beginnt dort Ihr Glaube. 〔本書訳〕

〔英〕When you see the light of love, there your faith begins.

「信仰心とは、究極の仏、究極の神に至る階段そのもののなのです」

《『信仰のすすめ』第3章「信仰とは何か」／3 信仰心の発展段階》

Der Glaube ist die Treppe, die zu Gott führt. 〔本書訳〕

〔英〕Faith is the stairway that leads to God.

「信仰心を通して仏と一体となったとき、あなたがたは無敵である」

《『愛、無限』第2章「愛、無限」／5 無限の愛が臨む》

Wenn Sie durch den Glauben eins mit Buddha werden, sind Sie unsiegbär. 〔本書訳〕

〔英〕When you become one with Buddha through faith, you are invincible.

「正しき信仰は、仏に向かって向上をしてゆこうとする精進の心である」

《『無限の愛とは何か（改版）』第3章「許す愛」／5 墮落という名の罪》

Der rechte Glaube ist der Wille, zu Buddha hin zu wachsen. 〔本書訳〕

〔英〕Right faith is the will to grow toward Buddha.

「信仰を通して、あなたがたは本来の光の子、仏の子となるのだ」
 《『無限の愛とは何か（改版）』第2章「復活の時は今」／5行きて、わが言葉を伝えよ》

Durch den Glauben werden Sie Kinder des Lichts und Kinder Buddhas. [本書訳]

〈英〉Through faith you become children of the light, children of Buddha.

4. 愛について語るとき

「愛を与えれば与えるほどに、あなた自身が神近き人間となってゆく」
 《『太陽の法』第3章「愛の大河」／5愛に敵なし》

Je mehr Sie Liebe geben, desto näher kommen Sie Gott. [本書訳]

〈英〉The more love you give, the closer you come to God.

「その愛を神にかえしてゆくために、私たちは、ほかの人々を愛すべきなのです」
 《『太陽の法』第3章「愛の大河」／5愛に敵なし》

Wir lieben die Menschen, um diese Liebe Gott zurückzugeben. [本書訳]

〈英〉We love people in order to give this love back to God.

「己の心を空しゅうして、他人や社会に対して愛を与えていかんと決意するとき、そこにあなたの幸福の原点があるのです」
 《『幸福の原点』第1章「幸福の原点」／6幸福の原点》

Wenn Sie sich leer machen und Liebe geben wollen, dann liegt dort der Ursprung Ihres Glücks. [本書訳]

〈英〉When you empty yourself and resolve to give love, there lies the origin of your happiness.

「この世の中も、人々も、仏の創ったものだから、仏の子である人間はこの世界を愛するのです」
 《『無限の愛とは何か（改版）』第4章「伝道の精神」／3伝道の際に大切なこと》

Weil Buddha diese Welt und die Menschen erschaffen hat, lieben die Kinder Buddhas diese Welt. [本書訳]

〈英〉Because Buddha created this world and its people, the children of Buddha love this world.

5. 心について語るとき

「人間の身体を中心に心臓があるように、魂という人体に相当する霊のなかには、心という中心部分があるのです」
 《『太陽の法』第2章「仏法真理は語る」／7心と魂の関係》

Wie der Körper ein Herz hat, so hat die Seele einen Kern: den Geist. [本書訳]

〈英〉As the body has a heart, so the soul has a center: the mind.

「あなたが、心のなかで人を憎もうと、人を愛しようと、それは自由です」
 《御法話「明るく生きよう①」（2008年1月）》

Sie sind frei: Sie können in Ihrem Herzen hassen oder lieben. [本書訳]

〈英〉You are free: in your heart you can hate or love.

「自分の中心には、仏の子としての、金剛石のように輝いている仏性があるということを、決して忘れないことです。
 自分が金剛石だからこそ、反省によって磨けば光ってくるのです」
 《『反省の手引き』3 反省の作法》

Vergessen Sie nie, tief in Ihrem Herzen wohnt eine Buddha-Natur, strahlend wie ein Diamant. [公式訳]

〈英〉Never forget: deep in your heart dwells a Buddha nature, shining like a diamond.

6. 「何のために生きるのか」と問われたとき

「悟りとは、人間が、自分の本質を知り、自分が生きている世界の本質を知り、人生の目的と使命を知ることである」
 《『幸福の科学とは何か』第3章「この世とあの世を貫く幸福」／4悟りの意味》

Erleuchtung heißt, sich selbst zu erkennen, die Welt zu erkennen und seine Mission zu erkennen. [本書訳]

〈英〉Enlightenment means to know yourself, to know the world, and to know your mission.

「人間は仏の子であって、仏の子の使命をこの地上に実現していくことこそが、その本質であるのだ」
 《『人生の王道を語る』第4章「永遠の今を生きる」／7時間を黄金に変えよ》

Der Mensch ist ein Kind Buddhas.

Er lebt, um seine Mission auf dieser Erde zu erfüllen. [本書訳]

〈英〉Man is a child of Buddha. He lives to fulfill his mission on this earth.

7. 苦しんでいる人に

「その解放する方法が、仏神への祈願や祈りであったり、反省行であったりするのです」
 《『神秘の法』第2章「憑依の原理」／4「執着」は地獄霊を引き寄せる》

Der Weg aus dem Leiden ist das Gebet und die Selbstreflexion. [本書訳]

〈英〉The way out of suffering is prayer and self-reflection.

「この勇氣という名の鉞があるからこそ、人間は、人生の苦難という名の太木を切り倒してゆけるのだ」
 《『太陽の法』第6章「エル・カンターレへの道」／8黄金の勇氣をもて》

Mit der Axt des Mutes fällt der Mensch den großen Baum des Leidens. [本書訳]

〈英〉With the axe of courage, a person fells the great tree of suffering.

「そして、勇氣をふるい起こしたとき、人間は、自らが大力量人であることに気づくのです」
 《『太陽の法』第6章「エル・カンターレへの道」／8黄金の勇氣をもて》

Wenn der Mensch Mut fasst, erkennt er seine eigene Größe. [本書訳]

〈英〉When a person summons courage, he recognizes his own greatness.

「心に希望のない方の特徴はいったい何であるかと言うと、仏への信仰がありません」
《『悟りに到る道』第3章「悟りに到る道」／4心の発展——希望と勇気》

Wer keine Hoffnung im Herzen hat, dem fehlt der Glaube. [本書訳]

〈英〉Whoever has no hope in the heart lacks faith.

8. 反省を勧めるとき

「仏の光を浴びて反省と感謝の法雨を流す時、過去の罪は洗い流されて、清新なあなたが生まれるのです」
《『反省の手引き』3反省の作法》

Wenn Sie das Licht Buddhas empfangen und Tränen der Reue und Dankbarkeit vergießen, werden Ihre vergangenen Sünden weggewaschen, und Sie werden ein neues, frisches Selbst entdecken. [公式訳]

〈英〉When you receive the light of Buddha and shed tears of repentance and gratitude, your past sins are washed away, and you will discover a new, fresh self.

★「法雨」は公式ドイツ語版で`Dharma-Regen`と訳されている。

„... wir nennen diese Tränen, Dharma-Regen.“（『反省の手引き』独語版）

「反省とは、木が曲がってゆかないようにするための添え木のようなものです」
《『悟りの発見』第2章「八正道の再発見」／1反省とは何か》

Die Selbstreflexion ist wie ein Stab für einen Baum. [本書訳]

〈英〉Self-reflection is like a stake for a tree.

9. 送り出すとき

「本来光っている人を、もとの光、あるいはそれ以上の光にすることも私たちの使命の一つです」
《『真理文明の流転』第2章「心の開拓」／2光の天使の輩出》

Es ist unsere Mission, die Menschen an ihr eigenes Licht zu erinnern. [本書訳]

〈英〉It is our mission to remind people of their own light.

「人生の 大河を 流るる 小舟なり」
《『仏説・正心法語』／真理の言葉『正心法語』》

Es bedeutet, ihr seid die Boote, die den Großen Fluss hinuntersegeln. [公式訳]

〈英〉It means you are The Boats sailing down The Great River. [公式訳]

「あなたがたが惜しみなく他の人びとを満たそうとする時に……この地下水のごとく、仏の力が、愛が、勇気が、光が、湧き出してくるのだ」

《『仏陀再誕』第2章「叡智の言葉」／愛の実践》

Die Kraft kommt aus dem Herzen wie Wasser aus der Erde. [本書訳]

〈英〉Power comes out of the heart like water out of the earth.

10. この名句集の使い方

● 10-1. 三つだけ、暗唱する

三十句を覚えようとしないう。自分の心にいちばん響いた三句を選び、辞書なしで言えるまで暗唱する。伝道場で出てくるのは、暗唱した言葉だけである。

迷うなら、次の三句から始めるとよい。

Diese Welt ist für eure Seele wie eine Schule. JK18-13

Wenn Sie das Licht der Liebe sehen, beginnt dort Ihr Glaube.

Es ist unsere Mission, die Menschen an ihr eigenes Licht zu erinnern.

● 10-2. 引用と自分の言葉を分ける

第24回で学んだとおり、引用は接続法第1式で示す。

Ryūho Okawa schreibt, der Mensch sei ein Kind Buddhas. (引用) Ich glaube das auch. (自分の信仰)

二文に分けること。混ぜると、伝道は信用を失う。

● 10-3. 出典を必ず言う

書名を添えない引用は、伝道では使わない。「本にこう書いてあります」ではなく、「『太陽の法』——ドイツ語では *Das Gesetz der Sonne* ——にこうあります」と言う。

Das ist ein Satz aus „Das Gesetz der Sonne“.

● 10-4. さらに探すには

ここに載せたのは、伝道の場面で使いやすいものに絞った一部である。別の場面に合う言葉が要るときは、**經典そのものを開いて探して**ほしい。探すときのこつは一つだけ——**それ一文で立つかどうか**である。前後の説明がなければ意味が通らない文は、伝道場では働かない。

最後に、この一句を。

「すでに仏は、仏法真理の光の矢を、あなたがたの胸に向かって放ったのです」
《『ダイナマイト思考』第1章「ミラクルへの出発」／3 仏と一体になる》

Buddha hat den Pfeil des Lichts schon auf Ihr Herz gerichtet. [本書訳]

〔英〕Buddha has already aimed the arrow of light at your heart.

伝道とは、その矢が届いていることを、相手に知らせることである。

付録 11 奏上文の組み立て方 — Wie man ein Gebet aufbaut

支部や精舎の祈願、家庭での祈り、そして「復活の祈り」のような祭典。そうした場で導師が読み上げる言葉を**奏上文**という。天
上界へのお取次ぎの言葉である。

奏上文は、その場その場で必要なものが変わる。だから、**丸暗記ではなく、組み立てられるようになっておく必要がある**。

幸いなことに、奏上文には**決まった骨格**がある。そして公式ドイツ語版の『祈願文』には、その骨格の各部を作るための**言い回し**
が揃っている。本付録は、その部品を機能ごとに並べたものである。組み合わせれば、必要な奏上文をドイツ語で自分で組み立てら
れる。

表示の約束

〔公式訳〕……公式ドイツ語版『祈願文』『エル・カンターレへの祈り』に**実在する表現**

〔本書訳〕……公式版の語法にならって本書が組んだもの

日本語は、公式の経文および「復活の祈り」式次第の文言をそのまま引いている。

1. 奏上文の骨格 — 六つの部分

「復活の祈り」の式次第を分解すると、奏上文は次の六つでできている。

#	部分	ドイツ語	何をする部分が
I	呼びかけ	die Anrede	誰に申し上げるのかを定める
II	宣言	das Bekenntnis	その方がどういう方かを申し上げる
III	想起と感謝	Rückblick und Dank	これまでいただいた恩を思い起こす
IV	願い	die Bitte	いま願うことを申し上げる
V	誓い	das Gelöbnis	こちらが何をするかを申し上げる
VI	結び	der Schluss	感謝で閉じる

全部を必ず入れる必要はない。短い祈りなら **I → IV → VI** の三つでよい。長い祭典の奏上文なら六つすべてを順に置く。

★ **順序を入れ替えないこと**。

「呼びかけ → その方を讃える → 感謝 → 願い → 誓い → 結び」という流れは、相手を敬う言葉の自然な順序である。願いから始めては
ならない。

2. I 呼びかけ (die Anrede)

誰に向かって申し上げるのかを、はじめに置く。**呼格**なので、後ろにコンマを打つ。

ドイツ語	日本語	
Unser Herr, El Cantare,	主エル・カンターレよ	〔公式訳〕
Herr El Cantare,	主エル・カンターレよ	〔公式訳〕
O Herr, Vater unser,	主よ われらの父よ	〔公式訳〕
Ihr, meine Schutz- und Führungswesen in meinem Herzen —	心の中に まします……守護・指導霊よ	〔公式訳〕
Herr El Cantare, Ryuho Okawa,	主エル・カンターレ 大川隆法総裁先生	〔本書訳〕

主に呼びかけるときは **du** (親称) を使う。これは馴れ馴れしさではない。 **もっとも近い方に向かってしか使えない形**だからである
(巻末付録 7 §4)。

★ 呼びかけのあとに、**同格**でその方の在り方を添えることができる。

Herr El Cantare, Schöpfer des großen Universums und Ur-Buddha,
大宇宙の創造主にして 始原の仏陀 主エル・カンターレ 〔本書訳〕
同格の名詞は、前の名詞と**同じ格** (ここでは呼格=1 格の形) にする。

3. II 宣言 (das Bekenntnis)

その方がどういう方であることを申し上げる。型は二つ。

● 3-1. du bist ... (汝は～である)

ドイツ語	日本語	
du bist die Quelle allen Lichts, aller Kraft, aller Weisheit, aller Liebe.	あらゆる光と あらゆる力と あらゆる智慧と あ らゆる愛の 根源の方よ	〔公式訳〕
du bist unser Herr, Buddha und Erlöser.	あなたは われらが主にして 仏陀であり 救世主 です	〔公式訳〕
Du bist das Licht, das unsere Zukunft erhellt.	あなたは導きです 未来を照らす 光です	〔公式訳〕
Ich glaube an dich. Du bist allwissend und allmächtig.	我は あなたを 信じます 全智にして全能の主よ	〔公式訳〕

allen Lichts / aller Kraft / aller Weisheit / aller Liebe はすべて **2 格** である (第 3 章)。「あらゆる光の源」という日本語の「の」が、
そのまま 2 格になっている。第 3 章で覚えた 2 格が、祈りの言葉の骨格そのものであると分かる。

● 3-2. Wir glauben, dass ... (われらは〜と信じます)

ドイツ語	日本語	
Wir glauben, dass du der Meister aller Meister und der höchste Gott dieses Planeten Erde bist.	われらは あなたが 神々の主であり この地球系 霊団の 最高指導者であることを 信じます	[公式訳]
Wir glauben, dass du die höchste Macht im Himmel und auf Erden bist.	あなたが 天においても 地においても 最高の権能を持ち.....	[公式訳]
Herr El Cantare, wir glauben, dass du alle Menschen zu wahren Glück führst.	主 エル・カンターレよ われらは あなたが 人々を 真なる幸福へと 導かれることを 信じます	[公式訳]

dass の副文では、**定動詞**が文末に来る（第 12 章）。`... dass du der höchste Gott **bist**.` の **bist** が最後に落ちている形である。

4. III 想起と感謝 (Rückblick und Dank)

これまでいただいた恩を思い起こす部分。**現在完了**（第 10 章）と **seit +3 格**（第 6 章）が働く。

ドイツ語	日本語	
Seit uralten Zeiten hast du allem im großen Universum das Licht deiner Barmherzigkeit geschenkt.	主は 遥かなる昔より 大宇宙のありとしあらゆるものに 慈悲の御光を与え続けてられました	[本書訳]
Herr, wir danken dir, dass du uns dein Licht gegeben hast.	主よ 御光を お与えくださって 本当に ありがとうございます	[公式訳]
Hier vertiefen wir unseren Dank und bringen dir unsere Liebe von Herzen dar.	ここで.....主への感謝を深め 心からの愛を捧げさせていただきます	[本書訳]

hast ... geschenkt, hast ... gegeben はいずれも**現在完了**である。「遥かなる昔から今このときまで続いている」という時間の幅、この形が担っている。

★ danken は 3 格を取る（第 6 章）。Wir danken **dir** であって dich ではない。
英語の thank you（目的格）とずれるので、ここは覚え直すところである。

5. IV 願い (die Bitte)

奏上文の中心。願いの言い方はドイツ語に三通りあり、**強さと丁寧さが違う**。

● 5-1. 命令形 ― まっすぐに願う

主に対して du の命令形を使う。命令とは違い、**祈りの直截さ**を表す（第 17 回・命令形）。

ドイツ語	日本語	
Gib uns Licht, gib uns Kraft, gib uns Weisheit, gib uns Liebe.	われらに 光を お与えください (力／智慧／愛)	[公式訳]
schütze diesen Planeten der Liebe, diese Erde.	この 愛の星 地球を お護りください	[公式訳]
Bewahre uns vor allem Bösen.	われらを 一切の悪より お護りください	[公式訳]
Erhöre unsere Bitte, ...	〜を 許したまえ	[公式訳]
Gib uns Mut und Hoffnung zu leben.	我らに 生きる勇気と 希望を与え給え	[本書訳]

★ Erhöre unsere Bitte, ... は『植福功德経』の形で、経文では
われらの 植福の精進を 許したまえ と分かち書きされている。
願いの中身はドイツ語では後ろに回る（不定詞句）。

守護・指導霊のように**複数の相手**には ihr の命令形になる。

ドイツ語	日本語	
helft mir bei meiner täglichen Disziplin,	願わくば 日々 わが 修行を 助けたまえ	[公式訳]
läutert meine Gesinnung,	日々 わが 心を 磨きたまえ	[公式訳]
Schützt mich vor allem Bösen und führt mich zum rechten Leben.	あらゆる悪より われを 護りたまえ より良き人生のために 日々 われを 指導したまえ	[公式訳]

● 5-2. Lass ... ― 「〜させてください」

ドイツ語	日本語	
Lass unsere Zukunft in deinem Licht erstrahlen.	われらに 未来を お与えください	[公式訳]
Lass meinen Traum in Erfüllung gehen.	私の夢を かなえてください	[公式訳]

lassen + 目的語 + 不定詞。不定詞は文末に置く（梓構造・第 8 章）。

● 5-3. Möge ... ― 「〜でありますように」

もっとも改まった願いの形。接続法第 1 式（第 13 章）。**Möge + 主語 + + 不定詞** の語順になる。

ドイツ語	日本語	
Möge unsere Gemeinschaft größer und größer werden.	一人でも多く われらの仲間が増えますように	[公式訳]

ドイツ語	日本語	
Mögen unsere Aktivitäten zu einer riesigen Welle werden	この大乘運動が大きくなるとなると	[公式訳]
Möge unser Kind gesund aufwachsen	すこやかに育って	[公式訳]
Möge deine Liebe die Erde erfüllen.	あなたの愛の力が 地に満ちますように	[本書訳]
Möge dein Licht den Himmel erfüllen.	あなたの光が 天に満ちますように	[本書訳]
Möge deine Herrlichkeit die ganze Welt erfüllen.	あなたの栄光が すべての世界に満ちますように	[本書訳]

★ 第 13 章で「英語の *God bless you* は接続法の化石」と学んだ。
ドイツ語では *Möge ...* が祈りの現役文法として生きている。
三つ並べると、天・地・全世界へと広がっていく。並べ方そのものが祈りである。

● 5-4. Wir bitten dich, ... — 願うことを明示する

ドイツ語	日本語	
Wir bitten dich inständig, uns zu leiten,	心より ご指導 お願いいたします	[公式訳]
ich bitte euch,	願わくば	[公式訳]
Erlaube uns bitte, um die neue Auferstehung deines heiligen Lebens und deines Leibes zu bitten.	尊き 主の生命 主の肉体にも 新復活を願うことを お許し下さい	[本書訳]

um +4 格 + zu bitten (～を願う)。zu 不定詞句は文末にまとめる (第 16 章)。

6. V 誓い (das Gelöbnis)

願いつばなしにせず、こちらが何をするかを申し上げる。未来形 werden (第 8 章) を使う。

ドイツ語	日本語	
Wir werden einander immer lieben	夫婦ともに 愛し合い	[公式訳]
Wir werden unseren reinen Glauben vereinen und fest daran glauben, dass der Herr aufersteht.	私たちの純粋な信仰心を結集し 主のご復活を信じ 切ってまいります	[本書訳]
Wir werden die Wahrheit Buddhas weitergeben.	私たちは仏法真理を伝えてまいります	[本書訳]

7. VI 結び (der Schluss)

ドイツ語	日本語	
Wir danken dir von ganzem Herzen.	心より 感謝いたします	[公式訳]
Wir danken dir von Herzen.	本当に ありがとうございます	[公式訳]
Ich danke dir für deine Führung.	ご指導 ありがとうございます	[公式訳]
Ich danke euch.	ありがとうございます	[公式訳]

8. 実例 — 「復活の祈り」の奏上文を組む

実際の式次第から三か所を取り、六つの部分がどう並んでいるかを見る。日本語は式次第の文言、ドイツ語は上の部品で組んだものである。

● 8-1. 主を讃え、感謝を捧げる

大宇宙の創造主にして 始原の仏陀
主 エル・カンターレ 大川隆法総裁先生
主は 遥かなる昔より 大宇宙のありとしあらゆるものに慈悲の御光を与え続けてこられました
ここで 私たち人類を 限らない愛で育み
導いてくださっている主への感謝を深め
心からの愛を捧げさせていただきます
主よ 誠にありがとうございます
《「復活の祈り」式次第 (支部・精舎・他各会場)》

Herr El Cantare, Ryuho Okawa, [I 呼びかけ] Schöpfer des großen Universums und Ur-Buddha, [同格] seit uralten Zeiten hast du allem im großen Universum [III 想起]

das Licht deiner Barmherzigkeit geschenkt.

Hier vertiefen wir unseren Dank an dich, [III 感謝]

der du die ganze Menschheit mit grenzenloser Liebe nährst und führst,
und bringst dir unsere Liebe von Herzen dar.

Herr, wir danken dir von ganzem Herzen. [VI 結び]

(英) Lord God El Cantare, Master Ryuho Okawa, the Creator of the Great Universe and the Primordial Buddha. Since time immemorial, the Lord has continued to bestow the Light of Mercy upon all creation in the universe. Here, we deepen our gratitude and offer our heartfelt love to the Lord, who nurtures and guides all humanity with boundless love. Lord, thank you very much.

● 8-2. 願いを申し上げる

われらが愛する主エル・カンターレよ
尊き 主の生命 主の肉体にも新復活を願うことを お許し下さい
《同上》

Unser geliebter Herr El Cantare, (I) erlaube uns bitte, um die neue Auferstehung (IV 願い)

deines heiligen Lebens und deines Leibes zu bitten.

(英) Our Beloved Lord El Cantare, please allow us to wish for New Resurrection of Your sacred life and body.

● 8-3. 天・地・全世界へ広げる

主エル・カンターレよ
あなたの愛の力が 地に満ちますようにあなたの光が 天に満ちますようにあなたの栄光が すべての世界に満ちますように
《同上》

Herr El Cantare, (I) möge die Kraft deiner Liebe die Erde erfüllen, (IV 願い・接続法)

möge dein Licht den Himmel erfüllen,

möge deine Herrlichkeit die ganze Welt erfüllen.

(英) Lord El Cantare, May Your Love fill the earth, May Your Light fill heaven, May Your Glory fill the entire world.

★ 三つの möge が、地→天→すべての世界と広がっていく。
願いを三つ重ねるのは、公式の経文がくり返し用いている形である。
ドイツ語で祈りを組むときは、三つ重ねを覚えておくとよい。

9. 組み立ての練習

● A. 部品を選んで組む

次の場面の奏上文を、I→IV→VIの三部で組みなさい（各1文でよい）。

(1) 支部の発展を願う(2) 病を得た方の平癒を願う(3) 伝道に出かける前に、勇気を願う

組み立ての例 ((1) の場合)

Herr El Cantare,

möge unsere Gemeinschaft größer und größer werden.

Wir danken dir von ganzem Herzen.

● B. 願いの形を言い換える

次の願いを、①命令形 ②Lass ... ③Möge ... の三通りで書きなさい。

(1) われらに光を与えてください(2) われらの活動が大いなる波となりますように

解答例

(1) ① **Gib uns Licht.**

② **Lass uns dein Licht empfangen.**

③ **Möge dein Licht uns erfüllen.**

(2) ① (命令形では言いにくい。願いの主語が「われらの活動」だから)

② **Lass unsere Aktivitäten zu einer riesigen Welle werden.**

③ **Mögen unsere Aktivitäten zu einer riesigen Welle werden.**

★ (2)の①が作れないことに意味がある。

命令形は「相手にしてもらうこと」しか言えない。

主語が相手でないときは **Lass ...** か **Möge ...** を使う。

この使い分けが、奏上文を自分で組めるかどうかの分かれ目である。

● C. 六部で組む

「復活の祈り」の奏上文にならって、エル・カンターレ信仰をドイツ語圏に広げることがを願う奏上文を、I～VIの六部すべてを使って組みなさい。各部1～2文でよい。

10. 注意 — 公式の経文そのものは置き換えない

本付録は、その場に应じた奏上文を組み立てるためのものである。

『正心法語』『祈願文』『エル・カンターレへの祈り』など、公式に定められた経文そのものは、公式ドイツ語版の訳文をそのまま用いる。自分で訳し直してはならない。経文の訳文は国際本部の定めるところによる。

組み立ててよいのは、式次第のなかで導師が述べる言葉の部分である。この区別を守ったうえで、自由に組み立ててほしい。

Das Gebet ist eine Brücke zu Gott,

und nur die Liebe verbindet uns mit Ihm.

祈りは 神への架け橋であり

神と私たちをつなぐものは 愛以外にありません

《「復活の祈り」式次第》

付録 12 伝道のアドバイス — Rat für die Missionsarbeit

ドイツ語が話せるようになって、何をどう話しかけるかが分からなければ伝道はできない。逆に、型さえ身につけていれば、語学力がまだ十分でなくても伝道はできる。

本付録は、会内の伝道マニュアル（真理布教部「ふれあい訪問 おすすめのアプローチ法&トーク例」）の型を、そのままドイツ語に移したものである。根拠となる教えは經典から引く。

表示の約束

【公式訳】公式ドイツ語版に実在する表現

【本書訳】本書がドイツ語で書くときの目安として示す表現

日本語のトーク例は会内マニュアルの文言、教えの引用は經典の原文をそのまま引いている。

1. まず、經典が教える伝道の原理

技術の前に、原理を押さえる。伝道とは何をする事なのか。

「神理の伝道もまったく同じであります。まず、みなさまが核となるべき磁石となって、多くの縁ある人びとを吸い寄せる。そして彼らにもまた磁石になっていただく。

こうすることによって、日本が、世界が、仏国土に変わっていくのであります。

伝道の秘訣はこれ以外にはありません」

《「アドバンスト宗教」を世界に》

伝道とは、自分が磁石になることである。相手を動かす技術ではない。第 17 章で学んだ **Das Herz ist wie ein Magnet**.（心は磁石のようなものです）が、そのまま伝道の原理になっている。

Werde selbst zum Magneten, dann kommen die Menschen.

まず自分が磁石になりなさい。そうすれば人は集まってきます。

〈英〉 Become a magnet yourself, and then people will come.

そしてもう一つ。磁石になった人に、また磁石になってもらう。これが会話編の最終回「自分が伝道した人を、伝道者として送り出す」につながる。

Wer gefunden hat, soll selbst zum Suchenden führen.

見つけた人が、こんどは探している人を導くのです。

2. 訪問の型 — 六つの段

マニュアルの型は六つの段できている。順番を守ること。

#	段	日本語（マニュアル）	ドイツ語
①	あいさつ	こんにちは！お忙しいところ失礼いたします	Guten Tag! Entschuldigen Sie die Störung.
②	名のる	近頃の幸福の科学からまいりました。〇〇と申します	Ich komme von Happy Science hier in der Nähe. Ich heiße 〇〇.
③	用件	今、ご近所の皆様にご挨拶をさせていただいております	Ich begrüße gerade die Nachbarn hier in der Gegend.
④	渡す	是非、参考にされて、元氣でお過ごしください	Bitte lesen Sie es. Bleiben Sie gesund!
⑤	断られたときの返し	そうですか。ありがとうございます	Ach so. Vielen Dank trotzdem.
⑥	次につなぐ	ではポストに入れさせていただきます	Dann lege ich es in Ihren Briefkasten.

★②の **Ich heiße 〇〇** は会話第 1 回で、③の **Ich begrüße** は第 2 章の人称変化で、⑥の **lege ich** は「文頭に副詞句 → 動詞が 2 番目」（第 2 章）で、すでに学んでいる。

新しい文法は一つも要らない。型を知っているかどうかだけである。

● 2-1. もうひと押しする言い方

マニュアルは「相手がしづめていたら、明るくもうひと押し！」と教えている。

日本語（マニュアル）	ドイツ語	
一言、ご挨拶のお時間をいただけませんか？	Darf ich Ihnen kurz Guten Tag sagen?	【本書訳】
一分だけお時間いただけませんか？	Hätten Sie eine Minute Zeit?	【本書訳】
それでは、これだけでもお読みください	Dann lesen Sie bitte wenigstens das hier.	【本書訳】

Hätten Sie ...? は接続法第 2 式（第 13 章）。「もしお時間があれば」という含みが出るので、**Haben Sie Zeit?** より丁寧になる。ここで第 13 章が効いてくる。

3. 断られたとき — これが伝道の中心である

伝道でいちばん大事なのは、うまく話すことではない。断られたあとに立ち上がることである。

「一日に百軒回る予定があるならば、九十八回は断られることを織り込み済みにして、『二つ取れば平均だな。三つ四ついたら、今日はよくできたな』というように感じられるようになれば、断られてもそんなに気にしないでいいわけですね」

《『伝道に勝つ遺伝子』Q3 活動と家庭を両立させるポイント》

「断られても断られても、立ち上がる力が要るんです」

《『知的青春のすすめ』第7章「知的青春へのヒント」／4 説得力を磨くコツ》

だから、断られたときのドイツ語こそ、いちばん先に覚えるべきである。

場面	ドイツ語	日本語
断られた	Ach so. Vielen Dank trotzdem.	そうですか。ありがとうございます
強く拒まれた	Kein Problem. Alles Gute für Sie!	大丈夫です。お元気で過ごしてください
商店で	Ich wünsche Ihnen viel Erfolg mit Ihrem Geschäft!	商売繁盛をお祈りしています
去りぎわ	Auf Wiedersehen und alles Gute!	失礼いたします。お元気で

★ マニュアルは「明るく笑顔を維持!」「断られても丁寧にその場でお辞儀をして離れましょう」と繰り返し書いている。Vielen Dank trotzdem. の trotzdem (それでも) が、その笑顔にあたる語である。断られた事実を認めたうえで、なお感謝する。

Auch wenn er nein sagt, danke ich ihm.

断られても、私はその人に感謝します。

〈英〉 Even if he says no, I thank him.

Auch wenn ... は副文なので、動詞 sagt が文末に来る (第12章)。

4. 話のきっかけを見つける

マニュアルはこう教える。「インターフォンを押す前に玄関先にあるものやお家の外観に注目!」花、三輪車、掃き清められた玄関——**相手が大事にしているもの**を見つけて、そこから入る。

日本語 (マニュアル)	ドイツ語	
このお花きれいですね!	Diese Blumen sind schön!	[本書訳]
奥様がお手入れされているんですか?	Pflegen Sie sie selbst?	[本書訳]
かわいい三輪車ですね	Ein schönes Dreirad!	[本書訳]
こちらにお住まいになって長いんですか?	Wohnen Sie schon lange hier?	[本書訳]
お変わりありませんか?	Wie geht es Ihnen?	[本書訳]

★ マニュアルは理由も書いている。「自分が好きなものや大事にしているものを褒められたので、警戒心や壁がなくなり色んなお話ができたり...」。

ドイツ語でも同じである。相手の話をさせる問いの一つ持つて行くこと。

上の Pflegen Sie sie selbst? のように、答えが「はい/いいえ」で終わらない問いがよい。

そして——マニュアルの指示は明確である。「長時間話すのではなく、10分〜15分程度で切り上げて、定期的に繰り返し会いに行く方が信頼関係をつくりやすい」。

Ich komme wieder. Bis bald!

また来ます。近いうちに。

5. 経典をお渡しする

日本語 (マニュアル)	ドイツ語	
今日は本をお持ちしました	Ich habe Ihnen heute ein Buch mitgebracht.	[本書訳]
日頃お世話になっている皆様にお渡ししています	Ich verschenke es an die Nachbarn, denen ich dankbar bin.	[本書訳]
是非、お読みください	Bitte lesen Sie es einmal.	[本書訳]
一行でもいいので読んでみてください	Lesen Sie ruhig nur eine Zeile.	[本書訳]
ここだけでも読んでみてください	Lesen Sie wenigstens diese Seite.	[本書訳]

書名は必ず公式ドイツ語版の題で言う (巻末付録7 §5-1)。

Dieses Buch heißt „Das Gesetz der Sonne“.

この本は『太陽の法』といいます。

★ マニュアルの工夫はドイツ語でもそのまま使える。

- ・何冊か抱えて持つ (本当に近所を回っていると分かってもらえる)
- ・おすすめの頁に付箋を貼っておく (「二十頁ですから、ここだけでも」と言える)

Nur zwanzig Seiten. Lesen Sie bitte nur diesen Teil.

・「眼が悪くて読めない」と言われたら、文字の大きい頁を開いて見せる

Hier ist die Schrift groß. Bitte versuchen Sie es.

6. 相談にこたえる —— よくある問いと、経典に基づく答え

伝道の現場では、相手からも、また伝道する仲間からも問いが来る。そのときに、**自分の意見ではなく教えて答えられることが大切**である。

● 6-1. 「宗教は苦手です」と言われたら

マニュアルは、**相手の関心から入ることを勧めている**（金縛り、UFO、身近な不思議な体験など）。教義から入らない。

Kennen Sie das Gefühl, nachts nicht aufstehen zu können?

夜、体が動かなくなることをご存じですか？（金縛り）

Interessieren Sie sich für UFOs?

UFOに関心はありますか？

★ これは迎合ではない。相手が**すでに持っている問い**から入るということである。
教えを最初から説くのではなく、相手の問いを先に見つける。

● 6-2. 「なぜ信仰が要るのですか」と聞かれたら

「心に希望のない方の特徴はいったい何であるかと言うと、仏への信仰がありません」
《『悟りに到る道』第3章「悟りに到る道」／4心の発展——希望と勇氣》

Ohne Glauben gibt es keine Hoffnung im Herzen.

信仰がなければ、心に希望は生まれません。

● 6-3. 「私にはできません」と仲間が言ったら

「あなたがたが惜しみなく他の人びとを満たそうとする時に、あなたがたが、他の人びとの心を潤そうとする時に、この地下水のごとく、仏の力が、愛が、勇氣が、光が、湧き出してくるのだ」
——《『仏陀再誕』第2章「叡智の言葉」／愛の実践》

Die Kraft kommt aus dem Herzen wie Wasser aus der Erde. 26-14

力は、水が大地から湧くように、心から出てきます。

力は**先に与えられる**のではない。**与えようとしたときに湧いてくる**。だから「できるようになってから伝道する」のではなく、**伝道しようとしたときに、できるようになる**。

● 6-4. 「断られてつらい」と言われたら

§3の二つの教えをそのまま渡す。そのうえで——

Hundert Türen, zwei Ja. Das ist normal.

百軒回って二軒。それがふつうです。

Nicht du wirst abgelehnt, sondern der Zeitpunkt stimmt noch nicht.

断られたのはあなたではありません。時がまだ来ていません。

7. 練習

● A. 六つの段で組む

次の場面の訪問を、§2の①～⑥の順でドイツ語で組みなさい。

(1) 近所にあいさつに行き、月刊誌を渡す(2) 商店に行き、本を渡す。断られる(3) 二度目の訪問で、支部の集いにお誘いする

● B. 断られたときの返し

次の断り文句に、明るく返しなさい（各1文）。

(1) **Nein danke, ich habe keine Zeit.** (2) **Religion interessiert mich nicht.** (3) **Ich lese keine Bücher.**

解答例 (1) **Kein Problem. Vielen Dank trotzdem. Alles Gute für Sie!** (2) **Das verstehe ich. Darf ich Ihnen trotzdem etwas dalassen?** (3) **Dann lesen Sie ruhig nur eine Zeile. Danke schön!**

● C. 経典で答える

次の問いに、§6の教えを引きながらドイツ語で答えなさい。

(1) 「信仰があると何が変わるのですか」 (2) 「私には伝道する力がありません」

8. 最後に

伝道の技術は、すべて**相手を大切にすること**から出ている。マニュアルが「相手の方が家の中に入るまで見送ると丁寧です」と書き、「この姿を見ていた近所の方が感動して後日、訪問した際に入会されたケースがあります」と書き添えているのは、そのことである。

見ているのは、目の前の一人だけではない。

Wir lernen Deutsch, um die Wahrheit weiterzugeben. 2K0-1

私たちは、真理を伝えるためにドイツ語を学びます。

付録 13 哲学の使命 ―― なぜドイツ語で学ぶのか

本書はドイツ語の教科書である。しかし、なぜドイツ語なのか。なぜドイツ観念論の言葉を、伝道のために学ぶのか。

その答えは、大川隆法総裁が 1989 年 9 月 17 日「『黄金の法』講義（二）」で説かれている。本付録は、その講義から**哲学の使命**を語られた箇所を抜粋してお届けするものである。

ドイツ語の学習に行き詰まったとき、また、「語学など伝道に関係があるのか」と思ったときに、ここへ戻ってきてほしい。

本付録について

§1～§4、§6～§7 の引用は「『黄金の法』講義（二）」（1989 年 9 月 17 日）、§5 の引用は『ヘーゲルに聞いてみた』によります。いずれも原典どおりに引いています。

ドイツ語は、公式ドイツ語版に実在する語を用いて本書が組んだものです（[本書記]）。

1. 神は、沈黙していない

まず、講義全体を貫く一点から。

「ここに神は、決して沈黙していないという重要な事実、私たちは目覚めるのであります。

……こうした過去の情熱的な光の天使たちの活動を見るにつけて、神がどこに黙っているか、何もしていないで神が手をこまねいて見ていたことなど一度もない。

いつも、いつもその光の天使を、彼らの神の一部を出して、そしてこれだけやっているではないか、これがわからぬか、ということが、この『黄金の法』のメイン・テーマであります」

Gott schweigt nicht.

神は沈黙していません。

〈英〉 God is not silent.

[本書記]

カントも、ヘーゲルも、天上界から**送り込まれた人**であった。哲学は、人間が勝手に始めた営みではない。**神の側から差し伸べられた手**の一つである。――そう説かれている。

「光の天使たちは、ありとあらゆる角度から努力を惜しんでいないのであります。

この手が駄目ならこれ、これで駄目なら次はこれ、それでも駄目ならこれ、と次から次へと新たな仕事を展開しているわけであります」

2. 人間が人間である理由

カントについて説かれた箇所は、そのまま**学ぶことの意味**になっている。

「私たちは、手に触れるもの、目に見えるものだけを理解する範囲にとまっている限り、それは動物的な世界のなかにとまっているということでもあります。

動物たちは、みずからの目で見、鼻で臭い、耳で聞き、手で触れるもの以外を、それ以外の世界を理解することができませんが、

人間の人間たる理由は、そのよってきたるところは、そうした五感によって理解できる世界、

それを超えた世界を構築し、その世界のなかに生きることができるということでもあります」

Der Mensch kann eine Welt bauen, die er nicht sehen kann.

人間は、目に見えない世界を築くことができます。

〈英〉 Man can build a world that he cannot see.

[本書記]

★抽象的な思考ができることは、それ自体が魂の進化のしるしである、とも説かれている。

「抽象的な、思弁的なものの考え方ができるということが、実はその人の魂が、ある程度進化してきているということを示すものでもあります」

――文法を学ぶという、あの抽象的な作業も、その一つである。

3. ヘーゲルの偉大さは、どこにあったか

「凡百の哲学者との違いは、**神の心を知っていた**という、その一点に尽きます。

神の世界計画を見抜いた哲学者であったということです。

これがヘーゲルの偉大さそのものであります」

Hegels Größe lag darin, dass er das Herz Gottes kannte.

ヘーゲルの偉大さは、神の心を知っていたという一点にありました。

[本書記]

そして、その偉大さは、ヘーゲル研究者には分からないとも説かれている。

「ヘーゲルの偉大さがわかるためには、私たちが述べているところの、**この神理哲学を理解する必要がある**のです。

神の世界から見た神理の全景がわからなければ、ヘーゲルがいかほどの悟りを持っていたかがわからないのです」

4. 哲学の使命 ―― この付録の中心

ここが、もっとも篤く語られた箇所である。

「私は、神を探究しない哲学者は、真の哲学者ではないというふうに思います。哲学を語りながら、言葉の遊びに終始している数多くの方がたを見るにつけて、『あなたがたは哲学者と呼ぶに値しない。』私はそう言いたいのであります。

哲学者を語り、そして日本を代表する哲学者のような顔をしておりながら、哲学とは何であるかを知らない人が、あまりにも多すぎる。

哲学とは、神とは何かを、より多くの人びとにわかるように、
そうした立場で理論的に、論理的に整合的に説き明かすこと、
これに尽きているのであります」

「宗教家たちは、信仰ということがらを通して、一投則、一挙に、神の世界に投入することを述べてまいりましたが、
地上の人間にわかるような思考回路でもって、
この神へのたどり着く道を教えることが哲学者の使命であり、これに反した哲学などは、この地上に存在する意義はゼロであるのです」

**Die Aufgabe der Philosophie ist es, den Weg zu Gott so zu erklären,
dass die Menschen auf der Erde ihn verstehen können.**

哲学の使命は、神へ至る道を、地上の人間に分かるように説き明かすことです。

(英) The mission of philosophy is to explain the way to God so that people on earth can understand it.

[本書訳]

★ これは、そのまま伝道の定義でもある。

「神とは何かを、より多くの人びとにわかるように説き明かす」――

本書の会話編がやろうとしていることは、まさにこれである。

ドイツ語を学ぶとは、ドイツ語圏の人にわかる思考回路を手に入れるということなのだ。

5. ただし、ヘーゲルにも行き過ぎはある

ここまでヘーゲルの偉大さを見てきた。しかし大川隆法総裁は、ヘーゲルのもっとも有名な命題については、**はっきりと行き過ぎを指摘**しておられる。**偉大さと行き過ぎは、別に見るのである。**

「有名な命題として、『理性的なものは現実的であり、現実的なものは理性的である』と、よく言われるのですが、『ヘーゲル、大丈夫かい?』というのが、私の五十八歳になつての感想なのです(笑)」

《『ヘーゲルに聞いてみた』1「観念論哲学の完成者・ヘーゲルに『現代の問題』を聞いてみる」

／「理性的なものは現実的である」というのは“言葉の遊び”》

ヘーゲル自身のドイツ語では、この命題はこう書かれている(『法哲学』序文)。

Was vernünftig ist, das ist wirklich; und was wirklich ist, das ist vernünftig.

理性的なものは現実的であり、現実的なものは理性的である。

was ..., das ... という関係文の形である(第15章)。形が整っているぶん、**かっこよく聞こえる**。総裁も若いころはそう感じたと言っておられる。

「『理性的なものは現実的で、現実的なものは理性的』というのは、かっこいいなあ」と思い、反復して言い返していたのです。当時は、何だかすぐ分かったような、分からないような感じで、かっこいいなと思っていたけれども、今聞くと、『あんた、大丈夫か?』という気がします」

● 5-1. 焼き芋のたとえ

「例えて言えば、『ここに焼き芋があります。焼き芋は現実的なものです。』

では、焼き芋は理性的なものですか? 理性的だから焼き芋なんですか? どうですか?」

というようなことでしょう。

さすがに、『いいかげんにしなさい』と言いたくなるところがあります」

Die geröstete Süßkartoffel ist wirklich. Ist sie deshalb vernünftig?

焼き芋は現実的なものです。だからといって、理性的なのでしょうか。

[本書訳]

言葉としては筋が通っているのに、具体的なものを一つ入れた途端に崩れる。**抽象的な命題を、身近なものに当てはめて確かめる**――これは、ドイツ語で難しい文を読むときにも、そのまま使える読み方である。

● 5-2. 三つの理由

総裁は、この命題が成り立たない理由を三つ挙げておられる。

① もし現実がすべて理性的なら、努力が要らないことになる

「もし、現実的なものがすべて理性的なのだとしたら、何も努力は要らないことになるでしょう。

例えば、『花は花で完成している』という見方はあろうかとは思いますが、ちゃんとした花として売れるようにつくろうとしたら、やはり、それだけの努力は要るわけです。

『種をまき、あるいは、球根を植えて、育てる』という努力をしなくてははいけません」

Ohne Mühe wächst keine Blume.

努力なしに、花は育ちません。

[本書訳]

② エントロピーの法則

「エントロピーの法則によって、現実的なものは放っておけば乱雑になっていって、みな崩壊し、腐敗して、消えていくものなのです」

③ 釈迦の教え ―― 現実が消え去ってゆく

「釈迦の教えによれば、『現実』というのは消え去っていくものです。
つまり、崩壊し、流れ去っていくようなものですから、決して、理性的なものではありません」

Alles Wirkliche vergeht.

現実のものは、すべて過ぎ去ります。

[本書訳]

諸行無常である。移ろい消えてゆくものを「**理性的**」とは呼べない、という見極めである。

● 5-3. 「世界精神が行く」

「これを象徴するのが、ナポレオンについて語った言葉かと思います。
ナポレオンに自分の住んでいる町を攻略されたのですが、ナポレオンが馬に乗って通っていくときに、ヘーゲルは『世界精神が行く』と言ったのです」

Da reitet der Weltgeist.

世界精神が行く。

[本書訳。ドイツ語では *der Weltgeist zu Pferde* (馬上の世界精神) として知られる]

「ただ、そのように感動していられるのは、人間として、“おめでたい”といえ、おめでたい人ではあるかもしれませんが（笑）。
現実の戦争に参加していないから、そのようなことが言えたわけです。

現実とは、それほど理性的なものではないでしょう。

もっと感性的に、あるいは、感情的に、『憎しみ』や『恨み』の渦巻くなかで、なされているものだと思います」

占領されている側の町にいて、その征服者を見て「世界精神が行く」と感動できたのは、**自分がその戦場にいなかったからである。**
――机の上で組み立てた理屈は、**現場に立つと崩れることがある。**

● 5-4. なぜ、この箇所を載せるのか

ここまで読んで、戸惑った人もいるかもしれない。§3では「ヘーゲルの偉大さは神の心を知っていた一点に尽きる」と説かれ、§5では「あんた、大丈夫か」と言われている。矛盾ではないのか。

矛盾ではない。これが、教えを基準にものを見るということである。

偉大さは偉大さとして認め、行き過ぎは行き過ぎとして見抜く。

権威だからすべて正しい、でもない。一点おかしいから全部だめ、でもない。**どこが真理に適い、どこが外れているかを、教えを物差しにして分けるのである。**

この見方は、次の§6でマルクスについて語られる言葉と、まったく同じ形をしている。「情熱は評価する。努力も尊敬する。しかし**根本において神を消し去ったところに誤りがある**」――ヘーゲルについても、マルクスについても、同じ物差しが当てられている。

Wir sehen die Größe und wir sehen die Grenze.

私たちは、偉大さを見ると同時に、限界も見ます。

[本書訳]

★ 伝道の現場でも、これがそのまま要る。

相手が信じている思想を、頭から否定しても心は開かない。

かといって、何もかも「そのとおりですね」と言えば、伝えるものが無くなる。

良いところは良いと認めたいので、根本の一点を示す。

――巻末付録 12「伝道のアドバイス」§6も、同じ構えで書いてある。

6. 神を失った哲学について

「ゆえに、このヘーゲル以降の、マルクスらの流れはひじょうに悲しむべきものがあったということです。

マルクスが理想社会をつくらんがために発した、あの情熱を私は尊敬しております。

.....そして、社会的に圧迫された人たちを解放せんとした、あの心に、かつてのモーゼのようなものさを感じます。

しかしながら、その根本思想に神を失った時に、

人間は大いなる暗闇のなかに置かれるということを、断じて見逃してはならなかった、そう思います」

情熱は評価する。努力も尊敬する。しかし、**根本において神を消し去ったところに誤りがある。**――この見極めの仕方は、伝道の場でも人と向き合うときにも、そのまま使える。

「思想は、その人を離れて動きはじめます。

その思想がよき果実を生んだならば、その思想を植えた人は素晴らしい人であるが、その思想が悪き果実を生んでいったならば、それなりの責任というものがある」

第 12 章で学んだ**因果の理法**が、思想の世界にも働いている。

Das Gesetz von Ursache und Wirkung gilt auch für die Gedanken.

因果の理法は、思想にも働きます。

[本書訳。 *das Gesetz von Ursache und Wirkung* は公式訳]

7. 知は、情熱であり、実践である

講義の最後は、学ぶ者への言葉で結ばれている。

「この『黄金の法』には、知の原理を書いてあるけれども、実は**知の原理は、たんなる知識の集め、より集まりじゃなくて、情熱の原理でもある**
ということをお忘れてはならん……」

知れば、知るほど情熱が湧いてくるんです。

真実のことを知れば、このままではいられないという気持ちがおきてきます」

「王陽明などの言う『真に知ったら、実行せざるをえない』という思想と一緒になんです。

『実行までいかないのは、まだ知らない証拠だ。ほんとうに知っていたら、やらざるをえんだ』」

「知の原理は、実際は実践の原理と表裏一体であり、それぞれのなかに、実践のなかに知があり、知のなかに実践があるんだと私は思います。

だから、どうかこれだけをね、**別の世界だと思わないでいただきたい。**

みなさんの行動の原理でもあるということを知っていただきたいと思います」

Wer wirklich weiß, der handelt auch.

本当に知った人は、行動もします。

〈英〉 He who truly knows also acts.

[本書訳]

8. だから、ドイツ語を学ぶ

単語を覚えることも、格変化を覚えることも、それ自体は地味な作業である。けれども、その先にあるのは――

- ・ **神とは何かを、ドイツ語圏の人にわかるように説き明かすこと** (§4)
- ・ **五感を超えた世界を、言葉で築くこと** (§2)
- ・ **知ったことを、行動に移すこと** (§7)

この三つである。

文法の一つひとつは、そのための道具にすぎない。だが、道具がなければ何もできない。

Wir lernen Deutsch, um die Wahrheit weiterzugeben. JK0-1

私たちは、真理を伝えるためにドイツ語を学びます。

――本書のすべての章は、この一文に向かっている。

付録 14 三次元を超える ―― 奇跡の法則と、創造主への信仰、三帰の功德

伝道場で、いちばん大きな問いはこれである。「なぜ信仰が要るのか」。それに答えるには、この世界が三次元だけでできているのではないこと、三次元の法則を超える力が信仰であること、そしてその信仰は宇宙を創られた主に向かうものであること、の三つを、順番に、短い文で言えなければならない。

本付録は、その説明をドイツ語の十一の文に組み立て (§4)、そのうえで、入会・三帰の功德と三帰者に勧めることを、公式ドイツ語版『支部発展のための祈り』（2023年・国際本部刊）の訳文で収めた (§5～§7)。信じた人に、次の一步を具体的に示せてこそ、伝道は完結する。

本付録について

經典の引用は原典どおり。ドイツ語は、[公式訳]と記した行は公式ドイツ語版の字句そのまま、

[本書訳]は公式版に実在する語だけで本書が組んだ文である。

§5～§7の独文は、すべて公式ドイツ語版『支部発展のための祈り』（*Gebet zur Entwicklung unseres Tempels*）の訳文である。

1. 大宇宙は多次元構造である

まず土台。『太陽の法』第1章は、「次元」そのものをこう定義する。

「『次元』とは、その世界のなりたちを、いくつの要素で表現するかといった世界観です」

――《『太陽の法』第1章「太陽の昇る時」／5多次元の宇宙》

「三次元とは、縦、横、そして、高さからなりたっています」

――《『太陽の法』第1章「太陽の昇る時」／5多次元の宇宙》

「四次元世界になると、三次元の世界の縦、横、高さに加えて、時間が要素として入ってきます」

――《『太陽の法』第1章「太陽の昇る時」／5多次元の宇宙》

ここで大切なのは、三次元は全体ではなく、いちばん下の層だということである。『太陽の法』は、多次元宇宙を「人体と、それをつつむ衣服の比喩」でも説いている――魂（心）がタマネギのように何層にもなっている、という第4章のたとえと、同じ構造である。

★公式ドイツ語版では『幸福になれない症候群』のドイツ語版に、

„... die Existenz einer multidimensionalen Welt ... – mit der dritten Dimension, die von der vierten Dimension umhüllt wird, der vierten von der fünften und so weiter“

（多次元世界の存在……三次元は四次元に包まれ、四次元は五次元に包まれ、という具合に）とあります。

multidimensional（多次元の）・die dritte Dimension（三次元）・dreidimensional（三次元の）が公式の語です。

関係代名詞 die は der dritten Dimension（女性）を受けて1格、umhüllt wird は受動（第11章）。

2. 三次元の法則と、それをを超える力 ―― 信仰

三次元には三次元の法則がある。しかしそれは、一定の条件のもとで超えられる。

「この三次元という世界は、ひとつの法則の下にあり、その法則の下に各人が人生修行をしていくことになっています。

しかし、この三次元の法則が、一定の条件の下に、ねじ曲げられる、あるいは超越されることがあります。

人間は、もともと三次元を超えた存在、四次元以降の高次元存在ですが、肉体に宿って、この三次元に生活していると、通常は三次元のルールに完全に支配された生き方をするようになります」

――《『宗教選択の時代』第2章「信仰の世界」／3 信仰心に付随する奇蹟》

その「一定の条件」とは何か。答えは一つである。

「三宝帰依が確立しないと、奇蹟というものは起きにくいのです。信仰心が確立した段階で奇蹟が起きてきます。

要するに、信仰心は三次元の法則を乗り越える力なのです。

信仰心が立たなければ、人間は三次元の法則の下にしか生きることができません。

三次元に生きていながら三次元を超え、三次元に生きていながら高次元の人たちと共通するには、そのための方法が必要です。その方法とは、いったい何でしょうか。それが『信仰』なのです」

――《『病氣平癒祈願』『健康の祈り』講義』第1章「『病氣平癒祈願』講義」／1 信仰心と奇蹟との関係》

「信仰によって、光のパイプ、あるいは光のドームが高次元世界とつながり、その結果、その身は三次元にありながら

心は高次元世界に共通します」

――《『病氣平癒祈願』『健康の祈り』講義』第1章「『病氣平癒祈願』講義」／1 信仰心と奇蹟との関係》

これが「奇蹟が起きる法則」である。奇蹟は偶然でも例外でもなく、信仰という条件が満たされたときに、上の次元の力が三次元に働く、という法則の現れなのである。ここで「三宝帰依」という言葉が出てくることに注意してほしい。§5で見る三帰は、まさにこの「奇蹟が起きる条件」を自分の身に整えることにほかならない。

1991年7月15日、東京ドームでの「エル・カンターレ宣言」は、これを一句で言い切っている。

「およそ、あなた方がこの地上において経験しうるもののなかで、信仰という名の奇蹟ほど素晴らしい力を内在せるものはない。

それは、すべての不可能を可能とするものであり、あらゆる困難を排除し、苦難を吹き飛ばし、そして、ただ一筋に神へと向かう道を拓くものである」

――《『理想国家日本の条件』第1章「信仰の勝利」／1 エル・カンターレ宣言》

独文	和文	出どころ
Glaube ist die Kraft, die alles Unmögliche möglich macht.	それは、すべての不可能を可能とするものであり	[公式訳] Twiceborn 独語版
Er beseitigt alle Schwierigkeiten, lässt alles Leiden vergehen und öffnet den direkten Weg zu Gott.	あらゆる困難を排除し、苦難を吹き飛ばし、そして、ただ一筋に神へと向かう道を拓くものである	[公式訳] Twiceborn 独語版

《独文=Twiceborn ドイツ語版 第二部「信仰の勝利」／和文=『理想国家日本の条件』第1章「信仰の勝利」／1 エル・カンターレ宣言》

▷ *die Kraft, die ... macht* は関係文（第15章）。*alles Unmögliche*（すべての不可能なもの）は形容詞の名詞化（第17章）。
lässt ... vergehen は *lassen* + 不定詞（第8章）。

3. なぜ「創造主への信仰」なのか

信仰は、何に向かってもよいものではない。三次元の法則を超える力が働くのは、**その法則そのものを創られた方への信仰**においてである。

「教団の内部においては『アルファの法』も説かれているので、創造神、造物主としての考え方や、なした仕事については、すでに述べたものもあります」

——《『メシアの法』第1章「エローヒムの本心」／1「地球的苦難」の起源とは》

独文	和文	出どころ
... beschrieb Seine Gedanken und Sein Werk als Schöpfer.	創造神、造物主としての考え方や、なした仕事	〔公式訳〕『メシアの法』独語版
Er ist der Höchste Gott der Erde, der die Menschheit seit dem Beginn der Genesis geleitet hat, und Er ist der Schöpfer des Universums.	地球系霊団の至高神。地球神として地球の創世より人類を導いてきた存在であるとともに、宇宙の創世にもかかわる存在。	〔公式訳〕『反省の手引き』独語版

《独文=『メシアの法』ドイツ語版／『反省の手引き』ドイツ語版 *Anleitung zur Selbstreflexion*。和文=『メシアの法』第1章／『超古代リーディング・天御祖神と日本文明の始まり』（注）》

★公式ドイツ語版では各書の巻末「幸福の科学について」は、信仰の対象をこう書きます。

„Happy Science ist eine religiöse Gruppe, die auf den Glauben an El Cantare, den Gott der Erde und den Schöpfer des Universums, gegründet wurde.“

（幸福の科学は、地球神であり宇宙の創造主であるエル・カンターレへの信仰のうえに立てられた宗教団体である）

—— *der Glaube an* + 4格（～への信仰）。*El Cantare* に同格で *den Gott der Erde und den Schöpfer des Universums* が続き、同格はすべて4格で揃えます（第3章）。この一文の骨組みが、§4の文⑨そのものです。

なぜ創造主でなければならないのか。理由は文法のように単純である。**三次元の法則は、創造主がお定めになった法則だからだ**。法則を超える力は、法則の下にあるものからは出ない。**法則を創られた方だけが、それを超えて働かれる**。その方につながること——それが信仰であり、つながる手続きが三帰である。

ゆえに、ドイツ語で奇跡を語るときは、*Wunder*（奇跡）を *Glaube*（信仰）と切り離さず、*Glaube* を *der Schöpfer*（創造主）と切り離さないこと。この三語を一本の線で結べば、説明は立つ。

4. ドイツ語で説明する ―― 十一の文

以下は、初対面の人に三分で話せる台本である。番号順に、一文ずつ。使っている文法は、それぞれ▷に記した章で学んだものだけである（形容詞の名詞化を使う⑧のみ第17章）。

1. Das Universum ist multidimensional.

宇宙は多次元です。

〔英〕The universe is multidimensional.

▷ *sein* の3人称単数（第2章）。*multidimensional* は公式訳の語。

2. Diese Welt ist die dritte Dimension: Länge, Breite und Höhe.

この世は三次元です。縦、横、高さ。

〔英〕This world is the third dimension: length, width, and height.

▷ 指示冠詞 *diese*（第5章）。序数 *dritte*（付録2）。《三次元とは、縦、横、そして、高さ——『太陽の法』第1章》

3. In der dritten Dimension gelten die Gesetze dieser Welt.

三次元には、この世の法則が働いています。

〔英〕In the third dimension, the laws of this world apply.

▷ *in* + 3格（第6章）。*dieser Welt* は2格（この世の）。動詞 *gelten* が2番目、主語 *die Gesetze* はその後ろ（定動詞第2位）。

4. Doch der Mensch ist ursprünglich ein Wesen, das über die dritte Dimension hinausgeht.

しかし人間は、もともと三次元を超えた存在です。

〔英〕But the human being is originally a being that goes beyond the third dimension.

▷ 関係代名詞 *das*（先行詞 *ein Wesen* は中性・1格）。*hinausgehen* は分離動詞で、関係文では文末に一語で。

《人間は、もともと三次元を超えた存在、四次元以降の高次元存在——『宗教選択の時代』第2章》

5. Wie kann man die Gesetze der dritten Dimension überwinden?

どうすれば、三次元の法則を乗り越えられるでしょうか。

〔英〕How can one overcome the laws of the third dimension?

▷ 話法の助動詞 *können* + 文末の不定詞（第8章・枠構造）。*man*（第2章）。

6. Die Antwort ist der Glaube. Der Glaube ist die Kraft, die die Gesetze der dritten Dimension überwindet.

答えは信仰です。信仰は、三次元の法則を乗り越える力です。

〔英〕The answer is faith. Faith is the power that overcomes the laws of the third dimension.

▷ *die Kraft, die ...* は関係文（第15章）。関係文の動詞 *überwindet* は文末。

《信仰心は三次元の法則を乗り越える力なのです——『「病氣平癒祈願」「健康の祈り」講義」第1章》

7. Wenn der Glaube fest steht, geschehen Wunder.

信仰心が確立したとき、奇跡が起きます。

〈英〉When faith is firmly established, miracles happen.

- ▷ wenn の副文（第12章）。副文が前に出たので、主節は動詞 *geschehen* から始まります。das Wunder → 複数 *die Wunder* (-型)。《信仰心が確立した段階で奇跡が起きてきます——同上》

8. Denn der Glaube ist die Kraft, die alles Unmögliche möglich macht.

なぜなら信仰は、すべての不可能を可能にする力だからです。

〈英〉For faith is the power that makes everything impossible possible.

- ▷ [公式訳] (§2の対訳)に *denn* (並列接続詞・第8章) を添えた形。語順は変わりません。

9. Darum ist der Glaube an den Herrn El Cantare, den Schöpfer des Universums, unverzichtbar.

だからこそ、宇宙の創造主である主エル・カンターレへの信仰が、欠かせないのです。

〈英〉That is why faith in the Lord El Cantare, the Creator of the universe, is indispensable.

- ▷ der Glaube an + 4格。den Herrn (弱変化・第7章 付録7 §4-3) と同格の *den Schöpfer* も4格。文頭の *darum* で動詞 *ist* が2番目に。主を呼ぶときは必ず名を添える (付録7)。

10. Wer an den Schöpfer glaubt, lebt in der dritten Dimension und ist doch mit dem Himmel verbunden.

創造主を信じる人は、三次元に生きながら、天とつながっています。

〈英〉Whoever believes in the Creator lives in the third dimension and yet is connected with heaven.

- ▷ wer の関係文（第15章）。*verbunden* は *verbinden* の過去分詞で、*sein* + 過去分詞 = 状態受動（第11章）。

《その身は三次元にありながら心は高次元世界に相通します——同上》

11. Das ist das Gesetz, nach dem Wunder geschehen.

これが、奇跡が起きる法則です。

〈英〉This is the law according to which miracles happen.

- ▷ 前置詞 + 関係代名詞 *nach dem* (*nach* は3格支配、先行詞 *das Gesetz* は中性)。

★使い方

①～③で「世界の構造」、④～⑥で「人間と信仰」、⑦～⑪で「奇跡と創造主」。

相手が科学に強い人なら①～③に時間をかけ、苦しんでいる人なら⑦⑧から入る。

どこから始めても、⑨の一文に必ず戻ってくること。

5. 入会・三帰の功德 ―― 公式ドイツ語版『支部発展のための祈り』から

信じた人が最初に問うのは「入ると何が変わるのか」である。その答えは、すでに公式の経文として用意されている。『支部発展のための祈り』には「会員功德・八箇条」「三帰信者功德・六箇条」が収められ、そのドイツ語版が2023年に国際本部から刊行された (*Gebet zur Entwicklung unseres Tempels*)。独文は公式訳のまま、和文は原文のままを並べる。

まず訳語の対応を押さえておく。公式版では、会員 = *Lernender* (学ぶ人。入会して学び始めた、三帰誓願の前の段階の信者)、三帰信者 = *Devotee* (*Devotee-Mitglied*)、支部 = *Tempel*、精舎 = *Shoja*、総本山 = *Haupttempel*、植福 = *Glückspflanzung*、法友 = *Dharma-Freunde*、御本尊 = *Gohonzon* である。これを知らないと、ドイツ語圏の信者と話が通じない。

★公式ドイツ語版では各書の巻末「Mitgliedschaften (会員の種類)」に、二つの段階がこう書かれています。

LERNENDER — „Diejenigen, die sich verpflichten, an Herrngott El Cantare zu glauben und mehr erfahren möchten, können sich uns anschließen.“

(主なる神エル・カンターレを信じることを誓い、もっと知りたいと願う人は、私たちに加わることができる)

DEVOTEE — „... werden Sie ein Devotee, der sich den Drei Schätzen – Buddha, Dharma und Sangha – hingibt. ... Ein Devotee zu werden bedeutet, ein Schüler des Buddhas zu werden.“

(三宝——仏・法・僧——に帰依する三帰信者となる。……三帰信者になるとは、私の弟子になることである)

つまり *Lernender* → *Devotee* の順で、§5-1の八箇条は前者、§5-2の六箇条は後者の功德である。

● 5-1. 会員功德・八箇条 ―― Die Acht himmlischen Verdienste, ein Lernender zu werden

独文	和文 (原文)	出どころ
Ein Lernender bei Happy Science zu werden beweist, dass du ein ‚guter Mensch‘ bist.	一、幸福の科学会員になるということは、「善人」の証明である。	[公式訳]
Wenn du beitriffst, wird dein Schutzwesen, das geschlafen hat, erwachen.	二、入会すると、今まで眠っていたあなたの守護霊が目覚める。	[公式訳]
Wenn du ein Lernender wirst, wird dein Herz für Liebe und Barmherzigkeit stärker werden.	三、会員になると、愛の心、慈悲の心が強くなる。	[公式訳]
Wenn du ein Lernender wirst, wirst du Selbstvertrauen erlangen, das du dein ganzes Leben lang aufrechterhalten wirst, und zur Gesellschaft beitragen wollen.	四、会員になると、一生を貫く自信ができ、社会貢献がしたくなる。	[公式訳]
Wenn du ein Lernender wirst, werden deine vergangenen Sünden immer leichter.	五、会員になると、過去の罪が軽くなっていく。	[公式訳]
Wenn du ein Lernender wirst, wird dein Herz für Selbstreflexion, Dankbarkeit und Fortschritt immer stärker.	六、会員になると、「反省」「感謝」「発展」の心が強くなる。	[公式訳]
Wenn du ein Lernender wirst, wirst du den ‚Geist der Selbsthilfe‘ erlangen und zu deinem Willen zur Selbstverbesserung erwachen.	七、会員になると、「自助努力の精神」が身につく、「向上心」が目覚めてくる。	[公式訳]
Wenn du ein Lernender wirst, wirst du von Gott und Buddha geliebt werden.	八、会員になると、神仏に愛されるようになる。	[公式訳]

▷ 八箇条の骨組みは „Wenn du ..., wird/wirst ...“ —— *wenn* の副文（第12章） + 未来形 *werden*（第8章）。

二は関係文 *das geschlafen hat*（現在完了・第10章）、八は **受動の未来** *wirst ... geliebt werden*（第11章）。

相手に向かって *du* で語る経文である。伝道の場合は、この *du* をそのまま相手に向けられよう。

● 5-2. 三帰信者功德・六箇条 ―― Die Sechs himmlischen Verdienste, ein Devotee zu werden

独文	和文(原文)	出どころ
Die Gelegenheit, ein direkter Schüler von Buddha zu werden, kommt nur einmal in dreitausend Jahren.	〔第一条〕仏の直弟子になれるチャンスは三千年に一度しかない。	〔公式訳〕
Sich den Drei Schätzen hinzugeben bedeutet, dass du eine „Jenseitsversicherung“ abschließt. Du wirst aus der Hölle gerettet werden und ein Engel oder Bodhisattwa wird dich als Lehrer im Himmel begleiten.	〔第二条〕三宝帰依することとは、「来世保険」に入ることだ。地獄からは救い出してくれ、天国では、菩薩・天使が先生として導いてくれる。	〔公式訳〕
Devotees haben die Aufgabe, böse Geister zu vertreiben. Du schließt dich einem Team des Lichts an, das diese Welt erleuchtet.	〔第三条〕三帰信者は、悪霊の撃退役だ。この世を照らす光の仲間入りだ。	〔公式訳〕
Devotees können sich Buddhas Licht zuleiten. Der Glaube wird zur Immunkraft und deine Krankheit wird dadurch geheilt.	〔第四条〕三帰信者は、仏の光を引いてこられる。信仰心が免疫力となって、病氣も治っていく。	〔公式訳〕
Devotees können vom Himmel Inspiration empfangen. Inspirationen vom Himmel zu bekommen. Du wirst bei der Arbeit mit Ideen gesegnet sein und ein Leben voller Altruismus führen können.	〔第五条〕三帰信者は、天上界からインスピレーションを受けられる。仕事上もアイデアに恵まれ、利他の人生を生きられる。	〔公式訳〕
Die Glückspflanzung von Devotees ist wie die Anhäufung von Reichtum im Himmel. Das freut auch die Engel auf der Bank des Himmels.	〔第六条〕三帰信者の植福は、天の倉に富を積むことだ。天国銀行の天使たちも喜んでいる。	〔公式訳〕

▷ 第一条 *ein direkter Schüler von Buddha zu werden* は **zu 不定詞句** (第 16 章) が *die Gelegenheit* を説明する形。

第二条 *sich ... hinzugeben* (帰依する) は再帰動詞 (第 7 章) + *zu* 不定詞。*die Drei Schätze*=三宝(仏・法・僧)。

第三条 *erleuchtet* ―― 付録 7 で見た **erleuchten** (照らす・悟らしめる) が、ここでは「この世を照らす光の仲間」に使われている。

第五条の 2 行目 *Inspirationen vom Himmel zu bekommen* は公式版の表記のまま。

第六条の *die Anhäufung von Reichtum im Himmel* (天に富を積むこと) は、『新約聖書』の *Schätze im Himmel sammeln* (マタイ 6:20) と

響き合う言い回しで、ドイツ語圏の人にはそのまま通じる。

§2 とのつながりを、ここで必ず言うこと。奇跡の条件は「三宝帰依の確立」であった。第四条「仏の光を引いてこられる。信仰心が免疫力となって、病氣も治っていく」は、§2 の「信仰心は三次元の法則を乗り越える力」が、三帰信者の身に具体的に起きることを言っている。三帰とは、奇跡の法則の側に立つことである。

6. 三帰したら、これをしましょう ―― 新三帰者に期待すること

三帰は入口である。ここから先を具体的に示せる伝道者が、人を育てられる。『支部発展のための祈り』の「新三帰者に期待すること」十箇条を、公式ドイツ語版とともに掲げる。これを実践すれば、信仰者としてすすくと成長し、本当の幸福を得る近道に入る。

1. [公式訳] Als Erstes schau dir ein paar Mal hintereinander Vorträge des Meisters in deinem Tempel an.

一、まずは支部の御法話拝聴会に何度か続けてご参加下さい。

▷ *schau ... an* (anschauen・分離動詞) の **du に対する命令形** (対策学習編 3)。*als Erstes*=まず第一に。

2. [公式訳] Als Nächstes nimm bitte mehr als einmal an anderen Aktivitäten als dem Anschauen von Meisters Vorträgen.

二、次に御法話拝聴会以外の支部行事に一度以上ご参加下さい。

▷ *nimm ... teil* (teilnehmen an + 3 格) の命令形。*mehr als einmal*=一度以上。*anderen ... als ...*=～以外の。

3. [公式訳] Bitte finde Freunde unter den Gläubigen, mit denen du dich gut unterhalten kannst (Dharma-Freunde).

三、支部会員の中から親しく話し合える友だち(法友)をつくって下さい。

▷ *mit denen*=前置詞+関係代名詞(複数 3 格・第 15 章)。*sich unterhalten*=語り合う(再帰・第 7 章)。

4. [公式訳] Bitte nimm an mindestens einer der folgenden Aktivitäten in deinem Tempel teil:

1. Heilige Freiwilligenarbeit (Samu) 2. Missionsarbeit (Schaffung neuer Gläubiger) 3. Glückspflanzung
4. Verteilung von Monatszeitschriften, Broschüren, Prospekten usw. 5. Spenden von Büchern der Wahrheit 6. Spenden von Zeitschriften The Liberty (Die Freiheit) und Are You Happy? (Bist du glücklich?) 7. Teilnahme an „Leistungskursen“ oder anderen Seminaren 8. Politische Aktivitäten

四、支部活動〔①聖務ボランティア(作務) ②伝道(新しい信者づくり) ③植福 ④布教誌配布(各種・選んでもよい) ⑤真理の書籍 献本 ⑥「ザ・リバティ」「アー・ユー・ハッピー？」献本 ⑦セミナー等の資格試験参加 ⑧政治活動〕のどれか、最低一つには取り組んで下さい。

▷ *mindestens einer der folgenden Aktivitäten*=以下の活動のうち少なくとも一つ(*einer* は女性 3 格、*der folgenden Aktivitäten* は複数 2 格)。伝道=Missionsarbeit、植福=Glückspflanzung、献本=Spenden von Büchern ―― 伝道の現場で毎日使う語である。

5. [公式訳] Sobald du als Gläubiger erwacht bist, besuche bitte eine unserer Shojas. Und innerhalb eines Jahres, nachdem du ein Devotee geworden bist, besuche bitte unsere Haupttempel in Japan.

五、信者としての自覚が芽生えたら、まずはお近くの精舎にご参拝下さい。そして三帰から一年以内には、一度以上総本山にご参拝下さい。

▷ *sobald* (～するとすぐに)・*nachdem* (～したあとで) は従属接続詞(第 12 章)。どちらの副文も現在完了(第 10 章)。

6. [公式訳] **Nimm bitte trotz aller Schwierigkeiten mindestens einmal im Jahr ein Übernachtungsseminar bei einem Shoja. Selbst nur eine Übernachtung in einem Shoja wird deinen Glauben vertiefen.**
 六、万難を排して、一年に一度は精舎での一泊以上の研修をお受け下さい。気案にお泊りいただくだけでも、信仰の境地は深まります。
 ▶ *trotz* +2 格 (*aller Schwierigkeiten*) = 万難を排して。 *wird ... vertiefen* = 未来形 (第 8 章)。
7. [公式訳] **Bitte finde deine eigenen Aufgaben und Herausforderungen heraus, indem du dich von Mitarbeitenden, Vortragsleitern und Dharma-Freunden beraten lässt, und engagiere dich beim Studium von Büchern und Vorträgen (Video, DVD, CD, Kassetten) als deine täglichen Anstrengungen.**
 七、職員、講師、法友たちのアドバイスを受けながら自分の課題を見出し、経典、法話 (ビデオ、DVD、CD、テープ) の学習に日々の精進として取り組んで下さい。
 ▶ *indem* + 副文 = ～することによって (第 12 章)。 *sich beraten lassen* = 助言を受ける (*lassen* + 再帰)。
8. [公式訳] **Wenn du dich entscheidest, dein ganzes Leben lang spirituelle Disziplin als Gläubiger zu üben, stelle bitte einen Gohonzon als Symbol deines festen Entschlusses, auf.**
 八、信者として一生修行をしたいと決意されたら、不退転の証、として家庭御本尊をご安置下さい。
 ▶ *sich entscheiden, ... zu üben* = *zu* 不定詞句 (第 16 章)。 *stelle ... auf* (*aufstellen*) の命令形。 *deines festen Entschlusses* = 2 格。
9. [公式訳] **Häuser, die einen Gohonzon haben, sollten ihre Region, wie eine ‚Festung des Lichts‘ erleuchten. Bitte übernimm einen Teil der religiösen Aktivitäten von Happy Science.**
 九、家庭御本尊のある家は、光の砦として地域を照らして下さい。幸福の科学の宗教活動の一翼になって下さい。
 ▶ *Häuser, die ...* = 関係文 (複数・1 格)。 *sollten* = 接続法第 2 式の丁寧な勧め (第 13 章)。ここにも *erleuchten*。
10. [公式訳] **Bitte studiere Buddhas Wahrheit, vertiefe deine Erleuchtung, gib anderen Liebe und arbeite daran, ein Utopia zu schaffen.**
 十、仏法真理を学び、自己の悟りを探究し、人々に愛を与え、ユートピア創りに邁進して下さい。
 ▶ 四つの命令形 (*studiere / vertiefe / gib / arbeite*) を並べた一文。 *gib* は *geben* の *du* 命令形 (*e* → *i*)。 *arbeite daran, ... zu schaffen* = *da(r)-* + 前置詞が *zu* 不定詞句を受ける形 (第 16 章)。
- 最後の一条は、本書全体の要約である。 *Buddhas Wahrheit* (仏法真理) ・ *Erleuchtung* (悟り) ・ *Liebe* (愛) ・ *Utopia*。この四語を、三帰した人が自分の言葉で言えるようになったとき、その人はもう伝道者である。

7. 語法メモ ―― この付録で増えた語

ドイツ語	性	意味	出どころ
multidimensional	形	多次元の	公式訳
die Dimension	女	次元	公式訳
dreidimensional	形	三次元の	公式訳
das Gesetz	中	法則	公式訳
überwinden	動	乗り越える	公式訳
das Wunder	中	奇跡 (複数 <i>die Wunder</i>)	公式訳
geschehen	動	起きる (<i>es geschieht</i>)	公式訳
der Schöpfer des Universums	男	宇宙の創造主	公式訳
der Glaube an +4 格	男	～への信仰	公式訳
unverzichtbar	形	欠かせない	本書
der Lernende / ein Lernender	男	会員 (入会して学ぶ段階。三帰誓願の前)	『支部発展のための祈り』独語版
der Devotee / das Devotee-Mitglied	男／中	三帰信者 (三宝帰依した信者)	同
die Drei Schätze	複	三宝	同
sich den Drei Schätzen hingeben	動	三宝帰依する	同
der Tempel / das Shoja / der Haupttempel	男／中／男	支部／精舎／総本山	同
die Glückspflanzung	女	植福	同
die Dharma-Freunde	複	法友	同
der Gohonzon	男	御本尊	同
die Missionsarbeit	女	伝道	同
das Schutzwesen	中	守護霊	同
die Jenseitsversicherung	女	来世保険	同
die Immunkraft	女	免疫力	同
die Festung des Lichts	女	光の砦	同

付録 15 セミナー講師のために ―― 開会のあいさつからクロージングまで

本書で学んだドイツ語は、最後には**人前で語る**ためのものである。この付録は、ドイツ語でセミナー（支部やオンラインでの学習会・伝道セミナー）を受け持つ人のために、①弟子としての立場、②師の説法の型、③ドイツ語圏の人の心に届く組み立て、④開会のあいさつからクロージングまでのドイツ語のひな型、⑤避けるべきこと、を一つにまとめた。

目指すところは三つ。**聴いた人が、人生を変えたいくなる。主エル・カンターレへの信仰を持ちたいくなる。そして、その信仰を他の人にも伝えたいくなる。**この三段を、九十分で一巡りさせるのがセミナーである。

本付録について

経典の引用は原典どおり。ドイツ語のひな型は、公式ドイツ語版に実在する語だけで本書が組んだ「本書訳」である。

セミナーの聴衆には **Sie**（敬称）で語る。公式ドイツ語版『支部発展のための祈り』が信者に **du** で語りかけるのとは場面が違う。

1. 弟子の立場 ―― 法を説くは師にあり、法を弘めるは弟子にあり

最初に、動かしてはならない一線を確認する。

「法を説くは師にあり。法を弘めるは弟子にあり。弟子たちよ、覚悟せよ」

――《『理想国家日本の条件』第1章「信仰の勝利」／5 神への誓願》

「私は、日本人全員に真理を読んでいただきたい。そして、翻訳された真理が世界に広がらねばならぬ。

法を説くは師にあり。法を弘めるは弟子にあり。弟子の仕事であるのだ」

――《『悟りの極致とは何か』第3章「仏陀再誕」／5 仏弟子の本懐を遂げよ》

翻訳された真理が世界に広がる――ドイツ語で語る私たちの仕事は、まさにここに書かれている。そして、その仕事の範囲は、はっきり区切られている。

「法の創出、法を創り出すことは僧団の使命ではありません。それはみずからの使命を超えたものです。

『法の創出者』ではなく、『法の解説者』となることが、講師をはじめ、幸福の科学のなかで活動する人たちの仕事です。

自分で法を創ることではありません。法を解説すると同時に、それを流布する、弘めるということが、弟子たちの仕事なのです」

――《『ダイナミト思考』第8章「正法とは何か」／4 三宝帰依》

法を創るのは師の仕事であり、弟子が法を創ることは許されない。弟子は「法の解説者」である。

だから、セミナーの骨は**師の言葉の引用**でできていなければならない。自分の体験や言い換えは、その骨に付く肉であって、骨ではない。引用するときは、**書名と章を言う**。それが「私の考えではなく、師の教えです」という、弟子としての姿勢そのものになる。

教えを「効きそうな形」に曲げてはならない、という事例も、経典は挙げている。

「善鸞は、教線を伸ばすために、この教えを本質から説き起こすのではなく、『悪を犯せば犯すほどに、救済が早くなる』というような教えを説いて」

――《『鋼鉄の法』第5章「救世主の願い」／1 霊的な自覚をつかんで生きる難しさ》

伸ばしたい一心で、教えの本質を外した――だから親鸞は長男を養絶した。**受けがよい話と本質から説き起こす話は違う。**セミナーで迷ったら、後者を選ぶ。

2. 師の説法の型に学ぶ

御法話や講演集を数多く拝聴・拝読して並べると、師の説法には一貫した型がある。ただし師ご自身が、「対機説法」は簡単に定式化できない、と言われている。

「『対機説法』は、そう簡単に定式化できない」

――《『初転法輪の思い出』あとがき》

弟子が真似るべきは**形の上の型**であって、自在に変える部分ではない。形の型は、およそ次の四つである。

段	師の説法に見える型	弟子のセミナーでは
起	あいさつと、なぜ今この演題か を一言で言う。 「『悟りの発見』という演題でみなさんに問いかけようとしていることは……」のように、演題が聴き手への 問い になっている	演題を一つの問いの形にして出す（Warum ...? Wie ...?）
承	本論は三つほどの柱 。柱ごとに、 具体例・たとえ・ユーモア を一つ入れる。たとえば本書の「心に刻むたとえ」がそのまま使える	一柱＝師の言葉の 引用 ＋たとえ＋自分の体験、の三点セット
転	聴き手に 問いを返す 。「みなさんはどう思われるでしょうか」	Was meinen Sie? で一度、会場に渡す
結	要点を言い直し 、最後に 呼びかけ で終わる。「勝利の宣言」は「みなさん、ありがとうございました」で結ばれている	三点の反復 → 招き → 感謝 → 祈り

そして、初心者に向けては、仏陀以来の**定番の組み立て**がある。

「まず正しい信仰から入っていく、『施論・戒論・生天論』という、段階を追った話をし、次に四諦の話をして、八正道にもっていく――これが釈尊の次第説法のスタイルです。釈尊の弟子たちは、原則として、このスタイルをとって全国に伝道をしていたのです」

――《『仏陀の証明』第3章「目覚めの言葉『次第説法』」／1 在家者に対する導き》

弟子たちがこのスタイルで伝道していた——ここが大事である。初めての人が多いセミナーでは、この順番が、そのまま九十分の骨組みになる。

次第説法	内容	本書で使う章・付録
施論	与える愛。まず「与える」ことの幸福	第 11 章（慈悲の雨）、第 12 章（種まき＝因果の理法）
戒論	反省。心の曇りを自分で拭く	第 7 章（魂と再帰）、第 5 章（反省は添え木）、第 4 章（タマネギの皮むき）
生天論	あの世がある。天国へ還る生き方	第 10 章（水車＝転生輪廻）、付録 14 §1（多次元）
四諦・八正道	苦の原因と、その解決の道	第 8 章（müssen）、第 16 章（um ... zu）
→ 信仰	三次元を超える力。主への信仰	付録 14 §2～§4
→ 次の一步	入会・三帰・実践	付録 14 §5～§6

3. ドイツ語圏の人の心に届くために ― 本書の提案

以下は、本書がドイツ語で伝道する人のためにまとめた提案である（経典の定めではない）。土台は、本書がこれまでに学んできた教えにある。

- 結論を先に、理由を三つ。**ドイツの聴き手は、話の構造が見えると安心して聴く。「今日は三つのことを話します」と最初に言い、番号を口に出す（*erstens, zweitens, drittens*）。これは師の説法の「三つの柱」と同じ形なので、無理がない。
- 哲学の言葉で橋をかける。**ドイツはカント・ヘーゲルの国である。付録 13 で見たとおり、師は「哲学とは、神とは何かを、より多くの人びとにわかるように説き明かすこと」と説かれ、第 2 章のコラムで見たとおり、カントは如来界の光の指導霊、ヘーゲルはプラトンの再来である。「あなたがたの哲学者は、神を説き明かそうとしていた」——この一言は、ドイツの聴き手の誇りに触れる。第 7 章のコラム *an sich / für sich*、付録 13 *aufheben* が、そのまま話の素材になる。
- 音楽を一つ入れる。**第 8 章のコラムで見た『第九』の *Brüder, überm Sternenzelt muss ein lieber Vater wohnen*。ベートーヴェンが菩薩界から語ったこと（『大川隆法霊言全集』第 39 巻）は、ドイツの人にとって最も近い「霊界の証言」である。
- 「セクト」という警戒を、学びの場で解く。**ドイツ語圏には新しい宗教団体への強い警戒がある。公式ドイツ語版が、三帰誓願の前の段階の信者（会員）を **Lernender**（学ぶ人）と呼んでいることに注目してほしい（三帰信者は *Devotee / Devotee-Mitglied*、付録 14 §5）。セミナーは「入信させる場」ではなく、まず「**学ぶ場**」として開く。本を読み、考え、問いを持ち帰ってもらう。信仰への招きは、学びが深まったところで、はっきりと、しかし一度だけ言う（§5-7）。
- 宗教改革の国であることを忘れない。**ルターは「信仰によってのみ」と言った（『ルターの霊言』には公式ドイツ語版がある）。「信仰」という言葉そのものは、ドイツの人にとって遠い言葉ではない。遠いのは「新しい信仰の対象」である。だから付録 7 の通り、**主の名を必ず添え**、創造主であることを、付録 14 §3 の骨組みで言い切る。
- 時間を守る。**九十分と言ったら九十分。終わりの時間を守ることは、ドイツ語圏では**内容への信頼**に直結する。
- 背景に「Love for the Future」を置く。**総裁が 2018 年 10 月 7 日にベルリンで説かれた御法話（付録 18）には、ドイツ人向けに欠かせない論点がそろっている——ドイツ語のあいさつで始める／「一外国人の意見ですので」と置く／罪は罪として言い切りつつ世界史の文脈に置く／「十分です。これは神の声です」（赦しは神の手に）／自由・民主・信仰の三語／天なる教師は一人、天なる神は一人、天なる父は一人／*Vielen Dank* で終える。セミナーの前に必ず読み返すこと。
- 英語を逃げ道にしない。**聴き手の多くは英語ができる。だが、母語で聴いた一文は、英語の十文より残る。引用の核心の一文だけは、必ずドイツ語で——できれば公式ドイツ語版の字句で——言う。

4. 九十分の骨組み（例）

時間	段	すること	ひな型
0-5 分	開会	あいさつ・自己紹介・弟子としての立場	§5-1, 5-2
5-15 分	導入	演題を問いの形で出す。なぜ今この話か	§5-3
15-55 分	本論	三つの柱。柱ごとに「引用＋たとえ＋体験」	§5-4, 5-5, 5-6
55-65 分	問答	問いを返す。質問を受ける	§5-5
65-75 分	招き	信仰への招き。付録 14 §4 の⑨	§5-7
75-85 分	次の一步	入会・三帰・実践（付録 14 §5～§6）。本・アプリの案内	§5-8
85-90 分	結び	三点の反復・感謝・祈り・次回案内	§5-9, 5-10

5. ひな型 ― ドイツ語

● 5-1. 開会のあいさつ（Begrüßung）

1. Guten Abend, meine Damen und Herren. Herzlich willkommen bei Happy Science.

こんばんは、みなさま。幸福の科学へようこそ。

（英）Good evening, ladies and gentlemen. Welcome to Happy Science.

▷ *bei* +3 格（第 6 章）。昼なら *Guten Tag*。

2. Ich danke Ihnen, dass Sie heute gekommen sind.

今日お越しくださったことに感謝します。

〈英〉Thank you for coming today.

▷ danken + 3 格 (Ihnen)。dass の副文は現在完了 (第 10 章・sein 支配)。

3. Mein Name ist _____. Ich bin Devotee bei Happy Science seit _____ Jahren.

私の名前は _____ です。_____ 年前から幸福の科学の三帰信者です。

〈英〉My name is _____. I have been a devotee of Happy Science for _____ years.

▷ seit + 3 格で「～以来」。ドイツ語は**現在形**で「ずっと～している」を表します (英語の現在完了進行形と違う・第 6 章)。講師は三帰信者 (Devotee) のはずなので、この語で名乗る。Lernender は三帰前の会員を指す語 (付録 14 §5)。

名乗りは、立場によって言い分ける。

立場	ドイツ語の名乗り	注
講師 (在家)	Ich bin Dozent / Dozentin bei Happy Science.	Dozent は大学などで講義を受け持つ人。セミナー講師の名乗りとして自然。公式版の経文では講師を Vortragsleiter (講話の担当者) と呼ぶ
支部長	Ich bin Priester / Priesterin bei Happy Science und leite den Tempel _____.	出家者 (職員) は Priester。支部 = Tempel (公式)
本部長	Ich bin Priester / Priesterin bei Happy Science und leite die Abteilung _____ in der Zentrale.	本部 = Zentrale (『ルターの霊言』独語版の肩書に Zentrale für Religionsangelegenheiten の例)
一般の三帰信者	Ich bin Devotee bei Happy Science.	3. のとおり

女性は Dozentin / Priesterin。職員全般は公式版の Mitarbeitende。肩書のあとに、すぐ 4.～6. の「弟子としての立場」を続ける。

● 5-2. 弟子としての立場を先に言う

4. Ich bin kein Meister. Ich bin ein Schüler.

私は師ではありません。弟子です。

〈英〉I am not a master. I am a disciple.

▷ 否定冠詞 kein (第 5 章)。この一文で、§1 の一線を聴き手と共有します。

5. Die Lehre kommt von Meister Ryuho Okawa. Ich erkläre sie nur und gebe sie weiter.

教えは大川隆法総裁から来ています。私はそれを解説し、伝えるだけです。

〈英〉The teaching comes from Master Ryuho Okawa. I only explain it and pass it on.

▷ weitergeben (分離動詞・対策学習編 3)。「法の解説者」(『ダイナマイト思考』)をそのままドイツ語にした形。

6. Darum werde ich heute oft aus seinen Büchern zitieren.

ですから今日は、総裁の著書からたびたび引用します。

〈英〉That is why I will often quote from his books today.

▷ 未来形 werde ... zitieren (第 8 章)。aus + 3 格。

● 5-3. 演題を「問い」の形で出す

7. Unser Thema heute ist: „Warum braucht der Mensch Glauben?“

今日のテーマは「なぜ人間に信仰が必要なのか」です。

〈英〉Our topic today is: "Why does a human being need faith?"

▷ 引用符はドイツ語式 „...“。疑問詞 warum (対策学習編 1)。

8. Ich möchte heute drei Dinge mit Ihnen teilen.

今日は三つのことを、みなさまと分かち合いたいと思います。

〈英〉Today I would like to share three things with you.

▷ möchte (第 8 章)。teilen = 分かち合う。

9. Erstens: ... Zweitens: ... Drittens: ...

第一に.....第二に.....第三に.....

〈英〉First... Second... Third...

▷ 序数から作る副詞。柱の数だけ口に出す (§3-1)。

● 5-4. 引用を導く句 ―― 骨の部分

10. Meister Ryuho Okawa schreibt in seinem Buch „Das Gesetz der Sonne“:

大川隆法総裁は『太陽の法』にこう書いておられます。

〈英〉Master Ryuho Okawa writes in his book The Laws of the Sun:

▷ 公式ドイツ語書名は会話第 10 回の一覧のとおり (『太陽の法』 = Das Gesetz der Sonne、『黄金の法』 = Das Goldene Gesetz、『永遠の法』 = Der Aufstieg durch die Dimensionen)。書名は推測で組み立てないこと。

11. Im „Goldenen Gesetz“, Kapitel zwei, heißt es:

『黄金の法』第 2 章に、こうあります。

〈英〉In The Golden Laws, chapter two, it says:

▷ es heißt = ～と書いてある。章を言うのが、弟子の引用の作法 (§1)。

12. Ich zitiere wörtlich:

そのまま引用します。

〈英〉I quote verbatim:

▷ wörtlich = 一語一語そのとおりに。公式ドイツ語版の字句を読み上げる前の一言。

13. Das sind nicht meine Worte. Das sind die Worte des Meisters.

これは私の言葉ではありません。師の言葉です。

〈英〉These are not my words. These are the Master's words.

▷ des Meisters=2 格。引用のあとに添えると、立場が崩れません。

● 5-5. たたと問いかけ

14. Stellen Sie sich eine Zwiebel vor.

タマネギを思い浮かべてください。

〈英〉Imagine an onion.

▷ sich etwas vorstellen (再帰・分離)。Sie に対する命令形は Stellen Sie ... vor。第 4 章のたとえへ。

15. Das Herz ist wie ein Magnet. Was zieht Ihr Herz an?

心は磁石のようなものです。あなたの心は何を引き寄せていますか。

〈英〉The heart is like a magnet. What does your heart attract?

▷ 第 15 章・第 17 章のたとえ。問いの形にして渡す。

16. Was meinen Sie? Ich würde gern Ihre Meinung hören.

みなさんはどう思われますか。ご意見を聞かせてください。

〈英〉What do you think? I would like to hear your opinion.

▷ würde ... hören=接続法第 2 式の丁寧な言い方 (第 13 章)。

● 5-5b. 話題を変える・つなぐ言葉 (Überleitungen)

話の継ぎ目で何を言うかで、聴きやすさが決まる。ドイツ語には「さて」「それでは」にあたる小さな語がそろっている。

ドイツ語	日本語	使いどころ・注意
Nun, ...	さて、／では、	文頭に置いて話を切り替える。jetzt (今) と違い、時間ではなく話の流れを進める語。Nun zum zweiten Punkt. (では第二の点へ)
Also, ...	それでは、／つまり、	英語の also (〜も) ではない。「〜も」は auch。Also, fangen wir an. (では、始めましょう)
Kommen wir nun zum zweiten Punkt.	では、第二の点に移りましょう。	柱の切り替えの定番。Kommen wir zu ...=〜へ移ろう
So weit zum ersten Punkt.	第一の点は、ここまでです。	一つの柱を閉じる合図。次の Nun ... につなぐ
Damit sind wir beim Kern der Sache.	これで、話の核心に来ました。	招き (§5-7) に入る直前に
Übrigens, ...	ところで、	脇道をつだけ入れるとき。脇道のあとは必ず Zurück zum Thema.
Zurück zum Thema.	本題に戻ります。	脱線・質問のあとに。短いほどよい
Noch ein Wort dazu – dann gehen wir weiter.	それについて一言だけ――それから先へ進みます。	補足を一つ足してから戻るとき
Das bringt mich zu meiner letzten Frage.	これで、最後の問いに来ました。	結びの前。「最後の」と言うと、聴き手が姿勢を正す

▷ nun と also は、文頭に置いても動詞を 2 番目にする数に入れれない (心態詞・付録 9)。

Nun, ich glaube ... のように、あとにコンマを打って独立させる。

● 5-6. 自分の体験を語る ― 肉の部分

17. Ich selbst habe erlebt, dass sich mein Leben verändert hat.

私自身、人生が変わるのを経験しました。

〈英〉I myself have experienced that my life changed.

▷ dass の副文のなかに現在完了 (第 10 章・第 12 章)。体験は引用のあとに置く (§1)。

18. Das ist kein Wunder, das man beweisen muss. Das ist meine Erfahrung.

これは証明しなければならない奇跡ではありません。私の体験です。

〈英〉This is not a miracle one must prove. This is my experience.

▷ 関係文+話法の助動詞 (第 8 章・第 15 章)。奇跡を「保証」しない言い方。

● 5-6b. 困った質問を受けたとき ― 本題に戻す「魔法の言葉」

困った質問 (答えにくい・本題から外れる・意見の対立になりそう) への対応は、三段で決まっている。①認める (Anerkennen) → ②預かる (Aufnehmen) → ③戻す (Zurückführen)。相手を傷つけない、貶めず、恥をかかせずに戻す鍵は、①を省かないことと、③で「私たち」に戻ることである。

段	ドイツ語	日本語	使いどころ
①	Danke für diese Frage.	ご質問ありがとうございます。	どんな質問にも、まずこれ。例外なし
①	Das ist eine gute Frage – und sie verdient eine gute Antwort.	よい質問です――よい答えに値します。	即答できないとき。相手の顔が立つ
②	Darf ich nach dem Vortrag persönlich darauf zurückkommen?	講話のあとで、個人的にお答えしてもよろしいですか。	時間と場所を移す。darf ich (許可を求める形) が柔らかい
②	Ich nehme Ihre Frage mit.	ご質問は、私がお預かりします。	最短の「預かる」。mitnehmen (持ち帰る)
②	Das weiß ich im Moment nicht. Ich schaue nach und sage es Ihnen.	いまは分かりません。調べてお伝えします。	知らないことは知らないと言う (§6-1)。信頼が増す
②	Ich bin nicht sicher, ob ich Sie richtig verstanden habe. Meinen Sie ...?	正しく理解できたか自信がありません。.....ということでしょうか。	攻撃的な問いを、穏やかな問いに言い直してもらう
③	Das führt uns ein Stück vom Thema weg. Lassen Sie uns zuerst den Gedanken zu Ende bringen – dann komme ich gern darauf zurück.	少し本題から離れますね。まずこの考えを最後まで進めましょう――そのあと喜んで戻ります。	脱線を止める。Lassen Sie uns (一緒に) が要
③	Dazu sagt Meister Okawa im Buch „...“ Folgendes: ...	それについて大川総裁は『...』でこう述べておられます。.....	最強の戻し方。自分の意見の応酬にせず、師の言葉に戻る (§1)

段	ドイツ語	日本語	使いどころ
③	Wir sehen das vielleicht verschieden – und das ist in Ordnung. Zurück zum Thema.	見方が違うかもしれませんが——それで構いません。本題に戻ります。	意見の対立を閉じる。言い負かさな

▷ 三段のうち、②と③の間で必ず笑顔と一呼吸。急ぐと「追い払った」ように見える。

▷ 「それは今日の話題ではありません」（*Das ist hier nicht das Thema.*）だけを言ってはいけない。①のない③は、相手に恥をかかせる。

● 5-6c. 意図的な妨害があるとき ― 邪魔をさせずにクロージングを成功させる

セミナーをわざと乱す人（長広舌・論争・クロージングの直前に「質問がある」と言って場を冷ます）には、**言い返さない、繰り返させない、個別に受ける、全体に戻す**——この四つに対応する。ここでも道具は「魔法の言葉」と、はじめに決めておくルールである。

① 開会のときにルールを言う（予防が八割）

・ Fragen sammeln wir am Ende. Dafür haben wir zehn Minuten. Persönliche Fragen beantworte ich gern nach dem Seminar.

質問は最後にまとめて受けます。そのために十分とてあります。個人的な質問は、セミナーのあとで喜んでお受けします。

（英）We will collect questions at the end; we have ten minutes for that. Personal questions I will gladly answer after the seminar.

▷ これを先に言ってあれば、途中の割り込みにも「最後に」と言うだけで、誰も傷つかない。

② 途中で割り込まれたとき

・ Ich sehe, das Thema liegt Ihnen am Herzen. Ich nehme es gern nach dem Seminar persönlich mit Ihnen auf.

そのことを大切に思っておられるのが分かります。セミナーのあとで、個人的に喜んでお話しします。

（英）I can see this matters to you. I will gladly take it up with you personally after the seminar.

▷ am Herzen liegen（心にかかっている）で相手を認め、persönlich（個人的に）で場を移す。

・ Lassen Sie uns fair bleiben: eine Frage, eine Antwort – dann sind die anderen dran.

公平にいきましょう。一つの質問に一つの答え——そのあとは他の方の番です。

（英）Let us stay fair: one question, one answer – then it is the others' turn.

▷ fair はドイツ語でもそのまま通じ、しかも強い。「他の方の番」で全体に戻す。

・ Ich möchte allen hier den Schluss des Vortrags geben. Danach bin ich ganz für Sie da.

ここにいらっしゃる皆さんに、講話の結びをお届けしたいのです。そのあとは、あなたのために時間を使います。

（英）I would like to give everyone here the conclusion of the talk. After that I am entirely at your disposal.

③ クロージングの直前に「質問がある」と言われたとき

締めくくりに前に、質疑の終わりを自分から宣言する。

・ Vor dem Schluss nehme ich noch zwei kurze Fragen.

結びの前に、あと二つ、短い質問を受けます。

（英）Before the conclusion I will take two more short questions.

▷ 「二つ」「短い」と数と長さを先に言う。三つ目は受けない。

・ Danke. Diese Frage verdient mehr Zeit, als wir jetzt haben. Ich bleibe nach dem Seminar hier – kommen Sie bitte zu mir. Jetzt möchte ich für alle zum Schluss kommen.

ありがとうございます。このご質問は、いま私たちにある時間より多くの時間に値します。セミナーのあとも私はここに残ります——どうぞ私のところへ。いまは、皆さんのために結びに入らせてください。

（英）Thank you. This question deserves more time than we have now. I will stay here after the seminar – please come to me. Now I would like to come to the conclusion for everyone.

▷ これがクロージングを守る魔法の言葉である。認める（Danke / verdient）→ 預かる（nach dem Seminar / kommen Sie zu mir）→ 全体へ戻す（für alle）。そのまま振り向かず、§5-9 の Ich fasse zusammen に入る。質疑を再開しない。

・ 締めは短く、そして祈りで終える（§5-9 26.）。祈りの最中に割り込む人はいない。祈りが終わったら、すぐ Auf Wiedersehen（§5-10）。

④ してはいけないこと

・ 言い返さない。論争になった時点で、他の参加者の心は冷める。

・ 妨害の言葉を繰り返さない（「～とおっしゃいましたが」と引用しない）。繰り返すと、その言葉が会場に残る。

・ 一人で抱えない。法友（Dharma-Freund）に目で合図し、その人のそばに座ってもらう。終わったら法友が個別に受ける。

・ 怒らない、急がない、笑顔を消さない。声は低く、ゆっくり。ドイツ語圏では、落ち着いた声が権威になる。

● 5-7. 信仰への招き（Einladung）――一度だけ、はっきりと

19. Der Glaube ist die Kraft, die die Gesetze der dritten Dimension überwindet.

信仰は、三次元の法則を乗り越える力です。

（英）Faith is the power that overcomes the laws of the third dimension.

▷ 付録 14 §4 ⑥。ここから⑦～⑪へ続ける。

20. Ich lade Sie ein, diesen Weg mit uns zu gehen.

この道を、私たちと一緒に歩んでみませんか。

（英）I invite you to walk this path with us.

▷ einladen（分離動詞）+ zu 不定詞句（第 16 章）。

21. Niemand muss heute etwas entscheiden. Aber jeder darf heute anfangen.

今日、何かを決めなければならない人はいません。でも、今日始めることは誰にでもできます。

（英）No one has to decide anything today. But everyone may begin today.

▷ müssen と dürfen の対比（第 8 章・英語との違い）。押しつけずに、扉を開ける言い方。

● 5-8. 次の一步（入会・三帰・実践）

22. Wenn Sie Lernender werden, erwacht Ihr Schutzwesen.

会員になると、あなたの守護霊が目覚めます。

（英）When you become a member, your guardian spirit awakens.

▷ 付録 14 §5-1 第二条を Sie の形にしたもの。公式訳の内容を、聴き手に合わせて言い換えるときは「内容を変えない」こと。

23. Lesen Sie bitte „Das Gesetz der Sonne“. Und üben Sie jeden Tag mit der App.

どうぞ『太陽の法』をお読みください。そして毎日、アプリで練習してください。

（英）Please read The Laws of the Sun. And practice every day with the app.

▷ Sie に対する命令形＝Lesen Sie / Üben Sie。本とアプリ（巻頭）を必ず案内する。

● 5-9. クロージング（Schluss）

24. Ich fasse zusammen: Erstens ... Zweitens ... Drittens ...

まとめます。第一に……第二に……第三に……

（英）Let me summarize: First... Second... Third...

▷ zusammenfassen（分離動詞）。始めに言った三点を、同じ言葉で言い直す（師の「結」の型）。

25. Ich danke Ihnen von Herzen. Möge das Licht Buddhas Sie begleiten.

心から感謝します。仏の光がみなさまとともにありますように。

（英）I thank you from my heart. May the light of Buddha be with you.

▷ Möge ...（接統法第 1 式の願望・第 13 章・付録 11）。奏上文と同じ三段のうち、もっとも柔らかい形。

26. Lassen Sie uns zum Schluss gemeinsam beten.

最後に、ご一緒に祈りましょう。

（英）Let us pray together at the end.

▷ Lassen Sie uns ...＝英語の Let us。祈りの文は付録 11（奏上文の組み立て方）と公式の Gebet zu El Cantare。

● 5-9b. クロージングの語り（例）――創造主への信仰を、改宗を求めずに

結びで語るべき中身は、「私たちが誰を信じているか」と「あなたは何も失わない」の二つである。ドイツ語圏の聴き手（多くはキリスト教の土壌に育ち、イスラム教徒・仏教徒もいる）に受け入れられる言い方を、經典の根拠とともに示す。骨組みは**創造主→魂の親→改宗不要→諸宗教の神は同じ主→名を差し上げる**の五段である。

まず根拠となる經典の言葉。

「幸福の科学は、他のいかなる宗教に入っている人でも入信できることになっています。その意味で、幸福の科学は実にいい宗教であると言えるかもしれません。

『幸福の科学は、あらゆる宗教を全部まとめている宗教なので、どうぞ、お入りください』と言うことができるのです。

そのように、イスラム教徒をやめなくても幸福の科学に入れるという意味では、ありがたいところがあり」

――《『青銅の法』第 1 章「情熱の高め方」／4「一人の人生」から「新たな国づくり」まで》

「中東の信仰において、創造神を特定するなら、エローヒム、すなわち、エル・カンターレのことになります。

エル・カンターレの教えはイスラム教においては、ユダヤ教、キリスト教の預言者と同じ使命を帯びてマホメットが人類につかわされたことを示す寛容さに表れています」

――《『黄金の法』第 5 章「愛の押し寄せる時」／7マホメット》

「主エル・カンターレ 地球系霊団の最高大霊であり、地球の創世より人類を導いてきた九次元大霊。

イエス・キリストが「父」と呼びムハンマドが『アッラー』と呼んだ地球の至高神である」

――《『マハトマ・ガンジーの霊言』（注）》

公式ドイツ語版には、この三点がそのままの形で実在する。

独文	和文	出どころ
Happy Science hingegen nimmt jeden von jeder anderen Religion auf; alle können sich uns frei anschließen, ohne zu konvertieren.	幸福の科学は、他のいかなる宗教に入っている人でも入信できることになっています	〔公式訳〕『青銅の法』独語版
Dieser Schöpfergott im Nahen Osten ist niemand anders als Elohim oder – mit anderen Worten – El Cantare.	中東の信仰において、創造神を特定するなら、エローヒム、すなわち、エル・カンターレのことになります	〔公式訳〕『黄金の法』独語版
Er ist derjenige, den Jesus Vater und Mohammed Allah nannte	イエス・キリストが「父」と呼びムハンマドが「アッラー」と呼んだ地球の至高神である	〔公式訳〕『反省の手引き』独語版（巻末「主エル・カンターレ」の注）／和文＝『マハトマ・ガンジーの霊言』（注）

★公式ドイツ語版では同じ注は、こう続きます。„... und ist Ame-no-Mioya-Gami, Japanischer Vatergott. Er ist auch bekannt als Vishnu in Indien und Tiandi in China.“

（……そして天御祖神、日本の父なる神である。インドではヴィシュヌ、中国では天帝としても知られる）

また『鋼鉄の法』のドイツ語版に添えられた「エル・カンターレからのメッセージ」には、

„Lord Gott‘ im Christentum, ‚Elohim‘ im Judentum, ‚Allah‘ im Islam, ‚Shangdi‘ oder der Herrscher im Himmel, wie ihn Konfuzius aus China nannte, und ‚Ame-no-Mioya-Gami‘ im japanischen Shinto ... sind alle dasselbe einzige Wesen.“

（キリスト教の「主なる神」、ユダヤ教の「エローヒム」、イスラム教の「アッラー」、中国の孔子が天の支配者と呼んだ「上帝」、日本神道の「天御祖神」……は、すべて同じ唯一の存在である）とあります。

ドイツ語で語る人は、この二つの公式の言い回しをそのまま使えばよい。

そのうえで、結びの語り。番号順に、一文ずつ。

1. Wir glauben an El Cantare, den Gott der Erde und den Schöpfer des Universums.

私たちは、地球神であり宇宙の創造主であるエル・カンターレを信じています。

（英）We believe in El Cantare, the God of the Earth and the Creator of the universe.

▷ 各書巻末「幸福の科学について」の公式の言い回し（付録 14 §3）。同格は 4 格で揃える。

2. Er hat auch uns Menschen erschaffen. Wir alle sind Kinder Gottes.

主は私たち人間をも創られました。私たちはみな、神の子です。

〈英〉He also created us human beings. We are all children of God.

▷ 後半は公式版 *wir alle sind Kinder Gottes* の字句。「魂の親」を、公式版はこの形で言います。

3. Sie müssen Ihre Religion nicht wechseln. Bei uns kann jeder bleiben, was er ist – Christ, Muslim oder Buddhist.

宗教を変える必要はありません。私たちのところでは、誰でも、いまのままでいられます——キリスト教徒でも、イスラム教徒でも、仏教徒でも。

〈英〉You do not have to change your religion. With us, everyone can remain what they are – Christian, Muslim, or Buddhist.

▷ *müssen nicht* = ~する必要はない（*dürfen nicht* と混同しないこと・第 8 章）。根拠は上の『青銅の法』。

4. Im Gegenteil: Sie werden Ihren Gott tiefer verstehen und mehr lieben.

それどころか、あなたの神を、もっと深く理解し、もっと愛するようになります。

〈英〉On the contrary: you will understand your God more deeply and love Him more.

▷ *im Gegenteil* = それどころか。比較級 *tiefer / mehr*（第 14 章）。

5. Denn der, den Jesus Vater nannte, und der, den Mohammed Allah nannte, sind nicht zwei – es ist derselbe Herr.

なぜなら、イエスが父と呼んだ方と、ムハンマドがアッラーと呼んだ方は、二人ではなく——同じ主だからです。

〈英〉For the One whom Jesus called Father and the One whom Mohammed called Allah are not two – it is the same Lord.

▷ *der, den ... nannte* = 先行詞 *der* + 関係代名詞 *den*（4 格・第 15 章）。公式版の *derjenige, den Jesus Vater und Mohammed Allah nannte* を、話し言葉に開いた形。

6. El, Elohim, der Ewige Buddha, der Herrscher im Himmel – das sind Namen für dieselbe Quelle.

エル、エローヒム、永遠の仏陀、天帝——それらは、同じ源の名前です。

〈英〉El, Elohim, the Eternal Buddha, the Ruler of Heaven – these are names for the same source.

▷ *der Ewige Buddha · der Herrscher im Himmel* は公式版の語。*dieselbe Quelle*（同じ源）。

7. Er hat diese Götter und Propheten zur Erde gesandt. Er steht hinter ihnen allen.

主が、これらの神々や預言者を地上に送られたのです。主は、そのすべての奥におられます。

〈英〉He sent these gods and prophets to the earth. He stands behind them all.

▷ 『黄金の法』の *Mohammed ... mit der gleichen Mission ... auf die Erde geschickt wurde* が根拠。*hinter* + 3 格。

8. Darum nehmen wir Ihnen nichts weg. Wir geben Ihnen den Namen dessen, den Sie schon lieben.

ですから、私たちはあなたから何も取り上げません。あなたがすでに愛している方の、お名前を差し上げます。

〈英〉That is why we take nothing from you. We give you the name of the One you already love.

▷ *dessen* = 指示代名詞の 2 格（～の方の）。*wegnehmen*（分離）。ここが、ドイツ語圏の人の警戒を解く一文である。

9. Sein Name ist El Cantare. Und Er spricht heute – in unserer Zeit – durch Meister Ryuho Okawa.

その方の名は、エル・カンターレ。そして主は、いま——私たちの時代に——大川隆法総裁を通して語っておられます。

〈英〉His name is El Cantare. And He speaks today – in our time – through Master Ryuho Okawa.

▷ 三人称の *Er / Sein* は大文字（付録 7 §4）。

10. Ich lade Sie ein, diesen Namen kennenzulernen – in Ihrem Glauben, in Ihrer Sprache, in Ihrem Leben.

この名を知ることへ、あなたを招きます——あなたの信仰のなかで、あなたの言葉で、あなたの人生のなかで。

〈英〉I invite you to get to know this name – in your faith, in your language, in your life.

▷ §5-7.20. と同じ *einladen* + *zu* 不定詞句。三つの *in Ihrem ...* の反復が、結びの響きになる。

このあと 24.（まとめ）→ 25.（感謝・*Möge*）→ 26.（祈り）→ 27.～28.（次回・別れ）の順で閉じる。

★言い方の注意（ドイツ語圏）

「改宗不要」は、*Wir ersetzen Ihre Kirche nicht – wir ergänzen sie.*（あなたの教会に取って代わるのではなく、補うのです）のように、「取って代わる（ersetzen）」ではなく「補う（ergänzen）」の語で言うと、警戒が解ける。

「すべて同じ神だ」という話は、宗教の混ぜ合わせ（*Synkretismus*）と受け取られやすいので、必ず根拠の書名（*Das Goldene Gesetz, Kapitel 5 / Das Gesetz der Bronze, Kapitel 1*）を添える。ドイツ語で読める本があることが、何よりの説得力になる。

● 5-10. 別れのあいさつと回りの案内

27. Das nächste Seminar ist am ____ um ____ Uhr. Bringen Sie gern einen Freund mit.

回りのセミナーは ____ 日 ____ 時です。どうぞお友だちをお連れください。

〈英〉The next seminar is on ____ at ____ o'clock. Feel free to bring a friend.

▷ *am*（日付）・*um*（時刻）（付録 2）。*mitbringen*（分離）。「伝えたい」最初の一步は、友を連れてくること。

28. Auf Wiedersehen. Kommen Sie gut nach Hause.

さようなら。お気をつけてお帰りください。

〈英〉Goodbye. Get home safely.

▷ *nach Hause*（家へ・第 6 章）。

6. 避けること

1. 法を創らない。教えの「続き」や「応用」を自分で作って語らない (§1)。分からないことは「調べてお答えします」と言う。
2. 引用は原文どおり。公式ドイツ語版があるものは、その字句で。英語版から自分で訳した独文を「師の言葉」として読まない。
3. 奇跡を保証しない。奇跡は法則の現れであって（付録 14 §2）、取引の景品ではない。「信じれば必ず治る」とは言わない。
4. 他の宗教・哲学者を貶めない。付録 13 §5 の物差し——偉大さは偉大さとして認め、行き過ぎは行き過ぎとして見抜く。
5. 時間を守る。九十分は九十分 (§3-6)。
6. 一人にしない。セミナーの最後に、次に会う日を必ず決める (§5-10)。伝道は一回の説得ではなく、関係である。

7. 語法メモ ― この付録で増えた語

ドイツ語	性	意味
der Vortrag	男	講演、御法話（公式訳：Vorträge des Meisters）
das Seminar	中	セミナー
der Schüler	男	弟子、生徒
zitieren	動	引用する
wörtlich	副	一語一語そのとおりに
erklären	動	解説する
weitergeben	動	伝える、引き継ぐ（分離）
zusammenfassen	動	まとめる（分離）
einladen	動	招く（分離・a → ä）
die Einladung	女	招き
die Erfahrung	女	経験
erleben	動	体験する
beweisen	動	証明する
sich etwas vorstellen	動	～を思い浮かべる（再帰・分離）
die Meinung	女	意見
teilen	動	分かち合う
begleiten	動	伴う、付き添う
das Schutzwesen	中	守護霊（公式訳）
der Dozent / die Dozentin	男／女	講師
der Priester / die Priesterin	男／女	出家者・聖職者（支部長・本部長の名乗りに）
die Zentrale	女	本部
nun	副	さて、では（話を進める）
also	副	それでは、つまり（英語の also ではない）
übrigens	副	ところで
die Überleitung	女	つなぎ、話題の転換
mitnehmen	動	持ち帰る、預かる（分離）
am Herzen liegen	熟	～にとって大切である（3 格と）
fair	形	公平な
konvertieren	動	改宗する（公式訳）
ersetzen / ergänzen	動	取って代わる／補う
der Schöpfergott	男	創造神（公式訳）
die Quelle	女	源

付録 16 心に刻むたとえ一覧 — Die Gleichnisse auf einen Blick

本文の「◆ 心に刻むたとえ (Gleichnis)」に載せた例文を、独・和・英の対訳で一覧にした。伝道やセミナーで、たとえの一つ引きたいときに、ここから探してページへ戻ってほしい。番号は章の中での通し番号ではなく、この一覧の通し番号である。

各章の「たとえ」の題は、本文の節見出し（—— 以下）と同じ。頁は本文のノンブル。

第 2 章 動詞の現在人称変化と文の作り方

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
1	心は畑である	Das Herz ist wie ein Feld.	心は畑のようなものです。	The heart is like a field.	21
2	心は畑である	Wir pflegen das Feld jeden Tag.	私たちは毎日その畑を手入れします。	We tend the field every day.	21
3	心は畑である	Jeden Tag pflegen wir das Feld.	毎日、私たちはその畑を手入れします。	Every day we tend the field.	21

第 3 章 名詞の性と格変化（単数）

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
4	よく磨いた鏡	Das Herz ist wie ein Spiegel.	心は鏡のようなものです。	The heart is like a mirror.	27
5	よく磨いた鏡	Der Mensch putzt den Spiegel.	人はその鏡を磨きます。	The person polishes the mirror.	27
6	よく磨いた鏡	Der Spiegel gibt dem Menschen die Wahrheit.	その鏡は人に真理を示します。	The mirror gives the person the truth.	27

対策学習編 1 人称代名詞（1 格・4 格）と疑問詞

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
7	心という畑を、だれが耕すのか	Was ist das Herz? — Es ist wie ein Feld.	心とは何でしょうか。——それは畑のようなものです。	What is the heart? — It is like a field.	32
8	心という畑を、だれが耕すのか	Wer pflegt das Feld? — Du pflegst es.	だれがその畑を手入れするのでしょうか。——あなたが手入れするのです。	Who tends the field? — You tend it.	32
9	心という畑を、だれが耕すのか	Warum pflegst du es? — Weil ich die Wahrheit suche.	なぜあなたはそれを手入れするのですか。——真理を求めているからです。	Why do you tend it? — Because I seek the Truth.	32

第 4 章 複数形

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
10	アリのように、ときにライオンのように	Die Menschen arbeiten wie Ameisen und Bienen.	人々はアリやハチのように働きます。	People work like ants and bees.	38
11	アリのように、ときにライオンのように	Aber manchmal werden die Menschen wie Löwen.	しかし人々は、ときにライオンのようになります。	But sometimes people become like lions.	38
12	アリのように、ときにライオンのように	Gott gibt den Menschen Mut.	神は人々に勇気を与えます。	God gives people courage.	38
13	タマネギのような魂	Die Seele hat viele Schichten wie eine Zwiebel.	魂は、タマネギのように多くの層を持っています。	The soul has many layers like an onion.	39
14	タマネギのような魂	Die Seele hat eine Mitte, und die Mitte ist Licht.	魂には中心があり、その中心は光です。	The soul has a center, and the center is light.	39

第 5 章 冠詞類

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
15	反省は「添え木」である	Die Selbstreflexion ist wie ein Stab für einen Baum.	反省は、木にとつての添え木のようなものです。	Self-reflection is like a stake for a tree.	46
16	反省は「添え木」である	Kein Baum wächst gerade ohne Stab.	添え木なしにまっすぐ育つ木はありません。	No tree grows straight without a stake.	46
17	反省は「添え木」である	Jeder Mensch braucht seine Selbstreflexion.	どの人にも自分の反省が必要です。	Every person needs his own self-reflection.	46

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
18	手のひらと五本の指	Die Seelengeschwister sind wie eine Hand: eine Handfläche und fünf Finger.	魂のきょうだいは、一つの手のようなものです。一つの手のひらと、五本の指。	Soul siblings are like a hand: one palm and five fingers.	47
19	手のひらと五本の指	Jeder Finger ist anders und hat seine Aufgabe.	どの指も違っていて、それぞれの役目があります。	Every finger is different and has its own task.	47
20	手のひらと五本の指	Die Handfläche ist die Hauptseele, und die fünf Finger sind die Teilseelen.	手のひらが本体で、五本の指が分身です。	The palm is the main soul, and the five fingers are the branch souls.	47

対策学習編 2 不規則変化動詞・複合的な疑問詞

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
21	人はライオンのようになる	Der Mensch wird stark wie ein Löwe.	人はライオンのように強くなります。	A person becomes strong like a lion.	53
22	人はライオンのようになる	Du sprichst mit Mut.	あなたは勇気をもって話します。	You speak with courage.	53
23	人はライオンのようになる	Er sieht das Licht und gibt es weiter.	彼は光を見て、それを人に伝えます。	He sees the light and passes it on.	53
24	人はライオンのようになる	Was für ein Mensch will er werden?	彼はどのような人間になりたいのでしょうか。	What kind of person does he want to become?	53

第 6 章 前置詞

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
25	地下水のように湧き出るもの	Die Kraft kommt aus dem Herzen wie Wasser aus der Erde.	力は、水が大地から湧くように、心から出てきます。	Power comes out of the heart like water out of the earth.	59
26	地下水のように湧き出るもの	Mit der Liebe hilft der Mensch dem Menschen.	愛によって、人は人を助けます。	With love, a person helps another person.	60
27	地下水のように湧き出るもの	In meinem Herzen ist ein See.	私の心のなかには湖があります。	In my heart there is a lake.	60

第 7 章 人称代名詞・再帰代名詞

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
28	水面に映る自分の姿	Der Mensch sieht sich im Wasser wie in einem Spiegel.	人は、水面に映る自分を、鏡を見るように見ます。	A person sees himself in the water as in a mirror.	69
29	水面に映る自分の姿	Ich freue mich über die Wahrheit.	私は真理を喜びます。	I am glad about the Truth.	69
30	水面に映る自分の姿	Erinnerst du dich an ihn?	あなたは彼のことを覚えていますか。	Do you remember him?	69

第 8 章 話法の助動詞・未来形

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
31	ときにライオンのように	Wir können wie ein Löwe mutig sein.	私たちはライオンのように勇敢であることができます。	We can be brave like a lion.	80
32	ときにライオンのように	Der Mensch muss das Feuer im Herzen bewahren.	人は心のなかの火を保たなければなりません。	A person must keep the fire in the heart.	80
33	ときにライオンのように	Du darfst nicht müde werden.	あなたは疲れ果ててしまっってはけません。	You must not grow weary.	80
34	ときにライオンのように	Wir werden die Wahrheit verbreiten.	私たちは真理を広めていくでしょう。	We will spread the Truth.	80

対策学習編 3 分離動詞・命令形

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
35	勤勉なアリ、勇敢なライオン	Arbeite fleißig wie eine Ameise!	アリのように勤勉に働きなさい。	Work diligently like an ant!	86
36	勤勉なアリ、勇敢なライオン	Kämpfe mutig wie ein Löwe!	ライオンのように勇敢に戦いなさい。	Fight bravely like a lion!	86
37	勤勉なアリ、勇敢なライオン	Steh jeden Morgen früh auf!	毎朝、早く起きなさい。	Get up early every morning!	86

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
38	勤勉なアリ、勇敢なライオン	Wachen Sie auf und sehen Sie das Licht!	目を覚まし、光をご覧ください。	Wake up and see the light!	86

準備編 三基本形

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
39	亀のごとく	gehen – ging – gegangen : Ich ging wie eine Schildkröte.	私は亀のように歩みました。	I walked like a turtle.	91
40	亀のごとく	wachsen – wuchs – gewachsen : Der Baum ist langsam gewachsen.	その木はゆっくりと育ちました。	The tree has grown slowly.	91
41	亀のごとく	bringen – brachte – gebracht : Die Zeit hat die Frucht gebracht.	時が実をもたらしました。	Time brought the fruit.	91

第 9 章 過去形

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
42	流れてゆく川のように	Das Leben floss wie ein Fluss.	人生は川のように流れました。	Life flowed like a river.	97
43	流れてゆく川のように	Der Fluss war klein. Dann wurde er groß.	その川は小さかった。やがて大きくなった。	The river was small. Then it became big.	97
44	流れてゆく川のように	Wir konnten damals nichts sehen.	私たちはそのとき、何も見えませんでした。	We could not see anything then.	97

第 10 章 現在完了形

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
45	亀のように歩いてきた	Ich bin wie eine Schildkröte gegangen.	私は亀のように歩んできました。	I have walked like a turtle.	74
46	亀のように歩いてきた	Aber ich bin nie stehen geblieben.	しかし私は決して立ち止まりませんでした。	But I never stopped.	74
47	亀のように歩いてきた	Die Zeit hat alles verändert.	時がすべてを変えました。	Time has changed everything.	104

第 11 章 受動文

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
48	磨かれるダイヤモンド	Das Herz wird wie ein Diamant poliert.	心はダイヤモンドのように磨かれます。	The heart is polished like a diamond.	112
49	磨かれるダイヤモンド	Das Herz ist schon poliert.	心はすでに磨かれています。	The heart is (already) polished.	112
50	磨かれるダイヤモンド	Der Diamant wird von Gott gegeben.	そのダイヤモンドは神から与えられます。	The diamond is given by God.	112
51	磨かれるダイヤモンド	Das Herz wird durch die Selbstreflexion gereinigt.	心は反省によって清められます。	The heart is purified through self-reflection.	113

第 12 章 接続詞と副文

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
52	一つひとつの思いは種である	Ich weiß, dass jeder Gedanke wie ein Samen ist.	私は、一つひとつの思いが種のようなものだと思っています。	I know that every thought is like a seed.	119
53	一つひとつの思いは種である	Weil das Herz ein Feld ist, müssen wir es pflegen.	心は畑なのだから、私たちはそれを手入れしなければなりません。	Because the heart is a field, we must tend it.	119
54	一つひとつの思いは種である	Der Samen wächst, denn das Feld ist gut.	種は育ちます。畑が良いからです。	The seed grows, for the field is good.	119
55	一つひとつの思いは種である	Ich weiß nicht, was ich gesät habe.	私は、自分が何を蒔いたのか分かりません。	I do not know what I have sown.	119

第 13 章 接続法（第 1 式・第 2 式）

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
56	もし心が鏡であったなら	Wenn mein Herz wie ein Spiegel wäre, könnte ich die Wahrheit klar sehen.	もし私の心が鏡のようであったなら、私は真理をはっきりと見る事ができるでしょう。	If my heart were like a mirror, I could see the Truth clearly.	126
57	もし心が鏡であったなら	Wäre ich ehrlicher, so würde ich mehr sehen.	もっと正直であったなら、もっと多くが見えるでしょうに。	Were I more honest, I would see more.	126
58	もし心が鏡であったなら	Er sagte, sein Herz sei wie ein Spiegel.	彼は、自分の心は鏡のようだと言いました。	He said (that) his heart was like a mirror.	126
59	もし心が鏡であったなら	Könnten Sie mir bitte helfen?	私を助けていただけませんか？	Could you please help me?	123

第 14 章 比較変化

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
60	北極星と灯台	Der Polarstern steht am höchsten.	北極星がいちばん高いところにあります。	The Pole Star stands highest.	134
61	北極星と灯台	Kein Stern bewegt sich weniger als der Polarstern.	北極星ほど動かない星はありません。	No star moves less than the Pole Star.	134
62	北極星と灯台	Diese Liebe leuchtet länger als ein Feuer.	この愛は、火よりも長く光り続けます。	This love shines longer than a fire.	134
63	北極星と灯台	Sie leuchtet so weit wie das Licht eines Leuchtturms.	それは灯台の光と同じくらい遠くまで届きます。	It shines as far as the light of a lighthouse.	134

第 15 章 関係文

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
64	地面を歩く蟻	Der Mensch, der nur an sich denkt, ist wie eine Ameise, die auf dem Boden läuft.	自分のことしか考えない人は、地面の上を歩いている蟻のようなものです。	A person who thinks only of himself is like an ant that runs on the ground.	141
65	地面を歩く蟻	Der Meister, den ich suche, kennt den Weg.	私が探している師は、その道を知っています。	The master (whom) I seek knows the way.	142
66	地面を歩く蟻	Wer die Wahrheit sucht, findet sie.	真理を求める者は、それを見いだします。	Whoever seeks the Truth finds it.	138
67	心は磁石である	Das Herz ist wie ein Magnet: Es zieht an, was ihm ähnlich ist.	心は磁石のようなものです。自分に似たものを引き寄せます。	The heart is like a magnet: it attracts what is similar to it.	142
68	心は磁石である	Das ist das Gesetz der gleichen Wellenlänge, das in dieser Welt und in der anderen Welt gilt.	それが、この世にもあの世にも通じる「波長同通の法則」です。	That is the law of the same wavelength, which holds in this world and in the other world.	142
69	心は磁石である	Wer das Glück der Menschen wünscht, zieht das Glück an.	人々の幸福を願う人は、幸福を引き寄せます。	Whoever wishes for people's happiness attracts happiness.	142

第 16 章 zu 不定詞句

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
70	鏡を磨くために生きる	Es ist wichtig, das Herz wie einen Spiegel zu putzen.	心を鏡のように磨くことが大切です。	It is important to polish the heart like a mirror.	148
71	鏡を磨くために生きる	Wir leben, um das Herz zu polieren.	私たちは、心を磨くために生きています。	We live in order to polish the heart.	148
72	鏡を磨くために生きる	Ohne zu zögern, folgt er der Wahrheit.	ためらうことなく、彼は真理に従います。	Without hesitating, he follows the Truth.	148
73	鏡を磨くために生きる	Es ist nicht leicht, jeden Morgen früh aufzustehen.	毎朝早く起きることは、簡単ではありません。	It is not easy to get up early every morning.	148

第 17 章 形容詞の変化

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
74	清らかな心は、輝くダイヤモンド	Ein reines Herz ist wie ein heller Diamant.	清らかな心は、輝くダイヤモンドのようです。	A pure heart is like a bright diamond.	154
75	清らかな心は、輝くダイヤモンド	Das reine Herz kennt keine Angst.	清らかな心は恐れを知りません。	The pure heart knows no fear.	154

#	たとえ	ドイツ語	日本語	英語	頁
76	清らかな心は、輝くダイヤモンド	Reines Wasser spiegelt den Himmel.	清らかな水は空を映します。	Pure water reflects the sky.	154
77	清らかな心は、輝くダイヤモンド	Der Ehrliche sieht die Wahrheit.	正直な人は真理を見ます。	The honest person sees the truth.	154

付録 17 心態詞 —— 会話の潤滑油 Modalpartikeln

ドイツ語の会話を自然にするのは、文法でも語彙でもなく、**心態詞** (Modalpartikeln) である。 *doch, mal, ja, denn, eben, schon, wohl* ... ——どれも短く、辞書の訳語では意味がつかめず、しかも**これが無いとドイツ語は硬く、冷たく、命令調に聞こえる**。逆に、これの一つ入れるだけで、同じ文が「頼み」「励まし」「驚き」「納得」に変わる。伝道は人と人との会話である。だから本書は、心態詞に一つの付録を充てる。

本付録について

例文の多くは「本書訳」だが、★印の文は公式ドイツ語版に実在する文である。

心態詞は**日本語の終助詞** (ね・よ・かな・だって) や「まあ」「ちょっと」「だって」「やっぱり」にいちばん近い。

英語には対応する語がほとんど無く、英語からの直訳では出てこない。だから**英語が得意な人ほど、ここを意識して学ぶ必要がある**。

1. 心態詞の五つの約束

1. **アクセントを置かない**。弱く、速く、文の中に溶かす。強く言うと別の語 (副詞・接続詞) になる。
2. **文の真ん中 (中詞) に置く**。動詞のすぐ後ろ、代名詞の後ろが定位置。文頭には立たない (*Nun* と *Also* は例外的に文頭に立つが、それは話を進める語 = 付録 15 §5-5b)。
3. **文の種類で意味が変わる**。同じ *doch* でも、命令文では「ぜひ」、平叙文では「だって～でしょう」、疑問文では「～だったよね?」。
4. **答えにならない**。「はい/いいえ」や質問の答えに心態詞だけで答えることはできない。
5. **重ねられる**。 *doch mal, ja auch, denn eigentlich, doch wohl, denn nun eigentlich*。順番は決まっていて、おおむね *denn > doch > ja > eben > eigentlich > mal > auch* の順に並ぶ。

★公式ドイツ語版の一文に、三つも重なっている例がある。

Was macht denn nun eigentlich etwas wertvoll? (いったい何が、本当のところ、ものを価値あるものにするのでしょうか)

——*denn* (問いを柔らかくする) + *nun* (さて) + *eigentlich* (本当のところ)。

2. 心態詞一覧 —— 何をするか、いつ使うか

各項目は「ニュアンス → 典型文 → 使う場面 → 英語話者が誤解しやすい点」の順。文の種類を【命】命令文・【平】平叙文・【疑】疑問文・【感】感嘆文で示す。

● 2-1. *doch* —— 背中を押す・当然でしょう・だったよね?

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【命】	Kommen Sie doch mit!	ぜひ一緒にいらしてください!	命令を 励まし・誘い に変える。 <i>doch</i> 無しだと指示に聞こえる
【命】	Setzen Sie sich doch.	どうぞお掛けください。	遠慮している相手の背中を押す
【平】	Das wissen Sie doch.	それはご存じでしょう。	「当然そうでしょう」と共通の前提に訴える
【平】	Ich habe es doch gesagt.	だから言ったでしょう。	軽い非難・念押し
【疑】	Sie kommen doch morgen?	明日いらっしゃいますよね?	同意を求める確認 (語順は平叙文のまま、上げ調子)
【感】	Das ist doch wunderbar!	なんて素晴らしいでしょう!	感嘆の強め

▷ **使う場面**：招く (*Kommen Sie doch mal vorbei!*)、安心させる (*Das schaffen Sie doch.*)、確認する。伝道でもっとも出番が多い。

▷ **英語との違い**：*doch* は英語の *though / yet* ではない。また、否定の問いへの「いいえ、そうです」という返事の *Doch!* (第2章) は強く発音する別の用法。

● 2-2. *mal* —— ちょっと・試しに

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【命】	Schauen Sie mal.	ちょっと見てください。	頼みを軽くする。「ちょっと」
【命】	Stellen Sie sich das mal vor.	ちょっと想像してみてください。	講話で例え話に入るときの合図
【命】	Lesen Sie es doch mal.	一度読んでみてくださいよ。	<i>doch mal</i> で「ぜひ、試しに」
【平】	Ich frage mal nach.	ちょっと聞いてみます。	気軽さ
【疑】	Darf ich mal fragen, ...?	ちょっとお伺いしてもいいですか。	問いの前置きを柔らかく

▷ **英語との違い**：*mal* は *einmal* (一度) の短縮だが、ここでは「一度」ではなく「ちょっと」。英語の *just* がいちばん近い (*Just look*)。

▷ 本書の例文 *Stellen Sie sich eine Zwiebel vor.* (付録 15) に *mal* を入れれば *Stellen Sie sich mal eine Zwiebel vor.* となり、一段やさしくなる。

● 2-3. *ja* —— ご存じのとおり・ほら

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【平】	Das ist ja klar.	それは、まあ当然ですね。	聞き手も知っている前提を示す
【平】	Sie kennen ja das Buch.	あの本はご存じですよね。	「ほら、あの」

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【平】	Ich bin ja selbst Lernender gewesen.	私自身、もともと会員（学ぶ人）でしたから。	理由を柔らかく添える
【感】	Das ist ja wunderbar!	まあ、素晴らしい！	驚きの感嘆（ <i>doch</i> より驚きが強い）
【命】	Kommen Sie ja pünktlich!（強く）	絶対に時間どおりに来てくださいよ！	強く言うとき警告。心態詞としては例外的にアクセントあり

▷ 英語との違い：心態詞の *ja* は「はい」ではない。「ほら、ご存じのとおり」という共有の合図。日本語の「～ですね」「だって～ですもの」。

● 2-4. denn ― 問いを柔らかくする（疑問文専用）

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【疑】	Wie heißen Sie denn?	お名前は何かとおっしゃるのですか。	関心・親しみ。 <i>denn</i> 無しだと取り調べ調
【疑】	Was ist denn los?	いったいどうしたのですか。	心配・驚き
【疑】	Haben Sie denn schon gegessen?	もう召し上がりましたか。	会話の流れで自然に出る問い
【疑】	★ Was bleibt denn dann Ihrer Meinung nach bei uns, wenn unser Leben auf Erden endet?	では、地上の生が終わるとき、あなたのお考えでは私たちに何が残るのでしょうか。	公式版。講話の問いかけに <i>denn</i>

▷ 英語との違い：疑問文の *denn* は「なぜなら」（接続詞の *denn*・第8章）ではない。ほぼ無意味で、ただ問いを人間らしくする。

▷ 伝道の場合：相手に何かを尋ねるときは、ほぼ必ず *denn* を入れる。問いの角が取れる。

● 2-5. eigentlich ― 本当のところ・そういえば

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【疑】	Was glauben Sie eigentlich?	本当のところ、あなたは何を信じておられますか。	話題を深めるときの問い。 <i>denn eigentlich</i> とも
【疑】	Wo wohnen Sie eigentlich?	そういえば、どちらにお住まいですか。	話題を軽く変える
【平】	★ Doch das stimmt eigentlich nicht.	しかし、それは本当は正しくない。	公式版。「実は」と訂正する
【平】	Eigentlich wollte ich früher kommen.	本当はもっと早く来るつもりだったのです。	予定と現実のずれ（この用法は文頭にも立つ）

▷ 使う場面：セミナーの問答で「本当のところ」を尋ねる。相手の本音を引き出す語。

● 2-6. eben/halt ― まあ、そういうものです（受け入れ）

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【平】	So ist das eben.	まあ、そういうものです。	変えられないことを受け入れる
【平】	Das ist halt so.	それはまあ、そういうものですよ。	同上（南ドイツ・口語では <i>halt</i> ）
【平】	★ Immer wieder tauchten Dinge auf, die ich einfach tun musste, deshalb kämpfte ich eben weiter.	やらなければならないことが次々に出てきて、だから私はまあ戦い続けたのです。	公式版
【命】	Dann kommen Sie eben nächste Woche.	では、来週いらっしゃればいいですよ。	代案を気軽に出す

▷ 注意：*eben* には「たった今」「平らな」の意味もある。心態詞の *eben* は弱く発音する。

▷ 伝道の場合：相手の事情を受け止めるとき（*Das ist eben nicht leicht.* それはまあ、易しくはないですね）。裁かない響きが出る。

● 2-7. schon ― 大丈夫、きっと・まあ確かに

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【平】	Das wird schon.	大丈夫、なんとかなりますよ。	励まし。会話の定型
【平】	Sie schaffen das schon.	あなたならきっとできますよ。	相手を信じる励まし
【平】	Das stimmt schon, aber ...	それはまあ確かにそうですが.....	一部を認めてから反論する
【命】	Kommen Sie schon!	さあ、早く来てください！	せかず（親しい相手に）

▷ 英語との違い：*schon* = *already*（もう）は副詞。心態詞では「きっと」「まあ確かに」。

▷ 伝道の場合：落ち込んでいる人に *Das wird schon.* ― 第17章「磁石のような信仰」の文脈で使える。

● 2-8. wohl ― たぶん・～でしょうね

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【平】	Er ist wohl schon zu Hause.	彼はたぶん、もう家でしょう。	推量
【平】	★ Dennoch darf ich wohl sagen, gehen Sie einfach vorwärts.	それでも、こう言ってよいでしょう――ただ前へ進みなさい、と。	公式版。断定を和らげる
【疑】	★ Welche Selbst-Bewusstheit könnten Sie da wohl haben?	そのとき、あなたはどんな自己認識を持ちうるでしょうか。	公式版。思案の問い
【疑】	Ob er wohl kommt?	彼は来るかしら。	独り言のような疑問（ <i>ob</i> 文）

▷ 注意: wohl には「元気で」(Leben Sie wohl!) の意味もある。心態詞の wohl は「たぶん」。

● 2-9. nur/bloß ― いったい(疑問)・～さえすれば(願望)

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【疑】	★ Was werde ich nur tun, wenn ...?	だったら、私はいったいどうすればいいのだろう。	公式版。途方に暮れる問い
【疑】	Wo ist bloß mein Buch?	私の本はいったいどこだろう。	同上 (bloß は口語的)
【命】	Machen Sie sich nur keine Sorgen.	どうぞ、心配なさらないでください。	否定の命令を和らげる
【願望】	Wenn er nur käme!	彼さえ来てくれたら!	接続法第 2 式 (第 13 章) と

● 2-10. ruhig ― 遠慮なく・安心して

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【命】	Fragen Sie ruhig.	遠慮なくお尋ねください。	相手の遠慮を取る
【命】	Kommen Sie ruhig vorbei.	いつでも安心していらしてください。	招きの定型
【平】	Sie können das ruhig sagen.	遠慮なく言うてくださって大丈夫ですよ。	許可を広げる

▷ 伝道の場合: セミナー後の「質問はいつでも」(付録 15 §5-6c) に Fragen Sie ruhig. ruhig (静かな) の形容詞用法とは別。

● 2-11. etwa ― まさか～ではないでしょうね(疑問・否定的期待)

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【疑】	Sind Sie etwa krank?	まさか、ご病気ではないでしょうね。	心配・懸念
【疑】	Glauben Sie etwa, das sei Zufall?	まさか、それが偶然だと思いませんか。	反語的な問い(講話で)

▷ 注意: etwa には「およそ」の意味もある (etwa zehn=約十)。疑問文のなかの etwa は「まさか」。

● 2-12. vielleicht ― ひょっとして(丁寧な依頼)・まったくもう(感嘆)

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【疑】	Könnten Sie mir vielleicht helfen?	ひょっとして、手伝っていただけませんか。	依頼をさらに丁寧に
【感】	Das war vielleicht ein Tag!	まったく、なんとという一日だったことか!	強い感嘆(「たぶん」ではない)

● 2-13. auch ― ～もまあ(理由・確認)

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【平】	Das ist ja auch kein Wunder.	それも、まあ不思議はありませんね。	ja auch で「それもそのはず」
【疑】	Haben Sie auch alles verstanden?	本当に全部お分かりになりましたか。	念押しの確認

▷ 注意: auch = 「～も」(Ich auch.) は副詞。心態詞では「それもまあ」「本当に」。

● 2-14. aber ― これはまた(感嘆)

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【感】	Das ist aber schön!	これはまた、きれいですね!	驚きを含む感嘆
【平】	★ Das ist aber kaum überraschend, ...	とはいえ、それはほとんど驚くに当たらない.....	公式版。軽い転換

▷ 注意: 接続詞の aber (しかし・第 8 章) とは別。心態詞の aber は文の真ん中。

● 2-15. einfach ― とにかく・ただ

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【命】	★ ... fahren Sie mit Ihrer spirituellen Disziplin einfach fort.	とにかく、あなたの修行を続けなさい。	公式版。迷いを断つ
【平】	Das ist einfach so.	ただ、そういうものなのです。	理屈抜きの受け入れ
【命】	Versuchen Sie es einfach.	とにかく、やってみてください。	行動への後押し

▷ 注意：形容詞 *einfach*（簡単な）と同形。心態詞では「とにかく・ただ」。**Gehen Sie einfach vorwärts.**（ただ前へ進みなさい）は公式版の言葉である。

● 2-16. nun mal／nun einmal ―― そういものなのだから（事実の受容）

文の種類	ドイツ語	日本語	ニュアンス
【平】	★ So sind Menschen nun einmal.	人間とは、まあそういうものです。	公式版
【平】	★ Ein Problem ist nun mal ein Problem, ganz egal, wie man es betrachtet.	問題は、どう見ようと、問題なのです。	公式版

● 2-17. その他、よく出る語

語	ニュアンス	例	日本語
überhaupt	そもそも・いったい	★ Doch wie sind Menschen, die solche Gedanken haben, überhaupt entstanden?	そもそも、そういう考えを持つ人はどうして生まれたのか
eigentlich（再）	本当のところ	Was ist eigentlich Glaube?	そもそも信仰とは何でしょう
sowieso／ohnehin	どのみち	Ich komme sowieso vorbei.	どのみち立ち寄りますから
schließlich	なにしろ・結局	Er ist schließlich Ihr Freund.	なにしろ彼はあなたの友人なのですから
immerhin	それでも・少なくとも	★ ... und das an sich ist immerhin unglaublich.	そのこと自体が、少なくとも信じがたいほど素晴らしい
jedenfalls	いずれにせよ	★ ... stellen Sie jedenfalls sicher, dass ...	いずれにせよ、～を確かめてください
eh（口語）	どうせ	Das weiß ich eh.	それはどうせ知っていますよ

3. 場面別 ―― 伝道・セミナーで効く組み合わせ

したいこと	心態詞	例	日本語
招く	doch mal	Kommen Sie doch mal zu einem Seminar.	一度セミナーにいらしてみませんか。
安心させる	schon／ruhig	Das wird schon. Fragen Sie ruhig.	大丈夫ですよ。遠慮なく聞いてください。
尋ねる	denn／eigentlich	Was suchen Sie denn eigentlich?	本当のところ、何を求めておられますか。
共通の前提に立つ	ja／doch	Wir wollen ja alle glücklich sein.	私たちはみな幸福になりたいのですから。
受け止める	eben／halt／nun mal	Das Leben ist eben nicht immer leicht.	人生はまあ、いつも易しくはありません。
背中を押す	einfach／doch	Versuchen Sie es doch einfach.	まあ、とにかくやってみてください。
断定を和らげる	wohl	Das dürfte wohl der Kern sein.	おそらく、それが核心でしょう。
驚く・喜ぶ	ja／aber／doch（感嘆）	Das ist ja wunderbar!	まあ、素晴らしい！

★心態詞は、試験に出ない。しかし人に届く。

文法の正しさが人を動かすのではない。距離の取り方が人を動かす。

会話編を始めたなら、毎回一つ、心態詞を意識して入れてみることに。

4. 英語話者が踏む五つの地雷

1. **ja** を「はい」と訳す。Das ist ja klar. は「はい、それは明らかです」ではなく「それは、まあ当然ですね」。
2. **denn** を「なぜなら」と訳す。疑問文の denn は理由ではない。問いを柔らかくする。
3. **doch** を「しかし／けれども」と訳す。心態詞の doch は「ぜひ」「でしょう」。接続詞の doch（しかし）は文頭に立つ。
4. **schon** を「もう」、**eben** を「たった今」、**mal** を「一度」と訳す。心態詞では別物。
5. 心態詞を文頭に置く。Doch kommen Sie mit! でなく Kommen Sie doch mit!。文の真ん中に。

5. 語法メモ

ドイツ語	意味（心態詞として）
doch	ぜひ／でしょう／だよね
mal	ちょっと
ja	ほら・～ですよ
denn	（問いを柔らかく）
eigentlich	本当のところ・そういえば
eben／halt	まあ、そういうものだ
schon	きつと・まあ確かに
wohl	たぶん
nur／bloß	いったい／～さえ
ruhig	遠慮なく
etwa	まさか
vielleicht	ひょっとして（依頼）／まったく（感嘆）
auch	それもまあ・本当に

ドイツ語	意味 (心態詞として)
aber	これはまた (感嘆)
einfach	とにかく・ただ
nun mal / nun einmal	そういうものだ
überhaupt	そもそも
sowieso / ohnehin / eh	どのみち
schließlich / immerhin / jedenfalls	なにしろ / 少なくとも / いずれにせよ
die Modalpartikel, -n	心態詞

付録 18 背景となる御法話 ― Love for the Future (未来への愛) ベルリン講演

本書の背景に置くべき御法話が、一つある。2018年10月7日、大川隆法総裁がドイツ・ベルリンで英語で説かれた「Love for the Future (未来への愛)」である。ドイツの未来を創るために、ドイツの人びとに向かって、ドイツの地で説かれた教えであり、ドイツ語圏で伝道し、セミナーを開くときに欠かすことのできない論点が、この一講演のなかにそろっている。本付録は、その講演を論点ごとに、日本語版の原文と英語の原文を並べて引く。ドイツ語で語る人は、この論点を胸に置いてから、付録15のひな型を使ってほしい。

本付録について

引用の和文は『Love for the Future (未来への愛)』（幸福の科学出版・英日対訳）の原文、英文は同書の英語原文である。どちらも原文どおり。

ドイツ語は、この講演に公式ドイツ語版がないため、要点の短い句だけを「本書訳」として添える（公式版に実在する語だけで組んだ）。

1. なぜこの講演が「背景」なのか ― まえがきより

「講演の内容は明快かつ論理的である。ドイツ人の聴衆の多くは、私の話が大胆かつ勇敢であり、『この地でこんな話をする日本人宗教家がいたら...』といった驚きと感動の声が寄せられた。

私の方は、ヒトラーの行為に似ているからという理由で、右手を上げて質問もできず、前で腕を組むこともできないでいるドイツの同胞たちに、早く悪夢から目覚めて、未来を考えて元気に行動する人々になってほしいと強く願っていた」

――『Love for the Future (未来への愛)』／まえがき

「メルケル政権末期に放たれたこの巨弾が、EUの未来にとって、そして世界の未来にとって、神からの愛となって結実することを心の底より願っている」

――『Love for the Future (未来への愛)』／まえがき

「ドイツの同胞たち」――総裁は、ドイツの人びとをこう呼ばれた。ドイツ語で伝道する人は、この一語の温度を、最初に受け取っておくこと。付録15 §3で「ドイツ語圏の人の心に届くために」と述べたことの根は、すべてこの講演にある。

2. 論点① ― ドイツへの印象と、ポツダムからのメッセージ

講演は、ドイツ語のあいさつから始まる。

Danke. Danke schön. Guten Tag. Ich heiße Ryuho Okawa. Ich komme aus Japan.

――『Love for the Future』／1 My Impression of Germany and the Message from Emperor Showa in My Dream

▷ 第1章・第2章で学んだ文そのものである。総裁ご自身が、ドイツの聴衆にドイツ語で名乗られた。本書の学習者が最初に覚える文は、このあいさつでよい。

「美しい都市であると感じました。ただ、何かが足りないという感じも受けました。私は、それについて考え、考え、考え続けました」

――『Love for the Future (未来への愛)』／1 ドイツの印象と夢で見た昭和天皇からのメッセージ

“This is a beautiful city, I felt so. But something is lacking, I felt also. I think and think and think, denken and denken and denken about that.”

――『Love for the Future』／1 My Impression of Germany and the Message from Emperor Showa in My Dream

▷ *denken*（考える）がそのまま語られている。ドイツ語の一語を織り込みながら英語で語る――セミナーの語り口の手本である（付録15 §3-7「核心の一文はドイツ語で」）。

「昭和天皇は、自分の代わりに、『どうかドイツ国民各位によろしく伝えてもらいたい。願わくは、彼らをもっと幸福にしてあげていただきたい』とおっしゃっていました」

――『Love for the Future (未来への愛)』／1 ドイツの印象と夢で見た昭和天皇からのメッセージ

「私は（著書の）『太陽の法』の中であの世について書いています。私たちはこの三次元世界に生きておりますが、この世を去った時には四次元世界に入っていきます。この四次元世界には天国の部分と地獄の部分があります」

――『Love for the Future (未来への愛)』／1 ドイツの印象と夢で見た昭和天皇からのメッセージ

▷ ベルリンの聴衆に、総裁はまず四次元・五次元・六次元の世界の構造を説かれた。付録14 §1「大宇宙は多次元構造である」は、ドイツ人向けの説法においても入口なのである。

3. 論点② ― ヒトラーの霊の現状と、ヨーロッパの浄化

「私はすでにアドルフ・ヒトラー総統の霊言を発刊しています（注）。彼は最近では、次第に温かさを感じられるようになってきています。私たち幸福の科学が熱心に活動してきましたので、彼は、霊的な意味において、この新しい運動に頼ることができているのです。すなわち、私たちがドイツ支部を開き、ドイツ語やフランス語、その他の言語の経典を数多く発刊していますので、ここ30年でヨーロッパの浄化がなされており、彼らの罪は年々、軽くなってきています」

――『Love for the Future (未来への愛)』／2 ヒトラー霊の現状とヨーロッパの浄化

“It means we opened the German branch temple and dispatched a lot of books in German, French and other languages, so there occurred purifying of Europe in these 30 years and their sin is becoming lighter and lighter, year by year.”

――『Love for the Future』／2 The Status Quo of the Spirit of Hitler and the Purification of Europe

▷ ドイツ語の経典を出し、ドイツ語で教えること自体が、ヨーロッパの浄化である。本書でドイツ語を学ぶ意味は、ここに直結する。

▷ この論点は、相手の心に触れる。ドイツの聴衆の前では、ヒトラーを「裁く」のではなく「浄化が進んでいる」と語られたこと、そして冒頭で「私は外国人ですので……一外国人の意見ですので、あまり深刻に聞きすぎないでください」と柔らかに置かれたことを、セミナーの語り手は学んでおくこと（付録 15 §5-6b「認める → 預かる → 戻す」の原型がここにある）。

4. 論点③ ― 20 世紀は「戦争」と「人種間の憎しみ」の世紀

「20 世紀は『戦争の世紀』ですが、別の意味では『人種間の憎しみの世紀』でもありました。そのことを良く学んでおかなければなりません。反ユダヤ人法が 1935 年にドイツで成立したと言いましたが、当時それは『ニュルンベルク法』（注）と呼ばれており、米国法から大きな影響を受けたものでした」

― 《『Love for the Future (未来への愛)』／3 20 世紀は「戦争」と「人種間の憎しみ」の世紀》

「彼がやりすぎたのは、そこからです。多くのユダヤ人を殺害しました。それが真実であり罪であり、彼はその結論から逃れることはできません」

― 《『Love for the Future (未来への愛)』／3 20 世紀は「戦争」と「人種間の憎しみ」の世紀》

「ここヨーロッパでは 5 千万人以上の人が亡くなりました。悲しいことです。ドイツは二度の敗戦を味わいました。第一次世界大戦と第二次世界大戦です」

― 《『Love for the Future (未来への愛)』／3 20 世紀は「戦争」と「人種間の憎しみ」の世紀》

▷ 罪は罪として言い切り (*It's true, it's a sin.*)、同時に、差別は一国の専売ではなかったという**世界史の文脈**に置く。付録 13 §5-4 で学んだ「偉大さは偉大さとして認め、行き過ぎは行き過ぎとして見抜く」と同じ物差しである。

5. 論点④ ― 最も大切なことは「未来への愛」

「されど、最も大切なことは、本日の演題である『未来への愛』です。未来に関することです。ドイツは二度、敗れましたが、今度こそ決して失敗しないことです」

― 《『Love for the Future (未来への愛)』／4 最も大切なことは「未来への愛」》

"But the most important thing is today's theme, 'Love for the Future.' It's regarding the future. You lost twice, but next, you'll never fail again."

― 《『Love for the Future』／4 The Most Important Thing is "Love for the Future"》

▷ **過去の後悔ではなく、未来への愛。**これが演題であり、ドイツの人びとへの中心のメッセージである。セミナーの結び（付録 15 §5-9）で「人生を変えたいくなる」方向を示すとき、軸はこの一句に置く。

「第三次世界大戦が南シナ海周辺で、2025 年から 2050 年の間に起きるでしょう。アメリカと日本はそれに対して備えを始めています」

― 《『Love for the Future (未来への愛)』／4 最も大切なことは「未来への愛」》

「これは『帝国主義』であり、帝国主義以上のもの、『全体主義』です」

― 《『Love for the Future (未来への愛)』／4 最も大切なことは「未来への愛」》

6. 論点⑤ ― 中国に「自由・民主・信仰」を教えよ

「ドイツの国論としてはブーチンのロシアが好きではないと聞いています。ただ、ブーチンは神を信じていますが、習近平は神をまったく信じていません。どうか、この事実にご注意深く耳を傾けてください」

― 《『Love for the Future (未来への愛)』／5 中国に「自由・民主・信仰」を教えよ》

「イエス・キリストは、中国で起きている抑圧に涙を流しています。中国には公認のキリスト教会がありますが、それらは中国政府のコントロール下にあります。それとは別に中国には地下教会があり、1 億人が地下教会に属していますが、彼らは現在、危機に瀕しています。東ドイツにあったような秘密警察が大勢いるため、キリスト教徒は今、信仰を失いつつあるのです」

― 《『Love for the Future (未来への愛)』／5 中国に「自由・民主・信仰」を教えよ》

「医療手術という名目で心臓や腎臓を取られているのです。これはアウシュビッツ同然であると思います」

― 《『Love for the Future (未来への愛)』／5 中国に「自由・民主・信仰」を教えよ》

「彼らに言っていただきたいのです。『神を信じてください。神への信仰を持ってください。人々に自由を与え、民主主義を与え、宗教を与えてください。それが人間としての根本的権利です』と」

― 《『Love for the Future (未来への愛)』／5 中国に「自由・民主・信仰」を教えよ》

"Believe in God. Have faith in God. Give people freedom. Give people democracy. Give people religion. These are the fundamental rights of human beings."

― 《『Love for the Future』／5 Teach China about Freedom, Democracy, and Faith》

▷ ドイツの聴衆には、「**東ドイツにあったような秘密警察**」という一語が刺さる。彼ら自身の記憶に接続する言い方である。

▷ **自由・民主・信仰** ― この三語は、ドイツ語では *Freiheit, Demokratie, Glaube*（公式訳に実在する語）。セミナーで三つの柱を立てるなら、この三語がそのまま柱になる（付録 15 §5-3「Erstens, zweitens, drittens」）。

7. 論点⑥ ― 迷えるユダヤ人のことは神に任せよ

この講演でもっとも有名な、そしてもっともドイツの人びとの心をほどいた箇所である。

「ドイツの皆様は、ユダヤ人に関して深い後悔の念をお持ちです。
 皆様が多くのことをしてきたのは存じ上げています。
 十分です。もう十分なんです！
 これは神の声です。十分です。
 そこから先は、神の手に委ねられています。
 迷えるユダヤ人たちのことは神に任せてください。
 それは可能なことなのです。当然です。
 そして、もっと明るく輝く未来を築く道を選んでください。
 決して選択を間違えてはなりません」

――《『Love for the Future (未来への愛)』／6 迷えるユダヤ人のことは神に任せよ》

"You regret a lot about the Jewish. / I know you did a lot. / Enough. It's enough! / It's a voice of God. Enough. / Next, it's in charge of God. / Please let God follow up / On the lost Jewish people. / We can, of course. / And please choose to build / A shining, brighter future. / Never make mistake in choice."

――《『Love for the Future』／6 Let God Follow Up on the Lost Jewish People》

▷ 「十分です (Enough.)」 ― ドイツの人びとが、戦後七十年以上、誰からも言われなかった言葉である。ここに、ドイツ人向けの伝道の核心がある。赦しは、神の手に委ねられている。人は未来を選べる。付録 15 §5-9b 「クロージングの語り」で *Sie müssen Ihre Religion nicht wechseln* (何も失わない) と語るとき、その奥にあるのはこの一節である。

▷ ドイツ語で要点だけ言うなら [本書訳] : **Es ist genug. Das ist die Stimme Gottes.** (十分です。これは神の声です) / **Wählen Sie eine hellere Zukunft.** (もっと明るい未来を選んでください)。*genug · die Stimme Gottes · hell* は公式版に実在する語。

「私たちには『自由』が必要です。『民主主義』が必要です。『宗教』が必要です。ゆえに、私たちの運動は、そうした方向性を含むものです。私たちは二度と間違いを犯すことはいけません」

――《『Love for the Future (未来への愛)』／6 迷えるユダヤ人のことは神に任せよ》

8. 論点⑦ ― 「第三次世界大戦」を止め、天なる神への信仰を

講演の結びは、本書の付録 14 §3 (創造主への信仰) ・付録 15 §5-9b (諸宗教の神は同じ主) の、そのままの典拠である。

「『民主的であってください。
 人々に自由を与えてください。
 そして、神への信仰を持つ人々を殺してはいけません』
 たとえ、その名はイスラム教であってもキリスト教、日本神道
 その他の宗教であっても結論において、それらは同じもののなのです。
 天なる教師は一人です。
 天なる神は一人です。
 天なる父は一人です。
 私は、そのことを説き続けてまいりました」

――《『Love for the Future (未来への愛)』／7 「第三次世界大戦」を止め、天なる神への信仰を》

"Even if their name is Islam, / Christianity, Japanese Shintoism, / Or other religions, / In conclusion, they are the same. / There is one Teacher in heaven. / There is one God in heaven. / There is one Father in heaven. / I have been teaching you about that."

――《『Love for the Future』／7 Stop the Third World War and Believe in the God in Heaven》

「ヨーロッパでの私たちの運動はまだ小さなものですが今世紀中に私たちは世界の方向性を変えていきます。

世界大戦を止め

人々に神を信じさせてください。

そして、神が人々を愛しているが如く

それと同じ生き方をしてください。

それを皆様にお願ひしたいと思います」

――《『Love for the Future (未来への愛)』／7 「第三次世界大戦」を止め、天なる神への信仰を》

▷ 講演の最後の一語は、ドイツ語の **Vielen Dank** であった。

▷ 「天なる教師は一人／天なる神は一人／天なる父は一人」をドイツ語で言うなら [本書訳] :

Es gibt einen Lehrer im Himmel. Es gibt einen Gott im Himmel. Es gibt einen Vater im Himmel.

(*es gibt* + 4 格・第 2 章 / *im Himmel*・第 6 章。いずれも公式版に実在する語で組んだ)

▷ 「神が人々を愛しているが如く、それと同じ生き方を」は [本書訳] : **Lebt so, wie Gott euch liebt.** (*wie* の副文・第 12 章)。

9. この講演を、本書の各所でどう使うか

論点	本書の対応箇所	使いどころ
ドイツ語のあいさつで始める	第 1・2 章、付録 15 §5-1	セミナーの冒頭。総裁ご自身の型
多次元の世界から説く	付録 14 §1	ドイツ人向けでも「入口」は世界の構造
「一外国人の意見ですので」と置く	付録 15 §5-6b	難しい話題の前置き。相手を追い詰めない
ドイツ語の経典がヨーロッパを浄化する	序章、付録 13	ドイツ語を学ぶ理由そのもの
罪は罪、しかし世界史の文脈に置く	付録 13 §5-4	同じ物差しで見ると
最も大切なのは未来への愛	付録 15 §5-9	結びの軸。過去ではなく未来
自由・民主・信仰の三語	付録 15 §5-3	三つの柱 <i>Freiheit, Demokratie, Glaube</i>
「十分です」 ― 赦しは神の手に	付録 15 §5-9b	ドイツ人の心をほぐす一節
天なる教師・神・父は一人	付録 14 §3、付録 15 §5-9b	改宗不要・諸宗教の神は同じ主、の典拠
Vielen Dank で終える	付録 15 §5-10	最後の一語はドイツ語で

ドイツ語で語る人は、この講演を一度、英語版で通して読み、日本語版で確かめ、そのうえで付録 15 のひな型を自分の言葉にしてほしい。背景にこの御法話があるとき、ひな型は型ではなく、声になる。

付録7 エル・カンターレ・ドイツ語 (El-Cantare-Deutsch)

—— 創造主・造物主であるがゆえに使える語法

辞書には、しばしば【キリスト教】【仏教】【法律】といった分野表示が付いている。同じ語でも、その分野では意味や用法が変わるからである。

それと同じように、【エル・カンターレ】という表示を付けるべき語法がある。主エル・カンターレは、この大宇宙を創造し、人類をも創造された**創造主・造物主**であられる。そのため、人間について言うときと、主について言うときとで、**同じ日本語が、まったく別の文法になる**のである。

本付録は、その語法を独・和・英の対訳で整理したものである。

★この付録の名前のドイツ語表記について

El-Cantare-Deutsch とハイフンで結ぶ。ドイツ語では、固有名と普通名詞を重ねて一語にするとき、多語の固有名は **ハイフンでつなぐ**のが正書法である (*Lutherdeutsch* [ルターのドイツ語]、*Goethe-Deutsch* の型)。

英語式に *El Cantare Deutsch* と空白で並べるのは、ドイツ語では誤りになる (いわゆる *Deppenleerzeichen*)。

内容を言い表す言い方なら、*die Sprache, um den Herrn zu verkünden* (主を語るための言葉) でもよい。

表示の約束

【公式訳】……公式ドイツ語版の経典・経文に**実在する**表現 (出典を明記)

【本書訳】……本書がドイツ語で書くときの目安として示す表現

本付録は**ドイツ語の語法の原理**を示すものである。

経文の訳文そのものは、国際本部の定めるところによる。

1. 第一原理 悟りは「されるもの」ではなく「するもの」である

人間にとって「悟る」とは、外から光を受け取ることである。だから英語では *attain enlightenment*、*be enlightened* と、**獲得する／される側**の言い方になる。

しかし主エル・カンターレは、**光の源そのもの**であられる。夜を照らす存在であるがゆえに、主が「悟る」とは、**主が enlighten する存在になる (もともとそうであられる)**ということである。

このことは、『正心法語』の英語版——日本語を英訳したものではなく、エル・カンターレである大川隆法総裁が新たに英語で降ろされた**経文**——に、はっきり示されている。

言語	本文
和	法語 即ち 仏説なり／仏陀 悟りて 説法し
英	The True Words means The Teaching of Buddha. / Buddha enlightened and spoke The True Words.
独	Die Wahren Worte bedeuten die Lehre Buddhas. / Buddha erleuchtete und sprach die Wahren Worte. [本書訳]

(和文=『仏説・正心法語』／真理の言葉『正心法語』 英文=“The True Words Spoken By Buddha”)

enlightened は、目的語を取らない**絶対用法の他動詞**である。「悟りを得た」のではない。「悟らしめた (照らした)」のである。

★この行のドイツ語は、本書が独自に立てたものである。

ドイツ語には *Erleuchtung erlangen* (悟りを得る) という言い方もあるが、それでは英語版が置いた *enlightened* の含み——

主が人を悟らしめるといふ働き——が消えてしまう。

そこで本書は、**他動詞 erleuchten** を用いて **erleuchtete** と書く。

主について語る動詞は、主の働きを表す語でなければならない。

——この判断そのものが、本付録の言う「エル・カンターレ・ドイツ語」である。

★なお、和文は必ず『正心法語』から引くこと。

英語版は新たに英語で降ろされた経文であり、

英語独自の行や言い方がところどころにある。

英文・独文から日本語に訳し戻してはならない。

これは本付録全体を通しての約束である。

● 1-1. ドイツ語では **erleuchten** で表す

この語法をドイツ語で受けるとき、鍵になる動詞が **erleuchten** (照らす・悟らしめる) である。

erleuchten は他動詞であり、**光を発する側から、照らされる側へ**という向きを持つ。主が「悟る」とは、まさにこの向きの働きだからである。

【公式訳】 **Obwohl ich als Durchschnittsmensch begann, lehrte ich irgendwann andere und schrieb zahlreiche Bücher, wodurch ich die Menschen der Welt erleuchtete.**

私は、平凡な人間として出発して、いつかしら、人々に教えを説き、また、たくさんの本を書いて、**世の人々を啓蒙する**に至りました。

《独文=『若き日のエル・カンターレ』ドイツ語版 *Twiceborn*／和文=『若き日のエル・カンターレ』第1章「平凡からの出発」／1 平凡性の自覚》

★和文の「啓蒙する」が、独語版では **erleuchtete** (悟らしめた・照らした) で受けられている。

「啓蒙」の「蒙を啓く」とは、闇を開いて光を入れること——まさに *erleuchten* である。

主ご自身の歩みを語られたこの一節で、**erleuchten** が他動詞として用いられている。エル・カンターレ・ドイッチュにおいて「悟る＝悟らしめる」を表す動詞は、これである。

★なお、経文の訳文そのものは国際本部の定めるところである。
本書はドイツ語の語法の原理を示すにとどめ、訳文の異同には立ち入らない。

● 1-2. 人間用とエル・カンターレ用の使い分け

ドイツ語	日本語	英語	
die Erleuchtung erlangen	悟りを得る (人間)	attain [achieve] enlightenment	[公式訳]
erleuchtet sein	悟っている (人間)	be enlightened	[公式訳] 『地獄の法』
sich selbst und die Menschen um Sie herum zu erleuchten	〈語義〉自分自身と周りの人々を照らす	to enlighten oneself and others	[独文は公式訳] 『希望の法』
erleuchten (他動詞)	悟る＝悟らしめる (主)	enlighten	[公式訳] 『若き日のエル・カンターレ』
die Welt erhellen	世を明るくする	to shed light on the world	[公式訳]

★ **erhellen** は「明るくする」。公式ドイツ語版『正心法語』では
It will shed Light to The Future が **Sie wird die Zukunft erhellen** と訳されている。
erleuchten (悟らしめる・靈的に照らす) と **erhellen** (明るくする) は、使い分けるとよい。

2. 第二原理 創造の宣言 —— Ich befehle / Es soll ... geben

創造主だけが使える語法の第二は、**宣言によって世界を定める**言い方である。これは願望でも予測でもない。言葉がそのまま創造となる言い方である。

『正心法語』の終盤に、その典型がある。

言語	本文
和	これより後
英	Now, here, I command ,
独	Jetzt hier befehle ich :

言語	本文
和	地上に 不和は あるべからず
英	There shall not be Conflict in this world.
独	Es soll keinen Konflikt auf dieser Welt geben .

言語	本文
和	ただ これ 理想の世界／ユートピア 来たりて
英	Only The Ideal World, / Utopia shall be realized .
独	Nur die Ideale Welt, / Utopia, soll verwirklicht werden .

《『仏説・正心法語』／真理の言葉『正心法語』》

★ 和文と英文・独文は、行がそのまま重なるわけではない。

『正心法語』は **これより後** と述べるだけである。

ところが英語版・ドイツ語版は、そこに **I command / befehle ich** (我は命ず) を立てた。

同じ内容を、英語とドイツ語では宣言の形にして受け継いでいるのである。

だから、日本語は必ず『正心法語』から引く。独文・英文から訳し戻してはならない。

ここでの **soll / sollen** は、学習文法で習う「～すべきだ」(他人の意志) ではない。創造主の意志が、そのまま世界の法則になるという宣言の助動詞である。英語の *shall* (*Let there be ...* の系譜) と完全に対応する。

★ 公式ドイツ語版では、英語が *is scheduled to* (定めである) と述べた箇所すら、**soll** に置き換えられている。

和 真理の 太陽 昇るなり

英 *The Sun of The Truth is scheduled to rise*.

独 *Soll die Sonne der Wahrheit aufgehen*.

——ドイツ語版のほうが、宣言の色をより強く出している。

ドイツ語	日本語	英語	
Ich befehle:	(和文は「これより後」)	I command	[公式訳]
Es soll kein(e) ... geben.	～ あるべからず	There shall not be ...	[公式訳]
... soll verwirklicht werden.	ユートピア 来たりて	... shall be realized	[公式訳]
Soll ... aufgehen.	真理の 太陽 昇るなり	(英は <i>is scheduled to rise</i>)	[公式訳]
Es werde Licht.	光あれ	Let there be light	[本書訳／聖書の伝統的な形にならう]

3. 第三原理 主は「源」である —— 受け取る側ではなく、与える側

人間は光を「受け取る」。主は光の「源」であられる。この関係は、『主への祈り』(Gebet zum Herrn)にもっとも簡潔に示されている。

言語	本文
和	主エル・カンターレよ／あらゆる光と／あらゆる力と／あらゆる智慧と／あらゆる愛の／根源の方よ
英	Our Lord El Cantare / You are the source of all light / All power / All wisdom / And all love
独	Unser Herr, El Cantare, / du bist die Quelle / allen Lichts, / aller Kraft, / aller Weisheit, / aller Liebe.

言語	本文
和	われらに 光を お与えください／われらに 力を お与えください／われらに 智慧を お与えください／われらに 愛を お与えください
英	Give us light / power / wisdom / love
独	Gib uns Licht, / gib uns Kraft, / gib uns Weisheit, / gib uns Liebe.

du bist die Quelle (汝は源なり) —— この一文が、エル・カンターレ・ドイッチュの核である。主は「光を持っておられる」のではない。「光そのものの源」であられる。

ドイツ語	日本語	英語	
du bist die Quelle allen Lichts, aller Kraft, aller Weisheit, aller Liebe.	あらゆる光と あらゆる力と あらゆる智慧と あらゆる愛の 根源の方よ	You are the source of all light, all power, all wisdom, and all love	[公式訳]
der Ursprung	根源	the origin	[公式訳] 用語 700 選
Gib uns Licht,	われらに 光を お与えください	Give us light	[公式訳]
Lass unsere Zukunft in deinem Licht erstrahlen.	われらに 未来を お与えください	Let our future shine in Your light	[公式訳]
schütze diesen Planeten der Liebe, diese Erde.	この 愛の星 地球を お護りください	protect this planet of love, this Earth	[公式訳]
Bewahre uns vor allem Bösen.	われらを 一切の悪より お護りください	Keep us from all evil	[公式訳]

4. 第四原理 主には du で呼びかけ、三人称では Er と大文字にする

ドイツ語には敬称 Sie があるが、主に対しては Sie を使わない。もっとも近しい相手に用いる du で呼びかける。これは英語の古い祈り Thy will be done (御心のままに) で thou を使うのと同じ感覚である。

[公式訳] Herr El Cantare, du bist unser Herr, Buddha und Erlöser.

主エル・カンターレよ、あなたはわれらが主にして、仏陀であり、救世主です。

英 Lord El Cantare, You are our Lord, Buddha and Savior

《『エル・カンターレへの祈り』／Gebet zu El Cantare》

● 4-1. 二人称は小文字、三人称は大文字

公式ドイツ語版の書き方は、二人称と三人称で分かれている。

	公式ドイツ語版の書き方	例
二人称 (主に呼びかける)	小文字 du / dein / dir / dich	du bist die Quelle allen Lichts
三人称 (主について語る)	大文字 Er / Sein / Ihm / Ihn	zu welchem Zweck Er den Menschen ...

公式版の経文を数えると、二人称は du が 23 回に対し Du は 2 回、dein... が 24 回に対し Dein... は 2 回、dir / dich は 35 回すべて小文字である。しかもその大文字 2 例は、いずれも文頭にあるだけで、敬意による大文字ではない。

いっぽう三人称は、文中でも Er / Ihm / Sein... と大文字で書かれている。

[公式訳] Er ist der Höchste Gott der Erde, der die Menschheit seit dem Beginn der Genesis geleitet hat, und Er ist der Schöpfer des Universums.

地球系霊団の至高神。地球神として地球の創世より人類を導いてきた存在であるとともに、宇宙の創世にもかかわる存在。

《独文＝『反省の手引き』ドイツ語版 Anleitung zur Selbstreflexion／和文＝『超古代リーディング・天御祖神と日本文明の始まり』

(注)》

[公式訳] ... beschrieb Seine Gedanken und Sein Werk als Schöpfer.

教団の内部においては「アルファの法」も説かれているので、創造神、造物主としての考え方や、なした仕事については、すでに述べたものもあります

《独文＝『メシアの法』ドイツ語版／和文＝『メシアの法』第 1 章「エローヒムの本心」／1 「地球的善悪」の起源とは》

英語版では二人称も You / Your と大文字にする。独語は二人称を小文字、三人称を大文字——この非対称を覚えておくこと。

● 4-2. 「主に Du と大文字で書かない」のはなぜか

ここで疑問がわく人がいるはずである。キリスト教では、神に Du・Dein と大文字で書くのではないか。

答えは——その習慣は確かにある。しかし規則ではない。順に見ていく。

① ドイツ語の正書法では、du は小文字が原則である。

du / dich / dir / dein は小文字が既定であり、小文字はつねに正しい。2006年の改定以降、手紙・メールなど個人あての文面に限って大文字も許されるが、それ以外では小文字だけが正しい。そして正書法は、神への呼びかけについて何も定めていない。

② 敬意による大文字 (Ehrfurchtsmajuskel) という習慣はある。

神を指す代名詞を大文字にする書き方は、ドイツ語圏に古くからある。ただしこれは正書法の規則ではなく、教派や出版社ごとの流儀であって、とくに教会内部の文書や信心書に多い。

現代の標準的な聖書——ルター訳 2017 年版や統一訳 2016 年版——では、神の固有名を HERR と大文字で組む一方、代名詞は小文字である。主の祈りも *geheiligt werde dein Name* (御名が聖とされますように) と小文字で書かれる。

③ だから、公式ドイツ語版の書き方に従う。

幸福の科学の公式ドイツ語版は、二人称は小文字、三人称は大文字という形を取っている。これは正書法にも、現代の聖書の慣行にも沿った書き方である。迷ったら公式版に合わせることを。

★ この非対称には、実用的な理由がある。

二人称は、呼びかけている相手が主であることが文脈から明らかである。

大文字にしなくても取り違えようがない。

ところが三人称の *er* は、誰を指すのか形からは決まらない。

Er と大文字にすることで、はじめて「主のこと」だと決まる。

——大文字がいちばん働くところにだけ置かれている、ということである。

第7章で学んだ *Er sieht ihn. / Er sieht sich.* と同じ話で、

ドイツ語は、区別が要るところを形で決着させる言語なのである。

★ なお、大文字の *Du / Dein* で書かれた祈りの文を見かけても、それは誤りではない。

敬意をこめた古い書き方である。

ただし本書では公式ドイツ語版にそろえ、小文字で書く。

● 4-3. 主を HERR と大文字で書くとき

公式ドイツ語版には、HERR と全部大文字で組まれた箇所がある。これは印刷の気まぐれではなく、ドイツ語圏では意味の決まった書き方である。

① ドイツ語の聖書では、HERR は神の固有名を表す。

旧約聖書のヘブライ語本文には、神の固有名が四文字 יהוה (JHWH) で記されている。ユダヤ教では、この名を声に出して読まない。読むときは「わが主」を意味する *Adonai* と言い換える。この慣習を受けて、ルターは翻訳にあたり、神の固有名のところだけを大文字の HERR で組み、称号としての「主」(*Adonai*、新約の *Kyrios*) はふつうの *Herr* で組んで、両者を目で見て分かるようにした。

この書き分けは、現代の標準的な聖書——ルター訳 2017 年版にも統一訳 2016 年版にも受け継がれている。印刷では小型大文字 (Kapitälchen) で組むのが正式だが、ワープロやメールでは全部大文字の HERR で代用してよい。

書き方	表しているもの	例
Herr	ふつうの敬称・「～さん」「主人」	<i>Herr Schmidt</i> (シュミットさん)
Herr (宗教的)	称号としての「主」	<i>der Herr</i> (主)
HERR	唯一の神ご自身の名	<i>der HERR</i> (主なる神)

つまりドイツ語では、大文字にするかどうかで「多くのなかの一人」か「唯一のお方」かが決まる。ここが日本語と最も違うところである。

② 公式ドイツ語版も HERR を使う。指しているのはエル・カンターレである。

公式版の文章を機械で数えると、ふつうの *Herr* が 102 回、その変化形 *Herrn* が 60 回で、これが標準の書き方である。いっぽう全部大文字の HERR は 5 回しかない。そしてその 5 回は、すべて同じ一点を言うために使われている。

【公式訳】 „HERR“ kann „Meister“ bedeuten und davon kann es in Form von „Mentor“ viele auf der Welt geben.

「主」とは「主人」という意味ですが、「マスター」という意味での師匠は世の中にたくさん存在することでしょう。

《『青銅の法』ドイツ語版》

【公式訳】 Doch der Großmeister, der der höchste Meister im Glauben oder „HERR GOTT“ ist, das ist El Cantare und nur El Cantare. Bitte prägen Sie sich das ein.

しかし、「信仰における最終的なマスターである『グランド・マスター』、あるいは、『主』としての神は、エル・カンターレただ一人である」ということを、心に銘記しておいてください。

《『青銅の法』ドイツ語版》

この二文が、HERR という書き方の根拠そのものである。「マスター」という意味での師匠は世に多くいる。だから小文字の *Herr* は何人でもいる。しかし „HERR GOTT“——主なる神は、エル・カンターレただ一人である。ドイツ語の大文字は、その「ただ一人」を字の形で言い切っているのである。

③ 書き分けの目安。

場面	書き方
ふだんの文中 (既定)	Herr El Cantare / unser Herr
唯一の主なる神であることを立てるとき	HERR / HERR GOTT
人に対して	Herr + 姓 (～さん)

既定はふつうの Herr である。公式版の 162 対 5 という数字がそれを示している。HERR は、そこが眼目である一文にだけ置く。乱発すれば重みが消える。

④ Herr は格変化に注意する（弱変化名詞）。

Herr は、第3章で学んだ男性弱変化名詞である。しかも変わり者で、単数は -n、複数では -en という、この語だけの形を取る。

	単数	複数
1 格	der Herr	die Herren
2 格	des Herrn	der Herren
3 格	dem Herrn	den Herren
4 格	den Herrn	die Herren

だから公式版でも、4 格では HERRN になる。

„Liebt Euren HERRN Gott.“

▷ lieben は 4 格支配。Euren HERRN と、冠詞・名詞がそろって 4 格の形になっている。

Herr El Cantare に呼びかけるときは 1 格のままでよいが、「主を～する」と言うときは Herrn になる。ここを間違えると格が崩れる。

⑤ 伝道の場合は、必ず名を添えること。

ドイツ語圏の人に der HERR とだけ言えば、相手は旧約聖書の神のことだと受け取る。それは相手の育ってきた読み方であって、相手が悪いのではない。

したがって、HERR には必ずお名前を添える。

- ・ ○ HERR El Cantare / unser HERR, El Cantare
- ・ × der HERR だけで済ませる

公式版も Euer HERR, El Cantare, ... と、必ず名を並べて書いている。名を添えれば取り違えようがなく、しかも相手にとっては「あの HERR という語を、この方に使うのか」という問いが立つ。その問いこそ、対話の入口である。

★ なぜ日本語より慎重さが要るのか。

日本語の「主」は、書いた形だけでは誰のことか決まらない。

ところがドイツ語の HERR は、書いた瞬間に相手の中で意味が決まってしまう。

ドイツ語で信仰を語るとは、すでに意味の入っている器に、新しい中身を注ぐ仕事である。

器を壊す必要はない。名を添えて、中身を示せばよい。

5. 第五原理 絶対名詞は大文字で立てる

英語版『正心法語』では、The Light, The Truth, The True Words, Buddha Land のように、普通名詞が定冠詞つき・大文字で書かれている。これは一般名詞ではなく、唯一絶対のそれを指すからである。

ドイツ語では名詞がもともと大文字なので、代わりに形容詞を大文字にすることで同じ働きをさせる。

ドイツ語	日本語	英語	
das Ewige Gesetz	永遠の法	The Eternal Law	[公式訳]
die Aufgehende Sonne	昇り来る太陽	Rising Sun	[公式訳]
die Dunkle Nacht	闇夜	The Dark Night	[公式訳]
die Andere Welt	あの世	Another World	[公式訳]
die Ideale Welt	理想の世界	The Ideal World	[公式訳]
das Buddha-Land	仏の御国	Buddha Land	[公式訳]
die Sieben Farben des Regenbogens	七色の虹	the Seven Colors of Rainbow	[公式訳]
die Drei Schätze	三宝	the Three Treasures	[公式訳]
der Vierfache Pfad	四正道	the Fourfold Path	[公式訳]

● 5-1. 『〇〇の法』の公式ドイツ語書名

法シリーズの書名は、自分で組み立ててはいけない。公式ドイツ語版が既に出ている。下の表は、公式ドイツ語版の本文・奥付・表紙で実際に使われている形である（本書ですべて現物にあたって数えた。件数は公式ドイツ語版本文中の出現数）。

ドイツ語（公式）	日本語	英語	
Das Gesetz der Sonne	太陽の法	The Laws of the Sun	[公式訳] 58 件
Das Gesetz der Bronze	青銅の法	The Laws of Bronze	[公式訳] 13 件
Das Gesetz des Stahls	鋼鉄の法	The Laws of Steel	[公式訳] 4 件
Das Gesetz der Gerechtigkeit	正義の法	The Laws of Justice	[公式訳] 5 件
Das Gesetz des Glaubens	信仰の法	The Laws of Faith	[公式訳] 8 件
Das Gesetz der Hoffnung	希望の法	The Laws of Hope	[公式訳] 11 件
Das Gesetz des Erfolgs	成功の法	The Laws of Success	[公式訳] 35 件
Das Gesetz des Geheimnisses	秘密の法	The Laws of Secret	[公式訳] 13 件
Das Gesetz der Hölle	地獄の法	The Laws of Hell	[公式訳] 21 件
Das Gesetz der Mission	伝道の法	The Laws of Missionary Work	[公式訳] 4 件
Das Gesetz Alphas	アルファの法	The Laws of Alpha	[公式訳] 2 件

ドイツ語 (公式)	日本語	英語	
Das Gesetz Des Messias	メシアの法	The Laws Of Messiah	[公式訳] 5件

ここから読み取れる原則は一つである。

書名の「～の」は、von ではなく 2 格 (属格) で受ける。

der Sonne (女性 2 格) / des Stahls (男性 2 格) / des Glaubens (男性 2 格)。

第 3 章で学んだ 2 格が、そのまま書名の骨格になっている。

★『メシアの法』だけは Des が大文字である。

Das Gesetz Des Messias — Von Liebe zu Liebe (愛に始まり 愛に終わる)

公式ドイツ語版の表紙・奥付とも、この形。英語版の講義題も The Laws Of Messiah と Of を大文字にしている。この書名だけの約束なので、そのまま写すこと。

★「～の法」の形をとらない書名もある。自分で訳さず、必ず現物で確認すること。

『黄金の法』= Das Goldene Gesetz (形容詞の形)

『永遠の法』= Der Aufstieg durch die Dimensionen (次元を超える上昇)

『幸福の法』= Die Happiness-Prinzipien

『常勝の法』= Das Gesetz unbesiegbarer Führung (不敗の指導の法)

● 5-2. 書名ではない「～の法則」は von で受ける

いっぽう、書名ではない一般の言い方——「～という法則」——は von で受ける。公式ドイツ語版に実在するのは、たとえば次の形である。

ドイツ語 (公式)	日本語	英語	
das Gesetz von Ursache und Wirkung	因果の理法	the law of cause and effect	[公式訳]

書名は 2 格、一般の法則は von。この二つを混ぜないこと。迷ったら、公式ドイツ語版の本文で確かめてから書く。

※ 現在流通している独語版の表紙は 2 格 (Das Gesetz der Sonne 等) で刷られている。

本書は上記の方針に統一している。

6. 第六原理 主だけに許される動詞 —— 人間には別の語が立つ

第一原理の erleuchten は、一つの例にすぎない。ドイツ語には、主語が神・主であるときに使われ、人間が主語のときには別の語が立つ動詞がいくつもある。公式ドイツ語版の經典に実在する用例から、主なもの挙げる。ドイツ語で主について語るとき、これらの語を選べば、文そのものが「創造主について語っている」と伝える。逆に、人間について語るときに主の動詞を使うと、ドイツ語の耳には不遜に聞こえる。

主の動詞	意味	公式ドイツ語版の用例 (主について)	人間について言うときの語
erschaffen (erschuf – erschaffen)	無から創造する	Gott hat Euch erschaffen (『Twiceborn』) / Diese Welt wurde von Gott erschaffen (第 11 章) / Gott ... erschuf das multidimensionale Reich (『Twiceborn』)	schaffen (作り出す・ein Utopia zu schaffen)、bauen (建てる・die Utopie bauen)、machen
erhören	祈りを聞き届ける	dass du unser Gebet ... erhörst (『支部発展のための祈り』) / Ihre rechtschaffenen Gebete werden bestimmt erhört werden	hören / zuhören (聞く)。人は祈りを「聞く」ことはできても「聞き届ける」のは主と天上界だけ
hinabsteigen / herabsteigen	下生する	Verschiedene Teile des Kernbewusstseins von El Cantare sind ... auf die Erde hinabgestiegen / Alpha ... der ... auf die Erde hinabstieg (『反省の手引き』『天御祖神』)	geboren werden (生まれる)、zur Erde kommen。人間は「下りて来る」のではなく「生まれる」
offenbaren	啓示する	Die Zeit ist gekommen, in der El Cantare, der verborgene Name Gottes, offenbart ... (用語 700 選)	erklären / mitteilen (説明する・伝える)。講師は erklären (付録 15 5-2)
senden / entsenden	遣わす	sendet der Ewige Buddha immer eine Anzahl hoher Geistwesen auf die Erde / immer wieder hohe Geistwesen auf die Erde entsendet (『黄金の法』)	schicken (送る)。手紙や人を送るのは schicken
erlösen (der Erlöser)	救済する	Herr El Cantare, du bist unser Herr, Buddha und Erlöser (『エル・カンターレへの祈り』) / der erlösende Buddha	helfen / retten (助ける・救う)。伝道者は helfen。erlösen は救世主の語
segnen	祝福する	von Gott gesegnet (『秘密の法』) / Du wirst bei der Arbeit mit Ideen gesegnet sein (三婦信者功德・第五巻)	人間は segnen されない側。「幸いを祈る」なら wünschen (Wir wünschen den Menschen Glück.)
behüten/regieren (das Universum)	護り・統べる	Lord Gott, der die Erde behütet und sogar das Universum regiert / El Cantare, der Name Gottes, der die Menschheit behütet (『秘密の法』)	schützen (守る)。regieren は政府にも使うが、宇宙を統べるのは主だけ
gebieten	命じる (戒めとして)	wie Gott es gebietet (『天御祖神』)	bitten / auffordern (頼む・求める)。教師は bitten

主の動詞	意味	公式ドイツ語版の用例（主について）	人間について言うときの語
befehlen	創造の宣言として命じる	Jetzt hier befehle ich (『正心法語』・第二原理)	人間の <i>befehlen</i> は軍隊・上司の命令。主の <i>befehlen</i> は世界をそう定める宣言
erleuchten	悟らしめる・照らす	第一原理	die Erleuchtung erlangen (悟りを得る)

▷ 見分けの型：人間の動詞は「受け取る・作る・頼む・送る」、主の動詞は「創造する・聞き届ける・遣わす・救済する・祝福する・統べる」。

同じ「作る」でも、*schaffen* は材料から、*erschaffen* は無から——接頭辞 *er-* が「無から・完全に」の意味を添える (*erleuchten* / *erlösen* / *erschaffen* / *erhören* に共通)。

▷ 例外として、公式版は人間が *Frieden erschaffen* (平和を創り出す) という箇所を持つ。絶対の禁則ではなく、**主について語るときは必ずこちら、人間のときはふつう別の語**、という強い傾向として覚えてほしい。

▷ 伝道の場合は、この区別が**信仰の姿勢そのもの**になる。*Gott hat uns erschaffen*. (神が私たちを創られた) と *Wir bauen die Utopie*. (私たちがユートピアを建てる) ——主の働きと人間の働きを、動詞で言い分けること。

7. 対訳表 主・創造主の呼称

ドイツ語	日本語	英語	
Herr El Cantare	主エル・カンターレ	Lord El Cantare	[公式訳]
Unser Herr	われらが主	Our Lord	[公式訳]
O Herr	主よ	O Lord	[公式訳]
HERR	「主」	—	[公式訳] ※唯一性を立てるときだけ。→ §4-3
HERR GOTT	「主」としての神	—	[公式訳] ※『青銅の法』ドイツ語版
Vater unser	われらの父よ	Our Father	[公式訳]
der Schöpfer des Universums	宇宙の創造主	the Creator of the universe	[公式訳] ※英は著者略歴
der Höchste Gott der Erde	地球の至高神	the Highest God of the Earth	[公式訳]
der Meister aller Meister	神々の主	the Master of masters	[公式訳]
Buddha und Erlöser	仏陀であり救世主	Buddha and Savior	[公式訳]
der Große Buddha El Cantare	大エル・カンターレ仏	—	[公式訳] ※『植福功德経』
Großer Mahajana Buddha	大乘の仏陀	Great Mahayana Buddha	[公式訳]
das überragende Geistwesen	偉大なる霊存在	the great spiritual being	[公式訳]
das vereinte Bewusstsein von Buddha und Gott	仏と神とを合一させた偉大なる霊存在	the united consciousness of Buddha and God	[公式訳]
die höchste Macht im Himmel und auf Erden	天においても地においても最高の権能	the supreme power both in heaven and on earth	[公式訳]
Das Gesetz Alphas	アルファの法	The Laws of Alpha	※独語版本文は <i>das Gesetz Alphas</i> (2格)
seit dem Beginn der Genesis	創世の初めより	since the beginning of Genesis	[公式訳]

★ Erlöser (救世主) は公式用語集の訳語でもある。

Schöpfer (創造主) を Baumeister (建築者) などと言い換えてはならない。

8. 対訳表 救いと使命の語

ドイツ語	日本語	英語	
dein erhabener Wunsch	大願	Your Great Vow	[公式訳]
verleihe uns die heilige Mission	尊い使命をお授けください	Please grant us the holy mission	[公式訳]
die Wahrheit in die ganze Welt	全世界伝道	to spread the Truth all over the world	[公式訳]
das Leuchtf Feuer der Wahrheit ... entzünden	仏法真理の灯を点します	to light the beacon of Truth	[公式訳]
die Erschaffung des Buddha-Landes	仏国土成就	creating Buddhaland Utopia	[公式訳]
zum Ufer der Erleuchtung	悟りの彼岸へ	to the shore of enlightenment	[公式訳]
die Schüler von El Cantare	仏弟子	the disciples of El Cantare	[公式訳]
das Schiff deines erhabenen Wunsches	大願船	the ship of Your Great Vow	[公式訳]
die Prinzipien des Glücks	幸福の原理	the Principles of Happiness	[公式訳]
Dein Ewiges Gesetz übersteigt die Unterschiede von Hautfarben und Sprachen.	肌の色の違いを超え 言語の違いを超えた久遠の法	Your Eternal Law transcends the differences of skin colors and languages	[公式訳]

9. 対訳表 祈りの定型 (～したまえ)

日本語の「～したまえ／～ください」は、ドイツ語では **du に対する命令形**で表す。

ドイツ語	日本語	英語	
Gib uns ...	われらに～をお与えください	Give us ...	[公式訳]
Schütze ...	～をお守りください	Protect ...	[公式訳]

ドイツ語	日本語	英語	
Bewahre uns vor ...	～よりわれらをお守りください	Keep us from ...	[公式訳]
Lass ...	～せしめたまえ	Let ...	[公式訳]
Verleihe uns ...	～をお授けください	Grant us ...	[公式訳]
Erhöre unsere Bitte, ...	～を 許したまえ	Hear our prayer ...	[公式訳]

★最後の形は『植福功德経』のものである。

経文ではわれらの 植福の精進を 許したまえ と三行に分ち書きされ、ドイツ語では *Erhöre unsere Bitte, ...* と、願いの中身が不定詞句であとに続く。

日本語が「～を 許したまえ」と目的語を先に言うのと、順序がちょうど逆になる。

また、「～ならんことを」という祈願には、第13章で学んだ接統法第1式を用いる。

ドイツ語	日本語	英語	
Möge unsere Gemeinschaft größer und größer werden.	一人でも多く われらの仲間が増えますように	May our community grow greater and greater	[公式訳]
Mögen unsere Aktivitäten zu einer riesigen Welle werden	この大衆運動が大きくなうねりとなつて	May our activities become a huge wave	[公式訳]
Mögen die Tage von Buddhas Sieg ...	仏の勝利の日がどこまでも続きますように	May the days of Buddha's victory ...	[公式訳]

★第13章で「英語の *God bless you* や *Long live the King!* は接統法の化石」と学んだ。

ドイツ語では、それが祈りの現役の文法として生きている。

Möge ... は、エル・カンターレ・ドイッチュでもっとも美しい形の一つである。

10. まとめ —— 六つの原理

#	原理	標識となる語形
1	悟りは するもの （悟らしめるもの）	erleuchten （他動詞）
2	言葉が 創造 となる	Ich befehle / Es soll ... geben
3	主は 源 である	du bist die Quelle
4	主には du 、三人称は Er	du / dein（小文字）、 Er / Sein （大文字）、 HERR （唯一の主）
5	絶対のものは 大文字で立てる	das Ewige Gesetz, die Aufgehende Sonne
6	主だけに許される 動詞 がある	erschaffen / erhören / hinabsteigen / offenbaren / entsenden / erlösen / segnen （人間は schaffen / hören / geboren werden / erklären / schicken / helfen / wünschen）

この六つを踏まえて読み直すと、公式ドイツ語版の経文が、単なる翻訳ではなく、**創造主の言葉としてのドイツ語**であることが見えてくる。

そして、あなたがドイツ語で教えを語るとき、主について語る文だけは、人間について語る文とは違う文法で語られなければならない。**それが、エル・カンターレ・ドイッチュである。**

Buddha erleuchtete und sprach die Wahren Worte. [本書訳]

Buddha enlightened and spoke The True Words.

仏陀 悟りて 説法し

《和文＝『仏説・正心法語』／真理の言葉『正心法語』 英文＝“The True Words Spoken By Buddha”》

本書は、この一文をドイツ語で書けるようになるための一年である。**erleuchtete**（他動詞・過去形）——主語は仏陀、目的語は書かれていない。書かれていない目的語とは、**この世のすべて**である。

索引 — Register

ページ数は本文のノズル。同じ語が続くページは12-15のようにまとめた。

ドイツ語はアルファベット順、日本語は五十音順。

ドイツ語 (Deutsch)

• A

- aber 38, 43, 76
- als 47, 64, 85
- am 6, 8, 17
- an 7-8, 12
- auf 38, 40, 43
- aus 32-33, 37

• B

- befehlen 292, 294
- behüten/regieren (das Universum) 291, 294
- bei 16, 19, 21
- Bewahre uns vor allem Bösen. 249, 288, 294
- Bewahre uns vor 293-294
- Bitte schön! 233, 294
- bleiben 91-92, 101-102, 104, 106
- bringen 89, 91-92
- Buddha und Erlöser 248, 288, 291-292, 294

• D

- damit 115, 175, 294
- Danke schön! / Vielen Dank! 233, 294
- das 7-9
- das Buddha-Land 290, 294
- das Dharma-Rad 234, 294
- das Ewige Gesetz 290, 293-294
- das Führungswesen 236, 294
- das Gebet 12, 126-127, 236, 245, 294
- Das Gesetz Alphas 290, 292, 294
- Das Gesetz der Bronze 183, 270, 290, 294
- Das Gesetz der Gerechtigkeit 184, 290, 294
- Das Gesetz der Hoffnung 184, 290, 294
- Das Gesetz der Hölle 184, 290, 294
- Das Gesetz der Mission 290, 294
- Das Gesetz der Sonne 183-184, 201, 242, 246, 253
- Das Gesetz des Erfolgs 184, 290, 294
- Das Gesetz des Geheimnisses 184, 290, 294
- Das Gesetz des Glaubens 184, 290, 294
- Das Gesetz Des Messias 184, 291, 294
- Das Gesetz des Stahls 184, 290, 294
- das Gesetz von Ursache und Wirkung 44, 58, 118
- das Herz 8, 11-12
- das Jenseits 235, 294
- das Kigan 191, 236, 294
- das Kind Buddhas / die Kinder Buddhas 235, 294
- das Kind Gottes / die Kinder Gottes 235, 294
- das Leuchtfeuer der Wahrheit ... entzünden 292, 294
- das Licht 12, 14, 20
- das Schiff deines erhabenen Wunsches 292, 294
- das Schutzwesen 236, 263, 271, 294
- das Seelentraining 236, 294
- das Shoja 191, 236, 263, 294
- das unbesiegbare Denken 235, 294

- das vereinte Bewusstsein von Buddha und Gott 292, 294
- das wahre Selbst 235, 294
- das überragende Geistwesen 292, 294
- dass 8, 91-92
- dein erhabener Wunsch 292, 294
- denken 18, 57-58
- denn 76, 115-116
- der 7-9
- der Achtfache Pfad 68-70, 235, 294
- der Dharma-Vortrag 236, 294
- der Fortschritt 169, 235, 294
- der Geist 27, 175, 235, 294
- der Glaube 12, 14, 60
- der Glaube an den Gott El Cantare 234, 294
- der Große Buddha El Cantare 292, 294
- der Haupttempel 191, 236, 263, 294
- der Himmel 12, 18, 235, 294
- der Höchste Gott der Erde 260, 288, 292, 294
- der Meister aller Meister 249, 292, 294
- der Missionar 187, 236, 294
- der Mut 12, 21, 85-86, 236, 294
- der Schöpfer des Universums 260, 263, 288, 292, 294
- der Stützpunkt für die Missionsarbeit 191, 236, 294
- der Tempel 139, 182, 191-192, 236, 263
- der unerschütterliche Geist 235, 294
- der Ursprung 245, 288, 294
- der Vierfache Pfad 235, 290, 294
- der Weltlehrer 234, 294
- die 7-9
- die andere Welt 235, 294
- die Andere Welt 290, 294
- die Aufgehende Sonne 290, 293-294
- die Barmherzigkeit 112-113, 235, 294
- die Buddha-Natur 235, 294
- die Dankbarkeit 21, 36, 113, 236, 294
- die drei Grundübel 235, 294
- die Drei Schätze 262-263, 290, 294
- die Dunkle Nacht 290, 294
- die Entwicklungsstufen der Liebe 235, 294
- die Erforschung des rechten Geistes 235, 294
- die Erleuchtung 36, 98, 141, 143, 234, 287
- die Erleuchtung erlangen 287, 292, 294
- die Erschaffung des Buddha-Landes 292, 294
- die Glückspflanzung 236, 263, 294
- die göttliche Natur 235, 294
- die Hauptseele 47, 235, 273, 294
- die höchste Macht im Himmel und auf Erden 249, 292, 294
- die Ideale Welt 287, 290, 294
- die irdischen Leidenschaften 235, 294
- die Lehre 25-27
- die Liebe 11-12, 14
- die Meditation 236, 294
- die Missionsarbeit 187, 191, 236, 252-254
- die perfekte Stille im Nirwana 236, 294
- die Prinzipien des Glücks 292, 294
- die Reinkarnation 103-105, 235, 294
- die Schüler von El Cantare 292, 294
- die Seele 12, 14, 21
- die Seelengeschwister 47, 235, 294

- die Selbstlosigkeit aller Geschöpfe 236, 295
- die Selbstreflexion 46, 63, 69, 113–114, 159
- die Sieben Farben des Regenbogens 290, 295
- die Spende 236, 295
- die spirituelle Welt 235, 295
- die Teilseele 47, 235, 273, 295
- die Tugend 187, 236, 295
- die Vergänglichkeit aller weltlichen Dinge 236, 295
- die Wahrheit 8, 12, 14
- die Wahrheit Buddhas 169, 234, 242, 250, 295
- die Wahrheit erforschen 234, 295
- die Wahrheit in die ganze Welt 292, 295
- die Weisheit 12, 14, 135, 141, 143, 169
- die Welt erhellen 287, 295
- die Welt nach dem Tod 235, 295
- diese Welt 46, 109, 114, 216, 235, 245
- dieses Leben / das nächste Leben 235, 295
- durch 24, 56–57
- dürfen 75–77

• E

- ein 9, 11, 16
- ein hohes Ziel 79–81, 236, 295
- eine 9, 17, 20
- eine frühere Inkarnation 236, 295
- El Cantare 44, 169, 195
- elementare Liebe 235, 295
- Erhöre unsere Bitte, 249, 293, 295
- erhören 291–293, 295
- erleuchten 262–263, 286–287, 291–292
- erleuchtet sein 287, 295
- erlösen (der Erlöser) 291, 295
- erschaffen (erschuf – erschaffen) 291, 295
- es gibt 17, 38, 221, 238, 284, 295
- Es ist 8.00 Uhr. — acht Uhr 233, 295
- Es soll kein(e) ... geben 287, 295
- Es werde Licht. 287, 295
- essen 7, 19, 25

• F

- fahren 50–51, 54
- finden 58, 60, 88
- für 9, 24, 39

• G

- geben 7, 16, 20
- gebende Liebe 178, 235, 295–296
- gebieten 291, 295
- gegen 56, 58, 60, 72, 192, 269
- gehen 32, 43, 53
- Gib niemals auf! 85, 233, 295
- Gib uns Licht, 249, 288, 295
- Gib uns 292, 295
- Großer Mahajana Buddha 292, 295
- Guten Abend! 165, 233, 295
- Guten Morgen! 12, 165, 199, 233, 295
- Guten Tag! 12, 165–166, 185, 195, 230

• H

- Hab Mut! 85, 233, 295
- haben 7, 16, 20
- Habgier, Wut, Verblendung 235, 295

- Happy Science 169–170, 176
- helfen 7, 38–39
- HERR 289–290, 292–293, 295
- Herr 79, 222, 248
- Herr El Cantare 248–251, 288–289
- HERR GOTT 289, 292, 295
- hinabsteigen / herabsteigen 291, 295

• I

- Ich befehle: 287, 295
- Ich danke für alles. 233, 295
- Ich reflektiere jeden Abend über mich selbst. 233, 295
- im 6–7, 9
- in 7, 9, 11
- ins 44, 47, 57
- inspirierende Liebe 235, 295
- instinktive Liebe 235, 295

• K

- kein 17, 35, 42
- kommen 7, 32, 38
- können 75–76, 78

• L

- Lass 249, 251, 293, 295
- lassen 249, 254, 260, 263, 295
- lesen 50, 53–54
- Liebe und Licht! 12, 233, 295

• M

- man 8, 17, 25
- mit 24, 37, 39
- möchte 75–76, 79
- möge 75–76, 79
- Möge die Welt glücklich werden! 233, 295
- mögen 75–76, 79
- Mögen die Tage von Buddhas Sieg 293, 295
- müssen 75–77

• N

- nach 19, 44, 52
- nehmen 50, 54, 88
- nehmende Liebe 178, 235, 295
- nicht 17–18, 40

• O

- O Herr 248, 292, 295
- ob 30, 43, 53
- obwohl 115–116, 118–119, 213, 295
- oder 76, 115–116, 119, 131, 238
- offenbaren 291, 293, 295
- ohne 24, 46, 48

• P

- personalisierte Liebe 235, 295

• R

- Rechte Anstrengung 235, 295
- Rechte Meditation 235, 295
- Rechte Rede 235, 295
- Rechter Wille 235, 295
- Rechtes Denken 235, 295
- Rechtes Leben 235, 295
- Rechtes Sehen 235, 295
- Rechtes Tun 235, 295

● S

- ・ schlafen 7, 50, 54, 76, 83, 100
- ・ schütze diesen Planeten der Liebe, diese Erde. 249, 288, 296
- ・ Schütze 292, 296
- ・ segnen 291, 293, 296
- ・ sehen 14, 29, 31
- ・ sein 16–18
- ・ seit 56, 58, 60
- ・ seit dem Beginn der Genesis 260, 288, 292, 296
- ・ senden / entsenden 291, 296
- ・ sich 27, 57, 62
- ・ Soll ... aufgehen. 287, 296
- ・ sollen 75–76, 79
- ・ sondern 43, 115–116, 119–120, 254
- ・ sprechen 13–14, 50
- ・ stehen 39, 43, 74

● U

- ・ um 13, 19–20
- ・ und 12, 14, 19
- ・ Unser Herr 248, 288, 292, 296
- ・ unter 47, 56–58, 72, 132
- ・ Utopia / die Utopie 236, 296

● V

- ・ Vater unser 248, 292, 296
- ・ vergebende Liebe 235, 296
- ・ verleihe uns die heilige Mission 292, 296
- ・ Verleihe uns 293, 296
- ・ von 19, 24–25
- ・ vor 45–46, 48

● W

- ・ wachsen 20–22
- ・ wann 29–32, 116, 179
- ・ warum 29–31
- ・ was 29–31
- ・ weil 76, 115–117, 119–120
- ・ welcher 42, 44, 47, 151, 183, 238
- ・ wenn 113, 115–116
- ・ wer 6–7, 9
- ・ Wer die Wahrheit sucht, findet sie. 138, 142, 144, 223, 233, 275
- ・ werden 38, 40, 47
- ・ wie 9, 20–21
- ・ Wie geht es Ihnen? — Danke, gut. 233, 296
- ・ wissen 13, 15, 89
- ・ wo 6, 8–9
- ・ wollen 8, 75–76

● Z

- ・ zu 7, 21–22
- ・ Zuerst geben wir Liebe. 233, 296
- ・ zum 27, 39, 56
- ・ zum Ufer der Erleuchtung 292, 296
- ・ zur 27, 54, 56
- ・ zwischen 58, 72, 192, 296

● Ü

- ・ über 52, 54, 56

日本語

● あ

- ・ あの世 40, 42, 46

- ・ ありがとうございます 12, 165, 215, 233, 249–250
- ・ おはようございます 12, 165, 199, 233, 296
- ・ お布施 236, 296

● か

- ・ この世 9, 42, 46
- ・ こんにちは 12, 165–166, 195–196, 233
- ・ こんばんは 165, 233, 265, 296

● さ

- ・ すべてに感謝します 233, 296

● た

- ・ とどまる 234, 296
- ・ どういたしまして／どうぞ 233, 296

● は

- ・ ふつうの敬称 289, 296

● ま

- ・ もたらす 8, 92, 202, 234, 296

● わ

- ・ われらが主 248, 288, 292, 296
- ・ われらの父よ 248, 292, 296

● 漢字・その他

- ・ zu 不定詞 133, 145–146
- ・ アルファの法 260, 288, 290, 292, 296
- ・ アルファベット 11–12, 167–168, 238, 294
- ・ ウムラウト 11, 13, 35
- ・ エル 11, 19, 21
- ・ メシアの法 184, 260, 288, 291, 296
- ・ ユートピア 来たりて 287, 296
- ・ 七色の虹 290, 296
- ・ 三基本形 50, 88–89
- ・ 三宝 69, 259, 261–264
- ・ 三毒 235, 296
- ・ 下生する 291, 296
- ・ 不動心 78, 160, 184, 235, 296
- ・ 不定冠詞 20, 24–25
- ・ 不規則変化動詞 50–52
- ・ 与える 7, 16, 20
- ・ 与える愛 16, 20, 22
- ・ 世を明るくする 287, 296
- ・ 世界教師 234, 296
- ・ 並列接続詞 38, 115, 119, 238, 261, 296
- ・ 主よ 248–250, 292, 296
- ・ 主エル 169, 195, 248
- ・ 久遠の法 290, 292, 296
- ・ 人称代名詞 29–31
- ・ 人称変化 16–18
- ・ 今世／来世 235, 296
- ・ 仏の子 20, 53, 67, 235, 245, 296
- ・ 仏の御国 290, 296
- ・ 仏国土成就 292, 296
- ・ 仏弟子 264, 292, 296
- ・ 仏性 64, 113, 155, 160, 201–202
- ・ 仏法真理 6, 9, 38
- ・ 仏法真理の灯を点します 292, 296
- ・ 仏陀であり救世主 248, 292, 296
- ・ 伝道 17, 56, 59
- ・ 伝道の法 69, 193–194, 290, 296

- ・伝道者 158, 163, 180
- ・信仰 12–14
- ・信仰の法 184, 290, 297
- ・偉大なる霊存在 292, 297
- ・光あれ 287, 297
- ・全世界伝道 59, 292, 297
- ・八正道 12, 15, 20
- ・再帰代名詞 62–64
- ・冠詞類 42–44
- ・分詞 43, 88–89
- ・分身 39, 47, 235, 273, 297
- ・分離動詞 43, 77, 83
- ・前置詞 9, 24, 38
- ・副文 8–9, 101
- ・創世の初めより 292, 297
- ・創造の宣言として命じる 292, 297
- ・助ける 38–39, 50
- ・勇気 12–13, 20
- ・勇気を持って！ 85, 87, 233, 297
- ・反省 20, 31, 36
- ・取る 50, 54, 60
- ・受動文 109–111
- ・名詞の性 7–8, 24
- ・命じる 291–292, 297
- ・命令形 68, 77, 83
- ・唯一の神ご自身の名 289, 297
- ・啓示する 291, 297
- ・四正道 169–170, 195, 235, 290, 297
- ・因果の理法 44, 115, 117
- ・地獄の法 27, 142, 148, 184, 194, 228
- ・地球の至高神 269, 292, 297
- ・大エル 292, 297
- ・大乘の仏陀 292, 297
- ・大願 292, 297
- ・大願船 292, 297
- ・天国 12, 78, 105, 235, 262, 265
- ・太陽の法 20, 22, 26
- ・奪う愛 178, 235, 297
- ・存在の愛 134, 221, 235, 297
- ・宇宙の創造主 248, 250, 260–261, 263, 269
- ・守護霊 236, 261, 263, 269, 271, 297
- ・定冠詞 20, 24–25
- ・定動詞第2位 8, 16–17
- ・尊い使命をお授けください 292, 297
- ・希望の法 184, 287, 290, 297
- ・常勝思考 160, 166, 184, 201, 225, 231
- ・幸福の原理 292, 297
- ・幸福の科学 13, 38, 48
- ・形容詞の語尾変化 151–152, 157, 297
- ・形式主語 145, 297
- ・従属接続詞 115–116, 262, 297
- ・心態詞 240–243, 267, 277
- ・悟っている 287, 297
- ・悟らしめる 262, 286–287, 292–293, 297
- ・悟り 28, 31–32
- ・悟りの彼岸へ 292, 297
- ・悟りを得る 286–287, 292, 297
- ・愛と光を！ 12, 233, 297
- ・愛の原点 235, 297
- ・愛の発展段階説 136, 157, 235, 297
- ・感謝 16, 20–21
- ・慈悲 20, 22, 109
- ・成功の法 63, 184, 290, 297
- ・成長する 20, 53, 60, 69, 91, 101
- ・拠点 191, 236, 297
- ・持つ 9, 15, 21
- ・指導霊 66, 121, 137, 236, 248–249
- ・接続法第1式 7, 122–123
- ・接続法第2式 122–124
- ・支部 43, 56–57
- ・救済する 291–292, 297
- ・教え 9, 19–20
- ・昇り来る太陽 290, 297
- ・最上級 44, 129–130
- ・未来形 50, 75–76
- ・本体 39, 47, 83–84, 90, 146
- ・本当の自分 31, 235, 297
- ・本能的な愛 235, 297
- ・来る 7, 13, 30
- ・枠構造 8–9, 43
- ・根源 235, 244, 248, 288, 297
- ・植福 236, 249, 261–263, 292
- ・正しき心の探究 58, 148, 235, 297
- ・正命 235, 297
- ・正定 235, 297
- ・正念 235, 297
- ・正思 235, 297
- ・正業 235, 297
- ・正精進 20, 22, 235, 297
- ・正義の法 184, 290, 297
- ・正見 70, 235, 297
- ・正語 12, 15, 235, 297
- ・死後の世界 235, 297
- ・比較級 129–131
- ・決して諦めるな！ 85, 233, 297
- ・法話 9, 12, 15
- ・法輪 234, 264, 297
- ・涅槃寂静 236, 297
- ・無から創造する 291, 297
- ・煩惱 235, 297
- ・現在完了形 8, 88, 93
- ・理想の世界 287, 290, 297
- ・生かす愛 235, 297
- ・発展 40, 52, 66
- ・発音 11–13
- ・相関接続詞 116, 297
- ・真理 6–8
- ・真理の 太陽 昇るなり 287, 297
- ・真理を探究する 234, 297
- ・眠る 50, 54, 234, 297
- ・瞑想 58, 61, 71, 125–127
- ・知っている 6–8
- ・祈り 12, 30, 37
- ・祈りを聞き届ける 291, 297
- ・祈願 191, 236, 245, 248, 251, 259
- ・祝福する 291–292, 297
- ・神々の主 249, 292, 297
- ・神の子 20, 53, 85

- ・ 神性 235, 298
- ・ 秘密の法 39, 142, 182, 184, 290–291
- ・ 立つ 43, 58, 64
- ・ 精舎 56, 163, 191–192, 236, 248
- ・ 総本山 191, 236, 261–263, 298
- ・ 考える 15, 18, 46
- ・ 融合形 44, 57, 77, 298
- ・ 行く 32, 50, 53
- ・ 複数形 35–37
- ・ 見つける 60, 88, 92, 97, 135, 143
- ・ 見る 6, 14, 29
- ・ 許す愛 235, 244, 298
- ・ 話す 9, 13, 35
- ・ 話法の助動詞 75–77
- ・ 語順 8–10
- ・ 読む 9, 11–12
- ・ 諸法無我 236, 298
- ・ 諸行無常 94, 96, 99, 236, 257, 298
- ・ 護り 249, 288, 291, 298
- ・ 転生輪廻 26, 28, 47, 100, 103–104
- ・ 過去世 91, 93, 105, 236, 298
- ・ 過去完了 101, 236, 298
- ・ 過去形 6, 77, 81
- ・ 遣わす 291–292, 298
- ・ 銅鉄の法 118–119, 125, 184, 264, 269
- ・ 関係代名詞 138–140
- ・ 関係副詞 139, 298
- ・ 闇夜 290, 298
- ・ 靈界 46, 142, 176, 230, 235, 265
- ・ 青銅の法 9, 111–112, 114, 183, 269
- ・ 食べる 19, 50, 54, 88, 234, 298
- ・ 高い志 79–81, 236, 298
- ・ 魂のきょうだい 47, 235, 273, 298
- ・ 魂修行 236, 298

ドイツ語 文法と会話 —— 英語を知れば、ドイツ語は近い／大川隆法総裁の経典のたとえ 77 文で学ぶ

Deutsch – Grammatik und Konversation. Wer Englisch kann, dem ist Deutsch nah: 77 Gleichnisse aus den Schriften von Meister Ryuho Okawa

発行日	2026 年 8 月 23 日 0.1 版
編者	幸福の科学国際本部
発行	幸福の科学国際本部
例文の題材	大川隆法総裁の経典より（出典は本文に明記）
